



TOHOKU  
UNIVERSITY

2017年度

東北大学 災害科学国際研究所  
活動報告書

Annual Report  
International Research Institute of Disaster Science  
Tohoku University



IRIDES



# 目次

1	巻頭言	1
2	研究所の概要	
(1)	基本理念	3
(2)	沿革・設置目的	3
(3)	中期目標・中期計画	3
(4)	組織運営活動	4
(5)	研究活動	5
(6)	教育活動	8
(7)	社会貢献活動	8
(8)	自己評価	9
3	組織運営活動	
(1)	人員配置と業務分担	15
A	教員等の配置・研究組織構成状況	15
B	専任教員における外国人教員比率	21
C	専任教員における女性教員比率	21
D	研究所内会議・委員会構成	22
E	運営会議及び各種委員会	23
(2)	研究資金	
A	歳出決算	26
B	研究者一人あたりの研究費	27
C	科学研究費補助金採択状況	28
D	外部資金受入状況	30
E	寄付金の受入状況	32
4	研究活動	
(1)	研究部門・研究分野の研究活動	35
(2)	プロジェクトエリア・ユニットの研究活動	57
(3)	共同研究プロジェクトの研究活動	69
(4)	専任教員の研究・教育・社会活動	141
①	災害リスク研究部門	141
②	人間・社会対応研究部門	168

③地域・都市再生研究部門	196
④災害理学研究部門	212
⑤災害医学研究部門	227
⑥情報管理・社会連携部門	260
⑦寄附研究部門	285
⑧リーディング大学院	292
⑨広報室	301
<b>5 教育活動</b>	<b>303</b>
<b>6 研究成果の社会発信</b>	
（1）刊行物	305
（2）IRIDES 金曜フォーラム	306
（3）展示	310
（4）各種メディアでの紹介	311
<b>7 国際交流</b>	<b>321</b>
<b>8 関係・協力団体</b>	<b>327</b>

# 1 卷頭言

## 巻頭言

災害科学国際研究所の発足から 6 年が経過しました。被災地の総合大学に設立され、国際という冠を付けた研究所として、これまで本研究所は、「災害科学の深化」「実践的防災学の体系化」を 2 つの柱としながら、被災地の復興・再生と、国内外の大学・研究機関との連携による世界最先端の自然災害科学研究を推進してまいりました。

本研究所は、今年 1 月 17 日、「東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創成」(学術部門)の課題で、河北文化賞(河北文化事業団)を受賞する名誉をいただきました。これまで様々な方々から支援をいただきながら地域で実践的な活動を行ってきたことを評価いただき、感謝に堪えません。受賞にあたっての推薦理由として、当研究所が 2015 年 3 月に仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議へ協力したこと、また、同世界会議で策定された仙台防災枠組を推進するため、2017 年 11 月、第 1 回「世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台」(以下、「世界防災フォーラム」)の開催に尽力し、当研究所の役割と発信力が世界的にも認められたことも記されております。この高い評価をバネに、さらに一層、活動を発展させていきたいと思っております。

第 1 回「世界防災フォーラム」は、昨年度での最も大きな活動となりました。40 以上の国・地域から 900 名以上にご参加をいただき、約 50 のセッション、約 100 のポスター発表等が行われました。市民参加型国際会議として、産・官・学・民の防災関係者および地元の方々にお集まりいただき、防災・減災に関する多様な議論ができました。被災地のスタディツアー・エクスカージョンも実施され、参加者の方々に被災地の現在を視察いただくこともできました。「ぼうさいこくたい 2017」「防災産業展 2017」との連携による相乗効果により、会場となった仙台国際センターおよび東北大学川内萩ホールには、延べ 1 万人を超える参加者がありました。

世界防災フォーラムでは、東日本大震災の経験を国内外に発信しつつ、地域から世界レベルにわたる、防災・減災が議論されました。防災に向けた具体的な解決策の共有、革新技术を応用した新たな取り組みの創出も見られました。フォーラムにおいて、東北大学は、指定国立大学の認定を受けて設置された世界トップレベル研究拠点としての「災害科学」のキックオフシンポジウムを開催し、国内外からの参加者を多数いただきました。学術的なセッションとしては、Elsevier

社による災害科学研究の現状分析に関する報告等があり、また、市民や若者が参画したセッションでは、伝承・文化、教育・啓発に関する議論が活発に行われました。多彩な参加者を得た本フォーラムならではの成果となりました。世界防災フォーラムにご協力・ご参加くださいました方々に、改めて心より御礼申し上げます。

本研究所は、引き続き文理融合研究を推進しております。今年1月26日には、人間文化研究機構・神戸大学・東北大学で3者包括協定を締結し、歴史文化資料保全の大学共同利用機関ネットワーク事業を実施しながら、相互支援体制の構築を目指しています。続く2月10日には、関連シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」を本研究所にて開催し、現状と課題・将来の展開について議論し、約100名に会場いただくことができました。同シンポジウムに関しては、同月18日の「朝日新聞」朝刊文化欄にて特集記事として報道されるなど、社会的な注目もいただきました。

東日本大震災発生から7年を経た今日、被災地では、復興（特に、産業面やくらし・繋がり）や、災害記憶の風化などが課題として挙げられています。今年3月11日に開催した災害科学国際研究所周年シンポジウムのテーマは、「地域社会に開かれた災害研を目指してー地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装ー」とし、東北3県のご関係者から、今までの当研究所の活動に対する評価、課題、期待について発言を頂きました。

2018年11月には、世界防災フォーラムと連携する「防災ダボス会議」が、スイス・ダボスにて開催予定です。さらに、第2回世界防災フォーラムを、2019年に仙台にて開催予定であります。今後も当研究所は、国内外で連携を深めながら、防災社会の構築に尽力して参ります。様々な会議などを通じて、課題の共有、解決策の議論、成果の発信を活性化し、国際共同研究、共著論文、社会にインパクトのある連携活動を推進していきたいと思っております。

東北大学災害科学国際研究所  
所長 今村文彦

## 2 研究所の概要



## (1) 基本理念

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、平成24年4月に新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力し、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する自然災害科学研究とは、事前対策、災害の発生、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルととらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした自然災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

## (2) 沿革・設置目的

### 沿革

平成24(2012年)4月 研究所設置(7部門36分野)

災害リスク研究部門(6分野)

人間・社会対応研究部門(7分野)

地域・都市再生研究部門(5分野)

災害理学研究部門(7分野)

災害医学研究部門(8分野)

情報管理・社会連携部門(4分野)

寄附研究部門(1部門)

平成25(2013年)4月 災害医学研究部門に災害口腔科学分野新設(7部門37分野)

### 設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることが設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。

## (3) 中期目標・中期計画

災害科学国際研究所の理念に則り、以下の重点戦略・展開施策を中期目標・計画に掲げ、活動を行っている。

### 1. 災害科学研究の世界的拠点

地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指す。

### 2. 文理連携及び多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様である。それに応えるため、

分野横断的・学際融合的な研究を促進し、既存にない新規の分野を開拓する。

### 3. 実践的防災学の構築

災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本及び世界の防災対策にも積極的に貢献する。

### 4. 防災知識を身に付けた人材の育成

防災科学研究の成果を教育課程で積極的に展開する。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生のメカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせる。大学院の専門教育やリーディングプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進及び新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組む。

### 5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠である。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取組を進めることができるよう、小中学校及び高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及を図る。

### 6. 産官学及び地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠である。自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界の間では防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発に取り組む。また社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取組を進める。

### 7. 国際社会との連携強化

2015年に仙台市で開催された国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」を推進する。また環太平洋大学協会(APRU: Association of Pacific Rim Universities)との共催で「APRU-IRIDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活発化させる。また、世界防災フォーラムの事務局として、国内外および地元東北の多様な防災関係者らと「仙台防災枠組」の実施にむけ、活発な議論を行う。さらに災害対策技術の標準化に取り組む国際機関(国連等)や海外の研究機関との連携を通じて防災対策の国際標準化を目指し、本研究所が世界の減災対策向上へ先導的な役割を果たすことを目指す。

### 8. 全国共同利用・共同研究拠点認定への取り組み

大学を超えた研究機関として文部科学大臣が認定する全国共同利用・共同研究拠点となることを目指す。拠点として認定されるための本研究所のリソースを利用した共同研究プロジェクトを公募・実施し、卓越した実績および研究ネットワークの構築にも不断に取り組む。

### 9. 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」に向けた取り組み

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定されたことを受け、その中の災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創生し、体系化を図る。

## (4) 組織運営活動

本研究所の組織運営としては、本研究所の最高意志決定機関である運営会議の下に、予算委員会、研究企画委員会、広報戦略委員会、教務委員会、施設・環境委員会、ハラスメント防止対策委員会、国内・国際連携委員会、総務委員会、倫理委員会などを設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針を策定して運営会議に諮った後に決定し、教授会や全体会議で周知するという仕組みを確立している(3章(1)D 研究所内会議・委員会構成を参照)。

平成29年度は、月1回を基本に研究所教授会及び全体会議を開催したが、2回の休会の月を設け、より効率的な運用も開始した。また、全体会議の場を可能な限り効率的な情報交換、課題の共有化の場として活用するため、(1)兼務教員、事務スタッフを含めた拡大全体会議、(2)専任教員対象の全体会議、(3)専任の講師・准教授以上が対象の拡大教授会、(4)専任の教授による教授会、さらに必要に応じて(5)エリア・ユニット長会議、という4ないし5つの会議を同一日に連続して開催した。平成29年度の重点的な取り組みは以下である。

## 1) 広報室による社会発信機能の拡大・強化

広報室(専属助教1、事務補佐2)は、社会発信の対外窓口・広報業務を集約し、広報戦略委員会、社会連携オフィス、展示ワーキンググループ(WG)、緊急調査 WG、所内研究者等と緊密に連携しつつ、効果的・戦略的に社会発信・メディア対応等を行った。以下が主要な活動実績である。

1. ウェブページを通じた本研究所の全教員のアクティビティ(学会発表、受賞、取材、災害現地調査報告等)の発信を行った(平成 29 年度はトピックス 246 件、報道 680 件を掲載)。
2. 特に災害発生時は、緊急特設ウェブページを開設し、積極的な社会発信を行った。特に平成 29 年度は、7 月の九州北部豪雨災害および 9 月に発生した 2017 年メキシコ地震・津波について報道関係の情報の取りまとめを計り、研究所の対応を迅速に社会発信した。
3. 昨年度より刷新した広報誌 IRIDeS NEWS を、平成 29 年度も発出した(日本語・英語、印刷版・ウェブ版)。基本方針は、平成 28 年度から引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、国内外へ向けて平易な言葉で発信する」と定め、基本的に記事は広報室で執筆した。
4. 青葉山新キャンパス広報連携企画会議を新たに開催した。オープンキャンパスの際、同キャンパスにある関連部局と連携し、共通チラシを作成し、相互で広報協力を行った。
5. 記者会見・説明会 4 件(世界防災フォーラム関係)を行った。プレスリリースは 24 件発出し、うち英語 3 件(海外向け 1 件、国内外国メディア向け 2 件)であった。
6. 世界防災フォーラムにおいて、一般公開・市民向け国際イベントである前日祭「災害に学び、未来へつなぐ」<サイエンスアゴラ連携企画>を、仙台市・科学技術振興機構等と協力して開催した。
7. 平成 29 年度も国内外からの訪問・見学者(国内外の研究者、教育機関(小中高校生)、自治体関係者、企業など)を受け入れた。計 62 件となり、前年度の 49 件から増加した。2 階の展示スペースを活用した教員による研究活動紹介および 3D 映画「大津波 3.11 未来への記憶」(今村所長監修)の上映等を行った。

## 2) コンプライアンス推進体制の整備と強化

研究所として適切な研究が実施されるように、研究倫理委員会および公正研究活動推進委員会が中心となって研究活動の不正防止や、個人情報の管理など、コンプライアンスを推進するための体制を整備・強化している。

1. 研究費管理運用の適正化、研究活動の不正防止のための全学的体制構築の方針を全体会議時に全教員に説明・周知(計 2 回)している。また、公的な研究資金の意義と公正な資金運用をふくめた研究倫理教育として、CITI—Japan が提供する遠隔教育プログラムを全教員および博士課程後期の大学院生が受講できる体制を整え、少なくとも外部資金を管理する立場にある研究者については平成 29 年度内の受講を促した。
2. 平成 27 年度から研究所倫理委員会により開始された倫理審査を月 1 回の頻度で開催し、事前申請により人に関わる研究活動が円滑に行えるよう配慮するとともに、倫理委員会細則について、その遵守を全体会議において所員全員に周知した。
3. 研究成果の発表に関して、「東北大学における構成的研究推進のための共同研究等実施指針」に基づき、本研究所の構成員が責任著者となる論文等の成果発表が公正なものであることを組織責任として担保するための「研究成果発表確認シート」の内容を確定させ、平成 30 年度から提出を義務付けることとした。また、研究データの保存・管理に関しては、研究者あるいは研究分主宰者の移動・退職に際し、データの移動・移管・廃棄に関する確約書の提出を求めることとした。
4. 研究活動に対するコンプライアンスの徹底およびハラスメント防止に向けた研究所内の FD 研修会を 2 回開催したほか、所内新任教員及び所内教員が指導する大学院生を対象とした、研究倫理教育セミナーを 1 回開催した。

## (5) 研究活動

本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。

主たる研究活動は、平成 27 年度末に開始し、28 年度から本格始動したプロジェクトエリア・ユニット制のもと実施されている。これは、従来の学問分野の区分により研究シーズに沿う形で構成していた 7 部門・37 分野の枠組みでは、変化する社会からのニーズに対応した成果をタイムリーに生み出すことが難しいことから、ニーズオリエンテッド型の研究体制の構築を目的に提案・策定されたものであり、場、もの(施設や構造物)、人と社会集団、情報、生命と健康という 5 つの要素に関する疑問の解明と基本的な課題解決に重点を置く 5 つの研究エリアと、それらを総合して災害に強い地域社会システムの構築を目指す研究エリアにより構成される。従来の分野を残しつつ、これらの新しい研究体制を推進することで、より学際的な研究を行える体制となっている。

本格始動して 2 年目にあたる平成 29 年度は、共同利用報告会の際に、プロジェクトエリア・ユニットの報告も併せて行い、新たな活動の状況を広く他の研究機関に紹介した。また、プロジェクトエリア・ユニット体制の目指す実践的防災学の体系化については、議論した成果がリーディング大学院プログラムの講義内容に反映されている。29 年度の取り組みや達成状況の概要は以下の通りである。

## 1) 災害科学研究の世界的拠点へ

地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築、防災人材育成など、分野毎の先端的研究を推進した。平成 29 年度中の成果として、327 編の学術論文、著書 38 編、総説・解説論文 51 編、学会における講演 491 件(うち基調講演・招待講演 53 件)を行った(表 1、p.12)。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率は H29 年度も約半数に達し、研究発表に対する受賞件数は 25 件に上った(表 2、p.13)。例えば、CyPos 賞 Silver Award<第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会>(千田浩一教授ら)、電子情報通信学会 2016 年安全・安心な生活と ICT 研究会 研究優秀賞(今村文彦所長、佐藤翔輔准教授)、第 32 回日本道路会議優秀論文賞<日本道路協会>(水谷大二郎助教ら)、平成 29 年度土木計画学優秀論文賞<土木学会土木計画学研究委員会>(奥村誠教授)、ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2018 金賞<一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会>(今村文彦所長)などの賞が挙げられる。また、メディア報道への出演・執筆なども 680 件あった。平成 29 年度は国内で大きな災害が少なかったにもかかわらず、本研究所の研究者および諸活動に対するコンスタントな取材依頼・報道があり、本研究所が社会的に認知されてきた状況を示していると考えられる。

## 2) 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業に係る、神戸大学人文学研究科・本研究所・国立歴史民族博物館の 3 機関の連携・協定が締結され、その調印式が 1 月 26 日に本研究所で執り行われた。これにより、各機関が調査した古文書のデジタルデータを蓄積し、インターネット上で公開することで、歴史文化の理解や過去の震災情報に基づく防災に役立つことが期待される。

また、当研究所内に設置された「災害統計グローバルセンター」を中心に、科学的知見に基づく防災・減災政策の評価手法の確立を図り、仙台防災枠組の実質化に寄与することを目的とした活動も行った。その一環として、国連開発計画(UNDP)、富士通と共同で、防災・減災に資するデータを定義し集積を重ね、「災害統計グローバルデータベース(GDB)」として公開を目指している。

研究企画委員会緊急調査 WG では、文理連携・学際連携に向けた体制の強化を進めた。平成 29 年 7 月上旬に発生した九州北部豪雨災害時には特設ウェブサイトを設け、SNS による情報伝達の現状と問題点についての解析、ドローンによる被災地状況把握、医療対応関連の動きの把握、長期避難による心身への影響の調査結果について発信した。29 年 9 月のメキシコ地震(マグニチュード 8.1)・津波では、津波の数値計算結果および日本への影響について特設サイトで発信した。また、28 年度に発生した熊本地震についても引き続き科学のおよび社会基盤に関する調査を行った他、その活動全体について報告書にまとめ公開し、金曜フォーラムでの報告会も行った。

平成 28 年度から月 1 回開催している「災害と健康」学際研究推進セミナーを 29 年度も継続し、所内における学際研究推進と情報共有を図っている。また、所内の幅広いメンバーで「歴史が導く災害科学の新展開」と題したシンポジウムを開催した。

### 3) 実践的防災学の構築

平成 29 年度より、「南海トラフ地震予測対応勉強会」を所内で発足させた。これは、東北地方太平洋沖地震の教訓から、いわゆる大震法が見直され、予知を前提としない定例・臨時情報を気象庁が発表する体制となったことに伴い、臨時情報が発表された際に、国民・自治体・企業等が取るべき対応を検討するための勉強会である。外部からの講演者も交えた会合を月 1 回の頻度で実施し、その成果を金曜フォーラムで報告し、さらに報告書としてとりまとめウェブで公開した。

昨年に引き続き第 2 回となる「実践的防災学シンポジウム」を開催し、「すこやかな暮らしの復興～復興のその先を見据えて～」と題して、ハード、ソフトの両面から研究発表を行い、様々な分野の方々の参加の下、持続可能な社会の形成、将来の災害に対応した強い社会の形成のための復興手法について議論した。

災害研 BCP(防災・業務継続計画)を改定し、ウェブで公開した。災害統計グローバルセンターでは、行政の報告書等から東日本大震災に関する被害や対応状況等を集約し、「東日本大震災関連統計データベース」としてウェブ公開を開始した。

### 4) 国際社会との連携強化

「仙台防災枠組」に沿ったテーマの下での国際会議・ワークショップの実施体制を構築した。その中心が、平成 29 年度から 2 年毎に定期開催が決まった「世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台」である。世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携した、日本・仙台発の市民参加型国際会議で、その最初の開催となる第 1 回世界防災フォーラムを、平成 29 年 11 月 25 日～28 日の日程で仙台国際センターおよび東北大学川内萩ホールで開催した。本研究所は開催を全面的に支援し、今村文彦所長が世界防災フォーラム実行委員長をつとめ、フォーラム事務局は当研究所内に設置した。世界防災フォーラムでは、前日祭、セッション、展示、被災地のスタディーツアーなどが実施され、42 の国・地域から、947 名の会議登録者が参加し、延べ参加者は、一般市民来場者や、同時開催イベント「ぼうさいこくたい」「防災産業展」の関係者等も含め 1 万人以上に達し、当初の見込みを大幅に上回った。産官学民の多種多様な立場の関係者らと活発かつ有意義な議論が交わされ、国連防災戦略事務局、国際赤十字赤新月社連盟、環太平洋大学協会(APRU)、海外拠点大学、Elsevier、内閣府、JICA 等からも多数の参加を得て、「仙台防災枠組」の推進及び「BOSAI」を世界に発信するとして今回のキックオフにふさわしい成果を十分に得ることができた。

これに加えて、海外の機関との連携として、ペルー工科大の日本・ペルー地震防災センターとの部局間協定の締結、中国同済大学との大学間学術交流協定の更新、国連開発計画(UNDP)との交流協定の更新、ドイツ航空宇宙センター(DLR)との部局間学術交流協定の更新などが行われ、これまでに引き続き、活発な交流が推進された。また APRU(環太平洋大学協会)のサマースクールを 7 月に仙台で開催し、Multi-hazards Program を継続することで連携ネットワークの範囲を拡大した他、10 月の日仏防災イベント週間には Tsunami and DRR Innovation Workshop を主催し、本研究所が中心となって 3 つのセッションを立ち上げ、日仏の防災関係の研究者らで情報を共有した。さらにメキシコ・モンテレイ工科大学からアジア・太平洋研究所の所長らを迎えて、防災に関する意見交換を行い、次年度にメキシコでワークショップを共同開催することとした。

また、英文での出版物として、「A Global Outlook on Disaster Science」を Elsevier 社から出版した。

### 5) 全国共同利用・共同研究拠点認定への取り組み

本研究所は、部局ビジョンおよび第 3 期中期目標・中期計画、いずれでも全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを計画として掲げている。平成 28 年度から申請に向けた準備を進めてきたが、29 年度共通政策課題(全国共同利用・共同実施分)を獲得したことで、計画の加速が可能になり、以下の計画概要で拠点申請を行った。

①拠点名称: 災害に強くなやかな人間・社会を創る研究拠点

②目的: 巨大災害や複合災害では、自然災害の力を施設で抑止する従来の防災政策だけでは限界があり、回避、減災、回復のための人間社会の側に着目した対応や政策が重要である。本拠点は各種の対応や政策を総動員し、災害による被害や損失を最小化するための学術を「実践的防災学」と定義し、その実現を目指す。自然災害科学の知見も活用しつつ、人文・社会科学、医学・医療を含めた本邦の研究機関の連携を強化することで学際的な共同研究活動を推進し、人間の傾向と整合する対応行動の明確化、平常時の社会の仕組みやニーズを考慮した対応や政策の提

案、さらに社会実装、人材育成のあり方を研究する。これにより人材育成を強化し、将来にわたる脅威に対しても被害を軽減し、回復力を高めることができる、しなやかな社会の構築を先導することを目的とする。

- ③全体計画の概要:本拠点では、自然災害と人間活動の双方を記録した 1)災害アーカイブを基礎とし、適切な対応や政策の検討・導入で被害が軽減できる可能性が大きい 2)津波減災と 3)災害医学・医療を中心に④防災人材育成の方法を研究することを重要と考え、この 4 つを重点領域に選定し、各領域の学問グループや被災地大学などの共同利用・共同研究の受け入れを行い、有機的な連携強化と学際的な研究活動を促進する。さらにその成果を、その他の災害リスクへの対応と政策の検討に応用し、減災社会構築を促進する。

拠点申請の審査において、ヒアリング、作業部会からの確認事項の問い合わせ、およびそれに対する回答等を行ったが、最終的に 11 月に不採択の通知を文部科学省から受けた。一方で、本研究所は発足以来、学内研究者が全国の研究者と共同研究を行う、特定プロジェクト研究を年 1 回公募してきた。平成 28 年度は「災害研リソースを活用した共同研究」として 13 件を採択した。29 年度は第一期に 22 件、さらに第二期の追加公募で 12 件の合計 34 件を採択した。また、前年度の共同研究の成果を一般に公表する場として、共同研究成果報告会を 7 月に開催した。これまで培ってきた共同研究体制を維持・発展させるため、平成 30 年度も継続して申請を受け、現在審査中である。

## 6) 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定され、災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、次の目標を掲げ組織づくりを行った。災害対応サイクル理論を適用することで次に掲げる 4 つの研究領域を融合させ、学内での学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創成する。さらに、APRU 組織などで始まりつつある災害科学研究ネットワークを発展させ、国際共同研究の強化や国際学会の開催を通じて「災害科学」の体系化を図り、世界をリードする国際的なジャーナルを創刊する。

災害科学を「実践防災学研究領域」・「自然災害研究領域」・「災害人文学研究領域」・「災害医学研究領域」の 4 つの研究領域に分け、それぞれに関連部局からのコアメンバーを募り、活動を開始した。また、立ち上げに伴い、そのキックオフ・ミーティングを 11 月の世界防災フォーラムの中で実施した。さらにコアメンバーで構成する会議を、2 ヶ月に 1 回程度の頻度で開催し、本格運用に向け準備を行っている。

## (6) 教育活動

平成 29 年度の教育活動の成果に関しては、「5 教育活動」を参照されたい。

## (7) 社会貢献活動

災害対策先進国として、これまで特に地震・津波対策で国際貢献を果たしてきた我が国が、東日本大震災後、どのように社会の安定を取り戻し、復興を果たしていくかは、世界的にも注目されている。事前対策、発災時の緊急対応、被災後の復旧・復興の一連の災害サイクルにおいて、世界で最も緻密かつ徹底した総合調査・研究を行い、その知見を普遍化して次世代の防災・減災技術構築の先導を果たすことが本研究所の責務である。被災地にある総合大学としての特徴を最大限に活かし、災害における社会問題の具体的解決のための実践的研究を指向するために、社会との連携や人材育成は必須である。

平成 29 年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

### 1) 防災知識を身に付けた人材の育成

リーディング大学院(グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)、ヒューマンセキュリティープログラムの連携の下、国際共同大学院(災害科学・安全安心)への中心的な参画を継続し、国際的な場で活躍できる人材育成を図った。学内の附置研究所およびセンターで進められている若手アンサンブルプロジェクトに積極的に寄与し、多様な分野の研究者らと共同した防災に関わる研究が実施された。リーディング大学院の教育プログラムでは、所内からも多数の授業・実習を提供している他、米国ハーバード大やフランス INSA-LYON 等と連携した C-Lab 研修が行われている。また、学

生自主企画をぼうさいこくたい 2017 に出展した。平成 30 年 3 月には 2 期生となる修了生を、学術、民間、行政・団体などへバランス良く輩出した。

新しい試みとして、「全国统一防災模試」というスマートフォンアプリを開発・配信した結果、60 万人以上がダウンロードして回答を行った。インターネットの利用により、通常のアンケートでは得られない極めて大きな母数での防災への認識度合いを把握できたとともに、多くの人が防災への関心を高めることにつながった。

## 2) 防災教育の社会的展開

2012 年の本研究所発足以来、東日本大震災における調査研究や復興事業への取り組みから得られた知見を世界に発信するとともに、我が国の自然災害対策や住民への災害への処し方そのものを刷新し新たなパラダイムを作り上げる研究と提案を積極的に推進してきた成果が認められ、今村文彦所長と平川新前所長を代表として「東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創成」(学術部門)という課題で第 67 回河北文化賞を受賞した。その贈呈式が各界の著名人も迎え 1 月 17 日に仙台国際ホテルで執り行われた。

プロジェクト連携研究センターである「防災教育国際協働センター」を中心に、防災教育に関わる国内外の多様なステークホルダーとのネットワークを構築し、研究と実務の距離を縮め、防災教育の普及と高度化の実現をめざしている。被災地では、防災対策・津波避難計画への協力、防災教育への協力、防災文化講演会の開催のような活動により、地元に着した拠点の形成を強化した。また、自治体等の復興計画委員会やアドバイザー等として、防災・減災の研究成果を政策や地域計画に反映するとともに、研究所公開、模擬講義、金曜フォーラム等を継続的に開催し、地域の社会教育への貢献を実施した。

## 3) 産官学及び地域社会と連携した防災対策の強化

産官学民+メディアの連携組織(みやぎ防災・減災円卓会議)を通して、社会的な活動、情報発信強化を図った。また、12 月に東北地方整備局との技術交流会を仙台合同庁舎で行い、互いの成果の報告と意見交換をした他、1 月には定例となった「3.11 からの学び塾」を開催した。

また、安心な暮らしを支える災害対策・防災分野の社会課題解決に向けた実現イメージに関する研究を課題とした、「NTTビジョン共有型共同研究」のための会合を 12 月から 2 月にかけて 3 回実施し、組織間で継続的かつ効果的な連携研究を推進するために相互にビジョンを共有し、今後は相互の複数の共同研究を中長期的に進めることになった。

これまで培ってきた大学の研究のノウハウを民間企業と連携して社会に還元するため、大学発のベンチャー企業となる「株式会社 RTi-cast」を 3 月に設立した。これは、総務省の「G 空間シティ構築事業」の一環として東北大学・大阪大学・NEC・国際航業・エイターらが開発し、内閣府が運用する「総合防災情報システム」の一角として採用された、スーパーコンピュータを用いた津波浸水被害推定システムがベースとなっており、津波予測情報の配信が実戦配備されることとなる。

さらに、地縁コミュニティ活動を進めながら、金曜フォーラムや東日本大震災の定例シンポジウムなどの活動を実施した。地方自治体などと協力しながら地域防災人材の育成に努めた結果、平成 29 年度末までの地域防災人材の育成実績は、学校教員および地域リーダーを合わせ、累計で 4640 人に達している。また連携協定・覚書は、研究所発足以来の累計で民間企業と 17 件、地方自治体とが 13 件を数え、地域社会への実装も着実に進展した。平成 29 年度に締結・更新した連携協定も、上に挙げた他に、宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センターとの相互連携・協力の実施に関する協定、日本赤十字社とのメタデータ連携、パシフィックコンサルタンツ株式会社との仙台防災枠組の実施推進に向けた連携・協力に関する協定、国連大学サステイナビリティ高等研究所(日本)と東北大学との間における大学間学術交流に関する協定、石巻市との連携と協力に関する協定、七ヶ浜町における東日本大震災からの復興と防災体制向上に向けた取組みに関する協定、と多岐にわたっている。

## (8) 自己評価

### 1) 平成 29 年度活動の総括

平成 29 年度は、災害研にとって、アップダウンの激しい年となった。6 月に東北大学が指定国立大学に指定され、東

北大学が世界トップレベル研究を推進する拠点のひとつとして、災害研を中心とした「災害科学研究拠点」が重要な役割を担うこととなった。また、11月25～28日には第一回世界防災フォーラムが仙台で開催されたが、災害研はこの活動でも中核を担い、同時開催の「ぼうさいこくたい 2017」「防災産業展 2017」との連携で、のべ参加人数は、1万人以上を記録した。さらに30年1月には「東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創成」(学術部門)の課題で、河北文化賞(河北文化事業団)を受賞している。また同じ1月には、人間文化研究機構・神戸大学・東北大学で3者包括協定が締結され、歴史文化資料保全の大学共同利用機関ネットワーク事業を実施しながら、相互支援体制の構築を目指すこととなるなど、文理融合研究の推進に向けた活動も積極的に行われた。2月10日には、関連シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」が開催されている。その一方、災害研の設立当初から計画として掲げていた全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた申請を、29年3月に行ったが、最終的に11月に不採択の結果となった。

## 2) 活動水準の向上度の評価

設立からの6年間に様々な状況の変化があったことに対応して、研究成果の状況も年々変化している。平成24年度の設立以降6年間の研究成果の推移をみると、学術論文(403編→579編→507編→492編→471編→327編)、著書(37冊→54冊→54冊→32冊→33冊→38冊)(単著、共著、分担執筆、監修、編集含む)、総説解説(65編→79編→63編→78編→63編→51編)、学会における招待講演(146件→132件→150件→92件→75件→53件)、受賞(16件→16件→28件→18件→26件→25件)、特許(1件→4件→5件→7件→5件→5件)と毎年着実に実績をあげていることがわかる。ただ、29年度の学術論文数は、28年度に比較して、減少が見られている。これは、改正労働契約法の適用により5年任期を迎えた複数の基幹経費教員の退職に伴い、専任教員数が68名から56名へと約2割減少したこと、28年度は熊本地震など大きな災害が頻発し報告レポート数が増加していたこと、などが要因として考えられる。今後は、新規教員補充の進捗、災害科学研究拠点の活動の本格化などにより、改善していくことと思われる。学術論文の内訳では、国際誌では査読有り論文比率(33%→44%→48%→51%→47%)とほぼ半分が査読有り論文であり、国内誌査読有り論文比率(24%→28%→29%→18%→30%)と合わせて、質の高い水準を保っている。また、受賞件数が、設立当初に比較すると、1.5倍以上の件数となっていることは、これまでの取り組みが、確実に実績を挙げ、社会的な評価に結び付きつつあることを示しているものと思われる。30年1月17日には今村文彦所長と平川新前所長を代表として「東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創成」(学術部門)の課題で、河北文化賞(河北文化事業団)を受賞した。

一方、メディア報道への出演・執筆・企画協力・資料提供(542件→605件→283件→595件→842件→680件)も安定した件数を示しており、社会への発信機能の充実が伺える。また産官学および社会地域との連携に関しては、連携協定・覚書が研究所発足以来の累計で、民間企業17件、地方自治体とが13件となっており、地域社会への実装も年々進展している。

## 3) 世界トップレベル研究拠点

平成29年6月に、東北大学、東京大学、京都大学の3大学が、文部科学大臣から指定国立大学法人に指定された。指定国立大学とは、世界最高水準の教育研究活動の展開ができると、その実力と潜在能力を認められた国立大学と定義されている。東北大学では、「材料科学」「スピントロニクス」「未来型医療」そして「災害科学」の4領域において、世界トップレベル研究を推進する拠点を形成することを掲げている。11月27日には、世界防災フォーラムにおいて、災害科学研究拠点としてのキックオフミーティング「災害科学の学際研究の推進と国際社会への貢献」を、災害研が環太平洋大学協会(APRU)と連携して開催した。この会では、拠点のロゴマークが披露されるとともに、パネルディスカッションでは災害関係機関の関係者が議論を交わし、異なるステークホルダー間での連携や災害に強い社会構築への期待が寄せられた。参加者は学内外から約170名に上った。災害科学研究拠点では、「実践防災学研究領域」「自然災害研究領域」「災害人文学研究領域」「災害医学研究領域」の4つの研究領域を設け、今村文彦拠点長の元で、災害研および関連部局からのコアメンバーを中心に、活動を開始している。「災害科学」が世界トップレベル研究拠点のひとつに選定されたこと、災害研がその中核を担うことは、大変な榮譽ではあるが、その責務は大であり、今後の活動にも内外の注目が集まっていくことと思われる。災害科学研究拠点に関する詳細は、拠点のHP(<http://dsmca.irides.tohoku.ac.jp>)を参照いただきたい。



#### 4) 世界防災フォーラム

世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携した、日本・仙台発の市民参加型国際会議であり、第一回世界防災フォーラムは、11月25～28日に仙台国際センターなどで開催された。今村文彦所長が世界防災フォーラム実行委員長を務めるなど、災害研は中核を担った活動を行い、同時開催の「ぼうさいこくたい 2017」「防災産業展 2017」との連携により、のべ参加人数は、当初の見込みを大幅に上回り、1万人以上を記録するなど盛会の内に幕を閉じた。「仙台防災枠組」の推進および「BOSAI」を世界に向けて発信するという当初の目的は十分に達せられたイベントであったと考える。2018年11月の防災ダボス会議を経て、2019年には第2回世界防災フォーラムが仙台で開催される予定であり、更なる国内外との連携強化が必要になっていくと考える。

#### 5) 共同利用共同研究

本研究所は、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを設立当初から計画として掲げていた。平成28年度から申請に向けた準備を進め、30年度認可に向けて、29年3月に拠点名称「災害に強くなやかな人間・社会を創る研究拠点」として申請を行った。複数の申請のうち、災害研は唯一、最終選考まで残ったが、最終的に29年11月22日に文部科学省より不採択の通知を受けた。東日本大震災の教訓に基づき、人間社会の側に着目し、災害による被害や損失を最小化する学術である「実践的防災学」の確立を目指した意欲的な取組であることは評価されている一方、震災から得られた知見による幅広い学問分野の融合を目指しながら、参加研究者の分野構成に偏りがあり、さらに、同様の取り組みを進めている被災県の大学などとの連携にも具体性を欠くことなども指摘されており、今後は、研究所の研究を充実・発展させる中で、共同利用・共同研究の方向性をより一層具体化させていく必要性が求められていると考えられた。これらの結果を受けて、災害研では共同利用共同研究体制を再検討し、外部委員の積極的任用を含め、共同研究委員会や共同研究プロジェクト実施委員会などの運営方針の再構成を行うとともに、平成30年度では共同利用共同研究助成公募として「東日本大震災の復興・創生期間に関係した研究」および「岩手県・宮城県・福島県の被災地に寄与する研究」を推進することを重点とした公募を行い、33件を採択している(30年6月)。次回の全国共同利用・共同研究拠点への申請は未定であるが、それまでに共同利用・共同研究の方向性と実績をより充実させていく必要があると考える。

表 1 災害科学国際研究所の研究成果（平成 29 年度）の概要

学術論文	327 編
単著	18
共著（うち筆頭）	309（61）
著書	38 冊
単著	8
共著（うち筆頭）	21（1）
監修・編集・共編	9
総説・解説	51 編
学会発表	491 件
単独・筆頭	205
共同	286
うち基調講演・招待講演・特別講演	53
特許	5 件
受賞	25 件
科研費（代表）	36 件
その他の競争的資金（代表）	22 件

学術会議等の主催・共催・運営	148 件
シンポジウム	39
講演会・セミナー	35
研究会・ワークショップ	59
その他	15
セミナー・講演等の主催・共催・運営	126 件
シンポジウム	25
講演会・セミナー	56
研究会・ワークショップ	25
その他	20
講演・講義等	359 件
公開講座	19
講演会・セミナー	257
小中高との連携	83
行政・企業との連携	167
うち基調講演・招待講演・特別講演	89

表2 平成29年度 研究成果への受賞リスト (25件)

(受賞者名は研究所所属教員のみ記載)

受賞名 <授与機関名>	受賞者名	授与日
座長推薦優秀研究発表 <第73回日本放射線技術学会総会学術大会>	千田浩一、稲葉洋平	2017/4/15
CyPos 賞 Silver Award <第73回日本放射線技術学会総会学術大会>	千田浩一(グループ)	2017/4/15
研究奨励賞技術新人賞(防護分野)<公益社団法人日本放射線技術学会>	稲葉洋平	2017/4/15
Featured Abstract 賞 <第46回日本IVR学会>	千田浩一、稲葉洋平	2017/5/20
電子情報通信学会 2016年安全・安心な生活とICT研究会 研究優秀賞 <電子情報通信学会>	佐藤翔輔、今村文彦	2017/5/29
第19回学校図書館出版賞 <全国学校図書協議会>	今村文彦、サッパシー アナワット、佐藤翔輔	2017/6/2
優秀発表賞 <地域安全学会>	佐藤翔輔	2017/6/9
感謝状 <在東京タイ王国大使館>	サッパシー アナワット	2017/6/15
優秀ポスター賞 <東北大学研究所長会議>	寅屋敷哲也	2017/7/3
The WET Excellent Presentation Award <日本水環境学会>	越村俊一(グループ)	2017/7/23
感謝状 <七ヶ浜町社会福祉協議会>	佐藤翔輔	2017/9/30
GPEIG Case Study Competition <Association of Collegiate Schools of Planning (ACSP) Global Planning Educators Interest Group (GPEIG)>	井内加奈子、 マリ エリザベス	2017/10/12
Coastal Engineering Journal Citation Award(引用賞) <Coastal Engineering Journal (CEJ)>	今村文彦、越村俊一、 サッパシー アナワット、 マス エリック	2017/10/25
第32回日本道路会議優秀論文賞 <日本道路協会>	水谷大二郎(グループ)	2017/11/1
平成29年度土木計画学優秀論文賞①<土木学会土木計画学研究委員会>	奥村誠	2017/11/4
平成29年度土木計画学優秀論文賞②<土木学会土木計画学研究委員会>	奥村誠	2017/11/4
NRC Merit Award for Scientific Publication 2015 <National Research Council of Sri Lanka>	今村文彦、サッパシー アナワット、後藤和久	2017/11/6
The Third JDR Award <Journal of Disaster Research, Fuji Technology Press>	越村俊一	2017/11/14
若手優秀講演賞 <日本活断層学会>	今野明咲香	2017/11/24
USMCA Best Young Presentation Award <USMCA >	越村俊一、マス エリック	2017/11/26
USMCA Best Young Presentation Award <USMCA >	サッパシー アナワット、 マス エリック	2017/11/26
World Bosai Forum Poster Award <World Bosai Forum>	マス エリック(グループ)	2017/11/28
World Bosai Forum Poster Award <World Bosai Forum>	今村文彦、サッパシー アナワット	2017/11/28
寒地技術賞(地域貢献部門) <一般社団法人 北海道開発技術センター>	定池祐季	2017/11/29
ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2018 金賞 <一般社団法人 レ ジリエンスジャパン推進協議会>	今村文彦	2018/3/20



### 3 組織運営活動

## (1) 人員配置と業務分担

### A 教員等の配置・研究組織構成状況

2018年3月31日現在

#### 災害リスク研究部門

分野名	職名	氏名
地域地震災害研究分野	教授	源栄 正人
	准教授	大野 晋
	事務補佐員	小塚 雅子
津波工学研究分野	教授	今村 文彦
	准教授	Suppasri Anawat
	助教	門廻 充侍
	産学官連携研究員	Pakoksung Kwanchai
	技術補佐員	五十嵐 和美
	技術補佐員	平塚 理香
災害ポテンシャル研究分野	教授	越村 俊一（兼務）
	准教授	有働 恵子
	産学官連携研究員	武田 百合子
	技術補佐員	黒木 素子
広域被害把握研究分野	教授	越村 俊一
	教授	佐藤 源之（兼務）
	准教授	Mas Samanez Erick Arturo
	産学官連携研究員	阿部 孝志
	産学官連携研究員	Moya Huallpa Luis Angel
	産学官連携研究員	Bai Yanbing
	技術補佐員	豊田 和可子
	技術補佐員	Urta Espinoza Luisa Isolde
最適減災技術研究分野	教授	五十子 幸樹
	事務補佐員	石野 友恵
低頻度リスク評価研究分野	准教授	後藤 和久
	技術補佐員	本間 紫織

#### 人間・社会対応研究部門

分野名	職名	氏名
災害情報認知研究分野	教授	邑本 俊亮
	教授	杉浦 元亮
被災地支援研究分野	教授	奥村 誠
	助教	水谷 大二郎

歴史資料保存研究分野	准 教 授	佐藤 大介
	教 育 研 究 支 援 者	安田 容子
防災社会システム研究分野	教 授	丸谷 浩明
	教 授	増田 聡 (兼務)
	教 授	吉田 浩 (兼務)
	助 教	寅屋敷 哲也
	事 務 補 佐 員	山口 誉子
防災法制度研究分野	教 授	島田 明夫 (兼務)
災害文化研究分野	教 授	川島 秀一
	准 教 授	蝦名 裕一
	技 術 補 佐 員	五十嵐 綾子
	技 術 補 佐 員	鈴木 修
	技 術 補 佐 員	熊谷 成一
防災社会国際比較研究分野	准 教 授	井内 加奈子
	助 教	Maly Elizabeth Ann
	事 務 補 佐 員	齋藤 緑

地域・都市再生研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
都市再生計画技術分野	教 授	岩田 司
	准 教 授	姥浦 道生 (兼務)
	研 究 支 援 者	管野 輝美
	研 究 支 援 者	眞野 美穂
	研 究 支 援 者	須藤 靖子
除染科学研究分野	教 授	高橋 信 (兼務)
地域安全工学研究分野	教 授	寺田 賢二郎
	准 教 授	森口 周二
	技 術 補 佐 員	芳賀 麻由美
	事 務 補 佐 員	関根 和代
災害対応ロボティクス研究分野	教 授	田所 諭 (兼務)
国際防災戦略研究分野	教 授	村尾 修
	准 教 授	泉 貴子
	事 務 補 佐 員	笠松 由貴
	事 務 補 佐 員	小野寺 麻里子

災害理学研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
海底地殻変動研究分野	教 授	木戸 元之
	教 授	日野 亮太 (兼務)

	准 教 授	福島 洋
	助 教	川田 佳史
地震ハザード研究分野	教 授	趙 大鵬 (兼務)
	准 教 授	岡田 知己 (兼務)
	准 教 授	内田 直希 (兼務)
火山ハザード研究分野	教 授	三浦 哲 (兼務)
	准 教 授	山本 希 (兼務)
	助 教	市來 雅啓 (兼務)
地盤災害研究分野	教 授	今泉 俊文 (兼務)
	准 教 授	武藤 潤 (兼務)
	助 教	岡田 真介
気象・海洋災害研究分野	教 授	岩崎 俊樹 (兼務)
	教 授	須賀 利雄 (兼務)
	准 教 授	山崎 剛 (兼務)
宙空災害研究分野	教 授	小原 隆博 (兼務)
	准 教 授	三澤 浩昭 (兼務)
	助 教	土屋 史紀 (兼務)
国際巨大災害研究分野	教 授	遠田 晋次
	助 教	今野 明咲香
	技 術 補 佐 員	國分 園子

災害医学研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
災害医療国際協力学分野	教 授	江川 新一
	助 教	佐々木 宏之
	研 究 支 援 者	佐藤 真理
	研 究 支 援 者	藤原 莉沙
	研 究 支 援 者	川崎 弘嗣
災害感染症学分野	教 授	児玉 栄一
	技 術 補 佐 員	臼井 恵美子
	技 能 補 佐 員	河治 久実
	技 術 補 佐 員	笹野 美奈
災害放射線医学分野	教 授	千田 浩一
	教 授	細井 義夫 (兼務)
	助 教	稲葉 洋平
	産学官連携研究員	佐藤 行彦
	技 術 補 佐 員	菊池 玲子
災害精神医学分野	教 授	富田 博秋
	助 教	兪 志前



	助 教	飯田 溪太
	産学官連携研究員	小野 千晶
	産学官連携研究員	割田 紀子
	研 究 支 援 者	根本 晴美
	研 究 支 援 者	奥山 純子
	事 務 補 佐 員	初貝 ゆう子
	事 務 補 佐 員	高橋 由美
	事 務 補 佐 員	鈴木 純子
災害産婦人科学分野	教 授	伊藤 潔
	講 師	三木 康宏
	講 師	齋藤 昌利 (兼務)
災害公衆衛生学分野	教 授	栗山 進一
	厚生科研費研究員	西出 朱美
災害口腔科学分野	教 授	小坂 健 (兼務)
	准 教 授	鈴木 敏彦 (兼務)

情報管理・社会連携部門

分 野 名	職 名	氏 名
災害アーカイブ研究分野	教 授	今村 文彦 (兼務)
	准 教 授	柴山 明寛
	准 教 授	佐藤 翔輔
	助 教	<b>Boret Sebastien</b>
	技 術 補 佐 員	小野 円
	技 術 補 佐 員	土屋 美津子
	技 術 補 佐 員	土屋 修
	技 術 補 佐 員	後藤 さつき
	技 術 補 佐 員	森實 香澄
災害復興実践学分野	教 授	佐藤 健
	教 授	小野田 泰明 (兼務)
	准 教 授	平野 勝也
	准 教 授	本江 正茂 (兼務)
	助 教	定池 祐季
	産学官連携研究員	小林 徹平
	技 術 補 佐 員	笹木 和紀
	事 務 補 佐 員	松浦 いく子
社会連携オフィス	教 授	小野 裕一
	助 教	佐々木 大輔
	事 務 補 佐 員	菊地 由里子

	事務補佐員	小林 さやか
広報室	特任助教	中鉢 奈津子
	技術補佐員	鈴木 通江
	技術補佐員	小森 光

寄附研究部門

分野名	職名	氏名
地震津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究部門	教授	今村 文彦 (兼務)
	准教授	Suppasri Anawat (兼務)
	助手	安倍 祥
	寄附研究部門教員	林 晃大
	技術補佐員	保田 真理
	技術補佐員	佐藤 雅美
	事務補佐員	杉浦 加奈子

リーディング大学院

	職名	氏名
グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	准教授	松本 行真
	講師	久利 美和
	助教	杉安 和也
	助教	地引 泰人

事務部

係名	職名	氏名
事務長		曾根 芳則
専門員		栗原 尚志
総務係	係長	川村 修治
	事務一般職員	赤坂 絵津子
	事務補佐員	此原 奈緒
	事務補佐員	大野 祐子
	事務補佐員	伊藤 智栄子
	事務補佐員	杉山 祐香
経理係	係長	小島 史樹
	事務補佐員	岡 亨
	事務補佐員	木村 瑞希
	事務補佐員	菅原 千織
	事務補佐員	槇 直子
	事務補佐員	鈴木 由布子
用度係	用度係長	後藤 逸人

	主任	佐藤 恭子
	事務補佐員	林 浩
	事務補佐員	松井 梨奈
	専門職員	滝沢 光拓
	事務補佐員	守屋 知華

B 専任教員における外国人教員比率(平成 30 年 3 月 31 日現在)

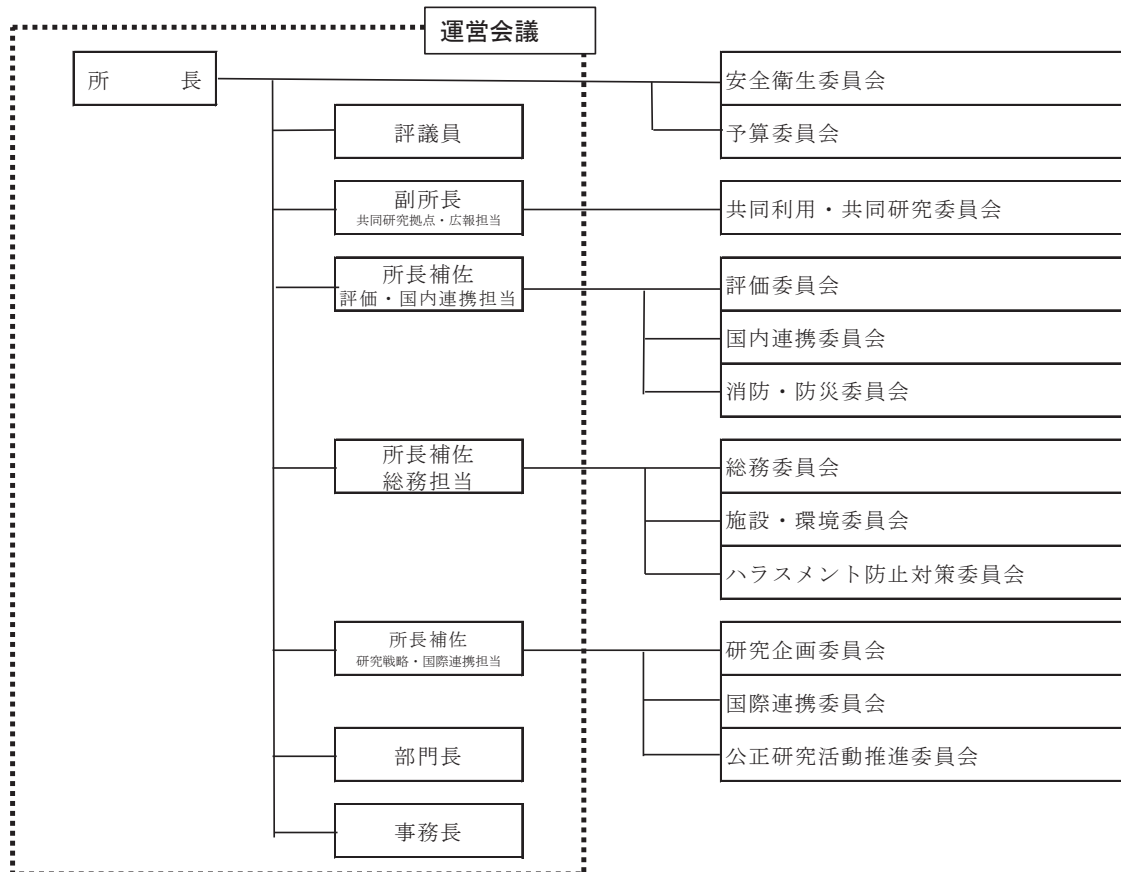
	教員数	外国人教員数	教員数における外国人教員の割合
教授	21	0	0.0%
准教授	15	2	13.3%
講師	2	0	0.0%
助教	17	3	17.6%
助手	1	0	0.0%
計	56	5	8.9%

※外国人教員数は内数

C 専任教員における女性教員比率(平成 30 年 3 月 31 日現在)

	教員数	男	女	教員数における女性教員の割合
教授	21	21	0	0.0%
准教授	15	12	3	20.0%
講師	2	1	1	50.0%
助教	17	13	4	23.5%
助手	1	1	0	0.0%
計	56	48	8	14.3%

## D 研究所内会議・委員会構成



委員会名	所掌内容
安全衛生委員会	職員の危険防止及び健康障害防止のための基本対策等
予算委員会	研究所予算関係
共同利用・共同研究委員会	共同利用・共同研究の計画、実施関係
評価委員会	部局評価関係
国内連携委員会	産官学連携、自治体連携等関係
消防・防災委員会	消防・防災訓練関係
総務委員会	研究所総務関係
施設・環境委員会	建物、環境関係
ハラスメント防止対策委員会	ハラスメント関係
研究企画委員会	研究企画、研究推進関係関係
国際連携委員会	国際連携、APRU 等関係
公正研究活動推進委員会	公正な研究活動の推進関係

会議名	構成員	審議事項
教授会	専任教授	人事・予算
拡大教授会	専任の教授・准教授	研究所に関する情報伝達と情報交換
全体会議	専任の教授・准教授・講師・助教	研究所に関する情報伝達と情報交換
拡大全体会議	専任の教授・准教授・講師・助教、スタッフ、研究協力教員(学内外)	研究に関する情報伝達・情報交換

## E 運営会議構成員及び各種委員会委員長名簿

### 1. 運営会議構成員

所長	今村 文彦 教授
副所長 (共同研究拠点・広報担当)	伊藤 潔 教授
評議員	丸谷 浩明 教授
所長補佐 (評価・国内連携担当)	
所長補佐 (総務担当)	村尾 修 教授
所長補佐 (研究戦略・国際連携担当)	寺田賢二郎 教授
部門長	
災害リスク研究部門	五十子幸樹 教授
人間・社会対応研究部門	奥村 誠 教授
地域・都市再生研究部門	岩田 司 教授
災害理学研究部門	遠田 晋次 教授
災害医学研究部門	児玉 栄一 教授
情報管理・社会連携部門	佐藤 健 教授

### 2. 各種委員会委員長

(1) 安全衛生委員会委員長	今村 文彦 教授 (所長)
(2) 予算委員会委員長	今村 文彦 教授 (所長)
(3) 共同利用・共同研究運営委員会	今村 文彦 教授 (所長)
(4) 広報戦略委員会	木戸 元之 教授
(5) 国内連携委員会	丸谷 浩明 教授 (所長補佐 (評価・国内連携担当))
(6) 評価委員会	丸谷 浩明 教授 (所長補佐 (評価・国内連携担当))
(7) 消防・防災委員会 (自衛消防隊)	丸谷 浩明 教授 (所長補佐 (評価・国内連携担当))
(8) 教務委員会	五十子幸樹 教授
(9) 施設環境委員会	村尾 修 教授 (所長補佐 (総務担当))
(10) 総務委員会	村尾 修 教授 (所長補佐 (総務担当))
(11) ハラスメント防止対策委員会委員長	佐藤 健 教授
(12) 男女共同参画委員会	佐藤 健 教授
(13) 研究企画委員会	寺田賢二郎 教授 (所長補佐(研究戦略・国際連携担当))
(14) 国際連携委員会	寺田賢二郎 教授 (所長補佐(研究戦略・国際連携担当))
(15) 研究倫理委員会	富田 博秋 教授
(16) 公正研究活動推進委員会	寺田賢二郎 教授 (所長補佐(研究戦略・国際連携担当))
(17) 共同利用・共同研究委員会	伊藤 潔 教授 (副所長 共同研究拠点・広報担当)

### 3. 2017年度委員会名簿（WGメンバー）

委員会	委員長・副委員長	委員	WG名	WGメンバー
安全衛生委員会	◎今村	小川浩正（産業医），後藤，事務長，大野，蝦名（過半数代表者），森口，川田，兪，柴山，用度係長，総務係長（安全・衛生管理者）		
予算委員会	◎今村 ○伊藤	丸谷，寺田，村尾，森口，事務長，経理係長		
広報戦略委員会	◎木戸 ○伊藤	千田，アナワット，有働，エリック，蛭名，福島，久利，中鉢，広報室職員	情報発信 WG	★川田，柴山，リズ，兪，安倍，中鉢，広報室職員
			ニューズレターWG	★中鉢，森口，三木，後藤，天野，リズ，岡田，ボレー，山下，広報室職員
			年次報告書 WG	★寺田，中鉢，広報室職員
			展示 WG	★岡田，天野，王，寅屋敷，リズ，川田，今野，佐々木（宏），稲葉，兪，佐藤翔，ボレー，定池，山下，安倍，林，水谷，佐々木（大），中鉢，杉安，地引，広報室職員
			ノベルティグッズ WG	★福島，岡田，中鉢，広報室職員
国内連携委員会	◎丸谷 ○岩田	川島，江川，小野蛭名，森口，三木，松本	産官学連携 WG	★丸谷，岩田，小野，佐藤健，寅屋敷，定池，安倍
			大学間連携 WG	★松本，江川，泉，久利，三木，杉安
			気仙沼分室 WG	★川島，蝦名，佐藤翔，安倍，山下
評価委員会	◎丸谷 ○寺田	五十子，奥村，岩田，遠田，児玉，佐藤健		
消防・防災委員会（自衛消防隊）	◎丸谷 ○伊藤	事務長，今村，邑本，村尾，佐藤健，江川，大野，後藤，佐藤大，柴山，平野	防災計画策定 WG	★丸谷，佐藤健，江川，邑本，柴山，後藤，寅屋敷，安倍，総務係長，用度係長
教務委員会	◎五十子（工） ○村尾（工）	越村（工・リ），邑本（情），江川（医），後藤（理），佐藤大（環），松本（リ），久利（リ）	グローバル安全学 WG	★江川，松本，久利，地引，杉安 C-LAB 担当：越村
施設環境委員会	◎村尾 ○平野	大野，柴山，用度係長	施設管理 WG	★平野，岩田，村尾，大野，柴山，用度係長
			ネットワーク WG	★大野，柴山，寺田
			デザインコード WG	★村尾，平野，用度係長
総務委員会	◎村尾 ○丸谷	今村，柴山，総務係長	ライブラリ運営 WG	★今村，川島，柴山，佐藤大
ハラスメント防止対策委員会	◎佐藤健 ○村尾	栗山（教授代表），井内（准教授・女性代表），佐藤翔（助教代表），蛭名（過半数代表者），総務係長		

男女共同参画委員会	◎佐藤健 ○村尾	栗山（教授代表），井内（准教授・女性代表），佐藤翔（助教代表），蛭名（過半数代表者），総務係長		
研究企画委員会	◎寺田（地） ○児玉（医）	五十子（リ），奥村（人），岩田（地），遠田（理），佐藤健（情），森口，福島，杉浦	金曜フォーラム WG	★岩田，★寅屋敷，天野，岡田，佐々木（宏），リズ，エリック，久利，佐藤翔，今野，稲葉，定池
			社会インパクト研究 WG	★福島，今村，寺田，奥村，児玉，泉，大野，柴山，中鉢
			緊急調査 WG	津波（国内）：山下，安倍 津波（海外）：エリック，アナワット 高潮・洪水：有働 地震：岡田，王 土砂・火山：★森口，久利 保健・医療：佐々木（宏），兪 歴史資料保護：天野，佐藤翔 社会情勢・ロジ：松本，寅屋敷
			EV 管理・活用 WG	★今村，柴山，佐藤（翔），安倍，林，松本，杉安，用度係長
			ソフトウェア管理 WG	★越村，エリック
			KPI 評価・推進 WG	★今村，伊藤，寺田，佐藤（健），小野，富田，柴山，泉，事務長，経理係長
国際連携委員会	◎寺田 ○小野	越村，村尾，江川，アナワット，エリック，井内，泉	APRU 運営 WG	★泉，小野，松本，久利，杉安，地引
			世界津波の日 WG	★今村，越村，小野，アナワット，リズ，ボレー，中鉢
研究倫理委員会	◎富田 ○邑本	奥村，川島，伊藤，栗山，井内，後藤，ボレー，今野		
公正研究活動推進委員会	◎寺田（地） ○奥村*（人）	源栄（リ），邑本*（人），遠田（理），千田*（医），平野（情） <small>*研究公正アドバイザー</small>		
東日本大震災シンポジウム 2017	◎岩田 ○佐藤健	エリック，大野		
世界防災フォーラム 2017	◎寺田 ○小野	今村，奥村，丸谷，村尾，伊藤，福島，泉，事務長，経理係長，専門職員	WG 省略	
片平まつり 2017	◎木戸 ○越村	佐藤大，森口，川田，稲葉，定池，鈴木通（広報室）		
共同利用・共同研究運営委員会	◎今村 ○伊藤	寺田，村尾		
共同利用・共同研究委員会	◎伊藤	越村，川島，富田，佐藤健		
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	◎伊藤	アナワット，三木，柴山，泉		



## (2) 研究資金

### A 平成 29 年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位:百万円)

区分	決算額	備考
運営費交付金	458	
教員人件費	357	
教育研究費	101	
一般管理費	0	
運営費交付金(機能強化)	80	
間接経費	53	
外部資金	490	
寄附金	51	・寄附部門含む
受託研究費	112	
共同研究費	34	
受託事業費	65	
科学研究費補助金	158	
その他補助金	70	
合計	1,081	

※単位未満四捨五入

※特殊要因経費除く

## B 研究者一人あたりの研究費

平成30年3月末現在(単位:千円)

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人 あたりの研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	100,833	51	1,977	
運営費交付金(機能強化)	80	51	2	
受託研究費等	367,760	51	7,211	受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	144,300	51	2,829	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	612,973	51	12,019	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数

C 平成29年度科学研究費補助金採択一覧表

文科科学研究費

平成30年3月末現在

課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	部門名	分野名	職名	研究者	備考	
1	25242036	基盤研究(A)	東日本大震災復興システムのレジリエンスと沿岸地域における津波に対する脆弱性評価	6,200,000	1,860,000	8,060,000	地域・都市再生研究部門	国際防災戦略研究分野	教授	村尾 修	H25 ~ H29
2	26257506	基盤研究(A)	災害リスク評価のためのマルチステージ破壊シミュレーション手法の開発	11,600,000	3,480,000	15,080,000	地域・都市再生研究部門	地域安全工学研究分野	教授	寺田 賢二郎	H28 ~ H30
3	17H00840	基盤研究(A)	東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化	10,100,000	3,030,000	13,130,000	災害医学研究部門	災害医療国際協力分野	教授	江川 新一	H29 ~ H32
4	17H01631	基盤研究(A)	古代津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化	8,800,000	2,640,000	11,440,000	災害リスク研究部門	津波工学研究分野	教授	今村 文彦	H29 ~ H33
5	15H04070	基盤研究(B)	長周期長時間地震動対策のための建築用スマートバッシブ制御デバイスの高度実用化	3,300,000	990,000	4,290,000	災害リスク研究部門	最適減災技術研究分野	教授	五十子 幸樹	H27 ~ H29
6	16H03686	基盤研究(B)	分化・複層化する原発事故避難者ネットワーク/コミュニティの類型と変容に関する研究	4,300,000	1,290,000	5,590,000	リーディング大学院		准教授	松本 行真	H28 ~ H30
7	16H05242	基盤研究(B)	表現型クラスター化と超次元変数選択法による自閉症スペクトラム障害の原因解明	6,400,000	1,920,000	8,320,000	災害医学研究部門	災害公衆衛生学分野	教授	栗山 進一	H28 ~ H30
8	16H05346	基盤研究(B)	休眠遺伝子の覚醒で産生される活性天然物をシーズとする難治性疾患治療薬の網羅的開発	4,400,000	1,320,000	5,720,000	災害医学研究部門	災害感染症学分野	教授	児玉 栄一	H28 ~ H30
9	16H05752	基盤研究(B)	よりよい生活再建に向けた移転再定住計画プロセスの解明：台風ハイアン被災地を対象に	2,900,000	870,000	3,770,000	人間・社会対応研究部門	防災社会国際比較研究分野	准教授	井内 加奈子	H28 ~ H31
10	17H02065	基盤研究(B)	東日本大震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究	2,600,000	780,000	3,380,000	情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究部門	准教授	柴山 明寛	H29 ~ H31
11	17H02971	基盤研究(B)	日本海溝沿い沿岸部での古津波履歴の統合的解明	6,500,000	1,950,000	8,450,000	災害リスク研究部門	低頻度リスク評価研究分野	准教授	後藤 和久	H29 ~ H32
12	17H03358	基盤研究(B)	災害や地域の特性に対応した木造応急仮設住宅の供給手法に関する研究	4,900,000	1,470,000	6,370,000	地域・都市再生研究部門	都市再生計画技術分野	教授	岩田 司	H29 ~ H31
13	15K00908	基盤研究(C)	災害科学の専門知を教養科目に集約する授業開発研究	600,000	180,000	780,000	人間・社会対応研究部門	災害情報認知研究分野	教授	邑本 俊亮	H27 ~ H31
14	15K08338	基盤研究(C)	子宮内臓癌局所におけるストレスホルモンの動態と癌への作用	1,100,000	330,000	1,430,000	災害医学研究部門	災害産婦人科学分野	講師	三木 康宏	H27 ~ H29
15	15K11925	基盤研究(C)	津波被害を受けた民間所在歴史資料の歴史情報保存に向けた基礎的研究	800,000	240,000	1,040,000	人間・社会対応研究部門	歴史資料保存研究分野	助教	天野 真志	H27 ~ H29
16	16K07210	基盤研究(C)	統合失調症における環境要因のエピゲノム解析と分子病態の解明	1,000,000	300,000	1,300,000	災害医学研究部門	災害精神医学分野	助教	兪 志 前	H28 ~ H29
17	16K08857	基盤研究(C)	広域巨大災害時に病院支援受け入れをスムーズにする病院受援力診断ツールの開発	700,000	210,000	910,000	災害医学研究部門	災害医療国際協力分野	助教	佐々木 宏之	H28 ~ H30
18	17K11266	基盤研究(C)	子宮内臓癌での性ステロイド合成key enzyme:CYP17の役割とその制御	1,400,000	420,000	1,820,000	災害医学研究部門	災害産婦人科学分野	教授	伊藤 潔	H29 ~ H31
19	16K16371	若手研究(B)	Applying developed fragility functions for the Global Tsunami Model (GTM)	900,000	270,000	1,170,000	災害リスク研究部門	津波工学研究分野	准教授	サツマシニア ナワツト	H28 ~ H30
20	16K18202	若手研究(B)	The Role of NGOs in Post-Disaster Housing Provision: Case Studies of New York, U.S., after Su perstorm Sandy and Tacloban, Philippines, after Typhoon Yolanda (International Name Haiyan)	1,600,000	480,000	2,080,000	人間・社会対応研究部門	防災社会国際比較研究分野	助教	マリー エリザベス	H28 ~ H29
21	17K14404	若手研究(B)	東北日本前弧域における中新世以降の地殻伸張量・水平短縮量の定量化	1,200,000	360,000	1,560,000	災害理学研究部門	地盤災害研究分野	助教	岡田 真介	H29 ~ H31
22	17K13841	若手研究(B)	災害文化の形成・継承・変質家庭に関する社会学的研究	1,400,000	420,000	1,820,000	情報管理・社会連携部門	災害復興実践学分野	助教	定池 祐季	H29 ~ H31 移管 (東京大学)
23	17K17598	若手研究(B)	蒐集と博物館学：松森胤保の蒐集活動と博物図譜の作成に関する研究	700,000	210,000	910,000	人間・社会対応研究部門	歴史資料保存研究分野	教育研究支援者	安田 容子	H29 ~ H31
24	15K12574	挑戦的萌芽研究	3テスラMR短時間高速撮像法の開発による心リハ患者の非侵襲心機能評価の検討	800,000	240,000	1,040,000	災害医学研究部門	災害放射線医学分野	教授	千田 浩一	H27 ~ H29
25	15K12717	挑戦的萌芽研究	テリパリーサイエンスにより転換する児童を通して拡散させる減災社会システムデザイン	600,000	180,000	780,000	地盤津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究部門		技術補佐員	保田 真理	H27 ~ H29
26	15K13063	挑戦的萌芽研究	原発避難者における新旧コミュニティの変容とサードプレイス創出の可能性に関する研究	800,000	240,000	1,040,000	リーディング大学院		准教授	松本 行真	H27 ~ H29
27	15K15217	挑戦的萌芽研究	シトリ欠損症の簡易スクリーニング法の確立と家系情報に基づく食嗜好パターンの探索	500,000	150,000	650,000	災害医学研究部門	災害公衆衛生学分野	教授	栗山 進一	H27 ~ H29
28	16K12845	挑戦的萌芽研究	次世代コプロセッサの活用によるコミュニティ津波予報システムの構築	1,700,000	510,000	2,210,000	災害リスク研究部門	広域被害把握研究分野	教授	越村 俊一	H28 ~ H29
29	16K12851	挑戦的萌芽研究	避難行動への認識向上のための新たな防災警報音の確立と検証	300,000	90,000	390,000	地域・都市再生研究部門	国際防災戦略研究分野	助教	イケリ 一	H28 ~ H30
30	16K13277	挑戦的萌芽研究	歴史資料保全活動の心理社会的影響に関する調査研究	500,000	150,000	650,000	人間・社会対応研究部門	歴史資料保存研究分野	准教授	佐藤 大介	H28 ~ H30
31	16K13344	挑戦的萌芽研究	「災害統計の整備」を事例とした国際規範の成立と国内的受容の新仮説の構築	900,000	270,000	1,170,000	情報管理・社会連携部門	社会連携オフィス分野	教授	小野 裕一	H28 ~ H30
32	16F16055	特別研究員奨励費	リアルタイムシミュレーションとリモートセンシングの融合による南米の津波予測高度化	1,100,000	0	1,100,000	災害科学国際研究所			(越村俊一) ADRIANO ORTEGA BRUNO	H28 ~ H29
33	16J01953	特別研究員奨励費	地質学と津波工学の融合による津波堆積物認定手法の高度化	1,100,000	0	1,100,000	災害科学国際研究所		DC1	渡部 真史	H28 ~ H30 担当教員: 今村文彦
34	16J01584	特別研究員奨励費	土粒子レベルの直接計算とマルチスケール解析による土構造物の動的特性の評価	600,000	0	600,000	災害科学国際研究所		DC1	橘 一 光	H28 ~ H30 担当教員: 森口周二
35	17J02652	特別研究員奨励費	海底測地観測の高精度化を通じた東北沖地震に伴う余効変動プロセスの解明	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC2	富田 史章	H29 ~ H30 担当教員: 木村元之
36	17J03690	特別研究員奨励費	東日本大震災の実態に基づく津波避難評価手法の提案と安全社会構築に向けた実装	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC2	牧野嶋 文泰	H29 ~ H30 担当教員: 今村文彦
37	17J05235	特別研究員奨励費	時空間マルチスケール新理論による津波防災施設の最適設計への挑戦	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC1	野村 怜佳	H29 ~ H31 担当教員: 寺田賢二郎
38	17J06615	特別研究員奨励費	格子ボルツマン法による次世代津波シミュレーション手法の開発と大規模並列化	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC1	佐藤 兼太	H29 ~ H30 担当教員: 越村俊一

C 平成29年度科学研究費補助金採択一覧表

文科科研費

平成30年3月末現在

課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	部門名	分野名	職名	研究者	備考	
39	16H06624	研究活動スタート支援	三陸地方における家族の生業戦略への東日本大震災の影響に関する研究	1,100,000	330,000	1,430,000	災害科学国際研究所		シニア研究員	池田 菜穂	H28 ~ H29
40	16KK0048	国際共同研究強化	レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組構築に向けた研究	7,700,000	2,310,000	10,010,000	人間・社会対応研究部門	防災社会国際比較研究分野	准教授	井内 加奈子	H28 ~ H30
41	17H06108	基盤研究(S)	理・工・委託の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	34,500,000	10,350,000	44,850,000	災害リスク研究部門	広域被害把握研究分野	教授	越村 俊一	H29 ~ H33
42	17K18944	挑戦的研究(萌芽)	嫌悪施設の包摂的立地による地域防災力向上への挑戦	1,600,000	480,000	2,080,000	人間・社会対応研究部門	被災地支援研究分野	教授	奥村 誠	H28 ~ H31
43	17K18799	挑戦的研究(萌芽)	近接設置の海底局による精密GPS/Differential-Acoustic観測	3,100,000	930,000	4,030,000	災害理学研究部門	海底地殻変動研究	教授	木戸 元之	H29 ~ H30
総計			144,300,000	41,250,000	185,550,000						

D 平成29年度外部資金受入状況

平成30年3月末現在 (単位:千円)

区分	研究課題名称	研究期間	研究代表者	直接経費	間接経費	合計	備考
受託研究費	大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出	平成26年10月1日 ~ 平成31年3月31日	越村俊一	24,200	7,260	31,460	
	コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発	平成27年4月1日 ~ 平成31年3月31日	越村俊一	4,500	1,350	5,850	
	タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究	平成28年4月1日 ~ 平成31年3月31日	有働恵子	770	230	1,000	
	メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究	平成28年4月1日 ~ 平成31年3月31日	越村俊一	2,890	867	3,757	
	ミャンマーの災害対応力強化システムと産学官連携プラットフォームの構築	平成27年4月10日 ~ 平成31年3月31日	村尾修	654	196	850	
	効果的・持続的な災害伝承を目的とした拠点構築手法のモデル化と実践的研究	平成27年10月1日 ~ 平成30年9月30日	佐藤翔輔	2,925	325	3,250	
	大規模災害に対する都市レジリエンスの向上:災害管理と社会経済分析のためのダイナミック統合モデルの開発	平成27年12月1日 ~ 平成31年3月31日	マスエリック	6,070	1,821	7,891	
	硬度計測数値シミュレーションモデルによる異方性降伏強度の評価手法の構築	平成29年5月26日 ~ 平成30年3月31日	寺田賢二郎	1,200	0	1,200	
	仙台湾掘削試料分析業務	平成29年7月20日 ~ 平成29年11月30日	後藤和久	385	115	500	
	南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト	平成29年4月3日 ~ 平成30年3月31日	今村文彦	11,075	1,108	12,183	
	水晶体の等価線量限度の国内規制取り入れ・運用のための研究	平成29年8月1日 ~ 平成30年3月30日	千田浩一	5,114	1,534	6,648	
	地図精度向上に伴う津波痕跡データベースの更新	平成29年10月4日 ~ 平成30年3月16日	今村文彦	877	88	965	
	レベルセット法を用いたトポロジー最適化の基礎技術の展開及びイノベーションスタイルの実施体制構築と、設計技術・新構造技術の最新動向の調査	平成26年10月2日 ~ 平成31年3月8日	寺田賢二郎	4,225	633	4,858	
	Exp.364 掘削コアを用いた白亜紀末チユルブ衝突後の地球環境変動の解明	平成29年5月16日 ~ 平成30年3月31日	後藤和久	1,038	104	1,142	
	「タフ・ロボティクス・チャレンジ」防災分野におけるドローンの性能評価・実証	平成29年12月15日 ~ 平成31年3月31日	越村俊一	11,000	1,100	12,100	
	気候変動の影響評価等技術の開発に関する研究	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	有働恵子	3,643	164	3,807	
	Epstein-BarrウイルスによるT/NK白血球・リンパ腫治療薬候補S-FMAUの前臨床試験	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	児玉栄一	80,385	19,615	100,000	
	栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	富田博秋	33,438	10,031	43,469	
	新規薬剤によるHIV感染症制御と合併症コントロールのための研究	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	児玉栄一	2,308	692	3,000	
	野性型と薬剤耐性B型肝炎ウイルスに強力な活性を發揮する新規治療薬の研究・開発	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	児玉栄一	5,421	1,626	7,047	
慢性活動性EBウイルス感染症とその類疾患に対する革新的治療薬を実現するための統合的研究体制の構築(治療薬のスクリーニング)	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	児玉栄一	2,600	780	3,380		
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	平成29年4月1日 ~ 平成29年3月31日	伊藤潔	50	15	65		
計				204,768	49,654	254,422	
共同研究費	Evaluation of Tsunami Hazards along the Kuwaiti Coastline Due to Possible Earthquake and Landslides	平成28年4月1日 ~ 平成29年9月30日	今村文彦	2,799	294	3,093	
	Wills Tsunami Risk Modeling	平成22年10月1日 ~ 平成30年9月30日	今村文彦	3,044	331	3,375	
	災害としてのバイオハザードに対する分野融合型イノベーションと地球規模の感染症対策	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	江川新一	6,270	0	6,270	
	土砂移動が津波伝播・遡上に及ぼす影響の分析と浸水予測における有用性について	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	今村文彦	960	132	1,092	
	海底地震変動観測技術の高度化に関する研究	平成29年4月18日 ~ 平成30年3月31日	木戸元之	0	0	0	研究費を伴わない契約
	統計グローバルデータベース・プロジェクト	平成29年6月12日 ~ 平成30年6月11日	小野裕一	360	72	432	
	感染症に関係する領域における研究	平成26年6月26日 ~ 平成30年6月27日	児玉栄一	909	91	1,000	
	高分子材料の温度依存モデル化技術の研究	平成29年7月18日 ~ 平成30年3月31日	寺田賢二郎	1,818	182	2,000	
	樹脂の硬化収縮応力解析手法の確立	平成29年8月1日 ~ 平成30年7月31日	寺田賢二郎	3,636	364	4,000	
	リアルタイム津波災害予測技術の研究開発	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	今村文彦	1,785	215	2,000	
	傾斜する長大横ずれ断層の連鎖破壊過程に関する研究	平成29年9月1日 ~ 平成30年3月30日	遠田晋次	500	50	550	
	気候変動等による高速道路の災害リスク評価	平成29年9月1日 ~ 平成30年3月9日	今村文彦	2,700	270	2,970	
	仙台防災枠組と関連した災害研の国際連携活動の推進に向けた調査研究	平成29年10月1日 ~ 平成30年9月30日	小野裕一	360	72	432	
	安全なくらしを支える災害対策・防災分野の社会課題解決に向けた実現イメージに関する研究	平成29年10月20日 ~ 平成30年3月20日	今村文彦	5,454	546	6,000	
計				30,595	2,619	33,214	

平成30年3月末現在 (単位:千円)

区分	研究課題名称	研究期間	研究代表者	直接経費	間接経費	合計	備考
受託事業費	平成28年度東日本大震災記憶伝承・検証調査業務	平成29年4月1日～平成30年3月31日	佐藤翔輔	16,489	1,130	17,619	
	(学術・メディア連携を軸とした東日本大震災に関する教訓の他地域・次世代への継承)に係る運営業務	平成29年4月1日～平成30年3月31日	小野裕一	4,545	455	5,000	
	平成29年度多賀城市震災アーカイブシステム保守点検業務	平成29年4月1日～平成30年3月31日	柴山明寛	150	0	150	
	旧北上川河口部かわまちづくり検討支援	平成29年5月1日～平成30年3月31日	平野勝也	179	0	179	
	津波浸水被害推計システム整備業務	平成29年3月31日～平成29年10月31日	越村俊一	10,871	35,871	46,742	
	河北新報震災アーカイブシステム保守業務	平成29年4月1日～平成30年3月31日	柴山明寛	1,000	0	1,000	
	平成29年度宮城県自主防災組織育成・活性化支援業務	平成29年6月20日～平成30年3月31日	佐藤健	3,002	300	3,302	
	実証事業構築システム(リアルタイム津波浸水・被害推定システム)とG空間情報センターの連携に係る更改作業	平成29年5月15日～平成29年9月22日	越村俊一	12,040	0	12,040	
	「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」実施業務	平成29年9月26日～平成30年3月15日	五十子幸樹	1,497	150	1,647	
	東日本大震災における職員等行動検証記録業務委託	平成29年10月4日～平成30年3月23日	柴山明寛	395	0	395	
	津波浸水被害推計システム保守・運用業務	平成29年11月1日～平成30年3月31日	越村俊一	3,600	1,859	5,459	
	平成29年度かたりつき運営業務	平成29年11月1日～平成30年3月31日	柴山明寛	4,040	0	4,040	
	日本とタイにおける地震と津波の被害回数に基づくタイの新しい建物設計方針の提案	平成29年4月1日～平成30年3月31日	サッパシー アナワット	1,488	0	1,488	
	アジア地域の異常気象の発生予測と水関連妻帯による社会的影響と災害リスク管理	平成29年4月1日～平成30年3月31日	イケリー ン	1,152	0	1,152	
	津波防災に関する学術指導	平成29年5月1日～平成29年9月30日	今村文彦	135	15	150	
	デジタルアーカイブ構築等における学術指導	平成28年8月8日～平成29年12月31日	柴山明寛	90	10	100	
	津波避難対策に関する調査	平成29年9月1日～平成30年3月30日	安倍祥	194	22	216	
	道路空間の機能拡充・質的向上に効果的な設計手法研究会	平成29年11月1日～平成30年1月12日	平野勝也	97	11	108	
	(仮称) 御社地エリア復興拠点施設展示工事に係るアドバイス	平成29年12月15日～平成30年3月31日	柴山明寛	270	30	300	
	ぼくのわたしの防災手帳	平成29年1月27日～平成31年1月26日	今村文彦	80	9	89	
	NHK仙台放送局新放送会館 映像制作に関する監修	平成29年12月23日～平成30年3月31日	柴山明寛	90	10	100	
	Li-ion二次電池Si負極活性物質の応力劣化解析	平成29年12月1日～平成30年3月31日	寺田賢二郎	292	32	324	
	フロートバックの有効性評価及び改良	平成30年2月6日～平成35年1月31日	栗山進一	9	1	10	
仙台市震災アーカイブ検討業務における学術指導	平成30年3月13日～平成30年6月30日	柴山明寛	428	48	476		
みんなの防災手帳	平成26年11月28日～平成33年11月27日	今村文彦	192	21	213		
健康情報誌『メディPR』(季刊誌)に関する監修	平成28年3月1日～平成30年2月28日	江川新一	72	8	80		
	計			62,397	39,982	102,379	
その他補助金	国立大学改革強化推進補助金(国際競争力強化事業)	平成29年9月17日～平成30年3月31日	-	70,000	0	70,000	
		計		70,000	0	70,000	
	合計			367,760	92,255	460,015	

## E 平成29年度 寄附金の受入状況について

受入総額：55,700,300円

### ○研究助成金

平成30年3月末現在

No.	助成金名称	寄付者名	受入教員	備考
1	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人有恒会こだまホスピタル 理事長 樹神 弘郎	富田 博秋	
2	CAEに関する研究助成金	公益信託NEXCO関係会社高速道路防災対策 等に関する支援基金 リテール受託業務部長 小谷 亨一	寺田 賢二郎	
3	CAEに関する研究助成金	サイバネットシステム株式会社 代表取締役社長執行役員 田中 邦明	寺田 賢二郎	
4 月 計			3件	
4	津波工学研究助成金	一般社団法人東北地域づくり協会 理事長 渥美 雅裕	今村 文彦	
5	津波工学研究助成金	五洋建設株式会社 代表取締役社長 清水 琢三	今村 文彦	
6	APRU-IRIDeSマルチハザードプログラム 活動助成金	Association of Pacific Rim Universities(APRU)	泉 貴子	
7	防災社会システム研究分野助成金	株式会社 不動産流通研究所 代表取締役 松村 文衛	丸谷 浩明	
5 月 計			4件	
8	活断層に関する研究助成金	一般財団法人 地域地盤環境研究所 代表理事 足立 紀尚	岡田 真介	
9	国際シンポジウム(UCMCA)開催への助 成金	一般財団法人青葉工学振興会 理事長 根元 義章	村尾 修	
6 月 計			2件	
10	ファントムの基礎研究に関する研究助成 金	一般財団法人宮城県予防医学協会 理事長 角田 行	稲葉 洋平	
7 月 計			1件	
11	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人社団 蔵王会 理事長 本多 三學	富田 博秋	
12	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人松田会 理事長 松田 恵三郎	富田 博秋	
13	防災スタンプラリー寄附金	株式会社サードステージ 代表取締役 小野寺憲史	今村 文彦	
14	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人社団清山会 理事長 山崎英樹	富田 博秋	
15	震災復興に向けた災害精神医学研究	移川 哲	富田 博秋	
16	震災復興に向けた災害精神医学研究	姉齒 秀平	富田 博秋	
17	CAEに関する研究助成金	特定非営利活動法人非線形CAE協会 理事長 寺田 賢二郎	寺田 賢二郎	
8 月 計			7件	
18	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人くさの実会光ヶ丘保養園 理事長 猪苗代 盛貞	富田 博秋	
19	免震・制振構造の最適設計研究助成	一般財団法人青葉工学振興会 理事長 根元 義章	五十子 幸樹	
20	震災復興に向けた災害精神医学研究	高柳 義伸	富田 博秋	
21	放射線検査学研究助成金	東レ・メディカル株式会社 取締役医療材事業部門長 田辺靖彦	千田 浩一	
9 月 計			4件	

No.	助成金名称	寄付者名	受入教員	備考
22	津波工学研究助成金	株式会社東京建設コンサルタント 代表取締役 大村 善雄	今村 文彦	
23	強震動評価に関する研究助成金	株式会社 開発設計コンサルタント 代表取締役 菊池 浩一郎	大野 晋	
24	放射線検査学研究助成金	第一三共株式会社 CSR部長 谷口 修之	千田 浩一	
25	防災スタンプラリー寄付金	有限会社クワン 代表取締役 小野 公司	今村 文彦	
10 月 計			4件	
26	CAEに関する研究助成金	株式会社メカニカルデザイン 代表取締役 小林 卓哉	寺田 賢二郎	
11 月 計			1件	
27	災害アーカイブ研究助成金	凸版印刷株式会社 東日本事業部 専務取締役東日本事業部長 伊東 厚	柴山 明寛	
28	災害アーカイブ研究助成金	積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR室長 広瀬 雄樹	柴山 明寛	
1 月 計			2件	
29	NEXCO 東日本技術研究助成	東日本高速道路株式会社 代表取締役社長 廣瀬 博	寺田 賢二郎	
30	災害科学国際研究所研究助成金	今村 文彦	今村 文彦	
31	防災社会システム研究分野助成金	公益財団法人地方経済総合研究所 代表理事 甲斐 隆博	丸谷 浩明	
32	CAEに関する研究助成金	株式会社メカニカルデザイン 代表取締役 小林 卓哉	寺田 賢二郎	
33	震災復興に向けた災害精神医学研究	医療法人菅野愛生会 理事長 菅野 喜興	富田 博秋	
3 月 計			5件	
総 計			33件	

○寄附部門

(単位:円)

No.	助成金名称	寄付者名	件数	備考
1	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門	東京海上日動火災保険株式会社	1件	





## 4 研究活動

### (1) 研究部門・研究分野の研究活動

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	災害リスク研究部門	報告者氏名	五十子 幸樹
部門目標			
東日本大震災の被害の全容と教訓を踏まえ、世界の防災・減災技術の再構築を目指す。地震や津波、風水害の被害の発生メカニズムの解明、観測データの統合・同化、先端センシング技術を活用しながら、将来の巨大災害の発生が予想されている地域の災害リスクの軽減やさらなる備えを支援し、災害の脅威を軽減さらには防ぎ止めるだけでなく、人間・社会が賢く備えて対応するための実践的研究に取り組む。			
2017 年度の部門活動報告			
6つの分野で構成される災害リスク研究部門の活動を以下に列挙する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>地震観測記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングのための研究やリアルタイム地震防災技術に関する研究に継続して取り組んだ（地域地震災害研究分野）。</li> <li>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開に向けた取り組みを行い、成果を国際的に発信した（津波工学研究分野）。</li> <li>オランダ・UNESCO 水教育研究所（IHE Delft）で在外研究を実施し、海岸線変化モデルに関する共同研究を推し進めた（災害ポテンシャル研究分野）。</li> <li>G 空間情報を基盤として、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術、ソーシャルセンシング技術を高度に融合し、リアルタイムシミュレーション・広域被害把握技術を社会に実装するための基礎・応用研究を推進した（広域被害把握研究分野）。</li> <li>構造物の地震被害低減を目的として、従来の構造物振動制御の原理とは異なる複素減衰の考え方を基礎とした制御手法の理論とそれを実装するデバイスの開発を推し進めた（最適減災技術研究分野）。</li> <li>地震津波発生履歴を解明するため、日本海溝北部および南部、ならびにスリランカ東海岸での現地調査を実施した。スリランカ東海岸における現地調査では、2004 年インド洋大津波から 14 年が経過した沿岸部の地形回復過程について検討を行った（低頻度リスク評価研究分野）。</li> </ul>			

## 2017 年度の分野活動報告

分野名	地域地震災害研究分野	報告者氏名	大野 晋
分野目標			
「インセンティブ防災、リアルタイム防災」による地域の地震災害軽減が目標。前者は地域の地震・地盤環境と社会環境を考慮した最適な防災対策・耐震対策の研究であり、後者はリアルタイムに得られる地震・地震動や建物被害等の災害情報を用いて効率的な地震被害低減を目指すものである。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災の教訓に基づき、都市・建築の総合的地震対策に向けた国内外への情報発信を行うとともに、地震観測記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングのための研究やリアルタイム地震防災技術に関する研究を継続して行った。</p> <p>東北地方に展開した微動から強震まで連続観測可能な建物内リアルタイム観測網及び仙台市内のトリガー型地域強震観測網の観測を継続した。これらの記録を用いて自治体庁舎の通常時と地震時における振動特性の相違について検討し、査読論文として発表した。また、地域版早期地震警報を目的として前線波形情報とデータ同化手法によるリアルタイム強震動予測手法について検討し、国際会議で報告した。そのほか、東日本大震災の振動被害に関して、実被害に基づく不整形な地盤と構造物の耐震対策の検討、遮断振動数を有する導波問題としての地震被害の検討、地震動と実被害データに基づく建物群振動被害評価法の検討をそれぞれ実施し、学会等で発表した。</p> <p>国際協力としては、MJEED（モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム）における地震工学関連プロジェクトのカウンターパートとして、モンゴル国及びウランバートル市の建築・耐震関係部局員の本邦研修を実施した。さらに、モンゴルで開催された研究集会において、東日本大震災の振動被害に関する講義を行うとともに、地震工学に関する日本・モンゴル合同研究集会では招待講演を実施した。その際、耐震性に懸念がある建物の視察も実施している。モンゴルへは構造物ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムの展開と技術協力も行なっており、ウランバートル市内の構造物について常時微動測定による固有振動数分布の調査結果を発表した。また、2018 年 2 月に発生した台湾花蓮地震の現地被害調査も実施した。</p>			

分野名	津波工学研究分野	報告者氏名	今村 文彦
分野目標			
今年度の目標は次の通り 4 つである。1) 世界津波の日などを通じた津波研究成果の国際的な発信、2) 災害発生時対応も含めた国内外の津波ハザード研究の深化、3) 共同研究拠点の確立に向けた他分野・他大学との連携の強化、4) 寄附部門との連携した実践的な防災学の展開となる。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開を目標としている。研究成果として；1) について、UNISDR と今年も連携し、グローバル津波ハザード評価を発展させ地震空白域での解析も実施しレポートとして報告した。また、研究成果を活かした東南アジア・太平洋諸島での津波避難訓練も実施している。2) について、8 月 21-25 日にインドネシアで開催された国際津波シンポジウムに参加し、基調講演を含めた 8 件の研究成果を発表し、東日本大震災で指摘された課題に対しての取組を紹介できた。3) については、他分野・大学との連携 英国大使館、フランス大使館、チューラーロンコーン大学、ロンドン大学、キングス・カレッジ・ロンドン、クウェート学術研究所、UNISDR、UNDP と連携を強化出来た。特に、日仏防災イベント週間については共催し東京（日仏会館、仏大使館）と仙台で、災害リスクの軽減、管理、未然防止に関する研究発表、ポスター発表などを 150 名以上の参加を持って実施出来た。また、長年在日タイ人を対象に防災活動に貢献していることが高く評価され、在東京タイ王国大使館から感謝状を授与している。4) については、11 月に実施した防災推進国民大会と世界防災フォーラムでの共同企画により、企画セッション発表、展示の企画、クロージングのコーディネートなどを実施出来た。社会貢献としてジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2017 の金賞(教育機関部門)を結プロジェクトで受賞した。その他、CEJ Citation Award 2016, NRC Merit Award for Scientific Publication 2015 (スリランカ), World Bosai Forum Poster Award 2017 (仙台), 第 19 回学校図書館出版賞、「わかる！取り組む！災害と防災」(帝国書院)監修などで評価を受けている。</p>			

分野名	災害ポテンシャル研究分野	報告者氏名	有働 恵子
分野目標			
高波、高潮、津波、洪水などの災害の被災メカニズムを明らかにし、災害リスクを定量化するとともに、効率的な被害軽減技術を開発することを目標とする。将来は気候変動に伴う海面上昇や降雨特性の変化などが災害に及ぼす影響も危惧されており、そのリスク評価と適応策については特に重要な課題と位置付けている。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>今年度の主要な研究テーマは、①日本およびタイにおける気候変動に伴う海面上昇による砂浜消失の将来予測、②気候変動に伴う降雨特性変化を考慮した土砂生産量の将来予測、ならびに③衛星画像解析による災害時の被害把握技術の開発、の 3 つである。①については、これまでに行ってきた研究成果をとりまとめ、論文発表を行った。また、有働准教授は国際共同研究のため 2017 年 3 月～12 月にオランダ・UNESCO 水教育研究所 (IHE Delft) で在外研究を行い、受入先の Ranasinghe 教授と①に用いる海岸線変化モデルに関する共同研究を行った。②については、河川から海岸への土砂供給による砂浜変形への影響を評価するため、RUSLE モデルを用いた土砂生産量の予測技術を開発し、地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース (d4PDF) の降水量データを用いて将来予測を行った。③については、これまでが開発した数値表層モデル (DSM) の自動作成による被害把握技術の適用性について、2011 年東北地方太平洋沖地震津波・2016 年熊本地震に加えて、2017 年九州北部豪雨の被災前後の表層変化特性を解析することにより検討を行った。これらの研究成果については、査読付き論文に 8 編の論文を発表 (うち 4 編は印刷中) するなど、精力的に研究活動を行った。また、有働准教授は Ranasinghe 教授との共同研究の一環で、教授の寄附講座に海外客員研究員として参画するとともに、教授の指導大学院生に対して研究テーマ提案と学生指導を行った。</p>			

分野名	広域被害把握研究分野	報告者氏名	越村 俊一
分野目標			
<p>数値シミュレーション・リモートセンシング・ジオインフォマティクスを融合した新しい「広域被害把握技術」の基盤を構築し、その成果を国際社会で共有し、効果的な災害救援活動に資する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>専任教員の越村俊一教授と Erick Mas 准教授は、G 空間情報を基盤として、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術、ソーシャルセンシング技術を高度に融合し、リアルタイムシミュレーション・広域被害把握技術を社会に実装するための基礎・応用研究を推進した。また、災害医学分野との連携を強化し、科学研究費基盤 S による共同研究を開始した。特に、サイバーサイエンスセンターおよび理学研究科と共同で推進している「リアルタイム津波浸水被害予測システム」に関する研究は、スーパーコンピュータの計算資源の常時確保、震源情報の自動取得、浸水・被害予測・凶化・配信の自動化を実現し、複数の地震情報や地殻観測情報を利用した高精度リアルタイム津波浸水・被害予測技術として実用化し、内閣府の危機対応システムの機能として採択され（2017年11月より運用開始）、平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発）を受賞した。この技術を核として、リアルタイム津波浸水被害予測技術の事業化を推進するための事業対として、大学発ベンチャー企業を設立した。これらの研究成果の発信として、2017年11月 World Bosai Forum において企画セッションを開催した。</p> <p>兼任教員の佐藤源之教授は、電波科学を応用した衛星・航空機マイクロ波リモートセンシング(SAR)、地中レーダ(GPR)などの開発と応用に継続的に取り組み、特に斜面崩壊が発生しうる地域におけるモニタリングを継続し、地域での災害対応・リスクマネジメントの高度化に貢献している。</p> <p>広域被害把握研究分野の国際連携については、国連宇宙局およびドイツ航空宇宙センター、ペルー地震工学センターとの共同研究を進めており、部局間協定を締結した。</p>			

分野名	最適減災技術研究分野	報告者氏名	五十子 幸樹
分野目標			
<p>近年その数が増えつつある超高層建築物や免震建物、長大構造物のような都市の構成要素として存在感を増している長周期構造物において、東日本大震災を初めとする長周期／長継続時間地震動が与える影響が懸念されている。当分野では、このような社会的課題に対して振動制御技術の高度化による対策技術を提案する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>2017年度、当研究分野では下記に纏めるように、超高層建築物や免震構造物のような長周期構造物の更なる高耐震化を目指した研究活動と災害調査及び地震災害復旧技術の開発を中心とした活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>長周期構造物の高耐震化に関する研究 <ol style="list-style-type: none"> <li>従来の構造物地震時応答低減に用いられてきた制御原理とは異なる原理として複素減衰の考え方を取り入れた新しい制御デバイスの開発を進めた。今年度は特に、Brune synthesis を用いたパッシブシステムや Maxwell 要素と negative stiffness の組み合わせによるシステムを新たに提案した。これに関する成果は2編の国際 Journal 論文として採用されている(内1編は日米国際共著論文)他、日米国際共著論文1編が投稿済みで査読中である。</li> <li>超高層建物の架構主軸に対して斜め方向に地動が入射した場合において、建物下層部分において捻れを伴う塑性座屈に起因する変形集中現象の発生が新たに指摘されている。この現象解明を目指した研究に着手し検討を開始した。</li> </ol> </li> <li>地震災害調査及び災害復旧技術の開発に関する取り組み <p>科学研究費基盤研究(B)海外学術調査「2015年ネパール・ゴルカ地震で被災した学校建築物の復旧技術に関する調査研究」(研究代表者荒木慶一教授)において現地調査を実施した。今後現地で実施可能な復旧技術の開発を進める予定である。また、2018年2月6日に台湾東部花蓮県近海を震源として発生した地震の現地被害調査を実施した。過去の地震と比べて目新しいタイプの被害は見られなかったが、台湾や日本に限らず世界的に耐震性の低い古い建物の耐震化を早急に推し進める必要があることを改めて認識させられた。</p> </li> </ol>			

分野名	低頻度リスク評価研究分野	報告者氏名	後藤 和久
分野目標			
主に北海道，東北地方，関東地方，琉球列島，および諸外国（スリランカ）を対象として古津波調査を実施し，当該地域の津波履歴と規模を明らかにする．また，古津波履歴や規模の推定精度を高度化するために，年代測定技術や数値計算手法の開発・改良を進める．			
2017年度分野活動報告			
<p>本年度は，日本海溝北部および南部での地震津波発生履歴を解明するため，現地調査を実施した．調査適地を絞り込むことができたため，今後詳細な調査研究を行う予定である．また，スリランカ東海岸において現地調査を行い，2004年インド洋大津波から14年が経過した沿岸部の地形回復過程について検討を行った．</p> <p>今年度は，査読のある雑誌に，国際誌10編を含む計11編の原著論文発表を行った．このうち，8編が高いインパクトファクターを持つ雑誌（IF=2以上）での発表である．論文発表を行った研究では，年代測定や数値計算手法の開発・改良に取り組んだ．具体的には，数ミリメートル間隔の高解像度で年代測定を行って統計処理することで，高精度で古津波の年代決定を行うことができるようになった．また，津波と高波の数値計算を，土砂移動モデルを組み入れて同じ条件下で実施することにより，両者による堆積物の層厚や分布の違いを明らかにすることができ，津波堆積物の認定に寄与できるようになった．当分野の研究成果の一部は，NHK BSプレミアムや朝日新聞等で取り上げられた．</p> <p>教育面においては，地学専攻および地圏環境科学科の計10名の研究指導を指導教員として行った．また，土木工学専攻2名の学生を研究指導教員として指導した．直接指導学生のうち，地学専攻の修士学生1名，地圏環境科学科の学部生2名が，それぞれ修士論文，卒業論文を提出した．社会活動として，世界津波博物館会議等における一般講演，全国高等学校総合文化祭の研修の一部担当，文部科学省の地震調査委員会・津波評価部会の委員として国の津波対策について検討する等の活動を行った．</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	人間・社会対応研究部門	報告者氏名	奥村 誠
部門目標			
<p>災害への人間と社会の対応を研究する。具体的には、人間の災害認知と行動のメカニズムを把握し、被災地支援のための技術を提供し、地域の歴史や文化を災害から守りつつ災害対応に活かし、災害対応力を高める社会システムや法制を提案し、歴史的視点で防災や復興を再評価して、内外の地域に有効な方策を提案する。</p>			
2017 年度の部門活動報告			
<p>部門の研究発表・意見交換会および、南海トラフ地震対応、BCP 研究会などへの部門研究者の参加を推進し、新規採用の研究者を含め、相互の研究内容の理解が進んだ。科研費プロジェクトの実施、シンポジウムでの協力、社会貢献事業での連携など、部門内での分野横断的な活動も増加した。分野ごとの特徴的な活動としては、災害情報認知研究分野は、災害時の生きる力に関する質問紙を県内の複数の大学や高校で災害教育に応用し、実践研究を行った。他の研究分野と共同で、災害に関連する心理実験を実施した。</p> <p>被災地支援研究分野は学外の関連研究体制を強化しつつ、災害後の人口移動と広域避難者の交通実態研究、歩行困難者を考慮した津波避難計画の研究、支援物資配送の計画手法研究、Big Data の活用研究を進めた。</p> <p>歴史資料保存研究分野は、東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全に取り組んだ。その経験の全国各地および他大学の受け入れによる共有を行い、災害支援としての意義に関する心理学的共同研究を行った。</p> <p>防災社会システム研究分野は、産官学民連携を重視した事業継続計画(BCP)や地域防災計画の研究のほか、既往災害の社会経済的分析、地域産業復興や災害対応力強化の研究および成果の国際発信に取り組んだ。</p> <p>防災法制度研究分野は兼務教員のみが所属するため、防災社会システム研究分野と一体的に運営を行った。研究活動として、応急、復旧、復興、災害予防に関する研究成果のとりまとめと公表を進めた。</p> <p>災害文化研究分野は、災害伝承を組み入れている年中行事が生き残っている集落の定点観測を行い、集落の伝承の総体的把握して、成果を書籍に刊行した。また、歴史地形の復元とこれに基づく歴史災害分析を進めた。</p> <p>防災社会国際比較研究分野は、アジア・欧米・日本国内での大規模災害からの復興計画・実施、居住地移転、住宅復興に関し、現地大学・現地政府・国際援助機関との連携研究を促進し、英文書籍等での公表を行った。</p>			

## 2017 年度の分野活動報告

分野名	災害情報認知研究分野	報告者氏名	邑本 俊亮
分野目標			
<p>本研究分野では、複雑な物理・社会的環境における人間の知覚・判断・行動の認知過程について、様々な心理学・認知科学・脳科学的手法を用いた基礎研究を行うとともに、その成果をより人間の認知特性に適した防災・減災・復興のシステム設計に反映させる応用研究を行う。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8 因子（人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力）(Sugiura et al., 2015)について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度、前者について科研費の挑戦的研究（開拓）が採択され、大規模実験計画を準備中である。後者について、県内の複数の大学や高校での実践研究が進んでいる。</p> <p>大学教育におけるゼミとして、被災地訪問による課題発見解決型のアクティブラーニングを実施し、学生の「災害生きる力」の変化や学習観の変化について調査した。ゼミの前後で、学生たちの複数の「生きる力」因子得点が上昇した。また、前年度と今年度の当該ゼミを履修した学生の最終レポートを質的に検討したところ、学生がゼミによって新たな気づきや学習観を獲得していることが浮かび上がった。たとえば、主体的・能動的な学びや他者と共同することの意義、物事を多角的な視点で見ることの重要性、現場に行き体験することの重要性などが比較的多く言及され、机上での個人学習とは異なる学びの視点を得ていた。さらに、震災や教訓を他地域や次の世代へ伝えることの必要性や決意を述べた意見も多く、「社会全体での学習」にまで目が向けられていることが明らかとなった。研究成果を日本発達心理学会第 29 回大会自主シンポジウムで発表した。</p> <p>『心理学の神話をめぐって一信じる心と見抜く心』（誠信書房）の編集に携わり、第 1 章と第 5 章「災害時、人は何を思い、どう行動するのか—パニック神話を検証する」を担当執筆し、2017 年 10 月に刊行した。</p> <p>他分野教員と共同で、語り部の「語り」の伝達方法が聞き手の心理や記憶に及ぼす影響を調べる実験や、災害シミュレーションコンテンツの印象評価実験を実施した。今後、データを詳細に分析していく予定である。</p>			

分野名	被災地支援研究分野	報告者氏名	奥村 誠
分野目標			
<p>巨大な災害に襲われた地域ではインフラや各種の機能が麻痺し、自らの力で救命、救急、復旧、復興を行うことが難しく、被災地の真のニーズを外部に伝えることも困難である。そのため被災地外の地域において、被災地の平常時の社会経済状況を踏まえてニーズを想定し、効果的な支援を迅速に計画するための方法を研究する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>(1) 土木学会論文特集号(査読誌)に掲載の、津波との遭遇リスクを最小化する最適自動車避難計画に関する論文、携帯電話位置情報ビッグデータから災害影響と回復速度を定量化する方法の論文は、ともに高い評価を受け、土木学会土木計画学研究委員会 2017年度優秀論文賞を受賞し優秀論文セッションで発表した。またこれらの内容を2017年10月にみやぎ県民復興大学の講義として講演した。</p> <p>(2) 最適自動車避難の研究を継続して、歩車競合の影響、日中に十分な車両が存在しない地域の考慮の拡張を行い、口頭発表、査読論文の作成・投稿を行った。またこれらの最適化モデルの構造を、人道支援ロジスティクス計画に活かすべく、他大学との共同研究の組織化を行い科研費基盤研究の分担者として研究を進めた。</p> <p>(3) 災害が人口移動に与える影響は、欧米でも大きな関心を持たれている研究テーマであり、2つの国際会議で口頭発表を行った。学会での質疑を加味しながら、国際誌への投稿準備を進めている。</p> <p>(4) 2016年岩手県岩泉町豪雨災害を受け、従来嫌悪施設と考えられてきた福祉施設の建物と保健・医療人材を活用し、地域の防災力の向上に活用する共同研究について、科研費挑戦的研究が採択され、研究を開始した。</p> <p>(5) 2017年8月に着任した水谷助教は、従来のインフラマネジメントに関する研究成果の査読論文への投稿を進めるとともに、統計分析手法、最適化手法の災害科学分野での応用に向けて、研究会等での議論を進めた。</p> <p>(6) 被災地自治体等での直接的な活動は多くないが、東北地方整備局、宮城県、仙台市、亶理町において複数の委員会委員を務め、その中で防災・減災の視点を反映させるように心がけた。</p>			

分野名	歴史資料保存研究分野	報告者氏名	佐藤 大介
分野目標			
<p>東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全活動を通じて、日本列島の文化的特質である未指定の文書記録資料の防災・災害対応に資する技法、および組織を検討する。あわせて、文化財・歴史分野内での対応を超え、人文学的な災害・再生支援としての歴史資料の救済保全の意義を研究する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>2017年度は、これまでに引き続き東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全活動を、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークとの協力の下で実施した。高度な処置が必要な資料を除き、今年度は3件・2000点ほどの処置を完了した。また、中央大学および一橋大学の歴史系ゼミ、合計約30名を受け入れ、応急処置の体験実習を施した。合わせて、宮城県南部の5町村で構成される宮城県南資料館等連絡協議会からの依頼で、デジタルカメラによる古文書撮影方法の講座を実施し、記録技法を普及する事が出来た。</p> <p>なお、本分野での一連の活動を踏まえ、2018年1月に、歴史資料保全のためのネットワーク事業に関する総括協定を、人間文化研究機構、神戸大学と締結する事となった。</p> <p>被災地支援としては、宮城県石巻市において、2017年5月、7月、2018年3月、3月と4度の連続歴史講演会を実施した。4回合計で250名ほどの出席者を得て、災害復興や農林水産業、宮城県丸森町での資料保全活動で発見した江戸時代後期の紀行文を紹介し、被災地の文化的な復興支援を実践した。あわせて、アンケート調査を行い、被災者自らの力による回復をうながす要素や、講演内容毎の反応に関する資料を収集した。</p> <p>あわせて、国文学者、および福島、茨城の資料救済に従事する関係者との協同で、江戸時代の商人・小津久足の紀行文「陸奥日記」の共同研究を実施した。今年度は3回の研究会を実施するとともに、未活字化であった「陸奥日記」本文を史料集として刊行した。</p> <p>臨床心理学者との共同で取り組む心理社会的支援としての研究については、2017年8月のヨーロッパ発達心理学会(オランダ・ユトレヒト)にて共同研究の一部を発表し、歴史資料の保全、先祖や地域の歴史に対する認識が、被災者の心理的回復を促進している可能性について報告した。</p>			



分野名	防災社会システム研究分野	報告者氏名	丸谷 浩明
分野目標			
<p>防災・減災及び災害復興の実現に向けた社会システムのあり方を研究する。具体的には、東日本大震災や既往災害の社会経済分析、事業継続計画（BCP）や地域防災計画の研究、経済学研究科と連携した地域産業復興や防災対応力強化の研究、防災における産官学民の取組や連携の研究などを通じて、政策提言や情報発信を行う。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>1) 企業・公的組織の事業継続の研究： 熊本大学との共同研究として、熊本地震の被災企業へのBCP策定研修を3回実施し、17社22名の参加を得た。昨年度独自開発したBCP導入ガイドも活用した。毎月開催の「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」等の産官学研究会で議論して実効性を高め、HPから公表した。また、内閣府の中央省庁のBCPの評価・改善のヒアリングに有識者委員として参画し、その改善を支援した。</p> <p>2) 震災復興研究センターとの連携： 経済学研究科内の同センターでは、2016年度から科研基盤研究Bで経済復興・産業再生に関する調査・研究に着手し、世界防災フォーラムでのセッション主催を含め、みやぎボイス2017等のシンポジウムを行った。熊本学園大学との共同研究で、熊本地震後の被災企業調査も進めた。</p> <p>3) 「東日本大震災後5年目における被災地の暮らしに関するアンケート調査」の結果を「生活経済学研究」Vol.47に高齢経済社会研究センター助教名で公表した。続く「東日本大震災後7年目における被災地の暮らしに関するアンケート調査」を実施し、東北大学経済学研究科ディスカッションペーパーNo.383として公表した。</p> <p>4) 東北大学のBCPの策定支援： 大学本部のBCP（防災・業務継続計画）の改善、訓練の企画・運営、当研究所BCPの改善、他部局の策定支援を行った。また、知見を活かし、熊本大学のBCPの策定支援を開始した。</p> <p>5) 地方都市の帰宅困難者の研究： 研究助成を獲得し、東日本大震災発生時の地方都市の帰宅困難者問題の状況と対策の進展についてヒアリング調査（10箇所）等を行い、その調査結果を報告書にまとめた。</p> <p>6) 政府・地方自治体の防災職員への研修プログラムの開発： 内閣府の関係委員会の委員として研修プログラムの企画に参加し、また、「災害への備え」の研修プログラムのコーディネーター兼講師を2回務めた。</p> <p>7) 災害研の消防防災計画に基づき、避難訓練・関係設備説明会を企画し、在籍者名簿の取りまとめを担当した。</p>			

分野名	防災法制度研究分野	報告者氏名	島田 明夫
分野目標			
<p>防災法制度研究分野では、東日本大震災の被災地への綿密なヒアリングやディスカッションを踏まえ、応急、復旧、復興、そして、教訓を活かした災害予防に関する研究を実施してきた。2017年度は、その研究成果を広く公表し、今後の政策の改善に資することを目標とする。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>防災法制度研究分野は、東日本大震災の被災地への綿密なヒアリングやディスカッションを踏まえ、応急、復旧、復興、そして、教訓を活かした災害予防に関する研究成果の全般的なとりまとめとして、2017年7月に（株）ぎょうせいより、『実践 地域防災力の強化—東日本大震災の教訓と課題—』を上梓した。</p>			

分野名	災害文化研究分野	報告者氏名	蝦名 裕一
分野目標			
<p>(1) 日本列島各地で自然と向き合いながら生活している災害伝承をはじめとした「災害文化」事例を収集し、災害に関連した人々の自然観、災害観、死生観などを分析し、生命とともに生活・文化を守る防災を考える。</p> <p>(2) 過去の自然災害の記憶や記録など「災害文化」に関連する資料の記録化や防災への活用について考え、これらの情報を活用し他分野と連携した学際的研究を展開・実践する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>本年度においては、「災害文化」事例の収集として東日本大震災後の気仙沼市や大船渡市の漁業関係者の聞き取り、秋田県内における日本海中部地震の資料と復興に関する聞き取り、宇和島市三浦半島における供養踊り、石垣島の津波石などの事例について調査を実施した。また、日韓比較研究の一環として韓国の大横看島、巨文島、ナムソン里の干潟畑などを調査するとともに、「韓日共同学術会議」において研究発表を実施した。また、秋田県にかほ市における1804年象潟地震津波に関するにかほ市関地区の古文書調査や、2016年台風10号で被害を受けた岩手県岩泉町の現地調査と歴史的地形の復元にみる災害の様相との関連性に関する研究をおこなった。また、岩手県大船渡市の被災史料修復に神戸大学と連携して従事するとともに、同市において長年郷土の古文書解読を実践してきた郷土史研究者（故人）の収集した遺稿の調査整理を実施し、東日本大震災で失われた古文書情報の回復に努めた。これらの研究成果については、JpGU-AGU Joint Meeting2017や第34回歴史地震研究会において報告した。</p> <p>本年度は防災文化講演会17回～20回を気仙沼市において開催するとともに、当研究所主催シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」の運営および分野教員の川島・蝦名より報告を行うとともに、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2017歴史が導く災害科学の新展開」を編集・刊行し、当分野を含めた研究の成果を広く周知した。</p> <p>本年度の当分野における各種成果は、論文3、著書3（うち国際1）、総説・解説1、学会発表11、講演14、メディア対応28（うち全国紙4）であった。</p>			

分野名	防災社会国際比較研究分野	報告者氏名	井内 加奈子
分野目標			
<p>被災地域の復興政策とその実施過程について、国際比較を通して体系化を図り、災害に強い復興まちづくり・社会づくりの方策を示すことを目指す。当分野は、災害管理サイクルの復興フェーズを対象とし、政策・計画の策定・実施過程、及び、政策・計画に関わる意志決定者とコミュニティとの相互作用について研究を行う。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>2017年度も、アジアや欧米での復興・移転・住宅に関わる調査・研究を深化させたほか、国内においても東日本大震災からの復興の研究を中心に、活発に行った。</p> <p>台風ヨランダから4年が経過したフィリピンでは、国家・地方の行政官、現地大学との連携を通じ、居住地移転・住宅復興過程、NGO、復興行政などに関わる研究を継続している。現地カウンタパートと共に、所内外のメンバーで学際的な研究を行っている。米国では、ニューヨーク市を中心に、ハリケーンサンディからの復興プロセスについて、計画の実施状況や住宅復興に関し、調査・研究を継続している。また、米国のその他地域における減災への取り組みについても調査を開始した。国内では、東日本大震災からの復興研究を継続しており、復興まちづくりに関する諸制度利用がどのように地方自治体に利用されたのか、またそれらが復興集落に与える影響について調査し、宮城県内では、復興に関係する利害関係者の洗い出しに関わる調査も行った。</p> <p>当分野は、国内外の学術・国際援助社会との連携を強く保って活動している。2017年度は、国内外での講演活動や、シンポジウム・勉強会・国際学会の主催・共催・参加、海外大学での講義などを多数行った。また、海外大学等（ポートランド州立大学、イーストカロライナ州立大学、デルフト大学、ポートランド市、等）からの研究者・学生等を受け入れた他、World Bosai Forumにおいて、世界銀行のサポート等、支援活動も行った。さらに、宮城県事業等への関与による社会貢献活動を通じて、実践に繋がる防災・減災の計画的アプローチを探求している。以上、本年度は、アジアや欧米諸国を対象に調査・研究活動を行い、その結果を論文・著書・国際学会などで発表したほか、共同研究を通じて、引き続き、米国、オランダ、フィリピン、インドネシア、タイ、台湾の大学との関係を強化している。</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	地域・都市再生研究部門	報告者氏名	岩田 司
部門目標			
被災地域の状況を的確に把握するための調査・計測技術、都市のレジリエンスデザインを指向した数値解析・可視化技術、持続可能な地域を創るための計画技術、災害時におけるロボット活用技術などの開発と合わせ、安全・安心を保持するための実践的な防災・減災・再生技術に関する多様な研究を、国際協力の積極的な推進と中長期的な戦略のもとで行う。			
2017 年度の部門活動報告			
<p>「都市再生計画技術分野」では、東日本大震災後の空間形成の状況や、地域の商業の再生、木造応急仮設住宅の転用技術に関する研究、中国四川大震災後の地域や住宅の復興に関する調査を行った。また今後起こりうる離島部における津波被害を想定した伝統的建築物群保存地区の復興のあり方や、迅速な復興計画のための AI 技術を活用した航空写真からの建物の自動認識技術の開発を行った。なお、シンポジウムや研修、中国での講演、熊本地震における復興住宅への技術指導を行った。「地域安全工学研究分野」では、災害の予測、被害想定や災害に関連する物理現象のメカニズム解明を目的とした精緻な数理モデルの構築、高精度な数値解析手法や確立論的リスク評価手法の開発として、逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発、地盤材料の大変形問題および透水問題を高精度に表現するための手法の開発、土砂流動解析の計算条件に関する工学的整理、数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の開発、2016 年台風 10 号の被害調査と分析を実施し、国際学術共同セミナーを 3 回実施した。「災害対応ロボティクス研究分野」では、ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジ、配管調査システム、がれき内調査システム、火災火元消火システム、救助犬の情報強化、超小型球殻ヘリによる老朽化インフラの点検、災害復旧工事用遠隔操作システムに関する調査を行った。</p> <p>「国際防災戦略研究部門」東日本大震災後に継続実施している復興モニタリング調査に基づき、過去 7 年間の復興事業に関する復興過程の定量的分析、災害公営住宅の需要・供給バランスの要因分析、名取市閑上地区復興まちづくり計画策定に関する実態調査等を行なった。またミャンマー、バングラデシュを対象とした共同研究を行い、データの得られない地域における都市の脆弱性評価のための DBM 活用の提案等を行なった。また環太平洋大学協会 (APRU) のマルチハザードプログラムを主導し、シンポジウムやサマースクールを実施した。</p>			

## 2017 年度の分野活動報告

分野名	都市再生計画技術分野	報告者氏名	岩田 司
分野目標			
<p>発災直後の復旧復興のための住宅・都市計画、住宅・都市政策に関する研究、日常的な不断の持続ある地域社会を形成するための地域の住文化に根ざした個性豊かな住まい・まちづくりや地域運営に関する研究、次なる災害に備えた再生可能な地域の強靱化に関する研究、さらにこれらの研究、実践のための情報の蓄積とその手法に関する研究を行う。</p>			
2017 年度分野活動報告			
<p>【研究活動】①福島県の本造応急仮設住宅の災害公営住宅への転用に関する調査を行い、部材の再利用率、経済的効果を検証した。②宮城県女川町の商業の復興過程に関する調査を行い、商業の復興には商業併用住宅の復興地区を復興計画の中で位置づけることが重要であることが判明した。③沖縄県離島部における今後の津波被害を想定した伝統的建築物群保存地区の復興のあり方に関する検討を行った。④迅速な復興計画のための AI 技術を活用した地区区分手法の開発のため、航空写真からの建物の自動認識技術の開発を行った。⑤大船渡市を中心に被災者の意向変化の実態把握などを通じて、震災後の空間形成の状況とその背景について明らかにした。⑥これまでの研究成果を踏まえ、第 2 回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興」を主催し、調査報告、パネルディスカッション等を実施した。また「3.11 の学び塾」での研修を担当した。</p> <p>【社会活動】①2016 年 4 月に発生した熊本地震における地域型復興住宅建設に対する助言、技術指導を行った。②2015 年度から引き続き、東日本大震災復興支援として石巻市において、優良再開発事業を活用した我が国初の在来木造 5 階建てによる商店の復興事業計画策定の支援を行い、2018 年度に設計、施工を実施する。③被災地 5 地区の復興土地区画整理事業の審議会会長として、事業の実施に関与した。④仙台市東部沿岸地区の跡地利用の検討委員会及び事業者選定委員会の委員長として、跡地利用の検討に関与した。</p> <p>【国際関連】①中国四川大震災後の復興過程の調査を行い、集落や街並みの再生手法、復興住宅の建設手法を整理した (科研費)。また、同済大学及び華中科技大学と今後の復興まちづくりの共同研究の準備を行うことで合意した。②中国華中科技大学において、Seminar of “Wuhan China-Japan-South Korea Comparative Studies about Planning of Small Towns ” in 2017 で講演を行った。</p>			

分野名	地域安全工学研究分野	報告者氏名	寺田 賢二郎・森口 周二
分野目標			
<p>災害の予測や被害想定，および災害に関連する物理現象のメカニズム解明を目的とした，精緻な数理モデルとその数値シミュレーション手法，および高精度な数値解析手法や確立論的リスク評価手法の開発を行う．特に，現象の規模が連続的につながるマルチスケール災害シミュレーションや逐次破壊を伴うマルチステージ災害シミュレーションの枠組みを構築する．</p>			
2017年度分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発            構造物，地盤，斜面災害のリスク評価の精度向上を意図して，それらの初期変形から破壊領域挙動までを統一的に扱うマルチステージ解析手法の開発に取り組んだ．</li> <li>2. 地盤材料の大変形問題および透水問題を高精度に表現するための手法の開発            土と水の相互作用を考慮した上で初期から大変形・破壊までを統一的に扱える手法を導入し，シンプルな条件下ではあるものの，手法の有用性を確認した．また，間隙水の土粒子レベルの微視的な流れを直接的に表現する手法により，地盤材料の透水挙動の分析を行った．</li> <li>3. 土砂流動解析の計算条件に関する工学的整理            土砂流動シミュレーションについて，解析パラメータの決定するためのデータベースの作成に取り組んだ．</li> <li>4. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の開発            津波，落石，雪崩などの災害対策に資する目的で，高精度な3次元雪崩シミュレーションの結果に基づいて，確率論的にリスクを評価・可視化する手法の開発および高度化を進めた．</li> <li>5. 2016年台風10号の被害調査と分析            特に被害の大きかった岩泉町乙茂地区の被害について，地盤工学と河川工学の両観点から分析を行い，今後の防災・減災に重要となる知見を整理した．</li> <li>6. 国際学術共同セミナーの実施（3回）            Technical University of Dresden（2月：仙台）他2大学との、国際共同セミナーを行った．</li> </ol>			

分野名	災害対応ロボティクス研究分野	報告者氏名	田所 諭
分野目標			
<p>東日本大震災はロボティクスが様々な形で活用された歴史上初めての大災害であった。ロボティクスに対する期待は、人間ではできないことを安全かつ効率的に行うこと、災害に対するリスクを低減すること、防災のコストを下げることである。本分野は、災害緊急対応、災害予防、災害復旧に役立つロボティクスの研究を推進する。</p>			
2017年度分野活動報告			
<p>2017年度には本分野では次の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ImPACT プログラム：内閣府革新的研究開発推進プログラム ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジを推進し，災害に有効なタフなロボット技術を研究開発した．</li> <li>2) 配管調査システム：配管内を調査するための能動スコープカメラの高速化を研究開発した．</li> <li>3) がれき内調査システム：空気噴射により浮上してがれき内を調査する能動スコープカメラを研究開発した．</li> <li>4) 火災火元消火システム：水噴射により浮上して移動し，建物内の火元まで移動できる索状ロボットを研究開発した．</li> <li>5) 救助犬の情報強化：救助犬の収集する情報をデジタル化する研究開発を行い，日本救助犬協会との訓練を繰り返すことによって有効性を実証するとともに，全世界の救助隊に貸し出すことを想定した実用版の開発を進めた．</li> <li>6) 超小型球殻ヘリによる老朽化インフラの点検：球殻を有する超小型ヘリが橋梁の構造内部に入り込み，映像情報を収集するシステムの研究開発を行い，国交省のプログラムや NEXCO 東日本とともに全国の橋梁で試験を行うとともに，事業化に向けた取り組みを進めた．</li> <li>7) 災害復旧工事用遠隔操作システム：建設機械の遠隔システムの操作性を高めるための研究開発を行った．</li> </ol> <p>以上の活動は，各種メディア等で広く取り上げられた．</p>			

分野名	国際防災戦略研究分野	報告者氏名	村尾 修
分野目標			
<p>都市の防災と復興に関する国際的な戦略策定を目指し、学際的な視点に立ち、防災および復興戦略の観点から各地域の特性を分析し、事前、事後の両面から現状の問題点と課題を明らかにすることを目的としている。これを踏まえて、各地域の自然・経済・社会状況の特性に適合したリスク管理・防災・復興戦略および国際的協力体制のあり方について研究を進めている。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<p>【研究活動】①東日本大震災後の復興事業に関する定量的分析、災害公営住宅の需要・供給バランスの要因分析、関東地区復興まちづくり計画策定に関する実態調査等を行なった。②ミャンマーにおいて地域の建物特性をリモートセンシング情報から得る手法について提案し、ヤンゴン各地の地域性について分析した。③熊本地震で観測された長周期パルス地震動による家具倒壊による危険度評価を実施した。④災害科学研究の現状を分析した報告書「災害科学の世界的見通し」の企画段階から参加し、分析・評価に貢献した。⑤書籍「Science and Technology Application in Disaster Risk Reduction in Asia」を共編し、「防災への投資に関する投資」に関する章を執筆した。⑥UNISDR-ASTAAG 出版「Science and Technology in Action」の企画に参加し、2 事例を執筆した。</p> <p>【社会活動】①釜石市にて第 6 回東日本大震災連続ワークショップを企画・運営した。②国際防災フォーラムにおいて、2 つの国際会議 16USMCA と 4ACUDR と 3 つのセッション「The Knowledge Front of Disaster Risk Reduction」「Strengthening contributions to the international community through multi-disciplinary disaster science research」「仙台防災枠組み講座：基礎編」を企画・運営した。③川崎市防災会議専門委員として、臨海部ビジョンや地域防災計画策定について協力した。④震災予防講演会にて東日本大震災の復興の進捗状況について講演を行った。⑤仙台市防災観光の一環として、APRU 加盟大学所属教員を対象とした被災地ツアーを実施した。</p> <p>【国際交流】①ヤンゴン工科大学との共同研究を行なった。②Pratt Institute、Nebraska University による東日本大震災の被災地調査を支援した。③2020 年開催予定の第 17 回世界地震工学会議の企画に携わった。④APRU マルチハザードプログラムのサマースクールおよび防災政策会合を企画・運営した。⑤UC デービス、NASA 共催で、津波早期警報ワークショップを仙台で企画・運営した。⑥モンテレイ工科大学の代表団とセミナーを災害研にて企画・運営した。⑦ワシントン大学との共同シンポジウムを企画し、講演した。⑧メキシコのカンクン開催のグローバルプラットフォームにて展示ブースを運営した。⑨APRU と IFRC による共同研究・政策への影響強化のために、MOU 締結をした。⑩その他、中国、インドネシア、フィリピン、香港等で招待講演を行った。</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	災害理学研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
本研究部門は、巨大地震やそれによる津波をはじめ、火山噴火、気候変動、風水害、宙空災害まで、地球規模のさまざまな自然災害の発生メカニズムの解明に取り組み、短期的および中長期的にそのハザードを予測する。			
2017 年度の部門活動報告			
<p>東北沖地震の海域余効変動場を明らかにし、今後の周辺域の地震発生リスク推定に資するモデルを得た他、同じ内陸地震が短期間で再発する例を見出した。海底調査における自然電位法の有効性を示した。</p> <p>鳥取県地震震源域下の地震波構造を推定した。東北沖地震後の内陸部の応力場の時間変化を推定し、主軸は不変だが応力比に変化が見られた。また同余効すべりによるプレート境界地震の出現・消滅を明らかにした。</p> <p>蔵王山において観測機器を更新し、火山観測体制を強化した。御釜付近のデータから、長周期地震に先行して現れる傾斜変動の推定を行った。磐梯山噴火記念館に火山情報表示システムを提供した。2018 年 1 月の本白根山噴火直後に他大学と協力し噴火前後の活動推移等を明らかにした。</p> <p>トレンチ調査により、熊本地震で出現した地震断層の活動履歴を調査し、過去 7000 年で 4 回のイベントが確認され、布田川断層の動きは阿蘇カルデラ内にまで達することを見出した。一方、GIS によって調べた断層の離隔距離から、断層の変位センスによって異なる規制帯の幅を考える必要を指摘した。</p> <p>気象災害に関して、観測値を 5km 格子の数値予報モデルに同化した高解像度日本領域気象再解析システムを開発した。2014 年東アジア寒波のメカニズム、ネパール・ヒマラヤの豪雨の予測精度を改善した。</p> <p>宙空災害に関して、太陽フレア発生時の特異なプラズマ構造を示し、情報通信研究機構と共同で太陽電波データ・ベースを構築した他、太陽からの粒子による到達時間差、落雷エネルギー推定に関する研究を実施した。</p> <p>秋田県千屋断層帯で新たな手法として期待させる CSAMT 探査を実施した。東北沖地震後の余効変動をモデル化し、地震時の沿岸部の沈降がこれまでの予測より早く回復することを見出した。青森湾西岸断層帯での重力探査と反射法地震探査から伏在断層の形状を明らかにした。仙台平野南部の伏在活断層の地下構造調査の結果を論文にまとめた。国土地理院の全国活断層情報整備検討委員会で活断層分布の公表の準備を行っている。</p>			

## 2017 年度分野活動報告

分野名	海底地殻変動研究分野	報告者氏名	木戸 元之
分野目標			
<p>巨大な地震や津波を引き起すプレート境界断層での固着すべり状態を、海底測地等の地球物理学的データによって明らかにすることにより、海溝型大地震の震源像や津波発生ポテンシャルの予測を行うとともに、これに資する海域観測技術の高度化を図る。さらに、海域観測技術を駆使することにより、地震後の津波即時予測を高度化するための研究開発を推進する。</p>			
2017 年度分野活動報告			
<p>2011 年東北沖地震後から継続してきた観測結果を統合し、余効変動場の日本海溝沿いの空間分布を明らかにし、その成因となり得る粘弾性緩和や余効すべり等の現象の存在を定量的に示し、公表した (Tomita et al., 2017, Sci. Adv.)。さらに、上記現象の推定方法を高度化し、地震後の余効変動から地震時の変位まで推定できることを実証し、学術雑誌に投稿中である。一方、観測データの解析手法についても、様々な観測形態に対応可能な汎用性の高いものを開発し、他機関が取得したデータの解析を可能にする共同体制を構築した。日本海溝軸を挟んだ大深度・長基線観測を成功させ、沈み込みに伴う短縮は軸上には存在しないことを明らかにした。地震・津波のリアルタイム観測に向けた、海上ブイを用いた海底地殻変動観測技術の開発も継続して取り組んでいる。</p> <p>SATREPS プロジェクト (トルコ・メキシコ)、およびニュージーランドでの共同研究において、海底地殻変動観測技術を移転し、海域の地震研究の手段として海外にも広く普及に努めた。</p> <p>茨城県北部で起きた 2 つの M6 の地震 (2011 年 3 月 19 日と 2016 年 12 月 28 日) について、わずか 6 年弱の間に同じ断層で起こったことを、InSAR 解析と断層すべりモデル推定により明らかにした。さらに、GNSS データの詳細な解析を行い、その超短期間での地震の再来が 2011 年東北沖地震の急激かつ大きな余効変動によるものであることを示した。</p> <p>日本海溝海側の海底火山「プチスポット」海丘群での熱流量観測をもとに、熱輸送と水循環の組み込んだ 3 次元数値シミュレーションを行い、海山が群をなすことが水循環を著しく強めることを示した。また、海底熱水鉱床を効率的に探査する方法である「自然電位法」の実用化 (社会実装) に向けた研究では、この手法の有効性を示した (Kawada and Kasaya, 2017, Sci. Rep.) 他、無人潜水艇を用いた効率的な手法検討を行った。</p>			

分野名	地震ハザード研究分野	報告者氏名	趙 大鵬
分野目標			
地震学的手法を用いて大地震の発生メカニズムを解明することによって実践防災学に貢献する。プレート境界地震の応力蓄積・発生過程の解析研究を進展させることにより、来る東海・東南海・南海地震など低頻度巨大災害への備えの向上を目指す。			
2017 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2000 年と 2016 年の鳥取県大地震 (M7.3, M6.6) の震源域における詳細な 3 次元地殻と上部マントル構造を調べた結果、これらの地殻大地震の発生は、大山火山下のマグマ流体、若いフィリピン海スラブのメルト、及びマントル遷移層 (深さ 410-660 km) にある太平洋スラブの深部脱水に関わる熱いマントル上昇流などに影響されたことがわかった。これらの結果は、西日本の地震発生メカニズムを解明するための重要な手がかりになると考えられる (Zhao, D., X. Liu, Y. Hua, 2018. Tottori earthquakes and Daisen volcano: Effects of fluids, slab melting and hot mantle upwelling. <i>Earth Planet. Sci. Lett.</i> <b>485</b>, 121-129.)</li> <li>・東北沖地震後の期間において、内陸地震震源域の応力場の時間変化を推定した。約 5 年後における応力場の主軸の向きは東北沖地震直後とほぼ同じであるが、応力比の値は変化していることが分かった。また、2017 年 9 月に M5 の地震が秋田県内陸南部で発生しており、それらの震源域での地震活動を今後も継続して観測する必要があると考えられる (岡田・他, <i>地震学会秋季大会</i>, 2017)。</li> <li>・東北沖地震の余効すべりの地震発生に対する影響を調べるため、東北沖地震前後の岩手県沖のプレート境界の地震活動を調査した。その結果、東北沖地震後の地震の出現やその後の消滅が明らかになった。これらの現象は、非地震性すべり速度の増加にともなって、それまで地震が発生していなかったところに新たに地震が起きることがあることを示す (Hatakeyama, N. Uchida, T. Matsuzawa, W. Nakamura 2017. Emergence and disappearance of interplate repeating earthquakes following the 2011 M9.0 Tohoku-oki earthquake: Slip behavior transition between seismic and aseismic depending on the loading rate. <i>J. Geophys. Res.</i> <b>122</b>, 5160-5180).</li> </ul>			

分野名	火山ハザード研究分野	報告者氏名	三浦 哲
分野目標			
起こりうる火山噴火災害の軽減・事前対策に資するため、主として地球物理学的諸観測に基づいて火山活動の推移把握や噴火発生にいたる物理プロセスの解明を進める。特に、東北地方太平洋沖地震以後、火山活動に活発化が見られ噴火リスクの高まりが懸念されている東北地方の活火山において観測研究の強化を図る。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>東北地方の活火山周辺の既存定常観測点の観測高度化等を行うとともに、近年火山活動の活発化が見られる蔵王山において機器更新による観測精度・分解能の高度化・低周波マイクロホンの新設等の観測強化を実施した。蔵王山においては、想定火口域直下浅部で発生する低周波地震・長周期地震の解析を継続し、浅部熱水系に関する研究を実施し、顕著な温度あるいは物性的な変化は認められないことを明らかにした。平成 28 年度に火口湖御釜から約 1.5km の位置に新設した孔井式傾斜計及び地表設置型広帯域地震計のデータ解析から、長周期地震に数分先行して現れる傾斜変動とそれに伴う地盤上下変位の推定を行った。このような地盤変動を高精度な孔井式傾斜計と広帯域地震計を用いて同一地点で観測した例は少なく、長周期地震源・傾斜変動源の実体解明のために有益なデータとなると考えられる。前年度に引き続き、全磁力及び重力の繰り返し測量を仙台管区气象台、東京大学とともに想定火口域周辺において実施した結果、直近 4 年間において最大 6 nT に達する消磁傾向が見られること、御釜の近傍の観測点において重力減少傾向が見られることなどを明らかにした。また、東海大学と共同で噴気地帯において噴気を採取して、その化学分析を行った。その結果、SO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>S から推定される平衡温度は約 170 度と低く静穏な火山活動状態を示唆することがわかった。吾妻山では地下構造探査を進め、InSAR による低粘性領域と低比抵抗領域がよく一致することが判明した。磐梯山噴火記念館に準リアルタイム火山情報表示システムを提供するなど一般向けの情報公開も進めた。さらに、2018 年 1 月の本白根山噴火直後には、他大学と協力して臨時地震観測点を展開し噴火前後の活動推移等を明らかにするなど、他機関との共同観測・研究も実施した。研究結果は、火山活動対策特別措置法に基づき各自治体が設置している火山防災協議会に情報提供するとともに、火山噴火予知連絡会に報告を行った。</p>			

分野名	地盤災害研究分野	報告者氏名	今泉 俊文・武藤 潤・岡田 真介
分野目標			
活断層の地表から深部に至る形状・性状，形成・発生プロセスなどを明らかにすることを目的として研究を進めている。以下の研究は，内陸活断層にともなう地震を評価する上で，基礎的情報となり，地域の防災・減災計画に対しても重要な役割を担っている。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>千屋断層帯（秋田県三郷町）の千屋丘陵・花岡を横断する CSAMT 探査の実験を実施した。この実験は，反射法地震探査と同様に活断層の地下構造を解明する新たな手法として期待される。また，活断層の分布形状と地表の起伏（背後山地の形状）の関係から地下の断層形状と変位の関係を導く手法の開発を行い，想定震源の解明に役立つ試案を東日本地域において実施した。2017 年 3 月に『活断層詳細デジタルマップ』[新編]を出版した。</p> <p>東北沖地震後の余効変動を積分境界法を用いた数値計算でモデル化し，地震時に沈降した沿岸部の沈降回復過程を予測した。非線形粘弾性緩和と応力依存の余効すべりを考慮した余効変動解析を行い，東北日本弧の前弧、火山フロント、背弧の各地点において、GPS 変位場およびその時系列を再現した。前弧側（石巻）の垂直変動が震源直下の深部余効すべりによる可能性を明らかにし、得られたモデルによりこれまで報告されている沿岸部の回復予測（飛田, 2016 ; Iinuma, 2017）より早く沈降が回復する可能性を指摘した（Muto et al., 投稿準備中）。</p> <p>青森湾西岸断層帯において重力探査を計画・実施した。前年度の反射法地震探査データの結果と合わせて，地下に伏在した活断層の形状等を明らかにした。また，仙台湾周辺の地下構造データの再解析を行い，日本海拡大時期に発生した正断層構造が，逆断層として再活動していると考えられる地質構造を確認した（科研費）。国土地理院の全国活断層情報整備検討委員会では，郷村断層帯・山田断層帯の活断層の分布について判読を行い，公表に向けて準備を進めている。仙台平野南部の伏在活断層に関しては，地下構造調査の論文をまとめ公表した（岡田ほか, 2017）。またメディアを通じて活断層の知見について紹介し一般に対して普及活動を行った。</p>			

分野名	気象・海洋災害研究分野	報告者氏名	岩崎 俊樹・山崎 剛・須賀 利雄
分野目標			
当該分野では気象・海洋災害の実況監視と予測手法を研究している。 <u>高解像度日本領域気象再解析システム</u> のプロトタイプを構築し、性能評価とデータ同化スキームの調整を行った。ネパールヒマラヤの洪水事例について、ダウンスケールの短・中期予測の精度評価と改善方策を調査した。高潮被害を引き起こす黒潮の流路変動について、長期海洋データ同化プロダクトを用いて解析した。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>アンサンブルカルマンフィルター（LETKF）を用いて、地上気圧及びラジオゾンデなどの従来型観測を、5 km メッシュの高解像度数値予報モデルに同化し、過去に日本で発生した顕著現象を再現する<u>高解像度日本領域気象再解析システム</u>を開発している。2017 年度は、再解析システムのプロトタイプを構築し、2014 年 8 月 1 か月を対象として同化実験を行い、地上気圧分布や降水量分布の再現性能がダウンスケールシステムより優れていることを確認した。降水量のスピニアップや境界摂動などの同化手法の最適化を図った。</p> <p>特定の温位をしきい値とする寒気流出解析手法を開発し、様々な現象解析に利用している。2017 年度は、エルニーニョが北半球の寒気流出に及ぼす影響を明らかにした。2014 年の冬に東アジアを数十年ぶりに襲った寒波について、寒気の形成と流出のメカニズムを調査し、当該解析手法の有効性を確認した。</p> <p>ネパールヒマラヤにおける降水の短期・中期予報による洪水・土砂災害の軽減に関する研究を行った。2014 年 8 月の豪雨について、数値モデルによるダウンスケーリングを実施した。ヒマラヤは世界でも有数の険しい地形のため、正確な降水の再現は困難で、領域の取り方、モデル自体や解像度、初期値・境界値など様々な問題を検討する必要があることがわかった。その他、イネいもち病などの病害危険度の予測を目指し、週刊アンサンブル予報など気象データの高度利用に関する研究を行った。</p> <p>高潮の被害などに関係する黒潮の流路変動について、衛星データ・Argo データ等を活用した長期海洋データ同化プロダクトを用いて解析した。その結果、東海沖の 80-160 日周期の黒潮流路変動が、日本の東方から伝播する海面高度偏差が、四国沖を經由し、黒潮に沿って東海沖にまで達することによって引き起こされることを明らかにした。これは、黒潮流路変動の早期の予測にも有用な成果といえる。</p>			



分野名	宙空災害分野	報告者氏名	小原 隆博
分野目標			
宙空災害研究分野では人類の宇宙活動に影響を及ぼし得る宇宙放射線に焦点を当てて研究を進める。JAXA の衛星プロジェクトに参加し宇宙で放射線を計測するとともに、福島・宮城で太陽電波観測、カナダ・ノルウェー・アラスカで地上 VLF 観測を行なう。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>① 太陽フレア発生時に出現する縞状のスペクトル構造を持つ電波バーストの解析から、太陽表面付近の特異なプラズマ構造とその時間変化を示す事が出来た（査読論文 2 編）。また、数 100MHz～数 GHz 帯の太陽電波データ・ベース構築を情報通信研究機構と共同で実施した。</p> <p>② JAXA の衛星プロジェクトに参加し太陽からの放射線粒子計測を行った。その結果、太陽中性子と太陽プロトンの地球への到来時間差に関する新しい知見を見出した（国際会議発表）。</p> <p>③ 磁気赤道面付近に存在していた放射線帯粒子が、地球大気に実際に降下する現場を観測する目的で、カナダ・アサバスカ、アラスカ・フェアバンクス、ノルウェー・ニーオルスンに観測拠点を設置し観測を続行した。パルセイティングオーロラとプロトンオーロラ発生時に放射線帯電子が降下する様子を捉えることに成功した（国際会議発表）。</p> <p>④ 超低周波 (ELF) 電磁波を用いた落雷電波観測により、落雷エネルギー推定を行う実用システムの開発を東北電力・北海道大学・(株)いであ と共同で実施した(査読論文 1 編)。</p> <p>⑤ 国連主催の宇宙天気会議で放射線帯変動を報告したと共に、内閣府主催の宇宙空間の持続利用シンポジウムで、宇宙天気予報ガイドラインに関する招待講演を行った（国際会議発表）。</p>			

分野名	国際巨大災害研究分野	報告者氏名	遠田 晋次
分野目標			
内陸地震の長期評価の高度化に向け、熊本地震を引き起こした布田川・日奈久断層および出ノ口断層をケーススタディとして、地形・地質・古地震の基礎データを取得し、繰り返し活動間隔のゆらぎや地震規模の一様性・多様性を検討する。さらに、既存の活断層トレースと出現した地震断層の離隔距離を求めることで、防災上有効となるような規制帯の幅を検討する。			
2017 年度の分野活動報告			
<p>【活断層による内陸地震の長期評価の研究】平成 28 年熊本地震 (M7.3) に伴って出現した地震断層の活動履歴や活動間隔を明らかにするため、トレンチ調査を実施した。トレンチ調査を実施した南阿蘇村黒川地区は布田川断層の延長部にあたる阿蘇カルデラ内に位置し、明瞭な断層変位地形が認められず活断層として認識されていなかった地域である。トレンチ調査からは、7 千年前以降熊本地震を含めて 4 回の地震イベントが認められた。また、火山灰の累積上下変位量が 2m にもおよぶことから、過去の断層運動は上下変位を主体とする動きであった可能性がある。また、阿蘇カルデラ外の布田川断層の推定活動間隔ともそれほど矛盾しないことから過去の活動時にも布田川断層の動きは阿蘇カルデラ内にまで伸張していた可能性が指摘された。</p> <p>【活断層と地震断層の離隔距離に関する定量的研究】平成 28 年熊本地震では、変位地形から判読された活断層トレースに沿って地震断層が出現した、これらの地理的な距離を地理情報システム (GIS) を用いて定量的に検討し、離隔距離を求めた。離隔距離のヒストグラムでは、布田川・日奈久断層および出ノ口断層ともに距離が近いほど地震断層の出現数が多い傾向が認められた。布田川断層が漸近的な減少傾向を示すのに対して、出ノ口断層では極端な L 字型の分布傾向を示した。この差異が生じたのは、布田川断層は右横ずれを主体とし、それに起因して共役断層や雁行する地震断層が出現したのに対して、出ノ口断層は正断層主体の変位であったため、雁行する地震断層や、走向が異なる共役断層が出現しなかったことが要因と考えられる。断層の変位センスによって離隔距離のヒストグラムの分布パターンが異なることが明らかとなり、防災上有効となるような規制帯の幅の検討する上で重要な結果が得られた。</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	災害医学研究部門	報告者氏名	児玉 栄一
部門目標			
<p>広域巨大災害に伴う急性期・慢性期の医療ニーズに対応しうる研究・調査の推進、および災害時医療の国際標準化を目指す。オールハザードに対応する保健・医療を含めた地域社会の備えとその拠点となる大学病院との連携、災害時におきるこころやからだの両方に対応する医療体制、実践的な災害保健医療の教育や訓練を行う。災害と健康エリア・ユニットと協力し、他のエリア・ユニットとの共同研究を推進する。</p>			
2017 年度の部門活動報告			
<p>AMED、文科省、厚労省、環境省、規制庁、産学連携などから総額 1 億円以上の外部研究費を獲得し、基礎・臨床・公衆衛生を介した実践的防災学に資する調査・研究活動を行っている。水晶体被曝に関する成果(含む放射線障害防止法改正へ向けた提言等)、北米放射線学会での受賞、災害医療コーディネーターの全都道府県調査、エボラ・デング・黄熱対策、子宮体がんとストレスに関する研究での <b>Highly Read Author</b> 賞受賞、緊急有事における周産期医療の考察、ウイルス感染症治療薬の前臨床試験、成人被災者のメンタルヘルスや子どもの心的外傷後成長のプロファイルを世界に先駆けて明らかにした。日経メディカル社『災害対策ガイド』で連載した。</p> <p>病院 BCP 委員会、BCP 事務局会議を主宰し、東北大学病院 BCP を発効した。緊急被ばく医療推進センター員、総合防災訓練 WG の一員として大学病院の総合防災訓練の企画・立案・実施に関与、災害時感染症対策委員として、自衛隊・内閣府との関係強化と DICT の発足、日本精神神経学会災害支援委員会、厚生労働省災害メンタルヘルス対応ガイドライン策定委員会、災害時のトラウマ支援ネットワーク専門家会議等への参画、宮城県結核協議会副委員長、仙台市感染対策副委員長、仙台市病院感染症ネットワーク委員、仙台市性感染症副委員長(梅毒アウトブレイク対策)、仙台市防災会議(原子力防災部会)委員、宮城心のケアセンター顧問、宮城心のケアセンターや被災自治体から保健師、臨床心理士、精神保健福祉士を社会人大学院生として引き受けての社会実装に向けた実践的防災学を推進した。</p> <p>東北メディカルメガバンク機構と連携し、婦人科・肝胆膵疾患・うつ病に関して被災地の個別化医療、個別化予防に貢献する研究計画を立案し提出、実施した。地域センター、三世代コホート室長、メンタルヘルスケア推進室長等を兼務した。複数の災害に関連する学会・シンポジウムを主催している。</p>			

## 2017 年度の分野活動報告

分野名	災害医療国際協力学分野	報告者氏名	江川 新一
分野目標			
<p>災害に強い医療供給体制を構築することをミッションとし、災害時の保健医療システムの破たん、それに備える病院 BCP・受援力のあり方、医療ニーズの質的量的変化に対する備え、保健医療コーディネーション・意思決定メカニズムを研究する。仙台防災枠組に保健医療の概念を加え、より人々の精神と身体を守る実践的防災学の一部として災害保健医療の教育を行う。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南三陸町の匿名化診療記録約 10000 件、気仙沼市立病院の 4000 件をデータベース化した。石巻市立病院、石巻圏合同救護班による東日本大震災後の診療記録データベース化の合同シンポジウムを開催した。</li> <li>● 東日本大震災後の災害医療コーディネーター設置状況、東日本大震災後に発生した非感染性疾患(NCD)に関するシステムティックレビュー、エボラウイルス感染症に対する保健医療従事者の教育をそれぞれ論文化した。</li> <li>● 日本集団災害医学会、アメリカ災害医学会で災害リスク、災害後の医療ニーズ推移について発表した。</li> <li>● 国際レジリエンスフォーラムにおいて仙台防災枠組の Priority 3 (災害に対する投資) ワーキンググループの一員として東京宣言に貢献した。</li> <li>● 災害統計グローバルセンターの健康面解析アドバイザーとして運営企画に携わり UNDP、富士通との関係構築に貢献した。</li> <li>● 厚生労働省の病院事業継続計画 (BCP) の班研究に参加するとともに、東北大学病院の BCP 委員会の副委員長、委員として 11 月に BCP 第 1 版を完成した。さらに継続的なマネジメントを継続している。</li> <li>● 災害時のメンタルヘルスに関して世界防災フォーラムでシンポジウムを企画し、共同座長を務めた。</li> <li>● 学術交流協定校のフィリピンアンヘルズ大学、インドネシア大学において災害保健医療に関する特別講義を行い、インドネシア大学から教員のべ 3 名を世界防災フォーラムおよび特別講義に招聘した。</li> <li>● TOMODACHI イニシアチブと共催で災害看護研修を支援し、セミナー、報告会を開催した。</li> <li>● 東北大学防災 UPDATES においてエフエム仙台でのラジオ講演を合計 4 回行った。</li> </ul>			

分野名	災害感染症学分野	報告者氏名	児玉 栄一
分野目標			
<p>災害時に発生する感染症の制圧とともに感染症自体が災害であることからアウトブレイク・パンデミック対策を行うことを目的として以下の活動を行った。災害時・平時を問わず感染症は地域レベルで発生していくため、保健所、仙台市、宮城県、JICA との連携を図る。感染者の治療法開発を加速することでパンデミックを最低限に抑制する。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<p>AMED 革新的がん研究の支援をうけ、アジア・アフリカ系人種に頻度の高い EB ウイルス慢性感染によるリンパ腫・白血病に対する治療薬を開発、その臨床応用のために齧歯類・非齧歯類を用いて安全試験を行い、高度な疾患特異性を明らかとした。平成 28 年度に引き続き、小規模アウトブレイクが続いている麻疹に対する対策としての治療薬開発を京都大学と共同で行った。世界 3 大感染症のひとつである HIV 感染症の制圧に向けた研究を行っている。</p> <p>災害時における東北大学病院 BCP 作成、並行して地域医療機関 BCP 作成や震災における医療機関の構造的な問題点を熊本大学と共同で解析した。東北メディカルメガバンクと連携し、仙南地域の成人・小児コホートを通じて被災地の個別化医療、個別化予防に貢献する研究計画を立案し提出、実施した。</p> <p>アウトブレイク・パンデミック対応のため、仙台市 15 病院のネットワーク協議会を立ち上げ、仙台市、宮城県との共同で結核や近年宮城県で急激に増加している梅毒アウトブレイク対策を検討した。宮城県結核協議会副委員長、仙台市感染対策副委員長、仙台市病院感染症ネットワーク委員、仙台市性感染症副委員長を拝命した。仙台にて感染症に関するシンポジウム「白馬シンポジウム」を主催した。</p> <p>災害時感染症対策委員（4 大感染症関連学会）として、自衛隊・内閣府との関係強化と disaster infection control team (DICT) の立ち上げ、日本環境感染学会でその公開シンポジウムを企画した。国際的には、JICA における国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会員としてして、緊急援助に必要な人選、機器選定などに従事した。</p> <p>教育では医学科・歯学科・保健学科での感染症講義にとどまらず、病院での感染制御実習などを行った。</p>			

分野名	災害放射線医学	報告者氏名	千田 浩一
分野目標			
<p>放射線影響評価および被曝測定防護に関する医学的研究(特に水晶体被曝研究)、放射線等に対する正しい理解の普及、災害時等における画像診断システム開発等々を行う。当該領域での教育および研究者育成を行い、さらに新しい技術を開発し世界へ情報を発信し成果を社会に還元する。千田兼担の大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同保健学科の研究教育等を推進する。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<p><b>研究等</b>：研究代表者(千田)として規制庁の放射線対策委託研究(水晶体線量限度関連研究)を行った。放射線障害防止法改正等へ向け活動した(放射線審議会識者リングでの提言等)。研究代表者(千田)として、「挑戦的萌芽」を継続した。産業医大や電通大等との共同研究も含め、研究分担者(千田)として「基盤 A」「基盤 B」及び 3 件の「基盤 C」等を行った。平成 29 年放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究を行った。企業との産学共同研究にも積極的に取り組んだ(特許: 特願 2017-151013「放射線検出装置及び線量計」2017.08.03 等)。プレスリリース(水晶体被曝の解明, Sci Rep, 7)。国内の学会賞 3 件、国際学会賞 3 件。当年度は計 14 編(英文 8、和文 6)論文掲載。</p> <p><b>国際交流等</b>：北米放射線学会(RSNA、最大の放射線医学系国際学会)で関連演題を 6 題発表し、RSNA Exhibit Award "CERTIFICATE of MERIT"を 3 題受賞した。他に欧州放射線学会(ECR)は 2 題発表した。</p> <p><b>教育等</b>：千田兼担の医学部講義(主に放射線技師育成)を毎年週 3 コマ、学生実験(毎年週 2 回)担当し、さらに他学科分担講義や全学教育における集中講義等を継続して多数担当し、加えて保健学専攻大学院講義(含む医学物理士育成)を毎年週 2 コマ、その他集中講義等を継続して多数担当。以上は当分野の人材養成の基盤になる。当該年度は当分野に、院生 23 名(博士課程 13 名、修士課程 10 名)、学部生(卒業研究)が 5 名在籍し研究指導等を行った。更に主査として博士 2 名と修士 4 名と学士 5 名の学位を出した(副査として博士 2 名と修士 3 名)。学部学生の就職進路指導担当教員としてキャリア支援を引き続き精力的に行った。</p> <p><b>特許</b>(千田)：国内特許出願・公開・取得、及び国際特許出願・取得を多数行った。国内特許取得査定(平 29.11.6)等</p> <p><b>社会活動等</b>(千田)：仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)。JST 研究成果最適展開支援専門委員。JST マッチングプランナー専門委員。また放射線教育のための多数の講演活動等やパンフレット作成等を引き続き行った。</p>			

分野名	災害精神医学分野	報告者氏名	富田 博秋
分野目標			
<p>(1) 災害が及ぼす心理社会的影響に関する情報を包括的に集積・分析することで、影響からの回復を効果的に促進するための情報の抽出を行うこと</p> <p>(2) 心の健康の観点から災害に有効に備えるための知見を集積・抽出すること</p> <p>(3) 被災地域の課題となるうつ病、心的外傷後ストレス障害等に対するより有効な診療技術の開発を行うこと</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>3つの目標達成に向け、下記の研究成果を得るとともに、4件の国際シンポジウムの企画・講演、31件の国内学会発表・講演・ワークショップ、23件のセミナー主催、35コマの学内講義、7名の大学院生と1名の留学生の受け入れ、12件のメディア発信を通して、教育、国際連携、社会連携に務めた。</p> <p>(1) 東日本大震災が及ぼした心理社会的影響に関する情報を包括的に集積・分析する研究の一環として、宮城県七ヶ浜町との間での協定を震災後10年まで延長し、第7次調査を実施した。災害公営住宅等の新しい生活環境への移行に伴い、メンタルヘルス指標の回復が停滞している現状をデータで直接地域還元し、自治体の対策に反映させた他、メディアにも取り上げられ社会の関心を集めた。この調査を元に、家屋被災とソーシャル・キャピタル、仮設住宅入居状況や高血圧治療状況とメンタルヘルスに関する知見等を国際学術誌に掲載した。また、防災工学・防災教育領域と医学領域との学際研究により、疫学データに基づいて津波避難訓練の効果の実証を行なった。熊本大学における講義、東北大学における「こころの健康を考える熊本・宮城連携フォーラム」等の形で、熊本地震被災機関との連携の中での成果の社会還元にも取り組んだ。(2) 東北3県の精神科医療機関の防災・被災実態の調査と同じフォーマットでの調査を熊本県で行い、熊本地震被災地域の精神科医療機関の防災・被災の実態調査を実施した。また、母子保健領域の災害への備え、被災地域のメンタルヘルス支援体制の多様性・課題、被災地域における調査・研究の倫理的配慮に関する実態情報の解析を実施した。(3) 被災地域の大きな課題であるうつ状態支援体制向上の切り口の一つとなり得るうつ状態の客観的認識を可能にする技術開発として、ゲノム情報や血漿中代謝産物濃度に基づいてうつ状態を呈するリスクを予測するための機械学習アルゴリズムのプロトタイプ開発を行なった。</p>			

分野名	災害産婦人科学分野	報告者氏名	伊藤 潔
分野目標			
<p>災害産婦人科学分野は、災害科学として、産婦人科疾患を災害の視点から捉え直すことを目指す分野である。甚大な災害が、婦人科がん検診体制を中心とした保健医療体制に及ぼす影響、婦人科特有の疾患に及ぼす影響を、多面的かつ長期的に解析・検討し、災害地の女性の健康を図ることを第一の目的に、大災害が母子に及ぼす影響を分析し、今後に備え対応できる国際的基準を確立することを第二の目的としている。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p><b>1. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析</b>  ストレスホルモンやその関連因子（男性ホルモンであるアンドロゲンなど）が子宮体癌の局所でのホルモン産生や生命予後と関わることを明らかとする研究を続行した。その成果は日本癌学会や米国内分泌学会等で報告するとともに、2018年4月には、国際査読雑誌 <i>International Journal of Molecular Sciences (IF:3.3)</i> に掲載が決定した。</p> <p><b>2. 災害が宮城県などでの婦人科がん検診体制や女性の健康に及ぼす影響の解析</b>  宮城県での、震災以降の、婦人科がん検診に関する取り組み、および子宮がん予防ワクチン接種後の疾患発症予防率の詳細調査結果を、講演（広島、東京）するとともに、昨年に引き続き第2報を国際査読雑誌に掲載した (<i>Tohoku J Exp Med 2017</i>)。この論文はアジア初のデータである。また、全国学会を含め複数の学会を主催し、検診と女性の健康を多面的に検討する場を設けた（2017年7月：第54回東北臨床細胞学会、9月：第26回日本婦人科がん検診学会、2018年2月：第32回宮城臨床細胞学会）。</p> <p><b>3. 災害医学研究に関する教育活動</b>  東北大学医学部保健学科卒業研究（4年生1名）と医学科基礎医学修練（3年生3名）に、災害ストレスと婦人科疾患をテーマとした研究指導を行った。修士学生1名（2年生）に対する研究指導も行い、3月に修士号を取得した。この学生は、2017年5月より東北大学サイエンスエンジェルとしても活動した。</p> <p><b>4. 社会活動</b>  震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会で役職を務め、積極的に活動している。また12月からは、日本産科婦人科学会の震災・復興対策委員会でも活動している。</p>			

分野名	災害公衆衛生学分野	報告者氏名	栗山 進一
分野目標			
<p>研究活動においては、大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて明らかにし、知見が得られれば速やかにこれを情報発信する。さらに中長期的な被災地における健康状態の実態把握と課題に関する知見を得、対策立案と政策提言・実践を行う。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>2017年度の研究活動においては、特に発災前や発災直後に公衆衛生学として何ができるかについて研究を進め、「防災意識の醸成」と発災直後の津波対策として、「フロートパック」の改良に着手した。また大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて研究している。東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究では、被災の経験のある就学前の幼児では、肥満が増加していることを見出し、その改善に取り組んでいる。また、東北メディカル・メガバンク事業の大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査（三世代コホート調査）によって、震災後数年後の沿岸部と内陸部の健康状態を比較し、自治体等に健康向上に関する政策提言を行っている。特に自治体ごとに妊婦とその配偶者の喫煙率や肥満度に差のあることを明らかにし、情報発信を続けている。</p> <p>教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「体と健康」、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM 演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニング I」、「社会・環境医学」、「健康栄養 特別講義」などの講義を行い、大学院生3名の学位取得指導を行った。</p> <p>学外の社会活動においては、宮城県公衆衛生学会の会長として学術総会の開催、各種災害公衆衛生情報の配信などを行い、公益財団法人宮城県対がん協会の宮城県新生物レジストリー委員会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員などを務めている。</p>			

分野名	災害口腔科学分野	報告者氏名	小坂 健
分野目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害における口腔関連疾患について、分析をしていく。</li> <li>・災害におけるソーシャルキャピタルの影響について分析し、発表していく。</li> <li>・福島県歯科医師会との共同で脱落乳歯中の放射性物質の暴露評価を実施していく。</li> </ul>			
2017年度の分野活動報告			
<p>・被災者の歯の健康状態を被災前後で比較した研究はないため、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県岩沼市に住む、65歳以上高齢者3,039人の震災前後の追跡調査データを分析し、震災の被害と歯の健康について研究した。その結果、震災被害が大きい群で歯の喪失が多いという関連が見られました。経済状況の悪化は歯の喪失リスクを8.1% (95% CI: 0.5, 15.7)、家屋の被害は歯の喪失リスクを1.7% (95% CI: 0.2, 3.3) 増加させた。Are Lowered Socioeconomic Circumstances Causally Related to Tooth Loss? A Natural Experiment Involving the 2011 Great East Japan Earthquake. Am J Epidemiol. 2017 Jul 1;186(1):54-62. doi: 10.1093/aje/kwx059.</p> <p>・東日本大震災後、被災者に対する医療費自己負担の免除政策の影響を解析したところ、被災者の医療受診に貢献していた。自己負担免除政策の影響は、医科に比べ価格弾力性の大きい歯科で顕著であり、自己負担免除政策の影響は、後期高齢者に比べ自己負担割合が大きい国民健康保険で顕著だった。医療費自己負担が平時の適切な受診を抑制している可能性が示唆された。Copayment Exemption Policy and Healthcare Utilization after the Great East Japan Earthquake. Tohoku J Exp Med. 2018;244:163-173.</p> <p>・世界で初めて、震災前の地域在住高齢者の情報と、津波による死亡原因の関連性を調べた。住環境が変わる震災後の中期的な死亡リスクについても調べたところ、震災前に重度のうつ傾向だった方の死亡率は12.8%と高く、調整後の死亡のオッズは3.90倍で有意に高いことがわかった。Risk of mortality during and after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami among older coastal residents. Scientific Reports 2017;7(1):16591.</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	情報管理・社会連携部門	報告者氏名	佐藤 健
部門目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究を実施する。</li> <li>東日本大震災の被災地における実践的な復興まちづくりのあり方を探究するとともに、主に学校防災と地域防災の連携モデルを発信する。</li> <li>実践的防災学の構築のため、研究所と社会の間のつなぎ役として、研究所の成果を国内外に広く発信する。</li> </ul>			
2017 年度の部門活動報告			
<p>災害アーカイブ研究分野として、東日本大震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関わる研究を実施し、国内外の災害アーカイブの構築団体との研究を実施した。また、岩手県や熊本県などの震災アーカイブの構築支援、大槌町、大船渡市、仙台市、山元町、NHK 仙台、ミヤテレなどの伝承関連の監修及び支援を実施した。震災アーカイブを利用したハーバード大学との授業やインバウンド向けの防災観光なども実施した。さらに、語り部シンポジウム「かたりつぎ」を実施し、1,100 人の参加があった。</p> <p>災害復興実践学分野では、「石巻市復興まちづくり推進会議」のメンバーとして石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、多岐に亘る膨大な案件について、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。また、女川町復興まちづくりデザイン会議を通して女川町のまちづくりにも貢献した。さらに、石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化に取り組むとともに、世界防災フォーラムでは、「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」と題するテクニカルセッションを企画開催し、学校防災と地域防災の連携のロールモデルを国内外に発信した。</p> <p>社会連携オフィスは、仙台防災枠組の実施を鑑みて以下の活動を行った。1) 7 月に APRU のサマースクールを開催。2) 11 月 25-28 日に仙台で世界防災フォーラムを開催。前日祭、50 の口頭セッション、100 のポスターセッションを中心として、40 ヶ国以上を含む国内外から 1 万名以上の参加者を集めた。3) 災害統計グローバルセンターが構築するグローバルデータベース (GDB) の青写真を作成。インドネシアをはじめとする 7 つのパイロット国のデータ収集に取り組んでいる。</p>			

## 2017 年度の分野活動報告

分野名	災害アーカイブ研究分野	報告者氏名	柴山 明寛
分野目標			
<p>本分野では、東日本大震災を始めとする様々な自然災害の貴重な記録（映像、写真、証言など）の収集から整理、利活用するまでを体系化するとともに、震災アーカイブから発展させた自然災害アーカイブ構築のための研究を実施する。さらに、自然災害アーカイブの利活用の促進や整理方法の自動化などの研究を実施する。</p>			
2017 年度の分野活動報告			
<p>分野活動としては、以下の内容を実施している。</p> <p>①東日本大震災の記録の収集、整理方法の研究、②アーカイブの国際標準化に向けたメタデータの研究、③アーカイブ団体同士の自然災害記録の連携に関する研究、④自然災害記録を用いた防災教育、防災観光に関する研究、⑤知見の共有のためのシンポジウム・ワークショップの開催・共催・後援、などを実施している。</p> <p>本年度の成果としては、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーカイブの国際標準化に向けた取組として、みちのく震録伝を新システムに移行を行い、IIIF や DOI の導入、各拠点のメタデータ収集及び連携を行う API 連携システムを構築した。国際的な防災教育の展開として、ハーバード大学と連携し、相互の大学で震災記録を利用した授業を実施した。</li> <li>震災アーカイブの支援として、岩手県や岩手県大槌町、岩手県大船渡市、宮城県多賀城市、宮城県仙台市、宮城県山元町、福島県双葉町を始めとする沿岸地域、NHK 仙台などの支援を実施した。</li> <li>東日本大震災の記録の収集を継続的に実施。</li> <li>宮城県全域にかけて語り部や防災学習が可能な防災観光のプログラムや団体等の整理を行った。本結果は、仙台市と宮城県が運営する「<a href="http://bosaikanko.jp/">http://bosaikanko.jp/</a>」で閲覧することができる。</li> <li>女優竹下景子さんをお招きした語り部シンポジウム「かたりつぎ」を宮城県多賀城市の多賀城市文化センターで開催し、約 1,100 人の参加であった。また、本イベントは、毎年実施しており、今回が最も来場者数が多かった。</li> <li>東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催し、150 人の参加があった。</li> </ul>			

分野名	災害復興実践学	報告者氏名	佐藤 健
分野目標			
<p>実践的防災学確立と復興・防災に関する実践的な展開を大目標に、具体的には以下の二点を目標としている。</p> <p>1) 防災教育国際協働センターを中心に、国内外の大学や研究機関、行政機関等との連携を推進し、地域に根ざした防災・復興教育モデルの開発と実践、その高度化と普及。2) 復興事業の実務的支援を通じた実践的な復興まちづくりのあり方の探究。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>佐藤健教授・定池祐季助教は、石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化に取り組むとともに、世界防災フォーラムでは、「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」と題するテクニカルセッションを企画開催し、学校防災と地域防災の連携のロールモデルを国内外に発信した。また、防災人材育成の活動としては、被災自治体職員や企業の防災担当者向け研修「3.11からの学び塾」や、宮城県内の防災主任等を中心とした学校防災を推進する学校教員向けフォーラム「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」、日本安全教育学会研究集会石巻ミーティング2017「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」の企画・運営を行った。さらに、定池祐季助教は、福島大学の防災教育プロジェクトに参画し、東日本大震災の教訓を活かした教材作成と普及に務めているほか、北海道芽室町などの被災地・未災地のニーズに応じた防災教育に携わった。防災教育国際協働センターの第2期の活動方針についても検討と議論を行った。</p> <p>また、小野田泰明教授（兼務）・平野勝也准教授は、昨年度から引き続き、姥浦道生准教授（兼務）などとともに、「石巻市復興まちづくり推進会議」のメンバーとして石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、多岐に亘る膨大な案件について、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。なお、平野准教授は、女川町復興まちづくりデザイン会議委員長として女川町のまちづくりに貢献してきた一方で、新しいL1防潮堤高を決める方法論づくりに関する共同研究を実施している。また、本江正茂准教授（兼務）は、災害教訓の継承の知見を生かし、仙台市（震災復興メモリアル等検討委員会）・山元町（震災伝承検討委員会）において震災伝承への助言を行っている。</p>			

分野名	社会連携オフィス	報告者氏名	小野 裕一
分野目標			
<p>Localには東日本大震災をはじめとした被災地のニーズを把握し、実践的防災学の構築のため本研究所と社会の間のつなぎ役として産官学民の連携を促進し研究成果を発信して社会実装を目指す一方、Globalには世界防災フォーラムなどを媒体として仙台防災枠組やSDGsなどの国際政策の策定や実施に貢献する。</p>			
2017年度の分野活動報告			
<p>仙台防災枠組の実施に鑑みて以下の活動を行った。1) 7月にAPRUのマルチハザードプログラムのサマースクールおよびコアグループの会議を開催。8月には北京大学で年次総会を開催。5年間に渡るAPRUのこの活動を軌道に乗せることができた。2) 11月25-28日に仙台で東北大学、就中本研究所が中心となって世界防災フォーラムを開催。究極の国内外のマルチステークホルダーの連携を掲げて、スイスの防災ダボス会議と連携し、仙台に国内外から産・官・学・民の防災関係者が集まり、東日本大震災に関する知見と防災に関する具体的な解決策を世界発信した。前日祭、50の口頭セッション、100のポスターセッション、世界防災サーベイ、スタディーツアー、エクスカーションを中心として、40ヶ国以上1万名以上の参加者を集めた。フォーラム終了後、次回2年後のフォーラムの体制をどのようにするかについての議論を開始した。3) 国連ISDRが主導する仙台枠組のモニタリングの進捗状況を見据えながら、災害統計グローバルセンターが構築するグローバルデータベース（GDB）の青写真を作成した。同時に引き続きインドネシアをはじめとする7つのパイロット国のデータ収集に取り組んでいる。分析の手法についての意見交換を行う一方、所外の専門家も交えて勉強会を開始していくことを決定した。</p>			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	報告者氏名	今村 文彦
部門目標			
東日本大震災での教訓を活かすべく、津波フラジリティ・海岸林の津波減災効果に関する研究、津波氾濫と津波による土砂移動・漂流物移動の解析手法高度化に関する研究、津波避難研究、防災教育・啓発活動等の地震津波リスク低減に向けた研究活動を通じて、研究成果や得られた情報・知見を広く社会に提供していくほか、産学連携研究を推進する。			
2017 年度の部門活動報告			
津波フラジリティ・海岸林の津波減災効果に関する研究では、沿岸部での海岸林の分布、地形諸条件、水理諸元を考慮した、個々の建物の建物被災状況を定量評価する手法を提案した。本手法により、同様に一様な直線海岸・傾斜を有する他地域でも、個々の建物被災程度を定量的に推定することが可能となった。津波解析手法の高度化に際して、災害研共同研究「津波統合モデル解析の高度化」の中で実施した津波土砂移動モデルの改善では、強い非定常流れでの土砂移動に適用可能な飽和浮遊砂濃度の新たな評価手法を提案し、東日本大震災における気仙沼湾の地形変化計算の精度向上に成功した。津波避難研究では、これまでの研究成果を活かして津波避難対策ガイドラインや津波避難計画の検討に参画したほか、福島県いわき市と連携して津波災害時の自動車避難対策について検討を深め同市の避難ガイドラインの形成や自動車も用いた津波避難訓練の実施に協力した。この他に、国と連携して社会福祉施設の津波避難対策について調査を行い、実情や課題を明らかにした。防災教育・啓発活動においては、減災行動に繋がる意識を向上させ持続させる手法を、東北3県の小学校を中心に実践しながら開発した。効果の検証には独自に作成した質問紙を用い、約 1000 人のデータをもとに解析し、教育プログラム効果を数値化することで、児童の居住区の地域特性も比較することが可能となった。11 月の世界防災フォーラムおよび第2回防災推進国民大会では、東京海上グループ・東北大学産学連携フォーラム「アジア太平洋地域における災害に負けない社会づくり～科学と保険の力」を開催し、産官学連携(Public-Private-Academia Partnership)を通じて、効果的な災害リスクマネジメントシステムを開発し、災害に強い地域社会を構築することを提言したほか、セッションの主催、パネリストとしての参加、ブース出展、ポスター展示を通じて、産学連携活動の内容・成果を発表した。			

## 2017 年度の部門活動報告

部門名	リーディング大学院	報告者氏名	松本 行真・久利 美和・地引 泰人・杉安 和也
部門目標			
科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という3つの視点からリーダーを養成する。我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティ問題等を解決し、人類社会の持続性及び安全安心な社会構築に寄与するグローバル安全学分野のトップリーダー人材育成を目指す。			
2017 年度の部門活動報告			
<p>本部門にはグローバル安全学トップリーダー育成プログラム(以下 G-Safety)専任教員4名(2013年度着任)、客員教員2名が所属し、2014年4月より情報管理・社会連携部門社会連携オフィス分野より独立した。G-Safetyは大学院生対象の教育プログラムで、8研究科を含む12部局が参画し、所内では、WG6名(専任教員4名を含む)が調整を担当の上、多数の所内教員が授業・実習を提供している。このうち、C-Lab研修では、米国ハーバード大学と連携した「災害アーカイブラボ」を災害研所属教員が提供し、専任教員がフランス INSA-LYON等と連携したサマースクールプログラム「ELyT School in LYON」、火山観測機器開発を目標とした「火山探査用フィールドロボット技術を活用した火山調査ならびに火山防災」を担当した。この他にも、G-Safety 受講生によるプロポーザル型 PBL 研修:学生自主企画活動の支援を行っている。このうち申請された10企画7研修のアドバイザー教員を G-Safety 専任教員が担当した。この学生自主企画での活動成果を WBF2017 併催企画ぼうさいこくたい2017で出展・発表した。さらに、国内地域連携企画として2016年11月に発生した福島県沖の地震に伴う避難渋滞へ対応として、専任教員がいわき市役所「津波災害時における自動車避難検討部会」のオブザーバーを担当し、2017年10月に同市で開催されたいわき市総合防災訓練の企画運営支援を行った。</p> <p>さらに海外連携企画としては、2017年インドネシアバリ島でのアグン山噴火に伴う避難行動調査をガネシヤ教育大学、ウダヤナ大学、バリ日本人会と連携して実施した。また、インドネシア大学との連携体制を構築している。その他、地域連携活動や学生の自主学習会、学生個人活動経費による各種活動に所内多くの教員がかかわっている。</p>			



## 4 研究活動

### (2) プロジェクトエリア・ユニットの研究活動

## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	【場】 災害の発生メカニズムの解明・予測
エ リ ア 長	木戸 元之・教授
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>調査・観測に基づくモデルに立脚した地震・津波などの自然災害の発生要因究明およびハザード評価を行い、その成果を利用してリスク予測から減災までの手法・取組を提案する。リアルタイム観測、痕跡データベースや歴史資料からの知見などとの融合により推定の精度を向上させ、最先端計算機科学・IT 技術を駆使したリスク予測・評価の提供を行う。その上で、被害やリスクの軽減のために、地域での結果の利活用法（災害伝承モデルを含む）を検討する。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	ハザード評価
ユ ニ ッ ト 長	木戸 元之・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>主：遠田 晋次，福島 洋，岡田 真介，川田 佳史，今野 明咲香 副：千田 浩一，寺田 賢二郎，越村 俊一，後藤 和久，蝦名 裕一</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>災害に結びつく大規模な地震について海域と陸域の双方で研究を進め、現象の把握とモデリングを通してハザード評価につながる知見を得た。</p> <p>海域での地殻変動観測により、2011 年東北沖地震後の余効変動場を把握し、震源域の隣接領域の余効すべりと再固着の有無を調べることで、周辺海域での誘発地震の発生リスクについて検討するとともに、沈み込み帯の熱循環のモデル化を行った。これら巨大地震の発生前後も含む全体像の把握は、発生が危惧されている南海トラフの巨大地震の際に起こり得る現象の予測にも役立つものであり、その成果は学術雑誌や国の地震調査委員会で発信している。これらの結果を受け、所を中心とした「南海トラフ地震予測対応勉強会」を定期的開催し、想定される予測に対する社会対応について議論を深めた。</p> <p>海域の巨大地震に対する内陸での蓄積歪の応答として、わずか6年弱の間隔で同じ断層の M6 クラスの地震が発生する事例を茨城県北部で見出した。青森湾西岸断層帯での重力探査および反射法地震探査データから地下の伏在断層の形状を明らかにした他、仙台湾周辺の地下構造データの再解析から、同じ断層が時代により異なるすべりをするを見出した。2016 年の熊本地震について、布田川断層の延長部にあたる阿蘇カルデラ内でのトレンチ調査を実施し、過去の地震発生履歴、断層すべりの向き、断層の範囲についての知見を得た。一方、GIS を用いて、地形から予想される活断層トレースと熊本地震で地表に出現した断層との地理的な位置関係を調べることで、断層のメカニズムによって雁行する断層や共役断層のでき方が異なり、防災上の規制帯を設ける際の適切な幅を検討するのに有用な情報を得た。</p> <p>広く災害研の研究成果を国際的に公表する場として、また防災意識の世界的な普及のため、防災フォーラム企画・立案・運営に中心的関わり、成功を収めた。</p>	


ユニット名	被害予測と軽減
ユニット長	今村 文彦・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>主：後藤 和久，アナワット・サップシー，佐藤 翔輔，保田 真理</p> <p>サブ：越村 俊一， 森口 周二，蝦名 裕一，久利 美和</p>	
<p>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</p> <p>文理融合文理融合研究を推進するため所内での幅広い分野のメンバーを結集し，被害予測の高精度化から結果の伝達・周知，さらには防災・減災の取組を先導するまでを目的として設定した．今年度はその第一歩として，2月10日に，「歴史が導く災害科学の新展開」シンポジウムを所内で開催し，文理融合研究の現状と課題，さらには期待される成果を議論した．その成果は，朝日新聞全国朝刊（2018年2月16日），『「歴史学が照らす地震防災」』，古文書を読み解き，過去の実態解明，文理融合で探る』，という特集記事で紹介された．今後も，地理や地形，災害の不確定・不確実性などの分野に関連しながら継続して企画する予定である．</p> <p>研究面では，東日本大震災で得られた被害に関するデータをベースに，関連の被害の発生基準，ファラジリティー関数の検討，さらに痕跡・堆積物データベースや歴史資料からの知見などとの融合により推定精度を向上させる研究を継続的に実施した．具体的には，松島湾での沿岸生態系（アマモなど）の被害について土砂移動を考慮して被害関数を提案した．また，震災での経験・教訓を生かすことによる災害伝承のモデル化を模索しながら，被害の軽減のための予測結果の利活用方法を検討した．具体的には，気仙沼市において，過去の津波災害の伝承と住民意識や東日本大震災当日の対応との関係などをアンケート調査および，仙台市長命ヶ丘連合町内会会で実施された小中学校との合同防災訓練設計支援および実施満足度調査も実施した．2016年台風10号の被災地（岩手県岩泉町）について，歴史，河川工学，地盤工学の観点から分析を進めた．</p>	



## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	【情報】 自然災害アーカイブシステムの構築・運用
エ リ ア 長	佐藤 健・教授
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>情報エリアは、アーカイブ、災害統計、防災教育・人材育成の3ユニットで構成されており、各ユニットのミッションに応じたアクティブな活動を展開していると同時に、多くのメンバーがエリア内の他ユニットの副メンバーとなっているため、ユニット間連携が推進しやすい状況となっている。さらなる学際研究を展開するために、情報基盤としての自然災害アーカイブシステムの構築に加えて、その効果的な利活用のモデルについてエリア全体で検討している。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	アーカイブユニット
ユ ニ ッ ト 長	川島 秀一（教授）
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>川島 秀一、佐藤 大介、柴山 明寛、蝦 名裕一、天野 真志（平成29年7月転出）、ボレー・セバスチャン、池田 菜穂、今村 文彦、伊藤 潔、佐藤 翔輔、兪 志前、エリザベス・マリ、定池 祐季</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>本ユニットでは、震災・歴史資料アーカイブ構築と国際化に向けて、①自然災害全般の資料の収集・整理・保存・公開の実施、②国内外の関係機関と連携の実施、③その他関連事項の実施、などを行った。①に関しては、東日本大震災の復興関係の記録の収集、過去の自然災害の記録の収集、古文書等の記録の収集を3万点以上行った。②国内外の関係機関と連携としては、人間文化機構と神戸大学とで「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」と2018年1月26日に協定を提携した。また、関連して2018年2月10日に「歴史が導く災害科学の新展開」シンポジウムを開催し、当ユニットからは川島秀一教授が「三陸沿岸の災害文化」と題して報告を行った。また、報告書を3月30日に発行した。国際機関との連携としては、2017年11月に開催した世界防災フォーラム2017の中で災害アーカイブのセッション「The Needs of Digital Disaster Archives」を開催し、インドネシアやアメリカなどの研究者と国際標準化について議論を行った。2018年1月11日に毎年開催している東日本大震災アーカイブシンポジウムを実施し、国内外から150人の参加があった。③関連した事項としては、2018年3月10日に俳優竹下景子さんをお招きした語り部シンポジウム「かたりつぎ」を実施し、1,100人の参加者があった。また、各メンバーは、招待講演や基調講演を合わせて10本以上、メディア報道についても10本以上があった。</p>	

ユニット名	災害統計
ユニット長	小野 裕一・教授
<b>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</b> 主：小野 裕一、佐々木 大輔 副：江川 新一・奥村 誠・栗山 進一・丸谷 浩明・泉 貴子・サッパシー アナワット・柴山 明寛・地引 泰人・寅屋敷 哲也	
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> 2017年度は、引き続き国連開発計画（UNDP）、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社等と共同し、災害統計の整備に係る能力強化や災害統計分析のためのグローバルプラットフォームの開発、仙台防災枠組の推進に関する独立した科学的分析の実施等に向けて取組を加速させた。具体的には、災害統計グローバルデータベース（GDB）について、2018年7月初旬を目途に仮公開するべく、システム要件定義・開発を実施するとともに、国際共通フォーマットに基づく「防災白書（White Paper）」のプロトタイプについて、関係者間で検討を開始した。 また、組織構成員が災害統計に関する研究を円滑に推進できるよう、研究プラットフォームとしての機能も重視しており、災害統計に関する研究発表会の開催や、学術論文特集号の公刊等について、企画・準備作業を行った。なお、当該成果は次年度中に実現する見通しである。 さらに、東日本大震災関連統計データベースについては、昨年度に引き続き、丸谷浩明教授（防災社会システム研究分野）を中心に運用を行っており、東日本大震災に対する理解の向上及び研究の推進に有用な資料を広く一般に公開している。 以上のように、当ユニットでは、国内外の共同研究機関等と連携を密に取りながら、災害統計の発展、仙台防災枠組の実施への貢献、そして Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標、SDGs）の達成に向けて、着実に研究活動等を進めている。	
	

ユニット名	防災教育・人材育成
ユニット長	佐藤 健・教授
研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員） ----- (正) 佐藤 健、邑本 俊亮、杉浦 元亮、定池 祐季 (副) 佐藤 大介、柴山 明寛、蝦名 裕一、佐藤 翔輔、三木 康宏、稲葉 洋平	
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> アーカイブ（歴史資料・デジタル）を活用した復興教育／防災教育モデルの普及と高度化を、石巻市内の重点型実践校を中心に展開した。教育モデルの普及に伴い、石巻市教育委員会主催「復興・防災マップコンクール」の創設につながり、研究成果は日本安全教育学会を中心に発信した。また、被災地ニーズの所内共有のために、福島県の放射線教育／防災教育をテーマに、災害と健康ユニットと連携したセミナーを開催した。さらに、世界防災フォーラムでは、「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」をテーマにテクニカルセッションを企画運営し、外国人 30 名を含む 140 名の来場者のもとロールモデルを発信することができた。 また、東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8 因子 (Sugiura et al., 2015) について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度、前者について科研費の挑戦的研究（開拓）が採択され、大規模実験計画を準備中である。後者について、県内の複数の大学や高校での実践研究が進んでいる。 さらに、被災自治体職員や企業の防災担当者向け研修「3.11 からの学び塾」や、主に学校教員向けの「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」、高校生を対象とした「みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会」等の防災人材育成を実施した。加えて、宮城教育大学防災教育未来づくり総合研究センターとの相互連携・協力の実施に関する協定を締結したことにより、今後の多様な防災人材育成の促進が期待される。	

## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	【組織】被災地支援・受援を効率化する組織と技術
エ リ ア 長	越村 俊一・教授
<p>【研究の概要】被災地支援・受援を効率化する組織と技術の研究に取り組んだ。</p> <p>具体的には、災害空間情報解析ユニットにおいて、センシング技術・予測情報を活用した災害対応支援のための情報獲得、処理技術の高度化を進め、津波被害のリアルタイム解析技術、災害時のマッピングシステムの研究に取り組んだ。減災・復興支援技術ユニットにおいて、不確実かつ時々刻々と変化する状況に対して、限られた資源、人員をやりくりするための意思決定方法のあり方に着目し、災害対応・復旧・減災地域づくりにおける様々な意思決定を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を進めた。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興支援技術
ユ ニ ッ ト 長	奥村 誠・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>(主担当) 奥村 誠・教授、水谷 大二郎・助教</p> <p>(副担当) 杉浦 元亮・教授、井内 加奈子・准教授、平野 勝也・准教授</p>	
<p>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</p> <p>災害対応・復旧・減災地域づくりにおける様々な意思決定を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を行う。その際、限られた情報、錯綜し相矛盾する情報しか入手できない中、時々刻々と変化する状況に対して、手遅れにならない対応をとるために、限られた資源、人員をやりくりするための意思決定方法のあり方に着目している。2017年度は、新しいスタッフに水谷助教が加わり、統計分析、最適化手法の応用方法について議論を進めた。また、人道支援物資配送、津波避難計画、最適復興土地利用計画を対象に、数理計画手法、マルチエージェントシミュレーション手法、空間分析手法によるモデル化を試み、その内容を口頭発表・論文発表した。査読付きプロシーディング、論文は以下の3編である。</p> <p>山口裕通・奥村誠・金田穂高・土生恭祐：携帯電話 GPS 情報から分かる 熊本地震による行動パターンの被災・回復過程, 2017.12, 土木学会論文集 D3, 73(5), pp. I_105-I_117. DOI: <a href="https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_105">10.2208/jscejpm.73.I_105</a></p> <p>奥村誠・片岡侑美子・金進英：津波遭遇リスクを最小化する自動車避難最適化モデル, 2017.12, 土木学会論文集 D3, 73(5), pp. I_1083-I_1092. DOI: <a href="https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_1083">10.2208/jscejpm.73.I_1083</a></p> <p>R.Das and M.Okumura, Analysis of the Effect of Different Demand Trends in Deterministic Relief Inventory Model, 2017.9, Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.11 (CD-ROM)</p> <p>さらに、他機関研究者との共同研究体制を構築し、次の2つの科学研究費を受けて、共同研究を進めた。</p> <p>(1) 緊急支援物資ラストワンマイル問題（東工大：花岡，海洋大：久保，上智大：伊呂原，海上安全研：間島 etc）→2017-19年度基盤研究（B）代表花岡教授が採択され SPRINT 手法を用いた課題整理の研究会を実施した。</p> <p>(2) 福祉施設を軸とした避難体制の改善（平野，井内，千葉大：村木 etc）→2017-19年度挑戦的研究代表奥村が採択され、特に自動車を利用する津波避難計画モデルに関する研究を推進した。</p> <p>これらの研究成果は、まだ実社会に反映される段階にはないが、震災後の復興事業を進める前提として応急的に作成された避難計画や災害対応計画の見直し時期が到来してきており、実務に反映してもらえるように国土交通省東北地方整備局などを通してアウトリーチを進めている。</p>	

ユニット名	災害空間情報解析
ユニット長	越村 俊一・教授
研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）	
越村 俊一（主）、有働 恵子（主）、Erick Mas（主） 奥村 誠（サブ）、富田 博秋（サブ）、木戸 元之（サブ）、川田 佳史（サブ）	
<p>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</p> <p>概要：社会の災害に対する回復力（レジリエンス）の向上に資するため、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、被害の全容を迅速に予測・把握するためのシミュレーション・リモートセンシング技術を高度に融合し、被害の全容から必要な支援の質と量を明らかにするための広域被害把握技術の深化に取り組んだ。</p> <p>(1) 本学理学研究科、サイバーサイエンスセンター、大阪大学等との連携および産学連携研究により、複数の地震情報や地殻観測情報を利用した高精度リアルタイム津波浸水・被害予測技術を実用化し、大学発ベンチャー企業を設立、事業化を果たした。</p> <p>(2) 災害ビッグデータの総合的解析を、JST CREST のプロジェクトにおいて、本学情報科学研究科、東京大学、名古屋大学、徳島大学、JAMSTEC、防災科学技術所との共同研究を推進した。その成果が高く評価され、JDR Award を受賞した。</p> <p>(3) リモートセンシングによる浸水域、地形変化、建物被害の広域把握を目的とした、機械学習による画像解析手法を開発し、その有効性を実証した。その成果として、2017年11月のWorld Bosai Forumで「地球観測技術の 災害対策・災害対応への連携的な活用」をテーマとした特別セッションを主催し、地球観測や宇宙技術を基盤とした技術を防災の取組に導入することの意義について協議した。</p> <p>(4) 2011年地震津波の被災3県（岩手、宮城、福島）の砂浜回復状況の解析、将来の気候変動シナリオに対応した砂浜海岸の浸食予測を行い、シミュレーション、リモートセンシングデータの利点を生かした、沿岸環境の長期的な変化の抽出技術の開発に取り組み、高い評価を得た。</p> <p>(5) 科研費基盤Sの研究を推進し、災害医療分野との連携研究を本格的に取り組んだ。広域被害把握の結果から、医療施設の稼働状況を推定するためのモデル構築に取り組んだ。</p> <p>(6) ドイツ航空宇宙センターとの部局間協定を更新し、災害リモートセンシングの国際共同研究を推進した。新たに、ペルー国立工科大学日本・ペルー地震防災センターとの部局間協定を締結し、南米における津波防災に関する国際共同研究を開始した。</p>	

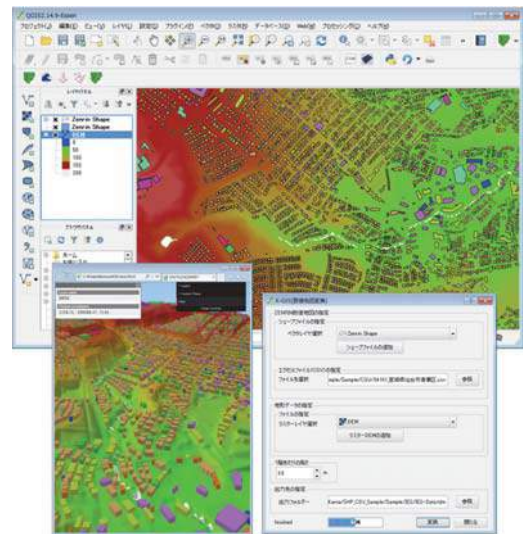


## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	【もの】 構造制御技術と多重防御技術による地域・都市レジリエンスの向上
エ リ ア 長	寺田 賢二郎・教授
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>地震観測網の活用による地震動評価・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと、革新的な構造制御技術の高度な融合による地震時の人的被害と社会資本の財産的価値毀損を最小化する技術を提案・開発する。また、多重防御機能を備えた社会基盤設計のツールとして、数値シミュレーション援用による確率論的なリスク評価技術および情報基盤プラットフォーム (X-GIS) の開発を行うとともに、防災教育・防災意識の向上・総合減災における意志決定に資する災害情報の見える化技術を提案する。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	人的・物的被害軽減
ユ ニ ッ ト 長	五十子 幸樹・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>主：五十子 幸樹，源栄 正人，大野 晋</p> <p>副：丸谷 浩明，村尾 修，佐藤 健</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>1. 研究概要</p> <p>地震観測網の活用による地震動評価・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと、革新的な構造制御技術の高度な融合による地震時の人的被害と社会資本の財産的価値毀損を最小化する技術を提案・開発する。</p> <p>2. 研究成果</p> <p>東北地方に展開した微動から強震まで連続観測可能な建物内リアルタイム観測網及び仙台市内のトリガー型地域強震観測網の観測記録を用いて自治体庁舎の通常時と地震時における振動特性の相違について検討し査読論文として発表した。また、地域版早期地震警報を目的として前線波形情報とデータ同化手法によるリアルタイム強震動予測手法について国際会議で報告した。</p> <p>長周期構造物において懸念されている地震時の過大応答変位の低減に有効な複素減衰をセミアクティブに実装するための双一次型の因果的デジタルフィルタについて、地震動観測から得られる中心応答周波数の情報に適合させる手法を開発し、日米共著論文として国際 Journal に発表した。この他、関連論文として国際 Journal に1編と日本語査読付き論文1編及び国際会議論文4編を発表した。</p> <p>3. 波及効果など</p> <p>モンゴルでは構造ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムを展開している。中国では、北京の新国際空港プロジェクトに当ユニットで開発を進めている振動制御装置のアイデアが取り入れられる予定。</p>	

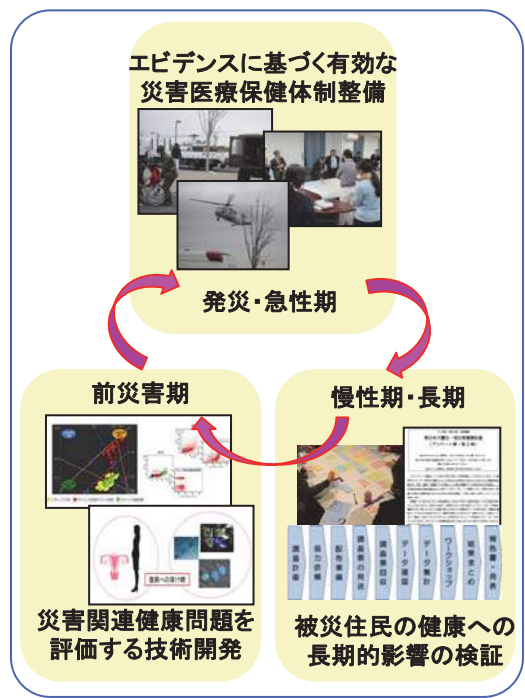
ユニット名	レジリエント社会基盤
ユニット長	寺田 賢二郎・教授
研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）	
<p>(主) 森口 周二・准教授, 櫻庭 雅明・特任教授 (客員)</p> <p>(副) 村尾 修・教授, 有働 恵子・准教授, 大野 晋・准教授, エリック・マス・准教授, 王 欣・助教, 杉安 和也・助教 (リーディング大学院)</p>	
【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】	
<p>1. X-GIS (災害シミュレーション機能を実装した災害情報基盤プラットフォーム) の機能強化</p> <p>これまでに進めてきた X-GIS に地震動解析機能を追加することを目的として, 東京大学で開発された IES (Integrated Earthquake Simulator) が動作する環境の整備を進めた. 右図は IES に関するシステム画面の例である. 地質情報や建物情報などの取り込みなどについて課題が残っており, 完成までにはまだ時間を要するが, 結果の出力方法やシステムインターフェイスなどに関してユニットメンバーで議論を重ねており, 着実に X-GIS の機能強化を進めている.</p>	
<p>2. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の開発</p> <p>確率論的津波リスク評価について, 沿岸部の都市間のリスクの相関までを含めて分析できる手法について研究を進めた. また, 落石についても, 防護工の最適設計のための評価技術の基礎的な検討を行った. これらの技術は数値解析と確率論を融合した技術であり, 国内外の学会で発表するとともにジャーナル論文としても公表している.</p>	
<p>3. IMIDeS (災害科学情報の多次元統合可視化システム) による防災情報の可視化に関する研究</p> <p>防災意識を向上させる災害シミュレーションの可視化について, 心理学や映像の専門家と共同で研究を進めた. 災害研共同研究プロジェクトの一環として半年前に開始した研究であり, 現段階では具体的な成果はないものの, 研究は順調に進んでおり, 今後の発展を見込んでいる s.</p>	



## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	健康プロジェクトエリア（広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立）
エ リ ア 長	富田 博秋・教授
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>本エリアでは、科学研究を基盤とするエビデンスに基づく広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立に向けて、(1) 東日本大震災を含む大災害の被災住民の健康への長期の影響の検証研究、(2) 災害医療保健対策の効果の科学的検証研究、(3) 災害に関連する健康問題の客観的評価や改善のための技術開発研究の3つのアプローチからなる災害と健康プロジェクトユニットの取り組みが行われた。</p>	

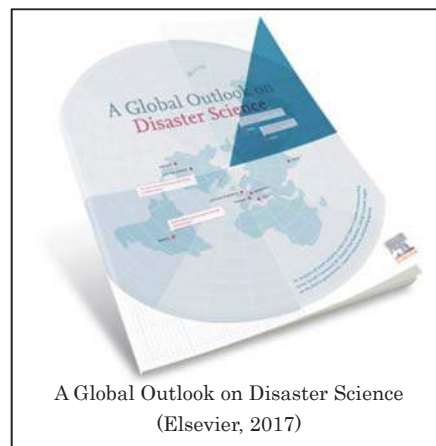
ユ ニ ッ ト 名	災害と健康プロジェクトユニット
ユ ニ ッ ト 長	富田 博秋・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>正：伊藤 潔・江川 新一・栗山 進一・児玉 栄一・千田 浩一・富田 博秋・小坂 健（兼,歯）・細井 義夫（兼,医）・奥山 純子・三木 康宏・稲葉 洋平・佐々木 宏之・兪 志前・飯田 溪太・齋藤 昌利（講師,兼,病）・鈴木 敏彦（兼,歯）． 副：今村 文彦・小野 裕一・越村 俊一・佐藤 健・杉浦 元亮・寺田 賢二郎・丸谷 浩明・邑本 俊亮・佐藤 翔輔・ボレー セバスチャン</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p><b>【研究の概要】</b> 本プロジェクトユニットが取り組む主要な3つの課題として、(1) 東日本大震災を含む大災害の被災住民の健康への長期の影響の検証研究、(2) 災害医療保健対策の効果の科学的検証研究、(3) 災害に関連する健康問題の客観的評価や改善のための技術開発研究を推し進めた。<b>【具体的な成果】</b> 乳幼児を対象とした全国調査から被災地域の子どもの健康増進に重要な様々な要件が抽出された他、被災地域対象の縦断研究から成人や子供の精神的健康増進に重要な要件が抽出された。また、防ぎ得た死対策、新興感染症への住民教育のあり方に関する研究成果が得られ、熊本地震前後の精神科医療機関の防災・被災実態調査が実施された。これらの成果は H29 年度中、20 編以上の国際学術誌に掲載された。また、他領域研究者を招いて8回 に渡って「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催する等学際連携を推し進めた。その一環として疫学データを元にした防災工学・防災教育学と医学領域の学際研究による津波避難訓練の効果の実証を行い、エビデンス・ベースト防災学の端緒を開いた。</p> <p><b>【波及効果】</b> 世界防災フォーラムを始めとする10件以上の国際シンポジウム等での講演・イベントを通じた国際発信、熊本-宮城連携フォーラムを始めとする20件以上の地域向けの講演・イベントを通じた地域発信を行なった。また、5件以上の調査・研究の成果がメディアに取り上げられた。</p>	

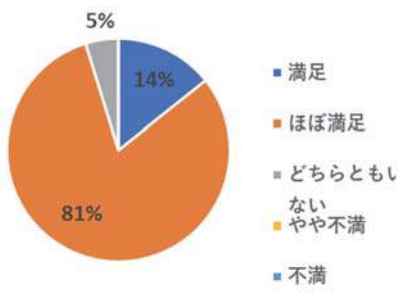


## 2017年度 プロジェクトエリア・ユニット研究成果報告

エ リ ア 名	総合減災プロジェクトエリア
エ リ ア 長	丸谷 浩明・教授
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>エリア会合を毎月定例で開催し、減災や復興のあり方やその社会実装について議論し、メンバーの研究内容の発表と意見交換を継続している。2018年1月17日に当研究所多目的ホールで、研究所主催（当エリア事務局）の「実践的防災学シンポジウム すこやかな暮らしの復興～復興のその先を見据えて～」を開催し、住まいと生活の復興についての発表と議論を行った。また、当エリアのホームページも充実し、英語のページも立ち上げた。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興デザイン・プロジェクトユニット
ユ ニ ッ ト 長	村尾 修・教授
<p>研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）</p> <p>主担当：岩田 司、村尾 修、井内 加奈子、泉 貴子、平野 勝也、マリ・エリザベス・アン 副担当：寺田 賢二郎、地引 泰人、杉安 和也</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>本ユニットは、国内外の地域と都市を対象とし、被害抑止策と防災・復興計画に関する研究を進めるとともに、実践的防災学の体系化を踏まえ、災害対応の各段階に応じた様々な要素技術を有機的に連携させた総合的減災システムの提案を行うことを担っている。2017年度は、2008年四川地震、2011年東日本大震災、2016年熊本地震後の復興に関する調査研究をはじめとして、石巻や女川等における復興まちづくり・土木デザインの実践、防潮堤計画論の構築、その他 APRU を含む国内外連携活動および世界防災フォーラムの中で複数のシンポジウムの開催、東日本大震災被災地調査の支援等を行なった。また災害科学国際研究所主催の第2回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興 ～復興のその先を見据えて」を主導的に企画・運営した。さらに IRIDeS DRR Colloquium を立ち上げ、その第1回目として Anuradha Mukherji “Building local resilience: Hazard mitigation plan implementation in coastal North Carolina”を開催した。</p> <p>成果として、石巻市半島拠点部（雄勝・鮎川・北上）・石巻中心街・女川中心街の復興まちづくりデザインの向上、「宮城県東日本大震災記憶伝承・検証調査事業報告書（宮城県）」、「東日本大震災の復興状況に関する調査事業報告書（復興庁）」、「21世紀ひょうご 東日本大震災被災市町村レポート」の出版、災害科学研究の現在の状況を分析した「A Global Outlook on Disaster Science」（Elsevier 出版）の出版などがある。こうした活動を通じて、熊本地震における地域型復興住宅建設に貢献し、東日本被災地および南海トラフ地震津波対応に関する自治体との連携が深まり、国外諸機関と東日本復興関係に関する情報共有のハブの役割へと発展している。</p>	



ユニット名	減災社会実装・プロジェクトユニット												
ユニット長	丸谷 浩明・教授												
研究組織（組織構成員の氏名・正副メンバー全員）													
主担当：丸谷 浩明、寅屋敷 哲也 副担当：岩田 司、佐藤 健、五十子 幸樹、島田 明夫、佐々木 宏之、マリ・エリザベス・アン													
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> 当プロジェクトユニット（PU）は、国内外の社会に対する総合的な減災及び復興システムを研究し、実装を図る役割を担っている。当 PU 活動計画の「研究内容の横断的な把握、総合的な減災システムの社会実装方策の共同検討」に関して、エリアとして上述のとおり、減災・復興デザイン PU と合同でメンバー間の研究の意見交換を行い、また、「第 2 回実践的防災学シンポジウム」を開催、充実した議論を行うことができた。 個別研究では、活動計画の「緊急災害対応・マネジメントの研究・社会貢献」に関して、熊本大学との共同研究として熊本にて BCP 策定・改善の講習会を 2 回連続開催し、17 社 21 名の参加を得た。フォローアップの個別相談会も実施し、過半の企業が BCP の策定・改善を実践した。昨年度末に独自開発し公表した「中小企業 BCP 導入ガイド」も本講習で活用し、開催の広報に協力を得た熊本県庁にも結果報告した。 また、地方都市の帰宅困難者問題の研究を、外部資金助成を獲得して 2016 年度から継続して実施した。年度末には報告書を取りまとめ、対応・対策を簡潔に示した地方自治体向けガイドも作成したので、今後活用する予定である。さらに、活動計画の「地方自治体職員や企業の社員の教育育成への協力」では、東北地方整備局と共同で実施した「3.11 からの学び塾」の企画に継続して参加し、行政対応や災害対策本部演習の講師を担った。													
<b>講習会全般に関する感想(N=21)</b>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>感想</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>ほぼ満足</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		感想	割合	満足	14%	ほぼ満足	81%	どちらともいえない	5%	やや不満	0%	不満	0%
感想	割合												
満足	14%												
ほぼ満足	81%												
どちらともいえない	5%												
やや不満	0%												
不満	0%												

## 4 研究活動

### (3) 共同研究プロジェクト

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	防災対策における地域の相互扶助の機能に関する提案 ～日本と東南アジアとの保健学的な地域間比較研究～	研究課題	①
研究代表者	松田正己		
所属機関等・職名	東京家政学院大学・教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎松田正己(東京家政学院大学)男、○柴山明寛(災害科学国際研究所)男、栗山進一(災害科学国際研究所)男、太田勝正(名古屋大学大学院医学系研究科)男、原正一郎(京都大学東南アジア地域研究研究所)男、カニタ・ヌンタボット(タイ国コンケン大学看護学部地域保健開発研究所)女、ピラポン・ブンサワドグルチャイ(タイ国コンケン大学看護学部地域保健開発研究所)男、パニパ・チャイラート(タイ国コンケン県ナンポン病院)女、カルンピッチ・コップラトウン(タイ国コンケン県コンケン病院)女、アルニ・ジャイティエン(タイ国コンケン大学看護学部)女、オナノン・ブアラ(タイ国フアチュ・チャレンプラキット大学看護学部)女

期間	平成 29 年 5 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	900,000 円
----	----------------------------------	-----------

## 【研究の概要】

日本と東南アジアにおける地域・公衆衛生看護活動の地域間比較研究を通じ、日本では失われつつある地域相互扶助の機能を再考し、災害時のみならず平時においても適用可能な、地域住民による自助努力型健康維持・増進・管理の手法を提案する。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

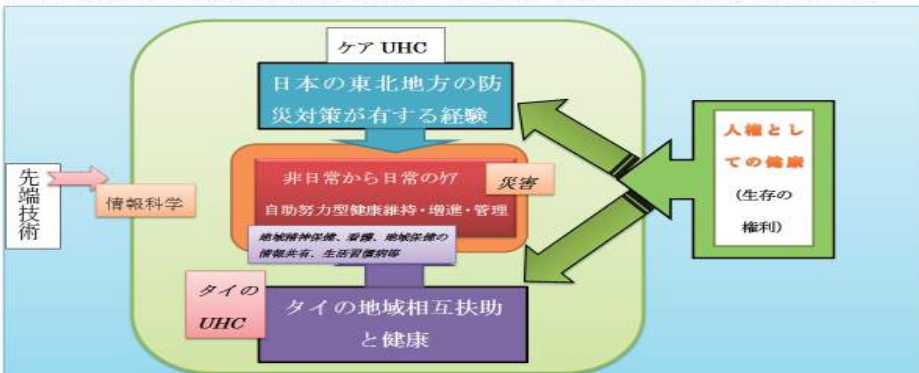
**学術的寄与：**変動する社会経済環境の中で、PNC/UHC の研究が国際的に進められている。本研究は、非常時における、弱者（高齢者、障害者、子供等）の生存が問われているわが国の現状を、保健学・看護学・情報科学・社会学などの視点から総合的に捉え、日本の PHC/UHC に関する研究の推進に資する。

**実践的防災政策：**共同研究者の Khanitta らは、タイの地方行政と地域保健領域で開発プロジェクトを行っており、その中で防災対策も重要な柱として位置づけられている。特に相互扶助の内容を、日本の東北地方の防災対策が有する経験と照らし合わせ、災害関連健康問題の評価技術開発や、災害医療・保健体制の実態調査から課題抽出などを行うことにより提言を行いつつある。

## 【図表】

タイの地域相互扶助と日本の東北地方の防災対策の経験知

非日常（災害）／日常、分野別の課題（地域精神保健、看護、地域保健の情報共有、生活習慣病等）



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 8 月 21 日(3 人)</li> <li>・平成 30 年 3 月 27 日(7 人)</li> </ul>	S303 S303	4 時間 2 時間
延べ訪問回数      2 回		合計 6

成果として発表した論文
松田正己／親密性について考える／地域保健／49 巻 3 号／2018 年／(5 月予定)／査読無／「依頼原稿」／国内

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成 29 年 8 月 23 日/研究会/国内/対象者(研究者、社会人など)/日タイ地域防災保健研究会/福島県内の郡山、会津などから市町村・県の行政保健師、保健師学校教員が集まり、公衆衛生学、情報科学の研究者が主催して、タイ(2 名)の地域防災保健活動と日本の住民参加、相互扶助について意見交換した。/10 名</li> <li>② 平成 29 年 8 月 25 日/研究会/国内/対象者(研究者)/生存科学研究会/生命倫理学、公衆衛生学、情報科学の研究者とタイ(2 名)が、地域防災保健活動と日本の高齢化について意見交換した/6 名</li> <li>③ 平成 30 年 3 月 28 日/研究会/国内/対象者(研究者、社会人)/日タイ地域防災保健研究会/岩手県山田町の行政保健師、行政官と、公衆衛生学研究者が主催して、タイ(6 名)の地域防災保健活動と日本の住民参加、相互扶助について意見交換した。/15 名</li> <li>④ 平成 30 年 3 月 30 日/研究会/国内/対象者(研究者、社会人、学生)/日タイ地域防災と食の健康研究会/公衆衛生学、情報科学の研究者が主催して、管理栄養士学生が集まり、タイ(6 名)の地域防災と食の健康活動と日本の食育、相互扶助について意見交換した。/15 名</li> </ul>

合計 ( 4 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	熊本地震の震災アーカイブ構築に関する研究	研究課題	①
研究代表者	山尾 敏孝		
所属機関等・職名	熊本大学大学院先端科学研究部・シニア教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎山尾敏孝（熊本大学）男、○柴山明寛（災害研）男、土屋修（災害研）男、柿本竜治（熊本大学）男、渡邊 勇（熊本大学）男、稲本義人（熊本大学）男、松本和夫（熊本県）男

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	810,000 円
-----	-----------------------------------	----	-----------

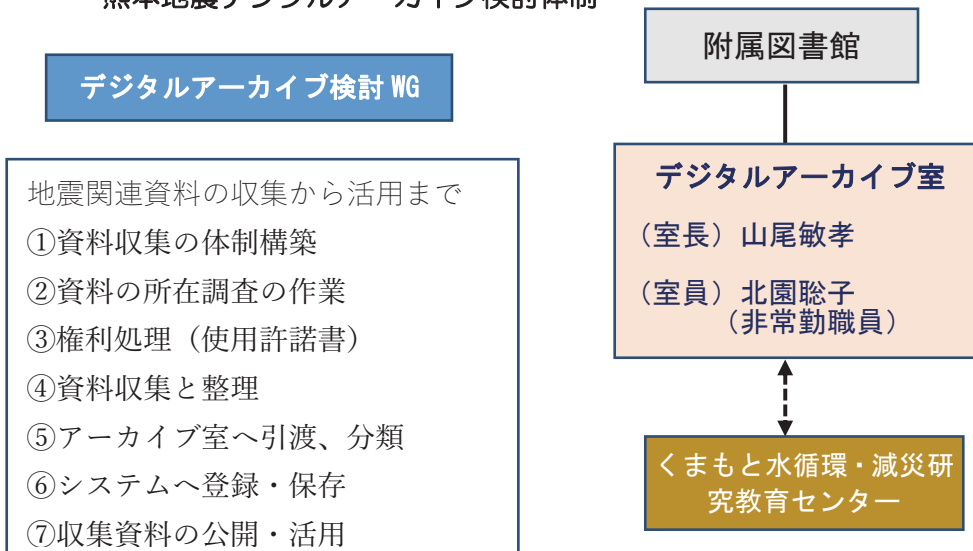
## 【研究の概要】

本研究では、当初、熊本県が構築した震災アーカイブシステムに熊本地震に関する映像や写真および書類等の多くのデータを収集して入力する予定であった。しかし、システムとしての活用やデータの利活用「≠」に関する方針等が大学と相異したため、独自のシステム構築の方法を模索した。そして、今後の防災・減災教育や活動に資するための震災記録の利活用および災害研のみならず国内外の研究機関との連携を目指し、広く利活用する方法について、昨年を引き続いて研究を行なった。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究成果として、熊本地震における地震関連資料について熊本大学内のみならず、学外の研究機関からも収集することができた。震災アーカイブシステムの構築には、熊本県と熊本大学が協力して一元化したシステムを目指したが、その目的が異なることと、求めるシステムの機能が異なることがわかった。そこで、東北大学の災害科学国際研究所の利用形態やシステムの機能がもっとも熊本大学に相応しいことがわかり、大学独自のシステム構築をすることになった。しかし、予算の関係で次年度に構築することになった。本年は地震関連資料を 5 万点以上収集し、整理を実施した。大学としては震災アーカイブを今後の防災・減災対策あるいは研究・教育に大きく寄与することを目的にアーカイブの利活用についての検討も行った。さらに、構築された熊本地震のアーカイブと東日本大震災のアーカイブ及海外の研究機関との連携を行うための準備を行った。熊本地震のアーカイブは今後の災害アーカイブ構築のモデルとなり、東日本大震災のアーカイブの深化にも貢献できたと思われる。

## 【図表】 熊本地震デジタルアーカイブ検討体制



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成29年7月28日～平成30年7月29日 (訪問者数2人)	1F多目的ホール, 3F研究室 会議室1	8時間
・平成29年11月26日～平成29年11月29日 (訪問者2名)	世界防災フォーラムに参加 (スタディーツアーとセッション講演)	16時間
・平成30年1月10日～平成30年1月12日 (訪問者数2人)	1F多目的ホール, 3F研究室	7時間
・平成30年3月9日～平成30年3月10日 (訪問者数2人)	かたりつぎ(多賀城市)に参加	4時間
延べ訪問回数 4回		合計 35時間

成果として発表した論文
<p>・本共同研究に関わって発表した、学術雑誌、国際会議 proceedings、大学紀要などで発表した論文について、発表された順番に次の項目を記入して下さい。</p> <p>著者名／表題／雑誌名／巻号／発行年／頁／査読の有無／国際国内の別／IFがあるものはIF値(項目はカンマないし句読点で分けてください)</p> <p>・著者のうち特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー, コレスポンディングオーサー, ラストオーサー等)をした著者に下線を引いてください。</p> <p>・書評論文も含めてください。ただし単なる書籍の紹介記事は「総説・解説」に含めてください。</p> <p>・掲載誌・学会からの依頼原稿の場合は、「査読の有無」の後に「依頼原稿」と記入してください。</p> <p>・該当する成果のない場合は、「合計」欄に数字の「0」を入力してください。</p>

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計 ( ) 件 B取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	水損被害を受けた紙媒体資料の歴史情報復旧に向けた検討	研究課題	①
研究代表者	松下 正和		
所属機関等・職名	神戸大学地域連携推進室・特命准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎松下正和（神戸大学）・男、○佐藤大介（災害研）男、天野真志（国立歴史民俗博物館）男、甲斐由香里（熊本博物館）女、内田俊秀（京都造形芸術大学）男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	798,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

地震による家屋倒壊後の雨漏りや暴風雨により、生物被害を受け固着した大量の水損古文書について、真空凍結乾燥法等の様々な保存修復技術を適用することで想定される古文書の物性変化を抑制し、歴史情報として維持すべき情報の抽出と、古文書としての形態を保全するための方法論を検討し、簡易的な災害対策技術を検討する。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

昨年度の研究では試験段階にあった飽和水蒸気加熱による固着資料の展開法を、今年度は 2016 年 4 月発生の熊本地震による被災資料（熊本市教育委員会保管分）のうち、被害のあった家屋で水損し固着した資料で試行した。その結果、和紙・洋紙ともに展開が可能であることが判明し、滲みや色移りといった歴史情報の消滅を抑制可能であることが確認できた。2 年にわたる研究により、水道水や市販の蒸し器と IH キッチンヒーターで水蒸気加熱するだけで、固着した和紙製・洋紙製固着歴史文書の展開が容易に行え、劣化を抑制しつつ文書情報を判読することが可能であることが明らかとなり、人的・金銭的コストを多く投入できない未指定文化財の応急処置現場において、今後広く普及・活用されることが期待される。

## 【図表】



▲2016 年熊本地震での水損古文書

臭気の緩和：健康被害対策  
固着の緩和：作業効率化



▲市販蒸し器内で固着被災資料の飽和水蒸気加熱



文字滲みや色移りがなく固着展開と文字判読が可能に

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 6 月 2 日 (1 名)</li> <li>・平成 29 年 6 月 21 日 (1 名)</li> <li>・平成 29 年 7 月 29 日 (2 名)</li> <li>・平成 29 年 8 月 29 日 (1 名)</li> <li>・平成 30 年 2 月 10 日 (1 名)</li> </ul>	人間・演習室, 保管庫 真空凍結乾燥機 人間・演習室 人間・演習室, 保管庫 人間・演習室	3 時間 1 時間 6 時間 3 時間 3 時間
延べ訪問回数 6 回		合計 16 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
松下正和・天野真志・内田俊秀「飽和水蒸気加熱による汚損古文書の脱臭」(文化財保存修復学会第 39 回会 大会ポスター発表、於金沢歌劇座、2017 年 7 月 1 日 (土))

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	東日本大震災および熊本地震における仙台市の災害対応に関するエスノグラフィー・アーカイブスの構築	研究課題	①
研究代表者	田中 聡		
所属機関等・職名	常葉大学大学院環境防災研究科・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎田中聡(常葉大学大学院環境防災研究科)男、○佐藤翔輔(災害研)男、重川希志依(常葉大学大学院環境防災研究科)女、阿部郁男(常葉大学大学院環境防災研究科)男、河本尋子(常葉大学大学院環境防災研究科)女

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	688,000 円
-----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

本研究では、昨年度のデジタル方式とアナログ方式を連携したアーカイブス構築法を応用し、東日本大震災ならびに熊本地震における仙台市の災害対応についてエスノグラフィー・アーカイブスを作成する。さらに仙台市役所の熊本地震での職員応援の事例を分析し、教訓の伝達のために有効な災害アーカイブスのあり方について提案をおこなう。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

- 1) 仙台市職員の災害対応について、危機管理、生活再建支援、保健福祉、災害廃棄物、仮設住宅、ガス事業など8テーマについてエスノグラフィー調査を実施し、アーカイブスを作成した。記録冊子は ISBN を付与し国会図書館および東北大学災害研の資料室に寄贈した。
- 2) 東日本大震災で得られた教訓を熊本地震の被災地で活用するための課題や工夫についても調査した。
- 3) 最後に仙台市役所など関係機関と合同でシンポジウムを開催し、災害アーカイブスの活用方法や教訓の伝達の方法について議論した。

## 【図表】

### 災害アーカイブスの 社会実装にむけた 多様な試み



ワークショップ



記録冊子(読み物)



朗読

### 映像



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 7 月 29 日(訪問者数 1 名)</li> <li>・平成 29 年 10 月 27 日(訪問者数 2 名)</li> <li>・平成 30 年 3 月 18 日(訪問者数 1 名)</li> </ul>	津波工学研究室 津波工学研究室 1F 多目的ホール	4 時間 4 時間 6 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 14 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害エスノグラフィシリーズ 20 東日本大震災 仙台市職員の災害対応編 仮設住宅の対応 ISBN978-4-908792-17-5</li> <li>・災害エスノグラフィシリーズ 21 東日本大震災 仙台市職員の災害対応編 生活再建支援業務 ISBN978-4-908792-18-2</li> <li>・佐藤翔輔, 今村文彦: 災害デジタルアーカイブを利活用した被災地における防災教材の作成過程に関する実態分析—多賀城市防災教育副読本資料集作成業務の参与観察とインタビュー調査をもとに—, 災害情報, No. 15, pp. 41-51, 2017.</li> </ul>

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>2018 年 3 月 18 日/シンポジウム/国内/研究者、社会人、学生/あれから 7 年スペシャル —仙台市職員の震災体験を 100 年後の人たちへ/仙台市職員の体験を「朗読」や「映像」などでお伝えするとともに、現在、東北大の助成を受け、常葉大大学院、東北大災害科学国際研究所、Team Sendai のプロジェクトメンバーにより実施している共同研究の成果の一部をご紹介します。震災から 7 年が経過し、「風化」の勢いは止まりません。市民生活の復旧・復興に深く関わった職員の体験を通じ、防災をともに考え未来に備える一日とします。/100 名</p> <p>なお、本シンポジウムや成果物を活用した仙台市職員研修について多数の報道がなされた。</p> <p>河北新報, 2018.3.19 「被災体験若手につなぐ 仙台市職員有志が共有イベント」(常葉大学, 東北大学災害科学国際研究所)</p> <p>朝日新聞, 2018.3.19 「仙台市で朗読イベント」(仙台市, 東北大学災害科学国際研究所)</p> <p>朝日新聞, 2018.4.6 「東日本大震災 震災対応の知恵、共有」(仙台市, 田中聡)</p> <p>河北新報, 2018.04.12 「&lt;チームセンダイ&gt;先輩の被災体験、新人に継承 朗読やゲームで心構え共有」(仙台市, 佐藤翔輔)</p> <p>ほか, NHK, 仙台放送</p>

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	津波デジタルライブラリ管理運用拡張のためのクラウドソーシング技術の応用	研究課題	①
研究代表者	有次 正義		
所属機関等・職名	熊本大学大学院先端科学研究部・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎有次正義（熊本大学）男、○柴山明寛（災害研）男、森嶋厚行（筑波大学）男、杉本重雄（筑波大学）男、今井さやか（相模女子大学）女

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	737,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 本研究では、東北大学災害科学国際研究所で物理的なサーバ管理を行っている津波デジタルライブラリ（TDL）の持続可能な運用及び質の高い TDL コンテンツの作成・管理を実現するために、クラウドソーシング技術を応用した検討及び研究を実施する。さらに、新たなコンテンツ作成が行われていなかった TDL のコンテンツ拡充を図るとともに、TDL を国際的価値のある津波アーカイブとする方策についても検討する。


**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 今年度は、質の高い TDL コンテンツの作成・管理をクラウドソーシング技術で応用が可能であるかを検討し、共同研究者が開発・管理・運営しているクラウドソーシングプラットフォーム（Crowd4U）での実現について技術的課題を明らかにした。技術的課題については、災害当時の地名と現地名が異なる問題など、があることがわかった。これらの議論と平行して、現状の TDL のサイト及びコンテンツ内容を整理し、クラウドソーシング技術の適用を行うための基礎調査を実施した。さらに、「平成 15 年度津波が予想される場合の船舶安全確保に関する調査研究報告書」社団法人日本海難防止協会について、デジタル化を行い、TDL のサイト上に公開し、コンテンツ拡充を図った。これらの成果の一部をインドネシア LIPI で開催された国際会議において、キーノートとして講演した。国際会議で発表したことにより、TDL の認知度が向上した。



津波デジタルライブラリ



**②質の高いコンテンツにするための方法論の検討, 旧地名などの処理方法の検討**



クラウドソーシング

**①クラウドソーシング用のコンテンツ生成方法の検討**



**③クラウドソーシングで作成されたコンテンツの反映方法の検討, 信頼性の検討**



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 8 月 2 日(5 人)</li> <li>平成 29 年 8 月 25 日 (1 人) 熊本大学に訪問</li> <li>平成 30 年 3 月 2 日 (10 人) 筑波大学に訪問</li> </ul>	小会議室 2, TDL データベース 熊本大学, TDL データベース 筑波大学, TDL データベース	7 時間 2 時間 5 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 14 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>Masayoshi Aritsugi</u>, Sayaka Imai, Yoshinari Kanamori, Atsuyuki Morishima, Akihiro Shibayama, Shigeo Sugimoto, IMPROVEMENTS TO TSUNAMI DIGITAL LIBRARY, Lokarkarya Nasional Dokumentasi dan Informasi, 2017 年 10 月, 有, 国際</li> </ul>

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 8 月 25 日, 研究会, 国内, 対象者 (研究者, 行政, 自治体, 企業, 一般), 第 9 回 DAN (Digital Archive Network) ワークショップ, 災害アーカイブについて報告が行われた他, アーカイブの利活用について車座で議論を交わした, 40 人</li> <li>・平成 30 年 3 月 2 日, 研究会, 国内, 対象者 (研究者, 企業, 一般), 震災・災害アーカイブ合同ワークショップ. 本プロジェクトの他, 科研費「デジタルアーカイブ間の複合的・横断的連携によるコンテンツの利活用性高度化の研究」JSTCREST「CyborgCrowd: 柔軟でスケラブルな人と機械の知力集約」との 3 プロジェクト合同で, 災害・震災のアーカイブにして議論をした. 11 名</li> </ul>

合計 ( 2 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	岩手県沿岸部における災害資料の整理・アーカイブと災害研究	研究課題	①
研究代表者	奥村弘		
所属機関等・職名	神戸大学大学院人文学研究科教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎研究代表者：奥村弘（神戸大学大学院人文学研究科）男、○災害研担当教員：蝦名裕一（災害科学国際研究所）男、大林賢太郎（京都造形芸術大学）男、川内淳史（神戸大学大学院人文学研究科）男、熊谷誠（岩手大学地域防災研究センター）男、小野塚航一（神戸大学大学院博士課程後期）男、加藤昭恵（神戸大学大学院博士課程後期）女

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	899,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

本研究は、岩手県大船渡市や釜石市唐丹地区の歴史資料を対象として、東日本大震災による被災史料の保存修復作業や、近年新たに確認された史料群の整理・目録化作業を進めるとともに、作業を通じて得られた歴史情報から、同地域で発生した歴史災害やその後の災害復興・地域開発について研究・分析を展開する。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

昨年度実施したクリーニング作業に引き続き、今年度も歴史資料ネットワーク（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター内）の協力を得て、大船渡市被災文書のデジタル化作業を実施した。作業実施日数は計 11 日間、のべ参加者数は 69 名であり、デジタルカメラによる資料撮影を約 2500 コマ実施した。その結果、被災地域に残されていた資料についてその活用への途が開かれるとともに、その分析を通じて大船渡湾周辺の地域開発に関するいくつかの知見を得ることができた。また資料保全活動の中で、大判の絵地図を小人数かつ省スペースで安定的に撮影する手法として、レールスライダースとリモートシャッター機能搭載のカメラを利用した撮影方法を確立した。成果の波及効果としては、シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」には主幹として関わり、報告者として熊谷から旧唐丹村文書の分析、小野塚が大船渡市被災文書の修復について報告し、奥村からコメントとして本研究の成果について述べ、同シンポジウムの内容は 2 月 16 日朝日新聞文化欄に掲載された。

## 【図表】

### ■レールスライダースとリモートシャッター搭載カメラを利用した大判史料の撮影手法の確立

#### 1. 撮影手法確立の経緯

これまで、歴史史料のなかでも絵地図など大判の史料は、その撮影時に大きさや経年劣化による脆さを考慮するする必要があり、困難を伴うケースが多くみられた。今回の唐丹村行政文書にも複数の絵地図が含まれており、これらの史料を傷めないように配慮しながら、効率よく撮影する手法を検討し、レールスライダースとリモートシャッター搭載カメラを利用した撮影手法を確立するに至った。以下に、この撮影手法の特長を示す。

#### 2. 撮影手法の特長

- ・レールスライダースの水平移動によって、史料とカメラ間を等距離に保ちながら史料の全面を撮影できるため、画質が均質に保たれる。
- ・撮影台の上で史料を折り返ししながら撮影できるため、史料を大きく広げられるスペースがなくても撮影が可能である。
- ・撮影台に置いて撮影できるため、壁掛け掲示などにより史料へ負担がかかり、破損するなどの影響を防げる。
- ・リモートシャッター搭載カメラを利用することでタブレット上でのシャッター操作が可能となり、カメラに触れることで生じる撮影時のブレをなくすることができる。

補足. この手法を利用して撮影した複数枚の写真を材料に、画像（結合）ソフトを利用して、一枚の大判史料として完成させることも可能である。



Fig 1. レールスライダースとカメラの設置風景



Fig 2. レールスライダースと設置された大判絵地図

## 津波被災文書のデジタル化作業(岩手県大船渡市)



撮影作業の様子(2017年5月22日)

- ・作業日数: 11日間(2017年4月～18年3月)
- ・作業参加者数: のべ49名
- ・撮影資料画像数: 約2500コマ
- ・被災地域に残されていた資料についてその活用への途が開かれた。
- ・被災資料の分析を通じて、地域社会の側から見た大船渡湾の開発に関する新たな知見が得られた。



撮影した資料例①(岩手県綾里村村長より日露戦争出征者への手紙、1905年3月11日)



撮影した資料例②(大船渡湾開発赤崎村同盟会規則、1906年9月17日)



撮影した資料を用いた古文書講座

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 11 月 26-27 日 (熊谷)	歴史史料データ保存・閲覧用ストレージ	12 時間
・平成 29 年 12 月 15-16 日 (熊谷)	同上	10 時間
・平成 30 年 2 月 10-11 日 (熊谷・小野塚・加藤・跡部)	同上	14 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 36 時間

### 成果として発表した論文

小野塚航一、大船渡被災資料の紹介とその可能性、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書 2017「歴史が導く災害科学の新展開」、2018.3.30、25～27p、査読無、国内  
熊谷誠、唐丹村行政文書にみる昭和三陸津波への対応、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書 2017「歴史が導く災害科学の新展開」、2018.3.30、28～31p、査読無、国内

学術論文 合計 ( 2 ) 編

### 特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

### シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

平成 30 年 2 月 10 日 / シンポジウム / 国内 / 社会人対象 / 歴史が導く災害科学の新展開 / 歴史資料の保全・活用と分離融合型の災害研究について 9 人の報告およびパネルディスカッションを実施した。 / 9 1 名

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	津波統合モデル解析の高度化	研究課題	②
研究代表者	高橋智幸		
所属機関等・職名	関西大学社会安全学部・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎高橋智幸（関西大学・男），○門廻充侍（災害研・男），○山下 啓（災害研（現ハワイ大学）・男），今村文彦（災害研・男），森口周二（災害研・男），林 晃大（災害研・男），有川太郎（中央大学・男），鈴木滉平（中央大学・男），馬場俊孝（徳島大学・男），菅原大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム・男），嶋原良典（防衛大学校・男），対馬弘晃（気象庁気象研究所・男），大石裕介（富士通研究所・男）

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	898,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

本研究は、複合的で複雑な津波挙動・被害に対する津波減災手法を確立するために、津波統合モデル解析の更なる高度化を目指すものである。そのためにまず、現状モデルの課題整理を行い、機能拡張と精度向上を図った。そして、津波複合現象のリスク評価に基づき、津波複合被害の軽減策や事後の対応計画を検討した。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

- 波源モデルの高度化**：激甚被災地の探索技術の推定精度向上を目的として、津波発生直後に限られた GPS 波浪計の観測データのみを使用した新たな津波波源推定法（特性化波源モデル推定法）を提案した（図 1）。
- 津波計算モデルの高度化**：1512 年永正津波は穴喰沖で生じた海底地滑り津波であった可能性が、地質調査及び JAGURS による高精度計算より認められ、非地震性津波の潜在性評価にとって有用な知見が得られた。
- 漂砂モデルの高度化**：三次元流体解析モデル CADMASSURF/3D と土砂移動モデルに基づく 3 次元津波漂砂シミュレータを開発した（図 2）。また、地形変化による津波ハザード及び津波被害への影響を評価した。
- 沿岸林モデルの高度化**：東日本大震災における仙台平野全域における建物被害実績と津波数値解析に基づき、沿岸林による津波減災効果の定量化手法を提案し、本統計モデルの妥当性を確認した。
- 漂流物モデルの高度化**：津波による屋外タンク漂流モデルを開発し、東日本大震災の気仙沼湾で被災した屋外タンクの再現計算を実施し、実測のタンクの漂着位置をある程度説明することができた。

以上のように、津波波源の推定向上、統合モデル（土砂移動、漂流物、沿岸林）の各段階で、機能拡張や解析精度を向上した。これらの成果を活用することにより、対応がより難しい津波複合被害に対する、被害軽減策や事後の対応計画の策定、並びに、リスクコミュニケーション・防災啓発・教育への貢献が期待される。

## 【図表】

### 【実現象】

津波波源 → 外洋伝播 → 沿岸来襲

【観測データ】  
水位の時間変化 (GPS 波浪計)

### 【津波数値計算】

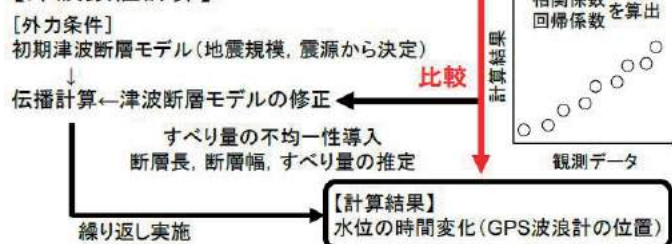


図 1 特性化波源モデル推定法の概要

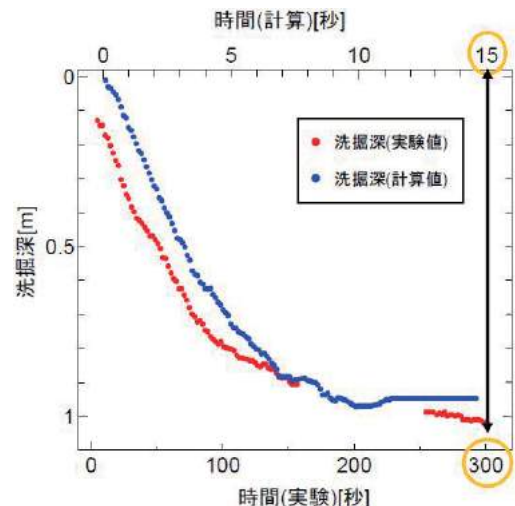


図 2 直立堤背後の洗掘深の時間変化

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 7 月 28 日～29 日(1 名)</li> <li>・平成 29 年 12 月 7 日～平成 29 年 12 月 9 日(6 名)</li> <li>・平成 30 年 3 月 16 日～平成 30 年 3 月 17 日 (1 名)</li> </ul>	多目的ホール 多目的ホール・寄附部門室 津波工学研究室  災害解析用計算機システム	8 時間 13 時間 4 時間  241347 (CPU core × hour)
延べ訪問回数        8 回		合計 25 時間 + 241347 (CPU core × hour)

成果として発表した論文

【学術雑誌】

1. 門廻充侍, 高橋智幸, GPS 波浪計を用いた特性化波源モデル推定法の検討とその適用例, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.73, No.2, I\_307-I\_312, 2017. (査読あり)
2. 山下 啓, 嶋原良典, 菅原大助, 有川太郎, 高橋智幸, 今村文彦, 土砂移動が及ぼす津波ハザード及び建物被害への影響－東日本大震災の宮城県気仙沼市における津波氾濫・土砂移動・船舶漂流の統合計算－, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 73, No. 2, I\_355-I\_360, 2017. (査読あり)
3. Kei Yamashita, Anawat Suppasri, Yusuke Oishi and Fumihiko Imamura, Development of a tsunami inundation analysis model for urban areas using a porous body model, Geosciences, Vol.8 (1), 12, 2018. (査読あり)

【国際会議】

4. Baba, T., T. Okada, J. Ashi, T. Kanamatsu, A possible tsunami caused by a submarine landslide in 1512 at the Nankai trough, Japan, IAG-IASPEI 2017, S04-1-02, Kobe. 2017. (査読なし) 2017/8
5. Baba, T., S. Allgeyer, J. Hossen, P. R. Cummins, T. Kato, Later phase modeling of the trans-pacific tsunami caused by the 2011 Tohoku earthquake, International Tsunami Symposium 2017, Bali, 2017. (査読なし) 2017/8
6. Akihiro Hayashi, Kei Yamashita and Fumihiko Imamura, Research on the effects of the damage categories of the buildings by the coastal forest based on surveyed data of building damage by the Great East Japan Earthquake Tsunami in Sendai plain, Committee of the 27th International Tsunami Symposium, ID-009, No.1, 2017. (査読なし) 2017/8
7. Kei Yamashita, Yoshinori Shigihara, Daisuke Sugawara, Taro Arikawa, Tomoyuki Takahashi and Fumihiko Imamura, Numerical simulation of composite tsunami hazards using integrated tsunami model - Tsunami inundation, sediment transport and drifting ships in Kesenuma City, Miyagi Prefecture during the Great East Japan Earthquake -, Committee of the 27th International Tsunami Symposium, ID-003, No.13, 2017. (査読なし) 2017/8
8. Kohei Suzuki, Katsumi Seki and Taro Arikawa, Hydraulic model experiment and numerical calculation on scour, Proceedings of the 9th International Conference on APAC 2017, pp.421-432, 2017.(査読あり)2017/10
9. Baba, T., J. Ashi, T. Kanamatsu, K. Imai, K. Yamashita, Paleogeographical, bathymetric and numerical investigations for a tsunami possibly caused by submarine mass failures in the Nankai trough, Japan, AGU fall meeting 2017, NH23A-0206, New Orleans, 2017. (査読なし) 2017/12
10. Shuji Seto and Tomoyuki Takahashi, Estimation of the Characterized Tsunami Source Model considering the Complicated Shape of Tsunami Source by Using the observed waveforms of GPS Buoys in the Nankai Trough, 2017 AGU Fall Meeting, NH23A-0203, New Orleans, USA, Dec. 2017. (査読なし) 2017/12

【国内学会・シンポジウム】

11. Shuji Seto and Tomoyuki Takahashi, Estimation of the Characterized Tsunami Source Model by Using the observed waveforms of GPS Buoys in the Nankai Trough, JPGU-AGU Joint Meeting 2017, HDS12-P05, 幕張メッセ, 2017. (査読なし) 2017/5
12. 林 晃大, 山下 啓, 今村文彦, 家屋被害実績に基づく海岸林の津波リスク減災効果に関する検討, 第 36 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 2017. (査読なし) 2017/9
13. 林 晃大, 山下 啓, 今村文彦, 海岸林による家屋に関する津波被害軽減への定量的評価の試み, 平成 29 年度東北地域災害科学研究集会, 2017. (査読なし) 2018/1
14. ギーラパット・カンソムポット, 嶋原良典, 2011 年東北津波・気仙沼湾での屋外タンク漂流の再現シミュレーション, 第 45 回土木学会関東支部技術研究発表会, 2018. (査読なし) 2018/3

【口頭発表のみ】

1. 林 晃大, 山下 啓, 今村文彦, 家屋被害実績に基づく海岸林の津波減災効果に関する定量的検討, 第7回巨大津波災害に関する合同研究集会, 2017/12/8
2. 鈴木滉平, 有川太郎, 山下 啓, 菅原大助, 嶋原良典, 高橋智幸, 今村文彦, 3次元津波漂砂シミュレータによる直立堤背後の洗掘深計算の妥当性について, 第7回巨大津波災害に関する合同研究集会, 2017/12/8.

学術論文 合計 ( 14 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

- ・第7回巨大津波災害に関する合同研究集会

開催期間：2017年12月8日～9日

区 分：研究集会（国内）

対 象：研究者・社会人・学生

名 称：第7回巨大津波災害に関する合同研究集会

概 要：本研究集会は、津波災害に関する研究に取り組む様々な分野の研究者や学生による学術的な交流を通じて、津波研究の発展と防災・減災に資することを目的とする。

参加人数：71名

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	津波レジリエントな地域防災に向けた地域カスタマイズ型津波解析プラットフォームの検討	研究課題	②
研究代表者	古村孝志		
所属機関等・職名	東京大学地震研究所・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎古村孝志・東大地震研・男、○今村文彦・災害研・男、大石裕介・富士通研/災害研・男、山下啓・ハワイ大・男、牧野嶋文泰・災害研・男、佐々木智瑞・富士通・男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	996,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 今後の適切かつ現実的な津波防災対策、そして津波レジリエントな地域社会の実現に向け、リアルタイム観測情報に加えて、人工知能やスパコン等の最新 ICT を駆使した高度な解析・予測技術により、都市域・臨海工業地域を含む川崎市をターゲットに地域カスタマイズ型の津波減災を産官学協働により世界に先駆けて実現する。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 地域カスタマイズ型の津波対策を実現する津波解析プラットフォーム検討を、川崎市において産学官連携により進め、以下の研究成果を得た。得られた知見は今後の川崎市の津波防災施策の検討に活用されるとともに、都市域・臨海工業地域を持つ国内外の臨海部の津波防災への展開が期待できる。

**(a) リアルタイム浸水解析モデル**  
 川崎市におけるリアルタイム津波浸水シミュレーションを、災害解析用計算機システム（災害研リソース）や FX100 スパコン（富士通）を用いた並列計算により行った。特に、FX100 スパコンの 64CPU を用いた場合に解像度 10m の津波浸水シミュレーション 3 時間分を 2.3 分（1 CPU では 62.7 分）で完了できるモデル開発に成功した。

**(b) 運河での湾水振動の特性把握**  
 川崎市を含む東京湾内の臨海工業地帯には、人工島と陸地の間などに運河が設けられ、産業上重要な海上航路となっており、津波による湾水振動が防災上重要な課題となる。そこで、本研究で開発した津波浸水解析モデルに基づいて、想定南海トラフ巨大地震を対象として、東京湾全域及び京浜運河（川崎市）の津波振動特性を詳しく評価した(論文⑤)。その結果、(1) 東京湾、相模湾、駿河湾の隣接する 3 湾における海面変動には、3 湾の振幅が同程度で周期 76 分の湾水振動が卓越する 3 湾連動モードと、68 分の振動が駿河湾と東京湾で卓越する 2 湾連動モードがあること(図 1)、(2) 2 湾連動モードと 3 湾連動モードには津波の減衰特性に相違があり、津波継続時間の評価には、湾同士の連動モードと卓越周期が重要であること、(3) 京浜運河内の津波増幅は、東京湾全体の振動特性に左右され、運河の固有周期に近い成分が東京湾で卓越する場合に大きくなること(図 2, 3)など、運河内での津波波高の増幅や速い流速による船舶被害、漂流物移動などの評価に重要な結論を得た。

**(c) 最適な避難誘導の検討**  
 これまでの津波避難解析では、計算機パワーの制約があり避難者の特性を一様とするのが一般的で、歩行速度の異なる災害弱者と健常者といった避難者の個人差が反映されない問題があった。本研究では、個人差を有する避難者シミュレーションを、高性能計算機を用いた並列計算により実現し、都市域での大規模な津波避難シミュレーションを実施した。まず、災害解析用計算機システムを用いてモデル開発と検証を宮城県気仙沼中心市街地での約 2.6 万人の津波避難を対象に実施し(図 4、論文①)、避難の初期条件の不確実性を考慮した新しい避難リスク評価手法を提案した(論文②)。さらに、FX100 スパコンを用いて川崎市の約 34 万人の大規模避難シミュレーションを実施し、避難所周辺での混雑により避難が大幅に遅延するという、都市域特有の問題を確認した(図 5、論文⑩)。そして、リアルタイム津波浸水予測情報を活用し、避難の切迫度に応じた段階的な避難誘導を行うことで、混雑を大幅に緩和させる効果を確認するなど(論文④)、津波避難シミュレーションが全国の都市型津波災害のリスク分析の有効な手段となることを確認した。

**(d) 市民向けシンポジウム開催**  
 本研究プロジェクトを市民に紹介するシンポジウムを 3 月 15 日に川崎ラゾーナプラザソル(川崎市幸区)で開催し、臨海部企業の防災担当者と自治会役員を中心に 170 名の参加があった(図 6, 7)。シンポジウムは、プロジェクト紹介を含む、津波防災に関する 5 件の講演とポスターセッションから構成され、参加者との意見交換を通じて本プロジェクトの方向性と成果の社会実装に向けた期待と課題が明確化された。

【図表】

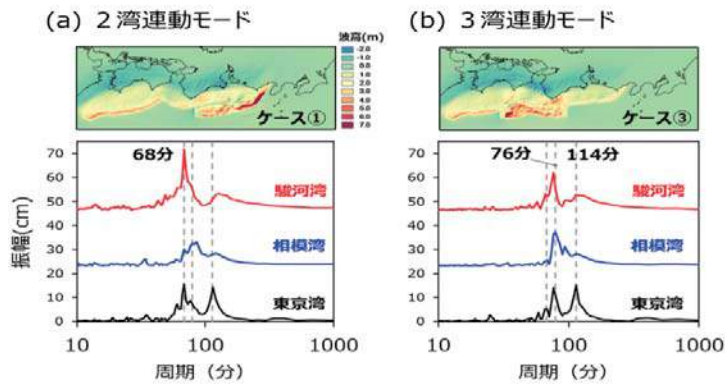


図1: 東京湾, 相模湾, 駿河湾の津波連動性. 南海トラフ巨大地震の津波波源(内閣府モデル)の波高分布と津波スペクトル.



図4: 気仙沼中心市街地での約2.6万人の避難シミュレーション. 高齢者(65歳以上)を赤色, それ以外を緑色で表示.

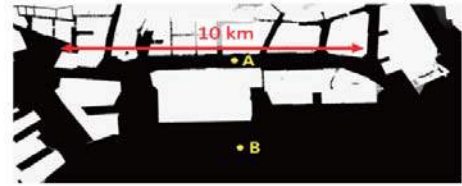


図2: 京浜運河(川崎市)

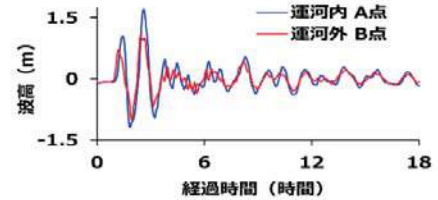


図3: 運河内での津波増幅. 運河内外の津波波形(南海トラフの内閣府モデルケース①).

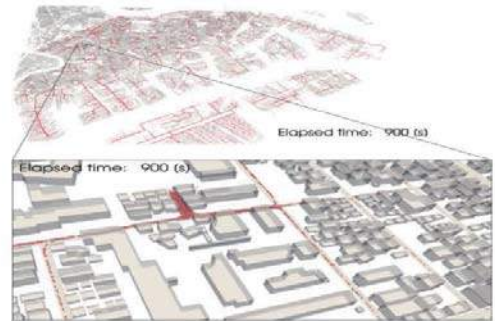


図5: 川崎市臨海部の約34万人の避難シミュレーション.



図6: 市民向けイベントの登壇者. 左から高橋危機管理室長(川崎市), 古村教授(地震研), 今村所長, 福田市長, 北岡執行役員常務(富士通), 西出前気象庁長官, 鈴木取締役(富士通研).



図7: 市民向けイベントの会場の様子.

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 6 月 29 日(1 名)</li> <li>平成 29 年 8 月 18 日(2 名)</li> <li>平成 29 年 10 月 19 日(5 名)</li> <li>平成 29 年 12 月 21 日(1 名)</li> </ul>	津波研会議卓 津波研会議卓 小会議室 2 津波研会議卓 災害解析用計算機システム	2 時間 4 時間 2 時間 2 時間 239,202 コア時間積
延べ訪問回数 9 回		合計 10 時間 (会議室), 23.9 万コア時間積 (計算機システム)

成果として発表した論文

【学術雑誌】

- ① **牧野嶋文泰**, 今村文彦, 安倍祥, “多数シナリオ津波避難シミュレーションによる確率論的避難安全性の評価”, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol. 73 No.2, 2017, pp.I\_1513-I\_1518, 査読有り, 国内誌
- ② **Makinoshima F, Imamura F, Abe Y**, “Enhancing a Tsunami Evacuation Simulation for a Multi-scenario Analysis using Parallel Computing”, Simulation Modelling Practice and Theory, 83, 2018, pp.36-50, 査読有り, 国際誌, IF=1.954
- ③ **Kei Yamashita**, Anawat Suppasri, **Yusuke Oishi** and **Fumihiko Imamura**, “Development of a tsunami inundation analysis model for urban areas using a porous body model”, Geosciences, Vol.8 (1), 2018, 12, 査読有り, 国際誌
- ④ **牧野嶋文泰**, 大石裕介, 今村文彦, 古村孝志, “大規模避難シミュレーションによる臨海都市部の津波避難リスク分析と低減方策の検討”, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol. 74 No.2, 2018, 査読有り, 国内誌, 投稿中.
- ⑤ **大石裕介**, 古村孝志, 今村文彦, 山下啓, 菅原大助, “南海トラフ巨大地震による津波の東京湾周辺での振動特性”, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol. 74 No.2, 2018, 査読有り, 国内誌, 投稿中.

【国際・国内会議】

- ⑥ **Yusuke Oishi, Takashi Furumura, Fumihiko Imamura, Kei Yamashita, Daisuke Sugawara**, “Decay Properties of Bay Oscillations Induced by the Tsunami of Nankai-Trough Earthquake”, IAG-IASPEI, 2017, J04-P-07, 査読なし, 国際学会
- ⑦ **大石裕介**, 古村孝志, 今村文彦, 山下啓, 菅原大助, “湾水振動が励起された湾内に位置する運河での津波挙動”, 日本地震学会 2017 年度秋季大会, 2017, S17-P03, 査読なし, 国内学会
- ⑧ **Yusuke Oishi**, “The Role of ICT in Disaster Risk Reduction: Regionally-Customized Approach for Tsunami Disaster Mitigation Based on ICT”, The World Bosai Forum/IDRC 2017 program book, Sendai 2017, pp.46, 査読なし, 国際会議
- ⑨ **Yusuke Oishi**, “Accomplishing the SDG’s and Solving Social Issues through ICT: Natural Hazard Simulation and its Role in Disaster Mitigation”, The World Bosai Forum/IDRC 2017 program book, Sendai 2017, pp.73, 査読なし, 国際会議

【シンポジウム】

- ⑩ **今村文彦**, “東日本大震災等から学ぶ今後の防災・減災”(基調講演), 津波被害軽減への ICT の活用 ～産学官連携によるチャレンジ～, 川崎市 2018, 査読なし, 国内シンポ
- ⑪ **古村孝志**, “川崎市における ICT 活用による津波被害災害軽減に向けた産学官連携プロジェクト”(講演), 津波被害軽減への ICT の活用 ～産学官連携によるチャレンジ～, 川崎市 2018, 査読なし, 国内シンポ
- ⑫ **牧野嶋文泰**, **大石裕介**, **今村文彦**, **古村孝志**, “大規模避難シミュレーションによる川崎市におけるリアルタイム津波浸水情報の活用可能性評価”(ポスター), 津波被害軽減への ICT の活用 ～産学官連携によるチャレンジ～, 川崎市 2018, 査読なし, 国内シンポ
- ⑬ **大石裕介**, **今村文彦**, “高解像度な津波モデルを用いたリアルタイム浸水解析”(ポスター), 津波被害軽減への ICT の活用 ～産学官連携によるチャレンジ～, 川崎市 2018, 査読なし, 国内シンポ

学術論文 合計 ( 13 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

開催：2018 年 3 月 15 日

区分：シンポジウム／国内

対象：市民向け

名称：“津波被害軽減への ICT の活用 ～産学官連携によるチャレンジ～”

概要：本プロジェクト主催で、プロジェクトの概要紹介を行うシンポジウムを川崎市で開催。内閣府・気象庁が後援。本プロジェクトメンバー(古村、今村)の他、川崎市長、富士通役員、前気象庁長官、川崎市危機管理室長が登壇。

参加：170 名。

合計 ( 1 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	高詳細な地震・津波・避難解析に基づく オンライン体験シミュレータのソフト防災への利活用	研究課題	②
研究代表者	浅井光輝		
所属機関等・職名	九州大学大学院工学研究院・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎浅井光輝(九州大学大学院工学研究院)男、○寺田賢二郎(災害研)男、堀宗朗（東京大学地震研究所）男、市村強(東京大学地震研究所)男、森口周二(災害研)男

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	1,000,000 円
-----	-----------------------------------	----	-------------

【研究の概要】
<p>スパコンを使用した高詳細な地震・津波・避難解析結果を災害科学国際研究所が有する多元可視化システム IMIDeS にて高解像度かつ広範囲に描画することで、避難行動パターンの分析を行う。また同時に大人数が確認できる大画面の利点を活かし、防災計画策案時の合意形成ツールへの応用を図る。</p>

【研究の具体的な成果・波及効果】
<p>2011 年東日本大震災の教訓の一つとして、過去の被害経験を基とした地震・津波の被害想定に限界があったことが挙げられる。こうした背景から、京コンピュータ等の世界最速規模のスパコンを使用し、地震・津波に伴う人的・社会的被害を数値解析により予測する新たな試みが行われている。その一例として、共同研究者のひとりである東京大学地震研究所・堀宗朗教授らが推進している HPCI 戦略プログラム分野 3「防災・減災に資する地球変動予測」がある。同プロジェクトでは、ポスト京コンピュータが稼働予定の 2020 年以降に、世界最速の計算機を使い、世界最高水準の計算コードを用いて地震・津波に伴う人的・社会的被害の抜本的な精度向上を目指している。本共同研究の 3 名（堀宗朗・市村強・浅井光輝）はこの HPCI 戦略プログラム分野 3 のメンバーである。現在までに、京コンピュータを使用し、地盤および建物の地震応答解析については東京都山手線路線圏内を包含する東京都市部を 5m メッシュ間隔の有限要素法で、津波遡上解析については高知市全体を 1m 間隔の粒子法で、さらに避難解析は東京都心部を対象とした 200 万人エージェントの解析を実施可能とした。こうした高詳細な地震・津波・避難解析が実施できているものの、その膨大な計算結果を確認するには、それに見合った大画面かつ高解像度スクリーンが望まれている。</p> <p>そこで災害国際研究所が所有し、寺田賢二郎教授が管理している多次元統合可視化システム IMIDeS により、都市全域の高詳細な解析結果をそのまま大画面・高解像度スクリーンに投影し、大人数の視聴者が同時に情報を共有することで、地方自治体との防災計画時の合意形成時の有効なツールへと拡張することを本研究の目的とした。</p> <p>申請者（浅井）はこれまでに開発した粒子法による 3 次元津波遡上解析手法を防災教育などのソフト防災へと活用することを目的とし、被験者がヘッドマウントディスプレイに投影された仮想空間の中を歩行コントローラにて避難する津波疑似体験システムを開発した（図 1 参照）。本研究では、さらに以下の 2 つの項目を追加した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 避難解析と津波解析結果の統合化 津波疑似体験システムは、現実的な仮想都市の中に数値計算で再現した津波を入力している。本研究ではさらに東京大学地震研究所が開発した都市全域のマルチエージェントによる避難解析の融合し、巨大地震時にパニックとなり群衆が避難する様子までを再現した（図 2 参照）。</li> <li>2. オンラインゲーム機能による複数被験者の同時体験と IMIDeS による画像の共有 歩行コントローラは九州大学に設置されているものの、仮想避難はタブレットでも参加でき、またオンラインゲーム機能を有しているため、遠隔地から複数の被験者が体験している映像を東北大学 IMIDeS の大画面にて視聴することが可能とした。</li> </ol>

【図表】

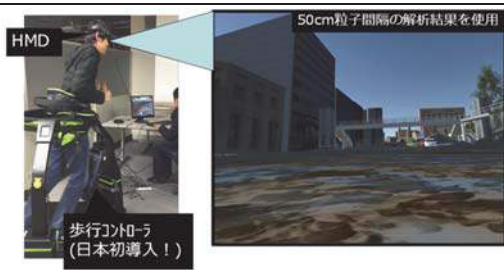


図1 津波 VR と歩行コントローラによる仮想避難体験

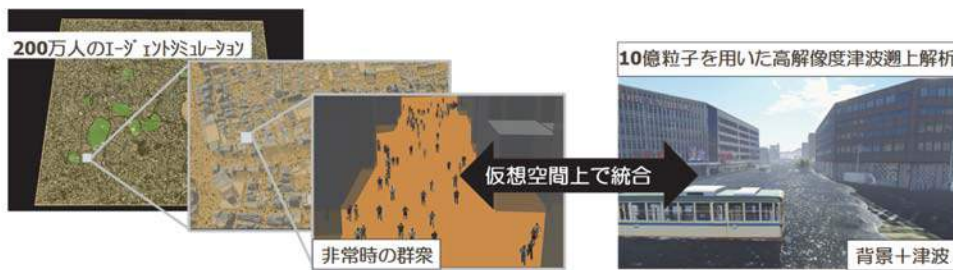


図2 マルチエージェント解析と津波解析結果の重畳し

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 6 月 16 日～17 日 (福岡～仙台)</li> <li>平成 29 年 7 月 28 日～29 日 (福岡～仙台)</li> <li>平成 30 年 1 月 26 日～27 日 (福岡～仙台(1 名), 東京～仙台(2 名))</li> </ul>	地域安全工学研究室 地域安全工学研究室 セミナー室	3 時間 1 2 時間 5 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 20 時間

成果として発表した論文

本研究と関連して代表者が 2 件の基調講演を行いました。招待講演であったことから、2 件とも謝辞を記載する欄がありませんでした。また単著としての講演になっていますが、初めに共同研究者名の名前も入れて謝辞を述べています。本研究の成果はようやく具体的な形となっており、これから論文投稿も複数検討しています。このため、基調講演の 2 件のみを成果として挙げさせていただきます。

- 【セミプレナリー講演】 Mitsuteru Asai: Natural disaster simulation by a multi-physics particle simulation, The 4<sup>th</sup> International Conference on Computational Design in Engineering (CODE2018), 2018
- 【セミプレナリー講演】 Mitsuteru Asai: Multi-scale and -physics tsunami disaster simulation for disaster prevention and mitigation, The 2<sup>nd</sup> International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2017), 2017

学術論文 合計 (2) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 (0) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 (0) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	放射線災害発生時における放射線被ばくストレス定量法の確立	研究課題	③
研究代表者	盛武 敬		
所属機関等・職名	産業医科大学産業生態科学研究所放射線健康医学研究室・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎盛武敬(産業医科大学・男)、○千田浩一(災害研・男)、五十嵐友紀(産業医科大学・男)、稲葉洋平(災害研・男)、孫略(筑波大学・男)

期間	平成 29 年 5 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	898,000 円
----	----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

放射線事故/災害発生時には、バイオドシメトリにより被ばく線量を推計し、治療優先順位を決める(トリアージする)必要がある。本研究では、放射線影響応答と関連が高いレドックスシステムに着目し、既存の手法を補完した、より高精度な推定法の開発に着手している。

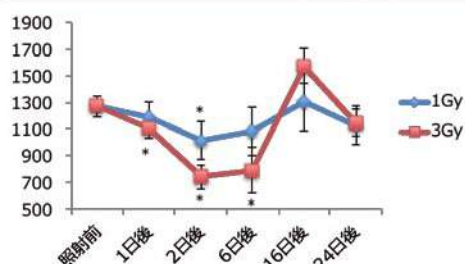
## 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、血液のレドックス指標を複数解析し、「全血の抗酸化能(i-STrap 法)」「赤血球内グルタチオン濃度」「血漿の酸化ストレス度」が、被ばくによって変動すること、バイオドシメトリの指標になりうることを明らかにした。これらは放射線晩期障害リスクの推定、(臨床の)放射線治療における副作用予測マーカーとしても期待できる。

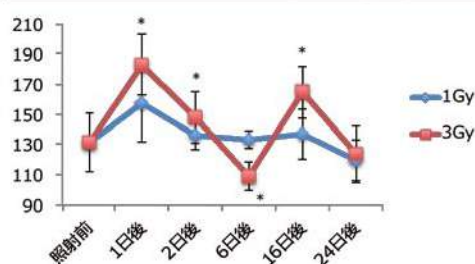
## 【図表】

### 被ばく後の赤血球グルタチオンの経時変化

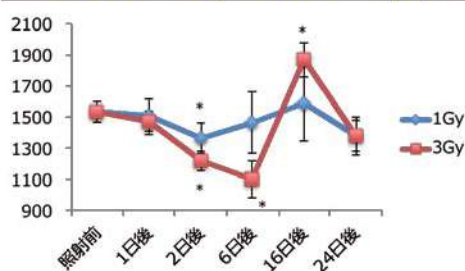
還元型グルタチオン(GSH;  $\mu\text{M}$ )



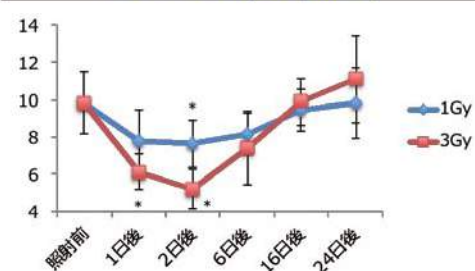
酸化型グルタチオン(GSSG;  $\mu\text{M}$ )



総グルタチオン(GSH+GSSG $\times$ 2;  $\mu\text{M}$ )



還元-酸化比(GSH/GSSG)



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
平成 29 年 9 月 22 日 (金) 研究会議 5 人	E201 (災害医学研究部門共通室) 医学部保健学科放射線実験室	10:00~18:00
平成 29 年 9 月 23 日 (土) 線量計校正および 被ばく線量 測定など 3 人		10:00~18:00
延べ訪問回数 1 回		合計 16 時間

成果として発表した論文
<u>Lue Sun, Yohei Inaba, Keizo Sato, Aki Hirayama, Koji Tsuboi, Ryuji Okazaki, Koichi Chida and Takashi Moritake</u> , Dose-dependent decrease in anti-oxidant capacity of whole blood after irradiation: A novel potential marker for biodosimetry, Scientific Reports, 2018, In press, 査読あり, 国際, インパクトファクター 4.259

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
・該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( 0 ) 件 B 取得 計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<u>セミナー 1.</u> 〈日 時〉平成 29 年 9 月 21 日                      〈種 別〉講習会 〈タイトル〉放射線被ばく管理講習会              〈関 連〉放射線被ばく管理に関する 〈対 象〉国内の研究者,社会人,学生,他          〈参加人数〉30 人

合計 ( 1 ) 件

## 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	東日本大震災の教訓を活かした熊本地震後の精神保健支援活動体制の検討	研究課題	③
研究代表者	山口 喜久雄		
所属機関等・職名	熊本県精神保健福祉センター・所長		

### 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎山口 喜久雄・熊本県精神保健福祉センター・男、○富田 博秋・災害研 災害精神医学分野・男、矢田部 裕介・熊本県精神保健福祉センター・男、宮本 靖子・熊本県精神保健福祉センター・女、富田 正徳・熊本県精神保健福祉センター・男、橋本 衛・熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野・男、兪 志前・災害研 災害精神医学分野・男、瀬戸 萌・災害研 災害精神医学分野・女、片柳 光昭・災害研 災害精神医学分野・男、奥山 純子・災害研 災害精神医学分野・女

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	891, 000 円
----	-----------------------------------	----	------------

### 【研究の概要】

熊本地震被災者のメンタルヘルスケアニーズが高まる中、限られた社会資源で如何に多様な要因を包含する被災コミュニティの精神保健活動の充実を図るかという課題にエビデンスを伴う指針を見出すことを目的に、災害科学国際研究所が集積している情報や手技を活用して、熊本の状況に即した解析、検討を行った。災害研が7年間に渡って蓄積してきた精神面の健康の推移と関連する社会的要因に関する情報、構築してきた研究手法やネットワークが、熊本地震後の評価や支援立案のための研究で活用された。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

災害後の被災コミュニティのメンタルヘルスケアの重要性は広く社会に認識されてきている一方、メンタルヘルスケアニーズや支援の成果は客観的に捉えにくく、限られた社会資源で如何に多様な要因を包含する被災コミュニティの精神保健活動の充実を図るということをエビデンスに基づいて検討することは望まれることではあるが困難な面が多い。また、精神医療保健体制が有効に災害に備えるための情報の集積・分析を行い全国の精神科医療機関に伝えることでレジリエントな精神医療保健体制を構築することも重要な課題である。

東日本大震災後、東北大学災害科学国際研究所では大規模な被災地域の疫学調査や社会科学的調査による情報集積を行い、上記の課題を検討する基盤を構築してきていることから、本研究においては熊本の現状に即して東北における情報の提供が行われるとともに、両者が共に東日本大震災被災地域におけるメンタルヘルス支援現場を視察し、東日本大震災と熊本地震との異同の検証、今後の展開を予測しながらの熊本地震被災地域の精神的健康の評価や支援の方針立案を行なった。

また、東日本大震災後、災害科学国際研究所と日本精神科病院協会との共同で岩手・宮城・福島県の精神科医療機関の発災前後の防災体制のあり方、被災を踏まえた防災への教訓に関する調査研究が行われたが、本共同研究の枠で、熊本県においても、同じフォーマットでの調査が行われた。熊本の精神科病院 45 病院に対して調査を行い、回収率 100%で回答を得た。精神科医療機関の防災体制に関する調査、被災地域での調査研究が被災地域にもたらす負担に関する調査に関して、熊本の状況に即して内容の分析、検討が行われた。

平成 29 年 5 月 31 日、熊本大学における講義「東日本大震災とメンタルヘルスの諸問題~医学は如何に被災コミュニティに貢献し得るか~」、同年 10 月 17 日、東北大学における「こころの健康を考える熊本・宮城連携フォーラム~熊本地震から 1 年、東日本大震災から 6 年を振り返って~」、平成 30 年 3 月 19 日、東北大学における東北大学災害科学研究拠点セミナー「被災地域の健康増進のために地域・学術連携に求められること」等の形で、成果の社会還元が行われた。本調査から得られた膨大なデータについては現在、精査中で、次年度中には、論文として研究成果を公表する予定である。また、本共同研究から新たな課題が見出され、引き続き共同研究が継続されることが望まれる。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 6 月 21 日～平成 29 年 6 月 22 日（訪問者数 2 名）</li> <li>・平成 29 年 10 月 18 日(訪問者数 1 名)</li> <li>・平成 29 年 10 月 16 日～平成 29 年 10 月 19 日（訪問者数 4 名）</li> </ul>	災害科学国際研究所災害精神医学分野研究室、七ヶ浜健康増進プロジェクトデータベース、精神科医療機関調査資料・調査フォーマット等	48 時間  12 時間 36 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 96 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計（ 0 ）編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計（ 0 ）件のうち、A 出願 計（ ）件 B 取得 計（ ）件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
平成 29 年 5 月 31 日：セミナー開催「東日本大震災とメンタルヘルスの諸問題～医学は如何に被災コミュニティに貢献し得るか～」演者：富田博秋.会場：熊本大学医学部講堂.参加者：医学部学生・大学院生等 120 名
平成 29 年 10 月 17 日：セミナー開催「こころの健康を考える熊本・宮城連携フォーラム～熊本地震から 1 年、東日本大震災から 6 年を振り返って～」演者：山口喜久雄、矢田部裕介、富田博秋他.会場：東北大学医学部 6 号館講堂.参加者：学内研究者・学生・地域支援実施者等約 50 名
平成 30 年 3 月 19 日：セミナー開催「被災地域の健康増進のために地域-学術連携に求められること」演者：富田正徳、片柳光昭.会場：東北大学医学部 6 号館カンファレンスルーム.参加者：学内研究者・学生・地域支援実施者等約 25 名

合計（ 3 ）件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	副都心新宿の指定避難所近隣町会・学校・行政等との連携で進める災害対策：被災時の医療・保健・福祉体制支援システムの検討	研究課題	③
研究代表者	坪内 暁子		
所属機関等・職名	順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター分室・助教		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎坪内暁子(順天堂大学大学院医学研究科)女、○佐藤健(東北大学災害科学国際研究所)男、内藤俊夫(順天堂大学医学部)男、土屋陽子(順天堂大学保健看護学部)女、佐々木宏之(東北大学災害科学国際研究所)男、向山晴子(杉並保健所)女、奈良武司(いわき明星大学薬学部)男、土屋勝(成城学校避難所運営管理協議会)男、栗原卯田子(成城中学校・成城高等学校)女、村岡信二(成城中学校・成城高等学校)男、金子政巳(新宿区榎町特別出張所)男、矢野勝之(新宿区榎町特別出張所)男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	900,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

先行研究結果の分析・考察を行い研究を進展させ、日本経済や社会機能の麻痺を引き起こす首都圏直下型地震に備える。少子高齢化、多様化、グローバル化、IT 化が目立つ副都心新宿の、成城学校避難所運営管理協議会との連携で、二次被害や関連死の低減に向け、医療者 OB 等による医療・保健・福祉支援システムの検討を進める。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

調査の分析結果（図：高齢者や身体的弱者のリスク）を踏まえ、急性期・慢性期対応の医療・保健・福祉支援グループや女子会を発足させた。今後は各組織編成や役割を決め、各問題解決に向けての仕組み作りを継続的に行う。

内閣府の首都圏直下型地震の被害想定では、建物倒壊と火災による死者は最大 23,000 人であるが、都庁を抱える副都心新宿は、昇降数約 350 万人/日であり、想定を遥かに越える規模の関連死等二次被害が予想される。現在は、首都圏・地方や、国外の災害対策に活用してもらえるよう、国内外の査読付き論文の投稿準備中である。

## 【図表】



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 7 月 28 日(外部 16 名)	会議室 5、4 (5 階) (地震体験装置)	約 5.5 時間
・平成 30 年 3 月 3 日(外部 9 名)	会議室 1 (1 階)	約 9.5 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 15 時間

成果として発表した論文
1.坪内暁子, 佐藤健, 内藤俊夫, 佐々木宏之, 土屋陽子, Fan Chia-Kwung, 丸井英二, 佐伯潤, 奈良武司, 大槻公一, 大規模災害時におけるペット同行避難の課題-ペットの多様性で高まる人獣共通感染症リスク-, 2017, 日本安全教育学会第 18 回宮城大会予稿集, 査読無(学会特別研究), pp.111-112, 査読無
2.坪内暁子(分筆),大規模災害時の被害低減に向けた IT の活用-ヒトとモノの流れを変える-, 日本環境倶楽部「次世代の情報化と環境問題研究会」報告書, 日本環境倶楽部事務局, 2017, p.1-pp.200, 査読無, 依頼原稿
3.坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 乾啓洋, 荒井雄太, 小澤明日香, 有賀平, 沖山雅彦, 田中秀夫, 斉藤敦, 仲田悦教, 大槻公一, 佐伯潤, 丸井英二, 佐藤健, 佐々木宏之, 向山晴子, 柳澤吉則, 藤本順介, 飯沼清, 「地域」分析に重点を置いた都市型災害対策—想定外の被害の低減のためのリスク把握と連携作り—, ARIMASS 研究年報, 2017, No.15, pp.197-209, 査読有(依頼原稿)
4.坪内暁子, 災害対策での共助の軸となる倫理, 生存科学, Vol.27(2), pp.33-42, 2017, 査読無
学術論文 合計 (4) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
合計 ( ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
開催期間：平成 27 年 3 月～現在 (29 年度は末尾に示す 4 回実施)
区分：研究会、国際
運営者：世話人：坪内暁子、座長；内藤俊夫、コアメンバー：佐藤健・佐々木宏之等研究班メンバー
対象者：産学官民から成る、各組織の代表もしくは災害対策専門家、避難所運営者、学生等
名称：災害対策について「伴に」考える研究会
概要：東京オリンピック・パラリンピック開催を視野に入れ、健常者に限らず社会的擁護が必要な高齢者や障害者等、あるいは言語等外国人が抱える問題にも目を向け、地域社会や地域住民の多様性や個々の特徴を把握・理解・尊重し、何より「命」を一義的に、災害対策の基本である安全・安心確保のための、Health (健康)・Coexistence (共存)・Well-being (幸福)を意識した「地域に内在する多種多様なリスクを把握した上での医療・保健・福祉システム」を協働で創ることを本研究の基本方針とする。※産学官民等一般公開の形式での勉強会
結果は、各分野の現行制度の脆弱性を補う新規の制度作り、あるいは社会の実情に沿った制度に近づけるための修正へと繋げ、他の地域、さらに諸外国の対策への活用を目指し、長期的・継続的に研究活動を行なう。
参加人数：25～65 名程度 ※ML 登録人数約 250 名
1. 災害対策について「伴に」考える研究会第 17 回定例会, 統一課題: 地域の住民等の特徴を踏まえた社会支援システム, 地域・行政との連携を目指した、大学部教育とリンクさせ進める防災活動, 藪田圭二(学校法人自由学園危機管理本部、部長)ほか, 成城中学・成城高等学校大会議室, 12 月 15 日, 2017
2. 災害対策について「伴に」考える研究会第 16 回定例会, 統一課題: 地域で準備する医療・保健・福祉支援の体制、私立校と災害拠点病院との連携で進める医療避難所運営の取り組み, 菊地明範(中央大学杉並高等学校、防災係)ほか, 成城中学・成城高等学校大会議室, 10 月 27 日, 2017
3. 災害対策について「伴に」考える研究会第 15 回定例会, 統一課題: ペット防災: 動物と共に避難する, ペットとの避難所生活で注意すべき感染症, 大槻公一(京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター、センター長)ほか, 成城中学・成城高等学校大会議室, 9 月 20 日, 2017
災害対策について「伴に」考える研究会第 14 回定例会, 統一課題:避難誘導・避難所運営でのアマチュア無線の活用, FM 西東京による, 情報保証と情報共有に着眼した防災訓練, 鈴木信克(株式会社エフエム西東京代表取締役)ほか, 成城中学・成城高等学校大会議室, 7 月 7 日, 2017
合計 (4) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	災害を生きる力因子を特徴づけるパーソナリティ特性の解明	研究課題	④
研究代表者	本多 明生		
所属機関等・職名	山梨英和大学・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎本多明生 (山梨英和大学)男, ○杉浦元亮(災害研)男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	471,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 研究代表者たちは、東日本大震災被災者を対象にした調査から、「リーダーシップ」「問題解決」「愛他性」「頑固さ」「エチケット」「感情制御」「自己超越」「能動的健康」からなる災害を生きる力因子を見出している (Sugiura et al., 2015)。本研究では、災害を生きる力因子を特徴づけるパーソナリティ（性格）特性の解明に取り組む。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 本研究の結果から、(1) ビッグファイブは災害を生きる力を特徴づけるが、(2) ビッグファイブの影響を制御しても感謝特性は災害を生きる力因子「愛他性」「エチケット」「自己超越」に寄与すること、(3) グリットは災害を生きる力因子「頑固さ」を強めるが、セルフコントロールは「頑固さ」を低めることが明らかにされた。したがって、本研究から得られる知見は、災害に強い人材にはどのような資質が求められるのかを具体的に理解し、教育現場にその成果をフィードバックするうえで大きな役割を果たすと考えられる。

**【図表】**

表 1.重回帰分析の結果 (β 係数)

	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
性別	.040	.053	.012	-.085	.131**	.049	-.022	-.145**
外向性	.590***	.264***	.227***	.197***	.196***	.123*	.167**	.168**
協調性	.073	.169***	.337***	-.175***	.147**	.009	.113*	.023
勤勉性	-.004	.182**	.100	.111	.012	.069	-.082	.165*
神経症	.028	-.089	.148**	.074	-.008	-.131*	.065	.001
開放性	.097*	.112*	.019	.205***	.025	.046	.160**	.114*
感謝特性	.110*	.086	.251***	.050	.266***	.161**	.260***	.122*
グリット	.090	-.039	.053	.304***	.081	.141*	.205***	.137*
SC	.103	.174*	-.141*	-.244***	.157*	.100	.068	.109
R <sup>2</sup>	.506***	.324***	.309***	.246***	.292***	.196***	.286***	.268***

注 1 : 「SC」はセルフコントロールの略  
 注 2 : F1 : リーダーシップ, F2 : 問題解決, F3 : 愛他性, F4 : 頑固さ, F5:エチケット, F6 : 感情制御, F7 : 自己超越, F8 : 能動的健康  
 注 3 : \*:  $p < .05$ . \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・2017年7月6日（訪問者数8名）	会議室1	3時間
・2017年8月17日（訪問者数2名）	8つの「生きる力」質問紙	3時間
・2017年12月13日（訪問者数8名）	会議室1	3時間
・2018年2月14日（訪問者数3名）	8つの「生きる力」質問紙	3時間
延べ訪問回数 4回		合計 12時間

成果として発表した論文

学術論文 合計（ 0 ）編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計（ 0 ）件のうち、A出願 計（ ）件 B取得 計（ ）件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本多明生 (2017). 感謝特性は災害を生きる力因子を特徴づける. 日本感情心理学会第25回大会, 2017年6月23-25日, 同志社大学.</li> <li>● Honda, A., &amp; Sugiura, M. (2018). Big Five Personality Traits, Gratitude, and the Power to Live with Disasters. 2018 SPSP (Society for Personality and Social Psychology) Annual Convention, March 1 – 3, 2018, Atlanta, Georgia, USA.</li> </ul>

合計（ 2 ）件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	ケースマネジメント支援システムを活用した伴走型生活再建支援員の標準的研修プログラムの開発と実践	研究課題	④
研究代表者	立木茂雄		
所属機関等・職名	同志社大学		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）  
 ◎立木茂雄（同志社大学）男、○佐藤翔輔（災害研）男、松川杏寧（人と防災未来センター）女、菅野拓（人と防災未来センター）男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	800,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 被災者生活再建支援システムを活用し、生活再建に困難を抱える被災者に対する伴走型支援を進めるための標準的な研修プログラムの開発とともに、「3.11 からの学び」及び「震災教訓文献」データベースや、本システムに蓄積された対応事例データベースが、別の事例のケースマネジメント過程で検索・参照できるような防災人材育成に寄与する仕組みを構築した。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 ケースマネジメント支援システムを活用した伴走型生活再建支援員の標準的研修プログラムの開発のための基礎研究を実施した。具体的には、名取市で実装されているケースマネジメント支援システムのデータベースに保存された、対応困難事例 30 ケースについて、検索用のメタデータ（関連キーワードやタグを含む）の抽出を行った。これらの作業を踏まえてメタデータスキーマのひな形を完成させた。また、仙台市や名取市で実装されているケースマネジメント支援システムのデータベースに保存されたケース記録が、個人情報保護に配慮しながら、他の自治体における生活再建支援業務で検索・参照を可能にする具体的手法としてエコマップの活用を提案した。

**【図表】**  
 名取 CM 会議日程

- ・2017年6月30日
- ・2017年8月4日
- ・2017年10月20日
- ・2017年12月15日
- ・2018年1月19日
- ・2018年3月2日

対応困難 30 事例の分析  
とメタデータ付与

- ・キーワード 1
- ・キーワード 2
- ・キーワード 3
- ：

表 1 メタデータスキーマのひな形

ケース	ID	属性	性別	年齢	職業	世帯	世帯収入	世帯人数	世帯構成	世帯タイプ
Case-01	001	男性	20	学生	無職	1	100万	2	本人、兄弟	一人暮らし
Case-02	002	女性	35	会社員	専業主婦	2	200万	3	本人、子供2人	二世帯
Case-03	003	男性	45	会社員	無職	1	300万	1	本人	一人暮らし
Case-04	004	女性	55	会社員	パート	2	150万	2	本人、子供1人	二世帯
Case-05	005	男性	65	会社員	無職	1	500万	1	本人	一人暮らし
Case-06	006	女性	75	会社員	パート	2	100万	2	本人、子供1人	二世帯
Case-07	007	男性	85	会社員	無職	1	800万	1	本人	一人暮らし
Case-08	008	女性	95	会社員	パート	2	120万	2	本人、子供1人	二世帯

エコマップによるケースの支援過程の全体像の把握

図 1 2017 年 8 月 4 日ケース会議でのエコマップ

図 2 2017 年 12 月 15 日ケース会議でのエコマップ

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 11 月 27 日(3 人)</li> <li>平成 29 年 3 月 4 日(4 人)</li> </ul>	佐藤研究室 佐藤研究室	1 時間 4 時間
延べ訪問回数        2    回		合計    5 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤 翔輔・松川 杏寧・立木 茂雄, 「仮設住宅からの退去方針が決まらない被災者の特徴・課題 —東日本大震災における名取市の事例」『自然災害科学』36(3):281-295, 2017, 査読有,国内.</li> <li>菅野拓, 「借上げ仮設を主体とした仮設住宅供与および災害ケースマネジメントの意義と論点—東日本大震災の研究成果を応用した熊本市におけるアクションリサーチを中心に—」『地域安全学会論文集』31:177-186, 2017, 査読有, 国内</li> </ul>

学術論文 合計 ( 2 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
無し

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( 0 ) 件 B 取得 計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2018 年 3 月 10 日, 研究会, 国内, 研究者, 「インクルーシブ防災学の構築と体系的実装」「災害後における支援団体への個人情報システムの構築」合同研究会, ①標準災害ケースマネジメント・プロセス, 及び②データベースに保存されたケース記録が、個人情報保護に配慮しながら、他の自治体における生活再建支援業務で検索・参照を可能にするための個人情報保護のあり方の合同討議, 12 名  2018 年 1 月 30 日, 大規模研修会, 国内, 「東大阪災害時ケアプラン作成 WS」伴走型相談支援員を対象とした当事者の生活機能アセスメント手法の試験的な研修プログラムの開発と実施, 約 100 名

合計 ( 2 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	熊本地震被災地の企業の事業継続計画（BCP）の推進人災の育成	研究課題	④
研究代表者	藤見 俊夫		
所属機関等・職名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎藤見俊夫(熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター)男、○丸谷浩明(災害研)男、寅屋敷哲也(災害研)、稲本義人(熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター)男、西本直樹(熊本大学大学院自然科学研究科)男、吉廣 鎮(熊本大学大学院自然科学研究科)男

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	837,000 円
-----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

災害科学国際研究所の防災社会システム研究部門に蓄積されている企業の事業継続計画（BCP）及び事業継続マネジメント（BCM）の調査研究資産を活用して、熊本地震被災地の復興計画にも明示されている企業の BCP の策定推進に資する人材育成の方法を研究し、育成講座を熊本県内で試行して、その成果を踏まえ方法の検証と改善を行う。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

熊本地震の被災地では、震災の経験を踏まえ、BCP の必要性を認識している企業も多いことを受け、熊本県庁や地元シンクタンクの地方経済総合研究所、県内経済団体等の協力を得て、BCP 策定・改善の講習会を 2 回開催した。17 社 22 名の参加が得られ、全社的に取り組む策定方法、参考となる BCP の各要素の様式集を提示し、段階的な進め方を提案するなど、BCP 担当者の知識とスキルを高めることに努めた。また、フォローアップとして 3 月に個別相談会を実施し（7 社が参加）し、経営環境に応じた助言を担当者に行った。参加企業には BCP がほぼ形になったところがあれば、社内での作業が進まずに取組が停滞したところもあったが、総じていえば、各社の事業継続力は高まったと推察している。

また、主催者としては、BCP の策定・改善の指導方法・人材育成方法として、個別企業の策定状況発表とそれに対する個別的助言を行うことの有効性が確認でき、BCP の文書作成にこだわらず、例えば緊急時の重要連絡先リストの徹底した作成などだけでも事業継続力を高めるのに有効であることが確認できた。

本共同研究による講習会及び個別相談会については、熊本県商工政策課に成果報告を行い、今後の BCP の促進を県庁が進めていく中で、今後も情報交換を続けていくことになった。なお、2 回の講習会は NHK 熊本放送局の取材を受け、講習会参加企業の取組が報道された。

波及効果としては、熊本の大学、医療機関等の公的組織に BCP 策定のニーズがあることが判明し、支援が期待されたので、熊本大学・東北大学が連携してその支援を企画したいと考えている。

## 【図表】

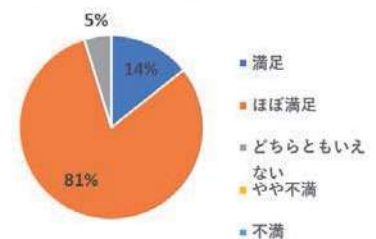


第 1 回講習会の状況



第 2 回講習会の企業発表

講習会全般に関する感想(N=21)



第 2 回講習会アンケート結果

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成29年6月15日(訪問者数1) ・平成30年1月11日(訪問者数2)	丸谷研究室、展示スペース 丸谷研究室	4時間 4時間
延べ訪問回数 2回		合計 8時間

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A出願 計 ( ) 件 B取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
第1回講習会 日時：平成29年9月7日 場所：肥後銀行熊本駅前支店2階セミナールーム 参加者17社22名 第2回講習会 日時：平成29年11月9日(木)10時～17時 場所：肥後銀行熊本駅前支店2階セミナールーム 参加者14社19名  本共同研究による熊本での講習会の開催状況について、以下の機会で紹介した。 九州経済産業局主催「BCP(事業継続計画)策定促進セミナー」日時：平成30年2月6日、場所：福岡市内

合計 ( 2 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	学校・地域・行政の協働による地域防災力向上のための防災人材育成モデルの開発～宮城県石巻市における「石巻モデル」構築に向けて～	研究課題	④
研究代表者	村山良之		
所属機関等・職名	山形大学大学院教育実践研究科		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎村山良之（山形大学）男、○佐藤健（災害研）男、桜井愛子（東洋英和女学院大学）女、小田 隆史（宮城教育大学）男、林田由那（早稲田大学）女、柴山明寛（災害研）男、定池祐季（災害研）女

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	880,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

東日本大震災の最大の被災地の一つである石巻市において、東日本大震災の教訓を踏まえて、学校防災、地域防災の融合を通じ、学校・地域・行政の連携による「地域に根ざした」地域防災力向上を目指した防災人材育成モデル、「石巻モデル」の開発を行った。

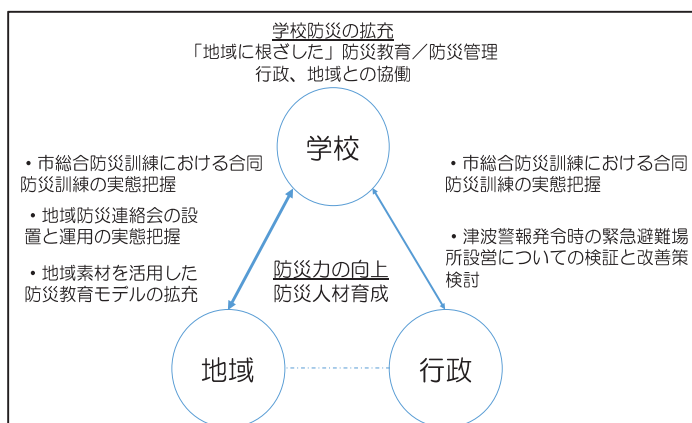
## 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、防災人材育成石巻モデルの開発にあたっては、学校を中心として学校と地域、学校と行政の観点からモデル開発を進めた（図参照）。具体的成果には、①石巻研究集会「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」の企画・実施（5月）、②石巻市学校防災フォーラム（8月）におけるパネル討議「津波避難ビルとしての学校の対応を考える～11.22の経験から～」の企画・実施がある。これらを通じて、石巻市における行政、学校、地域との連携による地域防災力向上に対する最新の実践事例を収集するとともに、特に学校が避難所となる場合の学校と地域の実践的な連携に向けた課題を明らかにするとともに対応策を討議した。11月には市総合防災訓練を登校日とし学校と地域、行政の連携による防災訓練を行った万石浦小学校を訪問し、合同防災訓練の実現を可能にした要因や今後の改善にむけた課題を把握した。

さらに、石巻市学校防災推進会議と連携し、地域防災力向上のための次世代人材の育成に向けた学校教育プログラムである「復興・防災マップづくり」の実践支援を行った。桃生地区の学校を訪問し、洪水を想定したマップづくり作成を支援し、実践ノウハウを蓄積した。市東部小学校では津波浸水エリア情報を基にした防災学習を震災後初めて実施し、マップづくりとあわせて学習前後の児童の認識の変化を把握した。

東北大学災害科学国際研究所の防災教育国際協働センターHPに、国土地理院の許諾を得て石巻市の旧版地形図を掲載し、既にある「実践の手引き」とともに「地域に根ざした」防災教育の実践支援のための学習教材が掲載された。これにより、防災教育国際協働センター「防災情報共有プラットフォーム」の拡充に寄与した。

研究成果は、日本安全教育学会で共有されるとともに、査読論文として「安全教育学研究」に採択された。これら本研究の取組みとその成果の発表を通じて、石巻市における地域防災力向上のための防災人材育成モデルの開発が進展され、同市における実践的防災政策の拡充に寄与したと言えよう。



【図】「防災人材育成石巻モデル」開発に向けた検討事項

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 6 月 2 日(8 名)	小会議室 2	2 時間
・平成 29 年 7 月 13 日 (3 名)	佐藤健研究室 震災アーカイブの活用	3 時間
・平成 29 年 8 月 10 日(6 名)	会議室 1	4 時間
・平成 29 年 9 月 5 日(1 名)	佐藤健研究室	1 時間
・平成 30 年 2 月 27 日(2 名)	小会議室 2	2 時間
・平成 30 年 3 月 24 日(4 名)	佐藤健研究室 震災アーカイブの活用	3 時間
延べ訪問回数 6 回		合計 15 時間

成果として発表した論文
1) <u>桜井愛子</u> ・ <u>北浦早苗</u> ・ <u>村山良之</u> ・ <u>佐藤健</u> ，地域に根ざした災害復興・防災教育プログラムの開発—石巻市立学校での「復興・防災マップづくり」5 年間の実践を踏まえて．安全教育学研究 18 (1) ，2018 刊行予定，査読有，(採択済)．
2) <u>佐藤健</u> ・ <u>桜井愛子</u> ，学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造—大崎市立岩出山小学校の実践事例—，安全教育学研究，18(1)，2018 刊行予定，査読有，(採択済)．
3) <u>桜井愛子</u> ・ <u>北浦早苗</u> ・ <u>村山良之</u> ・ <u>佐藤健</u> ，「復興・防災マップづくり」実践のための手引書の開発．日本安全教育学会第 18 回岡山大会プログラム予稿集，(2017)，51-52，査読無．
4) <u>佐藤健</u> ・ <u>桜井愛子</u> ，大崎市立岩出山小学校における地域の教育力を活かした防災教育資料の創造．日本安全教育学会第 18 回岡山大会プログラム・予稿集，(2017)，59-60，査読無．
5) <u>佐藤健</u> ・ <u>村山良之</u> ，釜石市内の保育園の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓，地域安全学会 東日本大震災特別論文集，6，(2017)，23-26，査読無．
6) <u>Aiko Sakurai</u> ， <u>Takeshi Sato</u> ，Enhancing Community Resilience Through Capacity Development After GEJE: The Case of Sendaishi-chiiki Bousai Leaders (SBLs) in Miyagi Prefecture． In: The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration: Insights and Assessment after 5 Years, Springer, (2017) 113-126，査読有．

学術論文 合計 ( 6 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
研究集会「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」開催 (2017 年 5 月 13-14 日)
・ 開催場所 石巻市桃生公民館 (区分—国内)
・ 対象 研究者・教員 (宮城県防災主幹・防災主任含む)
・ 概要 日本安全教育学会、石巻市教育委員会との協賛により企画・開催。石巻市や岩手県岩泉町等の東北被災地の学校防災の最前線について、学校や地域の防災人材育成の観点から実践例が発表され、今後の学校防災拡充に向けた具体策について討議が行われた
・ 参加人数 238 名

合計 ( 1 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	東日本大震災発生後の教育行政の取組による日本の被災地及び被災懸念地域での防災教育・防災管理の改善と課題	研究課題	④
研究代表者	藤岡達也		
所属機関等・職名	滋賀大学大学院教育学研究科・教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎研究代表者；藤岡達也(滋賀大学)男，○佐藤健(災害研)男，研究分担者；山口克彦（福島大学）男，大辻永（東洋大学）男，研究協力者；阿部洋己（福島県教育委員会）男，國井博（福島県教育委員会）男，君佳子（福島県教育委員会）女，北川英樹（滋賀県教育委員会）男，川路美沙（東京都教職員研修センター）女

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	638,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

本研究としては、各地域の防災教育・防災管理に大きな影響を与えた東日本大震災前後の教育行政の取組の現状と課題を探り、今後の復興教育や防災・減災教育の改善内容・方法等を明確にするものであった。具体的には、被災地及び被災懸念地域において、実施された教員研修や作成された副読本等を中心に、教育行政の意義や課題を分析、考察した。それらを踏まえて、被災地域での教訓を活かした防災教育に関する研修プログラム等を開発・実践し、被災懸念地域で検証した。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

著書や関係学会への執筆・投稿，発表（準備中）のほか，教育行政への具体的支援が可能であった。例えば，福島県のように教育事務所7か所ごとに様々な自然災害の可能性のある地域に対して，多様な教員研修や副読本の開発，改善等に支援を行った。県の教育委員会の指導者が災害研において，本研究プロジェクトの成果を受けたり，大学の研究者と交流を行ったりすることは福島県等の被災県だけでなく，被災懸念地域，例えば東京都や滋賀県へも意義があった。さらに，日本の防災教育の課題として，都道府県を越えた教育行政間の情報共有のシステムが不十分であることが挙げられるが，被災地域・被災懸念地域の行政の担当者が，プロジェクトメンバーのコーディネートのもとで，今後の防災教育・防災管理・組織活動について，情報共有することは，新たな防災人災の育成の内容や方法，システムの構築につながる事が期待できる。

## 【図表】表 気象庁が特別警報を発表した自然現象と本研究で取り上げた自然災害

	発表年月	自然現象名	種類	対象地域
◎	平成 25 年 9 月	台風第 18 号	大雨	京都府，滋賀県，福井県
	平成 26 年 7 月	台風第 8 号	暴風,波浪,高潮,大雨	沖縄県
	平成 26 年 8 月	台風 11 号	大雨	三重県
	平成 26 年 9 月	(低気圧)	大雨	北海道(石狩・空知・後志地方)
◎	平成 27 年 9 月	台風 18 号～(低気圧)	大雨	栃木県，茨城県
	平成 27 年 9 月	台風 17 号	大雨	宮城県
	平成 27 年 10 月	口永良部島の噴火	噴火	(鹿児島県)
○	平成 28 年 4 月	熊本地震	地震	熊本県
	平成 28 年 10 月	台風 18 号	暴風,波浪,大雨,高潮	沖縄県
	平成 29 年 7 月	梅雨前線	大雨	島根県
○	平成 29 年 7 月	梅雨前線	大雨	福岡県，大分県

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 12 月 21 日(2 名) ・平成 29 年 12 月 23 日～平成 29 年 12 月 24 日(20 名) ・平成 30 年 1 月 11 日 (1 名)	研究室 会議室 1  研究室	3 時間 9 時間  3 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 15 時間

成果として発表した論文
藤岡達也『絵でわかる日本列島の地震・噴火・異常気象』, 講談社, 2018, 171p. 藤岡達也「東日本大震災発生後の防災・減災, 復興に関する学校教育の動向」日本信頼性学会誌, 40,1, 2018, 20-27, 依頼原稿 藤岡達也「新学習指導要領と環境教育－自然災害・防災教育の観点から－」, 環境教育, 27, 1, 2017, 6- 11, 査読有 大辻永・藤岡達也「学習指導要領にみる「災」: 防災教育からカリキュラム・マネジメントの視点へ」, 日本理科教育学会全国大会発表論文集第 15 号, 2017, 86, 査読無

学術論文 合計 ( 4 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
無し

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究プロジェクト 研究主題「東日本大震災発生後の教育行政の取組による日本の被災地及び被災懸念地域への防災教育・防災管理の改善と課題」研究集会 日時: 平成 29 年 12 月 23 日 (土) 10:00～19:00 場所: 東北大学災害科学国際研究所他 本研究プロジェクト及び研究会趣旨説明 東北大学 佐藤健教授 滋賀大学 藤岡達也 <第 1 部 教育行政からみた自然災害・防災教育> 「東京都の防災教育と女川プロジェクト」東京都教職員研修センター 川路美沙指導主事 「滋賀県の防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」滋賀県教育委員会 北川英樹指導主事 「福島県の防災教育・放射線教育の取組」福島県教育委員会 君佳子指導主事・國井博指導主事 <第 2 部 原子力事故災害と放射線教育> 基調講演 (東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 千田浩一教授, 稲葉洋平助教 「震災後・現在・将来の福島の教育」福島県教育委員会 阿部洋己指導主事 <第 3 部 防災教育最先端の学校教育> 「福島県の学校の現状と課題」福島県相馬郡飯舘村立草野・飯樋・白石小学校 吉川武彦校長 「文科省研究開発学校・日本初の「防災安全科」の意義とその後」仙台市立七郷小学校 齋藤由美子教諭 「地域と連携したこれからの学校防災に向けて」東洋大学 大辻永教授 総合討論・研究とりまとめ

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発	研究課題	④
研究代表者	目黒公郎		
所属機関等・職名	東京大学生産技術研究所・教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎目黒公郎（東京大学生産技術研究所）男、○村尾修（災害研）男、寺田賢二郎（災害研）男、森口周二（災害研）男、杉安和也（災害研）男、姥浦道生（東北大学大学院工学研究科、災害研 兼務）男、腰原幹雄（東京大学生産技術研究所）男、長井宏平（東京大学生産技術研究所）男、竹内渉（東京大学生産技術研究所）男、関本義秀（東京大学生産技術研究所）男、郷右近秀臣（東京大学生産技術研究所）男、川崎昭如（東京大学大学院工学系研究科）男、坪井塑太郎（人と防災未来センター）男、花岡和聖（立命館大学文学部）男、薬袋奈美子（日本女子大学家政学部）女、花田悠磨（東北大学工学部）男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日		890,000 円
----	-----------------------------------	--	-----------

## 【研究の概要】

本研究では、平成 28 年度共同研究成果を踏まえ、災害科学国際研究所「多次元統合可視化システム」に適した以下の二種類の防災教育用コンテンツを制作する。

- (1) 都市防災および復興に携わる研究者達が蓄積してきた空間情報を可視化したコンテンツ
- (2) 多目的ホールでの被災を対象とした体験型コンテンツ

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

昨年度の研究を踏まえ、多目的ホールを対象とした家具倒壊シミュレーションコンテンツを制作した。また、家具倒壊シミュレーションを用いて長周期パルス地震動による家具倒壊危険性の評価を行なった。そして、災害研に設置している多次元統合可視化システム（IMIDES）の将来的な利用展開を見越して、国際会議等にてこうしたコンテンツを実際に体験してもらい、更なる利用方法について議論した。

## 【図表】

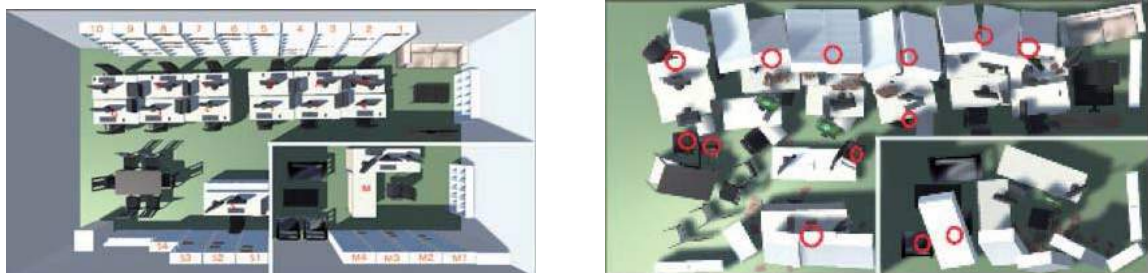


図 1：オフィスの対向式レイアウト（左）と長周期パルス地震動による家具転倒シミュレーション結果



図 2：IMIDES を用いた家具倒壊コンテンツ（左）／16USMCA（中）／地震ザブトン体験会

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 8 月 4 日（訪問者数：2 名）	多次元統合可視化システム および多目的ホール	5 時間
・平成 29 年 10 月 20 日（訪問者数：2 名）		3 時間
・平成 29 年 11 月 26 日（訪問者数：11 名）		5 時間
・平成 30 年 2 月 18 日（訪問者数：11 名）		3 時間
延べ訪問回数 4 回		合計 16 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>Yuma HANATA, O. MURAO, T. MASATSUKI, S. ONO, and K. MEGURO</u>, Making of Visual Contents for Integrated Multi-dimensional Visualization System for Information about Disaster Science (IMIDeS), Proceeding s of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia (USMCA), SU1-01, 査読無, 国際会議, 2017.11</li> <li>・ <u>目黒公郎</u> : 首都直下地震に備える (8) 災害イマジネーションの重要性と向上策, 防災, 420 号, 17-20, 公益財団法人 東京連合防火協会, 査読なし, 2018.2</li> <li>・ <u>目黒公郎</u> : 首都直下地震に備える (9) 災害イマジネーション不足を原因とする諸問題, 防災, 421 号, 17-20, 公益財団法人 東京連合防火協会, 査読なし, 2018.4</li> <li>・ <u>花田悠磨, 村尾修, 目黒公郎</u> : 長周期パルス地震動による家具の転倒危険性に関する研究, 地域安全学会 2017 年地域安全学会梗概集 No.42, 地域安全学会, 査読なし, 2018.6 (印刷中)</li> </ul>

学術論文 合計 (4) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
合計 (0)

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017 年 8 月 4 日/研究会/国際/社会人/韓国災害情報学会との情報交換会/多次元可視化システムを用いた災害研コンテンツの紹介, 被災地ツアー/12 名</li> <li>・ 2017 年 11 月 26 日~28 日/シンポジウム/国際/研究者/The 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia (16USMCA)/多次元可視化システムを用いた多目的ホールでのコンテンツ披露, 可搬型地震動シミュレーター (地震ザブトン) を用いた地震体験, 研究発表会, 被災地ツアー/80 名</li> <li>・ 2017 年 11 月 26 日~28 日/シンポジウム/国際/研究者/The 4th Asian Conference on Urban Disaster Reduction (4USMCA)/多次元可視化システムを用いた多目的ホールでのコンテンツ発表, 可搬型地震動シミュレーター (地震ザブトン) を用いた地震体験, 研究発表会, 被災地ツアー/50 名</li> <li>・ 2018 年 2 月 18 日/研究会/国内/研究者/地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発 第 3 回ワークショップ/防災情報の可視化に関する討論, 家具倒壊シミュレーション時発表/11 名</li> </ul>
合計 (4) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	海溝型巨大地震発生予測に資する海底地殻変動場把握のための観測点施設の共同利用およびデータの共有化	研究課題	⑤
研究代表者	田所 敬一		
所属機関等・職名	名古屋大学・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎田所敬一(名古屋大学)男、○木戸元之(災害研)男、木村 洋(名古屋大学)男、角 充(名古屋大学)男、石川直史(海上保安庁)男、横田裕輔(海上保安庁)男、田代俊治(海上保安庁)男、福島 洋(災害研)男、川田佳史(災害研)男

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	468,000 円
-----	-----------------------------------	----	-----------

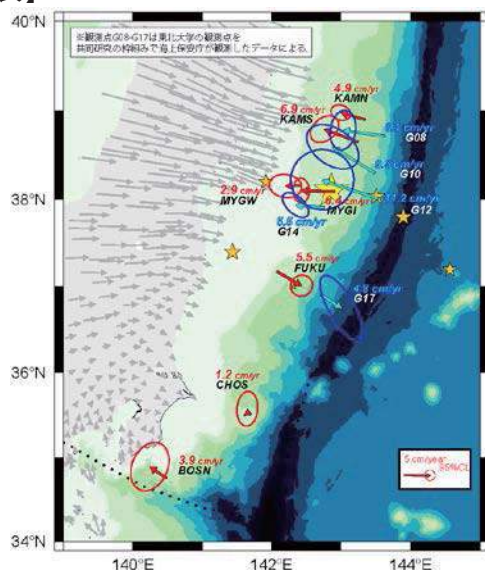
## 【研究の概要】

東北大学が保有する海底地殻変動機動観測システム等を用いて複数の研究機関で海底地殻変動観測を実施した。日本海溝および南海トラフ沿いにおいて、観測・解析方法による精度の違いの検討や、従来よりも効率的かつ高精度な海底地殻変動場の把握のため、相互に解析結果の交換・統合を行った。

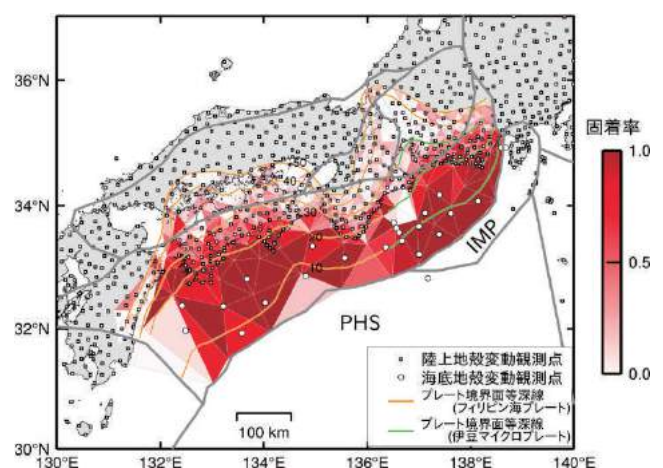
## 【研究の具体的な成果・波及効果】

日本海溝沿いにおいて、東北地方太平洋沖地震による7年間の余効変動の推移が高精度で明らかになった。東北大学の観測点のデータ解析を海上保安庁でも行い、両者で得られた海底地殻変動観測点の動きは整合的であり、両者のデータを用いて粘弾性緩和も踏まえた余効変動の解釈が可能になった。南海トラフでは、名古屋大学と海上保安庁の観測結果を統合してプレート間固着の現状把握を行った。海底地殻変動観測におけるオールジャパンでの観測・解析体制の整備の第一歩となった。

## 【図表】



東北大学および海上保安庁の観測・解析による日本海溝沿いでの海底地殻変動場。2015年1月～2017年12月の平均速度を示す。



海上保安庁および名古屋大学の観測・解析結果にもとづく南海トラフ沿いのプレート間固着の空間分布。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
平成 30 年 3 月 29 日～平成 30 年 3 月 30 日(5 名)	海底地殻変動機動観測システム 災害研会議・セミナー室 (S100)	1 1 時間
延べ訪問回数 1 回		合計 1 1 時間

成果として発表した論文
<p>Nishimura, T., <u>Yokota, Y.</u>, <u>Tadokoro, K.</u>, and Ochi, T., Strain partitioning and interplate coupling along the northern margin of the Philippine Sea plate, estimated from Global Navigation Satellite System and Global Positioning System-Acoustic data, <i>Geosphere</i>, 14, 2018, 1-17, 査読有, 国際.</p> <p><u>Watanabe, S.</u>, Y. Bock, D. Melgar, and <u>K. Tadokoro</u>, Tsunami scenarios based on interseismic models along the Nankai Trough, Japan, from seafloor and onshore geodesy, <i>J. Geophys. Res.</i>, 2018 査読有, 国際.</p> <p>海上保安庁, 日本海溝沿いの海底の水平地殻変動・南海トラフ沿いの海底の水平地殻変動, 第 218 回地震予知連絡会, 2018, 査読無, 国内.</p> <p>名古屋大学大学院環境学研究科 (木村 洋・田所敬一・伊藤武男), 陸上及び海底地殻変動観測データに基づくブロック運動モデルを用いた南海トラフ沈み込み帯の固着推定, 地震予知連絡会報, 99, 2018, 298-301, 査読無, 国内.</p>

学術論文 合計 ( 4 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
平成 30 年 3 月 29 日～平成 30 年 3 月 30 日, 研究集会, 国内, 研究者・学生, 海底地殻変動勉強会, 各機関における今年度の成果の紹介・データ交換および相互解析についての検討, 15 名

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	東北地方主要活断層帯の断層変位地形のアーカイブ化	研究課題	⑤
研究代表者	石村 大輔		
所属機関等・職名	首都大学東京・助教		

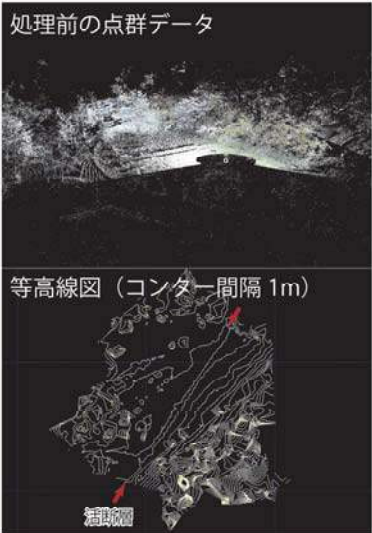
研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎石村大輔(首都大学東京)男、○遠田晋次(災害研)男、今野明咲香(災害研)女、西澤文勝（首都大学東京）男、高橋直也(東北大学)男

期間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	499,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

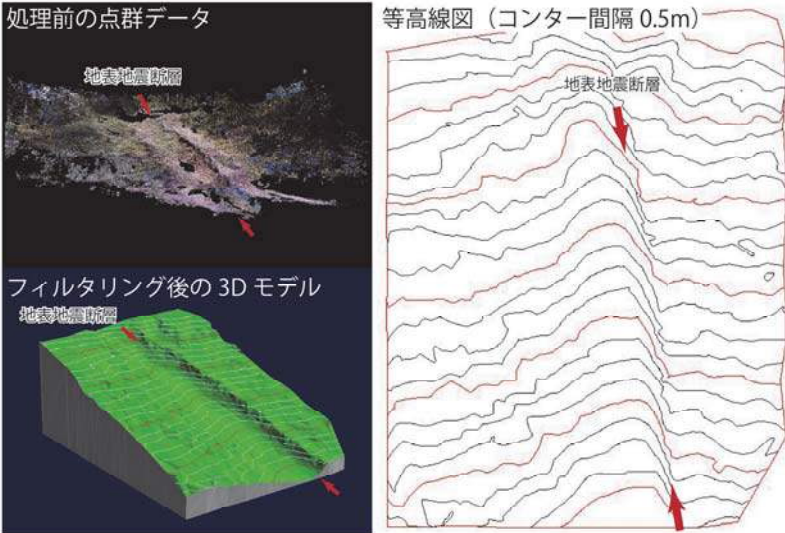
**【研究の概要】**  
 断層変位地形は、内陸大地震における重要な事前ハザード情報であり、活断層が動いた際には地震後と比較することで変位量・様式を知ることができる。しかし、現地計測によるデータの整備は進んでいない。本研究では、東北地方の主要活断層帯を対象に活断層地形のデジタルアーカイブ化を行った。加えて、近年発生した地震による地表地震断層の計測も行った。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 長町—利府線断層帯と山形盆地断層帯において、地上レーザースキャナーを用いて活断層地形を計測した。また、2011 年 4 月 11 日に発生した福島県浜通りの地震による地震断層の計測も同様に行った。前者は地震前の地形データ、後者は地震後の地形データである。これらは単なる地形のデジタルアーカイブではなく、ともに活断層の活動による地形変化（断層の出現、その後の堆積侵食、繰り返しによる変位の累積）を考える上で重要な情報である。今後、継続的に活断層地形の計測地点を増やすことで、地震が生じた際の重要な事前情報となり、また地震断層の繰り返し計測を行うことで断層地形の経時変化を定量的に検討し、活断層の地形判読に資する情報となり得る。

**【図表】**



処理前の点群データ  
等高線図（コンター間隔 1m）  
フィルタリング後の 3D モデル



処理前の点群データ  
等高線図（コンター間隔 0.5m）  
フィルタリング後の 3D モデル

図 1：三神峯公園の断層変位地形 図 2：2011 年 4 月 11 日福島県浜通りの地震で現れた地表地震断層

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 7 月 21 日～平成 29 年 7 月 22 日(訪問者数 2 人)</li> <li>・平成 29 年 11 月 6 日 (訪問者数 2 人)</li> <li>・平成 30 年 2 月 27 日～平成 30 年 2 月 28 日(訪問者数 2 人)</li> </ul>	小会議室 5  小会議室 1 小会議室 3	1 2 時間  7 時間 1 0 時間
延べ訪問回数        3    回		合計    2 9 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	地震災害後の診療継続に向けた連携構築に関する研究 ～熊本地震並びに東日本大震災を経験した医療施設への質問 紙調査から～	研究課題	⑤
研究代表者	前田 ひとみ		
所属機関等・職名	熊本大学大学院生命科学研究部・教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎前田ひとみ(熊本大学大学院生命科学研究部)女、○児玉栄一(東北大学災害科学国際研究所)男、丸谷浩明(東北大学災害科学国際研究所)男、寺田賢二郎(東北大学災害科学国際研究所)男、寅屋敷哲也(東北大学災害科学国際研究所)男、松本智晴(熊本大学大学院生命科学研究部)女、南家貴美代(熊本大学大学院生命科学研究部)女、三橋睦子(久留米大学大学院医学系研究科)女

期間	平成 29 年 5 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	450,000 円
----	------------------------------------	-----------

## 【研究の概要】

平成 28 年度、熊本県内と宮城県内の医療施設を対象に震災による診療継続や支援体制への影響について面接調査を行った。今年度、この調査をさらに発展させ、震災後の診療継続に向けた医療者の連携体制について震災当時の現状とその後の体制づくりを調査し、災害時においても利用しうる BCP 作成に資する要素を明らかとする。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

52 病院 (37.1%) から回答を得た。熊本地震の影響を推定するために病院の保健所の管轄区域を調査した結果、熊本市中央区が 10 件、菊池 7 件、熊本市南区 6 件、天草 6 件等であり、影響を大きく受けたと考えられる中央区と南区が 30.8% 占めた。病院の病床は一般病床のみが 12 件 (23.1%)、一般病床と他の病床を持つ病院が 22 件 (42.3%)、精神科病床 12 件 (23.1%)、精神科と療養病床 1 件 (1.9%)、療養病床 2 件 (3.8%)、無回答 3 件 (5.8%) であった。熊本地震発生直後の支援・受援状況は、被災施設を支援した病院が 15 件 (27.3%) 支援を受けた病院が 13 件 (23.6%)、自院も被災しながら他の施設を支援した病院が 13 件 (23.6%)、被災したが支援を受けなかった病院が 10 件 (18.2%)、無回答 4 件 (7.3%) であった。

熊本地震の経験から、自院の災害対策マニュアルの項目で役に立った項目、役に立たなかった項目、マニュアルになかったが必要と感じた項目、震災後追加した項目について回答を得た (図 2)。役に立った項目は災害対策本部の設置 57.7%、次に備蓄食料・飲料水 55.8%、患者への非常食の提供 52.9%、被害状況の把握 46.3%、災害対策本部の役割・業務内容 45.3% 等であった。役に立たなかった項目は、発災直後の職員個々の対応 15.7%、次に災害対策本部の役割・業務内容 13.2%、在宅療養患者や透析患者への対応 10.2% 等であった。マニュアルになかったが必要だった項目は、職員の家族の対応 (保育・介護) が 43.1%、職員のシフトや休憩・仮眠等の勤務調整 43.1%、医療チーム (DMAT・医療救護班) の受入れ 41.2%、ボランティアの受入れ 37.3%、帰宅困難者への対応 37.3% 等であった。震災後に追加した項目は、職員への非常食の提供 14.0%、人員の配置 13.7%、ボランティアの受入れ 9.8%、職員の家族の対応 (保育・介護) が 9.8%、職員のシフトや休憩・仮眠等の勤務調整 9.8% 等であった。必要だったボランティアについての調査では、1 番に看護師と保育士 14.3% であり、人員の不足と職員の子どもの対応に苦労したことがわかる (図 1)。職員の子どもの対応のため職員がボランティアで面倒を見ていたという記述もあった。備蓄食料については、患者用を震災前から準備していた病院が多かった一方で、職員用を準備している病院が少なく震災後に準備するようにした病院が増加していた。熊本の地域の特徴でもあるが、飲料水については井水で対応し備蓄しないと回答した病院もあった。災害時、患者に食事を継続的に提供する体制については、委託業者と支援体制を構築している病院が 38.9% と最も多く、次に近隣の施設と相互支援体制を構築している病院が 26.4% であった (表 1)。

役に立たなかったと感じた項目、マニュアルになかったが必要と感じた項目、必要だったボランティアの項目から、職員やその家族への対応が不十分であったことが推測できた。その反省に基づき震災後には、職員に目を向けた内容が追加され、その対応が整備されていることが示された。また、役に立ったと感じた項目として、災害対策本部の役割・業務内容が上位だった一方で、逆に役に立たなかった項目としても上位にであった。さらに災害マニュアルの作成・改定について支援が必要と回答した病院は 52% と半数以上であった。内閣府の調査でも、BCP 策定の課題として、「策定に必要なノウハウ・スキルがない」、「策定する人手を確保できない」が上位を占めていることが報告されており、更なる情報の発信や支援体制の構築が求められる。

【図表】

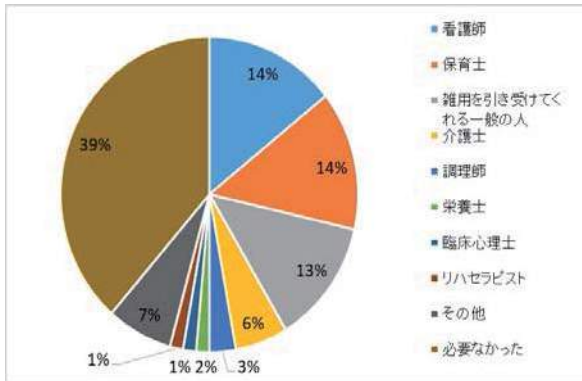


図1 必要だったボランティア

災害時、継続的に食事を提供する体制	施設数 (%)
近隣の施設と相互支援体制を構築(食料や人材(栄養士、調理師等)の確保)	19(26.4)
遠隔の施設と相互支援体制を構築(食料や人材(栄養士、調理師等)の確保)	4(5.6)
委託業者と支援体制について契約	28(38.9)
委託業者と代行機関の連携を確認	9(12.5)
ガス供給停止時はリースで都市ガスよりボンベを借りて調理する体制を作っている	1(1.4)
県内の関連施設より支援を受ける	1(1.4)
近隣の同団体施設と相互支援体制を作っている	1(1.4)
県精神科協会栄養部委員会が、精神病院との連携による支援体制を整備	1(1.4)
体制づくりはできていない	8(11.1)
合計	72(100.0)

表1 災害時、患者に継続的に食事を提供する体制の構築

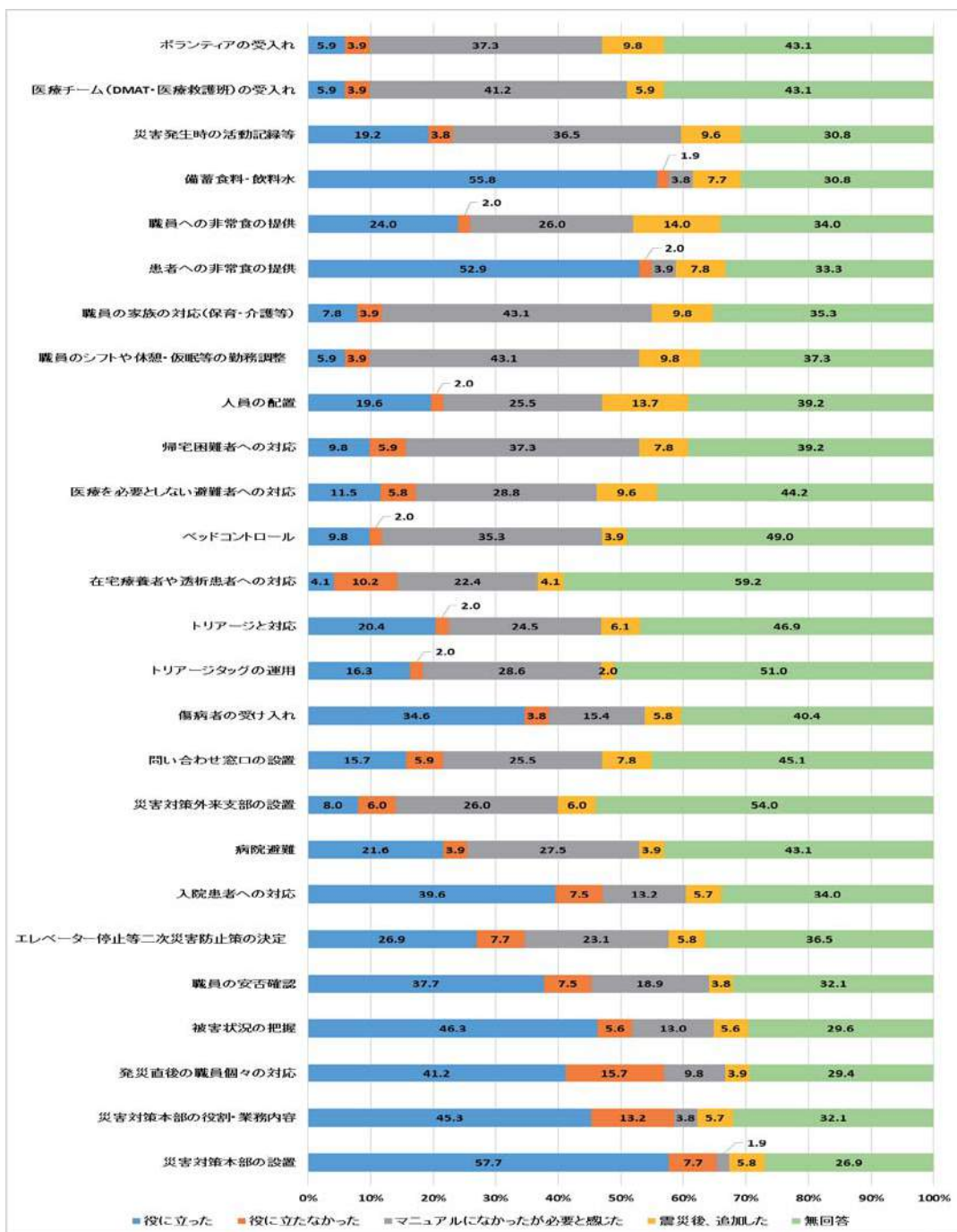


図2 自院の災害マニュアルの項目について

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 7 月 29 日 (1 人) 悪天候のため、中止</li> <li>平成 29 年 12 月 25 日 (4 人)</li> </ul>	災害科学国際研究所 東北大学 医学部 1 号館	2 時間 30 分 2 時間
延べ訪問回数 1 回		合計 4 時間 30 分

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	携帯電話位置情報を用いた、 人の移動行動の災害ダメージとその回復過程の研究	研究課題	⑤
研究代表者	山口 裕通		
所属機関等・職名	金沢大学 自然科学研究科 ・ 特任助教		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎山口裕通(金沢大学)男、○奥村誠(災害研)男、 大村暁子(金沢大学)女、木村裕希(金沢大学)男

期 間	平成 29 年 5 月 10 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	444,000 円
-----	-----------------------------------	----	-----------

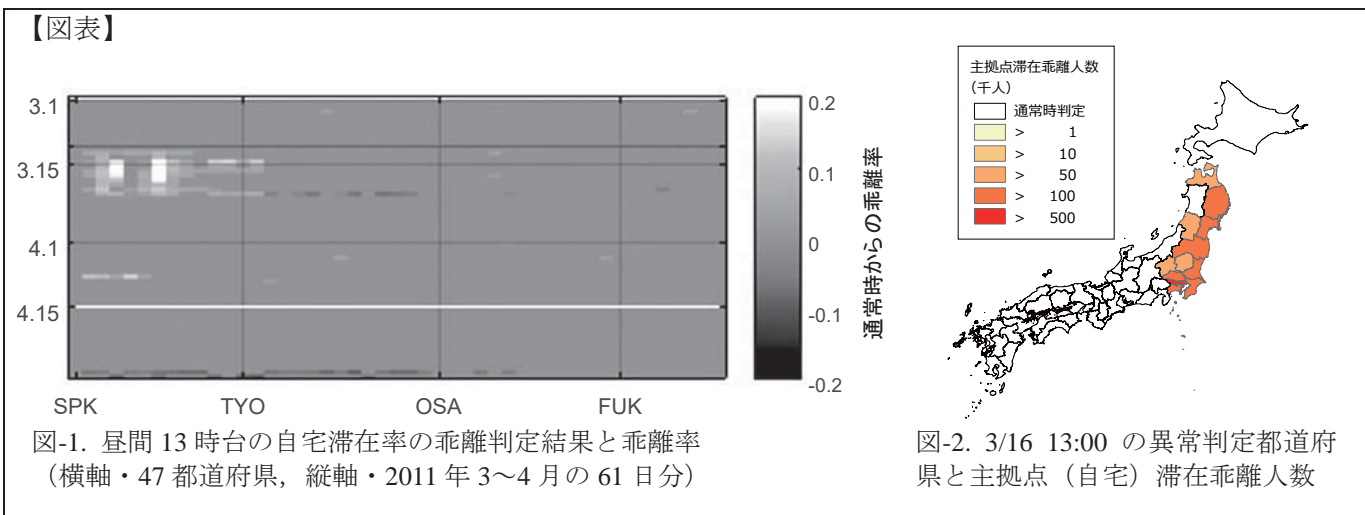
**【研究の概要】**

本研究では、人の自宅・勤務先での滞在時間および、広域的な移動行動の変化から、「災害時の異常変動」を抽出するモデルの提案を行った。そして、そのうえで東北大学災害科学国際研究所被災地支援研究室がライセンスを保有する、携帯電話位置情報集計データにモデルを適用し、東日本大震災時と熊本地震時の人々の対応行動と、（通常時と同様の行動をとれなかったという意味での）被災ボリューム・回復過程の定量化を広範囲で行うことに成功した。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**

携帯電話位置情報データから得られる、[自宅滞在、勤務地滞在、そのほか]という行動状態の都道府県ごとの構成比の 1 時間ごとの時系列推移データを用いて、東日本大震災時の都道府県ごとのマクロな人の移動量における被災量とその回復過程を明らかにした。図-1 は成果の一つであり、通常時と昼間に自宅にいる人数が有意に異なる都道府県×日を、その大きさに応じて色付けしたものである。この図から、3.11 の発災以降しばらく、岩手・宮城・福島において顕著に「自宅に多く滞在している（勤務地にいない）」状態が継続していること、それがおよそ 2 週間程度継続していたことが明らかになった。さらに、3/16 日時点を図上に図示したものが図-2 であり、発災 1 週間後においても東北地方太平洋側と関東全域の各県で 10 万人以上もの人が通常時の行動をとれていなかったことが明らかになった。そのほか、深夜の影響を見ると 3/11 の深夜には東北・関東・中部のほぼ全域で自宅に帰宅していない人がおりその数を概算することに成功した。このように、異なる時間・場所の結果からいくつかの災害時の「マクロな人の行動」を明らかにすることに成功した。

本モデルを応用することで、“統計的な有意性を判断しながら”，東日本大震災以外の災害についても被災・回復過程の定量的なデータを入手できるため、災害時の人の行動データから災害の被災と対応の妥当性を定量的に議論することができ、防災・災害対応計画の高度化に寄与しうる重要なエビデンスを得られると期待できる。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 5 月 24 日 (山口)</li> <li>・平成 29 年 7 月 20 日・21 日(山口)</li> <li>・平成 29 年 11 月 6 日(山口)</li> <li>・平成 30 年 1 月 19 日(山口)</li> <li>・平成 30 年 3 月 16 日(山口)</li> </ul>	奥村研究室・混雑統計データ	4 時間 8 時間 4 時間 4 時間 4 時間
延べ訪問回数        6    回		合計    24 時間

成果として発表した論文
1) 大村 暁子, 山口 裕通, 中山 晶一郎, 福田 大輔: 「長距離旅行行動の時系列変動における, 異常変動の抽出方法の提案」 平成 29 年度 土木学会中部支部 研究発表会 講演概要集, 2018 年 03 月. 査読なし.
2) 山口 裕通・大村 暁子・奥村 誠: 「時系列混合ガウスモデルを用いた災害による行動パターンの被災・回復過程の抽出」 都市・河川防災寄付講座 研究報告 第 1 号, 2018 年 06 月. (予定) (査読なし. 金沢大学・研究者代表者所属組織の研究結果公開資料. 共同研究としての実施している研究であることを明記.)

学術論文 合計 ( 1 ) 編 ※2)の方は, 判断できかねたため数に入れていません.

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	広域連携を通じた東日本大震災被災地の歴史文化復元に関する研究	研究課題	①
研究代表者	青柳周一		
所属機関等・職名	滋賀大学経済学部・教授		

## 研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎青柳周一（滋賀大経済学部）男、○佐藤大介（災害科学国際研究所）男、菱岡憲司（山口県立大学国際文化学部）男、高橋陽一（東北大学東北アジア研究センター）男、井上拓巳（さいたま市立博物館）男、添田仁（茨城大学人文社会学部）男、坂本達彦（國學院大學栃木短期大学）男、籠橋俊光（東北大学大学院文学研究科）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	387,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

巨大災害により地域の歴史文化遺産を失った地域における歴史文化再生の方法について、東日本大震災被災地を対象に、全国の関連する研究者・史料保存機関と連携しながら、地域外に残る関連史料の所在確認、収集、情報化および成果発信の実践を通じて研究する。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

- 江戸時代の代表的な紀行文の一つである小津久足「陸奥日記」本文を出版した。客観的な描写に基づく記載を通じて、旧仙台藩領における 1837 年大飢饉の社会的影響が確認された。また、茨城、福島、宮城沿岸の 3.11 被災地の史跡・景観描写が解明され、各被災地の歴史文化再生に資する歴史アーカイブの一つを共有化することができた。
- 今年度は千葉県から茨城県域に関して検討を行った。茨城県の史跡については、「陸奥日記」の中で、久足が訪問した直後からの水戸藩政の転換、天狗党の乱に代表される幕末期の混乱から、3.11 の被災および復旧工事に至る様々な契機において失われたものが多数存在する事、および現存するものの状況について確認する事が出来た。

## 【図表】\*陸奥日記の旅程表

## 防潮堤工事で旧街道の痕跡が失われた福島県広野町付近



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 12 月 9 日(10 名)</li> <li>平成 30 年 3 月 30 日(8 名)</li> </ul>	小会議室 5 小会議室 5	4 時間 4 時間
延べ訪問回数      2    回		合計    8 時間

成果として発表した論文
(論文) 青柳周一、一九世紀の商人・旅行者としての小津久足、東北文化研究叢書 11『小津久足「陸奥日記」』、2018 年、9-16 ページ、査読無、国内 (総説・解説) 菱岡憲司、『陸奥日記』の位相、東北文化研究叢書 11『小津久足「陸奥日記」』、2018 年、1-2 ページ、査読無、国内 板坂耀子「東北紀行」とは何か、東北文化研究叢書 11『小津久足「陸奥日記」』、2018 年、3-5 ページ、査読無、国内 高橋陽一『陸奥日記』の東北旅行史的位相、東北文化研究叢書 11『小津久足「陸奥日記」』、2018 年、6-8 ページ、査読無、国内

学術論文 合計 ( 4 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>2018 年 12 月 9 日、研究会、国内、研究者、陸奥日記研究会、「陸奥日記」のうち陸奥浜街道（茨城県～宮城県仙台市）の記載検討、10 人</li> <li>2018 年 3 月 30 日、研究会、国内、研究者、陸奥日記研究会、「陸奥日記」の成立過程についての古文書資料の検討、8 人</li> </ul>

合計 ( ) 件

## 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	震災アーカイブの防災教育とまちづくりへの活用に関する研究	研究課題	①
研究代表者	竹内裕希子		
所属機関等・職名	熊本大学大学院先端科学研究部・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎竹内裕希子(熊本大学)女, ○柴山 明寛(東北大学災害研)男, 山尾 敏孝(熊本大学) 男, 田中 尚人(熊本大学) 男, 稲本 義人(熊本大学) 男, 廣内 大助(信州大学) 男, 島 武男(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター) 男, 小保田 春加(信州大学)女

期 間	平成 29 年 10 月 2 日～平 30 年 3 月 31 日	経費	569,000 円
-----	----------------------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

本研究では、2011 年東日本大震災、2014 年長野県神城断層地震、2016 年熊本地震で構築(検討中も含む)された震災アーカイブシステムデータを用いて、震災の教訓を学び・継承する防災・減災教育プログラム並びにまちづくりプログラムを構築し実践的に実施していくことを目的としている。

本年度は、東北大学災害化学国際研究所が取り組むアーカイブまた支援するアーカイブ事例と東日本大震災の被災地における展示・活用事例について現地視察を通じ学び、議論を行った。また、まちづくりや防災教育の実例をアーカイブ資料を用いて実施していく際の具体例や課題について共有した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究課題では、①熊本地震からの教訓の抽出、②防災・減災教育プログラムの構築、③まちづくりプログラムの構築、④熊本地震震災アーカイブの構築の 4 つに取り組み防災・減災教育、まちづくりへの利活用重点を置いたアーカイブのあり方について議論を行うことを目指した。

本年度は、複数回東北大学災害化学国際研究所より柴山准教授に来熊いただき、東日本大震災後のデジタルアーカイブについてご教示いただいた。また、東日本大震災の被災地における展示・活用事例について現地視察を行い、東北大学災害化学国際研究所の柴山准教授、佐藤翔輔准教授との討議を通じて、まちづくりや防災教育の実例、遺構保存に関する様々な事情や取組、デジタルアーカイブの仕組みや発信方法等について際の具体例や課題について共有した。これらの視察や議論で得られた知見は、下記に示す熊本地震関連の有識者会議において活用されている。

熊本県 熊本地震震災ミュージアムのあり方検討有識者会議 委員(竹内裕希子)  
 益城町 益城町「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会 委員(田中尚人・竹内裕希子)  
 益城町 益城町「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会防災教育専門部会 部会長(竹内裕希子)  
 益城町 益城町「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会震災遺構保存・活用専門部会 部会長(田中尚人)  
 熊本大学 熊本地震デジタルアーカイブ検討 WG メンバー(山尾敏孝・竹内裕希子・稲本義人)



【図表】

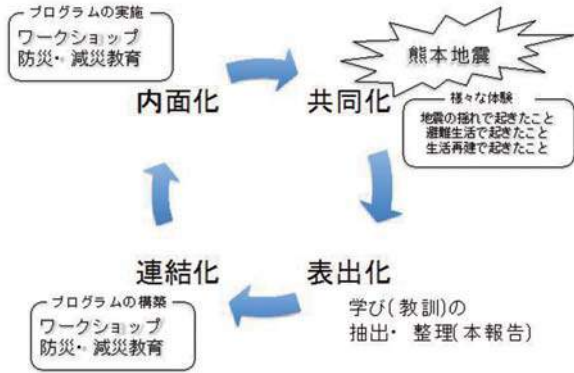


図1 教訓の抽出と活用方法

地震の特徴	被害の特徴	復興の特徴
1. 震度7が二回	1. 建物の倒壊が多かった(避難者数, 車中泊など)	1. 高齢社会での復興
2. 予想されていた(確認済の活断層が動いた)	2. 農地, 農業, 農村の被害が大きい	2. 多様な自治体, 多様な復興のカタチが必要
3. 地震が土砂災害を引き起こした(例)立野	3. 観光被害, 文化財被害	3. 内外ともに風化が激しい

図2 本議論で抽出した熊本地震からの教訓

第1回益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

最終更新日 [2017年8月16日]

益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

平成29年8月11日(金)午前9時から、益城町交流情報センター(ミナテラス)において第1回益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会を開催し、熊本地震の記憶を正しく後世に継承していくための議論を開始しました。

委員会は、大学教授や地域住民の代表、町内各種団体及び町議会議員等18名で構成され、委員長に、互選により、熊本大学熊本政治学教授が選出されました。

また、記憶の継承に係る専門的な調査・研究等を行うため、「防災教育専門部会」「震災遺構の保存・活用専門部会」「震災記念公園専門部会」を設置することが決まり、部会長に熊本大学の竹内裕希子准教授、田中尚人准教授、荻野町町長が指名されました。今後は、専門部会で取組の詳細を検討し、委員会で計画全体を取りまとめていきます。



図3 第1回益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年1月10日～平成30年3月12日(3名)</li> <li>平成30年3月7日～平成30年3月10日(5名)</li> <li>平成30年3月12日～平成30年3月14日(3名)</li> </ul>	会議室 レンタカー 会議室	6時間 48時間 4時間
延べ訪問回数 3回		合計 58時間

成果として発表した論文

1. 竹内裕希子, 田中尚人(2017)熊本地震からの学びと継承に関する研究, 第36回日本自然災害学会年次学術講演会, 日本自然災害学会
2. 波多野貴哉・竹内裕希子(2018)学生の教訓を主体とした熊本地震のアーカイブ構成, 平成29年度西部支部研究発表会
3. 荻野貴大(2018)自治体による災害アーカイブの構築—2014年神城断層地震震災アーカイブ構築を通して—, 長野県地理学会例会
4. 田中尚人(2018)益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」事業, p.4, ランドスケープ便り熊本 日本造園学会復興支援ニュースレター, 第4号, 日本造園学会

学術論文 合計 ( ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計 ( ) 件 B取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書


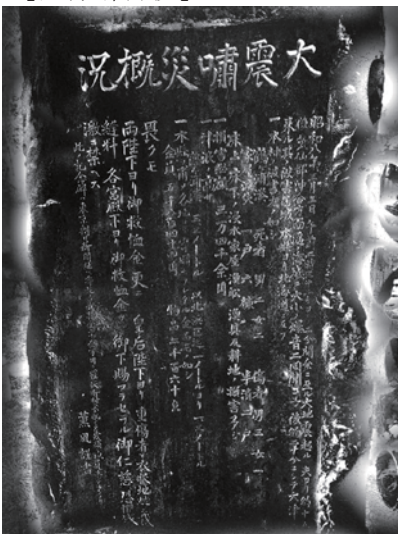
研究課題名	判読可能な津波石碑碑文画像の取得	研究課題	①
研究代表者	上栢 英之		
所属機関等・職名	国文学研究資料館・客員研究員		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎上栢 英之(国文学研究資料館)男、○蝦名裕一(災害研)男、多仁照廣（涛声学舎）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	496,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

<p><b>【研究の概要】</b>          本研究では宮城県下の石巻市・女川町・南三陸町・気仙沼市の津波の石碑を対象として、石碑の碑文を判読可能な画像で保存することを目的とする。</p>
--

<p><b>【研究の具体的な成果・波及効果】</b>          本調査により計 34 基を撮影した。内訳は以下の通りである。石巻市（25）の内、鮫浦・大谷川浜・谷川浜・新山浜・金華山・鮎川浜・十八成浜・小淵・小網倉(2)・桃の浦・荻浜・小積浜の合計 13 基。雄勝町（10）と北上町（2）は日程の問題で撮影していない。女川町（9）の内、女川浜・桜が丘・尾浦・高白浜の 4 基。石浜（1）は崩落の危険のため立ち入り禁止になっており確認のみ。野々浜（1）は震災時に流失、出島（2）は日程の関係で撮影していない。御前（1）は本調査では発見できなかった。南三陸（12）は悪天候の為、撮影していない。気仙沼（28）は本吉町（7）の内 2 基、唐桑町（10）の内 8 基、大島浪坂線沿（6）の内 5 基、波路上（2）の内 2 基を撮影。大島（3）は日程の問題で撮影していない。</p>
--

<p><b>【図表】 解析事例 1</b>  <b>【画像解析前】</b></p> 	<p><b>【画像解析後】</b></p> 	<p><b>【詳細】</b>          鶴ヶ浦海嘯碑          調査日時：2018-02-18          調査地：宮城県気仙沼市三ノ浜          御嶽神社鳥居脇</p>
---	---	--

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成30年2月23日～平成30年2月24日二人)	蝦名研究室	12時間
延べ訪問回数 1回		合計 12時間

成果として発表した論文（本共同研究の成果である旨の Acknowledgement(謝辞)を記載してください）
現在投稿中の論文（2本）

学術論文 合計（ 0 ）編

特許・実用新案・その他の産業財産権
-------------------

合計（ 0 ）件のうち、 A出願 計（ ）件 B取得 計（ ）件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
---------------------

合計（ 0 ）件

## 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	災害経験情報を軸とした災害アーカイブの統合化手法研究	研究課題	①
研究代表者	池田 真幸		
所属機関等・職名	国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎池田真幸（防災科研）男、○佐藤翔輔（災害研）男、水井良暢（防災科研）男、李泰榮（防災科研）男、白田裕一郎（防災科研）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	359,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

東日本大震災の経験が活用された事例を調査し、災害経験情報の活用プロセスモデルを検討する。東北大学災害科学国際研究所（東北大災害研）の各種データベースをもとに災害経験情報の統合化構造モデルを検討する。防災科学技術研究所（防災科研）の災害情報利活用プラットフォームを介した災害経験情報活用実証実験を行う。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

上記の調査分析の結果、調査時点において被災経験を活用して防災対策を実施している自治体は全回答の 61%であった。県別では宮城県は福島県の 1.6 倍多く経験を活用した対策を実施しており（図 1）、沿岸と内陸では沿岸の方が内陸より 1.5 倍以上多く経験を活用した対策を実施していることが分かった（図 2）。また、防災対策に活用した災害経験や記録の管理形態は、組織内で管理されているもの（「組織アーカイブ」とする）が全体の 70%以上であり、国会図書館や東北大学など収集機関が収集し公開しているもの（「収集アーカイブ」とする）の 22%よりも 3 倍以上多かった。管理形態について、内陸と沿岸で大きな差異は無かった（図 3）が、県別では福島県が他 2 県と比べて収集アーカイブの活用状況が 10%ほど低く、組織アーカイブについても 3 県で唯一福島県だけが、公開よりも非公開が上回る結果となった（図 4）。組織種別では、自治体で最も組織アーカイブの活用が多く、教育委員会の 1.3 倍以上であった（図 5）。

これらの災害経験や記録の活用状況の地域差や組織種別差の背景を分析するため、各組織で防災（または災害対応）担当者が東日本大震災当時から部署の異動があったかどうかを調査した。この結果、県別（図 6）や沿岸・内陸別（図 7）で大きな地域差は無かったが、組織種別では、社会福祉協議会の担当者は異動が最も少なく、教育委員会との差は 15 倍に近い結果となった（図 8）。

防災対策に活用された Web サイトについては、全体の傾向として活用されている Web サイトは少なく、最も活用されたものは「河北新報 震災アーカイブ」と「宮城復興情報ポータルサイト」で、全体のおよそ 10%が活用したと回答した（図 9）。

これらの調査・分析の結果、経験や記録の活用や管理形態に地域差、組織種別差が見られたため、今後その背景の詳細な分析や、東日本大震災被災地以外と全国との比較などが求められる。これを踏まえて防災科研では、防災科研が別途実施する「自治体防災担当アンケート調査（仮称）」を実施し、本調査結果と合わせて分析に取り組む方針を決定した。

【図表】

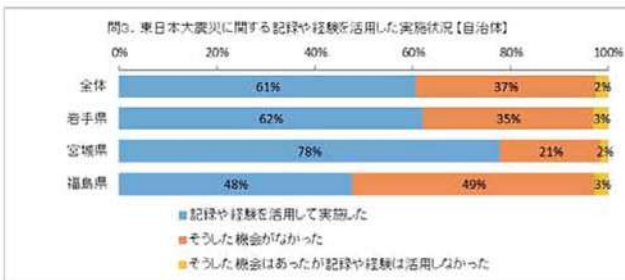


図1 県別の経験を活用した防災対策の実施状況（自治体のみ）

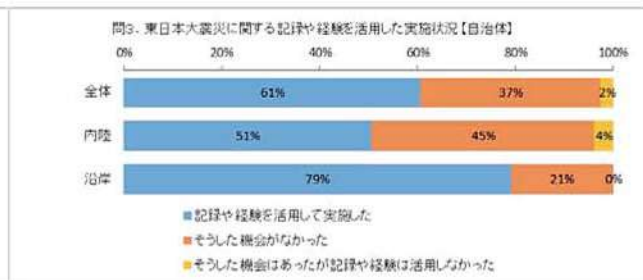


図2 内陸・沿岸別の経験を活用した防災対策の実施状況(自治体のみ)

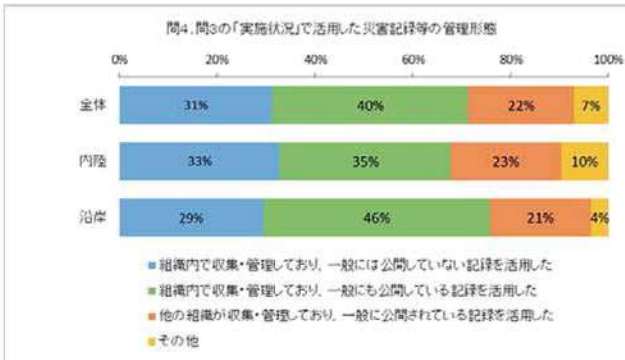


図3 内陸・沿岸別の防災対策に活用した災害記録等の管理形態

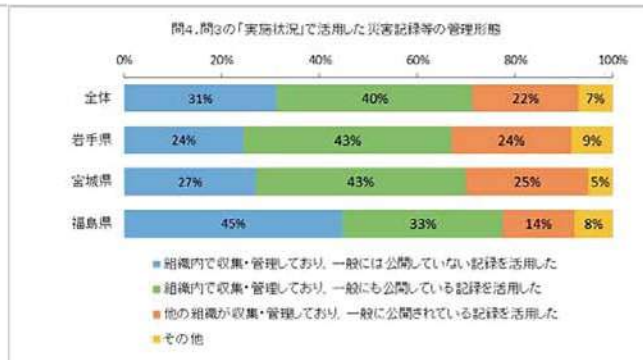


図4 県別の防災対策に活用した災害記録等の管理形態

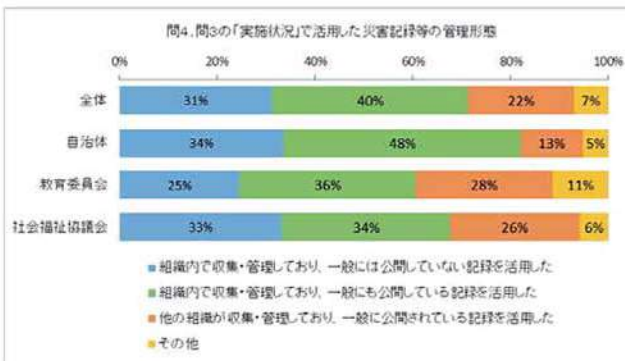


図5 組織種別の防災対策に活用した災害記録等の管理形態

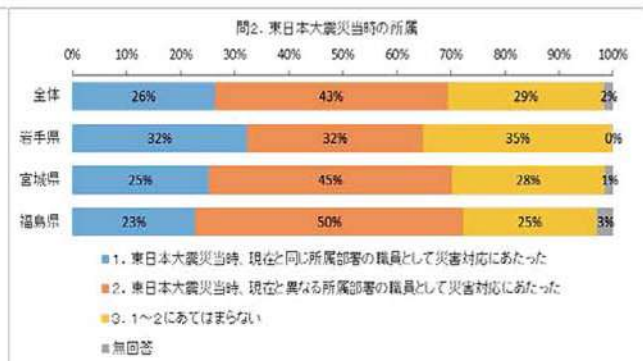


図6 県別の防災担当職員（本調査の回答者）の異動状況

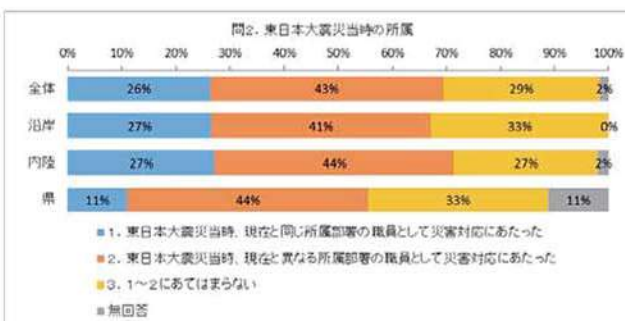


図7 沿岸・内陸別の防災担当職員（本調査の回答者）の異動状況

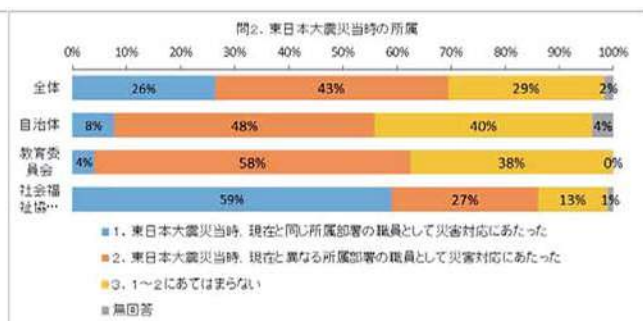


図8 組織種別の防災担当職員（本調査の回答者）の異動状況

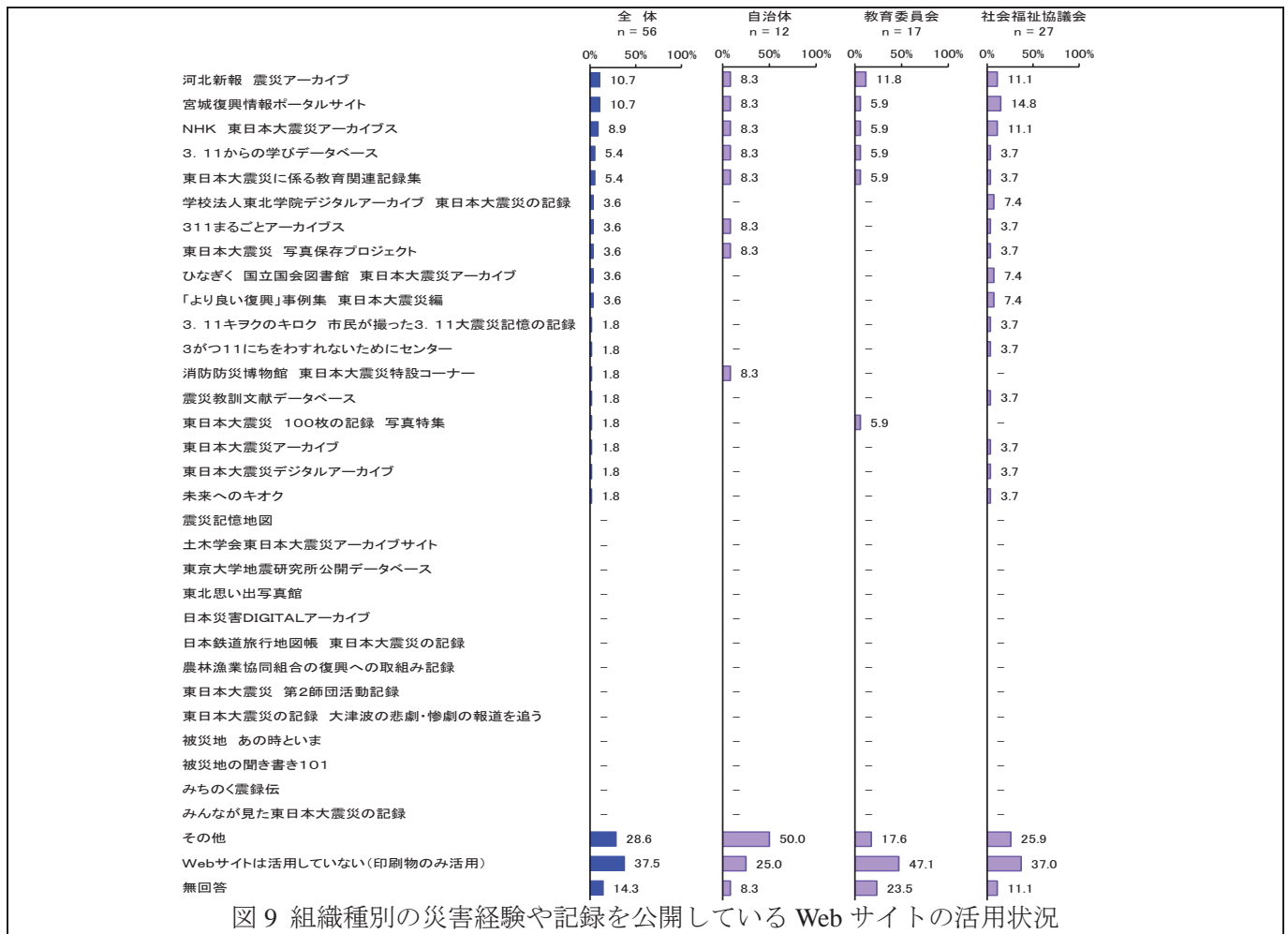


図9 組織種別の災害経験や記録を公開しているWebサイトの活用状況

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年10月3日(2名)</li> </ul>	3.11からの学びデータベース, みちのく震録伝, 動画で振り返る3.11	1.5時間
※災害研以外での打合せ <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年9月27日 長岡市内(1名)</li> <li>平成30年1月16日 つくば市内(2名)</li> </ul>		0.5時間 2.0時間
延べ訪問回数 3回		合計 4時間

成果として発表した論文  
なし  
※H30年度に災害情報学会学会誌に投稿予定。

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権  
なし  
合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計 ( ) 件 B取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催  
なし  
合計 ( 0 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	応答曲面を用いた津波リスク評価手法構築のための基礎的検討	研究課題	②
研究代表者	福谷 陽		
所属機関等・職名	関東学院大学・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎福谷 陽（関東学院大学）男、○森口周二（災害研）男、小谷拓磨（災害研）男、寺田賢二郎（災害研）男、サッパシー・アナワット（災害研）男、今村文彦（災害研）男、

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	375,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 本研究では、首都圏に大きな影響を及ぼすと想定される相模トラフ地震（計 10 パターン）を対象として、断層の深さとすべり量を変化させた津波数値計算を行い、相模湾に位置する漁港を対象に、応答曲面を構築し、モンテカルロ計算の結果得られる津波浸水深の確率分布を用いた津波リスク評価手法構築に向けた基礎的な検討を実施した。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 (1) 既往手法と比較すると計算負荷を大幅に削減可能な応答曲面法を用いて、相模トラフ地震発生時の相模湾の一地点における津波浸水深の頻度分布を評価し、各地震による津波浸水深の頻度分布の特徴や、頻度のピークに寄与する地震領域を明らかにした（図-1、図-2、表-1）。(2) 確率津波ハザード解析の結果と建物の脆弱性評価の情報を用いてリスクカーブを構築し、相模トラフ地震発生時の条件付期待損害確率を評価した。本研究の手法は津波リスク定量化の一手法として活用されることが期待できる。

**【図表】**

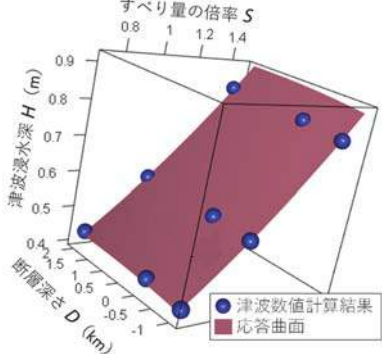


図-1 構築した応答曲面

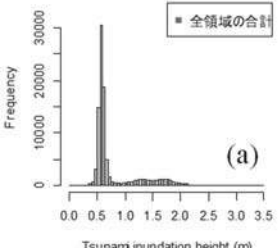
**【応答曲面の方程式】**

$$H(S,D) = a*S + b*D + c*S*D + d*S*S + e*D*D + f$$

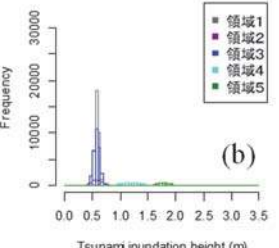
$H(S,D)$ : 津波浸水深  
 $S$ : すべり量の倍率,  $D$ : 断層深さ  
 $a, b, c, d, e, f$ : 回帰係数

表-1 相模トラフ各地震に対応する回帰

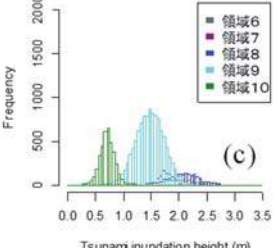
	地震発生領域									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a	0.2614	0.9113	0.4542	1.5244	1.0724	2.8406	0.0000	2.8897	2.2705	-0.7486
b	0.0078	-0.0247	-0.0165	0.0000	0.0153	0.0000	0.0000	0.0254	0.0000	0.0721
c	0.0000	0.0279	0.0122	0.0415	0.0152	0.0413	0.0299	0.0430	0.0513	-0.0417
d	0.1626	-0.0893	0.0000	-0.2063	0.3028	-0.6269	0.8266	-0.5513	-0.5536	0.0000
e	-0.0025	0.0000	0.0000	0.0000	-0.0109	0.0000	0.0000	-0.0112	0.0000	-0.0112
f	0.1575	-0.2377	0.1232	-0.1173	0.4014	-0.2551	0.9438	-0.2480	-0.2419	0.0406



(a)



(b)



(c)

図-2 モンテカルロ計算の結果得られた平塚港における津波浸水深の頻度分布

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 10 月 11 日 (1 名)	地域安全工学研究室	2 時間
・平成 29 年 12 月 8 日～平成 29 年 12 月 9 日 (1 名)	1 階多目的ホール・地域安全工学研究室	1 0 時間
・平成 30 年 2 月 26 日～平成 30 年 2 月 28 日 (1 名)	地域安全工学研究室	1 4 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 2 6 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福谷陽, 森口周二, 小谷拓磨, 寺田賢二郎, 応答曲面を用いた確率論的津波損害評価ー相模トラフ地震への適用ー, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 2018, 査読有, 国内 (査読中)</li> <li>・服部龍, 川村優成, 福谷陽, 元禄型関東地震による津波浸水深の不確実性評価, 第 45 回土木学会関東支部技術研究発表会, 2018, 査読無, 国内</li> <li>・Yo Fukutani, Shuji Moriguchi, Takuma Kotani, Kenjiro Terada, Proposal of a method for evaluating tsunami risk using response-surface methodology, 2017 American Geophysical Union fall meeting, 2017, 査読無, 国際</li> <li>・福谷陽, 森口周二, 小谷拓磨, 寺田賢二郎, 応答曲面を用いた津波リスク評価手法構築に向けた基礎検討, 第 7 回巨大津波災害に関する合同研究集会, 2017, 査読無, 国内</li> </ul>

学術論文 合計 ( 4 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
・特になし

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・特になし

合計 ( 0 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	地下レーダーを活用した石巻平野における古津波履歴の解明	研究課題	②
研究代表者	菅原 大助		
所属機関等・職名	ふじのくに地球環境史ミュージアム・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎菅原大助(ふじのくに地球環境史ミュージアム)男、○後藤和久(災害研)男、横山祐典（東京大学）男、石澤堯史（東北大学）男、手塚寛（東北大学）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	595,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

石巻平野を対象に、災害研が保有する地下レーダーを用いた古地形の探査を行い、津波堆積物の形成・保存の可能性が高い場所を調査地点の候補として特定した。ハンドオーガーによる高密度の掘削調査で古津波堆積物の層数と分布に関する詳細なデータを得るとともに、災害研が保有するジオスライサーで採取した堆積物試料の 14C 年代測定により津波発生年代を高精度に推定した。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

石巻平野西部で広域の地下レーダー探査を行い、地層状況が最適であった東松島市矢本字立沼前を津波堆積物の調査地点として選定した（図 1）。ジオスライサーによる掘削で堆積物柱状試料を採取した結果、津波堆積物の可能性がある砂層が 1 または 2 枚検出された。柱状試料の 14C 年代測定を行った結果、1454 年享徳地震津波及び 1611 年慶長地震津波に近い年代値が得られた（図 2）。ハンドオーガーにより津波堆積物の面的な分布状況を検討した結果、1454 年の津波に関連すると考えられる砂層の分布は局所的であることが判明した。更に、石巻平野中部で採取された津波堆積物の既存試料について追加的な 14C 年代測定を行い、過去約 3000 年間の古津波履歴を明らかにした。869 年貞観津波と 1611 年慶長津波の間に起こった可能性のある津波イベントの特定は、東北地方太平洋沿岸の津波リスク評価に資する新たな知見であり、今後、学会等で成果を公表する予定である。

## 【図表】

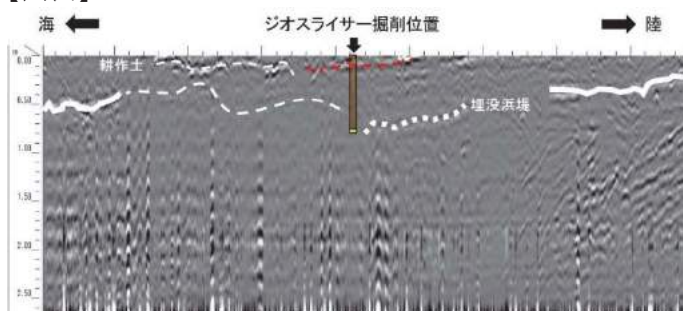


図 1：東松島市矢本字立沼前で取得した地下レーダー画像。地下 0.3～0.7m に埋没浜堤による反射面が確認された。埋没浜堤が最も深くなる位置で掘削を行い、津波堆積物の柱状試料を採取した。

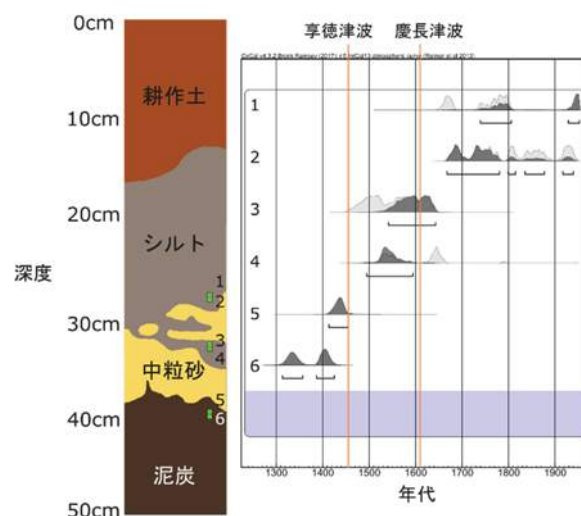


図 2：ジオスライサー試料の地質柱状図及び年代測定結果。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 11 月 19 日～平成 29 年 11 月 22 日(1 人)	災害リスク保管室 地下レーダー装置	1 時間 12 時間
延べ訪問回数 1 回		合計 13 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催期間：2017 年 12 月 26～27 日/区分：研究会（国内）/対象者：研究者，学生/研究会等名称：「津波堆積物研究会」/概要：主に国内の津波堆積物研究者による，最新の研究発表と情報交換を目的とした研究会/参加人数：約 20 人</li> </ul>

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	人の心に訴える 3次元可視化コンテンツへの挑戦	研究課題	④
研究代表者	高瀬慎介		
所属機関等・職名	八戸工業大学工学部土木建築工学科・講師		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）

◎高瀬慎介（八戸工業大学）男，○寺田賢二郎（災害研）男，森口周二（災害研）男，呂本俊亮（災害研）男，櫻庭雅明（災害研・日本工営(株)）男，斎藤丈士（NHK メディアテクノロジー）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	600,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

防災に資する災害シミュレーション結果の 3次元可視化を目途として、数値シミュレーション、認知心理学、映像のそれぞれの専門家が集結し、人の心に訴える可視化コンテンツの作成を試みる。また、その中で得られる知見に基づいて、防災という目的に対して効果的な 3次元可視化の考え方や要点を整理する。

## 【研究の具体的な成果・波及効果】

NHK メディアテクノロジーの可視化技術により、可視化コンテンツがよりリアリティーのあるものとなり、そのまま防災教育の素材として利用可能なレベルとなると同時に、特に専門的知識のない一般の人々を対象にわかりやすく防災を見せることが可能となった。作成したコンテンツの 3次元可視化の有効性については、実施したアンケートの結果に基づいて、今後詳細に評価する予定である。

## 【図表】

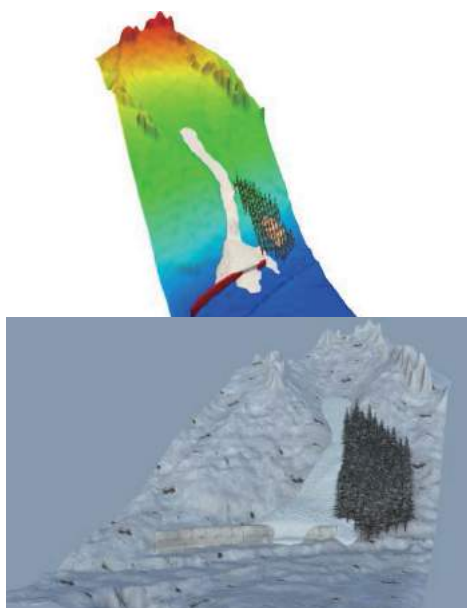


図-1：既存の可視化結果（上），  
本課題による可視化結果（下）



図-2：IMIDeS を用いたアンケート実施の様子

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 10 月 12 日（災害研外 3 名，所内 3 名）	IMIDeS, 1 階会議室	3 時間
・平成 29 年 12 月 15 日（災害研外 2 名，所内 3 名）	IMIDeS, 寺田研究室	3 時間
・平成 29 年 12 月 15 日（災害研外 1 名，所内 2 名）	IMIDeS, 寺田研究室	3 時間
・平成 29 年 3 月 12 日（災害研外 1 名，所内 2 名）	IMIDeS, 多目的ホール	3 時間
・平成 29 年 3 月 23 日～平成 29 年 3 月 24 日（1 名）	IMIDeS, 多目的ホール	6 時間
延べ訪問回数 5 回		合計 18 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計（0）編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計（0）件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計（0）件

## 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	地域に根ざした学校防災を展開するための学校・家庭・地域の協働モデル構築	研究課題	④
研究代表者	林田 由那		
所属機関等・職名	早稲田大学教育・総合科学学術院 ・ 助手		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎林田由那(早稲田大学)女、○佐藤健(災害研)男、戸田芳雄（東京女子体育大学）男、渡邊正樹（東京学芸大学）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日		538,000 円
----	-----------------------------------	--	-----------

<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>石巻市立小・中学校保護者を対象とした学校防災に関する質問紙調査により、学校防災への保護者の参加実態及び防災意識を明らかにすることで、地域に根ざした学校防災を展開するための学校・家庭・地域の協働モデルを構築し、各学校への分析結果のフィードバックを通して、モデルの社会実装と防災人材育成に寄与することを目的とし、本研究を実施した。</p>
--

<p><b>【研究の具体的な成果・波及効果】</b></p> <p>本研究において得られた第一の成果は、学校防災に対する保護者の参加実態・防災意識に関する基礎資料の取得である。中央教育審議会の『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』においても、学校防災に学校・家庭・地域が協働で取り組むことの重要性及び、そのことが地域全体の安全を守ることに寄与することが示されている。しかしながら、学校防災に関する保護者の防災意識はこれまで明らかにされてこなかった。本研究では、災害科学国際研究所と連携と協力に関する協定を締結している石巻市を調査対象地域とし、石巻市立小・中学校保護者（対象校 26 校、各世帯 1 票）への質問紙調査を実施した。回収結果は、以下の表 1 の通りであり、約 80%の回収率となった。質問紙は、(1)地域の活動について(2)これまでの避難訓練について(3)これからの避難訓練について(4)学校防災について(5)家庭の防災対策・防災意識についての 5 項目 42 問からなり、東日本大震災におけるり災状況や、現在の学区への居住年数等の属性も調査した。また波及効果としては、保護者の学校防災に関する意識を各学校の実践に組み込んでいくために各学校への調査結果のフィードバックを実施し、学校防災における学校と家庭の実質的な協働を推進することに寄与した点である。本調査結果は、全数、内陸沿岸部別、小・中学校別、中学校区別、各学校別での集計を実施しており、それらの結果を石巻市立学校・園全校に、「平成 29 年度学校防災に関する意識調査（石巻市立学校の保護者対象）調査結果報告書」という形でフィードバックした。また調査実施校 26 校については、全ての学校に学校別の結果報告書も作成した。今回の調査結果における図表データは、石巻市立学校における学校防災の推進のために、校内で活用できるようデータ版での提供も実施した。今後、調査結果の詳細な分析を通して、本調査結果によって得られた保護者の学校防災に関する意識が各学校の実践と緊密に結び付くことで、地域に根ざした学校防災を展開するための学校・家庭・地域の協働モデル構築、およびモデルの社会実装と石巻市の防災人材育成の発展に更なる寄与をすることになるといえる。</p>
--

調査対象	対象世帯数	有効回収数	回収率
全体	2,550	2,037	79.9%
内陸／沿岸別	内陸部	917	80.7%
	沿岸部	1,120	79.3%

**【表 1】平成 29 年学校防災に関する意識調査における調査票の回収結果**

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成 29 年 10 月 10 日～11 日(1 名)	佐藤健研究室	7 時間
・平成 29 年 11 月 29 日(1 名)	佐藤健研究室	4 時間
・平成 29 年 12 月 15 日(1 名)	佐藤健研究室	3 時間
・平成 30 年 2 月 8 日～9 日(1 名)	佐藤健研究室	4 時間
・平成 30 年 3 月 2 日(1 名)	佐藤健研究室	3 時間
・平成 30 年 3 月 13 日(1 名)	佐藤健研究室	4 時間
・平成 30 年 3 月 23 日(1 名)	佐藤健研究室	4 時間
延べ訪問回数 7 回		合計 29 時間

成果として発表した論文
・林田由那（調査実施/報告責任者）／平成 29 年度学校防災に関する意識調査（石巻市立学校の保護者対象）調査結果報告書／2018.3／全 38 頁／査読無／国内（石巻市立学校全校に配布）

学術論文 合計（ 1 ） 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計（ 0 ） 件のうち、 A 出願 計（ 0 ）件 B 取得 計（ 0 ）件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計（ 0 ） 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	小学校を核とした地域版 HUG の作成を通じた防災教育効果	研究課題	④
研究代表者	草苺敏夫		
所属機関等・職名	釧路工業高等専門学校 教授		


研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）	◎草苺敏夫(釧路工業高等専門学校)男、○佐藤 健(災害研)男、定池祐季(災害研)女、森太郎（北海道大学）男
-------------------------	---

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	454,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

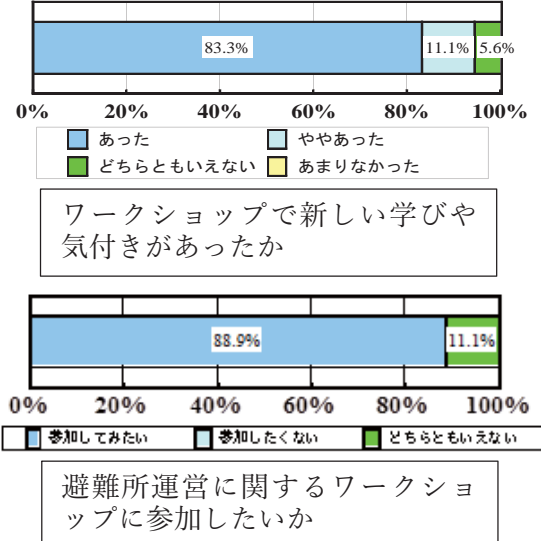
**【研究の概要】**  
 本研究では、地域版防災教育教材の開発過程における、防災教育上の効果を検証する。小学校は行政の指定避難所となることが多いことから、校区内の住民や教職員が行政と協働して避難所を運営する必要がある。その手法を疑似体験できる防災教材を開発することにより、地域の防災活動に役立つのみならず、当該地域に関する情報を取得し、教材に反映させていく過程で、知識の内在化とコミュニティ-形成への寄与が予想される。本研究では、アンケートやインタビュー調査等によりこれらの効果を明らかにする。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 小学校を避難所とする具体的な対象地区を選定し、地域情報を取得するための住民や教員参加による街歩きを実施した。これらの情報は、GIS によるアップロードやアーカイブが可能なようにデジタル化を行った。また、現状における防災意識および今回の活動に関する感想や今後の防災教材開発に対する意識を調査するために、参加者によるアンケートを実施した。その結果、このようなワークショップが地域住民のコミュニケーション形成や防災意識の啓発・向上に有効であることが確認できた  
 今回の対象とした地区は、他県の地区と積極的に交流を行っており、今回の活動は、そのような地区に対しても波及することが考えられる。

**【図表】**



街歩きワークショップで得られた情報を記入しデジタル化された地図



ワークショップで新しい学びや気づきがあったか

避難所運営に関するワークショップに参加したいか

街歩きワークショップのアンケート結果(抜粋)

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 11 月 14 日(2 名)</li> <li>・平成 30 年 3 月 27 日(2 名)</li> </ul>	小会議室 1 S304	7 時間 8 時間
延べ訪問回数        2    回		合計    1 5 時間

成果として発表した論文
<p>・投稿済み論文</p> <p>(1)草苺敏夫、森 太郎、定池祐季、佐藤 健：防災街歩きを活用した地域情報のアーカイブ化、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集、査読なし、国内、謝辞を記載</p> <p>(2)草苺敏夫、森 太郎、定池祐季、佐藤 健：地域防災力向上に向けた防災街歩きと地域情報のアーカイブ化、日本建築学会北海道支部研究報告集、Vol.90、査読なし、国内、謝辞を記載</p>

学術論文 合計 ( 2 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>名称：福住町内会街歩きワークショップ</p> <p>開催日：平成 30 年 2 月 11 日</p> <p>参加者：社会人、学生、教員</p> <p>参加者数：19 名+4 名（釧路高専 1 名、北大 1 名、災害研 2 名）</p> <p>概要：地域の防災情報を地図データとともにデジタル化することを目的に、デジタル化するデータを取得するために地域住民参加のワークショップを開催した。最初に町の防災・減災部長からの過去の災害や防災関係施設等について説明をいただき、地域の災害環境について共通認識を持った。その後、水害の原因となった梅田川の堤防沿いを歩きながら説明を受け、途中から 2 グループに分かれて異なるルートで街歩きを実施した。街歩きでは、防災上重要と思われる事項や気の付いた事項を記録係に報告し、国土地理院作成の地図上に書き込んでいった。</p> <p>その後、地図に書き込んだ情報を整理し、グループごとに成果発表会を行った。その中で、地図に書き込む内容について意見を出し合い、完成度を高めた。</p>

合計 ( 1 ) 件



# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	岩手県沖で発生する様々な繰り返し地震系列の破壊過程に関する研究	研究課題	⑤
研究代表者	金亜伊		
所属機関等・職名	横浜市立大学・准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎金亜伊(横浜市立大学)女、○内田直希(災害研)男

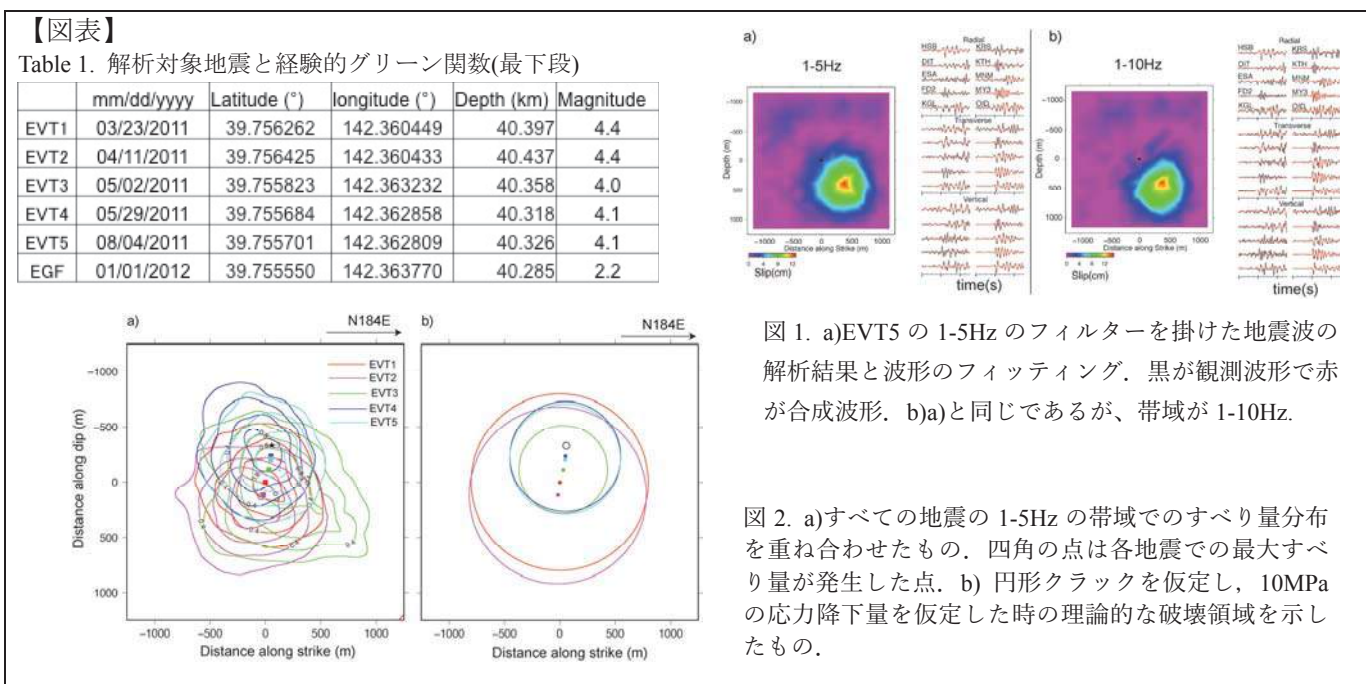
期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	315,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**

2011 年東北地方太平洋沖地震（東北沖地震）後，岩手県沖では既存の繰り返し地震の再来間隔や規模の変化が見られた他，新たな系列の発生が観測された．本研究ではそれらの破壊過程を詳しく調べ，その変化の原因を検証し，プレート境界型地震の規模や発生間隔などの発生様式を決定づける要因の理解を深化させる事を最終的な目的としている．今年度は岩手県沖において東北沖地震以降新たに出現した系列のうち，マグニチュードの変化があった一つの系列に着目し，それらについて経験的グリーン関数(EGF)を用いた波形インバージョンを用いて破壊過程を解析し，それぞれを比較しこの系列の発生様式について検証した．

**【研究の具体的な成果・波及効果】**

解析対象とした 5 つの地震について 1-5Hz, 1-10Hz の帯域で解析を行った (Table1, 図 1) .すべり量分布は大まかには帯域によって大きな違いは無いが，細かな波形の違いは高周波でより顕著に見られ，それらが分布図の詳細に現れている (図 1) . すべり量分布の比較では，すべての地震が破壊発生地点から下方に破壊が進行し，また，マグニチュード毎に平均，最大すべり量は違うが，主な破壊領域は重なる事が明らかとなった(図 2a) . これらは地震毎に応力降下量に変化があり，地震の発生様式の違いが示唆される．この結果は震源位置とマグニチュードから一般的な応力降下量を仮定して算出される破壊領域とはズレがあり (図 2b) , 地震の発生様式を理解するためには波形を用いた詳細な解析が必要である事を示す．



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
無し 災害研担当教員が代表者所属に3回訪問	東北大学が運用する地震計で観測された地震波形データ及び、震源情報	
延べ訪問回数 0 回		合計 0 時間

成果として発表した論文

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( 0 ) 件 B 取得 計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

研究課題名	阿蘇カルデラ内の熊本地震地震断層の活動史の解明	研究課題	⑤
研究代表者	鳥井 真之		
所属機関等・職名	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター・特任准教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）
◎鳥井真之(熊本大学)男、○遠田晋次(災害研)男、奥野 充（福岡大学）男

期間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日	経費	320,000 円
----	-----------------------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 平成 28 年熊本地震（M7.3）では、布田川断層北東端で、これまで存在が知られていなかった阿蘇カルデラ内にまで、地表地震断層が延びた。本研究では、南阿蘇村河陽黒川地区でトレンチ調査をおこない、K-Ah テフラ以降に地層変位を伴う 4 回の活動があることをあきらかにした。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 トレンチ調査から、K-Ah 降灰以降に熊本地震を含めて 4 回（Event I～IV）の断層活動が判明した（図 1，2）。これらは 14C 年代測定からその活動時期を、Event I は熊本地震、Event II は 1,900 cal.yBP～2,132 cal.yBP、Event III は 1,977 cal.yBP～4,237 cal.yBP、そして Event IV は 4,090 cal.yBP～7,300 cal.yBP に制約することができた。故に、過去 4 回の平均活動間隔は最長で約 2400 年となる。これは布田川断層の動きが過去も阿蘇カルデラ内まで連動していた可能性を示している。この成果は南阿蘇村にも報告し、住民説明会を実施することで地域復興事業の一助となった。また、阿蘇ジオパーク協議会と協働し、トレンチ断面の剥ぎ取りを含む体験学習の機会を提供したことで、ジオガイドの質の向上につながった（図 3）。

**【図表】**

図 1 トレンチ断面スケッチとイベントの解釈

図 2 トレンチ掘削の状況

図 3 ジオガイドによる剥ぎ取り断面の製作

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・平成30年3月27日(訪問者数2)	E202室	3時間
延べ訪問回数 1回		合計 3時間

成果として発表した論文
遠田晋次, 鳥井真之, 奥野 充, 今野明咲香, 小野大輝, 高橋直也, 熊本地震地表地震断層の完新世活動履歴—南阿蘇村黒川地区トレンチ調査—. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集 2017-2, ISSN-2189-5155, 2017, 104-107, 査読なし

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A出願 計 ( 0 ) 件 B取得 計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2018年1月27日～28日, 研究集会, 国内, 対象: 研究者, 名称: 国際火山噴火史情報研究集会, 概要: 噴火史情報に関する最新知見を共有するだけでなく, 活断層・地震活動との火山活動の関連性を議論する, 参加人数: 70名

合計 ( 1 ) 件

# 平成 29 年度東北大学災害科学国際研究所共同研究報告書

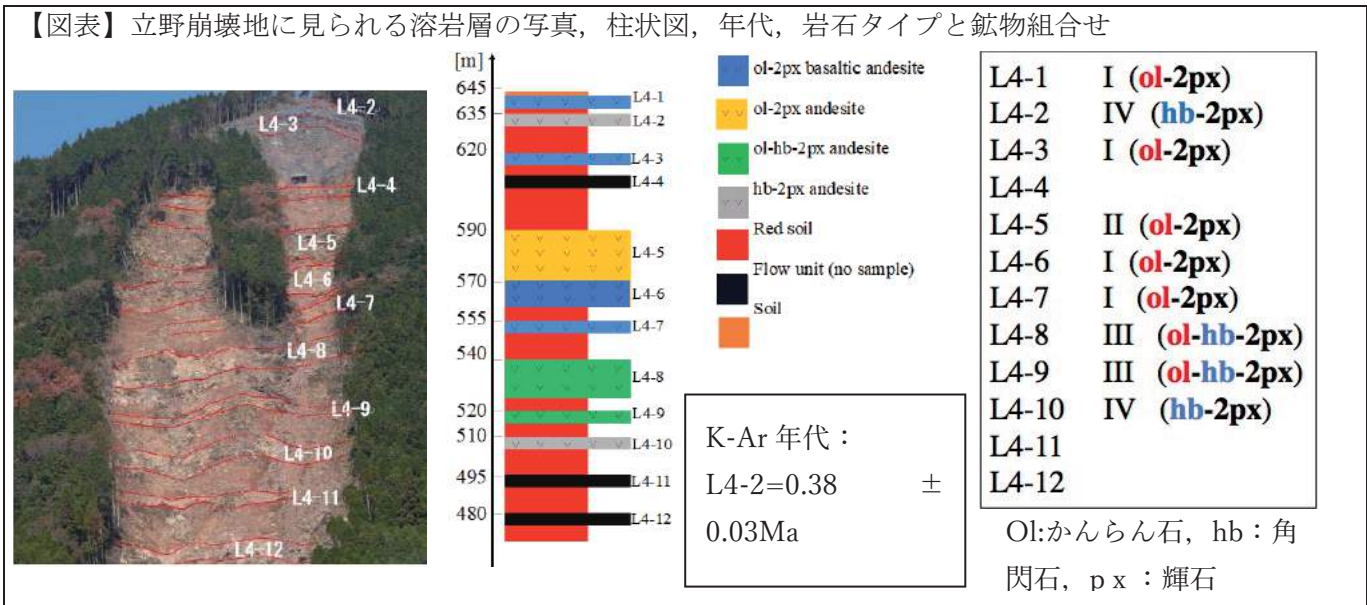
研究課題名	阿蘇大橋崩壊地における先阿蘇火山岩類の層序と年代（1）： 地表設置型合成開口レーダ（GB-SAR）計測地点の地質データ 取得	研究課題	⑤
研究代表者	長谷中 利昭		
所属機関等・職名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名・性別）	
◎ 長谷中利昭(熊本大・水減災センター・男), ○佐藤源之(東北大・災害研・男), ◦森口周二(東北大・災害研・男), 鳥井真之(熊本大・水減災センター・男), 十川翔太(熊本大・理・男)	

期 間	平成 29 年 10 月 2 日～平成 30 年 3 月 30 日	5 4 4, 0 0 0 円
-----	-----------------------------------	----------------

【研究の概要】平成 28 年熊本地震で阿蘇外輪山斜面が大規模に崩壊し阿蘇大橋が崩落した。再崩壊を検知するために東北大学・東北アジア研（災害国際研併任）佐藤源之教授によって地上設置型合成開口レーダの常時観測が始められた。しかし崩壊地の地質、崩壊岩石の物質科学についてほとんど情報がないので、本研究でこれらの調査を目指した。現地踏査、試料採集、薄片観察、化学分析を行い、共同研究の助成金で薄片作成数十件および K-Ar 年代測定を 3 件行なった。また現地において地上設置型合成開口レーダの設置、保守、反射板設置を手伝った。

【研究の具体的な成果・波及効果】外輪山の崩壊地はすべて先阿蘇火山岩類から成っていた。下部に凝灰角礫岩、中部、上部に溶岩と火山灰性土壌の互層が観察できた。阿蘇大橋、立野、九電水力発電所水路の崩壊地 3 ルートで採集した試料 27 個は分析の結果、すべて安山岩組成であることがわかったが、かんらん石±角閃石を含むことが特徴である。年代測定の結果は阿蘇大橋大崩壊地、上部=78 万年前、最上部=66 万年前、立野中部=45 万年前、最上部=38 万年前、九電水路下部=48 万年前であった。崩壊地は溶岩ドームのような岩体ではなく、固結度の弱い凝灰角礫岩層が存在し、土壌が溶岩層の間に挟在することが特徴である。今後の地上型合成開口レーダでの斜面の変動計測においては、これらの軟弱層に注目する必要がある。化学分析結果や年代測定値から、先阿蘇火山岩類に関する新たな知見が得られた。先阿蘇の最も新しい活動を知る事ができたので、カルデラ形成期への移行について今後の研究の発展が期待できる。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年 5 月 30 日(訪問者数 5 名)反射板設置</li> <li>平成 29 年 10 月 18 日(3 名)レーダ継続運用打合せ</li> <li>平成 30 年 3 月 22 日 (3 名)レーダ設置作業</li> </ul>	地上型合成開口レーダ 地上型合成開口レーダ 地上型合成開口レーダ	8 時間 3 時間 3 時間
延べ訪問回数      3    回		合計    14 時間

成果として発表した論文
十川翔太, 長谷中利昭, 鳥井真之, 森康, 佐藤源之 (2018) 立野地域に出現した先阿蘇火山岩類の連続露頭 : 地質と岩石の予察的研究. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2017, No. 2. 1-08. <a href="http://ehai-www.rd.fukuoka-u.ac.jp/EHI/wp-content/uploads/2018/01/EHAI_2017-2.pdf">http://ehai-www.rd.fukuoka-u.ac.jp/EHI/wp-content/uploads/2018/01/EHAI_2017-2.pdf</a> (短い Proceeding であったので, 謝辞を加えられませんでした. 本論文では謝辞を記載します.)

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、 A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

合計 ( 0 ) 件

## 4 研究活動

### (4) 専任教員の研究・教育・社会活動

源栄 正人 教授  
Masato MOTOSAKA  
災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1975	3	東北大学大学院	工学研究科	1977	3	工学博士	1987	2

職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1977	4	1985	3	鹿島建設株式会社 武藤研究室	研究員
2	1985	4	1987	3	鹿島建設株式会社 小堀研究室	研究員
3	1987	4	1994	3	鹿島建設株式会社 小堀研究室	主任研究員
4	1994	4	1996	3	鹿島建設株式会社 小堀研究室	主管研究員
5	1996	4	1999	3	東北大学 工学研究科	助教授
6	1999	4	2012	3	東北大学 工学研究科	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所(兼工学研究科)	教授

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7
日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	日本安全教育学会	米国地震学会	米国地震工学会

学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	文部科学省地震調査研究推進本部	強震動部会	委員	20130401
2	独立行政法人建築研究所	国際地震工学研修・普及会議	委員	20140200
3	日本建築学会	2015年建築学会賞選考委員会論文部会	専門委員	20141100
4	日本安全教育学会		顧問	
5	日本自然災害学会		評議員	

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
地震工学	構造ヘルスマモニタリング	地震早期警報システム	構造物と地震の動的相互作用	建築構造工学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1		東北大学出版会	評議員	
2		青葉工業会	常任理事	
3		工学分館運営委員会		201400
4		国際交流		

B. 研究活動

研究活動の概要

東日本大震災の振動被害の実態と観測された地震記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングに向けた研究を行うとともに、上部構造と基礎構造のバランス、構造躯体と非構造・設備とのバランスのとれた都市・建築の総合的対策に向けた国内外への情報発信を行っている。また、構造ヘルスマモニタリングと早期地震警報との融合技術として地域版リアルタイム地震観測システムを構築し、地域の地震防災に有効活用するための研究を行っている。また、このシステムを海外展開としてモンゴル国ウランバートル市への展開を行っている。さらに、これらの研究成果の国内外への情報発信と国際交流を行うとともに防災教育活動もしている。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1975	4	現在		地震工学、構造物と地盤の動的相互作用に関する研究	なし
2	1986	4	現在		地震動、地盤震動に関する研究	なし
3	2008	4	現在		構造ヘルスマモニタリング機能を有する次世代早期地震警報システムの開発	なし
4	2014	4	現在		多点リアルタイム地震観測データを用いた地震防災システムの実用化	なし
5	2014	4	現在		モンゴル国におけるリアルタイム地震防災システム構築の技術支援	国外

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	8	合計	9	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	7
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携	
1	日本語	長期連続観測記録に基づく低層建物の通常時と地震時の固有振動数の変動	学術雑誌	有	いいえ	日本地震工学会大会論文集	17	4	1	12	20170800	畠山智貴、王欣、大野晋、源栄正人	共著	なし	
2	日本語	長期連続観測に基づく鉄筋コンクリート造建築物の地震時および通常時における振動特性の変動	学術梗概	有	いいえ	日本建築学会技術報告集	23	55	508	808	20171000	畠山智貴、王欣、大野晋、源栄正人	共著	なし	
3	日本語	免震建物の地下外壁に作用する地震時土圧と基礎・地盤の挙動および降雨の影響について	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	399	400	20170800	三辻和弥、大野晋、源栄正人	共著	有
4	日本語	多点同時微動測定に基づく損傷建物の部材の振動特性	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	1115	1116	20170800	三澤大輝、木本暁仁、栗田哲、金南昔、源栄正人、三辻和弥	共著	有
5	日本語	細長い平面プランを有する杭基礎建築物の地震被害に着目した上下の波打ち現象に関する理論的検討	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	89	90	20170800	源栄正人	単著	なし
6	日本語	傾斜した塔状の大きい杭基礎高層建築物の振動特性に関する基礎的検討	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	519	520	20170800	福岡伸太郎、源栄正人、王欣	共著	なし
7	日本語	宮城県沖を震源とする長周期地震動の関東平野への伝播に関する基礎的検討	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	171	172	20170800	千葉大輔、源栄正人、林政輝、鈴木幹大	共著	有
8	英語	Natural frequency of buildings in Ulaanbaatar using microtremor measurements	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	137	138	20170800	Tsamba Tsoggerel, Motosaka Masato	共著	有
9	日本語	2011年東北地方太平洋沖地震で被災した低層RC造建物における振動特性の変化に関する研究	学術梗概	無	いいえ	日本建築学会大会			構造II	1111	1112	20170800	佐々木遼、源栄正人、王欣、畠山智貴	共著	なし



総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携		
1	日本語	教育研究雑考～災害の科学と学問	その他	無	はい	全学教育広報「曙光」			14	16	20171001	源栄正人	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携	参加人数	
1	国内	日本建築学会大会	単名	いいえ	広島市	20170831	口頭(一般)	細長い平面プランを有する杭基礎建物の地震被害に着目した上下の波打ち現象に関する理論的検討	源栄正人	国内	2000

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科の都市・建築学専攻と工学部の建築・社会環境工学科における講義と大学院生・学部学生や海外からの特別研究学生の研究指導を行うとともに、全学教育における「災害の科学」の講義、リーディング大学院における「実践的防災学」の講義を2コマ、理工系短期留学生プログラム(JYPE)の12コマを担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター/学期	コマ数 90分/1コマ	
1	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	5
2	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
3	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	4
4	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	6
5	Geological Environment and Earthquake Disaster	東北大学	短期留学生プログラム(JYPE)				12
6	災害の科学	東北大学	全学	1	後期	1	
7	実践的防災学V	東北大学	リーディング大学院		前期	2	

D. 社会活動

社会活動の概要

政府の地震調査研究推進本部における部会活動、防災科研の強震観測事業推進委員会、建築研究所の国際地震工学研修・普及会議などに貢献するとともに、宮城県のエネルギー関連委員会活動にも貢献した、また、東日本大震災の地震動と建物被害の実態と教訓を中心とした地震防災に関する招待講演を実施した。

一般市民向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	担当	参加人数	IRIDeSの関与	備考	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日						
1	国内	震災対策技術展実行委員会	震災対策技術展	20170803	20160804	仙台市AER	実行委員		IRIDeS後援	その他

講演・講義等

合計	13件
----	-----

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	都市・会場	
			開始年月日	終了年月日					
1	講演会・セミナー	3.11に関する国際ワークショップ	講演	20170411	20170411	3.11大震災における建物の被害について		東北工業大学	仙台市・東北工業大学八木山キャンパス131教室
2	講演会・セミナー	ネブラスカ大学	講演	20160703	20170703	東日本大震災の振動被害の実態と教訓		IRIDeS	IRIDeS
3	講演会・セミナー	Northwestern大学	講演	20170726	20170726	東日本大震災の振動被害の実態と教訓		東京理科大学	災害科学国際研究所
4	講演会・セミナー	日東工業防災セミナー	講演	20170711	20170711	求められる都市・建築の総合的地震対策～東日本大震災の教訓を踏まえて		日東工業	仙台サンプラザ
5	講演会・セミナー	茨城高校模擬講義	講演	20170725	20170725	地震時の建物の揺れや地盤の揺れを知ろう!		東北大学	災害科学国際研究所
6	講演会・セミナー	社会教育主事講習	講演	20170801	20170801	東日本大震災の被害の実態と教訓—今後の地震対策と防災教育のために	東北6県教育委員会	文部科学省	仙台市・東北大学 文科系総合研究棟
7	講演会・セミナー	山形大学留学生向け防災講演	講演	20170828	20170828	地震時の建物や地盤の揺れの性質を知ろう		山形大学	山形大学
8	講演会・セミナー	建築研究所国際地震工学センター(IISEE)研修	講演	20171106	20171106	東日本大震災の教訓—都市・建築の総合的地震対策に向けて	JICA	建築研究所	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所
9	講演会・セミナー	ビューロベリタスジャパン講演会	招待講演	20170110	20171110	リアルタイム地震観測と地震防災～東日本大震災も含めた最近の話題～		ビューロベリタスジャパン	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所
10	講演会・セミナー	モンゴル本邦研修	招待講演	20171117	20171117	防災研究成果を活用した地震防災対策の社会実装	JICA	JICAモンゴル	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所
11	講演会・セミナー	モンゴル本邦研修	招待講演	20171117	20171117	建物の耐震診断・補強と地盤との関わり～求められる都市・建築の総合的地震対策～	JICA	JICAモンゴル	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所
12	講演会・セミナー	モンゴル本邦研修	招待講演	20171117	20171117	構造ヘルスマニタリング機能を有する早期地震警報システムの開発・展開～求められる都市・建築の総合的地震対策～	JICA	JICAモンゴル	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所
13	講演会・セミナー	モンゴル本邦研修	招待講演	20171120	20171120	東日本大震災の振動被害の実態と教訓を踏まえて～求められる都市・建築の総合的地震対策～	JICA	JICAモンゴル	仙台市・東北大学 災害科学国際研究所

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	国立研究開発法人建築研究所	国際地震工学研修・普及会議	委員	20130401
2 国・政府	国立研究開発法人建築研究所	地震工学研修	研究講師	
3 国・政府	文部科学省地震調査研究推進本部	強震動部会	委員	20130401
4 国・政府	独立行政法人防災科学技術研究所	強震観測事業推進連絡委員会	委員	20130401
5 地方自治体	宮城県	女川原子力発電所2号機の安全性検討会	委員	2014
6 地方自治体	宮城県	再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援事業に関わる有識者評議会	委員	2014
7 その他	公益法人電磁材料研究所	研究棟将来構想委員会	委員	
8 その他	民間構造評定機関・ビューロパリティス	超高層・免震構造評定委員会	副委員長	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
1 ネブラスカ大学	Prof. Terri	20170703	講演	災害科学国際研究所	国内	講演	20
2 Northwestern University	Prof. Chong Song Min	20170726	講演	災害科学国際研究所	国内	講演	10

大野 晋 准教授

Susumu OHNO

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1986	3	東北大学大学院	工学研究科	1988	3	博士(工学)	1999	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	2003	3	鹿島建設技術研究所	
2	2003	4	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 災害制御研究センター	准教授
3	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	土木学会	Seismological Society of America

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会	委員	20170400
2	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会地震動小委員会	委員	20040400
3	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会強震観測小委員会	幹事	20130400
4	日本建築学会	奨励賞選考委員会	委員	20160601
5	日本建築学会	日本地震工学シンポジウム運営委員会	委員	20170500

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	地震工学	強震動地震学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	学位プログラム推進機構	リーディングプログラム部門教務委員会	委員	20154000

B. 研究活動

研究活動の概要

国内外で東北地方太平洋沖地震に代表される超巨大地震の発生が危惧されており、日本全国で蓄積された強震記録を用いて超巨大地震を含む地震動予測手法の高精度化の研究を進めた。また、当分野で展開している強震観測網の記録を用いて、仙台市での地下構造モデルの高精度化の検討を実施し、モンゴルで招待講演を行った。仙台市内及び宮城・岩手・山形の自治体建物で継続的な振動特性モニタリングを実施するとともに、東日本大震災の震動被害データを用いて建物の構造種別・年代別の被害率推定法の開発を進めた。また、2018年2月の台湾花蓮地震の被害調査を実施した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	現在		強震動予測に関する研究	国内
2	1988	4	現在		強震観測・建物振動特性評価に関する研究	国内
3	2003	4	現在		地下構造モデル評価手法に関する研究	なし
4	2006	4	現在		地震動分布の準リアルタイム評価手法に関する研究	なし
5	2011	4	現在		地震動特性と建物被害に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	長期連続観測記録に基づく低層建物の通常時と地震時の固有振動数の変動	学術雑誌	有	いいえ	日本地震工学会論文集	17	4	4_1	4_12	20170831	畠山智貴・王欣・大野晋・源榮正人	共著	なし
2	日本語	長期連続観測に基づく鉄筋コンクリート造建築物の地震時および通常時における振動特性の変動	学術雑誌	有	いいえ	日本建築学会技術報告集	23	55	805	808	20171000	畠山智貴・王欣・大野晋・源榮正人	共著	なし
3	日本語	都市の地震応答シミュレーションのための木造建物モデル設定に関する一検討	学術雑誌	有	いいえ	構造工学論文集B	64				20180300	飯山かほり・盛川仁・市村強・堀宗朗・山崎義弘・坂田弘安・大野晋・柴山明寛	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	2016年台湾・美濃地震災害調査報告書	単行本	20170800	壁谷澤寿海, 勅使川原正臣, 橋浩一, 中村聡宏, 大野晋, 黒川巧, 田尻清太郎, 秋田知芳, 河本孝紀, 谷昌典, 日比野陽, 安藤尚一, 長江拓也, 秋田知芳	共著	日本建築学会	国内	

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	3	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国内	日本建築学会大会東北支部研究報告会		その他の連名	いいえ	由利本荘市文化交流会館カダール	由利本荘市	日本	20170617	口頭(一般)	山形盆地西部における地盤の常時微動観測	三辻和弥, 大野晋, 瀬栄正人	国内	
2	国内	日本建築学会大会学術講演会		その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島市	日本	20170831	口頭(一般)	免震建物の地下外壁に作用する地震時土圧と基礎・地盤の挙動および降雨の影響について	三辻和弥, 大野晋, 瀬栄正人	国内	
3	国内	土木学会全国大会 第72回年次学術講演会		その他の連名	いいえ	九州大学	福岡市	日本	20170911	口頭(一般)	点推定を利用した木造建物の被害評価 一実被害への適用一	飯山かほり・盛川仁・大野晋・柴山明寛	国内	
4	国内	東北地域災害科学研究会		単名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	八戸市	日本	20180107	口頭(一般)	仙台市の長周期地震動分布特性と地下構造	大野晋	なし	
5	国際	12th Research Conference on Geotechnical issues on building and structures and Mongolian-Japan 2nd joint seminar on earthquake engineering		単名	はい	モンゴル科学技術大学	ウランバートル市	モンゴル	20180328	指名 / シンポジウム・ワークショップ・パネル	Spatial Variations of Strong-Motions in Sendai, Japan, in relation to subsurface structure	Susumu Ohno	国外	50

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の全学教育、工学部建築・社会環境工学科および工学研究科都市・建築学専攻において、地震災害、建築構造、地盤震動に関する計10科目の講義を担当した。その中で、東日本大震災や最近の被害地震の揺れおよび被害の実態と教訓に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
5	建築・社会環境工学演習E	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
6	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
7	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	3
8	建築数理基礎論I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	4
9	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	8
10	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

世界防災フォーラムの会計を担当した。

今村 文彦 教授  
Fumihiko IMAMURA

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1984	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	3	1991	12	東北大学 工学部土木工学科	助手
2	1991	1	1992	11	東北大学 工学部附属災害制御研究センター	講師
3	1992	12	2000	7	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御研究センター	助教授
4	1993	8	1995	9	アジア工科大学院	助教授(派遣)
5	1997	4	2000	3	京都大学 防災研究所巨大災害研究センター	客員助教授(併任)
6	2000	8	2012	3	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御研究センター	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
8	2012	4	2014	3	東北大学 災害科学国際研究所	副所長
9	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	所長
10	2015	4	現在		東北大学	副理事(震災復興推進担当)

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	土木学会	日本地震学会	日本自然災害学会	Int. Tsunami Society	American Geophysical Union

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会	役員	理事/評議員	20020000
2	日本自然災害学会	東日本大震災特別委員会	委員	
3	土木学会	原子力土木委員会津波評価部会	委員	199910
4	日本地震学会		代議委員	200205
5	International Society for the Prevention and Mitigation of Natural Hazards		council member	200210
6	土木学会	地震工学委員会・海岸工学委員会委員合同小委員会、津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会	小委員長	200310
7	米国土木学会	論文査読委員会	委員	200504
8	World Scientific	Journal of earthquake and tsunami編集委員会	委員	200703
9	American Geophysical Union	International Award Committee (IAC)	委員	201304
10	IAG-IASPEU2017合同国際会議		組織委員	20170000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	津波工学	海岸工学	土木工学	自然災害科学	防災科学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学		副理事(震災復興推進担当)	20150401
2	災害科学国際研究所		所長	20140401
3	災害復興新生研究機構		副機構長	20160401
4	全学	教育研究評議会	拠点長	20171201
5	全学	災害科学世界トップレベル研究拠点		

B. 研究活動

研究活動の概要 (200~300字)

東日本大震災での津波被害に関する研究として、河川津波、地下津波などの関連データ及び解析を実施した。また、津波総合モデルの高精度向上と機能の拡大を実施し、複合現象のリスク評価への適用を可能にした。NTT関係研究所と安全で安心な社会構築のためのビジョンについて検討しその共有化を図った。その成果は、次年度以降の共同研究の実施に繋がると期待される。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989		現在		津波発生メカニズムと伝播予測に関する研究	両方
2	1992		現在		津波総合防災に関する研究	両方
3	1997		現在		災害情報と認知に関する研究	両方
4	2011		現在		実践防災学の構築に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	33	合計	33
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	15	国際査読無	0	国内査読有	18	国内査読無	0
----	-------	----	-------	---	-------	----	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Factors responsible for the limited inland extent of sand deposits on Leyte Island during 2013 Typhoon Haiyan	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Geophysical Research: Oceans				20170404	M.Watanabe, J.D.Bricker, K.Goto, F.Imamura	共著	国外

2	英語	Tsunami evacuation experiment using a mobile application A design science approach	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction						20170630	Natt Leelawat, <u>Anawat Suppasri</u> , Panon Latcharote, Yoshi Abe, Kazuya Sugiyasu, Fumihiko Imamura	共著	国外
3	英語	Estimation of fatality ratios and investigation of influential factors in the 2011 Great East Japan Tsunami	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction						20170629	Panon Latcharote, Natt Leekawat, <u>Anawat Suppasri</u> , Patcharavadee Thamarux, Fumihiko Imamura	共著	国外
4	英語	The Role of Tsunami Engineering in Building Resilient Communities and Issues to Be Improved After the GEJE	単行本(論文掲載)	有	いいえ	The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration Insights and Assessment after 5 Years	47		435	448		20170713	Fumihiko Imamura, <u>Anawat Suppasri</u> , Shosuke Sato, Kei Yamashita	筆頭共著	両方
5	日本語	被災地大学における「復興」を題材にした科目の実践と事例分析－受講者の事後変化に着目して－	学術雑誌	有	いいえ	日本災害復興学会論文集		11	1	7		20170800	佐藤翔輔, 杉浦元亮, 呂本俊亮, 今村文彦	共著	国内
6	日本語	効果的かつ無理のない地区防災計画の作成方法－宮城県石巻市と亘理町における実践と評価－	学術雑誌	有	いいえ	自然災害科学・特別号	36		69	89		20170900	佐藤翔輔, 相澤和宏, 伊妻伸之, 遠藤匡範, 高橋大輔, 平間雄, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 今井健太郎, 阿部利江, 戸川直希, 今村文彦	共著	国内
7	日本語	近年の震災アーカイブの変遷と今後の自然災害アーカイブのあり方について Transition of earthquake disaster archive and future natural disaster archive	学術雑誌	有	いいえ	デジタルアーカイブ学会誌	1	Pre	13	16		20170908	柴山 明寛, 北村 美和子, ボレー セバスタチエン, 今村 文彦	共著	国内
8	日本語	2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態：石巻市と亘理町の住民を対象にした調査から	学術雑誌	有	いいえ	第36回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			13	14		20170927	佐藤翔輔, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 遠藤匡範, 高橋大輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希, 今村文彦	共著	国内
9	日本語	最新400年間の地震記録に基づく過去と将来のグローバル津波ハザード評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1609	1_1614		20171000	大竹 拓郎, サッパシー アナワット, Panon LATCHAROTE, 今村文彦	共著	国外
10	日本語	多数シナリオ津波避難シミュレーションによる確率論的避難安全性の評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1513	1_1518		20171000	牧野嶋文泰, 今村文彦, 安倍祥	共著	国内
11	日本語	津波避難訓練が実際の津波避難行動に及ぼす効果－宮城県石巻市2016年11月22日福島県沖地震津波	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1531	1_1536		20171000	戸川直希, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	国内
12	日本語	宮城県石巻市における2016年11月22日福島県沖の地震津波による避難行動実態	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1603	1_1608		20171000	佐藤翔輔, 今村文彦, 岩崎雅宏, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 皆川満洋, 戸川直希	共著	国内
13	日本語	引き波増大に及ぼす津波土砂移動及び沖合津波波形の影響評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_361	1_366		20171000	山下啓, 今村文彦, 岩間俊二, 菅原大助, 高橋智幸	共著	国内
14	日本語	円錐型断層モデルによる2011年東北地方太平洋沖地震のすべり分布と津波波形の再現	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_295	1_300		20171000	久松明史, 今村文彦, 松浦律子	共著	国内
15	日本語	土砂移動が及ぼす津波ハザード及び建物被害への影響－東日本大震災の宮城県気仙沼市における津波氾濫・土砂移動・船舶漂流の統合計算－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_355	1_360		20171000	山下啓, 嶋原良典, 菅原大助, 有川太郎, 高橋智幸, 今村文彦	共著	国内
16	日本語	津波伝承知メディアによる人的被害低減効果の統計的分析－東日本大震災で被災した岩手県・宮城県における津波碑と津波由来地名に着目して－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1525	1_1530		20171000	佐藤翔輔, 平川 雄大, 奥村誠, 今村文彦	共著	国内
17	日本語	海岸林の空間的デザイン手法の提案－宮城県沼市を対象として－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_397	1_402		20171000	大平 浩之, 山下 啓, 林 晃大, 今村文彦	共著	国内
18	英語	Preference for Information During Flood Disasters: A Study of Thailand and Indonesia	学術雑誌	有	いいえ	Sustainable Future for Human Security			335	349		20171028	Natt Leelawat, Abdul Muhari, Mongkornkorn Srivichai, <u>Anawat Suppasri</u> , Fumihiko Imamura, Jeremy D. Bricker	共著	国外
19	日本語	災害伝承は津波避難行動を誘引したのか－陸高田氏における質問紙調査を用いた事例分析－	その他	有	いいえ	地域安全学会論文集	30・31		69	76		20171100	佐藤翔輔, 平川雄大, 新家杏奈, 今村文彦	共著	国内
20	英語	Possible Factors Promoting Car Evacuation in the 2011 Tohoku Tsunami Revealed by Analysing a Large-Scale Questionnaire Survey in Kesennuma City	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	7	4	112	112		20171106	Fumiyasu Makinoshima I, Yoshi Abe, Fumihiko Imamura, Gaku Machida, Yukimi Takeshita	共著	国内
21	英語	Are inundation limit and maximum extent of sand useful for differentiating tsunamis and storms? An example from sediment transport simulations on the Sendai Plain, Japan	学術雑誌	有	いいえ	Sedimentary Geology	364		204	216		20171228	Masashi Watanabe, Kazuhisa Goto, Jeremy D. Bricker, Fumihiko Imamura	共著	国外
22	英語	Tsunami hazard evaluation for Kuwait and Arabian Gulf due to Makran Subduction Zone and Subaerial landslides	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards						20170000	Latcharote, P., Al-Salem, K., Suppasri, A., Pokavanich, T., Toda, S., Jayaramu, Y., Al-Enezi, A., Al-Ragumand, A. and Imamura, F.	共著	国外
23	日本語	災害デジタルアーカイブを活用した被災地における防災教材の作成過程に関する実態分析－多賀城市防災教育副読本資料集作成業務の参与観察とインタビュー調査をもとに－	学術雑誌	有	いいえ	災害情報		15	41	51		20170000	佐藤翔輔, 今村文彦	共著	国内
24	日本語	東日本大震災における「津波による犠牲者ゼロ」の地域を対象にした探索的調査	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会梗概集	40		181	182		20170000	佐藤翔輔, 今村文彦	共著	国内
25	日本語	災害情報行動の訓練と実際の比較と課題に関する考察－宮城県石巻市における事例分析－	学術雑誌	有	いいえ	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会講演論文集						20170000	佐藤翔輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 今村文彦	共著	国内
26	英語	The Evacuation of Thai Citizens During Japan's 2016 Kumamoto Earthquakes: An ICT Perspective	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	12		669	677		20170000	Leelawat, N., Suppasri, A., Latcharote, P. and Imamura, F.	共著	国外
27	日本語	震災からの「教訓」を伝える2つのデータベースの実装とその評価:「3.11からの学びデータベース」と「震災教訓文献データベース」	学術雑誌	有	いいえ	災害情報	16		95	104		20180100	佐藤翔輔, 岡元徹, 今村文彦	共著	国内
28	英語	Development of a Tsunami Inundation Analysis Model for Urban Areas Using a Porous Body Model	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1	1	23		20180104	Kei Yamashita, <u>Anawat Suppasri</u> , Yusuke Oishi, Fumihiko Imamura	共著	国内
29	英語	Quantitative Assessment of Epistemic Uncertainties in Tsunami Hazard Effects on Building Risk Assessments	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1	1	27		20180110	Yo Fukutani, <u>Anawat Suppasri</u> , Fumihiko Imamura	共著	国内

30	英語	Enhancing a tsunami evacuation simulation for a multi-scenario analysis using parallel computing	学術雑誌	有	いいえ	Simulation Modelling Practice and Theory					20180106	FumiyasuMakinoshima, Fumihiko Imamura, YoshiAbe	共著	国内
31	英語	systematic evaluation of multilayered infrastructure systems for tsunami disaster mitigation in sendai city	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1			20180110	Pakoksung Kwanchai, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura	共著	国内
32	英語	Developing fragility functions for aquaculture rafts and eelgrass in the case of the 2011 Great East Japan tsunami	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards and Earth System Sciences	18		145	155	20180110	Suppasri, A., Fukui, K., Yamashita, K., Leelawat, N., Hiroyuki, O. and Imamura, F.	共著	国外
33	英語	Barriers towards hotel disaster preparedness: Case studies of post 2011 Tsunami, Japan	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction					20180203	David N.Nguyen, Fumihiko Imamura, Kanako Iuchi	共著	国内
34	英語	Effect of tsunami drill experience on evacuation behavior after the onset of the Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction					20180222	Naoki Nakaya, Harumi Nemoto, Carine Yi, Ayako Sato, Kotomi Shingu, Tomoka Shoji, Shosuke Sato, Naho Tsuchiya, TomohiroNakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Zhiqian Yu, Nicole Gunawansa, Shinichi Kuriyama, Osamu Mura, Takeshi Sato, Fumihiko Imamura, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa, HiroakiTomita	共著	国外

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	1	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	The role of tsunami engineering to contribute the tsunami resilience community and its issues to be improved for the future (The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration, insights and assessment after 5 years, Advances in Natural and Technological Hazards Research, Vol.47)		20170000	Fumihiko Imamura, Anawat Suppasri, Shosuke Sato, and Kei Yamashita	共著	Springer	国外	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	5	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	6	うち	国際	0	国際	0	国内	6	国内	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	----	---	----	---	----	---	----	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(発着者名)	区分	所外連携	
1 日本語	東日本大震災による農業被害実態と今後の減災への取組み(1)津波による被害実態と復興への取組み(災害に強い農業インフラの構築(3))	その他	無		週間農林		2314	4	13	20170425	今村文彦	単著	なし
2 日本語	東日本大震災による農業被害実態と今後の減災への取組み(2)津波による被害実態と復興への取組み(災害に強い農業インフラの構築(4))	その他	無		週間農林		2315	4	13	20170515	今村文彦	単著	なし
3 日本語	東日本大震災による農業被害実態と今後の減災への取組み(3)津波による被害実態と復興への取組み(災害に強い農業インフラの構築(5))	その他	無		週間農林		2316	4	13	20170525	今村文彦	単著	なし
4 日本語	平成28年(2016年)11月22日福島県沖地震による津波について:その実態と対応	学術雑誌	無		地震ジャーナル	63	2	13	20170600	今村文彦	単著	なし	
5 日本語	東日本大震災以降の津波総合対策の動きと今後の方向性(特集 津波防災の取り組み) Action for Tsunami Integrated Measure after the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami and its Future Direction	学術雑誌	無		河川	73	8	2	4	20170800	今村文彦	単著	なし
6 日本語	東日本大震災の復興検証(復興庁委託事業): 東松島市ヒアリングレポート	その他	無		21世紀ひょうご特別号		43	51	20170900	今村文彦, 井内加奈子, 佐藤翔輔	筆頭共著	なし	

学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	21	合計	25
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	JpGU-AGU(日本地球惑星科学連合大会)	佐竹健治	単名	はい	幕張メッセ国際会議場	千葉	日本	20170524	口頭(一般)	Local and global Activity to contribute the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	今村文彦	なし	8,148
2	国内	JpGU-AGU(日本地球惑星科学連合大会)	Hodaka Kawahata	その他の連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	A global assessment of tsunami hazards over the last 400 years	Otake, T., Suppasri, A., Latcharote, P., Imamura, F., Leelawat, N. and Nguyen, D.	国外	8,148
3	国内	JpGU-AGU(日本地球惑星科学連合大会)	Hodaka Kawahata	その他の連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	Present situation of Thailand on tsunami disaster mitigation as improvements from the 2004 Indian Ocean tsunami	Suppasri, A., Leelawat, N., Sararit, T., Latcharote, P. and Imamura, F.	国外	8,148
4	国内	土木学会海洋開発委員会特別シンポジウム「津波シンポジウム」		単名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20170628	口頭(Keynote)	東日本大震災の経験を通じた実践的防災学の展開 - 津波減災学への動き	今村文彦	なし	
5	国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	Hodaka Kawahata	その他の連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	Present situation of Thailand on tsunami disaster mitigation as improvements from the 2004 Indian Ocean tsunami	Suppasri, A., Leelawat, N., Sararit, T., Latcharote, P. and Imamura, F.	国外	8,148
6	国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	その他の連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170811	ポスター(一般)	Tsunami hazard assessment for the Arabian Gulf from earthquakes and coastal landslides using detailed topography / bathymetry data and considering tidal effect	Suppasri, A., Latcharote, P., Al-salem, K., Pokavanich, T., Jayaramu, Y. C., Al-enezi, A., Toda, S. and Imamura, F.	国外	2,297
7	国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	その他の連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170810	口頭(一般)	The 2016 Fukushima earthquake and tsunami: Local tsunami behavior and recommendations for tsunami disaster risk reduction	Suppasri, A., Leelawat, N., Latcharote, P., Roerber, V., Yamashita, K., Hayashi, A., Hisamatsu, A., Nguyen, D. and Imamura, F.	国外	2,297
8	国際	International Tsunami Symposium Bali-Flores 2017	Dr. Subandono Diposaptono	単名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ	インドネシア共和国	20170821	口頭(Keynote)	The 1992 Flores earthquake and tsunami - beginning of seismically active period and initiating the ITT	今村文彦	なし	200

9	国際	International Tsunami Symposium Bali-Flores 2017	Dr. Subandono Dipoasptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ	インドネシア共和国	20170822	口頭(一般)	Evaluation of global tsunami hazard for 400 years and future	Fumihiko Imamura, Takuro Otake, Anawat Suppasri, Onanon Latcharote, Natt Leelawat	国外	200
10	国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Dipoasptono	その他の連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Developing Fragility Functions based on data from aquaculture raft and eelgrass damaged by the 2011 Great East Japan tsunami	Suppasri, A., Fukui, K., Yamashita, K., Leelawat, N., Hiroyuki, O. and Imamura, F.	両方	200
11	国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Dipoasptono	その他の連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Quantitative effect of uncertainty in tsunami hazard on building risk assessment	Fukatani, Y., Suppasri, A., and Imamura, F.	国内	200
12	国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Dipoasptono	その他の連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Public awareness and education for disaster risk reduction -Bilateral cooperation between Japan and Indonesia-	Yasuda, M., Suppasri, A., Muramoto, T. and Imamura, F.	両方	200
13	国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Dipoasptono	その他の連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Evacuation Behavior caused by the 2016 Fukushima Earthquake and Tsunami: Comparative Analysis in Ishinomaki City and Watari Town, Miyagi Prefecture	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Naoki Togawa, Masahiro Iwasaki, Mitsuhiro Minakawa	両方	200
14	国内	第36回日本自然災害学会学術講演会	上村靖司	その他の連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170927	口頭(一般)	2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態:石巻市と亶理町の住民を対にした調査から	佐藤翔輔, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 遠藤匡範, 高橋大輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希, 今村文彦	国内	
15	国内	第36回日本自然災害学会学術講演会	上村靖司	その他の連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170927	口頭(一般)	参加者の満足度に注目した避難(防災)訓練設計—仙台市長命ヶ丘連合町内会に於ける訓練満足度調査に着目して—	保田真理, 邑本俊亮, Suppasri Anawat, 今村文彦	国内	
16	国内	第36回日本自然災害学会学術講演会	上村靖司	その他の連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170927	口頭(一般)	家屋被害実績に基づき海岸線の津波リスク減滅効果に関する検討	林景大, 山下啓, 今村文彦	国内	
17	国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	その他の連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	Anawat SUPPASRI, 山下啓, Panon LATCHAROTE, Volker ROEBER, 林景大, 大平浩之, 福井謙太郎, 久松明史, 今村文彦	国内	500
18	国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	その他の連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	宮城県石巻市における2016年11月22日福島県沖の地震津波による避難行動実態	佐藤翔輔, 今村文彦, 岩崎雅宏	国内	500
19	国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	その他の連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	引き波増大に及ぼす津波土砂移動及び沖合津波波形の影響評価	山下啓, 今村文彦, 岩間俊二	国内	500
20	国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	その他の連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	円錐型断層モデルによる2011年東北地方太平洋沖地震のすべり分布と津波波形の再現	久松明史, 今村文彦, 松浦律子	国内	500
21	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	その他の連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Integrated researches and activities on tsunami disaster risk reduction: Industry-academic collaboration under Earthquake Induced Tsunami Risk Evaluation (Tokio Marine) research field at IRIDES, Tohoku University	Suppasri, A., Hayashi, A., Yamashita, K., Yasuda, M., Abe, Y. and Imamura, I.	両方	946
22	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	その他の連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Tsunami hazard assessment for Kuwait and other Arabian Gulf countries from earthquakes and landslides	Suppasri, A., Latcharote, P., Al-salem, K., Pokavanch, T., Jayaramu, Y. C., Al-enezi, A., Toda, S. and Imamura, F.	国外	946
23	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	その他の連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Global tsunami risk assessment: Industry-academic collaboration under Willis Research Network (WRN)	Pakoksung, K., Suppasri, A., Latcharote, P., Muhari, A., Imamura, F., Lin, K., Kayestha, P., Yamamoto, K. and Tabuchi, S.	両方	946
24	国内	平成29年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	その他の連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	Is using of maximum flow depth from tsunami fragility functions overestimates wooden housing damage?	Suppasri, A., Kwanchai, P., Latcharote, P., Takanashi, N. and Imamura, F.	両方	400
25	国内	平成30年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	その他の連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	Tsunami Economic Losses of the Nankai Earthquake in Kochi Prefecture Estimated with Scenario Base of Input-Output Modeling	KWANCHAL PAKOKSUNG, ANAWAT SUPPASRI-FUMHIKO IMAMURA	両方	400

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 5 件

	国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数 (名/外国人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	土木学会	第42回海洋開発シンポジウム	201706026	20170628	災害科学国際研究所	仙台	日本	Organizing Committee	80 (1)	IRIDeS共催	土木学会	国内	シンポジウム
2	国際	フランス大使館、災害科学国際研究所	日仏防災イベント週間	20171003	20171007	フランス大使館、災害科学国際研究所	東京、仙台	日本	Chairman	201	IRIDeS共催	フランス大使館	国外	研究会・ワークショップ
3	国際	防災防災フォーラム実行委員会	世界防災フォーラム	20171126	20171128	仙台国際センター	仙台	日本	委員長	946 (313)	IRIDeS主催・共同主催	仙台市	両方	その他
4	国内	災害科学国際研究所	第7回巨大津波災害に関する合同研究集会	20171208	20171209	災害科学国際研究所	仙台	日本	Organizing Committee	70 (10)	IRIDeS主催・共同主催		国内	研究会・ワークショップ
5	国際	IAG-IASPEU2017合同国際会議組織委員会	IAG-IASPEU2017合同国際会議	20170101	20180301	神戸国際会議場	神戸	日本	組織委員	1107 (636)			両方	その他



C. 教育活動  
担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	全学		1	1セメ	
2	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	
3	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	6
4	スペクトル解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	4
5	防災システム論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	4
6	水環境学特論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
7	地域システム学特論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
8	災害制御学特論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
9	水環境学特別研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻			
10	映画文化特殊講義Ⅱ (環境・災害・技術)	日本映画大学	教養		2・3・4	後期	15

D. 社会活動  
一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 8 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北マリンサイエンス 拠点形成事業 (TEAMS)	海と暮らす一恵みを、時に災害をもたらす海と 私たちはどう向き合うのか	20170528	20170528	東北大学青葉 山コモンズ	仙台市	日本	ワークショップメ ンバー		IRIDeS共催	研究会・ワークショップ	
2	国内	東北大学災害科学国 際研究所	「みんなの防災手帳」使い方講座	20170611	20170611	鳥屋崎公会堂	亶理町	日本	講師		IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
3	国内	「災害と健康」プロジェ クトユニット	第7回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170628	20170628	東北大学星陵 キャンパス	仙台市	日本	講師		IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
4	国内	東北大学災害科学国 際研究所, 仙台市	ともに考える防災の未来—私たちの防災枠組 講座シリーズ 基礎から学ぶ仙台防災枠組 for World BOSAI Forum	20170709	20170709	TKPガーデンシ ティ仙台	仙台市	日本	講師	100	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
5	国内	東北大学災害科学国 際研究所, 仙台市	ともに考える防災の未来—私たちの防災枠組 講座シリーズ	20170806	20170806	東北大学災害 科学国際研究 所	仙台市	日本	講師	40	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
6	国内	東北大学災害科学国 際研究所, 人間文化 研究機構	歴史が導く災害科学の新展開	20180210	20180210	東北大学災害 科学国際研究 所	仙台市	日本	講演者		IRIDeS主催・共 同主催	シンポジウム	
7	国内	東北大学災害科学国 際研究所	津波被害軽減へのICTの活用—産学官連携 によるチャレンジ	20180315	20180315	ラゾーナ川崎ブ ラザソール	川崎市	日本	講演者	150	IRIDeS共催	シンポジウム	
8	国内	宮城県亶理町	わたり防災フォーラム 2018	20180217	20180217	亶理町中央公 民館	亶理町	日本	講演者	200	IRIDeS協力	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	仙台防災未来フォーラム 2017	全体講演	20170312	20170312	ともに考える防災・減災の未来～「私たちの仙 台防災枠組講座」、「結」プロジェクト」合同報 告会～	企業	仙台防災未来 フォーラム2017 運営事務局	仙台国際セン ター	仙台市	日本	600
2	講演会・セミナー	第30回 全国経済同友会セ ミナー	パネリスト	20170420	20170420	大震災の教訓～防災・減災施策の向上策～	企業	経済同友会事務 局	仙台国際セン ター	仙台市	日本	1200
3	講演会・セミナー	富士通フォーラム	パネリスト	20170519	20170519	2031年のSDGs達成、企業はどう取り組むべき か、共創とデジタル革新が切り拓く持続可能な社 会	企業	富士通			日本	2500
4	講演会・セミナー	原子力発電所の自然災害 への対応—福島事故の津 波対策を例として—	パネリスト	20170801	20170801	原子力発電所におけるこれからの自然災害対 策 (パネリスト:津波解析の課題と現状)	なし	日本学術会議総 合工学委員会原 子力事故対応分 科会	日本学術会議 行動	東京都	日本	150
5	講演会・セミナー	「震災対策技術展」東北— 自然災害技術展—	基調講演	20170803	20170803	東日本大震災の教訓と今後の防災対策— 津波災害などを中心として—	行政	「震災対策技術 展」東北 実行 委員会	AERビル	仙台市	日本	300
6	その他	国立大学附置研究所・セン ター長会議 第1部会シン ポジウム 災害科学とメディア—大災 害時代を生き抜くために—	パネリスト	20171007	20171007	1 災害科学とメディアへの期待と課題 2 課題解決のための提案 3 次世代に繋ぐために 教育・人材育成	なし	国立大学附置研 究所・センター 長会議 第1部 会	東北大学片平さ くらホール	仙台市	日本	140
7	講演会・セミナー	平成29年度津波防災普及 啓発プロジェクト	校長	20171105	20171105	津波防災 スペシャルゼミ in 本郷 ～津波に ついて学ぼう～	行政	内閣府	伊藤謝恩ホー ル	東京都	日本	250

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	内閣府	南海トラフの巨大地震モデル検討会	委員	20110000
2 国・政府	総務省消防庁	消防審議会	専門委員	20110000
3 国・政府	文部科学省	中央教育審議会 スポーツ・青少年分科会 学校安全部会	委員	20110000
4 国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部地震調査委員会	委員	20070000
5 国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部地震調査委員会津波評価部会	部会長	20130000
6 国・政府	国土交通省	社会資本整備審議会河川分科会	委員	20150000
7 地方自治体	宮城県	防災会議専門委員会東日本大震災検証・記録専門部会	委員	20130000
8 地方自治体	宮城県	古川黎明高校SSH運営指導委員会	委員長	20120601
9 地方自治体	静岡県	防災・原子力学術会議津波対策分科会	会長	20110000
10 民間・NPO	仙台放送株式会社	仙台放送番組審議会委員	委員長	20080000
11 その他	日本学術会議	日本学術会議	連携会員	20060000

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20170529	石巻市役所庁議室・宮城県石巻市	国内	東北大学災害科学国際研究所と石巻市との連携協力に関する協定	自治体	石巻市	20170529	

サップシー アナワット 准教授  
Anawat SUPPASRI  
災害リスク研究部門 津波工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	チェラーロンコーン大学	工学部	2005	3	東北大学大学院	工学部研究科	2010	9	博士(工)	2010	9

職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	10	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター	リサーチ・フェロー
2	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学会

学会・委員会等での役割

1	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海岸工学委員会 CEJ小委員会	会員	20140401
2	Global Risk Forum GRF Davos	IJDRR Journal Editorial board	Member	20141201
3	土木学会	海岸工学委員会 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	会員	20150000
4	タイ・日本国際学術学会		名誉委員会	20140000
5	アジア・オセアニア地球科学学会		Section secretary	20160000
6	IUGS Geohazard Task Group		Treasurer	20170000

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
津波工学	海岸工学	防災学	災害リスク研究

B. 研究活動

研究活動の概要 (200~300字)

国内外(特に東南アジア・タイ、インドネシア、フィリピン)において総合的に津波工学の観点から津波または地震・沿岸災害の防災研究について活動している。主に、津波被害予測、ハザード・リスク評価、津波避難、防災教育に関して研究し、国内外で発表し、多数の国際共著で学術雑誌に掲載されている。

研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	10	現在		インド洋・太平洋における津波ハザードマップ研究	国外
2	2007	10	現在		津波被害関数構築に関する研究	両方
3	2009	10	現在		津波避難に関する研究	両方
4	2012	4	現在		防災教育に関する研究	両方
5	2013	11	現在		2013年に発生したハイエン台風に関する研究	国外
6	2016	4	現在		世界津波ハザード評価に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	10	合計	12	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

1	記述言語	論文題目(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	The Evacuation of Thai Citizens During Japan's 2016 Kumamoto Earthquakes: An ICT Perspective	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	12		669	677	20170000	Leelawat, N., Suppasri, A., Latcharote, P. and Imamura, F.	共著	国外
2	英語	Tsunami evacuation experiment using a mobile application A design science approach	学術雑誌	有	はい	International Journal of Disaster Risk Reduction					20170000	Leelawat, N., Suppasri, A., Latcharote, P., Abe, Y., Sugiyasu, K. and Imamura, F.	共著	国外
3	英語	Estimation of Fatality Ratios and Investigation of Influential Factors in the 2011 Great East Japan Tsunami	学術雑誌	有	はい	International Journal of Disaster Risk Reduction					20170000	Latcharote, P., Leelawat, N., Suppasri, A., Thamarux, P. and Imamura, F.	共著	国外
4	英語	Tsunami hazard evaluation for Kuwait and Arabian Gulf due to Makran Subduction Zone and Subaerial landslides	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards					20170000	Latcharote, P., Al-Salem, K., Suppasri, A., Pokavanich, T., Toda, S., Jayaramu, Y., Al-Enezi, A., Al-Ragumand, A. and Imamura, F.	共著	国外
5	英語	Developing Fragility Functions Based on Aquaculture Raft and Eelgrass due to Tsunami Damage: A Case Study of Mangokura Lake	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文誌B2(海岸工学)	73	2	1_1543	1_1548	20171000	Anawat SUPPASRI, Kentaro FUKUI, Kei YAMASHITA, Hiroyuki OHIRA, Natt LEELEAWAT and Fumihiko IMAMURA	筆頭共著	国外
6	日本語	東日本大震災での津波による被害実態に基づく推計曝露人口と人的被害の関係	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文誌B2(海岸工学)	73	2	1_1543	1_1548	20171000	長谷川 夏来, サップシー アナワット, 牧野嶋 文泰, 全村 文彦	共著	国内
7	日本語	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文誌B2(海岸工学)	73	2	1_1597	1_1602	20171000	Anawat SUPPASRI, 山下 啓・Panon LATCHAROTE・Volker ROEBER・林 暁太・大平 浩之・福井 謙太郎・久松 明史, 全村 文彦	共著	国外
8	日本語	最新400年間の地震記録に基づく過去と将来のグローバル津波ハザード評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文誌B2(海岸工学)	73	2	1_1609	1_1614	20171000	大竹 拓郎, サップシー アナワット, Panon LATCHAROTE, 全村 文彦	共著	国外
9	英語	Quantitative assessment of epistemic uncertainties in tsunami hazard effects on building risk assessments	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1	17		20180110	Fukutani, Y., Suppasri, A. and Imamura, F.	共著	国内
10	英語	Development of a tsunami inundation analysis model for urban areas using a porous body model	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1	12		20180104	Yamashita, K., Suppasri, A., Oishi, Y. and Imamura, F.	共著	国内
11	英語	Developing fragility functions for aquaculture rafts and eelgrass in the case of the 2011 Great East Japan tsunami	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards and Earth System Sciences	18		145	155	20180110	Suppasri, A., Fukui, K., Yamashita, K., Leelawat, N., Hiroyuki, O. and Imamura, F.	筆頭共著	国外
12	英語	The complex consequences of volcanic warnings: trust, risk perception and experiences of businesses near Mount Zao following the 2015 unrest period	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction	27		57	67	20180320	Donovan, A., Suppasri, A., Kuri, M. and Torayashiki, T.	共著	国外

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---

うち	国際	1	国内	0
----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Natural Catastrophe risk management and modelling: A practitioners guide	編集本 (Author)	20170600	Matthew Foote, Rev John Hillier, Kirsten Mitchell-Wallace and Matthew Jones	共著	John Wiley & Sons	国外	

学会発表

単名	0	筆頭連名	9	その他の連名	17	合計	26
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1 国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	Hodaka Kawahata	筆頭連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	A global assessment of tsunami hazards over the last 400 years	Otake, T., <u>Suppasri, A.</u> , Latcharote, P., Imamura, F., Leelawat, N. and Nguyen, D.	国外	8,148
2 国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	Hodaka Kawahata	筆頭連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	Present situation of Thailand on tsunami disaster mitigation as improvements from the 2004 Indian Ocean tsunami	<u>Suppasri, A.</u> , Leelawat, N., Sararit, T., Latcharote, P. and Imamura, F.	国外	8,148
3 国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	筆頭連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170811	ポスター(一般)	Tsunami hazard assessment for the Arabian Gulf from earthquakes and coastal landslides using detailed topography / bathymetry data and considering tidal effect	<u>Suppasri, A.</u> , Latcharote, P., Al-salem, K., Pokavanich, T., Jayaramu, Y. C., Al-enezi, A., Toda, S. and Imamura, F.	国外	2,297
4 国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	筆頭連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170810	口頭(一般)	The 2016 Fukushima earthquake and tsunami: Local tsunami behavior and recommendations for tsunami disaster risk reduction	<u>Suppasri, A.</u> , Leelawat, N., Latcharote, P., Roeber, V., Yamashita, K., Hayashi, A., Hisamatsu, A., Nguyen, D. and Imamura, F.	国外	2,297
5 国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	筆頭連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170810	口頭(一般)	Practical Applications Based on Tsunami Research	<u>Leelawat, N.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , Latcharote, P., Lamungkun, S., Charvet, I., Abe, Y., Sugiyasu, K., Park, J., Iijima, J. and Imamura, F.	国外	2,297
6 国際	14th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	Benjamin Fong Chao	筆頭連名	いいえ	Suntec Singapore Convention Centre	シンガポール	シンガポール	20170811	ポスター(一般)	Tsunami Damage Estimation for Coastal Infrastructure in Macau Based on Damage Fragility Curves Derived from the 2011 Japan Tsunami	<u>Chua, C. T.</u> , Li, L., Switzer, A., <u>Suppasri, A.</u> , Jenkins, S. and Winspear, N.	国外	2,297
7 国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Diposaptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Evaluation of global tsunami hazard for 400 years and future	<u>Imamura, F.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , Otake, T. and Latcharote, P.	国外	200
8 国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Diposaptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Developing Fragility Functions based on data from aquaculture raft and eelgrass damaged by the 2011 Great East Japan tsunami	<u>Suppasri, A.</u> , Fukui, K., Yamashita, K., Leelawat, N., Hiroyuki, O. and Imamura, F.	両方	200
9 国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Diposaptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Quantitative effect of uncertainty in tsunami hazard on building risk assessment	<u>Fukutani, Y.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , and Imamura, F.	国内	200
10 国際	International Tsunami Symposium (ITS2017)	Subandono Diposaptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	バリ島	インドネシア	20170821	口頭(一般)	Public awareness and education for disaster risk reduction -Bilateral cooperation between Japan and Indonesia-	<u>Yasuda, M.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , Muramoto, T. and Imamura, F.	両方	200
11 国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	Developing Fragility Functions Based on Aquaculture Raft and Eelgrass due to Tsunami Damage: A Case Study of Mangokura Lake	<u>Anawat SUPPASRI</u> , Kentaro FUKUI, Kei YAMASHITA, Hiroyuki OHIRA, Nat LEEAWAT and Fumihiko IMAMURA	両方	500
12 国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	東日本大震災での津波による被害実態に基づく推計曝露人口と人的被害の関係	長谷川夏菜, サッパシーアナワット, 牧野嶋 文泰, 今村 文彦	国内	500
13 国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	<u>Anawat SUPPASRI</u> , 山下啓・Panon LATCHAROTE・Volker ROEBER・林 晃大・大平浩之・福井 謙太郎・久松 明史・今村 文彦	国内	500
14 国内	第64回海岸工学講演会	岡安章夫	筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	最新400年間の地震記録に基づく過去と将来のグローバル津波ハザード評価	大竹 拓郎, サッパシーアナワット・Panon LATCHAROTE・今村 文彦	国外	500
15 国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Integrated researches and activities on tsunami disaster risk reduction: Industry-academic collaboration under Earthquake Induced Tsunami Risk Evaluation (Tokio Marine) research field at IRIDES, Tohoku University	<u>Suppasri, A.</u> , Hayashi, A., Yamashita, K., Yasuda, M., Abe, Y. and Imamura, I.	両方	946
16 国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Tsunami hazard assessment for Kuwait and other Arabian Gulf countries from earthquakes and landslides	<u>Suppasri, A.</u> , Latcharote, P., Al-salem, K., Pokavanich, T., Jayaramu, Y. C., Al-enezi, A., Toda, S. and Imamura, F.	国外	946
17 国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Global tsunami risk assessment: Industry-academic collaboration under Willis Research Network (WRN)	<u>Pakoksung, K.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , Latcharote, P., Muhari, A., Imamura, F., Lin, K., Kayesha, P., Yamamoto, K. and Tabuchi, S.	両方	946
18 国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Seismic performance of damaged buildings in Thailand and Japan following Mae Lao (Northern Thailand) earthquake in 2014 and Kumamoto earthquake in 2016	<u>Ornthammarath, T.</u> and <u>Suppasri, A.</u>	両方	946

19	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Lessons Learned from the 2016 Kumamoto Earthquakes in Japan: Foreign Organizations and Foreigners' perspective	Leelawat, N., Suppasri, A. and Imamura, F.	両方	946
20	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	Proposing a novel tsunami casualty estimation based on the relation between exposed population and actual casualties in the 2011 Tohoku tsunami	Hasegawa, N., Suppasri, A., Makinoshima, F. and Imamura, F.	国内	946
21	国際	World Bosai Forum 2017	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	ポスター(一般)	A Global Assessment of Historical and Future Tsunami Hazards based on Seismic Records over last 400 years	Ohtake, T., Suppasri, A., Latcharote, P. and Imamura, F.	国外	946
22	国内	平成29年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	筆頭連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	Is using of maximum flow depth from tsunami fragility functions overestimates wooden housing damage?	Suppasri, A., Kwanchai, P., Latcharote, P., Takanashi, N. and Imamura, F.	両方	400
23	国内	平成30年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	筆頭連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	Tsunami Economic Losses of the Nankai Earthquake in Kochi Prefecture Estimated with Scenario Base of Input-Output Modeling	KWANCHAI PAKOKSUNG, ANAWAT SUPPASRI, FUMIHIKO IMAMURA	両方	400
24	国内	平成31年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	筆頭連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	東日本大震災での建物被害データに基づく建物棟毎の流失確率予測式の提案	長谷川夏吏・サッパシー アナワット・牧野嶋文泰・今村文彦	国内	400
25	国内	平成32年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	筆頭連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	多数の地震シナリオの検討による仙台湾の津波増幅特徴の評価	倉本和彦・Suppasri Anawat・今村文彦	国内	400
26	国内	平成33年度 土木学会東北支部 技術研究発表会	藤原 正雄	筆頭連名	いいえ	日本大学(郡山キャンパス)	郡山	日本	20180303	口頭(一般)	各地域の津波波形に着目したグローバル津波ハザード評価	大竹拓郎・Suppasri Anawat・今村文彦	国外	400

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 5 件

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数 (おもに日本人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
			開始年月	終了年月									
1	国内 土木学会	第42回海洋開発シンポジウム	20170626	20170628	災害科学国際研究所	仙台	日本	Organizing Committee	80 (1)	IRIDeS共催	土木学会	国内	シンポジウム
2	国際 Asia Oceania Geosciences Society	14th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society (AOGS2017)	20170807	20170811	Suntec Convention Centre	シンガポール	シンガポール	Organizing Committee	2,297	なし	Asia Oceania Geosciences Society	両方	その他
3	国際 フランス大使館、災害科学国際研究所	日仏防災イベント週間	20171002	20171006	フランス大使館、災害科学国際研究所	東京、仙台	日本	Organizing Committee	200	IRIDeS共催	フランス大使館	国外	研究会・ワークショップ
4	国際 防災ダボ会議	世界防災フォーラム	20171126	20171128	仙台国際センター	仙台	日本	ポスターセッション	946 (313)	IRIDeS主催・共同主催	仙台市	両方	その他
5	国内 災害科学国際研究所	第7回巨大津波災害に関する合同研究集会	20171208	20171209	災害科学国際研究所	仙台	日本	Organizing Committee	70 (10)	IRIDeS主催・共同主催		国内	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の工学研究科土木工学専攻及び工学部建築・社会環境工学科の学生へ、卒業論文・修士論文の研究または学会発表への指導、土木工学水系の専門である授業も幾つか担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分コマ
1	創造工学研修	東北大学	工学部		1	2セメ	
2	水理学A及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	
3	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	
4	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	9
5	水環境演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
6	工学倫理	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	3
7	波と流れのモデル化と数値解析法	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科			9
8	実践的防災学II	東北大学	リーディング大学院				9

D. 社会活動

社会活動の概要

主に在東京タイ王国大使館、国連開発計画(UNDP)と共に防災活動において防災講演会、防災訓練を実施している。国内のメディアにもラジオ、テレビにおいて情報発信している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 2 件

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1	国内 在東京タイ王国大使館	大使館の職員向けの防災対応訓練	20170615	20170615	在東京タイ王国大使館	東京	日本	運営委員	100	なし	講演会・セミナー	
2	国際 国連開発計画(UNDP)	タイ、5つの小学校での津波避難訓練	20180100	20180100	タイ南部	バンガー県、プーケット県	タイ	アドバイザー	500	なし	その他	

講演・発表等(研究活動以外)

合計 : 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	磐城高校SSHの大学訪問	講演者	20170421	20170421	東日本大震災からの教訓・津波防災対策	小中高	磐城高校	東北大学工学部建築・社会環境工学科	仙台	日本	50
2	講演会・セミナー	古川黎明高校SSHの大学訪問	講演者	20170901	20170901	東日本大震災からの教訓・津波防災対策	小中高	古川黎明高校	災害科学国際研究所	仙台	日本	20

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	在東京タイ王国大使館	サッパシー・アナワット	20170615	講演	在東京タイ王国大使館	東京	講演・発表	50

有働 恵子 准教授

Keiko UDO

災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群基礎工学類	1998	3	筑波大学大学院	工学研究科	2003	3	博士(工学)	2003	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	2006	3	独立行政法人港湾空港技術研究所	研究官
2	2006	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助手
3	2007	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助教
4	2010	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	准教授
5	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

学会名	1	2
土木学会		European Geosciences Union

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海洋開発委員会 海洋開発論文集査読小委員会	委員	20090000
2	土木学会	海岸工学委員会 編集小委員会	委員	20100000
3	土木学会	海洋開発委員会	委員兼幹事	20140000
4	土木学会	Coastal Engineering Journal	Editor	20160600

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
1	土砂輸送	飛砂	海岸侵食	気候変動	リモートセンシング

B. 研究活動

研究活動の概要

今年度は、「地形乱流場における飛砂メカニズムの解明」(科研費国際共同研究強化)、「気候変動に伴う将来の砂浜消失予測」(文科省SI-CAT, JST/JICA SATREPS)等の研究プロジェクトを通して、気候変動による砂浜消失リスクに関する研究および海岸砂丘変形メカニズムに関する研究を行った。国際共同研究においては、UNESCO IHE Delft(オランダ)のRanasinghe教授が代表となっている寄附講座に参画し、研究グループのメンバーとの共同研究により複数の研究成果を発表した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	現在		飛砂メカニズムの解明と砂浜-砂丘地形変化予測モデルの開発	国内
2	2010	4	現在		気候変動の砂浜への影響評価と適応策立案	国外
3	2011	4	現在		巨大津波前後の海浜変形およびその後の回復特性の解明	なし
4	2014	4	現在		衛星画像計測による沿岸被害把握技術の開発	なし

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	4	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Future projection of flood inundation considering land-use changes and land subsidence in Jakarta, Indonesia	学術雑誌	有	いいえ	Hydrological Research Letters	11	2	99	105	20170428	Idham Riyando Moe, Shuichi Kure, Nurul Fajar Januriyadi, Mohammad Farid, Keiko Udo, So Kazama, Shunichi Koshimura	共著	両方
2	英語	Development of a rainfall runoff and flood inundation model for Jakarta, Indonesia, and its sensitivity analysis of datasets to flood inundation	国際会議 Proceedings	無	いいえ	World Environmental and Water Resources Congress 2017			104	116	20170500	I. R. Moe, S. Kure, N. F. Januriyadi, S. Kazama, K. Udo, S. Koshimura	共著	国内
3	英語	Projections of Future Beach Loss in Japan Due to Sea-Level Rise and Uncertainties in Projected Beach Loss	学術雑誌	有	いいえ	Coastal Engineering Journal (CEJ)	59	2		1740006	20170529	Keiko Udo, Yuriko Takeda	筆頭共著	なし
4	英語	CHARACTERISTICS OF WIND FIELD OVER AN ARTIFICIAL STRAIGHT DUNE AT KASHIMA COAST, JAPAN	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Coastal Dynamics 2017			492	501	20170600	Tsukasa Kuribayashi, Keiko Udo, Takanori Uchida	共著	国内
5	英語	SEDIMENT BALANCE FROM MOUNTAINS TO COASTS IN JAPAN: WHAT IS THE CAUSE OF COASTAL EROSION IN THE PERIOD FROM 1950 TO 1990?	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Coastal Dynamics 2017			891	900	20170600	Keiko Udo, Kohki Morita, Yuriko Takeda, Yoshiyuki Yokoo	筆頭共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	英語	The Yamamoto Coast Over Five Years; The Reconstruction of an Embankment with Tsunami-Induced Embayment(The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration)	編集本 (Author)	20170000	Vo Cong Hoang, Hitoshi Tanaka, Yuta Mitobe, Keiko Udo, Akira Mano(Vicente Santiago-Fandiño, Shinji Sato, Norio Maki, Kanako Iuchi)	共著	Springer	両方	

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	1	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国際	European Geosciences Union General Assembly 2017	Gerrit de Rooij	筆頭連名	いいえ	Austria Center Vienna	Vienna	オーストリア	20170424	ポスター(一般)	Sediment balance from mountains to coasts in Japan: what is the cause of coastal erosion in the period from 1950 to 1990?	<u>Keiko Udo</u> , Kohki Morita, Yuriko Takeda, Yoshiyuki Yokoo	国内	14496
2	国際	European Geosciences Union General Assembly 2017	Gerrit de Rooij	筆頭連名	いいえ	Austria Center Vienna	Vienna	オーストリア	20170425	ポスター(一般)	LES simulation of wind field over an artificial straight dune	<u>Keiko Udo</u> , Tsukasa Kuribayashi	なし	14496
3	国際	Coastal Dynamics 2017	Troels Aagaard	筆頭連名	いいえ	Kulturværftet Helsingør	Helsingør	デンマーク	20170614	口頭(一般)	SEDIMENT BALANCE FROM MOUNTAINS TO COASTS IN JAPAN: WHAT IS THE CAUSE OF COASTAL EROSION IN THE PERIOD FROM 1950 TO 1990?	<u>Keiko Udo</u> , Kohki Morita, Yuriko Takeda, Yoshiyuki Yokoo	国内	
4	国際	The 10th Symposium on River, Coastal and Estuarine Morphodynamics	Stefano Lanzoni, Guido Zolezzi	その他の連名	いいえ	San Gaetano Cultural Centre	Padova	イタリア	20170920	ポスター(一般)	Relationship between precipitation, river flow and its turbidity: finestructure of water and turbidity data at an upper-most reach	Yoshiyuki Yokoo, <u>Keiko Udo</u>	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度は海外長期出張のため授業は担当していない。研究指導においては主にWebミーティングを通して行い、9か月間直接の指導はできなかったものの、修士学生は全員国際学会もしくは国内学会での口頭発表を行い、また、国際ジャーナル誌への論文投稿も行った。また、UNESCO IHE Delt(オランダ)のRanasinghe教授との国際共同研究において自ら研究テーマを提案し、2017年10月から2018年9月までオランダの修士学生3名の研究指導を行っている。

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は海外長期出張のため、日本においては社会活動ができなかったものの、オランダにおいてセミナー講演を2回行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	Special Seminar	招待講演	20170703	20170703	Past and future beach erosion in Japan	なし	デルフト工科大学土木・地球科学科	Delft University of Technology	Delft	オランダ	10
2	講演会・セミナー	Special Seminar	招待講演	20171107	20171107	Past and future beach erosion in Japan	なし	トゥエンテ大学	University of Twente	Enschede	オランダ	20

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市	広瀬川清流保全審議会	委員	20130000
2	国・政府	国土交通省 東北地方整備局	阿武隈川水系河川整備委員会	委員	20161228

# 越村 俊一 教授

## Shunichi KOSHIMURA

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1995	3	東北大学大学院	工学研究科	2000	3	博士(工学)	2000	3

職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2002	3	日本学術振興会(東京大学地震研究所, 米国海洋大気局)	特別研究員
2	2002	4	2005	4	阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター	専任研究員
3	2005	5	2012	3	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター	准教授
4	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
5	2009	4	現在		神戸大学大学院 海事科学研究科, 国際海事研究所	客員教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5
日本土木学会		地域安全学会	日本計算工学会	日本地震工学会	American Geophysical Union

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本土木学会	海岸工学委員会	委員	20130401
2	日本土木学会	Coastal Engineering Journal	副編集長	20130401
3	日本土木学会	原子力土木委員会	委員	20140401
4	地域安全学会		理事	20110401
5	日本土木学会	海岸工学委員会・津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	幹事長	20150000
6	日本土木学会	海岸工学委員会・減災アセスメント小委員会	委員	20150000
7	The International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	Tsunami Commission	委員	20110000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
津波工学	リモートセンシング	空間情報科学	シミュレーション

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	土木工学専攻	水環境デザインコース長	20140401
2	工学研究科	土木工学専攻	就職担当	20140000
3	工学研究科	土木工学専攻・教育改善委員会	委員	20140401
4	全学	学生生活支援審議会	委員	20140401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

リアルタイムシミュレーション, リモートセンシング, 空間情報処理を融合した広域被害把握技術の高度化に取り組んだ。特に, サイバーサイエンスセンター, 理学研究科, 大阪大学, 東京大学, および民間事業者と産学連携で取り組んだリアルタイム津波浸水被害予測技術の実用化を果たすことができた。科研費基礎研究S, JST CRESTプロジェクトの代表を務め, 災害医学との連携, ソーシャルセンシング・ビッグデータ解析との融合による, 新しい災害シミュレーションの創出にも取り組んだ。

#### 研究課題

No.	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	2011	4	現在	東日本大震災の被害全貌の解明と, 震災の教訓を踏まえた次世代災害予測・減災システムに関する研究	両方
2	2012	4	現在	災害リモートセンシングによる広域被害把握に関する研究(ドローン航空宇宙センターとの共同研究)	両方
3	2014	4	現在	センシングとシミュレーションの統合による広域被害把握技術の深化に関する研究	両方
4	2017	5	現在	広域被害把握技術の災害医療への展開に関する研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	16	合計	16	うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	PLIC-VOF法を用いた格子ボルツマン法による自由表面流れ解析手法の開発	学術雑誌	無	いいえ	計算工学講演会論文集	22				20170500	佐藤兼太, 越村俊一	共著	なし
2	日本語	X-band SAR画像と光学画像の組み合わせによる田畑地域浸水判定手法の開発	大学紀要	有	いいえ	生産研究	69	6	361	365	20171100	支倉一磨, 郷石近英臣, 目黒公郎, 越村俊一	共著	国内
3	日本語	PLIC-VOF法を用いた格子ボルツマン法の津波数値解析に向けた基礎検証	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_7	1_12	20171100	佐藤兼太, 越村俊一	共著	国内
4	日本語	多角形領域接続・MPI並列津波解析モデルの複数解像度における全国津波解析への適用性検討	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_319	1_324	20171100	井上拓也, 阿部孝志, 越村俊一, 撫佐昭裕, 村嶋陽一, 小林広明	共著	国内

5	英語	Building Damage Assessment in the 2015 Gorkha, Nepal, Earthquake Using Only Post-Event Dual Polarization Synthetic Aperture Radar Imagery	学術雑誌	有	いいえ	Earthquake Spectra	33	S1	S185	S195	20171200	Yanbing Bai, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	共著	なし
6	英語	Analysis of Spatio-Temporal Tsunami Source Models for Reproducing Tsunami Inundation Features	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	3			20171200	Bruno Adriano, Satomi Hayashi, Shunichi Koshimura	共著	なし
7	英語	Tsunami Source Inversion Using Tide Gauge and DART Tsunami Waveforms of the 2017 Mw8.2 Mexico Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Pure and Applied Geophysics					20171200	Bruno Adriano, Yushiro Fujii, Shunichi Koshimura, Erick Mas, Angel Ruiz-Angulo, Miguel Estrada	共著	国外
8	英語	Level Set法とPLIC-VOF法のカップリングによる格子ボルツマン法の3次元自由表面流れモデルの構築	学術雑誌	有	いいえ	日本計算工学会論文集	2018	2			20180100	佐藤兼太, 越村俊一	共著	なし
9	英語	A Framework of Rapid Regional Tsunami Damage Recognition from Post-event TerraSAR-X Imagery Using Deep Neural Networks	学術雑誌	有	いいえ	IEEE Geoscience and Remote Sensing Letters	15	1	43	47	20180100	Yanbing Bai, Chang Gao, Sameer Singh, Magaly Koch, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	共著	国外
10	英語	Novel Unsupervised Classification of Collapsed Buildings Using Satellite Imagery, Hazard Scenarios and Fragility Functions	学術雑誌	有	いいえ	Remote Sensing	10	2	296		20180100	Luis Moya, Luis R. Marval-Perez, Erick Mas, Bruno Adriano, Shunichi Koshimura, Fumio Yamazaki	共著	両方
11	英語	Tsunami source and inundation features around Sendai Coast, Japan due to the November 22, 2016 Mw 6.9 Fukushima earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Geoscience Letters	5	2			20180100	Bruno Adriano, Yushiro Fujii, Shunichi Koshimura	共著	国内
12	英語	Port-resolving, tsunami, and tidal simulations to locate "tsunami vortices" for safe vessel evacuation planning	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Modeling, Simulation, and Scientific Computing					20180200	Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura, Ei-ichi Kobayashi	共著	国内
13	日本語	PLIC-VOF法を用いた格子ボルツマン法による3次元自由表面流れシミュレーション手法の開発	学術雑誌	有	いいえ	土木学会水工学論文集					20180300	佐藤兼太, 越村俊一	共著	国内
14	英語	Hybrid System for Generating Data on Human Flow in a Tsunami Disaster	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	347	357	20180300	Takehiro Kashiya, Yoshihide Sekimoto, Masao Kuwahara, Takuma Mitani, Shunichi Koshimura	共著	国内
15	英語	Identifying Building Damage Patterns in the 2016 Meinong, Taiwan Earthquake Using Post-Event Dual-Polarimetric ALOS-2/PALSAR-2 Imagery	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	291	302	20180300	Yanbing Bai, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	共著	なし
16	英語	A Real-Time Tsunami Inundation Forecast System Using Vector Supercomputer SX-ACE	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	234	244	20180300	Akihiro Musa, Takashi Abe, Takuya Inoue, Hiroaki Hokari, Yoichi Murashima, Yoshiyuki Kido, Susumu Date, Shinji Shimojo, Shunichi Koshimura, Hiroaki Kobayashi	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	1	編集	0	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	英語	Journal of Disaster Research, Special Issue on Disaster and Big Data Part 3	編集本 (Editor)	20180301	Shunichi Koshimura, as a guest editor	編集	Fuji Technology Press	両方

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	リモートセンシングによる津波の広域被害把握	有	はい	日本地震工学会誌	33	26	29	20180200	越村俊一	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	4	その他の連名	8	合計	13
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	EGU General Assembly 2017		筆頭連名	いいえ	Austria	Vienna	Vienna	20170427	ポスター(一般)	Enhancing Earth Observation and Modeling for Tsunami Disaster Response and Management	Shunichi Koshimura and Joachim Post	国外
2	国際	International Symposium on Remote Sensing 2017		その他の連名	いいえ	名古屋大学	名古屋	日本	20170517	口頭(一般)	Building damage mapping using change detection of ALOS-2 PALSAR-2 SAR images and strong motion data	Luis Moya, Erick Mas, Bruno Adriano, Shunichi Koshimura, Fumio Yamazaki	国内
3	国際	International Symposium on Remote Sensing 2017		その他の連名	いいえ	名古屋大学	名古屋	日本	20170517	口頭(一般)	Damage mapping of built-up area using full polarimetric PALSAR-2 images following the 2016 Pedernales Earthquake, Ecuador	Bruno Adriano, Shunichi Koshimura, Miguel Estrada	国外
4	国際	The Japan Geoscience Union and the American Geoscience Union Joint Meeting		その他の連名	いいえ	幕張メッセ	幕張	日本	20170520	口頭(一般)	Tsunami source of the Mw7 2016 Fukushima Earthquake inferred from tide gauge and GPS buoy records	Bruno Adriano, Takashi Furuya, Erick Mas, Shunichi Koshimura	なし
5	国際	The Japan Geoscience Union and the American Geoscience Union Joint Meeting		その他の連名	いいえ	幕張メッセ	幕張	日本	20170520	ポスター(一般)	Transportation of sediment and heavy metal resuspended by a giant tsunami based on three dimensional, tsunami, ocean, and particle tracking coupled simulations	Satoshi Nakada, Mitsuru Hayashi, Shunichi Koshimura	国内
6	国際	The 15th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management		その他の連名	いいえ	Univ. of South Australia	Adelaide	Australia	20170711	口頭(一般)	Integrated Modelling of Disaster Damage and Relief Demand Estimation in Urban Areas	Erick Mas, Rubel Das, Luis Moya, Bruno Adriano, Luisa Urta, Shunichi Koshimura	国外



7	国内	計算工学講演会		その他の 連名	いいえ	埼玉大学	さいたま市	日本	20170602	口頭(一般)	PLIC-VOF法を用いた格子ボルツマン法による自由表面流れ解析手法の開発	佐藤兼太, 越村俊一	国内
8	国際	IEEE Oceans' 17		筆頭連名	いいえ	Aberdeen Exhibition and Conference Centre	Aberdeen	Scotland	20170621	口頭(一般)	Advances of Tsunami Inundation Forecasting and its Future Perspectives	Shunichi Koshimura, Ryota Hino, Yusaku Ohta, Hiroaki Kobayashi, Yoichi Murashima, Akihiro Musa	国内
9	国際	GNSS Tsunami Early Warning System Workshop		筆頭連名	はい	Westin Hotel Sendai	仙台	日本	20170725	口頭(Keynote)	Rapid tsunami inundation and damage forecasting with precise tsunami source model with GNSS data	Shunichi Koshimura, Ryota Hino, Yusaku Ohta, Hiroaki Kobayashi, Yoichi Murashima, Akihiro Musa	国内
10	国際	IAG-IASPEI 2017		その他の 連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸	日本	20170730	口頭(一般)	Developing a rapid tsunami response system: Application to South America regions	Bruno Adriano and Shunichi Koshimura	国外
11	国際	IAG-IASPEI 2017		その他の 連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸	日本	20170730	口頭(一般)	Tsunami source of the 1979 Tumaco Earthquake estimated from historical tide gauge records and geodetic data	Bruno Adriano, Yushiro Fujii, Masahiro Yoshimoto, and Shunichi Koshimura	国内
12	国際	International Tsunami Symposium		その他の 連名	いいえ	Sheraton Kuta, Bali	Bali	Indonesia	20170821	ポスター(一般)	Real-time determination of tsunami scenarios and application to the 22nd November 2016 Fukushima Earthquake	Takashi Furuya, Shunichi Koshimura, Ryota Hino, Yusaku Ohta and Takuya Inoue	国内
13	国際	International Tsunami Symposium		その他の 連名	いいえ	Sheraton Kuta, Bali	Bali	Indonesia	20170821	ポスター(一般)	Optimization of a tsunami inundation model with the polygonally nested grid system and MPI-parallelization	Takuya Inoue, Takashi Abe, Shunichi Koshimura, Akihiro Musa, Yoichi Murashima and Hiroaki Kobayashi	国内
14	国際	International Tsunami Symposium		筆頭連名	いいえ	Sheraton Kuta, Bali	Bali	Indonesia	20170822	口頭(一般)	Rapid Tsunami Inundation and Damage Estimation with High-Performance Computing and Networking	Shunichi Koshimura, Yoichi Murashima, Ryota Hino, Yusaku Ohta, Hiroaki Kobayashi, Masaaki Kachi and Yoshihiko Sato	国内
15	国際	International Tsunami Symposium		その他の 連名	いいえ	Sheraton Kuta, Bali	Bali	Indonesia	20170822	口頭(一般)	A Three-Dimensional Free Surface Flow Modeling by the Lattice Boltzmann Method with PLIC-VOF Model	Kenta Sato, Shunichi Koshimura	なし
16	国内	海岸工学講演会		その他の 連名	いいえ	TKP札幌	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	PLIC-VOF法を用いた格子ボルツマン法の津波数値解析に向けた基礎検証	佐藤兼太, 越村俊一	なし
17	国内	海岸工学講演会		その他の 連名	いいえ	TKP札幌	札幌	日本	20171027	口頭(一般)	多角形領域接続・MPI並列津波解析モデルの複数解像度における全国津波解析への適用性検討	井上拓也, 阿部孝志, 越村俊一, 推佐昭裕, 村嶋陽一, 小林広明	国内
18	国際	IOC/UNESCO SYMPOSIUM Advances in Tsunami Warning to Enhance Community Responses		単名	いいえ	UNESCO	Paris	France	20180212	ポスター(一般)	Tsunami Inundation and Damage Forecasting with High-Performance Computing Infrastructure	Shunichi Koshimura	両方

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 : 1 件

種別	国内/国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1 特許	国内	津波浸水予測システム、制御装置、津波浸水予測の提供方法及びプログラム	越村俊一	特許第6161130号	20150513		20170623	学内共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 3 件

	国内/国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち内職人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	UC Davis, Tohoku Univ., GGOS, APRU, NASA	2017 GNSS Tsunami Early Warning System Workshop	20170725	20170727	Westin Hotel	仙台	日本	Organizing Committee	60 (50)	IRIDeS主催・共同主催	UC Davis, Tohoku Univ., GGOS, APRU, NASA	国外	研究会・ワークショップ
2	国際	World Bosai Forum	Global Partnership on Space Technology Application for Disaster Reduction (GP-STAR)	20171128	20171128	仙台国際センター	仙台	日本	Session Chair	40 (20)	IRIDeS主催・共同主催	UN-SPIDER	国外	その他
3	国際	World Bosai Forum	New Perspective towards Enhancing Capability of Assessing Tsunami Damage	20171127	20171127	仙台国際センター	仙台	日本	Session Chair	60 (20)	IRIDeS主催・共同主催		国内	その他

C. 教育活動

教育活動の概要 (200字以内)

東日本大震災の教訓を踏まえ、学生と協働するという意識の元、広域被害把握技術の枠組みを構築した。学生には、研究成果の発信の重要性を伝え、国内外での積極的な発表を心がけるよう指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	全学		1	1セメ	3
2	基礎ゼミ(災害の科学)	東北大学	全学		1	2セメ	2
3	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4	沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	7
5	防災システム論	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		後期	7
6	流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		後期	7
7	リーディング大学院(C-Lab研修)	東北大学	大学院工学研究科			前期	2

D. 社会活動  
社会活動の概要 (200字以内)

災害科学国際研究所の理念に則り、被災地の復興への貢献と東日本大震災の教訓の発信、新しい減災研究のパラダイムを創成するという目標のもと、社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	海岸・津波防災地域づくり研修	招待講演	20170602	20170602	津波と高潮	なし	国土交通省	国土交通大学 校	東京都	日本	30
2	講演会・セミナー	震災対策技術展東北	招待講演	20170803	20170804	津波浸水被害予測技術の展望	企業		仙台アエル	仙台市	日本	100
3	講演会・セミナー	スパコンセミナー	招待講演	20171122	20171122	リアルタイム津波浸水被害シミュレーション	企業	スーパーコン ピューティング 技術産業応用 協議会	機械振興会館	東京都	日本	80
4	その他	Sentinel Asia Tsunami Working Group Seminar	招待講演	20180122	20170122	Tsunami Modeling and Inundation Simulation	なし	Sentinel Asia		台北	台湾	20
5	その他	国際地震工学センター研修	講義	20180314	20180314	津波ハザード評価ー津波・浸水予測ー		建築研究所国 際地震工学セン ター	建築研究所	茨城県	日本	3

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	委員	20130000
2	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	委員	20110000
3	民間・NPO	東北電力	津波評価に関する技術検討会	委員	20130000
4	地方自治体	宮城県	津波検討委員会	委員	20130000
5	国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	20130000
6	国・政府	文部科学省	国立研究開発法人防災科学技術研究所部会	委員	20150000
7	国・政府	気象庁	津波予測技術勉強会	委員	20090000
8	国・政府	国土交通省	海岸技術懇談会	委員	20080000
9	地方自治体	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	委員	20140000
10	地方自治体	福島県	技術検討会	委員	20140000
11	地方自治体	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	委員	20140000
12	民間・NPO	特定非営利活動法人・大規模災害対策研究機構		理事	20060000

マス サマネス エリック アルトゥロ 准教授

Erick Arturo MAS SAMANEZ

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	国立工科大学(ベルー)	土木工学部	2004	12	東北大学大学院	工学研究科土木工学専攻	2012	9	博士	2012	9

職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	6	2007	4	カヤオ県庁(ベルー国)	津波防災公務員
2	2007	4	2008	4	カヤオ県庁(ベルー国)	災害防災研修コース担当者
3	2007	9	2009	3	ラ・ブンタ市役所(ベルー国)	市長の災害防災アドバイザー
4	2008	4	2009	3	カヤオ県庁(ベルー国)	津波防災公務員
5	2009	10	2012	9	東北大学(日本国)	大学院生(博士)
6	2012	10	2016	5	東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	助教
7	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	准教授

学会活動

所属学会

No.	学会名 1	2	3	4	5
	Council of Engineering of Peru (CIP)	日本地球惑星科学連合 (JpGU)	American Geophysical Union (AGU)	土木学会 (JSCE)	Institute for Systems and Technologies of Information, Control and Communication (INSTICC)

学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会・海岸工学委員会	津波小委員会	会員	20150700

研究分野・キーワード

No.	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	災害リスク管理	地理情報システム	エージェントベース

B. 研究活動

研究活動の概要

今年度では当方の主な活動について報告いたします。(1) 国際共同研究、SATREPS コロンビアとメキシコプロジェクトにより国外連携の活動をした。(2) 共同受託研究でイスラエル国と共に都市レジリエンスシミュレーション技術を開発し、(3) 災害医療との連携によりエージェントベース技術を用いて災害救護対応システムを研究した。(4) また、多数の外国人来客に被災地をご案内をした。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		[協力者] JST-JICA-SATREPS Colombia: コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発	国外
2	2014	4	現在		[協力者] CREST: 大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出	国内
3	2015	6	現在		[協力者] JST-JICA-SATREPS Mexico: メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究	国外
4	2015	12	現在		[代表者] Increasing Urban Resilience to Large Scale Disasters: The Development of a Dynamic Integrated Model for Disaster Management and Socio-Economic Analysis (DIM2SEA)	国外
5	2017	9	現在		[分担者] 理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5	
うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0

No.	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Machine learning based building damage mapping from the ALOS-2/PALSAR-2 SAR imagery: Case study of 2016 Kumamoto earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	12	sp	646	655	20170630	Bai, Y., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.	共著	なし
2	英語	Building Damage Assessment in the 2015 Gorkha, Nepal, Earthquake Using Only Post-Event Dual Polarization Synthetic Aperture Radar Imagery	学術雑誌	有	いいえ	Earthquake Spectra	13	S1	S185	S195	20171200	Bai, Y., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.	共著	なし
3	英語	A Framework of Rapid Regional Tsunami Damage Recognition From Post-event TerraSAR-X Imagery Using Deep Neural Networks	学術雑誌	有	いいえ	IEEE Geoscience and Remote Sensing Letters	1		1	5	20171204	Bai, Y., Gao, C., Singh, S., Koch, M., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.	共著	国外
4	英語	Tsunami Source Inversion Using Tide Gauge and DART Tsunami Waveforms of the 2017 Mw8.2 Mexico Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Pure and Applied Geophysics (PAGEOPH)	175	1	35	48	20171216	Adriano, B., Y. Fujii, S. Koshimura, E. Mas, A. Ruiz-Angulo, M. Estrada	共著	両方
5	英語	Novel Unsupervised Classification of Collapsed Buildings Using Satellite Imagery, Hazard Scenarios and Fragility Functions	学術雑誌	有	いいえ	Remote Sensing	10	296	1	16	20180214	Moya, L.; Marval Perez, L.R.; Mas, E.; Adriano, B.; Koshimura, S.; Yamazaki, F.	共著	両方

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2
うち	国際	1	国内	1					

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	英語	The Coastal Environment and the Reconstruction Process After the Great East Japan Earthquake: A Few Notes. In V. Santiago-Fandiño, S. Sato, N. Maki, & K. Iuchi (Eds.), The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration: Insights and Assessment after 5 Years (pp. 291–338)	編集本 (Author)	20170713	Santiago-Fandiño, V., Mas, E.	共著	Springer International Publishing	国外	
2	英語	Evaluation of tsunami fragility curves for building damage level allocation	編集本 (Author)		Moya, L., Mas, E., and Koshimura, S.	共著	Research Report of Tsunami Engineering, Vol. 34, 33-41.	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者合)	区分	所外連携
1	英語	Integrated Modeling of Disaster Damage and Relief Demand Estimation in Urban Areas	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Proceedings of the 15th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management					Mas, E., Das, R., Moya, L., Adriano, B., Urta, L., & Koshimura, S.	筆頭共著	国内
2	英語	Building damage mapping using change detection of ALOS-2 PALSAR-2 SAR images and strong motion data	国際会議 Proceedings	有	いいえ	International Symposium on Remote Sensing, ISRS2017		281	284		Moya, L., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S., & Yamazaki, F.	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	8	合計	12
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	International Symposium on Remote Sensing, ISRS2017		その他の連名	いいえ	名古屋大学	名古屋	日本	20170517	口頭(一般)	Building damage mapping using change detection of ALOS-2 PALSAR-2 SAR images and strong motion data	Moya, L., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S., & Yamazaki, F.	国内	
2	国際	Japan Geoscience Union and the American Geoscience Union Joint Meeting		その他の連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170520	口頭(一般)	Tsunami source of the Mw7 2016 Fukushima Earthquake inferred from tide gauge and GPU buoy records	Bruno Adriano, Takashi Furuya, Erick Mas, and Shunichi Koshimura	なし	
3	国際	The 3rd Disaster Experts Conference on applications of Geospatial Information Science in DRR & Status Review for SFDRR Indicators in Asian Countries		単名	いいえ	Yonsei University	Seoul	Korea	20170526	口頭(Plenary)	Remote Sensing and Geoinformatics for Disaster Risk Reduction in Japan	Erick Mas	なし	
4	国際	15th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management (CUPUM)		筆頭連名	いいえ	University of South Australia	Adelaide	Australia	20170711	口頭(一般)	Integrated Modeling of Disaster Damage and Relief Demand Estimation in Urban Areas	Mas, E., Das, R., Moya, L., Adriano, B., Urta, L., & Koshimura, S.	国内	
5	国際	3rd Annual Meeting of Society of Disaster Medicine and Public Health		その他の連名	いいえ	Newport News	Virginia	U.S.	20170927	ポスター(一般)	System dynamics simulation of the medical needs in a town after Great East Japan Earthquake	Egawa, S., Suda, T., Jones-Konneh B.P., T. C., Mas, E., Okumura, M., & Sasaki, H.	両方	
6	国際	Encuentro de Ciencia y Tecnologia UNI 2017		その他の連名	いいえ	UNI	UNI	Peru	20171102	口頭(Keynote)	Modelo dinámico integrado para la administración de desastres y análisis socio-económico	Moya, L. and E. Mas	なし	
7	国際	New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia		その他の連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20171126	口頭(一般)	Debris extent assessment from Lidar data	Moya, L., Mas, E., Yamazaki, F., Liu, W., & Koshimura, S.	国内	
8	国際	New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia		その他の連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20171126	口頭(一般)	An agent based simulation of tsunami evacuation for disaster management: A case study of Khao Lak in Thailand	Trumikaborworn, N., Warnitchai, P., Mas, E., & Suppasri, A.	両方	
9	国際	World Bosai Forum		筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171126	口頭(一般)	The DIM 2 SEA Project - Japan-Israel collaboration on research for urban resilience simulation	Mas, E. and Felsenstein, D.	国外	
10	国際	World Bosai Forum		筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171126	ポスター(一般)	Dynamic Integrated Model for Disaster Management and Socio- Economic Analysis ( DIM2SEA ) - A Japan-Israel Project	Mas, E. and Felsenstein, D.	国外	
11	国内	20th Environmental Remote Sensing Symposium		その他の連名	いいえ	千葉大学	千葉	日本	20171126	口頭(一般)	A new unsupervised classification of collapsed buildings using TerraSAR-X imagery, hazard distribution and fragility functions	Moya, F. Yamazaki, W. Liu, E. Mas	国内	
12	国内	第7回巨大津波災害に関する合同研究会		その他の連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20171208	口頭(一般)	Building damage mapping using tsunami fragility functions and satellite images	Moya, L. Mas, E., Koshimura, S.	なし	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 1件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(のほろぼろ)	IRIDESの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	GRF, JST, Sendai City, Tohoku University, IRIDeS	World Bosai Forum	20171126	20171128	仙台国際センター	仙台	日本	Organizing Committee member	900	IRIDES主催・共同主催	Sendai city	両方	その他

C. 教育活動

教育活動の概要

本研究室では4年生の卒論テーマに当たって指導していました。そこで、エージェントベース技術を用いて災害医療救護活動について研究を行なった。また、津波予測システムを向上ためデータベース技術について研究した。さらに、建物被害推定の向けにリモートセンシング技術により機械学習について研究を行なった。学生指導以外には学部授業を担当しておりました。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	自然災害特論	東北大学	全学	グローバル安全学		2セメ	
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	International Lecture on Global Disaster Mitigation I	東北大学	工学部研究科	リーディング大学院		前期	1
5	実践的防災学 II	東北大学	工学部研究科	リーディング大学院		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度、当方の社会活動について以下のようです：(1) 国際連携として南米の国に講演を行なった。(ペルー、チリ、メキシコ、コロンビア) (2) さらに、アジア防災センターと青年海外協力協会の協力で外国の来客に東日本大震災の教訓について講義と被災地案内をした。(3) 韓国のYonsei大学と新しいネットワークを構築し、招待講演をさせていただいた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	I Expoferia de Innovacion Tecnologica de la UNI 2017 "Innovando el futuro"	招待講演	20171010	20171012	Evaluacion de riesgo de tsunami y evacuacion en La Punta, Callao	なし	Universidad Nacional de Ingenieria	Centro de Convenciones de Lima	Lima	Peru	300

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	アジア防災センター	貴子 遼野井 (ADRC, Tokyo, Japan)	20180112	講演	仙台市・東北大学災害国際科学研究所	仙台市	講演・発表	20
2	公益社団法人 青年海外協力協会 東北支部	梶 英次 (JOCA)	20171115	講演	仙台市・東北大学災害国際科学研究所	仙台市	講演・発表	15
3	Universidad Nacional de Ingenieria	Dr. Walter Estrada	20171010	講演	Universidad Nacional de Ingenieria	Lima, Peru	講演・発表	300
4	Yonsei University	Prof. Sohn Lee	20170525	講演	Yonsei University	Seoul, Korea	講演・発表	30

五十子 幸樹 教授

Kohju IKAGO

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1990	3	京都大学大学院	工学研究科	2005	9	博士(工学)	2005	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1992	4	2004	12	(株)日建設計	構造設計部員
2	2005	1	2008	5	(株)日建設計	構造設計主管
3	2008	6	2013	1	東北大学大学院 工学研究科	准教授
4	2013	2	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	日本建築学会	日本地震工学会	米国土木学会 (ASCE)

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	建築物の構造振動制御情報小委員会	委員	20080600
2	日本建築学会		代議員	20160400

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	最適設計	免震構造	制振構造	耐震構造	構造制御

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部	カリキュラム委員会(都市・建築学専攻)	委員	20140401
2	工学部	学生相談委員会	委員	20160401
3	工学部	設計教育委員会	委員	20160401
4	工学部	将来計画タスクフォース	委員	20160401
5	工学部	工学分館運営委員会	委員	20170401

B. 研究活動

研究活動の概要

主として免震構造を対象に、新しい振動制御要素としてダイナミック・マス(増幅された見かけ質量要素)と、粘性要素、支持バネ要素の最適な特性値の組み合わせを探索する手法を、多目的最適化問題の定式化と実数変数多目的遺伝アルゴリズムの開発により実現した。また、振動制御装置の大規模実験のためのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化へ向けた検討を行った。これら研究は今後の発展性が期待できる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	6	現在		同調粘性マスダンパー制振システムの開発	国内
2	2010	4	現在		回転慣性質量ダンパーを用いた免震制御技術の開発	国内
3	2013	4	現在		高層建築物の地震時下層部変形集中現象の解明と制御技術の開発	国内
4	2014	4	現在		多目的遺伝アルゴリズムによる免震制御デバイスの創生	国内
5	2013	12	現在		振動制御デバイスのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化	国外
6	2014	4	現在		力学変分原理の逆問題定式化と構造最適化	なし

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Causal Realization of Rate-Independent Linear Damping for the Protection of Low-Frequency Structures	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Engineering Mechanics					201704	Ashkan Keivan, Brian M. Phillips, Masahiro Ikenaga, Kohju Ikago	共著	国外
2	英語	Structural control with tuned inertial mass electromagnetic transducers	学術雑誌	有	いいえ	Structural Control and Health Monitoring					201707	Asai, Takehiko Araki, Yoshikazu Ikago, Kohju	共著	国内
3	日本語	同調粘性マスダンパー制振システムの特性変動を検討する実験環境の構築	学術雑誌	有	いいえ	日本建築学会技術報告集	23	55	815	820	201710	谷口洵, 池永昌容, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	5	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチャエ	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
1	国際	The 13th International Workshop on Advanced Smart Materials and Smart Structures Technology	Prof. Genda Chen		筆頭連名	いいえ	東京大学	東京	日本	20170723	口頭(一般)	Ral-Time Hybrid Simulation on a Tuned Viscous Mass Damper Incorporated into a Single-Degree-Of-Freedom Structure	Kohju Ikago, Shun Taniguchi, Masahiro Ikenaga, Shigeki Nakaminami, Norio Inoue	国内	

2	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	山下忠道, 寺本彩乃	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170831	口頭(一般)	軸力制限機構付き粘性マスダンパー免震システムの多目的最適設計と設計解感度解析	南達太, 五十子幸樹	国内	9000
3	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	山下忠道, 寺本彩乃	筆頭連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170831	口頭(一般)	Multi-objective optimal design of a base-isolated structure equipped with a series-configured inerter-spring-damper system Part 1. Analytical model and frequency domain analysis of series-configured inerter-spring-damper system	五十子幸樹, 日向野彌, 莊初立, Brian PHILLIPS	国内	9000
4	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	山下忠道, 寺本彩乃	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170831	口頭(一般)	因果的デジタルフィルタ制御を用いたMRダンパーによる免震建物の地震時応答変位制御 その2 応答周期適応型制御フィルタの有効性の検討	黒澤祐, 佐々木裕一, 谷口洵, 五十子幸樹, 池永昌容, 菅野秀人	国内	9000
5	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	木田英範, 畑中友	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170901	口頭(一般)	集中配置型同調粘性マスダンパー制振システムのモード変化	浜名尚美, 池永昌容, 五十子幸樹	国内	9000
6	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	木田英範, 畑中友	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170901	口頭(一般)	同調粘性マスダンパー制振システムの特性変動が制振性能に及ぼす影響 その1 研究背景とリアルタイムハイブリッドシミュレーション実験概要	池永昌容, 谷口洵, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫	国内	9000
7	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	木田英範, 畑中友	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170901	口頭(一般)	同調粘性マスダンパー制振システムの特性変動が制振性能に及ぼす影響 その2 リアルタイムハイブリッドシミュレーション実験結果	谷口洵, 池永昌容, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫	国内	9000
8	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	池永昌容, 丸尾純也	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170901	口頭(一般)	液圧で駆動する前車モータを利用した回転慣性質量ダンパーの開発 その1. 提案装置の概要	木田英範, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫	国外	9000
9	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	池永昌容, 丸尾純也	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170901	口頭(一般)	液圧で駆動する前車モータを利用した回転慣性質量ダンパーの開発 その2. 正弦波加振実験による検証	中南滋樹, 木田英範, 五十子幸樹, 井上範夫	国外	9000
10	国内	2017年度日本建築学会大会(中国)	磯部大吾郎, 谷口亮	その他の連名	いいえ	広島工業大学	広島	日本	20170902	口頭(一般)	極大地震動時の超高層鋼構造建物の応答に関する検討 その1 下層部変形集中現象の発生メカニズムと減衰の影響	前田周作, 松本一帆, 菊地慶貴, 五十子幸樹, 池永昌容	国外	9000
11	国際	The 7th International Conference on Advances in Experimental Structural Engineering	Dr. Marco Furinghetti	その他の連名	いいえ	EUCENTRE Foundation	Pavia	Italy	20170906	口頭(一般)	Dynamic testing of a Full-scale Hydraulic Inerter-Damper for the Seismic Protection of Civil Structures	Shigeki Nakaminami, Hidenori Kida, Kohju Ikago, Norio Inoue	国内	
12	国際	The 7th International Conference on Advances in Experimental Structural Engineering	Prof. Oreste Bursi	筆頭連名	いいえ	EUCENTRE Foundation	Pavia	Italy	20170907	口頭(一般)	An Experimental Study on the Robustness of a Tuned Viscous Mass Damper System Incorporated into a Single-Degree-Of-Freedom Structure	Kohju Ikago, Shun Taniguchi, Masahiro Ikenaga, Shigeki Nakaminami, Norio Inoue, Kenji Saito	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

全学, 工学部, 大学院工学研究科, リーディング大学院の講義を担当した他, 工学部の卒業研修生, 工学研究科博士前期課程および後期課程学生を指導した。災害科学国際研究所提供の科目としては全学教育科目である「災害と科学」, 工学部専門教育科目としては、「創造工学研究」, 「都市・建築エンジニアリング」, 「建築・社会環境工学演習E」, 「建築設計A1」, 「建築設計D」を博士課程では前期課程の「最適減衰技術学」を後期課程では「災害制御特論」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部・研究科名	学科・専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	5
2 都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	3
3 建築設計A1	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	4セメ	15
4 最適減衰技術学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
5 実践防災学V	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	2
6 建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	2
7 基礎ゼミ	東北大学			1	1セメ	14
8 災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

社会貢献活動としては, 宮城県および福島県の耐震診断判定委員会および耐震改修計画評価委員会の委員として, 各界の既存不適格建築物の耐震化促進に貢献している。新築建築物については, 宮城県土木部および福島県建築安全機構の構造計算適合性判定委員として, 構造計算の法令適合性の判定作業を行った。特に, 福島県では震災復興に関連して免震構造で設計された原子力災害対策センターの構造計算適合性の判定を実施した。その他, 独立行政法人建築研究所国際地震工学センターで制震構造の国際地震工学セミナー講義を実施した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	日建設計構造工学フォーラム	講師	20170609	20170609	最適化とAI	なし	株式会社日建設計	日建設計	東京	日本
2	講演会・セミナー	構造設計一級建築士定期講習	講師	20170615	20170615	第2章 構造設計に関する重要事項	なし	公益財団法人建築技術教育普及センター	宮城県建築産業会館	仙台市	日本
3	講演会・セミナー	技術セミナー「基礎から学べる構造設計シリーズ S造編」	講師	20170920	20170920	鋼材・鋼構造の特徴と荷重・応力、鋼構造部材の性状と設計法	なし	一般財団法人日本建築センター	エッセム神田ホール2号館	東京	日本

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO 建築技術教育普及センター	構造部会	委員	20090000
2	民間・NPO 福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	20080000
3	民間・NPO 独立行政法人日本学術振興会	特別研究等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員	委員	20150000
4	民間・NPO 一般社団法人福島県建築安全機構	構造計算適合性判定評価委員会及び技術監視委員会	委員	20160401

後藤 和久 准教授

Kazuhisa GOTO

災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1999	3	東京大学大学院	理学系研究科	2004	3	博士(理学)	2004	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	6	東北大学	研究拠点形成特任研究員
2	2005	7	2010	3	東北大学 大学院工学研究科	助教/助手
3	2010	4	2012	8	千葉工業大学 惑星探査研究センター	上席研究員
4	2012	9			現職	

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5
日本地質学会	日本堆積学会	地球惑星科学連合	American Geophysical Union	Asia Oceania Geosciences Society

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	原子力土木委員会津波評価部会	委員	20120000
2	地球惑星科学連合	地球人間圏科学ボード	委員	20120000

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
低頻度災害	津波堆積物	巨大地震	天体衝突

B. 研究活動

研究活動の概要 (200~300字)

東日本(関東~北海道)までの各地を対象として、波源推定に有効な場所の選定を数値計算を行って取り込み、さらに地中レーダー等を活用して掘削地点を選定して現地調査を実施した。また、スリランカにおいて古地形・古津波調査を実施し、過去の津波履歴に関する研究を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	3	現在		2011年東北地方太平洋沖地震津波の地質学的研究	国内
2	2014	4	現在		島嶼部における津波堆積物調査と波源推定	両方
3	2014	4	現在		東日本太平洋岸における古津波調査	国内
4	2016	6	現在		白亜紀末の天体衝突クレーターへの掘削試料を用いた堆積学的研究	両方
5	2017	4	現在		スリランカにおける古津波調査	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	11	合計	11	うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Factors responsible for the limited inland extent of sand deposits on Leyte Island during 2013 Typhoon Haiyan	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Geophysical Research -Oceans	122		2795	2812	20170400	Watanabe, M., Bricker, J. D., Goto, K., Imamura, F.	共著	なし
英語	Sequential radiocarbon measurement of bulk peat for high-precision dating of tsunami deposits	学術雑誌	有	いいえ	Quaternary Geochronology	41		202	210	20170800	Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Sawada, C., Nishimura, Y., Sugawara, D.	共著	国内
英語	Source model of the 1703 Genroku Kanto earthquake tsunami based on historical documents and numerical simulations: Modeling of an offshore fault along the Sagami Trough	学術雑誌	有	いいえ	Earth, Planets and Space	69	1	136		20171000	Yanagisawa, H., Goto, K.	共著	国内
英語	Quantifying the release of climate-active gases by large meteorite impacts with a case study of Chicxulub	学術雑誌	有	いいえ	Geophysical Research Letters	44		10180	10188	20171000	Artemieva, N., Morgan, J. and the Expedition 364 Science Party (including Goto, K.)	共著	両方
英語	Reducing the age range of tsunami deposits by 14C dating of rip-up clasts	学術雑誌	有	いいえ	Sedimentary Geology	364		334	341	20180200	Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Sawada, C., Takada, K.	共著	国内
英語	Geological evidence and sediment transport modelling for the 1946 and 1960 tsunamis in Shimnachi, Hilo, Hawaii	学術雑誌	有	いいえ	Sedimentary Geology	364		319	333	20180200	Chague, C., Sugawara, D., Goto, K., Goff, J., Dudley, W., Gadd, P.	共著	両方
英語	Are inundation limit and maximum extent of sand useful for differentiating tsunamis and storms? An example from sediment transport simulations on the Sendai Plain, Japan	学術雑誌	有	いいえ	Sedimentary Geology	364		204	216	20180200	Watanabe, M., Goto, K., Bricker, J. D., Imamura, F.	共著	国外
英語	Paleotsunami history along northern Japan Trench: Evidence from Noda Village, northern Sanriku coast, Japan	学術雑誌	有	いいえ	Progress in Earth and Planetary Science	4		42		20171200	Inoue, T., Goto, K., Nishimura, Y., Watanabe, M., Iijima, Y., Sugawara, D.	共著	国内



9	英語	Could tsunami risk be under-estimated using core-based reconstructions? Lessons from Ground Penetrating Radar	学術雑誌	有	いいえ	Earth Surface Processes and Landforms	43		808	816	20180300	Takeda, H., Goto, K., Goff, J., Matsumoto, H., Sugawara, D.	共著	両方
10	日本語	仙台平野南部沖における津波による沿岸侵食と沖向き土砂移動	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1-823	1-828	20171000	吉河秀郎, 後藤和久, 菅原大助, 金松敏也, 阪口秀	共著	国内
11	英語	Restoration measures after the 2011 Tohoku-oki Tsunami and their impact on tsunami research	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Advances in Natural and Technological Hazards Research	47		229	247	20180000	Chague-Goff, C., Goto, K., Sugawara, D., Nishimura, Y., Komai, T.	共著	両方

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	琉球海溝沿いの古津波堆積物研究	有	いいえ	地質学雑誌	123	10	843	855	20171000	後藤和久	単著	なし
2	英語	Geological studies in tsunami research since the 2011 Tohoku earthquake	有	いいえ	Geological Society, London, Special Publications	456	1	39	53	20180000	Wallis, S., Fujiwara, O., Goto, K.	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	6	その他の連名	0	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	筆頭連名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170525	ポスター(一般)	Lessons learned from the recovery after the 2004 Indian Ocean tsunami in Sri Lanka	後藤和久, Nalin, R., 今村彦彦	国外	
2	国際	IGCP 630 meeting in Japan	単名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20170614	口頭(一般)	The 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami -6 years on	Goto, K.	なし	
3	国際	IGCP 630 meeting in Japan	筆頭連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20170615	口頭(Keynote)	Resurgence processes of the upper suevite in the IODP-ICDO Expedition 364 core from the Chicxulub impact crater	Goto, K., Whalen, M., Kring, D. A., Smit, J., Bralower, T. J., Ormo, J., Morgan, J. V., Gulick, S., Expedition 364 scientists	国外	
4	国際	Workshop on GPR measurement of active faults and tsunami sediments	筆頭連名	いいえ	日仏会館	東京	日本	20171004	口頭(一般)	GPR survey for paleotsunami research	Goto, K., Takeda, H., Goff, J., Matsumoto, H., Sugawara, D.	両方	
5	国際	CCOP-IUGS Task Group on Geohazards Joint Seminar	筆頭連名	いいえ	Waterfront Cebu City Hotel	セブ	フィリピン	20171018	口頭(一般)	Importance of Geologic Evidence to Keep Memories of Tsunami Disasters	Goto, K., Imamura, F.	なし	
6	国際	Geological Society of Sri Lanka	筆頭連名	いいえ	Grand Monarch	タラフ チューゴ ダ	スリランカ	20180223	口頭(一般)	Paleotsunami research along the coast of Sri Lanka	Goto, K., Haraguchi, T., Rathnayake, N. P.	両方	
7	国内	日本堆積学会2018年秋田大会	筆頭連名	いいえ	秋田大学	秋田	日本	20180326	口頭(一般)	IODP-ICD P第364次研究航海によるチュルブ・クレーター掘削の成果とクレーター内部堆積物の再堆積過程	後藤和久, 石澤亮史, 菅原大助, Morgan, J., Gulick, S., Expedition 364 scientists	両方	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(%)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
1	Université Clermont Auvergne, IRIDeS, IPGP	Sedimentary Signature of Tsunamis, Disaster Risk Reduction, French-Japanese Week	20171003	20171003	日仏会館	東京	日本	企画, 運営, 共同司会		IRIDeS主催・共同主催	Université Clermont Auvergne, IPGP	両方	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

本年度は、計10名の研究指導を行った。指導学生のうち、理学研究科地学専攻の修士学生1名、理学部地圏環境科学科の学部生2名が、それぞれ修士論文、卒業論文を提出した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター/学期	コマ数 90分/コマ
1 自然災害特論	東北大学	理学研究科・リーディング大学院	地学専攻		後期	7
2 応用堆積学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	3	5セメ	7
3 基礎ゼミ:東日本大震災を科学する	東北大学	全学		1	1セメ	1
4 災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
5 堆積学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	2	4セメ	4
6 Evolution of the Western Pacific Island Arcs and Their Environments	東北大学	理学部	IYPE		前期	1
7 地球システム科学	東北大学	工学部		1	2セメ	4
8 地球システム科学	東北大学	医・農学部		1	1セメ	3
9 地球システム科学	東北大学	理学部		1	1セメ	2
10 地球の科学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	1	1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

世界津波博物館会議等において、一般講演を実施した。また、文部科学省の地震調査委員会・津波評価部会の委員として、国の津波対策について検討を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	地域安全学会・石垣市公開シンポジウム	講演	20170611	20170611	琉球列島における低頻度巨大地震・津波のリスク	行政	地域安全学会・石垣市	石垣市商工会館	石垣市	日本	
2	講演会・セミナー	世界津波博物館会議	講演	20171105	20171105	津波石が伝える巨大津波の脅威	行政	外務省、国連国際防災戦略事務局、国際協力機構	アートホテル石垣島	石垣市	日本	70
3	講演会・セミナー	地質講演会(石灰石鉱業協会)	講演	20180125	20180125	海溝型巨大地震と津波の脅威―地質・歴史記録に学ぶ自然災害―	企業	石灰石鉱業協会	石灰石鉱業協会	東京	日本	
4	講演会・セミナー	シンポジウム『歴史が導く災害科学の新展開』	講演	20180210	20180210	地質記録にみる東北地方太平洋沿岸の津波履歴	なし	東北大学災害科学国際研究所, 人間文化研究機構	災害研	仙台	日本	

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	文部科学省	地震調査委員会・津波評価部会	委員	20130300
2 地方自治体	静岡県	防災・原子力学術会議	津波分科会委員	20110000

# 邑本 俊亮 教授

## Toshiaki MURAMOTO

人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	1984	3	北海道大学大学院	文学研究科	1992	3	博士(行動科学)	1996	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	6	1993	3	北星学園大学 文学部心理学研究室	非常勤助手
2	1993	4	1994	3	北海道大学 文学部	助手
3	1994	4	1996	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	講師
4	1996	4	2001	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	助教授
5	2001	4	2010	12	東北大学 大学院情報科学研究科	助教授(2007~准教授)
6	2011	1	2012	3	東北大学 大学院情報科学研究科	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本心理学会	日本教育心理学会	日本認知科学会	日本認知心理学会	日本基礎心理学会	日本読書学会	東北心理学会	北海道心理学会	日本公衆衛生学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本心理学会		代議員	20090701
2	日本心理学会	教育研究委員会	委員	20110914
3	日本心理学会	教育研究委員会 講演・出版等企画小委員会	委員	20110914
4	日本読書学会		理事・編集委員	20110401
5	日本基礎心理学会		理事	20141207

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
認知心理学	言語心理学	教育心理学	学習科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	情報科学研究科	入試委員会	委員	20130401
2	情報科学研究科	学術振興・広報委員会	委員	20160401
3	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター	大学教員準備プログラム(PFFP)・新任教員プログラム(NFP)	先達教員	20131000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

- 1) 東北大学全学教育科目「基礎ゼミ」および「展開ゼミ」において、被災地訪問による課題発見・解決型アクティブラーニングの授業実践に参画し、その教育効果を「生きる力」質問紙を利用して検証を行った。学生たちの「生きる力」に変化が見られた。
- 2) 震災語り部の「語り」を伝える方法(方法)と聞き手(または読み手)の心理的变化および語りの記憶を調べる心理実験を実施した。今後、データを詳細に分析・検討していく。
- 3) 心理学叢書「心理学の神話をめぐって: 信じる心と見抜く心」(誠信書房)を刊行した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1984	4	現在		人間の言語理解に関する認知心理学的研究	なし
2	1996	4	現在		文章からの学習に関する教育心理学的研究	なし
3	2003	4	現在		大学教育における授業づくりと授業運営に関する実践的研究	なし
4	2008	4	現在		災害時の人間の認知・判断・行動に関する研究	なし
5	2012	4	現在		災害体験談の認知科学的分析と防災教育への展開	なし

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	被災地大学における「復興」を題材にした科目の実践と事例分析 - 受講者の事後変化に着目して -	学術雑誌	有	いいえ	日本災害復興学会論文集		11	1	7	20170831	佐藤翔輔 杉浦元亮 邑本俊亮 今村文彦	共著	なし
英語	Assessment of Educational Methods for Improving Children's Awareness of Tsunamis and Other Natural Disasters: Focusing on Changes in Awareness and Regional Characteristics in Japan	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences		8	2	47	20180130	Yasuda, M., Muramoto, T., Nouchi, R.	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	1	編集	0	筆頭	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	心理学の神話をめぐって 一信じる心と見抜く心ー	編集本(Editor)	20171030	日本心理学会(監修), 邑本俊亮(編), 池田まさみ(編)	共編	誠信書房	国内	1000

学会発表

単名	1	筆頭	0	その他の	0	合計	1
----	---	----	---	------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	日本発達心理学会 第29回大会		単名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20180323	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	被災地訪問による課題発見解決型学習で学生はどう変わるか	邑本俊亮	国内	2000

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育では、心理学、言語表現の世界、科学と情報、災害の科学、基礎ゼミ、人間と文化(展開ゼミ)と、多様な科目を担当した。大学院教育では学習情報学と人文情報科学概論およびゼミナールを担当、他大学でも、心理言語学、コミュニケーション論など幅広い領域の教育を行っており、多くの科目においても積極的にアクティブラーニングを取り入れている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	9
2	人間と文化(展開ゼミ)	東北大学	全学		1	2セメ	9
3	科学と情報	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	言語表現の世界(水3)	東北大学	全学		1	2セメ	15
5	言語表現の世界(木2)	東北大学	全学		1	2セメ	15
6	心理学(第1クォーター)	東北大学	全学		2		15
7	心理学(第3クォーター)	東北大学	全学		2		15
8	人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	1
9	学習情報学	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻・応用情報科学専攻		後期	15
10	人間社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	60
11	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	保健福祉学科	1	前期	15
12	コミュニケーション論Ⅰ	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科・看護学科	1	前期	15
13	総合コースD(コミュニケーション)	宮城学院女子大学	全学部	全学科	2~4	後期	7
14	心理言語学	北星学園大学	文学部	心理・応用コミュニケーション学科	2~4	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

高校生や一般向けの心理学関連セミナー・シンポジウムの開催に尽力した。また、授業づくりやコミュニケーションの講演依頼を受け、社会教育を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	4 件
----	-----

国内	国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRiDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	日本心理学会	高校生のための心理学講座シリーズ(東北地区)	20170809	20170809	東北大学	仙台市	日本	企画・運営・司会	125	なし	講演会・セミナー	
2	国内	日本心理学会	高校生のための心理学講座シリーズ(北海道地区)	20170812	20170812	北海道大学	札幌市	日本	企画・運営・司会	47	なし	講演会・セミナー	
3	国内	日本心理学会	日本心理学会公開シンポジウム 科学としての心理学シリーズ「共感する心」を科学する	20171111	20171111	京都大学宇治キャンパス	宇治市	日本	企画・運営・司会	151	なし	シンポジウム	
4	国内	日本心理学会	日本心理学会公開シンポジウム 科学としての心理学シリーズ「共感する心」を科学する	20180303	20170303	東北大学	仙台市	日本	企画・運営・司会	197	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計	7 件
----	-----

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	第6回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170530	20170530	「伝える」と「伝わる」の心理学	なし	災害科学国際研究所「災害と健康」ユニット	東北大学医学部6号館1階カンファレンス室	仙台市	日本	30
2	講演会・セミナー	北海道大学高等教育研修センター セミナー	20170614	20170614	授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～	なし	北海道大学高等教育研修センター	北海道大学高等教育推進機構S講義棟S5講義室	札幌市	日本	50
3	小中高との連携	東北大学高度教養教育・学生支援機構と福島県立会津高等学校との教育連携に関する協定に基づく東北大学研修	20170722	20170722	ことばとコミュニケーションの心理学	小中高	東北大学	東北大学川内北キャンパス講義棟C棟105	仙台市	日本	20
4	講演会・セミナー	第20回桃太郎フォーラム	20170912	20170912	学生の学修意欲を高める授業づくりー認知心理学の観点からー	なし	岡山大学教育開発センター	岡山大学創立50周年記念館	岡山市	日本	200
5	講演会・セミナー	東北大学PDP 教育関係共同利用拠点提供プログラム 教授技術論:1-04	20170926	20170926	授業づくり:準備と運営	なし	東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター	東北大学川内北キャンパス教育・学生総合支援センター棟4階大会議室	仙台市	日本	50
6	講演会・セミナー	第69回東北大学祭模擬講義	20171103	20171103	言葉と心とコミュニケーション	なし	東北大学祭事務局	東北大学川内北キャンパス講義棟B棟203	仙台市	日本	25
7	公開講座	復興大学県民講座	20180127	20180127	講座番号②「災害と人間の心理」講座番号③「未来へ備える～私たち一人一人ができること～」	なし	学都仙台コンソーシアム	東北工業大学一番町ロビー	仙台市	日本	25

杉浦 元亮 教授  
Motoaki SUGIURA

人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1996	3	東北大学大学院	医学系研究科	2000	3	博士(医学)		

職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2001	4	東北大学 加齢医学研究所	リサーチアシソシエイト
2	2001	5	2001	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	リサーチアシソシエイト
3	2001	10	2002	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	助手
4	2002	9	2004	8	ユーリヒ研究センター(ドイツ) 医学研究所	研究員 (日本学術振興会 海外特別研究員)
5	2004	9	2006	9	宮城教育大学 教育学部	助教授
6	2006	10	2008	1	自然科学研究機構 生理学研究所	助教授
7	2008	2	2016	3	東北大学 加齢医学研究所	准教授
8	2012	4	2016	3	東北大学 災害科学国際研究所	准教授(兼務)
9	2016	4	現在		東北大学 加齢医学研究所・災害科学国際研究所(クロスアポイントメント)	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	Society for neuroscience	Organization for Human Brain Mapping	日本神経科学学会	日本心理学会

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	脳科学	認知神経科学	社会脳科学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	加齢医学研究所	総務・人事委員会	委員	20170401
2	加齢医学研究所	広報情報運営委員会	委員長・広報情報責任者(委員長代行)	20170401
3	加齢医学研究所	出版委員会		20170401
4	加齢医学研究所	ハラスメント相談員		20170401
5	加齢医学研究所	学生相談員		20170401
6	全学	広報連絡会議	広報連絡員	20170401
7	サイクロトン・ラジオアイソトープセンター	運営専門委員会 安全管理RI利用部会	委員	20170401
8	学際科学国際高等研究センター	運営審議会 運営専門委員会	委員	20170401
9	国際高等研究教育院	運営専門委員会	委員	20170401
10	全学	総合技術運営委員会	委員	20170401
11	医学部	広報室	委員	20170401

B. 研究活動

研究活動の概要

人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを、脳機能計測と生理・行動計測を駆使して明らかにし、基礎から応用まで、人間性に関わるあらゆる学問領域をつなぐ「ハブhub」となる脳科学を目指している。特に加齢人間脳科学として人間らしい生き方、若い方、社会のあり方を脳科学的に提言し、超高齢社会におけるスマート・エイジングの技術開発に取り組んでいる他、災害人間脳科学として震災から復興まで、災害の様々な状況を生き抜く人間の力について脳科学的に解明し、新しい教育・災害対応プロトコルの創出を目指している。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	現在		人間脳科学(人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを解明)	
2	2008	4	現在		加齢人間脳科学(人間らしい生き方、若い方、社会のあり方を脳科学的に提言し、超高齢社会におけるスマート・エイジングの技術を開発)	
3	2012	4	現在		災害人間脳科学(災害の様々な状況を生き抜く人間の力について脳科学的に解明し、新しい教育・災害対応プロトコルを提案)	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	10	合計	10	うち	国際査読有	9	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Relationship of Cognitive Style and Job Level: First Demonstration of Cultural Differences	学術雑誌	有	いいえ	Frontiers in Psychology	8	1279	1279	2017	20170725	Kageyama T, Sugiura M	共著	なし
2	英語	Psychophysiological Preference Monitoring by Cerebral Hemoglobin Measurement during Chewing an Apple Piece	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Psychology and Behavioral Sciences	7	5	127	134	20170705	Soo-Young Park, Tadashi Hasebe, Motoaki Sugiura, Akio Nibe, Yuji Oura, Shinobu Kitani	共著	国内
3	英語	Neural bases of the adaptive mechanisms associated with reciprocal partner choice	学術雑誌	有	いいえ	NeuroImage	145		74	81	20170115	Yokoyama R, Sugiura M, Yamamoto Y, Kashiouli-Nejad K, Kawashima R	共著	なし
4	英語	Social interaction affects neural outcomes of sign language learning as a foreign language in adults	学術雑誌	有	いいえ	Frontiers in Human Neuroscience	11		115		20170331	Yusa N, Kim J, Koizumi M, Sugiura M, Kawashima R	共著	国内

5	英語	Neural correlates of bilingual language control during interlingual homograph processing in a logogram writing system	学術雑誌	有	いいえ	Brain and Language	174		72	85	20171100	Hsieh MH, Jeong H, Kawata KH, Sasaki Y, Lee HC, Yokoyama S, Sugiura M, Kawashima R	共著	国外
6	英語	Neural correlates of ambient thermal sensation: An fMRI study	学術雑誌	有	いいえ	Scientific reports	7		11279		20170912	Oi H, Hashimoto T, Nozawa T, Kanno A, Kawata N, Hirano K, Yamamoto Y, Sugiura M, Kawashima R	共著	国内
7	英語	被災地大学における「復興」を題材にした科目の実践と事例分析 - 受講者の事後変化に着目して -	学術雑誌	有	いいえ	日本災害復興学会論文集	11				20170800	佐藤翔輔, 杉浦元亮, 長本俊亮, 今村文彦	共著	なし
8	英語	Consumer Behavior, Hormones, and Neuroscience: Integrated Understanding of Fundamental Motives Why We Buy	学術雑誌	有	はい	Psychologia	60		28	43	20170500	Motoki K, Sugiura M	共著	なし
9	英語	Tastiness but not healthfulness captures automatic visual attention: Preliminary evidence from an eye-tracking study	学術雑誌	有	いいえ	Food Quality and Preference	64		148	153	20180300	Motoki K, Saito T*, Nouchi R, Kawashima R, Sugiura M	共著	なし
10	英語	Disgust, Sadness, and Appraisal: Disgusted Consumers Dislike Food More than Sad Ones	学術雑誌	有	いいえ	Frontiers in Psychology					20180000	Motoki K, Sugiura M	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	2	筆頭共著	0	共著	0	合計	2	うち	国際	2	国内	0
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	英語	The Self-Trait Evaluation Task: Exodus from the Cortical Midline Structure Dogma (Memory in a Social Context)	単行本	20171216	Sugiura M (Takashi Tsukiura, Satoshi Umeda)	単著	Springer	なし	
2	英語	The Power to Live with Disasters: Adaptive Believing Processes of the Self and World (Processes of Believing: The Acquisition, Maintenance, and Change in Creditions)	単行本	2017415	Sugiura M (Angel H-F, Oviedo L, Paloutzian RF, Runehev AL, Seitz, RJ)	単著	Springer	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	消費者神経科学の動向と展望—神経科学を消費者行動研究に役立てるために	学術雑誌	有	いいえ	マーケティングジャーナル	37	3	77	103	20180000	元木康介, 杉浦元亮	共著	なし

学会発表

単名	3	筆頭連名	2	その他の連名	5	合計	10
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
	1	国際	The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Masanobu Kano	筆頭連名	いいえ	Makuhari Messe	千葉	日本	20170720	ポスター(一般)	"Dissociating the neural response to contingency errors: Agency- and prediction-error accounts"	Sugiura M, Kikuchi T, Yamamoto Y, Sasaki Y, Hanawa S, Sakuma A, Matsumoto K, Matsuoka H, Kawashima R	国内	3000
	2	国際	The 47th Annual Meeting of the Society for Neuroscience	Eric J. Nestler	その他の連名	いいえ	Washington Convention Center	Washington D.C.	USA	20171111	ポスター(一般)	"Pre-existing reduced functional connectivity between cognitive control network and salience network enhances PTSD symptoms after a disaster: evidence from a longitudinal resting state fMRI study"	Sekiguchi A, Kotozaki Y, Sugiura M, Nakagawa S, Nouchi R, Miyachi CM, Takeuchi H, Taki Y, Kawashima R	国内	30000
	3	国際	The 47th Annual Meeting of the Society for Neuroscience	Eric J. Nestler	筆頭連名	いいえ	Washington Convention Center	Washington D.C.	USA	20171114	ポスター(一般)	"Dissociating the neural response to contingency errors: agency-and prediction-error accounts "	Sugiura M, Kikuchi T, Yamamoto Y, Sasaki Y, Hanawa S, Sakuma A, Matsumoto K, Matsuoka H, Kawashima R	国内	30000
	4	国際	The 47th Annual Meeting of the Society for Neuroscience	Eric J. Nestler	その他の連名	いいえ	Washington Convention Center	Washington D.C.	USA	20171111	ポスター(一般)	"Neural correlates of ambient thermal discomfort: an fMRI Study"	Kawata K, Yamazaki S, Hirano K, Hamamoto Y, Oi H, Kanno A, Kawashima R, Sugiura M	国内	30000
1		国内	安全・安心な生活とICT研究会(ICTSSL)2017年第1回	岡田和則	単名	いいえ	NEXCO東日本東北支社 仙台東管理事務所	仙台	日本	20170530	口頭(一般)	"災害を生きる力の8因子～その認知・脳基盤と計測ツール"	杉浦元亮	なし	50
1		国内	東北心理学会第71回大会	水田 恵三	単名	いいえ	尚綱学院大学	名取市	日本	20170716	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	"災害を生きる力:その基礎研究と応用(自主企画ワークショップ)"	杉浦元亮	なし	200
1		国内	第81回日本心理学会	津田 彰	単名	はい	久留米シティプラザ	久留米市	日本	20170920	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	"運動随伴性による社会知覚変容は社会知覚発達に敷衍できるか?"(公募シンポジウム「社会性はいかに身体から創発されるのか」)	杉浦元亮	なし	10000
	1	国際	The 25th Annual Meeting of Cognitive Neuroscience Society	Robert Cabeza	その他の連名	いいえ	Sheraton Hotel	Boston, MA	USA	20180327	ポスター(一般)	"Brain activation during thoughts of one's own death and its association with the fear of death in older adults"	Kanan Hirano, Kentaro Oba, Toshiaki Saito, Shohei Yamazaki, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura	国内	2000
1		国内	第37回日本社会精神医学会	村井俊哉	その他の連名	いいえ	京都テルサ	京都	日本	20180301	口頭(一般)	"東日本大震災後の慢性疲労と他者との関わり合い"	中川誠委, 杉浦元亮, 関口敦, 事崎由佳, 荒木剛, 瑛杉子, 宮内誠, カルロス, 佐久間篤, 川島隆太		
1		国内	第20回日本ヒト脳機能マッピング学会	長田 乾	その他の連名	いいえ	新横浜プリンスホテル	横浜	日本	20180302	ポスター(一般)	"高齢者における自己の「死」とその恐怖への脳反応:fMRI研究"	平野香苗, 大場健太郎, 齊藤俊樹, 山崎翔平, 川島隆太, 杉浦元亮		

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (%非属人)	IRIDEsの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	IDAC, Tohoku University & Tohoku Forum for Creativity	Tohoku Forum for Creativity Thematic Program 2017, Aging Science: from Molecules to Society	20170524	20170527	IDAC, Tohou University	Sendai	Japan	Organizing Committee, Symposium Organizer, Chair	30	なし		なし	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを、脳機能計測と生理・行動計測を駆使して明らかにし、基礎から応用まで、人間性に関わるあらゆる学問領域をつなぐ「ハブhub」となる脳科学の学術・研究技術指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
1	【展開ゼミ】脳機能マッピング入門	東北大学	全学			後期	15

D. 社会活動

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDEsの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	スマート・エイジング 学際重点研究セン ター	スマートエイジングカレッジ東京コースII 月例会	20180222	20180222	東北大学ス マート・エイジ ング・カレッジ (SAC)東京	東京都	日本	講師		なし	講演会・セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	スマートエイジングカレッジ 東京コースII 月例会	講義	20180222	20180222	脳機能イメージングによる人間理解:その新 発想を製品・サービスの開発に活かす	なし	東北大学ス マート・エイジ ング・カレッジ東 京	東北大学東京 分室	東京都	日本	40

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市	教育委員会	学習意欲の科学研究に関するプロジェクト 委員	20170704

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 49 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	株式会社朝日新聞出版 アエラ編集部	長倉 克枝	20170411	共同研究	電話取材		その他	2
2	日産自動車株式会社 プラットフォーム・車両要素 技術開発本部 内外装技術開発部 空調システム開発グループ	外池雄亮, 大井 元	20170412	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
3	サントリーグローバルイノ ベーションセンター(株)	内田雅昭	20170502	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	4
4	帝京大学ちば総合医療セ ンター リハビリテーション科	田中尚文	20170420	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
5	帝京大学ちば総合医療セ ンター リハビリテーション科	田中尚文	20170511	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
6	NHKラジオ局		20170608	その他	NHKラジオ局仙台スタジオ	仙台	その他	6
7	サントリーグローバルイノ ベーションセンター(株)	内田, 山田	20170609	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	6
8	ライオン(株)生命科学研 究所	竹中 玄, 内山, 関	20170614	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	6
9	仙台市経済局産業政策部 産業振興課 産学連携推進室	森 真介, 室長	20170622	その他	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	3
10	ファーマサイエンス, JT(日本たばこ産業)	佐藤芳子	20170622	共同研究	Skype会議		その他	2
11	ファーマサイエンス, JT(日本たばこ産業)	佐藤芳子, 鈴木, 西川, 近藤康弘	20170711	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	6
12	株式会社 ユーメディア 営業部マーケティング 1チーム	福田由季	20170712	その他	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	5
13	株式会社イノベージ	高山雅行, 杉浦理砂	20170713	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
14	日産自動車(株) XL5	石川主管, 上原, 外 池	20170721	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	6
15	サントリーグローバルイノ ベーションセンター(株)	内田, 山田	20170725	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	7
16	株式会社デンソー 日産自動車	武内裕嗣, 井上英 治, 中村真一郎, 柿 木邦夫 菊地, 荒井, 桑田, 鈴 木	20170802	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	12
17	住友電工グループ社会貢 献基金	古庄	20170808	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	2
18	株式会社デンソー 東京支 社 インフォメーションセーフ ティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20170822	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	2

19	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20170904	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	2
20	花王㈱ 感性科学研究所	中村純二	20171002	その他	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	3
21	サントリグローバルイノベーションセンター(株)	内田	20171024	共同研究	東北大学東京分室	東京	運営	4
22	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20171120	会議	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	2
23	NTT ビジョン共有共同研究ヒアリング	皆川 満洋	20171129	その他	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	2
24	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20171207	会議	東北大学 本部	仙台	企画	7
25	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20171211	会議	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	12
26	株式会社 ZOAS (ノアス)	浅野竜一	20171213	共同研究	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	2
27	日産自動車(株) XL5	外池	20171220	共同研究	Skype 会議	仙台	運営	2
28	京大病院	石川正昭	20171226	共同研究	Skype 会議	仙台	企画	4
29	株式会社 幻冬舎 第二編集局	片山 裕美, 寒竹泉美	20171227	その他	東北大学加齢医学研究所	仙台	その他	3
30	多賀城高校	原田 実	20171225	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	3
31	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文, 魏 海涛	20180109	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
32	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文, 魏 海涛	20180115	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
33	日産自動車(株) XL5	外池	20180124	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	2
34	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20180124	共同研究	電話会議	仙台	運営	6
35	サロンド・シロー	高内勝志	20180201	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	3
36	株式会社リバネス 人材開発事業部	江川伊織, 小松大祐	20180205	その他	web 通話会議	仙台	その他	3
37	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	伊藤、西野、西井、田中 廣瀬	20180209	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	6
38	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文	20180213	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	2
39	山梨英和大学	本多明生, 廣瀬悠貴	20180214	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3
40	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20180216	共同研究	電話会議	仙台	運営	6
41	株式会社デンソー 東京支社 インフォメーションセーフティシステム先端開発室 開発1課	田中 君明	20180219	共同研究	web 通話会議	仙台	運営	6
42	京都大学・セラピストサービス「ソレイユ」	ギル佳津江、奥本敬子、石川正昭	20180220	共同研究	セラピストサービス「ソレイユ」	京都	企画	6
43	日産自動車(株)	外池雄亮	20180228	共同研究	Skype 会議	仙台	運営	2
44	日産自動車(株)	外池雄亮	20180308	共同研究	日産テクニカルセンター	厚木	運営	8
45	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文	20180312	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	2
46	サントリグローバルイノベーションセンター(株)	内田, 石垣	20180313	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	8
47	東京工業大学	三宅美博, 野澤, 山本	20180315	共同研究	東京工業大学 大岡山キャンパス	東京	運営	4
48	日産自動車(株) XL5	外池雄亮	20180319	共同研究	Skype 会議	仙台	運営	2
49	滋賀大学	大嶋秀樹	20180323	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	運営	3



奥村 誠 教授  
Makoto OKUMURA

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
1 京都大学	工学部	1984	3	京都大学大学院	工学研究科修士課程	1986	3	博士(工学)	1991	11

職歴

開始年	期間		終了年	月	勤務先	職名
	月	月				
1 1987	4	1992	3		京都大学 工学部	助手
2 1992	4	1995	3		京都大学 工学部	講師
3 1995	4	2001	3		広島大学 工学部	助教授
4 2001	4	2006	3		広島大学大学院 工学研究科	助教授
5 2006	4	2012	3		東北大学 東北アジア研究センター	教授
6 2012	4	現在			東北大学 災害科学国際研究所	教授

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7
土木学会	日本地域学会	応用地域学会	日本計画行政学会	日本都市計画学会	Regional Science Association International	East Asian Society of Transportation Studies (EASTS)

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1 土木学会	土木学会論文編集委員会	副委員長	20160601
2 土木学会	土木計画学研究委員会	副委員長	20170601
3 日本都市計画学会	東北支部	副支部長	20100000
4 応用地域学会	編集委員会	委員	20080000

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
社会システム工学・安全システム	交通工学・国土計画	都市間交通	都市計画

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 全学	キャンパス計画委員会・運輸交通専門委員会	副委員長	20100401
2 工学研究科	キャンパスマスタープラン検討委員会	委員	20140401

B. 研究活動

研究活動の概要

津波の人的被害を最小化するための自動車の一部を活用した最適避難計画に関する研究を行い、特に同一道路区間の歩車の割合がもたらす悪影響を考慮できるモデルを提案した。また、携帯電話位置情報を活用した地域の社会経済活動の被害と復旧の過程を把握する手法を開発、公表した。災害が人口移動に与える中長期的な影響に関して国際会議での発表・討論を行った。さらに、他機関との共同研究体制を構築し、科学研究費により地域の福祉施設や物流ネットワークを最大限活用した災害時の対応方法に関する研究を進めている。

研究課題

開始年	期間		終了年	月	研究課題(内容)	所外連携
	月	月				
1 2009	4	現在			都市間交通ネットワークの計画方法の研究	国内
2 2012	4	現在			巨大災害時の被災地支援方法に関する研究	なし
3 2012	4	現在			自動車を利用した津波避難計画に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	9	合計	10	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	津波伝承知メディアによる人的被害低減効果の統計的分析 - 東日本大震災で被災した岩手県・宮城県における津波碑と津波由来地名に着目して -	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1525	1_1530	20171000	佐藤翔輔, 平川雄太, 奥村誠, 金村文彦	共著	国内
2 日本語	コンパクトシティ政策における複数の計画規範のトレードオフ構造の分析	学術雑誌	有	いいえ	都市計画論文集	52	3	413	420	20171001	磯野昂士, 奥村誠	共著	なし
3 日本語	非負値行列因子分解による都道府県間滞在分布の年周期変動の分析	学術雑誌	無	いいえ	土木計画学研究講演集(CD-ROM)	56	23	1	7	20171103	山口裕通, 奥村誠	共著	なし
4 日本語	コンパクトシティ化プロセスにおける世代間のトレードオフ構造	学術雑誌	無	いいえ	土木計画学研究講演集(CD-ROM)	56	147	1	7	20171103	磯野昂士, 奥村誠	共著	なし
5 日本語	新規の都市間交通サービスの設定可能性が最適ネットワーク形状に与える影響	学術雑誌	無	いいえ	土木計画学研究講演集(CD-ROM)	56	201	1	6	20171103	細正隆, 奥村誠	共著	なし
6 日本語	近代における津波対策意識の変遷	学術雑誌	無	いいえ	土木計画学研究講演集(CD-ROM)	56	163	1	4	20171103	西脇千瀬, 奥村誠	共著	なし
7 日本語	津波避難における自動車分担率が津波遭遇リスクに与える影響	学術雑誌	無	いいえ	土木計画学研究講演集(CD-ROM)	56	269	1	6	20171103	竹居広樹, 奥村誠	共著	なし
8 日本語	携帯電話GPS情報から分かる 熊本地震による行動パターンの被災・回復過程	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 D3(土木計画学)	73	5	1_105	1_117	20171226	山口裕通, 奥村誠, 金田穂高, 土生恭祐	共著	国内

9	日本語	津波遭遇リスクを最小化する自動車避難最適化モデル	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文誌D3(土木計画学)	73	5	I_105	I_117	20171226	奥村誠, 片岡侑美子, 金進英	筆頭共著	国内
10	日本語	歩車混合避難における津波遭遇リスクと交通事故リスク	学術雑誌	有	いいえ	交通工学論文集(特集号)	4	1	A_129	A_137	20180201	竹居広樹, 奥村誠	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	1	合計	2	うち	国際	2	国内	0
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Monitoring SpringFloods on the Lena River Using Multiple Satellite Sensors (Global Warming and Human-Nature Dimension in Northern Eurasia)	編集本 (Author)	20170800	T.Sakai, H.Takakura, M.Okumura, S.Hatta, Y.Yoshikawa, T.Hiyama and Y.Yamaguchi (Tetsuya Hiyama and Hiroki Takakura)	共著	Springer Publishing	両方	
英語	Adaptation Strategies for Risk and Uncertainty: The Role of an Interdisciplinary Approach Including Natural and Human Sciences (Global Warming and Human-Nature Dimension in Northern Eurasia)	編集本 (Author)	20170800	M.Okumura (Tetsuya Hiyama and Hiroki Takakura)	単著	Springer Publishing	両方	

学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	8th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRM 2017)	Guðrún Pétursdóttir	筆頭連名	いいえ	HARPA	Reykjavik	Iceland	20170825	口頭(一般)	Statistical analysis of post-disaster effects in inter-regional migration	<u>Makoto Okumura</u> , Wataru Ito	なし	200
国際	The 7th Asian Seminar in Regional Science	Jen-Jia Lin	筆頭連名	いいえ	National Taiwan University	Taipei	Taiwan	20170908	口頭(一般)	Intercity Network Evolution Process, Sketched by a Demand-endogenized Multimodal Network Planning Model	<u>Makoto OKUMURA</u> , Huseyin TIRTOM, Masataka HOSO	国内	120
国際	The 12th Conference of EASTS	TRUONG QUANG NGHIA	その他の連名	いいえ	Sheraton Saigon Hotel&Towers	Ho Chi Minh City	Vietnam	20170919	口頭(一般)	Analysis of the Effect of Different Demand Trends in Deterministic Relief Inventory Model	Rubel Das, <u>Makoto Okumura</u>	国内	350
国際	The 11th Dealing with Disaster Conference	Louise Bracker	単名	いいえ	Durham University	Durham	UK	20170921	口頭(一般)	Japanese inter-regional migration patterns affected by 2011 Tohoku Disaster, analyzed with 2015 Japan Population Census	<u>Makoto Okumura</u>	なし	200

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち外国人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	日本都市計画学会東北支部	平成29年度総会記念シンポジウム	20170422	20170422	東北大学	仙台	日本	幹事	100(5)	IRIDeS共催		国内	シンポジウム
国内	日本都市計画学会東北支部	シンポジウム-東北地方の地域交通の現状とこれから	20170722	20170722	東北大学	仙台	日本	幹事	90	IRIDeS共催	国土交通省東北運輸局	国内	シンポジウム
国内	日本都市計画学会東北支部	平成29年度学術研究発表会	20180303	20180303	東北大学	仙台	日本	幹事	80	IRIDeS共催		国内	研究会・ワークショップ
国内	土木学会土木計画学研究会委員会都市間旅客交通研究小委員会	土木計画学ワンデイセミナー-都市間旅客交通の基礎的特徴とデータ	20180330	20180330	日本大学理工学部	東京	日本	主催者代表	95(5)	なし		国内	講演会・セミナー

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先である大学院工学研究科土木工学専攻の学生の指導を行った。また講義は、同専攻の専門科目、演習科目のほか、リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの専門科目、工学部建築・社会環境工学科の専門科目と演習科目の担当のほか、災害研に割り当てられている全学教育オムニバス科目の日程・成績管理を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
2	実践的防災学VI	東北大学大学院	工学研究科	グローバル安全学		後期	3
3	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
4	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	6
5	地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
6	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	8

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動の目的である、災害に強く、支援しやすい地域づくりを行うための基礎として、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的に行っている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	土木学会土木計画学研究会委員会	土木計画学ハンドブック出版記念シンポジウム	20170428	20170428	土木学会講堂	東京都	日本	話題提供	80	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計	8件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	平成29年度高速道路調査会研究発表会	研究成果報告	20170929	20170929	広域避難者の移動における高速道路の役割に関する研究	なし	高速道路調査会	TKP大阪梅田コンフェレンス	大阪市	日本	120
2	公開講座	復興大学県民講座	公開講義	20171014	20171014	津波避難における自動車利用の問題・携帯電話位置情報データより見える災害の広がり復興プロセス	なし	学都仙台コンソーシアム	東北工業大学八木山キャンパス	仙台市	日本	35

3	講演会・セミナー	東日本高速道路東北支社 仙台工事事務所創立50周年記念特別シンポジウム	パネリスト	20171102	20171102	災害時における高速道路の役割	企業	東日本高速道路東北支社	AER会議場	仙台市	日本	255
4	小中高との連携	茨城県立水戸第一高校 大学見学	模擬講義	20171110	20171110	東北大学建築・社会環境工学科で何が学べるか	小中高	茨城県立水戸第一高校	東北大学工学部	仙台市	日本	10
5	小中高との連携	茨城県立水戸第一高校 大学見学	模擬講義	20171110	20171110	東北大学建築・社会環境工学科で何が学べるか	小中高	茨城県立水戸第一高校	東北大学工学部	仙台市	日本	10
6	講演会・セミナー	第37回「地域産学官と技術士との合同セミナー」	基調講演	20180216	20180216	東北の発展、くらし・産業おこし・まちづくり	なし	日本技術士会東北支部	仙台国際ホテル	仙台市	日本	133
7	講演会・セミナー	土木計画学ワンデイセミナー#90「国土・県土整備の技術と実践」	基調講演	20180131	20180131	東北の特色とこれからの地域政策	なし	土木学会土木計画学研究委員会	TKP仙台勾当台	仙台市	日本	110
8	講演会・セミナー	第37回「地域産学官と技術士との合同セミナー」	基調講演	20180216	20180216	東北の発展、くらし・産業おこし・まちづくり	なし	日本技術士会東北支部	仙台国際ホテル	仙台市	日本	133

## 自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	国土交通省	第5回幹線旅客純流動調査委員会	委員兼幹事	20140701
2 国・政府	国土交通省東北運輸局	東北地方交通審議会	委員長代理	20060701
3 国・政府	国土交通省東北地方整備局	事業評価監視委員会	委員長	20120401
4 地方自治体	宮城県	大規模公共事業評価委員会	専門委員	20090401
5 地方自治体	宮城県	国土利用審議会	委員長代理	20110401
6 地方自治体	仙台市	都市計画審議会	会長	20140701
7 地方自治体	仙台市	大規模小売店立地専門委員会	委員	20090401
8 地方自治体	仙台市	大規模事業監視委員会	委員長	20130501

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 独立行政法人経済産業研究所	中島厚志, 森川正之, 近藤恵介	20170308	講演	経済産業研究所	東京	講演・発表	35

水谷 大二郎 助教  
Daijiro MIZUTANI

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	大阪大学	工学部	2012	3	大阪大学	工学研究科	2014	3	修士(工学)	2014	3
2					大阪大学	工学研究科	2016	9	博士(工学)	2016	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2016	3	日本学術振興会	特別研究員DC-1
2	2015	10	2015	11	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Visiting Scholar
3	2016	4	2017	3	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Research Associate
4	2017	4	2017	7	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻	特任研究員(常勤)
5	2017	8	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
6	2017	10	現在		World Bank	Short Term Consultant

学会活動

所属学会

学会名	1
土木学会	

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
インフラマネジメント	リスクマネジメント	最適化	統計学	計量経済学

B. 研究活動

研究活動の概要

2017年8月の着任以降、インフラの平常時のマネジメントと災害時のリスクマネジメントの融合を目指し、研究を実施してきた。また、高速道路斜面災害に対する降雨時通行規制ルール最適化のための方法論の提案も行った。従来から取り組んできたインフラマネジメントのための方法論の高度化も並行して実施してきた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		インフラマネジメントにおける、統計的劣化予測モデルの高度化とマルコフ連鎖モンテカルロ法によるモデル推定手法の体系化に関する研究。統計的劣化予測モデル推定時間の短縮に関する研究。	両方
2	2014	4	現在		社会基盤施設のネットワーク特性を考慮したアセットマネジメント手法の開発。組合せ爆発が問題となる補修・更新プログラム最適化問題の定式化とその解法の開発。	両方
3	2017	4	現在		斜面災害に着目した降雨時高速道路通行規制基準の最適化に関する研究。	国内
4	2017	8	現在		災害発生を考慮したアセットマネジメント手法の開発。災害統計ビッグデータ分析。	国内
5	2017	6	現在		確率的フロンティアモデルを用いた下水道事業の管理効率性/費用効率性分析。	国内

論文

著者	0	筆頭共著	4	その他共著	0	合計	4	
うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0

	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
1	英語	Initial investigations into the use of three heuristic algorithms to determine optimal intervention programs for multiple railway objects	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Architecture, Engineering and Construction	6	3	1	20	20170900	Daijiro Mizutani, Marcel Burkhalter, Bryan T. Adey, Claudio Martani, Vijay Ramdas	筆頭共著	国外
2	英語	Improving the estimation of Markov transition probabilities using mechanistic empirical models	学術雑誌	有	いいえ	Frontiers in Built Environment	3			58	20171005	Daijiro Mizutani, Nam Lethanh, Bryan T. Adey, Kiyoyuki Kaito	筆頭共著	国外
3	日本語	集計的劣化過程モデルによる高速道路橋RC床版の劣化総合評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集F4(建設マネジメント)通常号	73	3	50	69	20171220	水谷大二郎, 小濱健吾, 貝戸清之, 田中品大	筆頭共著	国内
4	日本語	局所的損傷に着目した排水性舗装の劣化評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集E1(舗装工学)通常号	74	1	1	15	20180120	水谷大二郎, 洲崎尚樹, 安村圭亮, 小濱健吾, 貝戸清之, 山田洋太	筆頭共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他連名	4	合計	6
----	---	------	---	-------	---	----	---

	国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原題)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内		平成29年度土木学会全国大会第72回年次学術講演会		筆頭連名	いいえ	九州大学	福岡	日本	20170912	口頭(一般)	確率変数選択による統計的劣化予測モデルの推定時間短縮効果	水谷大二郎, 貝戸清之	国内	
2	国内		第32回日本道路会議		筆頭連名	いいえ	都市センターホテル	東京	日本	20171101	口頭(一般)	ポットホール発生に着目した排水性舗装の劣化予測	水谷大二郎, 洲崎尚樹, 安村圭亮, 小濱健吾, 貝戸清之	国内	
3	国内		第32回日本道路会議		その他の連名	いいえ	都市センターホテル	東京	日本	20171101	口頭(一般)	降雨時通行規制に対する確率的アプローチ～高速道路における斜面災害について～	首地拓, 櫻谷慶治, 小濱健吾, 水谷大二郎, 貝戸清之	国内	
4	国内		第32回日本道路会議		その他の連名	いいえ	都市センターホテル	東京	日本	20171101	口頭(一般)	RC床版の劣化リスクを考慮した更新優先順位付け	田中品大, 水谷大二郎, 小濱健吾, 貝戸清之	国内	
5	国内		第56回土木計画学研究発表会		その他の連名	いいえ	岩手大学	盛岡	日本	20171104	口頭(一般)	更新施策を考慮した道路照明柱の劣化予測	田中誠勝, 水谷大二郎, 貝戸清之	国内	
6	国内		第56回土木計画学研究発表会		その他の連名	いいえ	岩手大学	盛岡	日本	20171104	口頭(一般)	鋼床版疲労亀裂の発生・進展に着目した高速道路橋大規模修繕箇所の選定	二宮陽平, 水谷大二郎, 貝戸清之, 小林潔司	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

年度途中の着任ということもあり、今年度は講義もなく、研究室の学生の研究へのアドバイスを中心に活動を行った。また、2017年9月にベトナム・ハノイで開催されたインフラマネジメントのサマースクールでの講義を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

世界銀行の Short Term Consultantとして、上下水道施設の防災対策、リスクマネジメント、アセットマネジメントに関する調査、レポートの執筆を行った。

佐藤 大介 准教授

Daisuke SATO

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	1996	4	東北大学大学院	文学研究科	2003	10	文学博士	2005	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	10	2006	3	東北大学大学院 文学研究科	COEフェロー
2	2006	4	2007	4	東北大学大学院 文学研究科	専門研究員
3	2006	7	2007	3	郡山女子大学 短期大学部	非常勤講師
4	2007	4	2012	3	東北学院大学 文学部	非常勤講師
5	2007	5	2010	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
6	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	助教
7	2012	4	2012	5	東北大学災害科学国際研究所	助教
8	2012	6	継続中		東北大学災害科学国際研究所	准教授
9	2013	4	継続中		東北大学大学院環境科学研究所	協力教員
10	2014	4	継続中		東北大学大学院文学研究科	兼務教員

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	東北史学会	日本歴史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北史学会		理事	20151000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	埋蔵文化財調査室	運営委員会	委員	20140501
2	学術資源研究公開センター	運営専門委員会	委員	20140401
3	東北アジア研究センター-客附研究部門 上原歴史資料科学研究部門		運営諮問委員	20140701
4	附属図書館	斎藤義之助家史料運用委員会	委員	20140701

B. 研究活動

研究活動の概要

1) 心理社会的支援としての歴史資料保全の研究 宮城県石巻市で5回の歴史講演会を実施し、報告を行うとともに来場者アンケートを収集し、被災者の心理的回復に歴史資料の保全が果たす役割について分析するための研究素材を収集した。
2) 被災地の歴史復元に係る基礎情報の整備 江戸時代後期の商人・小津久足(おつ・ひさたり)が1841年に記した、江戸から松島への往復道中の紀行文「陸奥日記」を基にした3.11被災地の歴史復元について、福島、茨城、栃木などの大学研究者と連携して分析するとともに、「陸奥日記」解説文を出版した。
3) 古気候復元を通じた環境研究・災害研究に資する古文書資料の情報共有基盤に関して報告を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	12	現在		旧仙台藩領 東北地方における実践を踏まえた歴史資料保全学の構築	国内
2	2000	8	現在		仙台藩領における地域リーダー層の社会活動の研究	国内
3	2007	4	現在		19世紀仙台藩領における災害と社会史 政治史の研究	国内
4	2015	10	現在		心理社会的支援としての歴史資料保全活動の研究	国外

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	1	単著	0	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	東北文化研究資料11 小津久足「陸奥日記」	編集本(Editor)	20180331	佐藤大介・青柳周一・菱岡憲司・高橋陽一	共編	東北大学東北文化研究室	国内	550

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	「ふるさとの歴史」の役割—東北の古文書と向き合っ—	学術雑誌	無	はい	日本歴史	829	33	35	20170601	佐藤大介	単著	国内
2	日本語	地域史を通じた「専門知の民主化」の結晶—「たどる 調べる 尼崎の歴史」を読んで—	大学紀要	無	はい	LINK	9	119	122	20171227	佐藤大介	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	The 18th edition of the European Association of Developmental Psychology	Susan Branje	その他の連名	いいえ	Dom Church & Dom Square	Utrecht	The Netherlands	20170901	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Cooperation between Historians and Psychologists in Assessing Psychosocial Support in Disaster Areas	KAMIYAMA, Machiko, SATO, Masae, SATO, Daisuke, MORRIS, John, ICHIO, Reika, NAKATANI, Kyoko	国外	500
国内	第6回 CODH セミナー 歴史ビッグデータ—過去の記録の統合解析に向けた古文書データ化の挑戦—	増田耕一	単名	はい	国立情報学研究所	東京	日本	20180312	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	古文書の気象・災害記録をどう活かすか—仙台・宮城での史料保全をふまえて	佐藤大介	国内	80

C. 教育活動

教育活動の概要

前年に引き続き、全学教育での歴史教育の一貫として仙台の歴史を教育するとともに、文学部・文学研究科では講義の一環として、受講者5名と江戸時代に記された現在の宮城県石巻市北上町・雄勝町への紀行文から被災地の歴史景観復元を試み、成果を地元で発表した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1 歴史と人間社会	東北大学	全学	文・教・法・保	1	2セメ	15コマ
2 日本近世・近代史各論Ⅲ	東北大学	文学部		3	集中	15コマ
3 日本近世・近代史特論Ⅲ	東北大学	大学院文学研究科			通年	30コマ
4 日本近世・近代史各論Ⅲ	東北大学	文学部		3	後期	15コマ
5 日本近世・近代史特論Ⅲ	東北大学	大学院文学研究科			後期	1コマ
6 日本社会史論	東北大学	大学院環境科学研究所			後期	15コマ

D. 社会活動

社会活動の概要

前年に引き続き、歴史資料保全活動、および宮城県石巻市での歴史再生に関する講演会の主催および講演を実施した。各団体からの依頼による講演や報道を通じて普及をはかることが出来た。また、福島での震災記録収集・保存・活用をめぐって、宮城での活動を踏まえ講演した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 4件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	よみがえる北上川河口の歴史 第2回	20170526	20170526	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	運営責任者	70	IRIDeS共催	講演会・セミナー	
国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	よみがえる北上川河口の歴史 第3回	20170717	20170717	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	運営責任者	40	IRIDeS共催	講演会・セミナー	
国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	よみがえる北上川河口の歴史 第4回	20170210	20170210	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	運営責任者	60	IRIDeS共催	講演会・セミナー	
国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	よみがえる北上川河口の歴史 第5回	20180303	20180303	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	運営責任者	60	IRIDeS共催	講演会・セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 7件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
公開講座	たまきさんサロン講座	招待講演	20170604	20170604	仙台商人、紙づくりの再生に挑む—天保飢饉後の生業作りと協働—	行政	仙台市環境局	たまきさんサロン	仙台市	日本	10
小中高との連携	宮城県立仙台二華高校北上川フィールドワーク事前学習	講義	20170912	20170912	江戸時代・北上川流域での生業—桃生郡橋浦村の事例を中心に—	小中高	宮城県立仙台二華高校第一学年	宮城県立仙台二華高等学校	仙台市	日本	200
講演会・セミナー	角田史談会講演会	講演	20171125	20171125	災害から「ふるさと」の歴史を守る	行政	角田史談会	角田市市民センター	角田市	日本	20
講演会・セミナー	宮城県南資料館等連絡協議会	講演・実技指導	20180131	20180131	古文書の保存・整理・調査の現状と今後—宮城・田仙台藩での活動経験をふまえて—	行政	宮城県南資料館等連絡協議会	丸森町ふるさと館	丸森町	日本	10
講演会・セミナー	よみがえる北上川河口の歴史 第4回	講演	20180210	20180210	片倉十郎、北上川を歩く—新発見の紀行文「雲谷水態」	行政	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク、石巻市教育委員会	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	60
講演会・セミナー	「ほんとの空が戻る日まで—震災の記録と教訓を残し、未来に活かす—」シンポジウム	パネリスト	20180224	20180224	歴史研究の立場からみる災害の継承—3.11での歴史資料救済活動の経験を踏まえ—	なし	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター	東北大学片平さくらホール	仙台市	日本	100
講演会・セミナー	よみがえる北上川河口の歴史 第5回	講演	20180303	20180303	仙台領長面塩田の開発	行政	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク、石巻市教育委員会	石巻市河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	60

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク		理事	20140701
2 地方自治体	石巻市	石巻市近代建築保存整備調査研究専門委員会	委員	20140801
3 その他	独立行政法人 人間文化研究機構	災害時歴史文化資料保全システム検討チーム	委員	20160000

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
20170607	東北大学災害科学国際研究所・宮城県仙台市	国内	「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」に係る神戸大学大学院人文学研究科、東北大学災害科学国際研究所及び国立歴史民俗博物館との連携・協力協定	研究機関	国立歴史民俗博物館、神戸大学大学院人文学研究科	20170607	3
20180126	東北大学東京分室、東京都千代田区	国内	「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」における連携・協力に関する基本協定書	研究機関	大学共同利用機関法人人間文化研究機構、神戸大学	20180126	4

安田 容子 教育研究支援者

Yoko YASUDA

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	2002	3	東北大学大学院	環境科学研究科	2012	3	博士(学術)	2012	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	9	2013	2	株式会社 循環社会研究所	地域調査員
2	2012	10	2016	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	特別教育研究教員
3	2016	4	2017	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	研究支援者
4	2017	4	2018	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	教育研究支援者

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	人と動物の関係学会	生き物文化誌学会	美術史学会	文化財保存修復学会	日本伝統文化学会	国際浮世絵学会	大正イマジユイ学会	歴史地震研究会	Association for East Asian Environmental History

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	人と動物の関係学会		評議員	20160400

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	人と動物の関係史	日本近世近代美術史	歴史資料保存

B. 研究活動

研究活動の概要

個人コレクションおよび、地方文人・画人のこした資料の保存と活用に関する研究を行っている。鶴岡市にこのこされている松森胤保の著作物から近代科学史における一地方の個人の役割についての研究については、博物図譜作成の基礎となった蒐集物について調査を行った。兵庫県朝来市にこのこされた歴史資料のうち、美術資料に注目し、近世の当地における美術の集積活動とネットワークについての資料調査を行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	10	2017	9	近世旅行記にみる象潟地震に関する研究	国内
2	2017	4	現在		松森胤保の著作と博物図譜作成に関する研究	なし
3	2017	4	現在		生野石川家の近世文人ネットワークに関する研究	国内
4	2017	9	現在		杜の都の植生と緑の認識に関する研究	国内
5	2013	3	現在		亙理町において一時保管中の被災美術資料E家コレクションの保存・継承に関する研究	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	個人蒐集家と画家-江戸清吉と小川千蕪-	学術雑誌	無	いいえ	大正イマジユイ	12	156	156	20170610	安田容子	単著	なし
2	日本語	第3回全国資料ネット研究交流集に参加して	学術雑誌	無	いいえ	地方史研究	387	69	72	20170601	安田容子	単著	なし

学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	生き物文化誌学会第15回大会		単名	いいえ	国立民族学博物館	吹田市	日本	20170624	口頭(一般)	松森胤保の蒐集活動と生き物	安田容子	なし	200
2	国内	第34回歴史地震研究会		筆頭連名	いいえ		つくば市	日本	20170915	ポスター(一般)	地震後に象潟を訪れた人々と象潟地震	安田容子, 今井健太郎	国内	100
3	国際	The Fourth Conference of East Asian Environmental History	Yoko YASUDA	単名	いいえ	南開大学	天津市	中国	20171030	口頭(Plenary)	Collecting and Breeding Animals in One of the Local Area in 19th Century Japan: Analysis of Matsumori Taneyasu's Private Written Works.	Yoko YASUDA	国内	400
4	国内	日本科学史学会東北支部第163回例会		単名	はい	仙台市戦災復興記念館	仙台市	日本	20171126	口頭(一般)	松森胤保の自然物蒐集〜『家蔵五玩雑録』に記された蒐集物〜	安田容子	なし	30

D. 社会活動

社会活動の概要

美術資料を中心とした歴史資料の保全と資料の活用に向けた取り組みを行っている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	学術資料の活用を志す人のための meeting [A*C2017]	招待講演	2017/08/19	2017/08/19	研究者にとっての資料とその活用	企業	合同会社 AMANE	TRUNK - Creative Office Sharing-	仙台市	日本	20

丸谷 浩明 教授

Hiroaki MARUYA

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	経済学部	1983	3					博士(経済学)	2008	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1983	4	1985	7	建設省 住宅局 住宅政策課	係員
2	1985	7	1987	3	建設省 都市局 区画整理課	法規係長
3	1987	4	1988	9	建設省 建設経済局 調査情報課	情報政策係長
4	1988	10	1990	3	経済企画庁 調査局 内国調査第一課	専門調査員、主査
5	1990	4	1994	4	外務省 赴任研修、在シンガポール日本国大使館	二等書記官、一等書記官
6	1994	5	1995	7	建設省 住宅局 住宅政策課	課長補佐
7	1995	7	1997	7	建設省 建設経済局 国際課 国際企画室	課長補佐
8	1997	7	2000	4	阪神高速道路公団 計画部	企画課長
9	2000	4	2002	7	建設省 建設経済局 建設業課	建設市場アクセス推進室長
10	2002	7	2004	7	国土交通省 総合政策局 建設振興課	労働資材対策室長
11	2004	7	2005	7	内閣府政策統括官(防災担当)付	企画官
12	2005	7	2008	7	京都大学 経済研究所 先端政策分析研究センター	教授
13	2008	7	2011	11	(財)建設経済研究所	研究理事
14	2009	2	2013	3	兼務(非常勤) 東京工業大学 都市地震工学センター	特任教授
15	2011	11	2012	8	内閣府政策統括官(防災担当)付	参事官
16	2012	9	2013	9	国土交通省 国土交通政策研究所	政策研究官
17	2013	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地域安全学会	都市住宅学会	日本建築学会	日本不動産学会	地区防災計画学会	国際危機管理学会(日本支部)

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	都市住宅学会	東北支部	常議員	20140409

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	事業継続マネジメント(BCM)	防災計画	災害ボランティア	防災法制	復興制度

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	東北大学教育研究評議会	評議員	20150401
2	全学	災害対策推進室	アドバイザー	20150401
3	全学	部局評価責任者	部局評価責任者	20170401
4	全学	総長選挙管理委員会	委員	20160201

B. 研究活動

研究活動の概要

企業の事業継続マネジメント(BCM)の研究では、熊本地震の被災地企業を対象に熊本大学と共同研究を行い、17社22名の参加を得て連続講習会を実施し、うち7社は個別相談会も実施した。また、独自の中小企業向けBCP策定マニュアルを活用して、前述の熊本の講習会をはじめ、各地で講演を行った。大学のBCPの研究としては、東北大学本部のBCPの策定・改善を担い、本部の訓練を踏まえた見直しもを行い、災害科学国際研究所のBCPの改定を行い、他部局のBCPの策定も助言した。また、仙台で産官学による勉強会「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」の主宰を継続し、毎月会合を開いた。学会活動は、地域安全学会、都市住宅学会を中心に行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	7	現在		事業継続マネジメント(BCM)、事業継続計画(BCP)の研究	国内
2	2005	7	現在		企業・公的組織の防災対策の研究	なし
3	2005	7	現在		災害ボランティアの研究	なし
4	2012	9	現在		防災計画、防災法制の研究	なし
5	2012	9	現在		首都直下地震(特に、帰宅困難者の一時滞在施設)の研究	なし
6	2013	10	現在		産官学民連携による防災の研究	なし
7	2013	10	現在		大学の業務継続計画(BCP)の研究	国内
8	2014	4	現在		災害復興制度(特に、企業、住宅、まちづくりの復興)の研究	なし

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Damage of Enterprises and Their Business Continuity in the 2016 Kumamoto Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	12	sp	688	695	20170627	Hiroaki Maruya, Tetsuya Torayashiki	筆頭共著	国内



2	日本語	東日本大震災等の教訓を活用した中小企業BCP導入ガイドの作成	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		27	30	20170800	丸谷浩明、宍屋数哲也	筆頭共著	なし
3	日本語	東日本大震災時の東北および北関東の被災都市における帰宅困難者問題に関する考察	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	40		67	70	21070600	宍屋数哲也、丸谷浩明	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	1	単著	0	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	BCP(事業継続計画)を策定しよう(防災・復興ハンドブック(改訂版))	その他	20170526	丸谷浩明、(丹羽洋子)	監修	株式会社不動産流通研究所	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	3	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	企業が災害を乗り越え、供給責任を果たすために	無	はい	防火・防災の街づくりゼミナール		30	2	6	20180200	丸谷浩明	単著	国内
2	日本語	不動産流通事業者の"BCP"	無	はい	月間不動産流通		425	8	9	20171005	丸谷浩明	単著	なし
3	日本語	災害直後に業務量が増大する病院のBCPでは医療者の負担軽減にボランティア活用を	無	はい	地域包括新時代		2	3	3	20170901	丸谷浩明	単著	なし

学会発表

単名	4	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2017in 釜石	坪井聖太郎	筆頭連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	東日本大震災等の教訓を活用した中小企業BCP導入ガイドの作成	丸谷浩明、宍屋数哲也	なし	80
2	国際	The 2nd International Roundtable for Cities at Tampere, OECD	Kerith Thorpe	単名	はい	Tampere Hall	Tampere	Finland	20170629	口頭(一般)	Disaster and Crisis Management of Local Governments and Companies in Japan	Hiroaki Maruya	国外	50
3	国内	第23回日本集団災害医学学会総会・学術集会	本間正人	単名	はい	パシフィコ横浜	横浜	日本	20180203	口頭(一般)	医療機関にBCPの求められる地域連携の視点	丸谷浩明	国内	100
4	国内	災害科学国際研究所IRIDeS金曜フォーラム	奥村誠	単名	いいえ	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20180223	口頭(一般)	南海トラフ地震発生予測時の企業・組織の行動と可能な事前準備	丸谷浩明	国内	50
5	国内	徳島大学BCP研究部会	中野晋	単名	はい	徳島大学	徳島市	日本	20180322	口頭(一般)	大震災の教訓も踏まえた新たな中小企業BCP導入ガイド	丸谷浩明	国内	30

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	11件
----	-----

国内	国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(おもに個人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・ワークショップ
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第33回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第4回	20170407	20170407	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
2	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第34回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第5回	20170512	20170512	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
3	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第35回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第6回	20170602	20170602	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
4	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第36回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第7回	20170707	20170707	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
5	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第37回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第8回	20170804	20170804	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
6	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第38回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第9回	20170908	20170908	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
7	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第39回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第10回	20171006	20171006	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
8	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第40回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第11回	20171110	20171110	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
9	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第41回	20171201	20171201	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
10	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第42回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第12回	20180105	20180105	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ
11	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第43回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第13回	20180302	20180302	災害科学国際研究所	仙台市	日本	座長	15(0)	なし	なし	国内	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育での「東日本大震災等の災害と社会の対応」の授業、兼務先の法学研究科公共政策大学院で、「防災法」、「防災政策論演習Ⅰ」及びⅡの授業、リーディング大学院での授業等を行った。特に、全学教育の授業は180名を超える学生の履修を得られ、出席率も高かった。演習でのレポートは、個別相談の面談も行い、レベルの高いものが提出されたと考えている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター/学期	コマ数(90分1コマ)
1	防災政策論演習Ⅰ	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	15
2	防災政策論演習Ⅱ	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		後期	15
3	経済と社会(東日本大震災等の災害と社会の対応)	東北大学	全学		1, 2	後期	15
4	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	8
5	実践的防災学VI	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学コース		後期	2
6	公共政策入門	東北大学	全学		1	後期	1
7	東日本大震災から見る現代社会	東北大学	全学		1, 2	後期	1
8	大規模災害から命を守るために	放送大学		面接講義		後期	2

D. 社会活動  
社会活動の概要

内閣府主催「第2回防災推進国民大会」、日刊工業新聞社主催「防災産業展」を「世界防災フォーラム」と同時開催する調整役を担当し、同災フォーラムの企画運営の一部を担当した。また、事業継続計画や防災の講演を年間26回行った。政府・地方自治体の公的委員会の委員を7件務めた。NPO事業継続推進機構の副理事長を務め、(一社)福祉防災コミュニティ協会の副理事長も務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所 丸谷研究室、熊本大 学藤見研究室	企業の事業継続計画(BCP)策定・改善講習 会第1回	20170907	20170907	肥後銀行熊本 駅前支店	熊本市	日本	運営責任者	22	IRiDeS協力	講演会・セミナー	
2	国内	災害科学国際研究所 丸谷研究室、熊本大 学藤見研究室	企業の事業継続計画(BCP)策定・改善講習 会第2回	20171109	20171109	肥後銀行熊本 駅前支店	熊本市	日本	運営責任者	19	IRiDeS協力	講演会・セミナー	
3	国内	災害科学国際研究所	東北スペシャルセッション～Build Back Better よりよい復興～(防災推進国民大会 2017)	20171126	20171126	仙台国際セン ター	仙台市	日本	責任者、コー ディネーター	100	IRiDeS主催・共 同主催	シンポジウム	
4	国内	災害科学国際研究所	世界防災フォーラム	20171125	20171128	仙台国際セン ター	仙台市	日本	運営委員	10000	IRiDeS主催・共 同主催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 18 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	登米法人会青年部会主催 講演会	招待講演	20170724	20170724	BCP策定の基本、必要性、具体的手法につ いて	企業	登米法人会	ホテルニューグ ランヴィア	登米市	日本	30
2	講演会・セミナー	第8回「震災対策技術展」 東北	招待講演	20170804	20170804	事業継続計画(BCP)を貴社の目的に合わ せて作成するために	企業	エグジビジョン テクノロジーズ (株)	AER	仙台市	日本	50
3	講演会・セミナー	公明党東京都本部夏季議 員研修会	招待講演	20170822	20170822	防災(首都直下地震、都市水害)	行政	公明党	京王プラザホテ ル	東京都 新宿区	日本	70
4	講演会・セミナー	事業者向け防災セミナー	講義	20170823	20170823	BCPの実効性のチェックを踏まえた既存の BCPの見直し	企業	港区芝地区総 合支所	AP 浜松町A 会 議室等	東京都 港区	日本	20
5	講演会・セミナー	平成29年度危機管理士講 座2級(自然災害)	講義	20170826	20170826	業務継続計画(BCP)	企業	日本危機管理 士会	明治大学	東京都千 代田区	日本	30
6	講演会・セミナー	静岡県平成28年度危機管 理(BCP)研修	講義	20170824	20170824	行政の発災時の対応と業務継続計画	行政	静岡県	用宗研修所	静岡市	日本	40
7	講演会・セミナー	事業者向け防災セミナー	講義	20170831	20170831	BCPの策定の考え方	企業	港区芝地区総 合支所	AP 浜松町A 会 議室等	東京都 港区	日本	30
8	講演会・セミナー	事業者向け防災セミナー	講義	20170905	20170905	BCPの策定の考え方	企業	港区芝地区総 合支所	AP 浜松町A 会 議室等	東京都 港区	日本	30
9	講演会・セミナー	コープ東北BCP担当者会 議	招待講演	20171005	20171005	BCP策定に当たっての基本的考え方	企業	コープ東北	光陽グランドホ テル	仙台市	日本	15
10	講演会・セミナー	日本経営協会大阪支部主 催講座「求められる業務継 続計画(BCP)と実効性」	講義	20171012	20171012	業務継続計画(BCP)の策定・改善の必要 性とポイント	行政	日本経営協会 大阪支部	日本経営協会 大阪支部会議 室	大阪市	日本	10
11	講演会・セミナー	日本私立大学連盟第2回 財務・人事担当理事者会 議	招待講演	20171201	20171201	大学の事業継続(BCP)の意義と経済的な 備え	企業	日本私立大学 連盟	ポートピアホテ ル	神戸市	日本	50
12	講演会・セミナー	NPO法人 事業継続推進機 構主催事業継続(BC)推進 セミナー	講演	20171208	20171208	残念なBCPとこれからの事業継続	企業	NPO法人 事業 継続推進機構	大阪大学中之 島センター	大阪市	日本	100
13	講演会・セミナー	平成29年度危機管理士講 座2級(自然災害)	講義	20180120	20170120	業務継続計画(BCP)	企業	日本危機管理 士会	明治大学	東京都千 代田区	日本	30
14	講演会・セミナー	京都市技術管理委員会技 術研修部会主催研修会	招待講演	20180129	20180129	レジリエンシティとしてのBCPのあり方につ いて	行政	京都市	京都市男女共 同参画センタ ー「ウィングス京 都」	京都市	日本	100
15	講演会・セミナー	九州経済産業局BCP(事 業継続計画)策定促進セミ ナー	招待講演	20180206	20180206	BCPの必要性と要点	行政	九州経済産業 局	ホテルレオパ レス博多	福岡市	日本	150
16	講演会・セミナー	自治体政策特別講座「予 算審議と自治体議会の責 務」	招待講演	20180208	20180208	自治体業務と議会のBCP―作成と実効性の チェックポイント―	行政	日本自治体政 策学会	ラジオ日本ク リエイト会議 室	横浜市	日本	50
17	講演会・セミナー	静岡県BCP研究会	招待講演	20180221	20180221	「残念なBCP」と言われないために―被害想 定、リソース、戦略等について本気で再点検 する―	企業	静岡県	静岡県立大学	静岡市	日本	40
18	講演会・セミナー	NPO法人 事業継続推進機 構2月度例会意見交換会	講演	20180222	20180222	残念なBCPという発想と対処方策	企業	NPO法人 事業 継続推進機構	東京都渋谷区・ 国立オリンピ ック記念青年 総合センター	東京都 渋谷区	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	内閣府	政府業務継続に関する評価等有識者会議	委員	20140000
2 国・政府	内閣府	「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会	委員、減災対策コースコーディネーター	20140000
3 国・政府	内閣官房地域活性化統合事務局	都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG	委員	20110000
4 地方自治体	京都府		危機管理アドバイザー	20090000
5 民間・NPO	NPO法人 事業継続推進機構		副理事長	20120500
6 民間・NPO	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会		副理事長	20160300

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	熊本大学くまもと水循環・ 減災研究教育センター	藤見俊夫	20170907	共同研究	肥後銀行熊本駅前支店会議室	熊本	講演・発表	22
2	徳島大学環境防災研究 センター	中野野、湯浅恭史	20180323	講演	徳島大学環境防災研究センター	徳島	講演・発表	30
3	一般社団法人地方経済 総合研究所	宮野英樹	20180305	会議	一般社団法人地方経済総合研究所	熊本	その他	5

寅屋敷 哲也 助教  
Tetsuya TORAYASHIKI

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	工学部	2010	3	関西大学大学院	社会安全研究科	2015	3	博士(学術)	2015	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	1	2015	3	東北大学 災害科学国際研究所	技術補佐員
2	2015	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	地域安全学会	日本災害情報学会	国際危機管理学会	土木学会

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	事業継続計画(BCP)	企業防災	帰宅困難者対策	災害協定	経済被害評価

B. 研究活動

研究活動の概要

(1) 企業の事業継続計画(BCP)に関する研究については、2016年4月に発生した熊本地震以降、被災企業ヒアリング調査の成果をまとめ、また熊本でのBCP支援によりフォローアップを行っている。(2) 火山活動による観光への影響に関する研究は、2015年4月の蔵王山および同年5月以降の箱根山での噴火警戒レベル等上昇による観光事業者への影響について、観光統計や事業者・自治体等へのヒアリング調査より比較分析を行った。(3) 地方都市の帰宅困難者対策に関する研究は、地方自治体を対象としてヒアリング調査を実施し、東日本大震災における帰宅困難者問題、帰宅困難者対策等について聴取し、地方都市にも有用な対策の改善方を研究した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	4	現在		企業の事業継続計画(BCP)に関する研究	なし
2	2016	1	現在		火山活動による観光への影響に関する研究	国外
3	2016	10	現在		地方都市の帰宅困難者対策に関する研究	なし

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	3	合計	6	うち	国際査読有	2	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	国際学術誌
1	日本語	「東日本大震災時の東北および北関東の被災都市における帰宅困難者問題に関する考察」	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	40		67	70	21070600	寅屋敷哲也・丸谷浩明	筆頭共著	なし	いいえ
2	英語	Damage of Enterprises and Their Business Continuity in the 2016 Kumamoto Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	12	sp	688	695	20170627	Hiroaki Maruya, Tetsuya Torayashiki	共著	国内	はい
3	日本語	東日本大震災等の教訓を活用した中小企業BCP導入ガイドの作成	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		27	30	20170800	丸谷浩明・寅屋敷哲也	共著	なし	いいえ
4	英語	The decrease in tourism and tourism promotion after increased recent volcanic activity in Japan	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Integrated Disaster Risk Management (IDRIM) 2017 のウェブサイト					20170823	Tetsuya Torayashiki・Anawat Suppassri・Miwa Kuri・Amy Donovan	筆頭共著	国外	はい
5	日本語	「地域安全学 夏の学校2017 ー基礎から学ぶ防災・減災ー」: 地域安全学領域における若手人材育成 その2	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	41		33	36	20171100	寅屋敷哲也・松川杏寧・佐藤翔輔・藤生慎・杉安和也	筆頭共著	国内	いいえ
6	英語	The complex consequences of volcanic warnings: trust, risk perception and experiences of businesses near Mount Zao following the 2015 unrest period	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction	27		57	67	20180300	Amy Donovan, Anawat Suppassri, Miwa Kuri, Tetsuya Torayashiki	共著	国外	はい

学会発表

単名	1	筆頭連名	5	その他の連名	1	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原題)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	災害科学国際研究所 IRIDES金曜フォーラム第45回	森口周二	筆頭連名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20170526	口頭(一般)	企業の被害と事業継続	寅屋敷哲也・丸谷浩明	なし	60
2	国内	第40回地域安全学会研究発表会(春季)	生田英輔	筆頭連名	いいえ	石垣市商工会館研修室・商工会ホール	石垣	日本	20170609	口頭(一般)	東日本大震災時の東北および北関東の被災都市における帰宅困難者問題に関する考察	寅屋敷哲也・丸谷浩明	なし	100
3	国内	第3回東北大学若手アンサンブルワークショップ		単名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20170703	ポスター(一般)	災害時の企業による支援物資の供給方法の研究	寅屋敷哲也	なし	100
4	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2017in 釜石	坪井聖太郎	その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	東日本大震災等の教訓を活用した中小企業BCP導入ガイドの作成	丸谷浩明・寅屋敷哲也	なし	80
5	国際	8th Annual Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRIM2017)		筆頭連名	いいえ	Harpa conference and concert	Reykjavik	Iceland	20170825	ポスター(一般)	The decrease in tourism and tourism promotion after increased recent volcanic activity in Japan	Tetsuya Torayashiki・Anawat Suppassri・Miwa Kuri・Amy Donovan	国外	200
6	国内	第41回地域安全学会研究発表会(秋季)		筆頭連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171111	ポスター(一般)	「地域安全学 夏の学校2017 ー基礎から学ぶ防災・減災ー」: 地域安全学領域における若手人材育成 その2	寅屋敷哲也・松川杏寧・佐藤翔輔・藤生慎・杉安和也	国内	100
7	国内	徳島大学BCP研究部会	中野晋	筆頭連名	はい	徳島大学	徳島市	日本	20180322	口頭(一般)	東日本大震災と熊本地震における被災企業の事業継続対応	寅屋敷哲也・丸谷浩明	国内	30

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 18 件

No.	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRiDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第33回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第4回	20170407	20170407	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
2	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第34回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第5回	20170512	20170512	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第45回	20170526	20170526	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
4	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第35回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第6回	20170602	20170602	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
5	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第46回	20170623	20170623	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
6	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第36回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第7回	20170707	20170707	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
7	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第47回	20170729	20170729	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	100 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
8	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第37回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第8回	20170804	20170804	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
9	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第48回	20170825	20170825	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
10	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第38回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第9回	20170908	20170908	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
11	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第49回	20170922	20170922	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
12	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第39回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第10回	20171006	20171006	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
13	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第50回	20171027	20171027	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
14	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第40回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第11回	20171110	20171110	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
15	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第42回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第12回	20180105	20180105	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
16	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第51回	20180126	20180126	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
17	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRiDeS金曜フォーラム 第52回	20180223	20180223	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営責任者	40 (0)	IRiDeS主催・共同主催	なし	国内	研究会・ワーク ショップ
18	国内	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第43回、NPO 法人事業継続推進機構仙台勉強会第13回	20180302	20180302	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	15 (0)	なし	なし	国内	研究会・ワーク ショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

当該年度の教育活動は、全学教育科目「社会と災害科学」における「ロマ「防災ゲームに挑戦(2):避難所HUG」の講義を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

No.	科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 (90分/コマ)
1	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	90分/コマ

D. 社会活動

社会活動の概要

9月、11月には熊本大学との共同研究の一環として、企業の事業継続計画(BCP)策定・改善講習会を2回開催し、3月には個別企業のBCP相談会も実施した。2月には、ワシントン大学と東北大学との大学間連携の一環で米国シアトルで、開催されたシンポジウムに参加し、講演を行った。また、防災社会システム研究分野が主催の産官学が参加する「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」を1回のペースで開催を続けている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

No.	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所 丸谷研究室、熊本大学藤見研究室	企業の事業継続計画(BCP)策定・改善講習会第1回	20170907	20170907	肥後銀行熊本駅前支店	熊本市	日本	運営担当	22	IRiDeS協力	講演会・セミナー	
2	国内	災害科学国際研究所 丸谷研究室、熊本大学藤見研究室	企業の事業継続計画(BCP)策定・改善講習会第2回	20171109	20171109	肥後銀行熊本駅前支店	熊本市	日本	運営担当	19	IRiDeS協力	講演会・セミナー	
3	国内	災害科学国際研究所	東北スペシャルセッション～Build Back Better よりよい復興～(防災推進国民大会2017)	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	運営担当	100	IRiDeS主催・共同主催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	Symposium on Natural Disaster Management ~ Lessons from the Great Japan Earthquake and Prospects for the Future~	招待講演	20180223	20180223	Emergency Toilet Management from a Viewpoint of Business Continuity	行政	UW-TU:AOS Thrust-3 Natural Disaster and Hazard, 在シアトル日本総領事館	University of Washington	シアトル	アメリカ	80

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

No.	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター	藤見俊夫	20170907	共同研究	肥後銀行熊本駅前支店会議室	熊本	講演・発表	22
2	徳島大学環境防災研究センター	中野晋、湯浅恭史	20180323	講演	徳島大学環境防災研究センター	徳島	講演・発表	30

川島 秀一 教授  
Shuichi KAWASHIMA

人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	法政大学	社会学部	1976	3							
2					総合研究大学院大学	文化科学研究科			文学博士	2010	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1977	4	1980	6	東北大学附属図書館	
2	1980	7	1998	3	気仙沼市市史編さん室	
3	1998	4	2005	3	気仙沼市図書館	
4	2005	4	2012	3	リアス・アーク美術館	
5	2012	4	2013	3	神奈川大学 日本常民文化研究所	
6	2013	4	現在		現職	

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本民俗学会	日本文化人類学会	日本口承文芸学会	日本カワオ学会	東北民俗の会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本民俗学会	例会委員会	理事	20141000
2	日本カワオ学会		会長	20170708
3	東北民俗の会	研究会担当	常任委員	20150600
4	日本口承文芸学会		理事	20170300

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	漁撈民俗研究	口承文芸研究	災害文化研究

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	附属図書館	商議委員会	委員	20140400

B. 研究活動

研究活動の概要

科研「災害に伴う地域の超長期的な変動の比較研究：東日本大震災被災地を事例に」においては、岩手県大船渡市三陸町の綾里でフィールド・ワークを何度も行ない、継続中である。そのほか、若狭湾に浮かぶ無人島の雄島における海難事故時の役割や、東京都大田区大森の厳正寺における長雨止めの祈禱に由来する「水止舞」の参与観察調査など、災害文化に関する調査を行なった。一方で科研「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワンをめぐる韓国の民俗変化」においても、韓国の巨人島や天草地方などへフィールド調査に行っている。それらの調査報告に十分に時間を使えなかったことが反省点である。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合の研究	国内
2	2015	4	現在		海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究	国外
3	2017	4	現在		災害に伴う地域の超長期的な変動の比較研究：東日本大震災被災地を事例に	国内
4	2017	4	現在		朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワンをめぐる韓国の民俗変化	国内

論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
1	日本語	ハタハタ漁と籤引き神事	学術雑誌	無	いいえ	東北民俗		51	69	78	20170617	川島秀一	単著	なし
2	日本語	シロウオ漁の生活誌	その他	無	いいえ	汽水の生活環境史(報告書)			7	18	2017/03/31	川島秀一	単著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	英語	Small-scale Fisheries in Japan Environmental and Socio-cultural Perspectives	編集本(Author)	20180326	Giovanni Bulian, Yasushi Nakano, Taku Iida, Kumi Soejima, Mitsutaku akino, Tetsuo Yanagi, Shuichi Kawashima, Johannes Harumi Wilhelm	共著	Ca Foscari	国外	

学会発表

単名	5	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原稿)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1 国内	日本人口学会第69回大会		単名	はい	東北大学理学部	仙台	日本	20170610	口頭(一般)	三陸沿岸の港の盛衰—災害と漁業の歴史—	川島秀一	国内	100
2 国内	近畿民俗学会第45回研究会	浦西勉	単名	はい	大阪歴史博物館	大阪	日本	20170618	口頭(一般)	海の民と自然災害	川島秀一	国内	20
3 国内	日本民俗学会第894回談話会(現代におけるフィールドワークの可能性—民俗学の認識形成の場を問う—)	徳丸亜木	単名	はい	成城大学	東京	日本	20170910	口頭(一般)	聞き書きの現場と「民俗書記」	川島秀一	国内	50
4 国内	東北民俗の会	佐藤敏悦	単名	いいえ	仙台市民会館	仙台	日本	20171021	口頭(一般)	日本におけるクジラの供養と祭礼	川島秀一	国内	20
5 国内	世界津波博物館会議		単名	はい	アートホテル石垣島	石垣	日本	20171105	口頭(一般)	海から上がった石の伝承	川島秀一	国内	50

C. 教育活動

教育活動の概要

前期の授業として東北大学の文学部、後期の授業として東北学院大学の教養学部、夏期の集中講義として熊本大学の文学部、冬期の集中講義として東北芸術大学の芸術学部で授業をもち、例年より多くの学生に接することができた。8～11月まで、チューリッヒ大学(スイス)の博士過程の学生を受け入れ、東北における捕鯨の歴史について指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1 宗教学特論	東北大学	文学部	宗教学科	3～4、院	前期	15
2 地域科学特殊講義	熊本大学	文学部	総合人間学科	2～4、院	前期	15
3 地域文化論	東北学院大学	教養学部	地域構想学科	2～4	後期	15
4 東北学A	東北芸術工科大学	芸術学部	歴史遺産学科	2～4	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

「カツオ・セミナーin気仙沼」(日本カツオ学会)開催の実行委員長や、気仙沼市の「復興祈念公園施設検討委員会」の委員長、気仙沼高校「総合学習発表会」のコーディネーターなどを務め、被災地の気仙沼にて活躍する機会に恵まれた。2017年に出版した著書『海と生きる作法—漁師から学ぶ災害観』の反響もあり、講演も多かった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1 件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1 国内	日本カツオ学会	カツオ・セミナーin気仙沼	20170708	20170708	気仙沼プラザホテル	気仙沼市	日本	実行委員長	100	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 9 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1 公開講座	災害の記録と継承論	招待講演	20170502	20170502	年中行事のなかの災害の記録	なし	兵庫県立大学	兵庫県立大学神戸防災キャンパス	神戸市	日本	50
2 講演会・セミナー	第10回「世界農業遺産」勉強会	招待講演	20170624	20170624	契約講と自然災害	行政	大崎市産業政策課	南原集会所	大崎市	日本	20
3 その他	JICA青年研修会	招待講演	20170721	20170721	日本の災害文化	行政	JICA	災害科学国際研究所1Fセミナー室	仙台市	日本	30
4 講演会・セミナー	第20回防災文化講演会	報告	20170916	20170916	災害はどのように伝えられてきたのか	行政	災害科学国際研究所気仙沼分室	気仙沼市中央公民館	気仙沼市	日本	30
5 公開講座	第134回名古屋大学防災アカデミー	招待講演	20171006	20171006	日本の災害文化—災害はどう捉えられ、どう伝えられたか	なし	名古屋大学	名古屋大学減災館1階減災ホール	名古屋市	日本	30
6 講演会・セミナー	宮城県建築住宅センター創立50周年記念フォーラム	招待講演	20171201	20171201	海辺の住み方・暮らし方	企業	宮城県建築住宅センター	メルパルク仙台	仙台市	日本	100
7 講演会・セミナー	シンポジウム「定置網の歴史と文化を探る」	報告	20171210	20171210	三陸沿岸の大謀略—その生活と文化	行政	島の館(平戸市教育委員会)	平戸市生月町中央公民館	平戸市	日本	100
8 講演会・セミナー	「生涯現役塾」	招待講演	20180209	20180209	日本の災害文化—死者供養と地蔵信仰	なし	生涯現役塾	災害科学国際研究所5F会議室	仙台市	日本	20
9 講演会・セミナー	歴史フォーラム	招待講演	20180324	20180324	黒潮に運ばれた道	行政	同志社大学創造経済研究センター、同志社大学ライフリスク研究センター	目黒区民センター2階集会室	東京都	日本	40

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	宮城県教育委員会	宮城県文化財保護審議委員会	副委員長	20060400
2 地方自治体	気仙沼市教育委員会	気仙沼市文化財保護審議委員会	委員	20040400
3 地方自治体	本吉・気仙沼地方広域行政事務組合	リアス・アーク美術館協議会	副委員長	20140400
4 地方自治体	気仙沼市総務課	復興祈念公園施設検討委員会	委員長	20170400
5 地方自治体	松島町教育委員会	歴史文化基本構想策定委員会	委員	20160400

蝦名 裕一 准教授

Yuichi EBINA

人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岩手大学	教育学部	1998	3	東北大学大学院	国際文化研究科	2010	3	博士(国際文化)	2010	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	10	2007	3	福島県双葉郡双葉町立双葉中学校	常勤講師
2	2007	4	2008	3	宮城学院高等学校	非常勤講師
3	2008	4	2009	7	岩沼市教育委員会 市史編集室	嘱託職員
4	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
5	2012	4	2015	3	東北大学災害科学国際研究所	助教
6	2015	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
東北史学会	岩手史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	地方史研究協議会	歴史地震研究会

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
日本近世史	歴史災害研究	歴史資料保全研究

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 全学	学術情報整備検討委員会	委員	20150000
2 災害科学国際研究所	過半数代表者	代表者	20150401
3 災害科学国際研究所	安全衛生委員会	委員	20140401

B. 研究活動

研究活動の概要

歴史災害研究においては1611年慶長奥州地震津波に関する研究を深化するとともに、同研究の知見から得られた歴史地形復元に基づく災害研究について秋田県象潟地震など他地域への応用研究に取り組んだ。また、人間文化研究機構・神戸大学と連携した歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業のキックオフとしてのシンポジウムの実施と報告書の編集を行った。史料保全に関する研究としては、気仙郡の資料調査に継続して取り組むとともに、宮城川崎町の住民と共同で史料集「古文書」の編集を担当した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	現在		盛岡藩における儒学受容をめぐる藩政改革と政治抗争の研究	国内
2	2005	4	現在		近世社会における大名評判記の受容にみる「明君」像の研究	国内
3	2009	4	現在		仙合藩における支藩・内分大名の成立過程に関する研究	国内
4	2011	4	現在		災害時における歴史資料・下張り文書の保全に関する研究	国内
5	2011	4	現在		1611年慶長奥州地震津波の歴史資料における記述に関する研究	国内
6	2013	4	現在		山奈宗真史料にみる岩手県沿岸域の歴史津波についての研究	国内
7	2015	4	現在		絵図・地図史料に基づく歴史的景観復元の研究	国内
8	2015	4	現在		宝永富士山噴火をめぐる幕藩社会の対応に関する研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	歴史学研究的観点からみた慶長奥州地震津波	単行本(論文掲載)	無	いいえ	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2017歴史が導く災害科学の新展開	1	1	13	16	20180330	蝦名裕一	単著 国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	2	単著	0	筆頭共著	0	共著	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2017「歴史が導く災害科学の新展開」	編集本(Editor)	20180330	東北大学災害科学国際研究所(担当: 蝦名裕一)	編集	葦山房	国内 500
2	日本語	平成二十九年度川崎の文化財第一二集「古文書」	単行本	20180330	蝦名裕一・高橋陽一	共編	川崎町教育委員会	国内 2000

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
									国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	川崎伊達家文書	その他	無	いいえ	平成二十九年度川崎の文化財第一二集「古文書」		1	70	20180330	蝦名裕一	単著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	4	その他の連名	0	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017セッション	石村大輔	単名	はい	藤張メッセ	千葉市	日本	2017/05/23	口頭(一般)	多様な歴史資料に基づく学際的な歴史津波研究の可能性—1611年慶長奥州地震津波を事例に—	<u>蝦名裕一</u>	なし	7240
国内	歴史地震研究会つくば大会		単名	いいえ	つくばイノベーションプラザ	つくば市	日本	2017/09/16	口頭(一般)	復元地形に基づく歴史災害地形の分析	<u>蝦名裕一</u>	なし	100
国内	歴史地震研究会つくば大会		筆頭連名	いいえ	つくばイノベーションプラザ	つくば市	日本	2017/09/16	ポスター(一般)	帝国大学理科大学の調査資料にみる津波記録・伝承	<u>蝦名裕一</u> ・佐竹健治	国内	100
国内	第5回前近代歴史地震研究会	矢田俊文	筆頭連名	いいえ	新潟大学	新潟市	日本	2017/11/3	口頭(一般)	1804年象潟地震における関村の被害について	<u>蝦名裕一</u> ・今井健太郎・岡田真介・安田容子・高橋成美	国内	40
国内	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告会		筆頭連名	いいえ	武田先端知	東京都	日本	2018/13/14	ポスター(一般)	明治前期における自治体からの地震・津波報告の研究—帝国大学理科大学の調査から—	<u>蝦名裕一</u> ・佐竹健治	国内	80
国内	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告会		筆頭連名	いいえ		東京都	日本	2018/13/14	ポスター(一般)	歴史資料に基づく海岸・河川地形の復元による災害研究手法の構築	<u>蝦名裕一</u> ・森口周二・岡田真介・菅原大助・呉修一・西山昭仁・加納靖之	国内	80

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 2 件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRiDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	東北大学災害科学国際研究所	第21回防災文化講演会「歴史に学ぶ防災」	2017	11	気仙沼市魚市場	気仙沼市	日本	運営	30	IRiDeS主催・共同主催	気仙沼市	国内	講演会・セミナー
国内	東北大学災害科学国際研究所	シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」	2018	02	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	91	IRiDeS主催・共同主催	人間文化研究機構、神戸大学	国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要 (200字以内)

今年度は東北大学における後期全学授業科目「災害の科学」およびリーディング大学院において、歴史資料に基づいた文理連携型の歴史災害研究に関する講義をおこなった。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1 災害の科学	東北大学	全学		1	後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は1611年慶長奥州地震津波およびその後の仙台藩の復興に関する研究、歴史資料に基づいた災害研究について新聞報道をはじめとするメディア取材が多数寄せられ、研究の成果を周知する機会を得た。また、歴史文化史料保全ネットワーク事業シンポジウムは朝日新聞全国版に掲載され大きな反響を得た。

講演・観戦等(研究活動以外)

合計 : 5 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1 講演会・セミナー	小さな杜の学び舎	講演	2017	05	伊達騒動を読み直す—伊達兵部を中心に—	なし	良覚院丁庭園を守る会	良覚院丁庭園	仙台市	日本	30
2 講演会・セミナー	宮城資料ネット講演会	講演	2017	06	史料保全と文理融合を両輪とする歴史災害研究へ	なし	NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク	ANNEX 多目的ホール	仙台市	日本	40
3 講演会・セミナー	日本技術士会宮城県支部豊年技術士懇談会	講演	2017	07	政宗が伝えた宝・仙台～400年前の震災復興～	なし	公益社団法人日本技術士会東北本部宮城県支部	仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール	仙台市	日本	80
4 公開講座	川崎町古文書初級入門講座	講義	2017	10	第5回川崎町古文書初級入門講座	行政	川崎町	川崎町公民館	川崎町	日本	15
5 講演会・セミナー	歴史・考古学から気仙地域の魅力を語るIV	講演	2018	02	旧気仙郡の古文書調査—3.11以後の所在調査・保全活動から—	なし	東北学院大学七海研究室	大船渡市カメリアホール	大船渡市	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク	理事会	理事、事務局	20150701
2 地方自治体	相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	編さん執筆委員	20060224



井内 加奈子 准教授

Kanako IUCHI

人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群社会学類	1994	7	コーネル大学大学院	都市・地域計画学科	2006	5	MRP(地域計画)	2006	5
2					イリノイ大学大学院	都市・地域計画学科	2010	9	PhD(地域計画)	2011	5

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	6	2004	7	株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル 開発計画部	上級技師
2	2004	8	2006	5	コーネル大学 都市・地域計画学科	授業・研究助手
3	2006	8	2010	9	イリノイ大学 都市・地域計画学科	研究助手
4	2010	10	2013	2	世界銀行 金融・経済・都市開発部	都市専門家
5	2013	3	現在		東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	American Planning Association	Earthquake Engineering Research Institute	日本都市計画学会	地域安全学会	American Association of Geographers

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
都市計画・政策	復興計画	国際開発	まちづくり

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学系	工学系男女共同参画委員会	委員	20170401
2	全学	男女共同参画委員会	委員	20170401

B. 研究活動

研究活動の概要

災害管理サイクルの復興フェーズを対象とし、政策・計画の策定・実施過程、及び、政策・計画に関わる意志決定者とコミュニティとの相互作用について研究を行っている。2017年度は、リスク配慮の土地利用と復興計画・実施を研究テーマに、海外では、①台風ハイアンの被災地域(フィリピンレイテ島)、②ハリケーンサンディの被災地域(米国東海岸)での復興過程を探った。また、国内では、東日本大震災の被災地域(東北)の生活再建制度とその進捗の実態についても探究した。東北の復興に関係して、被災地での多様な活動者の動向についての調査も開始した。論文と研究発表は、フィリピン・東北・アメリカの移転再定住を含む復興プロセスの現状と課題が主となった。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	12	現在		フィリピンにおける台風ハイアンからの復興計画と移転・再定住の研究	
2	2014	11	現在		米国ハリケーンサンディ後の復興計画と実施の実態に関する研究	
3	2016	4	現在		東日本大震災におけるすまいの再建に関わる復興の研究	

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	6	合計	8	うち	国際査読有	4	国際査読無	2	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Revisiting Tohoku Recovery: A review of the first five years of rebuilding after the Great East Japan Earthquake and Tsunami	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 2017 American Association of Geographers Annual Meeting					20170405	K. Iuchi	単著	なし
英語	Potential for People-Centered Housing Provision in Post-Yolanda Resettlement in Tacloban City, Philippines	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Proceedings of the Environmental Design Research Association (EDRA) Conference					20170500	E. Maly, K. Iuchi	共著	なし
英語	Public-private collaboration for disaster risk management: A case study of hotels in Matsushima, Japan	学術雑誌	有	いいえ	Tourism Management	61	August	129	140	20170800	Nguyen, D., Imamura, E., & Iuchi, K.	共著	なし
日本語	宮城県での東日本大震災復興検証に向けた事前調査	その他	無	いいえ	日本災害復興学会大会 2017神戸大会 予稿集	2017	-	55	56	20170930	佐藤翔輔, 井内加奈子, 松本行真, 今村文彦	共著	なし
英語	3 years following Typhoon Yolanda: Tracing governments' rebuilding decisions, actions and community rebuilding status	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Proceedings of the 57th Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) Conference	57	-	203	204	20171012	K. Iuchi, E. Maly	筆頭共著	なし
英語	Evolving relationships of housing and education recovery within large scale residential relocation in Tacloban City after Typhoon Yolanda	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Proceedings of the 4th ACURD Conference					20171100	E. Maly, A. Sakurai, K. Iuchi	共著	なし
英語	An interdisciplinary approach to urban reconstruction after the 2011 tsunami	大学紀要	無	いいえ	TU Delft Delta Links					20180220	F. Hooimeijer, F., J. Bricker, K. Iuchi	共著	国外
日本語	水害の浸水深と住宅取引価格変化の関係分析ーハリケーンサンディの被災地を対象にー	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集	74	4	1_1315	1_1320	20180307	井上亮, 大津 颯, 井内加奈子	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	1	単著	2	筆頭共著	1	共著	2	合計	6	うち	国際	2	国内	4
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆者名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	第3章 東日本大震災復興5年の取組と評価 第1節 被災者支援 1. 宮城県における被災者支援(東日本大震災の復興状況に関する調査事業報告書)	その他	20170700	今村文彦, 佐藤翔輔, 井内加奈子(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)	共著	復興庁	国内	オンライン
2	日本語	第3章 東日本大震災復興5年の取組と評価 第2節 公共インフラの復旧と住宅再建の支援 1. 宮城県における公共インフラの復旧と住宅再建(東日本大震災の復興状況に関する調査事業報告書)	その他	20170700	今村文彦, 井内加奈子, 佐藤翔輔(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)	共著	復興庁	国内	オンライン
3	日本語	第1章 5年間の復旧・復興の取組に関する成果と課題の整理 第4節 東日本大震災からの復旧・復興に向けた多様な担い手の整理(平成28年度 東日本大震災記憶伝承・検証調査事業報告書)	その他	20170700	井内加奈子(災害科学国際研究所)	単著	宮城県	なし	
4	日本語	第1章 5年間の復旧・復興の取組に関する成果と課題の整理 第5節 宮城県内活動者の情報収集と分析(平成28年度 東日本大震災記憶伝承・検証調査事業報告書)	その他	20170700	井内加奈子(災害科学国際研究所)	単著	宮城県	なし	
5	英語	The 2011 Japan earthquake and tsunami: Reconstruction and restoration insights and assessment after 5 years	編集本(Editor)	20180000	V. Santiago-Fandiño, S. Sato, N. Maki, K. Iuchi	共編	Springer	両方	
6	英語	Revisiting Tohoku's five-year recovery: Community rebuilding policies, programs and implementation (The 2011 Japan earthquake and tsunami: Reconstruction and restoration insights and assessment after 5 years)	編集本(Author)	20180000	K. Iuchi, R. Olshansky	共著	Springer	国外	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	東日本大震災被災市町村レポート(東松島市ヒアリングレポート)	その他	無	はい	21世紀ひょうご	2017	特別号	43	51	20170900	今村文彦, 井内加奈子, 佐藤翔輔	共著	国内

学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	4	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	2017 American Association of Geographers Annual Meeting	Shatkin, Gavin	単名	いいえ	Hynes Convention Center	Boston	US	20170409	口頭(一般)	Revisiting Tohoku Recovery: A review of the first five years of rebuilding after the Great East Japan Earthquake and Tsunami	<u>K. Iuchi</u>	なし	9400
2	国際	"Voice of Place" edra 48 (Environmental Design Research Association) Conference	Shin, Jung-hye	その他の連名	いいえ	Omni Interlocke n Resort	Bloomfield	US	20170601	口頭(一般)	Displacements and recovery in Tohoku	<u>K. Iuchi</u>	なし	400
3	国際	42nd Annual Natural Hazards Workshop	Nagamatsu, Shingo	単名	いいえ	Omni Interlocke n Resort	Bloomfield	US	20170712	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Displacements and recovery in Tohoku	<u>K. Iuchi</u>	なし	400
4	国際	42nd Annual Natural Hazards Workshop		単名	いいえ	Omni Interlocke n Resort	Bloomfield	US	20170710	ポスター(一般)	Challenges of third-sector organizations in post-disaster community rebuilding: Six-year efforts by intermediary organizations after the Great East Japan Earthquake	<u>K. Iuchi</u>	なし	400
5	国内	日本災害復興学会2017年度神戸大会	澤田雅浩	その他の連名	いいえ	神戸商科キャンパス	神戸	日本	20170930	口頭(一般)	宮城県での東日本大震災復興検証に向けた事前調査	佐藤翔輔, 井内加奈子, 松本行真, 今村文彦	なし	100
6	国際	57th Annual Association of Collegiate School of Planning(ACSP) Conference	Cheng, Chinwen	筆頭連名	いいえ	Denver Marriott City Center	Denver	US	20171014	口頭(一般)	3 years following Typhoon Yolanda: Tracing governments' rebuilding decisions, actions and community rebuilding status	<u>K. Iuchi</u> , E. Maly	なし	1200
7	国際	4th ACURD	Murao, Osamu	その他の連名	いいえ	Tohoku University	Sendai	日本	2017.11.26	口頭(一般)	Evolving Relationships of Housing and School Recovery within Large Scale Residential Relocation in Tacloban City after Typhoon Yolanda	<u>E. Maly</u> , <u>K. Iuchi</u>	なし	200
8	国内	第62回水工学講演会	関根正人	その他の連名	いいえ	岡山大学津島キャンパス	岡山	日本	20180307	口頭(一般)	水害の浸水深と住宅取引価格変化の関係分析ーハリケーンサンディの被災地を対象にー	井上亮, 大津 颯, 井内加奈子	国内	500

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	災害科学国際研究所・総合減災プロジェクトエリア	DRR Colloquium	20170622	20170622	IRIDeS	仙台	日本	幹事	20	IRIDeS主催・共同主催		国外	研究会・ワークショップ
2	国際	世界銀行	World Bosai Forum <Session 42> Engineering a Solution for Disasters: The Promise of Resilient Infrastructure	20171127	20171127	仙台国際センター	仙台	日本	運営委員	100	IRIDeS主催・共同主催		国内	シンポジウム
3	国内	災害科学国際研究所・総合減災プロジェクトエリア	第2回実践的防災学シンポジウム: すこやかな暮らしの復興 ~復興のその先を見据えて~	20180117	20180117	IRIDeS	仙台	日本	運営委員	55	IRIDeS主催・共同主催		国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要 (200字以内)

リーディング大学院の「実践的防災学VII」「実践的防災学国際講義1」の講義では、国際防災政策の現状を理解するために、海外(特に途上国)における防災の実態について具体的な写真や事例を交えながら説明した。基礎ゼミ「国際開発計画と防災」では、国際開発の世界を防災の観点から理解することを目標に「国際社会の組織・機関」「国際開発計画における防災(政策)」の理解を自発的研究スタイルで行うことで促した。更に、全学対象の災害の科学(災害の波及と対応)および社会と災害科学では、ビデオなどによるメディアの活用にて、災害と復興を身近に感じ取る事が出来るような試みを行った。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/コマ
1	実践的防災学VII(分野横断:国際機関、キャリアパス)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー養成プログラム		1セメ	3
2	基礎ゼミ「国際開発計画と防災」	東北大学	全学		1	1セメ	15
3	災害の科学(災害の波及と対応)	東北大学	全学		1	2セメ	2
4	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	1

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

国内外にて講演を行ったが、国外への情報・知識の共有は、東日本の復興計画の策定方法や現況について主に行った。海外での講演は、フィンランド、ネパール、韓国で行った。海外からの受け入れは、ハワイ(ニューオリンズ)とネパールである。国内向けの講演は、東北以外の被災地復興の話と、海外の復興事例を紹介した。これらの活動により、行政(国際協力機構、地方自治体)との関係が強化出来た。更に、海外の大学からの復興の視察の受け入れも行った。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国際	ポートランド市 (Greater Portland Inc)	Portland Best Practice Tour	20170425	20170425	災害科学国際研 究所	仙台	日本	運営	20	IRIDeS協力	その他	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	Portland Best Practice Tour	講義	20170425	20170425	Tohoku recovery progress: A review on neighborhood reconstruction plans and statuses	企業	ポートランド市 (Greater Portland Inc)	災害科学国際 研究所	仙台	日本	20
2	公開講座	金曜フォーラム	講演	20171027	20171027	国際社会における長期的災害調査の意義と 展望:タクロバン市の今	なし	災害科学国際 研究所	災害科学国際 研究所	仙台	日本	30
3	公開講座	実践的防災学シンポジウ ム	講演	20180117	20180117	途上国の住宅復興と医療福祉	なし	災害科学国際 研究所	災害科学国際 研究所	仙台	日本	55

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	Ibashi Japan		理事	20160401

# マリ エリザベス 助教

Elizabeth MALY

人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Reed College	B.A. Art	2000	5	University of Washington-Seattle	建築	2008	6	Masters of Architecture	2008	6
2					神戸大学大学院工学部	建築	2013	3	学術博士(建築)	2013	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	8	2002	7	Lennertz Coyle and Associates(建築都市計画事務所)	オフィスマネージャー、建築事務
2	2002	8	2003	7	AET (Assistant English Teacher), Jet Programme 横浜市	外国語指導助手
3	2006	6	2006	8	ワシントン大学 大学ジャーナル紙 編集委員	編集委員
4	2009	10	2012	3	International Recovery Platform (IRP)	アシスタント研究員
5	2012	4	2014	3	人と防災未来センター	研究員(2013～主任研究員)
6	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	助教

## 学会活動

所属学会

学会名	1	2	3	4	5
日本建築学会	日本都市計画学会	日本住宅会議	災害復興学会	地域安全学会	

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
住宅復興	住まい環境	国際比較	土地利用	災害復興政策

## B. 研究活動

研究活動の概要

This years' research continued with the theme of post disaster housing recovery and relocation, including international comparisons and investigation of several international case studies. The primary focus was on the ongoing process of housing recovery and relocation in Tacloban City, Philippines, after 2013 Typhoon Yolanda (international name Haiyan). Supported by a continuing 2-year Kaken Grant in Aid (Wakate B), the role of NGOs in housing recovery focused on the experiences in Tacloban, along with the New York City area after Superstorm Sandy in the U.S.A. Other international research investigations included projects on pre-disaster recovery planning, and housing recovery after mega disasters, in the United States and China. Research in Japan continued to follow the recovery process after the GEJE, with a focus on housing recovery and residential displacement.

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		東日本大震災後の木造仮設住宅	国内
2	2011	4	現在		東日本大震災後の復興計画と高台移転や土地利用	国内
3	2012	4	現在		自然災害の復興に関する土地利用や移転の国際比較研究	国外
4	2012	10	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興と土地利用 (アメリカ)	国外
5	2012	4	現在		メラピ火山噴火後の住宅復興 (インドネシア)	国外
6	2012	4	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興 (アメリカ)	国外
7	2014	4	現在		インド洋津波後のアチェの住宅復興 (インドネシア)	国外
8	2014	4	現在		台風ハイヤンの復興 (フィリピン)	国外
9	2015	4	現在		住宅復興と教育復元の連携:国際比較的研究 (フィリピン)	国外
10	2016	4	現在		住宅復興の起る NGO 役割	国外

## 論文

単著	2	筆頭共著	2	その他の共著	2	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Potential for People-Centered Housing Provision in Post-Yolanda Resettlement in Tacloban City, Philippines	国際会議 Proceedings	有	いいえ	EDRA		USB			201705	Malv, E. and Iuchi, K.	筆頭共著	国外
英語	Building Back Better with People Centered Housing Recovery	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction					20170912	Malv, E.	単著	国外
英語	A Recent Case of Post-Disaster Recovery Support in the United States-New York City's "Build it Back" Housing Recovery Program after 2012 Superstorm Sandy and NGO Roles	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Japan Society for Disaster Risk Reduction Conference (JSDRR), Oct. 2017,			145	148	20170930	Malv, E.	単著	国外
英語	Multi-Family Housing Reconstruction Extension and Livelihood Adaptation after the 2010 Eruption of Mt. Merapi Indonesia: A Case Study of Post-Disaster Housing Recovery in Huntap Dongelsari (Slemen) Yogyakarta City	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Japan Society for Disaster Risk Reduction Conference (JSDRR), Oct. 2017,			149	152	20170930	Ocvenety, L., Malv, E., And Kondo, T.	共著	国外
英語	3 years following Typhoon Yolanda: Tracing governments' rebuilding decisions, actions and community rebuilding status	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Proceedings of the 57th Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) Conference	57		203	204	201711	Iuchi, K and Malv, E.	共著	国外
英語	Evolving relationships of housing and education recovery within large scale residential relocation in Tacloban City after Typhoon Yolanda	国際会議 Proceedings	有	いいえ	ACURD		USB			201711	Malv, E., Sakurai, A. and Iuchi, K.	筆頭共著	国外

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	1	筆頭 共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 英語	Housing Recovery and Displacement from Fukushima: Five Years Post-Nuclear Meltdown, in The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration	編集本 (Author)	2018	E. Malv	単著	Cham: Springer	国外	

学会発表

単名	2	筆頭 連名	2	その他の 連名	2	合計	6
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1 国際	"Voice of Place" edra 48 (Environmental Design Research Association) Conference	Jung-hye Shin	筆頭連名	いいえ	University of Wisconsin in	Madison, Wisconsin	USA	20170601	口頭(一般)	Potential for People-Centered Housing Provision in Post-Yolanda Resettlement in Tacloban City, Philippines	<u>Malv, E.</u> and <u>Iuchi, K.</u>	国外	600
2 国際	日本災害復興学会大会	室崎益輝	単名	いいえ	兵庫県立大学	神戸市	日本	20171001	口頭(一般)	A Recent Case of Post-Disaster Recovery Support in the United States: New York City's "Build it Back" Housing Recovery Program after 2012 Superstorm Sandy and NGO Roles	<u>Malv, E.</u>	国外	200
3 国際	日本災害復興学会大会	室崎益輝	その他の 連名	いいえ	兵庫県立大学	神戸市	日本	20171001	口頭(一般)	Multi-Family Housing Reconstruction Extension and Livelihood Adaptation after the 2010 Eruption of Mt. Merapi Indonesia: A Case Study of Post-Disaster Housing Recovery in Huntap Dongelsari (Stemen) Yogyakarta City	Ocvenety, L., <u>Malv, E.</u> And Kondo, T.	国外	200
4 国際	57th Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) Conference	Cheng, Chinwen	その他の 連名	はい	Denver Marriott City Center	Denver	USA	20171014	口頭(一般)	3 years following Typhoon Yolanda: Tracing governments' rebuilding decisions, actions and community rebuilding status	<u>Iuchi, K.</u> and <u>Malv, E.</u>	国外	100
5 国際	International Symposium on Local Historical Materials	奥村 弘	単名	はい	神戸大学	神戸市	日本	20171111	口頭(一般)	Story-gathering and Story-telling: Disaster Archives from a Researcher's Point of View	<u>Malv, E.</u>	国外	100
6 国際	4th ACURD	村尾 修	筆頭連名	いいえ	IRIDeS	仙台市	日本	20171126	口頭(一般)	Evolving Relationships of Housing and School Recovery within Large Scale Residential Relocation in Tacloban City after Typhoon Yolanda	<u>Malv, E.</u> , Sakurai, A, and <u>Iuchi, K.</u>	国外	40

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数 (うち非属人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
			開始年月	終了年月									
1 国際	災害科学国際研究所・総合減災プロジェクトエリア	DRR Colloquium	20170622	20170622	IRIDeS	仙台	日本	Organizer	20	IRIDeS主催・ 共同主催		国外	研究会・ ワーク ショップ
2 国際	Tohoku University Risk and Recovery Hub	「仙台防災枠組みの本質とその国際交渉」	20180110	20180110	IRIDeS	仙台	日本	Organizer	12	IRIDeS主催・ 共同主催		国外	研究会・ ワーク ショップ
3 国内	災害科学国際研究所・総合減災プロジェクトエリア	第2回実践的防災学シンポジウム: すこやかな暮らしの復興 ~復興のその先を見据えて~	20180117	20180117	IRIDeS	仙台	日本	Organizing Committee	55	IRIDeS主催・ 共同主催		国内	シンポジ ウム

C. 教育活動

教育活動の概要 (200字以内)

This year's teaching activity included involvement in Tohoku University Kiso Zemi, and guest lectures at several other universities.

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 (90分/コマ)
1	基礎ゼミ「国際開発計画と防災」	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	まちづくりコース	横浜国立大学	国際総合科学部	まちづくり入門	1		1
3	国際社会特別講義	東洋英和女学院大学	国際社会学部		3		1

D. 社会活動

社会活動の概要

I was actively involved in sharing information about disaster mitigation and recovery in Japan and Tohoku recovery with international audiences through various public and academic events and lectures, including hosting many visitors at IRIDeS.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1 国内	災害科学国際研究所・総合減災プロジェクトエリア	第2回実践的防災学シンポジウム: すこやかな暮らしの復興 復興のその先を見据えて	20180117	20180117	IRIDeS	仙台	日本	実行委員会	60	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計	14 件
----	------

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
			開始年月日	終了年月日							
1 講演会・セミナー	神戸大学都市安全センター オープンセミナー	講義	20170610	20170610	フィリピンで2013年に発生した台風よらんだ後のタクロバン市の住宅復興とNGOの役割	なし	神戸大学都市安全センター	神戸市危機管理センター	神戸市	日本	50
2 講演会・セミナー	Seminar for JOCA trainees	講義	20170713	20170713	Housing Recovery Six Years after the Great East Japan Earthquake	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台市	日本	30

3	講演会・セミナー	APRU Summer School	講義	20170718	20170718	Housing Recovery Six Years after the Great East Japan Earthquake	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台市	日本	45
4	講演会・セミナー	共同研究の勉強会	講義	20170812	20170812	Community-based Disaster Reconstruction after 2010 Mt. Merapi Volcanic Eruption in Yogyakarta	なし	National Taiwan University	Pingtung University	Kaohsiung	台湾	30
5	講演会・セミナー	勉強会	講義	20170918	20170918	Housing Recovery Six Years after the Great East Japan Earthquake	行政	USGS	USGS		USA	30
6	小中高との連携	福島高専のIRIDeS訪問	講義	20171018	20171018	災害後の住宅復興: 日本と海外の事例	小中高	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	50
7	講演会・セミナー	International Symposium on Local Historical Materials	講義	20171111	20171111	Story-gathering and story-telling: Disaster archives from a researchers' point of view	企業	神戸大学	神戸大学	神戸	日本	200
8	講演会・セミナー	IAL 研修	講義	20180126	20180126	Housing Recovery 7 Years after the 2011 Great East Japan Earthquake	企業	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	30
9	講演会・セミナー	Kobe University Campus Asia 研修	講義	20180207	20180207	Housing Recovery 7 Years after the 2011 Great East Japan Earthquake	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	20
10	講演会・セミナー	第2回実践的防災学シンポジウム: すこやかな暮らしの復興復興のその先を見据えて	講義	20180117	20180117	汶川大震災における住まいの再生と地域の活性化	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	150
11	講演会・セミナー	Symposium on Natural Disaster Management: Lessons from the Great East Japan Earthquake and Prospects for the Future	講義	20180223	20180223	Post-Disaster Housing Recovery in Japan and Key Issues after the GEJE	行政	University of Washington	University of Washington	Seattle	USA	83
12	講演会・セミナー	Forum on School-Community Collaborations: Toward Resiliency and Disaster Preparedness	講義	20180305	20180305	Sharing about the 3.11 Great East Japan Earthquake and Tsunami and Our Research in Tacloban	行政	Eastern Visayas State University	Eastern Visayas State University	Tacloban City	Philippines	50
13	講演会・セミナー	東日本大震災7周年シンポジウム: 地域社会に開かれた災害研を目指して	講義	20180311	20180311	人間中心の住宅復興に必要なこと: 日本とアメリカの住宅復興事例から	行政	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	150
14	講演会・セミナー	Research Meeting with Texas A and M University and Kobe University	講義	20180325	20180325	Post-Disaster Housing Recovery in Japan and Key Issues after the GEJE	なし	神戸大学	IRIDeS	仙台	日本	5

# 岩田 司 教授

## Tsukasa IWATA

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1982	3	東京大学大学院	工学系研究科	1989	3	工学博士	1989	3

#### 職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1991	9	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	研究員
2	1991	10	1992	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	研究員
3	1992	4	1997	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	主任研究員
4	1995	4	2001	3	筑波大学 第三学群社会学類	非常勤講師(併任)
5	1997	4	1999	3	建設省建築研究所 第五研究部 設計計画研究室	室長
6	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
7	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
8	2001	1	2001	3	国土交通省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
9	2001	4	2004	3	国土交通省国土技術政策総合研究所建設経済研究室	室長
10	2004	4	2013	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	上席研究員
11	2005	4	2015	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	教授(連携大学院・併任)
12	2013	4	2015	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	主席研究監
13	2015	4	2017	3	国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ	客員研究員
14	2015	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
建築学会	都市計画学会	都市住宅学会	造園学会	リモートセンシング学会	日本建築家協会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	建築学会	住まい・まちづくり支援建築会議	会員	20120600
2	建築学会	東日本大震災における実効的復興支援の構築に関する特別調査委員会	幹事	20140400

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
地域住宅計画	地域型復興住宅	居住環境計画	地域運営	都市設計

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	人間環境系	設計教育委員会	委員	20170401
2	人間環境系	研究・教育安全委員会	委員長	20150401
3	人間環境系	学部入試委員会	委員	20150401
4	工学研究科	オープンキャンパス実施委員会	委員	20170401
5	工学研究科	超臨界溶媒工学研究センター	委員	20170401
6	工学研究科	マイクロ・ナノマシニング教育研究センター運営委員会	委員	20160401
7	工学研究科	放射線障害予防委員会	委員	20160401
8	全学	学際高等研究教育院運営専門委員会	委員	20150401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) 福島県における木造応急仮設住宅の移築、転用の実態を調査し、その効果を明らかにした。(2) 九州北部水害の山林被害の実態調査を行い、そのメカニズムを明らかにするとともに、流倒木の再活用に関する調査を行い、その効果を明らかにした。(3) 熊本地震の被災地における地場産材を活用した地域型復興住宅の省エネを中心とした技術指導を行いながら、その実態を記録し、整理した。(4) 熊本県庁と木造応急仮設住宅建設手法とその意義を整理し、今後の大規模災害時における転用等の再利用を見据えた木造応急仮設住宅の整備のあり方について整理をした。(5) 長崎街道沿いに旧宿場町の建物の建て方を調査し、整理した。(6) 同济大学(上海)華中科技大学(武漢)と協力し、四川大震災後の復興計画とそれによる地域の再建、活性化の実態に関する調査を行い、その結果を整理した。(7) AIにおける画像認識技術を応用し、航空写真から画像として直接建物を認識するプログラムを開発した。(8) 全国の地域住宅計画策定市町村の報告書、成果写真を電子データ化し、地域住宅計画の類型化を行った。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		住まい・まちの地域制に関する研究	国内
2	2016	4	現在		木造応急仮設住宅の活用方策に関する研究	国内
3	2016	4	現在		地域型復興住宅に関する研究	国内
4	2017	4	現在		伝統的な町家地区における屋根の掛け方に関する研究	国内
5	2017	4	現在		AIを活用した地区区分手法に関する研究	国内
6	2017	4	現在		災害や地域の特性に対応した木造応急仮設住宅の供給手法に関する研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	仙台市内郊外戸建住宅団地開発における庭面積変化とその要因に関する研究	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集(建築計画)			1193	1194	20170831	足立加奈子, 岩田司	共著	国内
2	日本語	福島県三春町における土蔵造の歴史的建物除却に関する研究 — 市街地整備の手法に着目して —	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画)			291	292	20170831	山崎拓也, 岩田司	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	地域が元気になる住まいづくり、まちづくり～災害に強い、持続可能な地域づくりに関する研究～	その他	無	いいえ	翠聲		32	29	32	20180200	岩田司	単著 国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 2 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(含む主催)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	第2回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興～復興のその先を見据えて」	20180117	20180117	災害科学国際研究所、1階多目的ホール	仙台市	日本	幹事	53	IRIDeS主催・共同主催		国内	シンポジウム
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	東日本大震災7周年記念シンポジウム「地域社会に開かれた災害研を指し〜地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装〜」	20180311	20180311	災害科学国際研究所、1階多目的ホール	仙台市	日本	実行委員長	135	IRIDeS主催・共同主催		国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

工学部建築・社会環境工学科、及び工学系研究科人間環境系都市・建築専攻において、授業、及び設計演習を行うとともに、卒業論文、及び修士の指導を行った。また中国及びタイからの研究生の指導を行った。なお、筑波大学において指導教官であった博士課程の学生が筑波大学システム情報工学科において、審査(副査として)を行い、博士(工学)を取得した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	基礎設計B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	
2	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1.5
3	災害の科学	東北大学	全学		1	1セメ	1.5
4	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1.5
5	居住計画論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	
6	都市分析学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	
7	都市・建築計画学特論A	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	1.5

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、これまでの国内からの招待講演に加え、中国からの招待講演を行った。また所内のイベントのコーディネーターのほか、高等学校の生徒の見学対応、出前講義や模擬講義などを通じて、大学での勉学の基礎や災害科学国際研究所における研究活動などを、積極的にを行い、将来東北大学を目指す若者とふれあうことができた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	住宅総合政策研修	招待講演	20170517	20170517	地域に根ざした家づくり	行政	国土交通大学	国土交通大学	小平市	日本	35
2	講演会・セミナー	Seminar of "Wuhan China-Japan-South Korea Comparative Studies about Planning of Small Towns " in 2017	招待講演	20170602	20170603	Attractive Urban Design in the pretty local town- To create the livable town-	なし	华中科技大学 建築与城市企画学院	华中科技大学	武漢市	中国	100
3	講演会・セミナー	金曜フォーラム	講演	20170526	20170526	応急仮設住宅と住宅復興	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所多目的ホール	仙台市	日本	61
4	小中高との連携	第41回全国高等学校総合文化祭(みやぎ総文2017)自然科学部門	研修	20170803	20170803	東北大学災害科学国際研究所巡検研修	小中高	第41回全国高等学校総合文化祭宮城県実行委員会	東北大学災害科学国際研究所多目的ホール	仙台市	日本	45
5	小中高との連携	大学出張講義	講義	20170920	20170920	日本の住まいとまちの地域性	小中高	宮城県泉高等学校	宮城県泉高等学校	仙台市	日本	60
6	小中高との連携	模擬授業	講義	20171017	20171017	日本の住まいとまちの地域性	小中高	新潟県立新発田高等学校	東北大学人間環境系教育研究棟	仙台市	日本	25
7	小中高との連携	模擬授業	講義	20171207	20171207	日本の住まいとまちの地域性	小中高	静岡県立焼津中央高等学校	静岡県立焼津中央高等学校	静岡市	日本	60

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	小田原箱根商工会議所	櫻井泰行, 大川修平	20170523	講演	小田原箱根商工会議所	小田原市	講演・発表	10



寺田 賢二郎 教授

Kenjiro TERADA

地域・都市研究部門 地域安全工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	名古屋大学	工学部	1990	3	米国ミシガン大学	工学部	1996	3	Ph.D	1996	5

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	1997	6	東京大学 大学院工学系研究科 船舶海洋工学専攻	助手
2	1997	7	1999	6	東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
3	1999	7	2012	6	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	助教授(2007~准教授)
4	2012	7	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	材料学会	日本鉄鋼協会	非線形 CAE 協会	International Association for Computational Mechanics	Asia-Pacific Association for Computational Mechanics

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本計算工学会		会長	20160601
2	日本計算工学会	表彰委員会	委員長	20160601
3	日本計算工学会	多元災害シミュレーション研究会	主査	20150601
4	International Association for Computational Mechanics		Vice-President	20140801
5	International Association for Computational Mechanics	Executive Council	Member	20140501
6	International Association for Computational Mechanics	General Council	Member	20120501
7	非線形CAE協会		理事長	20090601
8	非線形CAE協会	非線形CAE勉強会実行委員会	委員長	20090601
9	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Editorial Board	Associate Editor	20151001
10	Computational Mechanics	Editorial Board	Member	20110000
11	Engineering Computations	Editorial Board	Member	20140000
12	Journal of Mechanics of Materials and Structures	Board of Editors	Member	20180130

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	計算力学	応用力学	構造工学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	情報広報室運営委員	委員	20160401
2	工学研究科	大学院教務委員会	委員	20170401
3	工学研究科	研究企画会議	委員	20170401
4	全学	情報公開・個人情報開示等審査委員会	副委員長	20170401

B. 研究活動

研究活動の概要 (200~300字)

(1) 固体を含む流体の挙動について、マルチスケール数値実験法を提案し、検証を重ねている。現象を空間的に階層化された構造物の被害にも着目し、相対的に小さい空間スケールでの現象に対して高精度の流体・構造連成解析を行い、広域での災害時物理現象の特徴づけと構造物被害予測のための方法論を提示しようとしている。(2) 材料の劣化から構造物のひび割れ、その後の崩壊挙動をマルチスケール現象と名付けて、その再現を可能とする数値シミュレーション手法の構築を行っている。(3) 地表地震断層による地域・都市域の地盤変位の予測シミュレーションを試みている。有限変形理論の枠組みで弾塑性損傷モデルの表現性能を検証した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		マルチスケール CAE ソフトウェアの開発	国内
2	2010	4	2016	3	コンクリート材料の強度発現機構に対する非均質性の影響再考	国内
3	2012	4	2016	3	構造と材料の劣化プロセス・強度発現機構の解明と最適設計	国内
4	2012	4	現在		マルチスケール・マルチフィジクス解析手法の開発と CAE の高度化	なし
5	2012	4	現在		地域・都市の安全性評価のための重層的連成解析手法の開発	国内
6	2013	4	現在		遡上津波と構造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	国内
7	2014	4	2016	3	セラミックス材料の乾燥・収縮シミュレーション手法の開発	国内
8	2015	4	現在		供用環境因子を考慮した時空間マルチスケール破壊力学モデルの構築	国内
9	2016	4	現在		災害リスク評価のためのマルチスケール破壊シミュレーション手法の開発	国内
10	2017	4	現在		地震負荷履歴を受けた鋼構造物の残留強度評価のための二重損傷モデル	国内
11	2017	4	現在		変形・流動解析のための Material Point Method の開発と土砂災害シミュレーションへの応用	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	18	合計	18	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	10	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
日本語	計算固体力学の研究動向と実設計への適用	学術雑誌	有	いいえ	社会技術研究論文集	14		167	177	20170600	小林卓哉, 寺田賢二郎	共著	国内	
英語	Micro-Texture Design and Optimization in Hydrodynamic Lubrication via Two-Scale Analysis	学術雑誌	有	いいえ	Structural and Multidisciplinary Optimization	56	2	227	248	20170800	A. Waseem, I. Temizer, J. Kato, K. Terada	共著	国外	
日本語	混合ガウスモデルを用いた落石リスクの空間的・確率論的評価	学術雑誌	有	いいえ	地盤工学ジャーナル	12	2	221	221	20170630	菅野蓮華, 森口周二, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 沢田和秀, 児波昌則	共著	国内	
日本語	非ニュートン流体モデルを用いた雪崩の3次元非構造有限要素解析	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集					20170011	20170829	山口裕矢, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 小田憲一, 上石勲	共著	国内
英語	Recent Achievements of NEDO Durability Project with an Emphasis on Correlation Between Cathode Overpotential and Ohmic Loss	学術雑誌	有	いいえ	Fuel Cells	17	4	473	497	20170800	Harumi Yokokawa, Yuichi Hori, Takashi Shigehisa, Minoru Suzuki, Shuichi Inoue, Takanori Suto, Kazuo Tomida, Megumi Shimazu, Akira Kawakami, Hiroshi Sumi, Makoto Ohmori, Naoya Mori, Toshiaki Iha, Katsuhiko Yamaji, Haruo Kishimoto, Katherine Develos-Bagarinao, Kazumari Sasaki, Shunsuke Taniguchi, Tatsuya Kawada, Mayu Muramatsu, Kenjiro Terada, Koichi Eguchi, Toshiaki Matsui, Hiroshi Iwai, Masashi Kishimoto, Naoki Shikazono, Yoshihiro Mugikura, Tohru Yamamoto, Masahiro Yoshikawa, Kenji Yasumoto, Koichi Asano, Yoshio Matsuzaki, Shinji Amaha, Takaaki Somekawa	共著	国内	
英語	Numerical simulations of non-stationary distributions of electrochemical potentials in SOFC	学術雑誌	有	いいえ	Engineering Computations	34	6	1956	1988	20170000	Mayu Muramatsu, Keiji Yashiro, Tatsuya Kawada, Kenjiro Terada	共著	国内	
英語	Characterization of transition from Darcy to non-Darcy's flow with 3D pore-level simulations	学術雑誌	有	いいえ	Soils and Foundations	57	5	707	719	20171000	Ikkoh Tachibana, Shuji Moriguchi, Shinsuke Takase, Kenjiro Terada, Takayuki Aoki, Kohji Kamiya, Takeshi Kodaka	単著	国内	
英語	A set of constitutive functions for dried body to predict entire deformation process of ceramic products during firing	学術雑誌	有	いいえ	Engineering Computations	34	8	2668	2697	20170000	Seishiro Matsuura, Kenjiro Terada, Takaya Kobayashi, Toshiyuki Saitou, Manabu Umeda, Yasuko Mihara, Kai Oide, Hiroto Shin, Yasuhiro Katsuda	共著	国内	
英語	Anisotropic Damage Constitutive Law for Cleavage Failure in Crystalline Grain by Cohesive Zone Model	学術雑誌	有	いいえ	溶接学会論文集	35	2	165s	168s	20170000	Yuichi Shintaku, Kenjiro Terada and Seiichiro Tsutsumi	単著	国内	
英語	Two-scale topology optimization for composite plates with in-plane periodicity	学術雑誌	有	はい	International Journal for Numerical Methods in Engineering	113	8	1164	1188	20180224	Shinnosuke Nishi, Kenjiro Terada, Junji Kato, Shinji Nishiwaki, Kazuhiro Izui	共著	国内	
英語	Micro-macro concurrent topology optimization for nonlinear solids with a decoupling multi-scale analysis	学術雑誌	有	はい	International Journal for Numerical Methods in Engineering	113	8	1189	1213	20180224	Junji Kato, Daishun Yachia, Takashi Kyoya, Kenjiro Terada	共著	国内	
日本語	個別要素法を用いた落石解析における斜面の空間特性の影響	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	I_507	I_516	20180131	上原直秀, 橋 一光, 菅野蓮華, 森口周二, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 大竹 雄	共著	国内	
日本語	有限ひずみ損傷モデルを用いた断層の動きに伴う表層地盤変状解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	I_497	I_505	20180131	大川真里奈, 鈴木峻, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 車谷麻緒	共著	国内	
日本語	個別要素法解析に基づく落石防護工の最適設計手法の提案	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	I_469	I_476	20180131	菅野蓮華, 森口周二, 高瀬慎介, 寺田賢二郎	共著	国内	
日本語	浅水長波方程式を用いた有限被覆法に基づく構造流体連成解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	I_305	I_302	20180131	高瀬慎介, 山口裕矢, 森口周二, 寺田賢二郎, 野島和也, 櫻庭雅明	共著	国内	
日本語	板状デバイスの非線形マルチスケール解析に対する数値平板試験	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	I_283	I_294	20180131	佐藤雅美, 村松真由, 松原成志朗, 西神之介, 寺田賢二郎, 八代圭司, 川田達也	共著	国内	
日本語	固液混合流体の直接数値シミュレーションによる巨視的粘性評価	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集					20182007	20182007	野村怜佳, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎	共著	国内
日本語	繊維束の接触・摩擦を考慮したドライファブリックのインジメトリック均質化解析	学術雑誌	有	いいえ	日本機械学会論文集	84	859	17-00554	17-00554	20180305	西神之介, 寺田賢二郎, Ilker Temizer	共著	国内	

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	0	筆頭 共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	2	国内	0
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 英語	A Viscoelastic-Viscoplastic Combined Constitutive Model for Thermoplastic Resins (Advances in Computational Plasticity: A Book in Honour of D. Roger J. Owen, Computational Methods in Applied Sciences)	編集本 (Author)	20170/922	Seishiro Matsubara, Kenjiro Terada (Eugenio Oñate, Djordje Peric, Eduardo de Souza Neto)	共著	Springer Nature	なし	
2 英語	A Method of Numerical Viscosity Measurement for Solid-Liquid Mixture (Multiscale Modeling of Heterogeneous Structures, Lecture Notes in Applied and Computational Mechanics)	編集本 (Author)	20171203	Reika NOMURA, Kenjiro TERADA, Shinsuke TAKASE, Shuji MORIGUCHI (Jurica Sorić, Peter Wriggers, Olivier Allix)	共著	Springer Nature	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際 査読有	0	国際 査読無	0	国内 査読有	0	国内 査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外 連携	
1 日本語	結晶塑性と加工誘起マルテンサイト変態を考慮した非線形有限要素解析	学術雑誌	無	いいえ	溶接学会誌	86	6	443	447	20171002	堤成一郎, Fincato Riccardo, 寺田 賢二郎	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭 連名	3	その他の 連名	24	合計	29
----	---	----------	---	------------	----	----	----

国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の 形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1 国内	第20回応用力学シンポジウム	泉 典洋	その他の連名	いいえ	京都大学吉田キャンパス	京都	日本	20170520	口頭(一般)	浅水長波方程式を用いた有限被覆法に基づく構造流体連成解析	高瀬 慎介, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 野島 和也, 松庭 雅明	国内	150
2 国内	第20回応用力学シンポジウム	泉 典洋	その他の連名	いいえ	京都大学吉田キャンパス	京都	日本	20170520	口頭(一般)	板状デバイスの非線形マルチスケール解析を想定した数値平板試験	佐藤 維美, 村松 眞由, 松原 成志朗, 西神 之介, 寺田 賢二郎, 八代 圭司, 川田 達也	国内	150
3 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	固体酸化燃料電池の非定常電気化学-力学連成解析システムの構築	佐藤 維美, 村松 眞由, 寺田 賢二郎, 渡辺 智, 八代 圭司, 川田 達也, 横川 晴美	国内	350
4 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	強弾性材料 LSCF の微視組織を考慮したマルチスケールシミュレーション	村松 眞由, 八代 圭司, 川田 達也, 寺田 賢二郎	国内	350
5 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	粘弾性・粘塑性複合構成則の開発を目的とした熱可塑性樹脂の材料試験	前田 隆世, 小林 卓哉, 住山 琢哉, 古市 謙次, 野々村 千里, 村田 真伸, 西脇 武志, 松原 成志朗, 寺田 賢二郎	国内	350
6 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	マルチスケール解析による一方強化複合材の破壊予測に関する研究	井口 賢太郎, 平山 紀夫, 山本 晃司, 寺田 賢二郎	国内	350
7 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	板状デバイスの非弾性マルチスケール解析のための数値平板試験	佐藤 維美, 村松 眞由, 松原 成志朗, 西神 之介, 寺田 賢二郎, 川田 達也	国内	350
8 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	均質化と樹脂流動の連成による射出成形品の非線形構造解析	柚木 和徳, 山本 晃司, 平山 紀夫, 寺田 賢二郎	国内	350
9 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	繰り返し荷重を経験した鋼構造物の残存耐力評価のための基礎的検討	新宅 勇一, 番場 良平, 渡部 慎也, 堤成一郎, 寺田 賢二郎	国内	350
10 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	HPMを用いた骨組構造の大変位解析と崩壊判定	山口 清道, 山村 和人, 竹内 剛雄, 寺田 賢二郎	国内	350
11 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	非構造格子を用いた実地形を考慮した雪崩の流動解析	山口 裕矢, 高瀬 慎介, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 上石 照	国内	350
12 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	結合力理型損傷構成則の疲労問題への適用	新宅 勇一, 堤成一郎, 寺田 賢二郎	国内	350
13 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	計算力学における汎用 FEM の役割	小林 卓哉, 寺田 賢二郎	国内	350
14 国内	第22回計算工学講演会	岡澤重信	その他の連名	いいえ	ソニックシティー	大宮	日本	20170531	口頭(一般)	固体酸化燃料電池の非定常電気化学-力学連成解析システムの構築	佐藤 維美, 村松 眞由, 寺田 賢二郎, 渡辺 智, 八代 圭司, 川田 達也, 横川 晴美	国内	350

15	国際	21st International Conference of Solid State Ionics (SSI-21)	Vito Di Noto	その他の連名	いいえ	Palazzo della Ragione & Mensa Nord Piovego	Padua	Italy	20170620	口頭(一般)	Visualization of Potential Distribution in the YSZ Electrolyte under SOFC operation	Haruo Kishimoto, Mayu Muramatsu, Taro Shimonosono, Tomohiro Ishiyama, Katherine Develos-Bagarinao, Katsuhiko Yamaji, Teruhisa Horita, <u>Kenjiro Terada</u> , Keiji Yashiro, Tatsuya Kawada, Harumi Yokokawa	国内	100
16	国際	21st International Conference of Solid State Ionics (SSI-21)	Vito Di Noto	その他の連名	いいえ	Palazzo della Ragione & Mensa Nord Piovego	Padua	Italy	20170620	口頭(一般)	A Large Scale Electro-chemo-mechanical Analysis of Solid Oxide Fuel Cell Considering Creep Deformation Under Operation	Mayu Muramatsu, Masami Sato, <u>Kenjiro Terada</u> , Satoshi Watanabe, Keiji Yashiro, Tatsuya Kawada, Fumitada Iguchi, Harumi Yokokawa	国内	100
17	国際	14th U.S. National Congress on Computational Mechanics (USNCCM14)	Steven Dufour, Marc Laforest, Serge Prudhomme	筆頭連名	いいえ	Palais des Congrès de Montréal	Montréal	Canada	20170719	口頭(Keynote)	Thermo-Mechanical Coupled Numerical Material Testing for Polymeric Composite Materials	<u>Kenjiro Terada</u> , Seishiro Matsubara, Masayasu Kishi, Mayu Muramatsu	国内	300
18	国際	XIV International Conference on Computational Plasticity. Fundamentals and Applications	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti	筆頭連名	はい	Universitat Politècnica de Catalunya	Barcelona	Spain	20170906	口頭(Plenary)	Two-scale characterization of fiber-reinforced polymers with self-heating effect	<u>Kenjiro Terada</u> , Seishiro Matsubara, Masayasu Kishi, Mayu Muramatsu	なし	200
19	国際	XIV International Conference on Computational Plasticity. Fundamentals and Applications	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti	その他の連名	いいえ	Universitat Politècnica de Catalunya	Barcelona	Spain	20170906	口頭(一般)	An adaptive transition approach from weak-to strong-discontinuity by cohesive-traction embedded damage-like constitutive law and finite cover method	Yuichi Shintaku, <u>Kenjiro Terada</u> , Seichiro Tsutsumi	国内	200
20	国際	XIV International Conference on Computational Plasticity. Fundamentals and Applications	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti	その他の連名	いいえ	Universitat Politècnica de Catalunya	Barcelona	Spain	20170906	口頭(一般)	Material design applying a multi-scale topology optimization for elastoplastic solids	Junji Kato, Shun Ogawa, Takashi Kyoya, <u>Kenjiro Terada</u>	国内	200
21	国内	日本機械学会 第30回 計算力学講演会(CMD2017)	和田 義孝	その他の連名	いいえ	近畿大学 東大阪キャンパス	大阪	日本	20170917	口頭(一般)	Phase-field法を用いた固体酸化物燃料電池材料の相変態-変形連成シミュレーション	村松慎由, 八代圭司, 川田達也, 寺田賢二郎	国内	200
22	国内	日本機械学会 第30回 計算力学講演会(CMD2017)	和田 義孝	その他の連名	いいえ	近畿大学 東大阪キャンパス	大阪	日本	20170917	口頭(一般)	結合力理込型損傷構成則と有限被覆法を用いた不連続面進展解析の基礎的検討	新宅勇一, 寺田賢二郎, 堤成一郎	国内	200
23	国内	日本機械学会 M&M2017材料力学カンファレンス	佐々木 克彦	その他の連名	いいえ	北海道大学工学部	札幌	日本	20171008	口頭(一般)	数値平板試験による型固体酸化物燃料電池のマルチスケール解析	佐藤維美, 村松慎由, 松原成志朗, 西神之介, 寺田賢二郎, 八代圭司, 川田達也	国内	200
24	国際	2nd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (Compsafe2017)	Zhuo Zhuang, Minwu Yuang	筆頭連名	いいえ	InterContinental Century City Chengdu	Chengdu	China	20171016	口頭(一般)	Thermomechanical computational homogenization for FRTP	<u>Kenjiro Terada</u> , Seishiro Matsubara, Masayasu Kishi, Mayu Muramatsu	国内	200
25	国際	2nd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (Compsafe2017)	Zhuo Zhuang, Minwu Yuang	その他の連名	いいえ	InterContinental Century City Chengdu	Chengdu	China	20171016	口頭(一般)	A probabilistic approach of rockfall risk evaluation based on DEM simulations	Shuichi Moriguchi, Hasuka Kanno, Shinsuke Takase, <u>Kenjiro Terada</u> , Yu Otake	国内	200
26	国際	ECCOMAS Thematic Conference on Computational modeling of Complex Materials across the Scales (CMCS 2017)	Julien Yvonnet	筆頭連名	はい	Espace Saint Martin	Paris	France	20171108	口頭(Plenary)	Enhancing microstructural analyses in computational homogenization	<u>Kenjiro Terada</u> , Seishiro Matsubara, Shinnosuke Nishi, Masayasu Kishi, Mayu Muramatsu	国内	150
27	国際	ECCOMAS Thematic Conference on Computational modeling of Complex Materials across the Scales (CMCS 2017)	Julien Yvonnet	その他の連名	いいえ	Espace Saint Martin	Paris	France	20171108	口頭(一般)	A multi-scale simulation of ferroelastic phase formation in LSCF polycrystal based on phase-field method	Mayu Muramatsu, Keiji Yashiro, Tatsuya Kawada, <u>Kenjiro Terada</u>	国内	150
28	国際	AOS-Fall 2017 - University of Washington - Tohoku University Academic Open Space	Fumio Ohuchi, Tomonaga Okabe	単名	はい	Allen Library, University of Washington	Seattle	USA	20171117	口頭(一般)	Advanced failure simulations and multiscale strength evaluation method	<u>Kenjiro Terada</u>	なし	50
29	国際	Korea-Japan Joint Workshop on Computational Mechanics in Civil Engineering	Shigenobu Okazawa	単名	はい	土木学会 講堂	東京	日本	20171213	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Numerical material testing for dry woven fabric with frictional-contact	<u>Kenjiro Terada</u>	なし	40

C. 教育活動

教育活動の概要

博士課程の学生全員を国際会議にて口頭発表させ、国際的な視点での研究の展開を意識させた。また、土木工学専攻の学部生、大学院生に対する専門教育のほか、リーディング大学院における「実践的防災学V」および全学教育科目の「社会と災害科学」を提供した。ここでは、安全で安心な社会を創造するための数値シミュレーションの役割と、その手法開発、ならびに可視化(見える化)の意義を解説した。また、そのなかで災害の物理化学的メカニズムを解明したり、信頼性の高い予測を行うことで被害の最小化したりするための解析および可視化技術を紹介した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	22.5
2	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
3	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	実践的防災学V	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

CAE技術者を対象とした勉強会を企画・運営し、有限要素法を中心とした解析理論・技術のセミナーの講師を務めるなど、社会人教育に取り組んだ。また、松島町総合計画審議会および松島町都市計画審議会委員を務め、町の総合計画の調整その他その実施の促進のために必要な調査および審議を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	NPO 法人・非線形 CAE 協会	第31期非線形 CAE 勉強会(1・2回)	20170527	20170528	東京大学工学 部	東京都・ 文京区	日本	実行委員長	120	なし	講演会・セミナー	
2	国内	NPO 法人・非線形 CAE 協会	第31期非線形 CAE 勉強会(3・4回)	20170645	20170645	東京大学工学 部	東京都・ 文京区	日本	実行委員長	120	なし	講演会・セミナー	
3	国内	NPO 法人・非線形 CAE 協会	第32期非線形 CAE 勉強会(1・2回)	20171028	20171029	大同大学	名古屋市	日本	実行委員長	80	なし	講演会・セミナー	
4	国内	日本計算工学会	オートムスクール2017 in 大阪「非線形有 限要素法による弾塑性解析の理論と実践」 ベーシックコース	20171004	20171005	大阪大学接合 科学研究所	大阪	日本	実行委員長	66	なし	講演会・セミナー	
5	国内	日本計算工学会	オートムスクール2017 in 大阪「非線形有 限要素法による弾塑性解析の理論と実践」ア ドバンスコース	20171006	20171006	大阪大学接合 科学研究所	大阪	日本	実行委員長	55	なし	講演会・セミナー	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	松島町	総合計画審議会	委員	20140401
2	地方自治体	松島町	都市計画審議会	委員	20140401

森口 周二 准教授

Shuji MORIGUCHI

地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岐阜大学	工学部	2000	3	岐阜大学大学院	工学研究科	2002	3	博士(工学)	2005	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	4	2006	3	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
2	2006	4	2007	3	東京工業大学 原子炉工学研究所	特別研究員
3	2007	4	2009	3	東京工業大学(日本学術振興会特別研究員(PD))	日本学術振興会特別研究員(PD)
4	2008	6	2009	3	Stanford University(日本学術振興会特別研究員(PD)期間中)	Visiting scholar
5	2009	4	2010	5	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
6	2010	6	2013	3	岐阜大学 工学研究科	助教
7	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	地盤工学会	日本計算工学会	日本機械学会	土木学会	日本自然災害学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	応用力学委員 V&V小委員会	幹事	20140000
2	地盤工学会	広報委員会	委員	20120000
3	地盤工学会	TC105国内委員会	幹事長	20120000
4	土木学会	原子力土木委員会	委員	20150000
5	土木学会	計算力学小委員会	幹事長	20160000
6	地盤工学会	Soils and Foundations 編集委員会	委員	20160000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	地盤工学	計算工学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	就職担当	インターンシップ等担当	20140000
2	工学研究科土木工学専攻	大学院入試ワーキング	メンバー	20170000
3	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会	委員	20150000

B. 研究活動

研究活動の概要

斜面災害シミュレーションについては、個別要素法を用いた落石および土砂流動のシミュレーションに関して、V&Vを達成するための計算条件の分析を進めた。また、落石と津波を対象として、数値解析を効果的に活用できる確率論的危険度評価の枠組みを高度化させた。さらに、連続体モデルに基づく雪崩の数値解析の結果からハザードマップを作成する手法を提案し、実際の雪崩が発生した現場へ適用し有用性を確認した。災害被災地に関する研究として、2016年の台風10号で被害を受けた岩手県の被災地に関する分析を進めた。その他、土粒子と水のミクロレベルの直接計算の研究も進めており、本年度は地盤材料の透水係数に関する分析を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		地盤材料の直接計算に関する研究	国内
2	2009	4	現在		数値流体解析による雪崩危険度評価に関する研究	国内
3	2009	4	現在		個別要素法による斜面災害危険度評価に関する研究	国内
4	2013	4	現在		数値解析に基づく災害の確率論的危険度評価	国内
5	2013	4	現在		津波による建造物の破壊に関する数値解析手法の開発	国内
6	2016	4	現在		災害における情報発信や行政対応に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	11	合計	11
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	8	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	A set of constitutive functions for dried body to predict entire deformation process of ceramic products during firing	学術雑誌	有	いいえ	Engineering Computations	34	8	2668	2697	20170626	S. Matsubara, K. Terada, T. Kobayashi, T. Saitou, M. Umeda, Y. Mihara, K. Oide, H. Shin and Y. Katsuda	共著	国内
2	日本語	繊維束の接触・摩擦を考慮したドライファブリックのインジロメトリック均質化解析	学術雑誌	有	いいえ	日本機械学会論文集	84		17-00554		20180305	西 紳之介, 寺田 賢二郎, Ilker Temizer	共著	国外

3	英語	Characterization of transition from Darcy to non-Darcy flow with 3D pore-level simulations	学術雑誌	有	いいえ	Soils and Foundations	57	5	707	719	20170510	I. Tachibana, S. Moriguchi, S. Takase, K. Terada, T. Aoki, K. Kamiya, T. Kodaka	共著	国内	
4	日本語	固液混合流体の直接数値シミュレーションによる巨視的粘性評価	国際会議 Proceedings	有	いいえ	日本計算工学会論文集	2018	2	20182007		20180000	野村怜佳, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎	共著	国内	
5	英語	A Method of Numerical Viscosity Measurement for Solid-Liquid Mixture	学術雑誌	有	いいえ	Multiscale Modeling of Heterogeneous Structures	86		347	364	20180000	R. nomura, K. Terada, S. Takase, S. Moriguchi	共著	国内	
6	日本語	個別要素解析に基づく落石防護工の最適設計手法に関する基礎的研究	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	1_469	1_479	20180131	菅野蓮華, 森口周二, 高瀬慎介, 寺田賢二郎	共著	国内	
7	日本語	非ニュートン流体モデルを用いた雪崩の3次元非構造有限要素解析	学術雑誌	有	いいえ	日本計算工学会論文集	2017		20170011		20170829	山口裕矢, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 小田憲一, 上石勲	共著	国内	
8	日本語	個別要素法を用いた落石解析における斜面の空間特性の影響	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	1_507	1_516	20180131	上原直秀, 橘一光, 菅野蓮華, 森口周二, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 大竹雄	共著	国内	
9	日本語	有限ひずみ損傷モデルを用いた断層の動きに伴う表層地盤変状解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	1_497	1_505	20180131	大川真里奈, 鈴木峻, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 車谷麻緒	共著	国内	
10	日本語	浅水長波方程式を用いた有限被覆法に基づく構造流体連成解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2(応用力学)	73	2	1_305	1_505312	20180131	高瀬慎介, 山口裕矢, 森口周二, 寺田賢二郎, 野島和也, 櫻庭雅明	共著	国内	
11	英語	Simultaneous control of cadmium release and acidic pH neutralization in excavated sedimentary rock with concurrent oxidation of pyrite using steel slag	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Soils and Sediments						20170825	Katoh, M., Moriguchi, S., Takagi, N., Akashi, Y., Sato, T.	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	数値解析のV&V(検証と妥当性確認)	無	いいえ	地盤工学会誌	65	11/12	48	49	20171101	満岡良介, 櫻井英行, 中井健太郎, 森口周二	共著	国内

学会発表

単名	3	筆頭連名	5	その他の連名	0	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	1st Porous Media: Experiments and Simulation (PMES2017)		筆頭連名	いいえ	University of the Sunshine Coast	Sippy Downs Australia	20170912	口頭(一般)	Probabilistic approach of rockfall risk evaluation using DEM	<u>Shuji Moriguchi</u> , Hasuka Kanno, <u>Kenjiro Terada</u> , Shinsuke Takase, Yu. Otake	国内	40
2	国際	International Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology (SMIRT)		筆頭連名	いいえ	Busan Exhibition & Convention Center	Busan Korea	20170823	口頭(一般)	A numerical study on effects of grain characteristics in simulations of slope disasters	<u>Shuji Moriguchi</u> , Shinsuke Takase, <u>Kenjiro Terada</u> , Takashi Kyoya, Yuma Ohta	国内	500
3	国際	Korea-Japan Joint Workshop		筆頭連名	いいえ	岡澤重信 Haeng-Ki Lee	土木学会 東京 日本	20171213	口頭(一般)	Uncertainty quantification in rockfall simulation	<u>Shuji Moriguchi</u>	国内	30
4	国内	第20回応用力学シンポジウム		筆頭連名	いいえ	富永晃宏	京都大学 京都 日本	20170520	口頭(一般)	個別要素法を用いた土砂の衝撃力評価における解析条件の感度分析	森口周二, 軽岡雄大, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 阿部慶太, 青木尊之	国内	200
5	国内	第23回計算工学講演会		筆頭連名	いいえ	ウインクあいち	名古屋 日本	20170606	口頭(一般)	落石シミュレーションにおける斜面の不確実性の影響	森口周二, 上原直秀, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 大竹雄	国内	200
6	国際	UW-TU:AOS Workshop		筆頭連名	いいえ	大内二三夫 岡部朋永	University of Washington Seattle U.S.A.	20171116	口頭(一般)	Probabilistic approach for disaster-risk evaluation: extensive use of rock fall and tsunami simulations	<u>Shuji Moriguchi</u> , Hasuka Kanno, <u>Kenjiro Terada</u> , Shinsuke Takase, Yu. Otake	国内	30
7	国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会		単名	はい	佐藤健	八戸ポータルミュージアムはっち 八戸 日本	20180106	口頭(Keynote)	近年の豪雨災害から学ぶ現状と課題	森口周二	国内	50
8	国内	平成29年度地盤工学若手セミナー		単名	いいえ	酒井崇之	東海市勤労センター 東海市 日本	20171111	口頭(一般)	落石解析における斜面物性分布の影響	森口周二	国内	30

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(%)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
1	土木学会応用力学委員会計算力学小委員会	Korea-Japan Joint Workshop	20171213	20171213	土木学会	東京	日本	幹事	30	なし		国外	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

プログラミングや力学ベースの講義の他に、リーディング大学院では、「実践的防災学V」の中で地盤災害に関する講義を提供した。また、各講義の中では、これまでに実施した災害調査の結果や災害の教訓などについて説明した。研究室内の学生については、特に斜面災害シミュレーションや確率論的評価に関する研究を中心として指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1	情報基礎B	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	情報処理演習	東北大学	全学		1	2セメ	15
3	振動解析学	東北大学	全学		1	6セメ	15
4	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	7.5
5	実践的防災学V	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	2
6	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
7	地盤工学Ⅰ	宮城大学			3	前期	15
8	地盤工学Ⅱ	宮城大学			3	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

斜面災害や土砂災害に関する防災教育を目的として、新聞やラジオを通じて土砂災害に関する情報を発信した。また、学会等が運営するセミナーや講習会等で、数値解析技術を中心とした講演を行い、技術の普及に務めた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会	招待講演	20171129	20171129	数値解析に基づく確率論的災害リスク評価	企業	日本計算工学会 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会	清水建設 技術研究所	東京都	日本	40
2	講演会・セミナー	地盤に関する解析技術(個別要素法)講習会	講義	20170901	20170901	1次元の個別要素法	なし	地盤工学会	地盤工学会	東京都	日本	40
3	講演会・セミナー	補強土植生のり枠工協会主催技術講習会	招待講演	20170707	20170707	高精度かつ高精度なリスク評価のための斜面災害シミュレーション	企業	補強土植生のり枠工協会	TKPガーデンシティー仙台勾当台	仙台	日本	100

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	防災科学技術研究所	上石 勲	20171204	共同研究	ゆめプラザ那須	栃木	講演・発表	50



# 村尾 修 教授

## Osamu MURAO

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	横浜国立大学	工学部	1989	3	横浜国立大学大学院	工学研究科	1992	3	博士(工学)(東京大学)	1999	12

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1996	11	(株)防災都市計画研究所	研究員
2	1996	11	2000	11	東京大学生産技術研究所	助手
3	2000	12	2005	12	筑波大学 社会工学系(大学院 システム情報工学研究科)	講師
4	2005	12	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	助教授・准教授
5	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
日本建築学会	日本都市計画学会	地域安全学会	日本自然災害学会	日本地震工学会	Earthquake Engineering Research Institute

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員長	20150700
2	地域安全学会		理事	20010500
3	地域安全学会	「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」特別委員会委員	委員	20161101
4	日本建築学会	東日本大震災調査報告編集委員会	幹事	20120000
5	日本建築学会	第18期代議員会	代議員	20170322

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
都市防災	都市復興	都市の脆弱性評価

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部署の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	先端材料強度科学研究センター運営委員会	委員	20170401
2	工学部	教務委員会	委員	20160401
3	工学部	レベル認定 WG 委員	委員	20160401
4	人間・環境系	学部入試広報委員会	委員	20150401
5	人間・環境系	環境整備委員会	委員	20160401
6	都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員長	20160401
7	都市・建築学専攻	1年生クラス担任	主担	20160401
8	都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20170401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) ヤンゴン(ミャンマー)における地震による脆弱性を評価するために、リモートセンシングデータを用いた地域ごとの建物特性情報取得手法について検討した。(2) 東日本大震災後のライフライン支障に関するアンケート調査結果に基づき、生活支障の地域性や世帯特性ごとの違いについて分析した。(3) 東日本大震災後の事業所の事業再開状況に関する調査結果について分析し、論文として発表した。(4) 東日本大震災における津波抑止施設について整理し、その効果について分析した。(5) 藤沢市の片瀬・江ノ島地区における海水浴客を対象とした津波避難リスクについて分析した。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	2018	3	東日本大震災復興システムのレジリエンスと沿岸地域における津波に対する脆弱性評価	国内
2	2014	10	現在		ミャンマーの災害対応力システムと産学官連携プラットフォームの構築	国外
3	2015	8	現在		バンコク都市における都市の急激な高密度化に伴う災害脆弱性を克服する技術開発と都市政策への戦略的展開プロジェクト	国外
4	2016	11	2018	3	地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発	国内

#### 論文

単著	1	筆頭共著	4	その他の共著	14	合計	19	うち	国際査読有	1	国際査読無	13	国内査読有	2	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	観光客を考慮した藤沢市片瀬西浜・鵜沼地区における避難時間を尺度とした津波危険度の軽減効果の検討	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集		31	107	116	20171100	姜大原, 村尾修	共著	国内
2	日本語	住宅・土地統計調査データを用いた東京都区部における住宅倒壊危険性の変遷	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集		31	117	124	20171100	村尾修, 佐竹春香	筆頭共著	国内

3	英語	Development and Trial of BCP Formulation Methodology that will Give Benefits to Daily Business Activities of Private Enterprises	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU3-08	20171126	Nakatani, N., and <u>Murao, O.</u>	共著	国内
4	英語	Comparison of Chinese and Japanese Post-disaster Recovery Situation: 2008 Sichuan Earthquake and Great East Japan Earthquake	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-07	20171126	Kan, Y., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
5	英語	Current Situation of Disaster Digital Archives Related to the 2011 Great East Japan Earthquake in Miyagi Prefecture	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-02	20171126	Kitamura, M., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
6	英語	Sustainability of Recovery Plan for Yuriage Area, Natori City, after the 2011 Great East Japan Earthquake	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-01	20171126	Sakai, T., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
7	英語	Reconstruction Projects Adopted by the Coastal Areas Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-03	20171126	Numayama, M., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
8	英語	Tsunami Mitigation Effect in the Coastal Areas Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-05	20171126	Tanaka, T., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
9	英語	Daily Life Difficulty Caused by Electric Power and Water Failure after the 2011 Great East Japan Earthquake	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU2-07	20171126	Sato, S., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
10	英語	Visual Observation Survey to Obtain Building Height Information in the Downtown Area of Yangon	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU5-04	20171126	Shimizu, K., and <u>Murao, O.</u> , Sugiyasu, K., and Tanaka, T.	共著	なし
11	英語	Making of Visual Contents for Integrated Multi-dimensional Visualization System for Information about Disaster Science (IMIDES)	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU1-01	20171126	Hanata, Y., <u>Murao, O.</u> , Masatsuki, T., Ono, S., and Meguro, K.	共著	国内
12	英語	Comparison of Digital Building Model and Actual Building Height in Yangon	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU5-09	20171126	<u>Murao, O.</u> , Usuda, T., Gokon, H., Meguro, K., Takeuchi, W., and <u>Sugiyasu, K.</u>	筆頭共著	国内
13	英語	Study on Vacancy Rate of Disaster Public Housings in Miyagi Prefecture after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia				SU6-06	20171126	Mohri, S., and <u>Murao, O.</u>	共著	なし
14	英語	Representation of Regional Building Characteristics in Yangon Using Digital Building Model	国際会議 Proceedings	無	はい	Proceedings of the 8th International Conference on Science and Engineering 2017			955	958	20171209	<u>Murao, O.</u> , Usuda, T., Gokon, H., Meguro, K., Takeuchi, W., <u>Sugiyasu, K.</u> , and Yu, K. T.	筆頭共著	両方
15	日本語	東日本大震災被災沿岸部における被害軽減効果の比較	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6	69	72		20170800	田中智大, 村尾修	共著	なし
16	日本語	リモートセンシングデータを用いたヤンゴンの建物特性の把握	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6	157	160		20170800	薄田拓磨, 村尾修, 郷右近英臣, 目黒公郎	共著	国内
17	日本語	英国のロンドン大火展から学ぶ災害展示施設の課題と提言	学術雑誌	無	いいえ	2017年度日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集		F-1	283	284	20170800	北村美和子, 村尾修, 柴山明寛	共著	なし
18	英語	"Build Back Better" from Recent Tsunami Disasters in the World	国際会議 Proceedings	無	はい	BIT's 6th Annual World Congress of Ocean-2017 Conference Abstract Book			24	24	20171100	<u>Murao, O.</u>	単著	なし
19	英語	Understanding Regional Building Characteristics in Yangon Based on Digital Building Model	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	1	125	137	20180200	<u>Murao, O.</u> , Usuda, T., Gokon, H., Meguro, K., Takeuchi, W., Sugiyasu, K., and Yu, K. T.	筆頭共著	両方

学会発表

単名	4	筆頭連名	3	その他の連名	1	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	第40回地域安全学会研究発表会(春季)		その他の連名	いいえ	石垣公民館	石垣	日本	20170609	口頭(一般)	リモートセンシングデータを用いたヤンゴンの建物特性の把握	薄田拓磨, 村尾修, 郷右近英臣, 目黒公郎	国内	100
2	国内	第42回地域安全学会研究発表会(秋季)		筆頭連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171110	口頭(一般)	住宅・土地統計調査データを用いた東京都区部における住宅倒壊危険性の変遷	村尾修, 佐竹春香	国内	100

3	国際	The 16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia		筆頭連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20171126	口頭(一般)	Comparison of Digital Building Model and Actual Building Height in Yangon	Murao, O., Usuda, T., Gokon, H., Meguro, K., Takeuchi, W., and Sugiyasu, K.	国内	160
4	国際	The 8th International Conference on Science and Engineering 2017	Kyaw Kyaw	筆頭連名	はい	Yangon Technological Institute	Yangon	Myanmar	20171209	口頭(招待・特別)	Representation of Regional Building Characteristics in Yangon Using Digital Building Model	Murao, O., Usuda, T., Gokon, H., Meguro, K., Takeuchi, W., Sugiyasu, K., and Yu, K. T.	両方	300
5	国際	BIT's 6th Annual World Congress of Ocean-2017		単名	はい	マリオットホテル	深圳	中国	20171103	口頭(招待・特別)	"Build Back Better" from Recent Tsunami Disasters in the World	Murao, O.	なし	400
6	国際	UCL-IRDR Seminar, Japan - UK Workshop on Research	David Alexander	単名	はい	University College London	London	UK	20170623	口頭(招待・特別)	International Collaborative Research Activities at International Strategy for Disaster Mitigation Lab.	Murao, O.	なし	40
7	国際	UCL-IRDR Seminar, Disaster in Japan 2011 - The Latest Research-	David Alexander	単名	はい	University College London	London	UK	20170623	口頭(招待・特別)	Urban Recovery Conditions from the 2011 Great East Japan Earthquake as of June 2017	Murao, O.	なし	50
8	国内	第2回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興 ～復興のその先を見据えて～」		単名	はい	東北大学	仙台	日本	20180117	口頭(招待・特別)	海外の事例から見た災害復興後の地域コミュニティの変化と課題点	村尾修	なし	60

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	一般社団法人地域安全学会	東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石	20170805	20170806	釜石市情報交流センター	釜石	日本	議長・企画・運営	50(2)	IRIDeS共催	地域安全学会	国内	研究会・ワークショップ
2	国内	USMCA実行委員会	第16回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム	20171126	20171128	仙台国際センターおよび災害科学国際研究所	仙台	日本	議長・企画・運営	160(60)	IRIDeS共催	ICUS	両方	シンポジウム
3	国内	地域安全学会	第4回アジア都市防災会議	20171126	20171128	仙台国際センターおよび災害科学国際研究所	仙台	日本	幹事・企画・運営	160(60)	IRIDeS共催	地域安全学会	両方	シンポジウム
4	国内	東北大学災害科学国際研究所	第2回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興 ～復興のその先を見据えて～」	20180117	20180117	災害科学国際研究所	仙台	日本	幹事	60(5)	IRIDeS共催		なし	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

研究所の所長補佐(教務担当)および教務委員会副委員長として、全学教育科目「社会と災害科学」の講義、および卓越大学院等の準備を行った。また工学部では兼務教員として、教務委員会、カリキュラム委員長(建築系)を務めた。そして「創造工学研修」と「防災・復興空間論」の講義を行い、学部生3名と研究生5名の研究指導を行った。また工学研究科都市・建築学専攻の中で「都市・建築計画学特論B」等の講義を担当し、修士学生4名、博士学生1名、交換留学生2名の研究指導を実施し、2名の博士審査の副査を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
2	都市・建築デザイン学特論A	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	1
3	創造工学研修	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	2セメ	15
4	社会と災害科学	東北大学	全学		1	2セメ	15
5	地域と都市の防災	放送大学	教養学部	社会と産業コース		通年	15

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動による知見を社会に還元するために、第8回震災予防講演会での講演、および美術Academy&School主催の市民とのフィールドワークに参加し、東京都墨田区の白髭東防災拠点に関する市民向け講義を行った。また川崎市における復興および防災に関する委員会に専門家として参加した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	第8回震災予防講演会 過去の大地震の復興から 学ぶ地震防災	招待講演	20180209	20180209	東日本大震災の復興過程と現状	なし	日本地震学会	パシフィック横浜	横浜市	日本	200
2	公開講座	美術Academy&School フィールドワーク 長さ1km の防火壁団地「白髭東ア パート」を行く	講義	20180303	20180303	江東デルタ地帯と白髭東防災拠点	企業	美術 Academy&Scho ol	Wallop Studio	東京都	日本	40

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	川崎市	川崎市防災会議専門委員会	委員	20020401

泉 貴子 准教授

Takako IZUMI

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	西南学院大学	国際文化学部	1991	3	九州大学大学院	比較社会文化研究科 国際社会専攻	1996	3	比較社会文化修士	1996	3
2					京都大学大学院	地球環境学学	2012	9	地球環境学博士	2012	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	8	1999	12	国連ハビタットアジア・太平洋事務所	広報・渉外担当
2	2000	1	2004	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	人道問題調整官
3	2004	1	2004	12	国連国際防災戦略事務局(UNISDR)兼任	国連防災世界会議調整官
4	2005	1	2006	5	国連アチェ・ニアス復興調整官事務所(UNORC)	シミュルウ事務所代表
5	2006	6	2006	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	情報・パブリックアウトリーチユニットチーフ
6	2007	1	2013	3	国際NGO MERCY Malaysia	General Manager for Operations
7	2013	4	2017	9	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	特任准教授
8	2017	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	准教授

学会活動

所属学会

学会名 1	2
九州西洋史学会	日本自然災害学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	UNISDR	UNISDR Asia Science, Technology and Academia Advisory Group (ASTAAG)	委員	20150501
2	土木学会 アジア土木関連学協会(ACCEC)	TC21 (減災・防災に関する新しい技術委員会)国内支援委員	委員	20160401
3	日本自然災害学会		評議員	20170401

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
国際防災戦略	国際人道支援	NGO 論

B. 研究活動

研究活動の概要

APRU(環太平洋大学協会)のネットワークを基盤として、災害研究活動の促進、学術機関および国際機関の連携強化、国際・アジア地域の防災に関する議論への貢献に努めた。防災グローバルプラットフォーム、UNISDRアジアパートナーシップ協会、UNISDR アジア科学技術諮問委員会の中で、APRU マルチハザードプログラムの活動や、キャンパスセーフティの重要性についても発表し、国際的な認知度を高めることに貢献した。また、「災害研究の現状」に関する報告書を世界防災フォーラムにおいて、Elsevier とともにプレナリーセッションにて発表した。また、防災フォーラムでは、指定国立大学と APRU の共催で、テクニカルセッションを開催し、学術の役割やパートナーシップ構築に関する議論を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		大学間のマルチハザードプログラムの推進に関する研究～APRU加盟大学を中心～	両方
2	2013	4	現在		防災における大学の役割に関する研究	両方
3	2015	4	現在		企業の防災に関する役割と貢献に関する研究 (途上国を中心に)	国外
4	2015	4	現在		科学技術の防災に関する役割と貢献に関する研究	両方
5	2015	4	現在		キャンパスにおける防災対策の向上に関する研究	両方
6	2016	4	現在		「仙台防災枠組」実現に向けた科学技術の役割に関する研究	両方

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	単著	0	筆頭共著	1	共著	1	合計	2	うち	国際	2	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Investing in Disaster Risk Reduction: Implications for science and technology based on case studies from the local and national governments, the private sector and a university network (Science and Technology in Disaster Risk Reduction: Potentials and Challenges)	編集本 (Editor)	201710	Takako Izumi (Rajib Shaw, Koichi Shiwaku and Takako Izumi)	単著	Academic Press, An imprint of Elsevier	両方	
英語	Science and technology in disaster risk reduction in Asia: Post-Sendai developments (Science and Technology in Disaster Risk Reduction: Potentials and Challenges)	編集本 (Editor)	201710	Rajib Shaw, Takako Izumi and Koichi Shiwaku (Rajib Shaw, Koichi Shiwaku and Takako Izumi)	共著	Academic Press, An imprint of Elsevier	両方	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Report of the APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program: 2017 Summer School	国際会議 Proceedings	無	いいえ							Takako Izumi, Mariko Onodera	筆頭共著	国外

学会発表

単名	1	筆頭 連名	0	その他の 連名	0	合計	1
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数	IRIDeS公募 型共同研究
国際	APRU Multi-Hazards Research Symposium	Prof. Lei Yan	単名	はい	北京大学	北京	中国	20170828	口頭(一般)	Overview of the APRU's Multi-Hazards Program	Takako Izumi	両方	100	×

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 7件

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うちIRIDeS)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
			開始年月	終了年月									
国際	APRU/IRIDeS	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Summer School	20170718	20170721	IRIDeS	仙台市	日本	企画・運営	45(40)	IRIDeS主催・共同主催		両方	その他
国際	APRU/IRIDeS	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program Core Group Meeting	20170722	20170722	IRIDeS	仙台市	日本	企画・運営運営	15(12)	IRIDeS主催・共同主催		両方	その他
国際	Elsevier/IRIDeS/APRU	Pleinary session at the World Bosai Forum "The Knowledge Front of Disaster Risk Reduction"	20171126	20171126	国際センター	仙台市	日本	企画・運営・モデレーター	130(100)	IRIDeS共催	Elsevier, APRU	両方	シンポジウム
国際	APRU/IRIDeS	Technical session at the World Bosai Forum "Strengthening contributions to the international community through multidisciplinary disaster science research"	20171127	20171127	国際センター	仙台市	日本	企画・運営	170(50)	IRIDeS主催・共同主催	APRU	両方	シンポジウム
国際	APRU	Strategic meeting on DRR policy influence	20180227	20180227	IRIDeS	仙台市	日本	企画・運営	13(11)	IRIDeS主催・共同主催	APRU	国外	その他
国際	IRIDeS/Technologico de Monterrey	Seminar on disaster science research	20171201	20171201	IRIDeS	仙台市	日本	企画・運営	15(10)	IRIDeS主催・共同主催	Technologico de Monterrey	国外	講演会・セミナー
国際	UC Davis, NASA, IRIDeS, APRU	2017 GNSS Tsunami Early Warning Syste Workshop	20170725	20170727	Westin hotel	仙台市	日本	企画・運営	70	IRIDeS共催	NASA, APRU, UC Davis, GGOS	国外	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	環境とジェンダー	福岡女子大学	国際文理学部		3	後期	16
2	グローバルキャリアセミナー	東北大学				前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要 (200字以内)

一般公開のイベントにて、主に「仙台防災枠組」に関する一般市民の理解や知識の向上のために市民講座などにて講演を行った。また、科学技術の防災への貢献の重要性を高めるため、ASTAAG (UNISDRアジア科学技術アカデミアアドバイザーグループ)のメンバーとして、国際および地域会議の議論の場で、APRUをはじめとする学術機関の貢献やその役割の重要性についても講演を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1件

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	IRIDeS, 仙台市	仙台防災枠組講座シリーズ「仙台防災枠組から考える 私たちのBOSAI」	20170806	20170806	IRIDeS	仙台市	日本	講演	100	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	

講演・発表等(研究活動以外)

合計 : 15件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	APRU International Policy Advisory Committee (IPAC)	プレゼンテーション	20180320	20180321	Impact of the APRU Multi-hazards program	行政	APRU	香港科学技術大学	香港	中国	50
2	その他	UNISDR Asia Partnership meeting	プレゼンテーション	20170405	20170407	World Bosai Forum	行政	UNISDR	Best Western Tuushin Hotel	ウランバートル	モンゴル	50
3	その他	UNISDR Asia Partnership meeting	プレゼンテーション	20171214	20171215	Sharing the outcome of the World Bosai Forum	行政	UNISDR	Pullman Bangkok	バンコク	タイ	70
4	その他	The 4th Annual Disaster Research Scientific Meeting	講演	20170508	20170510	Investing in Disaster Risk Reduction: Promote cooperation between academic scientific and research entities and networks with private sector	行政	University of Indonesia	University of Indonesia	Depok	Indonesia	100
5	その他	The 9th Meeting of the High Level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters	講演	20170518	20170520	Role of academia and its network in science and technology applicaion: APRU Multi-hazards program	行政	HELP (High-level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters)	Sichuan University	Chengdu	中国	100
6	その他	4th Asia Science Technology Accademia Advisory (ASTAAG) meeting	講演	20170702	20170703	Challenges and Research Gaps in Disaster Risk Reduction	なし	Chinese University of Hong Kong	Chinese University of Hong Kong	Hong Kong	China	100
7	その他	Summe2017 APRU Multi-Hazards summer school	講演	20170718	21070721	Role of various stakeholders in disaster risk reduction	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	50
8	その他	APRU Senior staff mtng (モンテレイ工科大学)	プレゼンテーション	20171201	20171201	Recent Initiatives of the APRU Multi-Hazards program	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	20
9	その他	2nd International Disaster Risk Management - Research Colloquium	講演	20171014	20171014	Inovative Models of Private Sector Engagment in Risk Reduction: Experience of Bangladesh	行政	University of Philippines	Quezon City Experience Conferece Hall	Quezon	フィリピン	150

10	その他	Regional Science Policy Dialogue on Science, Technology and Innovation for Bridging Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation	講演	20171116	20171116	Perspectives on Bridging DRR and CCA	行政	UKM	Everly Putrajaya	Putrajaya	Malaysia	150
11	その他	メディアセミナー「災害科学における世界的な見通し」について報告	プレゼンテーション	20171122	20171122	災害科学における世界的見通し	なし	Elsevier	アイオス永田町	東京	日本	30
12	その他	Transdisciplinary Approach (TDA) for Building Societal Resilience to Disasters at World Bodsai Forum	講演	20171127	20171127	Significance and Aim of TC21's Activities to Achieve the Goals of Sendai Framework	行政	Japan Society of Civil Engineers	国際センター	仙台	日本	50
13	その他	ADRRN Partnership Event Overview	講演	20171212	20171214	Hydro-meteorological disasters in Asia	企業	ADRRN	Hotel Windsor Suites	Bangkok	タイ	70
14	その他	Symposium on Natural Disaster Management ~Lessons from the Great East Japan Earthquake and Prospects for the Future~	プレゼンテーション	20180222	20180222	Towards the implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	行政	University of Washington	University of Washington	Seattle	USA	70
15	その他	APRU Strategic Meeting on DRR Policy Influence	プレゼンテーション	20180227	20180227	DRR policy influence and role of academia	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台市	日本	20

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	特定非営利活動法人SEEDS Asia		監事	20140401

# 木戸 元之 教授

## Motoyuki KIDO

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	青山学院大学	理工学部	1991	3	東京大学大学院	理学系研究科	1996	3	博士(理学)	1996	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	2	1996	5	チェコ共和国チャールズ大学 数学物理学部 地球物理学科	研究員
2	1996	5	1996	9	東京大学 海洋研究所	中核的研究機関研究員
3	1996	9	1996	10	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
4	1996	11	1997	9	東京大学 海洋研究所	中核的研究機関研究員
5	1997	10	1999	12	東京大学 海洋研究所	日本学術振興会 特別研究員
6	2000	1	2002	3	海洋科学技術センター	科学技術振興事業団 科学技術特別研究員
7	2002	4	2002	12	海洋科学技術センター	日本学術振興会 特別研究員
8	2003	1	2003	3	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
9	2003	4	2003	4	神戸大学 地球惑星科学科	非常勤職員
10	2003	5	2004	3	神戸大学 内海域機能教育研究センター	科学技術研究員
11	2004	4	2006	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
12	2006	4	2006	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
13	2006	6	2007	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
14	2007	4	2010	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
15	2010	4	2010	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
16	2010	6	2011	7	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
17	2011	8	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授
18	2012	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所	准教授
19	2015	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本地震学会	日本測地学会	米国地球物理学連合

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本測地学会	評議会	評議委員	2016
2	日本地震学会		代議員	2014
3	海洋研究開発機構	海洋研究課題審査部会部会	部会委員	20160801
4	京都大学防災研究所	自然災害研究協議会	委員	20170401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	固体地球惑星物理学	海底測地学

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学術資源研究公開委員会	委員	20150000
2	全学	片平まつり実行委員	委員	20160000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

東北北地方太平洋沖地震の地震時震源過程震源過程、および地震後の余効変動を、海底地殻変動観測技術を高度化して正確に計測することにより、海溝型巨大地震の全体像を捉え、今後の周辺領域への波及の可能性、南海トラフでの巨大地震発生予測に役立てる。また、ニュージーランド・トルコ・メキシコ等で国際的な調査観測を実施し、各地域での地震逼迫度を評価する。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1996	3	マンタルダイナミクスに関する研究	国外
2	1996	2	2003	3	マンタル粘性構造に関する研究	国外
3	2003	4	2004	3	海底電磁気探査に関する研究	国内
4	2004	4	現在		海底地殻変動観測に関する研究	国内
5	2013	4	現在		ニュージーランド・ヒクランギ沈み込み帯に関する測地学的研究	国外
6	2013	4	現在		トルコ・マルマラ海における海底断層活動のモニタリング	国外
7	2017	4	現在		メキシコ・グレロ地震ギャップでの測地観測による地震逼迫度調査	国外

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1	英語	Along-trench variation in seafloor displacements after the 2011 Tohoku earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Science Advances	3	7	1	7	20170719	Tomita, F., M. Kido, Y. Ohta, T. Inuma and R. Hino	共著	国内
2	英語	Comprehensive Analysis of Traveltime Data Collected Through GPS-Acoustic Observation of Seafloor Crustal Movements	学術雑誌	有	いいえ	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	10	1	17	20171026	Honsho, C., and M. Kido	共著	なし

学会発表

単名	1	筆頭連名	4	その他の連名	10	合計	15
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携	参加人数
1	国際	EGU General Assembly 2017	筆頭連名	いいえ	Vienna, Austria	20170423	ポスター(一般)	Seafloor geodetic survey revealed partial creep of North Anatolian Fault at the western part of the Sea of Marmara, Turkey	Kido, M., E. Yamamoto, Y. Ohta, N. Takahashi, Y. Yamamoto, D. Kalafat, A. Pinar, H. Ozener, S. Ozener, Y. Kaneda	国外	10000
2	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	その他の連名	いいえ	Chiba, Japan	20170525	口頭(一般)	海陸地殻変動観測の捉えた2011年東北地方太平洋沖地震の余効変動の時空間変化	飯沼卓史, 太田雄策, 三浦哲, 武藤潤, 富田史章, 木戸元之, 日野亮太	国内	7000
3	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	筆頭連名	いいえ	Chiba, Japan	20170520	口頭(一般)	XBT集中観測で見られた短周期内部重力波とGPS音響測距観測に与える影響	木戸元之, 松井凌, 今野美冴, 本莊千枝	なし	7000
4	国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	その他の連名	はい	Chiba, Japan	20170420	ポスター(一般)	Evaluation of the sound speed equations for seawater proposed by Chen-and-Millero and Del-Grosso using GPS/Acoustic observation data	Honsho, C., M. Kido, F. Tomita	なし	7000
5	国際	IAG-IASPEI 2017	その他の連名	いいえ	Kobe, Japan	20170803	口頭(一般)	New buoy platform system for crustal displacement observation	Takahashi, N., K. Imai, Y. Ishihara, T. Fukuda, H. Ochi, M. Imano, Y. Ohta, M. Kido, S. Kodaira	国内	7000
6	国際	IAG-IASPEI 2017	その他の連名	いいえ	Kobe, Japan	20170803	口頭(一般)	Spatio-temporal variation of the postseismic deformation of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (M9.0) detected by means of terrestrial and seafloor observations	Inuma, T., Y. Ohta, S. Miura, J. Muto, F. Tomita, M. Kido, R. Hino	なし	7000
7	国際	IAG-IASPEI 2017	その他の連名	はい	Kobe, Japan	20170803	口頭(一般)	Observational Results of Seafloor Crustal Deformation Near the Nankai Trough Axis	Tadokoro, K., M. Kado, H. Kimura, M. Kido, K. Matsuhiro	国内	7000
8	国際	IAG-IASPEI 2017	筆頭連名	いいえ	Kobe, Japan	20170803	口頭(一般)	Short-period ocean fluctuation induced by internal wave and its effect on GNSS/acoustic analysis	Kido, M., R. Matsui, M. Imano, C. Honsho	なし	7000
9	国際	2017 AGU Fall meeting	その他の連名	いいえ	New Orleans, USA	20171211	口頭(一般)	Seismic waves triggering slow slip event on the pressure gauge records in the Hikurangi subducting margin	Ito, Y., L. M. Wallace, S. A. Henrys, Y. Kaneko, S. C. Webb, T. Muramoto, K. Ohta, K. Mochizuki, S. Suzuki, M. Kido, R. Hino	国外	20000
10	国際	2017 AGU Fall meeting	その他の連名	いいえ	New Orleans, USA	20171212	ポスター(一般)	Real-time and on-demand buoy observation system for tsunami and crustal displacement	Takahashi, N., K. Imai, Y. Ishihara, T. Fukuda, H. Ochi, K. Suzuki, M. Kido, Y. Ohta, M. Imano, R. Hino	国内	20000
11	国際	2017 AGU Fall meeting	その他の連名	いいえ	New Orleans, USA	20171214	口頭(一般)	Discoveries and Controversies in Geodetic Imaging of Deformation Before and After the M=9 Tohoku-oki Earthquake	Sun, T., K. Wang, R. Hino, T. Inuma, F. Tomita, M. Kido	国外	20000
12	国際	2017 AGU Fall meeting	筆頭連名	いいえ	New Orleans, USA	20171214	ポスター(一般)	Short period sound speed oscillation measured by intensive XBT survey and its role on GNSS/acoustic positioning	Kido, M., R. Matsui, M. Imano, C. Honsho	なし	20000
13	国際	New Zealand - Japan Joint workshop on slow slip	その他の連名	いいえ	Wellington, New Zealand	20180226	口頭(一般)	Shallow slow slip along the Japan trench estimated from seismic and geodetic data	Uchida, N., F. Tomita, T. Matsuzawa, T. Inuma, M. Kido, R. Hino, R. Nadeau, R. Burgmann	国外	40
14	国際	New Zealand - Japan Joint workshop on slow slip	単名	いいえ	Wellington, New Zealand	20180226	ポスター(一般)	Repeated GPS-Acoustic measurements above the vicinity of the slow-slip region in the Hikurangi subduction zone	Kido, M.	なし	40
15	国内	ブルーアースサイエンス・テク2018	その他の連名	いいえ	横浜・日本	20180116	ポスター(一般)	精密音響測距によるプレート間相対速度実測の試み	日野亮太, 山本龍典, 木戸元之	なし	200

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	担当	参加人数(うち外国人)	IRiDeSの関与	共催機関名	学外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月							
1	国内	日本測地学会	測地学サマースクール「地面で測る測地学」	20170928	20170930	災害科学国際研究(宮城県・仙台市)	共催	30	IRiDeS共催	東北大学大学院理学研究科	国内	講演会・セミナー



C. 教育活動

教育活動の概要

博士課程3年の学生に、東北沖地震後の余効変動に関する学術論文を投稿させ、博士論文としてまとめさせた。博士課程2年の学生に保留ブイによる海底地殻変動観測の精度評価について指導し、データ解析の主要な部分を担当させた。博士課程1年の学生にトルコおよび日本海溝の地殻変動データ解析の指導をした。修士課程1年の学生に、海中音速推定の研究を指導し、学会発表させた。全学教育で、地球物理学の講義を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	地球惑星物理学	東北大学	全学		3	6セメ	5
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1

社会活動の概要

研究成果について、地震予知連絡会等で報告した。高校で地球物理学に関する授業を実施した。雑誌掲載の研究内容について、河北新報に掲載された。関連研究機関と、協定・共同研究を活発に行なった。

講演・発表等

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日				
1	小中高との連携	逕子開成中学校・高等学校「土曜講座」	招待講演	20170715	20170715	地球科学講座「重力と地球」	小中高	逕子開成中学校・高等学校	逕子市・逕子開成中学校・高等学校
2	その他	第215回地震予知連絡会	調査報告	20170519	20170519	海底音響測距観測の現状について	行政	国土地理院	東京・九段第2合同庁舎
3	その他	第314回地震調査委員会	使用提出	20180309	20180309	東北沖地震後の広域余効変動場と同時推定した地震時すべり・余効すべりについて	行政	文部科学省	東京・中央合同庁舎

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	201705		国内	海底地殻変動観測技術の高度化に関する研究	研究機関	海上保安庁 名古屋大学	201803	1
2	201704		国内	津波・地殻変動観測システムの開発	研究機関	海洋研究開発機構	201803	1

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 6 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
1	東京大学地震研究所 海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	加藤照之 今井健太郎 高橋成実	20170520	共同研究	千葉・幕張メッセ	国内	講演・発表	30
2	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也 高橋成実	20170526	共同研究	東京・海洋研究開発機構 東京事務所	国内	講演・発表	15
3	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也 高橋成実	20170809	共同研究	東京・海洋研究開発機構 東京事務所	国内	講演・発表	15
4	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也 高橋成実	20171117	共同研究	東京・海洋研究開発機構 東京事務所	国内	講演・発表	15
5	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也 高橋成実	20180302	共同研究	東京・海洋研究開発機構 東京事務所	国内	講演・発表	15
6	名古屋大学 海上保安庁 海洋研究開発機構	田所敬一 石川直史 飯沼卓史	20180329	共同研究	仙台・東北大学 災害科学国際研究所	国内	運営	15

# 福島 洋 准教授

## Yo FUKUSHIMA

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2000	3	理学修士	2000	3
2					バスカル大学大学院(フランス)	基礎科学研究科	2005	12	Ph. D. in Volcanology	2005	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	11	2002	8	包括的核実験禁止条約機構準備委員会 国際データセンター	波形アナリスト
2	2006	4	2014	1	京都大学防災研究所 地震予知研究センター	助手→助教
3	2008	11	2010	10	スタンフォード大学	客員研究員(JSPS海外特別研究員)
4	2014	2	2016	8	東北大学 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター	特任講師
5	2016	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地震学会	日本測地学会	地球惑星科学連合	米国地球物理学連合

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本測地学会	評議会	評議員	20170601

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	地殻変動	モデリング	地震発生メカニズム	火山噴火メカニズム	逆解析

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

2016年12月28日に茨城県北部で起こった地震に関して研究を進め、査読付き国際誌に投稿した。レイテ島におけるフィリピン断層のクリープ(非地震性すべり)に関し、合成開口レーダ画像を用いた解析を進め、クリープの詳細な空間変化の検出に成功した。また、フィリピン断層上で起こった2017年7月の地震との関係を調べた。遠田教授および京都大学防災研究所の橋本教授と共同で活断層とリモートセンシングに関する研究集会を企画・実施した。南海トラフ沿い大規模地震に関する 予測的情報に基づく社会対応のあり方に関する所内勉強会について、世話人代表として勉強会の運営を行い、2018年2月の金曜フォーラムにおいて報告会を開催するとともに、成果報告レポート集のとりまとめも行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		衛星合成開口レーダー(SAR)を用いた地殻変動検出手法の研究	国内
2	2006	4	現在		地殻変動データを用いた地震の発生メカニズムの研究	国内
3	2016	9	現在		地殻変動データを用いた地震の発生ポテンシャル評価手法の研究	国外

#### 学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
2	3	1	6

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	日本地球惑星科学連合(JpGU)大会(アメリカ地球物理学連合との合同大会)		筆頭連名	いいえ	幕張メッセ	千葉市	日本	20170521	口頭(一般)	Early recurrence of M-6 intraplate earthquake (5.8 years) observed in northern Kanto region, Japan	<u>Yo Fukushima</u> Shinji Toda, and Satoshi Miura	国内	8,450
2	国内	京都大学防災研究所 平成29年度一般研究集会「リモートセンシング技術の進展と活断層・内陸地震研究」	遠田晋次	単名	いいえ	京都大学	宇治市	日本	20170707	ポスター(一般)	超短期間(5.8年)で再来した茨城北部の地震(M~6)について	<u>福島洋</u>	なし	68
3	国際	Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy (IAG) and International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior (IASPEI) 2017		筆頭連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸市	日本	20170802	口頭(一般)	Early recurrence of an M6 intraplate earthquake (5.8 years) observed in northern Kanto region, Japan, after the 2011 Tohoku-oki earthquake	<u>Yo Fukushima</u> Shinji Toda, and Satoshi Miura	国内	1,107
4	国内	日本測地学会第128回講演会		その他の連名	いいえ	瑞浪市総合文化センター	瑞浪市	日本	20071004	ポスター(一般)	2017年7月6日フィリピン・レイテ島の地震(Mw6.5)による地殻変動とそのアクトニクな意義	橋本学、 <u>福島洋</u>	国内	200程度
5	国内	平成29年度東京大学地震研究所研究集会「地殻変動メカニズムの解明に向けた新世代SARの活用」	高田陽一郎	単名	はい	東京大学	東京	日本	20171220	口頭(一般)	境界要素法を用いた地殻変動計算と適用例	<u>福島洋</u>	国内	50名程度
6	国内	地殻変動研究集会		筆頭連名	いいえ	東京大学	東京	日本	20180302	口頭(一般)	レイテ島におけるフィリピン断層のクリープと2017年7月6日に発生したMw6.5の地震の関係	<u>福島洋</u> 、橋本学	国内	50名程度

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の大学院理学研究科地球物理学専攻において、教務運営業務や講義(英語)を担当したほか、セミナー等における研究指導、修士論文審査における論文審査委員等を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	固体地球物理学特論II	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		前期	3
2	地球物理学セミナー	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		通年	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	株式会社ネクストメンテナンス東北防災の日講演会	招待講演	20180309	20180309	世界防災フォーラムと衛星で捉える大地の変動	企業	株式会社ネクストメンテナンス東北	TKPガーデンシティ仙台	仙台市	日本	210

川田 佳史 助教  
Yoshifumi KAWADA

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	広島大学	理学部	1998	3	名古屋大学大学院	理学研究科	2004	3	博士(理学)	2004	3

職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	東京大学大学院 理学系研究科	科学技術振興特任研究員
2	2005	4	2008	3	名古屋大学大学院 環境学研究所	COE研究員
3	2008	4	2008	7	名古屋大学大学院 環境学研究所	博士研究員
4	2008	7	2011	3	海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域	ポストドクトラル研究員
5	2011	4	2014	11	東京大学 地震研究所	特任研究員
6	2014	12	2015	8	海洋研究開発機構 次世代海洋資源調査技術研究開発プロジェクトチーム	特任研究員
7	2015	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4
日本地震学会	東京地学協会	日本地球惑星科学連合	American Geophysical Union

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
沈み込み帯	海底熱水鉱床	海底地殻変動	地殻熱流量

B. 研究活動

研究活動の概要

(1) 海底の堆積物を破って顔を出した海丘群の水循環に関する研究を行った。水循環が地殻熱流量に及ぼす影響を調べるために、熱輸送と流体循環の相互作用を考慮した3次元の数値計算コードを開発するとともに、数値シミュレーションを行った。(2) 海底熱水鉱床を効率的に探査する方法である自然電位探査法の実用化に向けた研究を行った。AUVを用いたマッピング法の確立、他の方法と本方法との比較・検討、およびインバージョンコードの構築を行った。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	7	現在		沈み込み帯における地殻熱流量観測および数値シミュレーション	国内
2	2014	12	現在		海底熱水鉱床の探査手法の開発	国内
3	2015	9	現在		海底地殻変動の観測および数値シミュレーション	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	独立成分分析を用いた海底自然電場データのノイズ除去	学術雑誌	有	いいえ	物理探査	70		42	55	20170610	佐藤 真也, 後藤 忠徳, 笠谷 典史, 川田 佳史, 岩本 久則, 北田 毅也	共著	国内
2	英語	Marine self-potential survey for exploring seafloor hydrothermal ore deposits	学術雑誌	有	いいえ	Scientific Reports	7		13552		20171019	Yoshifumi Kawada, Takafumi Kasaya	筆頭共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	3	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	冨本 尚義	筆頭連名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170523	口頭(一般)	A review of hydrothermal heat transport models explaining high heat-flow anomalies observed near the Japanese Islands	Yoshifumi Kawada, Makoto Yamano	国内	8450
2	国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	冨本 尚義	その他の連名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170523	ポスター(一般)	Heat flow distribution along the Nankai Trough floor: Correlation with the structure of the incoming oceanic crust	Makoto Yamano, Yoshifumi Kawada, Mikiya Yamashita	国内	8450
3	国際	IAG-IASPEI 2017	Koshun Yamaoka, Kosuke Heki	その他の連名	いいえ	神戸コンベンションセンター	神戸	日本	20170803	口頭(一般)	Heat flow distribution along the Nankai Trough floor correlated with the crustal structure of the incoming oceanic plate	Makoto Yamano, Yoshifumi Kawada, Mikiya Yamashita	国内	1100
4	国際	IAG-IASPEI 2017	Koshun Yamaoka, Kosuke Heki	筆頭連名	いいえ	神戸コンベンションセンター	神戸	日本	20170803	口頭(一般)	Modelling three-dimensional hydrothermal heat transport around the Nankai Trough	Yoshifumi Kawada, Makoto Yamano, Xiang Gao	両方	1100
5	国内	日本地震学会2017年度秋季大会		その他の連名	いいえ	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20171027	口頭(一般)	紀伊半島沖～四国沖南海トラフ底の熱流量分布: 四国海盆の地殻構造との関係	山野 誠, 川田 佳史	国内	
6	国内	東京大学地震研究所共同利用研究会「南海海側で生じる過程総合研究: 沈み込み帯インプットの実感解明に向けて」	山野誠	筆頭連名	いいえ	東大地震研	東京	日本	20180326	指名/シンポジウム・ワークショップ/パネル	ブチスポット火山による流体循環	川田 佳史, 濱元 栄起, 山野 誠	国内	50

C. 教育活動

教育活動の概要 (200字以内)

地震火山噴火予知研究センター(兼務先)におけるセミナー等の教育活動に参加した。

D. 社会活動

社会活動の概要

海洋研究開発機構、東京大学、中国科学院などの研究者と共同研究を行った。海洋研究開発機構においては招聘研究員として研究活動に従事した。

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	海洋研究開発機構	笠谷貴史 主任技術 研究員		共同研究			その他	
2	東京大学 地震研究所	山野誠 教授		共同研究			その他	

# 岡田 真介 助教

Shinsuke OKADA

災害理学研究部門 地盤災害研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	金沢大学	理学部	2003	3	東京大学大学院	理学系研究科	2009	3	理学博士	2009	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2012	2	独立行政法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門	特別研究員
2	2012	3	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	助教
3	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害理学研究部門	助教

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本地震学会	日本活断層学会	日本地質学会	日本地質学会	日本地理学会	東北地理学会	American Geophysical Union	日本写真測量学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本活断層学会	総務員	委員	20120000
2	国土地理院	全国活断層帯情報整備検討委員	委員	20130000

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	変動地形学	地球物理学

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

東北日本前弧域の仙台湾周辺における中新世以降の地殻伸張および短縮量を明らかにするために、海域反射法地震探査の解析を行った。中新世における正断層構造や鮮新世以降に再活動が生じている地質構造を確認した。また、青森湾西岸断層帯の地下構造を明らかにするために、重力探査を実施した。さらに2014年長野県北部の地震に伴って出現した地表地震断層を横断する極浅層反射法地震探査の解析を行った。郷村断層帯・山田断層帯では、ボーリング調査における検層データと物理探査データ(反射法地震探査)の詳細な対比を行った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		東北日本前弧域仙台湾周辺における中新世以降の地殻伸張および短縮量の推定	なし
2	2016	4	現在		青森湾西岸断層帯の地下構造調査	国内
3	2015	4	現在		2014年長野県北部の地震に伴って発生した地表地震断層周辺の地下構造	国内
4	2015	4	現在		郷村断層帯・山田断層帯における物理探査手法を用いた活断層調査	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	反射法地震探査および重力探査から明らかになった仙台平野南部の伏在活断層	学術雑誌	有	いいえ	地震第2輯	70		109	124		岡田真介, 今泉俊文, 楳原京子, 越後智雄, 戸田茂, 松原由和, 三輪敦志, 住田達哉	筆頭共著	国内

### 著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	1:25,000都市圏活断層図「熊本(改訂版)」, 国土地理院技術資料 D1-No.868	その他	20171031	熊原康博, 岡田真介, 楳原京子, 金田平太郎, 後藤秀昭, 堤浩之	共著	国土地理院	国内	
2	日本語	1:25,000都市圏活断層図「彦根東部」, 国土地理院技術資料 D1-No.759	その他	20170824	後藤秀昭, 石村大輔, 岡田真介, 堤浩之, 中田高	共著	国土地理院	国内	

### 学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	10	合計	13
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	日本活断層学会2017年度秋季学術大会		単名	いいえ	広島大学東千代田未来創成センター	広島	日本	20181125	ポスター(一般)	東北日本前弧域仙台湾周辺における地殻構造	岡田真介	国内	
2	国内	前近代歴史資料研究会		その他の連名	いいえ	新潟大学総合教育研究棟	新潟	日本	20171103	口頭(一般)	1804年象潟地震における関村の被害について	堀名裕二, 今井健太郎, 岡田真介, 安田容子, 高橋成実	国内	

3	国内	日本地震学会2017年度秋季大会	その他の連名	いいえ	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20171025	ポスター(一般)	歴史津波の氾濫解析における地形復元の影響-岩手県宮古市における検討例-	菅原大助, 蝦名裕一, 岡田真介, 今井健太郎	国内
4	国内	日本地震学会2017年度秋季大会	その他の連名	いいえ	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20171025	ポスター(一般)	重力異常による石狩平野東縁断層帯の密度構造解析	松本なゆた, 澤田明宏, 平松良浩, 岡田真介, 田中俊行, 本多 亮	国内
5	国内	日本地震学会2017年度秋季大会	その他の連名	いいえ	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20171025	口頭(一般)	田代盆地における地中レーダ探査および精密重力探査によって得られた北伊豆断層帯丹那断層の極浅部地下構造	本村治志, 青柳恭平, 大木理江花, 住田達哉, 望月一磨, 岡田真介	国内
6	国内	日本地震学会2017年度秋季大会	その他の連名	いいえ	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20171025	ポスター(一般)	1804年象潟地震の津波伝播過程に関する数値計算	今井健太郎, 大林涼子, 岡田真介, 安田容子, 蝦名裕一, 高橋成実, 都司喜宣	国内
7	国内	歴史地震研究会	その他の連名	いいえ	つくばイノベーションショールラザ	つくば	日本	20170915	口頭(一般)	1804年象潟地震の断層モデルに関する検討	今井健太郎, 大林涼子, 岡田真介, 安田容子, 蝦名裕一, 高橋成実, 都司喜宣	国内
8	国際	IAG-IASPEI 2017 (Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy and the International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior)	その他の連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸	日本	20170801	ポスター(一般)	Gravity anomaly analysis over the active reverse fault zones in Japan	Matsumoto Nayuta, Sawada Akihiro, Hiramatsu Yoshihiro, Okada Shinsuke, Tanaka Toshiyuki, and Honda Ryo,	国内
9	国際	Society of exploration geophysicists (SEG) 87th annual meeting 2017	その他の連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸	日本	20170724	ポスター(一般)	Delineation of Active fault using high-density array CSAMT method	Yamashita Yoshihiro, Oda Yusuke, Sakashita Susumu, Groom Douglas, Wnag Fei, Echigo Tomoo, Kagohara Kyoko, Okada Shinsuke, Kosaka Hideki, Miyauchi Takahiro, and Imaizumi Toshifumi	国内
10	国内	第3回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	単名	いいえ	東北大学カタールサイエンスキャンパスホール	仙台	日本	20170703	ポスター(一般)	仙台平野南部の伏在活断層の分布と連続性	岡田真介	国内
11	国内	東北大学の部局間連携～アンサンブルプロジェクトを題材として～	筆頭連名	いいえ	東北大学カタールサイエンスキャンパスホール	仙台	日本	20170612	ポスター(一般)	糸魚川-静岡構造線活断層帯北部神城断層における極浅層S波反射法地震探査	岡田真介, Zou Lilon, 丹羽雄一, 高橋直也, 住田達哉	国内
12	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	その他の連名	いいえ	幕張メッセ国際会議場	千葉	日本	20170523	ポスター(一般)	津軽山地東縁における反射法地震探査	緒原京子, 越後智雄, 岡田真介, 戸田 茂, 井上直人, 宮内崇裕, 今泉俊文, 小坂英輝, 三輪敦志, 坂下 晋, 松原由和, 阿部恒平, 黒澤英樹, 松多信尚, 石山達也	国内
13	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2017	その他の連名	いいえ	幕張メッセ国際会議場	千葉	日本	20170523	ポスター(一般)	多チャンネル電磁探査装置を用いた高密度CSAMT探査の活構造調査への適用	坂下 晋, 小田佑介, 山下善弘, 小林貴幸, Douglas Groom, He Bin, Wang Fei, 越後智雄, 緒原京子, 岡田真介, 戸田 茂, 井上直人, 宮内崇裕, 今泉俊文, 小坂英輝, 三輪敦志, 松原由和, 阿部恒平, 黒澤英樹, 松多信尚, 石山達也	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 1 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	災害科学国際研究所	防災推進国民大会2017・東北スペシャルセッション「Build Back Better-よりよい復興」	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	運営	110	IRIDeS主催・共同主催	内閣府	国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

理学研究科地学専攻地理学教室の兼務教員として、セミナー等に参加し、学部生および大学院生に対する教育活動を行った。また、同教室の授業も分担した。学生指導としては、現地調査を実施し、調査方法の指導と調査後には、解析方法の指導も行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	地図学	東北大学	理学部	地圏環境学科	2	4セメ	2
2	地形学演習 I	東北大学	理学部	地圏環境学科	3	5セメ	2
3	地形学演習 II	東北大学	理学部	地圏環境学科	4	6セメ	2

D. 社会活動

社会活動の概要

金曜フォーラムWGとしてシンポジウム等の運営を担当した。公開講座・シンポジウム等において、活断層に伴う内陸地震に関する講演を行った。また、メディア等でも活断層に関する最新の研究に関して紹介等を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所	平成28年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会	20170729	20170729	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	90	IRIDeS共催	その他	金曜 フォー ラム WG
2	国内	災害科学国際研究所	防災推進国民大会2017・東北スペシャルセッション「Build Back Better・よりよい復興」	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	運営	110	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	金曜 フォー ラム WG

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 7件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	サイエンス・デイ2017	講義	20170716	20170716	「活断層ってなに？」	行政	特定非営利活動法人 natural science	東北大学川内北キャンパス講義棟	仙台市	日本	155
2	講演会・セミナー	東北大学オープンキャンパス	講義	20170725	20170725	活断層とは何か? 仙台周辺の活断層	小中高	災害科学国際研究所	災害科学国際研究所	仙台市	日本	95
3	公開講座	平成29年度(公財)仙台ひとまち交流財団 寺岡市民センター主催 講座	講演	20170909	20170909	「長町-利府線断層帯」の現状と影響	なし	(公財)仙台ひとまち交流財団 寺岡市民センター	寺岡市民センター	仙台市	日本	67
4	講演会・セミナー	日本医師会生涯教育講座-救急医療医師研修会	講演	20171028	20171028	仙南地域周辺の活断層と防災	なし	宮城県医師会	竹駒神社参集殿	岩沼市	日本	30
5	講演会・セミナー	平成29年度気仙沼市防災フォーラム(第22回防災文化講演会)	講演	20180124	20180124	内陸活断層による地震と防災-仙台部屋周辺の活断層-	行政	気仙沼市・気仙沼市教育委員会	気仙沼市中央公民館	気仙沼市	日本	100
6	講演会・セミナー	東日本大震災7周年シンポジウム 地域社会に開かれた災害研を旨として-地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装-	講演	20180311	20180311	内陸直下型の地震を引き起こす活断層とその地下構造-仙台平野南部において新たに明らかになった伏在活断層-	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	135
7	講演会・セミナー	地質情報研究部門主催研究会「浅層地盤・地質の詳細構造解明に資する精密物理探査の現状と課題」	講演	20180320	20180320	浅層反射法地震探査・重力探査から明らかになった仙台平野南部の伏在活断層とその連続性	なし	産業技術総合研究所地質情報研究部門	産業技術総合研究所つくばセンター	つくば市	日本	120



遠田 晋次 教授

Shinji TODA

災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	理学部	1989	3	東北大学大学院	理学研究科	1991	3	理学博士	1999	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1999	6	(財)電力中央研究所 立地部	研究員
2	1999	7	2001	3	東京大学 地震研究所	助手
3	2001	4	2009	3	(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター	研究員
4	2009	4	2012	9	京都大学 防災研究所	准教授
5	2012	10			現職	

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	日本地震学会	日本活断層学会	日本応用地質学会	日本第四紀学会	日本地質学会	米国地球物理学連合	米国地震学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本応用地質学会	東北支部	副支部長	20140601
2	日本地震学会	代議員	代議員	20150000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	活断層	地震ハザード	内陸地殻内地震	誘発地震	余震

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	六ヶ所村センター構想検討委員会	委員	20140401

B. 研究活動

研究活動の概要

熊本地震の地表地震断層調査・トレンチ調査を実施し、震源断層との関係や断層の特長、余震活動などについて新たな知見を得た。特に、南阿蘇村で熊本大学と実施したトレンチ調査によって、過去7000年間に4回の地震イベントを見いだした。また、東北地方太平洋沖地震後の地震ハザード評価に関しては、余震活動の継続時間の地域性に関して解析を進め、歪速度と余震(誘発地震)継続時間に負の相関があることを見いだし、米国地震学会誌に受理された。さらに、ロンドン大学リクス・減災研究所と共同で断層間相互作用の計算コードの開発を行い、イタリア中部の地震、熊本地震で適用し、国際誌や学会で成果発表を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	現在		活断層と内陸地震ハザードの研究	国内
2	1995	1	現在		静的応力変化を考慮した余震・誘発地震の研究	国外
3	2012	10	現在		東北地方太平洋沿岸域の長期地殻変動と巨大地震との関係	国外

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	6	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Complex microseismic activity and depth-dependent stress field changes in Wakayama, southwestern Japan	学術雑誌	有	いいえ	Earth, Planets and Space		70	21		2017	Sumire Maeda, Toru Matsuzawa, Shinji Toda, Keisuke Yoshida and Hiroshi Katao	共著	国内
2	日本語	リモートセンシング技術の進展によって変わりつつある活断層像	学術雑誌	有	はい	地震工学会誌		33	22	25	2018	遠田晋次	単著	なし
3	英語	Tsunami hazard evaluation for Kuwait and Arabian Gulf due to Makran Subduction Zone and Subaerial landslides	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards			1	26	2017	Panon Latcharote, Khaled Al-Salem, Anawat Suppasri, Tanuspong Pokavanich, Shinji Toda, Yogeesha Jayaramu, Abdullah Al-Enezi, Alanoud Al-Ragum, and Fumihiko Imamura	共著	国外
4	日本語	2016年熊本地震時に出現した熊本県阿蘇市宮地周辺の地表地震断層とビット壁面での変位の上方減衰	学術雑誌	有	いいえ	活断層研究		47	9	16	2017	石村大輔, 遠田晋次, 市原季彦, 高橋直也, 全野明映香, 佐藤隼人	共著	国内
5	日本語	布田川断層に並走する正断層の平均変位速度	学術雑誌	有	いいえ	活断層研究		46	27	32	2017	高橋直也, 石村大輔, 遠田晋次, 中田高, 渡辺満久	共著	国内
6	英語	Landslides triggered by the 2016 Mj 7.3 Kumamoto, Japan, earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Landslides	15	5	551	564	2017	Chong Xu, Siyuan Ma, Zhibiao Tan, Chao Xie, Shinji Toda, Xueqiang Huang	共著	国外

学会発表

単名	2	筆頭連名	9	その他の連名	10	合計	21
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国内	2017年地球惑星科学連合大会	Chang Ping_Yu	単名	はい	幕張メッセ	千葉市	日本	20170524	口頭(一般)	Toward better fault hazard assessment: Lessons from the 2016 Kumamoto, Japan, earthquake	Shinji Toda	なし	7000
2	国内	2017年地球惑星科学連合大会	小荒井衛	その他の連名	いいえ	幕張メッセ	千葉市	日本	20170523	ポスター(一般)	布田川断層に並走する正断層の新規の累積変位: 益城町下陣金山川沿いに現れた地震断層露頭	高橋直也, 遠田晋次, 石村大輔	国内	7000
3	国内	2017年地球惑星科学連合大会	呉 泓昱	筆頭連名	はい	幕張メッセ	千葉市	日本	20170524	口頭(一般)	Cretaceous-Paleogene forearc basin structure and seamount subductions illuminated by the 2011 great Tohoku, Japan, earthquake	Shinji Toda, Hideaki Goto	国内	7000
4	国内	2017年地球惑星科学連合大会	奥村晃史	筆頭連名	いいえ	幕張メッセ	千葉市	日本	20170524	口頭(一般)	平成28年熊本地震と茨城県北部の地震から再考する短い活断層の評価	遠田晋次, 石村大輔	国内	7000
5	国内	2017年地球惑星科学連合大会	松澤 孝紀	その他の連名	いいえ	幕張メッセ	千葉市	日本	20170521	口頭(一般)	Early recurrence of M-6 intraplate earthquake (5.8 years) observed in northern Kanto region, Japan	Yo Fukushima Shinji Toda, Satoshi Miura	国内	7000
6	国内	2017年地球惑星科学連合大会	須貝俊彦	その他の連名	いいえ	幕張メッセ	千葉市	日本	20170525	ポスター(一般)	Holocene sedimentary succession and crustal movement in the Tsugaru plain, central Sanriku coast, northeast Japan	Yuichi Niwa Toshihiko Sugai, Yoshiaki Matsushima, and Shinji Toda	国内	7000
7	国際	IAG-IASPEI 2017	Koji Okumura	筆頭連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸市	日本	20170804	口頭(一般)	Recent indications to improve evaluation of short active faults provided by the 2016 Kumamoto and Ibarakiken-hokubu, Japan, earthquakes	Shinji Toda, Daisuke Ishimura	国内	8,000
8	国際	IAG-IASPEI 2017	Hiroyuki Noda	筆頭連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸市	日本	20170802	口頭(一般)	Early recurrence of an M6 intraplate earthquake (5.8 years) observed in northern Kanto region, Japan, after the 2011 Tohoku-oki earthquake	Yo Fukushima, Shinji Toda, Satoshi Miura	なし	8,000
9	国際	IAG-IASPEI 2017	Takeshi Sagiya	筆頭連名	いいえ	神戸国際会議場	神戸市	日本	20170802	ポスター(一般)	Depth dependence of stress eld investigated from microseismicity in northwestern Kii Peninsula, southwestern Japan	Sumire Maeda, Toru Matsuzawa, Keisuke Yoshida, Shinji Toda, Hiroshi Katao	なし	8,000
10	国内	日本第四紀学会2017年大会	黒木貴一	筆頭連名	いいえ	福岡大学	福岡市	日本	20170827	口頭(一般)	熊本地震に見られる誘発性地震断層とC級活断層	遠田晋次, 石村大輔	国内	300
11	国内	日本地震学会2017年秋季大会	加納靖之	その他の連名	いいえ	鹿児島県民交流センター	鹿児島市	日本	20171025	口頭(一般)	2016年熊本地震の地震断層直下の断層露頭-西原村大切畑ダム付近の布田川断層帯の活動史	松山和馬, 遠田晋次, 村上智昭, 坂東雄一, 高橋直也, 加茂圭祐, 中原毅, 高見智之	国内	400
12	国内	日本地震学会2017年秋季大会	竹村恵二	筆頭連名	いいえ	鹿児島県民交流センター	鹿児島市	日本	20171027	口頭(一般)	過去数万年間の阿蘇カルデラ内布田川断層帯の活動 - 活断層先端の成長速度を考える	遠田晋次, 村上智昭, 坂東雄一, 高橋直也, 松山和馬, 加茂圭祐, 中原毅, 高見智之	国内	400
13	国内	地盤振動シンポジウム	神野達夫	単名	はい	建築会館ホール	東京都	日本	20171124	口頭(一般)	熊本地震の複雑な地表地震断層と震源断層との関係	遠田晋次	国内	200
14	国際	American Geophysical Union 2017 fall meeting	Allen L. Husker	筆頭連名	いいえ	New Orleans Ernest N. Memorial Convention Center	New Orleans	USA	20171213	口頭(一般)	The September 2017 M=8.1 Chiapas and M=7.1 Puebla, Mexico, earthquakes: Chain reaction or coincidence?	Shinji Toda, Ross S. Stein	国外	27000
15	国際	American Geophysical Union 2017 fall meeting	Emily Eidam	その他の連名	いいえ	New Orleans Ernest N. Memorial Convention Center	New Orleans	USA	20171212	ポスター(一般)	Holocene deltaic succession recording millennium-scale subsidence trend near the source region of the 2011 Tohoku-oki earthquake: An example from the Tsugaru plain, northeast Japan	Yuichi Niwa Toshihiko Sugai, Yoshiaki Matsushima, and Shinji Toda	国外	27000
16	国際	American Geophysical Union 2017 fall meeting	Bruce H. Shyu	筆頭連名	いいえ	New Orleans Ernest N. Memorial Convention Center	New Orleans	USA	20171215	口頭(一般)	Intra-caldera active fault: An example from the Mw 7.0 2016 Kumamoto, Japan, earthquake	Shinji Toda, Tomoaki Murakami, and Naoya Takahashi	国外	27000
17	国内	活断層学会	石山達也	その他の連名	いいえ	広島大学	広島市	日本	20171125	口頭(一般)	益城町堂園及び南阿蘇村河陽のトレンチ掘削調査に基づく布田川-日奈久断層帯北東部の活動履歴(予報)	熊原康博, 島井真之, 中田 高, 後藤秀昭, 岩佐佳哉, 鈴木康弘, 渡辺満久, 遠田晋次, 高橋直也, 奥野 充	国内	150
18	国内	活断層学会	近藤久雄	その他の連名	いいえ	広島大学	広島市	日本	20171125	口頭(一般)	2016年熊本地震で出現した地表地震断層と活断層の離隔距離の定量的検討	今野明咲香, 遠田晋次	なし	150
19	国内	活断層学会	近藤久雄	その他の連名	いいえ	広島大学	広島市	日本	20171125	口頭(一般)	SAR衛星の干渉解析による平成28年熊本地震余効変動の計測の試行	三五大輔, 小俣雅志, 郡谷順英, 遠田晋次	国内	150
20	国内	活断層学会		その他の連名	いいえ	広島大学	広島市	日本	20171125	ポスター(一般)	UAV調査で確認された南阿蘇村立野地区の布田川断層帯	中原 毅, 高見智之, 高橋直也, 遠田晋次, 村上智昭, 松山和馬, 加茂圭祐, 坂東雄一	国内	150
21	国内	活断層学会		その他の連名	いいえ	広島大学	広島市	日本	20171125	ポスター(一般)	テクトニックバルジの内部構造と発達過程-熊本県南阿蘇村立野地区におけるUAV調査	高橋直也, 村上智昭, 遠田晋次, 坂東雄一, 加茂圭祐, 松山和馬, 中原 毅, 高見智之	国内	150

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 1件

	国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (のち人数)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	京都大学防災研究所	リモートセンシング技術の進展と活断層・内陸地震研究	20170707	20170708	京都大学宇治キャンパス黄檗プラザきぼだホール	宇治市	日本	代表者	80	なし		国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地球物理学専攻・地学において、BC2名、MC2名、DC1名の地震活動および地震ハザード、変動地形に関する研究・論文指導を行い、同専攻での「固体地球物理学特殊講義II」講義や各種セミナーにおいて大学院生への指導を行った。また、短期留学生向けの講義「Geophysics」、全学教育「災害の科学」などを担当した。さらに広島大学での2単位の集中講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	固体地球物理学特殊講義II	東北大学		理学研究科地球物理学専攻		前期	5
2	Geophysics	東北大学	短期留学生			前期	5
3	災害の科学	東北大学	全学		1	後期	1
4	地震の長期評価	建築研究所		国際地震工学センター(留学生)			4
5	島弧系の進化と環境	東北大学	短期留学生			前期	1
6	活断層と内陸大地震の予測(概論)	広島大学	理学部	理学研究科		前期	15
7	活断層と内陸地震の科学	復興大学(東北工業大学)				後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

災害や防災関連への社会貢献として、石川県原子力安全専門委員会委員、総合資源エネルギー調査会臨時委員、地質環境長期安定性評価確証技術開発委員会委員、我が国周辺水城二酸化炭素貯留適地検討委員会委員、鳥根県・鳥取県の地震津波対策検討委員など国・地方自治体、民間団体の委員会にて専門的立場から意見を述べた。さらに、熊本地震など、各種マスコミへの取材協力等を通じて地震現象や地震防災に関する啓蒙活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 12 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	仙台青葉ロータリークラブ	招待講演	20170510	20170510	311後の地殻変動と東北地方の地震活動	なし	仙台青葉ロータリークラブ	ホテルトロボリタン	仙台市	日本	100
2	講演会・セミナー	仙台市防災安全協会	招待講演	20170602	20170602	内陸地震のしくみと仙台圏の活断層	なし	仙台市防災安全協会	フォレスト仙台	仙台市	日本	200
3	公開講座	市民フォーラムin仙台2017	基調講演	20170603	20170603	仙台の活断層と地震	なし	日本応用地質学会環境地質研究部会	仙台弁護士会館	仙台市	日本	150
4	講演会・セミナー	コンクリート工学年次大会	基調講演	20170713	20170713	2011年東北地方太平洋沖地震後の地震活動-特に内陸直下地震のリスク	なし	コンクリート学会	仙台国際センター	仙台市	日本	400
5	講演会・セミナー	グリーンキャピタル長町II 自主防災組織発足会	招待講演	20170723	20170723	活断層地震のしくみと備え	なし	グリーンキャピタル長町II管理組合・理事会	グリーンキャピタル長町II	仙台市	日本	50
6	講演会・セミナー	仙台ライフライン防災情報ネットワーク防災講演会	特別講演	20170727	20170727	長町-利府線断層帯から発生する直下型地震について	行政	仙台ライフライン防災情報ネットワーク	災害研多目的ホール	仙台市	日本	100
7	公開講座	311「伝える／備える」次世代塾	招待講演	20170818	20170818	地震のメカニズムと防災	なし	河北新報社	東北福祉大学	仙台市	日本	100
8	公開講座	片平まつり	講師	20171008	20171008	地震と断層の不思議～予知は可能か?～	なし	東北大学	片平キャンパス	仙台市	日本	40
9	講演会・セミナー	宮城野区防災セミナー	特別講演	20171030	20171030	長町-利府千断層帯から発生する直下型地震について	なし	宮城野区民生生活課	宮城野区役所6階ホール	仙台市	日本	200
10	講演会・セミナー	防災講演会	特別講演	20171109	20171109	地震発生のメカニズムと地震防災	なし	塩釜地区消防防災事務組合	七ヶ浜国際村ホール	七ヶ浜町	日本	300
11	講演会・セミナー	平成29年度地域防災セミナー「地域における防災力向上を目指して」	招待講演	20171219	20171219	なぜ地震活動は連鎖するのか～熊本地震の前震・本震・余震について～	なし	熊本市・熊本大学	熊本市男女共同参画センターはあもにい	熊本市	日本	300
12	講演会・セミナー	平成29年防災シンポジウム「災害に強いコミュニティのための市民フォーラム」	招待講演	20180315	20180315	長町-利府線断層帯から発生する直下型地震について	なし	仙台市	若林区文化センター	仙台市	日本	400

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	自治体	石川県	石川県原子力安全専門委員会	委員	201700
2	国	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	臨時委員	201700
3	国	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 平成26年度二酸化炭素貯留適地調査事業に係わる有識者委員会	委員	201700
4	自治体	鳥取県	鳥取県津波対策検討委員会	委員	201700
5	自治体	島根県	島根県地震津波防災対策検討委員会	委員	201700
6	国	(独)日本原子力研究開発機構	地質環境長期安定性評価確証技術開発委員会	委員	201700
7	国	原子力規制庁	震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム	委員	201800

今野 明咲香 助教

Asaka KONNO

災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岩手県立大学	総合政策学部	2012	3	宮城教育大学大学院	教育学研究科	2014	3	MS	2014	3
2					東北大学大学院	理学研究科	2017	3	Ph.D	2017	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
2	2017	6	現在		東北大学 理学研究科	助教(兼務)

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本地理学会	東北地理学会	日本活断層学会	日本地球惑星科学連合	日本山の科学会	日本山岳文化学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北地理学会	幹事会	幹事	201506

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	地形学	環境地理学	地理情報システム	活断層研究

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学附置研究所・センター連携体	研究所若手アンサンブルプロジェクトWG	委員	20170601

B. 研究活動

研究活動の概要

内陸大地震では、地震動のみならず断層変位によっても構造物が被災する。そのため、活断層の位置を予め正確に把握することが重要となる。しかし、地表地震断層(以下地震断層)が明確に現れる地震の頻度は十年弱に一度で、予測との比較可能な機会は少ない。2016年に発生した熊本地震では日奈久断層と布田川断層沿いに約30 kmにわたり地震断層が出現した。地震前に図示されていた活断層と実際に出現した地震断層の一致具合や離隔距離を求められる数少ない例である。そこで本研究では、地理情報システム(GIS)を用いて活断層(予測)と地震断層(結果)の水平距離の差を定量的に把握し、活断層沿いの被災範囲の予測に有用となるような統計的な検討を実施した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		地表地震断層と活断層の離隔距離の定量的検討	国内
2	2017	5	現在		東北地方主要活断層帯の断層変位地形のアーカイブ化	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	2016年熊本地震時に出現した熊本県阿蘇市宮地周辺の地表地震断層とピット壁面での変位の上方減衰	学術雑誌	有	いいえ	活断層研究		47	17	25	20171231	石村大輔, 遠田晋次, 市原季彦, 高橋直也, 今野明咲香, 佐藤隼人	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	2017年度東北地理学会春季学術大会	宮原育子	単名	いいえ	戦災復興記念館	仙台	日本	20170520	口頭(一般)	東北日本の亜高山帯におけるオオシラビソ林の立地環境と分布拡大への影響		国内	120
2	国内	日本地球惑星科学連合2017年大会	坂本 尚義	単名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170525	口頭(一般)	八幡平および秋田駒ヶ岳にけり過去2,500年間のオオシラビソ林分布の時空間変化		国内	8100
3	国内	2017年度東北地理学会秋季学術大会	村山良之	筆頭連名	いいえ	岩手県民会館	盛岡	日本	20171028	口頭(一般)	地理情報システム(GIS)を用いた2016年熊本地震における推定断層と地震断層のずれ幅の検討	今野明咲香, 遠田晋次	国内	50
4	国内	日本活断層学会2017年度秋季学術大会	熊木洋太	筆頭連名	いいえ	広島大学	広島	日本	20171124	口頭(一般)	2016年熊本地震で出現した地表地震断層と活断層の離隔距離の定量的検討	今野明咲香, 遠田晋次	国内	150
5	国際	国際火山噴火史情報研究会	奥野 充	その他の連名	いいえ	熊本大学	熊本	日本	20180128	口頭(一般)	熊本地震地表地震断層の完新世活動履歴ー南阿蘇村黒川地区トレンチ調査ー	遠田晋次, 鳥井真之, 奥野充, 今野明咲香, 小野大樹, 高橋直也	国内	不明

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 3 件

	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (不明除く)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北地理学会	2017年度東北地理学会春季学術大会	20170520	20170521	戦災復興記念館	仙台	日本	幹事・座長	120 (不明)	なし		なし	その他
2	国内	東北地理学会	2017年度東北地理学会秋季学術大会	20171028	20171028	岩手県民会館	盛岡	日本	幹事	50 (不明)	なし		なし	その他
3	国内	京都大学防災研究所	平成29年度一般研究集会 「リモートセンシング技術の進展と活断層・内陸地震研究」	20170707	20170708	京都大学	京都	日本	運営	70 (3)	なし		なし	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

理学研究科地学専攻の兼任教員として、主として地学専攻の学生の研究指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

防災研究を中心としてメディアなどへの情報発信を目的とした活動を主体に行った。

講演・座談等(研究活動以外)

合計 : 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	我が国の防災研究を開拓 (先導)する若手一出会い と志, 学際	講演	20170605	20170605	地理学における防災研究の試み	企業	災害科学国際 研究所	災害科学国際 研究所	仙台	日本	30
2	講演会・セミナー	社会発信のための「災害科 学」研究フリーマーケット	ポスター発表	20170728	20170728	東北地方太平洋沖地震による重茂半島周辺の 津波遡上高分布	企業	災害科学国際 研究所	災害科学国際 研究所	仙台	日本	50

江川 新一 教授

Shinichi EGAWA

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1987	3					医学博士	1995	3

職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1990	3	竹田総合病院 外科	医師
2	1990	7	1990	8	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
3	1991	1	1991	2	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
4	1991	4	1991	5	高萩協同病院 外科	医員
5	1991	9	1991	10	高萩協同病院 外科	医員
6	1991	11	1992	3	東北大学医学部 第一外科(この間、1992年2月から3月まで高萩協同病院に医員派遣として出張)	医員
7	1992	4	1993	9	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	リサーチレジデント
8	1993	10	1996	3	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	研究員(厚生技官)
9	1996	4	1996	12	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
10	1997	1	1997	1	米山町国保病院 外科	医長
11	1997	2	1998	1	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
12	1998	2	1998	6	丸森町国保病院 外科	医長
13	1998	7	1999	2	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
14	1999	3	2001	4	アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 腫瘍外科学	客員研究員(助手休職)
15	2001	5	2003	9	東北大学医学部附属病院 肝胆膵外科	助手(文部教官)復職
16	2003	10	2004	3	東北大学病院 肝胆膵外科	助手(配置換)
17	2004	4	2005	3	独立行政法人化に伴い東北大学病院・肝胆膵外科	助手(病院)
18	2005	4	2005	9	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
19	2005	10	2006	5	東北大学大学院医学系研究科 肝胆膵外科	講師
20	2006	6	2007	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	助教授
21	2007	4	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	准教授(職制変更)
22	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野	教授
23	2014	4	2017	3	災害医学研究部門長	

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本災害医学会	アメリカ災害保健医療学会	世界災害医学会	日本公衆衛生学会	日本消化器病学会	日本腫瘍学会	国際腫瘍学会	アメリカ外科学会	日本消化器外科学会	日本外科学会

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本腫瘍学会	腫瘍登録委員会、腫瘍取扱規約委員会	評議員	20050401
日本消化器病学会		学会評議員	20071001
日本消化器外科学会		評議員	20150501
日本災害医学会		評議員	20160301
日本外科学会	邦文誌編集委員会	委員	20160401
アメリカ災害保健医療学会	編集委員会	委員	20151201

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
被災地医療ニーズ	災害保健医療シミュレーション	病院BCP	オールハザードアプローチ	クラスターアプローチ

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

部署名	委員会名	役職	開始年月日
医学系研究科	大学院合同運営委員会	委員	20150401
大学病院	災害対策委員会	委員	20120401
大学病院	緊急被災医療対策委員会	専門委員	20150401
大学病院	BCP委員会	副委員長	20170201
ヒューマンセキュリティコース	世話人会	医学系研究科世話人	20140401

B. 研究活動

研究活動の概要

防災における保健医療とその他のセクターの協力関係について研究。被災地の医療ニーズをデータベース化する作業を進め、南三陸町をはじめとする被災地の医療ニーズのデータベース化を実施した。これにより科研費基盤研究Aを取得した。災害後の非感染性疾患の需要に関するシステムティックレビューを論文化した。システムダイナミクスを用いた医療ニーズのシミュレーションモデル化に成功した。システムダイナミクス型、エージェント型のシミュレーションを災害医療に応用することを主眼として、エボラウイルス感染症をモデルにした保健医療従事者の教育と訓練の重要性について検証した。病院の受援力、事業継続計画に関する研究成果を発信した。世界災害医学会、国際レジリエンスフォーラム、世界防災フォーラムでアカデミアとして発言し、仙台枠組の健康面実施に対する多分野協働体制を形成した。

研究課題

開始年	期間		研究課題(内容)	所外連携	
	月	終了年 月			
1	2012	4	現在	被災地における保健医療ニーズの解析	国内
2	2012	4	現在	災害保健医療コーディネーターの全都道府県調査	国内
3	2013	5	現在	国連の防災枠組に対する保健医療クラスターのあり方の研究	国外
4	2014	6	現在	フィリピン・アンヘラス大学と共同での災害医学教育の構築	国外
5	2014	4	現在	災害リスクと健康な社会	国内
6	2015	4	現在	ネパール地震における保健医療対応	国外
7	2015	4	現在	医療ニーズシミュレーション	国内
8	2016	4	現在	エボラウイルス感染症の流行に対する保健医療従事者の教育効果	国外

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	12	合計	13	うち	国際査読有	12	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
英語	Induction of osteopontin by Dengue virus-3 infection in THP-1 cells. Inhibition of the synthesis by Brefeldamide and its derivative.	学術雑誌	有	いいえ	Frontiers in Microbiology	8		521		20170401	Pascapurnama DN, Labayo HKM, Daput I, Nagarajgowda DD, Zhao J, Zhang J, Yamada O, Kikuchi H, Egawa S, Oshima Y, Chagan-Yasutan H, Hattori T.	共著	両方
英語	Predictive risk factors for peritoneal recurrence after pancreatic cancer resection and strategies for its prevention.	学術雑誌	有	いいえ	Surgery Today	47	12	1434	1442	20170401	Ariake K, Motoi F, Ohtsuka H, Fukase K, Masuda K, Mizuma M, Hayashi H, Nakagawa K, Morikawa T, Maeda S, Takadate T, Naitoh T, Egawa S, Unno M.	共著	国内
英語	Noncommunicable Diseases After the Great East Japan Earthquake: Systematic Review, 2011-2016.	学術雑誌	有	いいえ	Disaster Medicine and Public Health Preparedness			1	12	20171001	Murakami A, Sasaki H, Pascapurnama DN, Egawa S.	共著	なし
英語	Updated results from GEST study: a randomized, three-arm phase III study for advanced pancreatic cancer.	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	143	6	1053	1059	20170701	Okusaka T, Miyakawa H, Fujii H, Nakamori S, Satoh T, Hamamoto Y, Ito T, Maguchi H, Matsumoto S, Ueno H, Ioka T, Boku N, Egawa S, Hatori T, Furuse J, Mizumoto K, Ohkawa S, Yamaguchi T, Yamao K, Funakoshi A, Chen JS, Cheng AL, Sato A, Ohashi Y, Tanaka M; GEST group.	共著	両方
英語	Health-related quality of life in a randomised phase III study of gemcitabine plus S-1, S-1 alone and gemcitabine alone for locally advanced or metastatic pancreatic cancer: GEST study.	学術雑誌	有	いいえ	ESMO Open.	15	2	e000151		20170315	Hagiwara Y, Ohashi Y, Okusaka T, Ueno H, Ioka T, Boku N, Egawa S, Hatori T, Furuse J, Mizumoto K, Ohkawa S, Yamaguchi T, Yamao K, Funakoshi A, Cheng AL, Kihara K, Sato A, Tanaka M.	共著	両方
英語	A giant intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas which was resectable by cystectomy.	学術雑誌	有	いいえ	Japanese Journal of Gastroenterological Surgery,	50	4	303	310	20170801	Sato, M, Fukase, K, Ariake, K, Ohtsuka, H, Murakami, K, Fujishima, F, Motoi, F, Naitoh, T, Egawa, S & Unno, M	共著	国内
英語	Secretion of Galectin-9 as a DAMP during Dengue Virus Infection in THP-1 Cells.	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Molecular Science	18	8	E1644		20170801	Dapat IC, Pascapurnama DN, Iwasaki H, Labayo HK, Chagan-Yasutan H, Egawa S, Hattori T.	共著	国内
英語	Nation-Wide Implementation of Disaster Medical Coordinators in Japan. . 2017; 243(1): 1-9. PubMed PMID: 28890523. (2017年9月査読あり、筆頭)	学術雑誌	有	いいえ	Tohoku Journal of Experimental Medicine	243	1	1	9	20170901	Egawa S, Suda T, Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H.	筆頭共著	なし
英語	Intensive Education of Health Care Workers Improves the Outcome of Ebola Virus Diseases: Lessons Learned from the 2014 Outbreak in Sierra Leone.	学術雑誌	有	いいえ	Tohoku Journal of Experimental Medicine	243	2	101	105	20171001	Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H, Egawa S.	共著	なし
英語	Integrated health education in disaster risk reduction: Lesson learned from disease outbreak following natural disasters in Indonesia.	学術雑誌	有	はい	International Journal of Disaster Risk Reduction					20170701	Pascapurnama DN, Murakami A, Chagan-Yasutan H, Hattori T, Sasaki H, Egawa.	共著	国内
日本語	東日本大震災における石巻市遊学館福祉避難所の活動報告.	学術雑誌	有	いいえ	Japanese Journal of Disaster Medicine	22	2	252	258	20171101	赤井健次郎、崎山晶子、阿部佳代子、泉水信一郎、林健太郎、江川新一。	共著	国内
英語	Combination Gemcitabine and WT1 Peptide Vaccination Improves Progression-Free Survival in Advanced Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Phase II Randomized Study.	学術雑誌	有	いいえ	Cancer Immunological Research			Epub		20180122	Nishida S, Ishikawa T, Egawa S, Koido S, Yanagimoto H, Ishii J, Kanno Y, Kokura S, Yasuda H, Oba MS, Sato M, Morimoto S, Fujiki F, Eguchi H, Nagano H, Kumanooh A, Unno M, Kon M, Shimada H, Ito K, Homma S, Oka Y, Morita S, Sugiyama H.	共著	国内
英語	Frey's procedure for chronic pancreatitis improves the nutritional status of these patients.	学術雑誌	有	いいえ	Surgery Today	48	1	80	86	20180101	Sato H, Ishida M, Motoi F, Sakata N, Aoki T, Kudoh K, Ohtsuka H, Mizuma M, Morikawa T, Hayashi H, Nakagawa K, Naitoh T, Egawa S, Unno M.	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	1	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Healthy Community Resilient against Disaster. Pp 139-152. (In Santiago-Fandino V., Sato S. & Luchi K. (Eds.), The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration. Insights and Assessment after 5 Years.)	編集本 (Author)	20170701	Egawa S, Murakami A, Sasaki H.	共著		なし	

学会発表

単名	5	筆頭連名	3	その他の連名	0	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1 国内	第103回日本消化器病学会総会	渡辺 純夫	筆頭連名	いいえ	京王プラザホテル	東京	日本	20170421	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	進行障害に対するWT1ペプチドワクチン併用化学療法無作為比較第II相試験	江川新一、石川 剛、西田 純幸	国内	5000
2 国際	World Association for Disaster and Emergency Medicine 2017 Toronto	Anthony Redmond	筆頭連名	いいえ	Westin Harbor Castle Toronto	トロント	カナダ	20180425	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	System Dynamic Simulation for Medical Needs in the Great East Japan Earthquake	Shinichi Egawa, Makoto Okumura, Aya Murakami, Tracey Elizabeth Clair Jones, Hiroyuki Sasaki	なし	900
3 国際	FPH UI Science Festival	Agustin Kusumayati	単名	はい	University of Indonesia	デボック	インドネシア	20170918	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Medical Needs in Disaster and the Role of Health Cluster	Shinichi Egawa	なし	300
4 国際	2nd Annual Meeting of Society of Disaster Medicine and Public Health	James J. James	単名	はい	Mariott Newport News	ニューポートニューズ	米国	20170928	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Global health security in Pacific Basin	Shinichi Egawa	国外	200
5 国際	2nd Annual Meeting of Society of Disaster Medicine and Public Health	James J. James	筆頭連名	いいえ	Mariott Newport News	ニューポートニューズ	米国	20170928	ポスター(一般)	System Dynamics Simulation of the Medical Needs in a Town after Great East Japan Earthquake	Shinichi Egawa, Tomomi Suda, Tracey Claire Jones-Konneh, Erick Mas, Makoto Okumura, Hiroyuki Sasaki	なし	200
6 国際	Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience	Toshio Koike	単名	はい	Science Council of Japan	東京	日本	20171123	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Priority Action 3	Shinichi Egawa	両方	30
7 国際	Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience	Toshio Koike	単名	はい	Science Council of Japan	東京	日本	20171123	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Global Center for Disaster Statistics	Shinichi Egawa	両方	30
8 国際	Care in Civil Protection, 1st AKNZ congress	Thomas Mitschke	単名	はい	Rheinhotel Vierjahreszeiten	バードブライインツェ	ドイツ	20171201	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Fukushima Large Scale Evacuation	Shinichi Egawa	なし	200

C. 教育活動

教育活動の概要

留学生を含む大学院生の研究、論文の指導を行い、国際学術雑誌に論文が掲載された。定期的に大学院生とのミーティングを行い、研究のあり方、進め方に関する教育を行った。与えるだけでなく、問題を発見し、解決していくための教育を行っている。公衆衛生学専攻と協力して公衆衛生学修士の医療ニーズ、避難者の健康に関する研究、論文指導を行った。フィリピン台風の被害を受けたレイテ島における保健医療教育施設の事業継続および再建に関する研究を博士課程大学院生とともに進めている。ヒューマンセキュリティコースで、巨大災害に対する保健医療の備え、グローバルヘルスとヒューマンセキュリティの講義を英語で担当し、グローバル大学院化に貢献した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター/学期	コマ数 90分/コマ
1 巨大災害に対する保健医療の備え	東北大学	全学		1	1セメ	15
2 巨大災害に対する保健医療の備え	東北大学	医学系研究科、農学研究科、環境科学研究科、国際文化研究科			1セメ	15
3 グローバルヘルスとヒューマンセキュリティ	東北大学	医学系研究科、農学研究科、環境科学研究科、国際文化研究科			1セメ	15
4 終末期医療	東北大学	医工学研究科			1セメ	1
5 災害医学	東北大学	全学		2	2セメ	1
6 災害医学	東北大学	リーディング大学院			2セメ	3

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台防災枠組に健康が大幅に取り入れられたことを受け、社会にその意義を発信した。東北大学病院の災害対策委員、BCP委員会副委員長、緊急被災者医療推進センター副センター長として、東北大学病院のレジリエンス向上に貢献した。学術協定校であるアリゾナのAngeles University Foundation、インドネシア大学公衆衛生学専攻で特別講演を行って災害保健医療の教育と普及に努めた。TOMODACHI イニシアチブ、ジョンソン & ジョンソン 社と共同で、米国の災害看護研修活動を支援した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 3 件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1 国際	TOMODACHI Initiative	TOMODACHI Initiative J&J災害看護セミナー	20170624	20170624	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営、特別講演	30	IRIDeS共催	講演会・セミナー	
2 国際	TOMODACHI Initiative	TOMODACHI Initiative J&J災害看護セミナー	20170708	20170708	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	20	IRIDeS共催	研究会・ワークショップ	
3 国際	世界防災フォーラム実行委員会	世界防災フォーラム 災害時のメンタルヘルスに関するシンポジウム	20171125	20171125	仙台国際センター	仙台市	日本	座長	100	IRIDeS共催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 2 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1 講演会・セミナー	第5回かわさき救急フォーラム	特別講演	20171004	20171004	災害医療の基礎知識 経口補水療法の話	企業	川崎市救急医学会	川崎日航ホテル	川崎市	日本	200
2 講演会・セミナー	広島 JRAT 研修会	特別講演	20170531	20170531	災害医療の基礎知識		広島大学	広島大学病院	広島市	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	NPO 法人人権協議会	理事会	理事・事務局局長	20080501



# 佐々木 宏之 助教

**Hiroyuki SASAKI**

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山形大学	医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2008	3	医学博士	2008	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	5	2003	3	山形県立中央病院 外科	前期・後期研修医
2	2003	4	2004	3	東北大学病院胃腸外科	医局員
3	2004	4	2008	3	東北大学大学院 医学系研究科 生体調節外科学分野	大学院生
4	2007	10	2010	4	独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 外科	副部長
5	2010	5	2011	4	茨城県厚生連 県北医療センター高萩協同病院 外科	科長
6	2011	5	2011	9	東北大学病院 胃腸外科	特任助手
7	2011	10	2012	3	東北大学病院 胃腸外科	助教
8	2012	4	2013	9	同上(兼東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)	助教
9	2013	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 胃腸外科)	助教

## 学会活動

### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本集団災害医学会	日本外科学会	日本消化器外科学会	日本消化器病学会	日本大腸肛門病学会	日本大腸癌研究会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本臨床外科学会	日本公衆衛生学会

### 学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1 日本集団災害医学会		評議員	20160227
2 日本集団災害医学会	災害医学のあり方委員会	委員	20160226
3 日本集団災害医学会	社会医学系専門医検討委員会	委員	20170518
4 日本集団災害医学会	日本集団災害医学会セミナー	インストラクター	20160110
5 日本集団災害医学会	MCLS	世話人	20171101
6 厚生労働省	「地震、津波、洪水、土砂災害、噴火災害等の各災害に対応したBCP及び病院避難計画策定に関する研究」本開研究班	研究協力者	20170315
7 厚生労働省	「宮城県における BCP や病院避難計画に盛り込むべき事例研究」山内研究班	研究協力者	20170321

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
災害医療	受援計画	事業継続計画	消化器外科学

### 委員会・ワーキンググループ

#### 全学・他部署の委員会での委員

部署名	委員会名	役職	開始年月日
1 東北大学病院	BCP 委員会	委員	20161101
2 東北大学病院	災害対策マニュアル改訂WG	メンバー	20161101
3 東北大学病院	災害対策本部マニュアル改訂 WG	WG長	20170401

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

東北大学病院 BCP 委員会委員・事務局メンバーとして中心的に東北大学病院BCP策定に貢献した。BCP策定にあたっては研究テーマである医療機関受援計画の知見を活かした。また医療機関BCPの策定は他にほとんど先例がないため、日本集団災害医学会総会・学術集会でのBCPシンポジウムの座長、厚生省BCP研究班研究協力者、他学会でのBCP策定講演を行った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		日本の医療機関における受援計画に関する調査	国内
2	2017	3	現在		地震、津波、洪水、土砂災害、噴火災害等の各災害に対応したBCP及び病院避難計画策定に関する研究	国内
3	2017	3	現在		宮城県における BCP や病院避難計画に盛り込むべき事例研究	国内
4	2016	11	現在		被災時の医療・保健・福祉支援体制の検討: 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 英語	Nation-Wide Implementation of Disaster Medical Coordinators in Japan.	学術雑誌	有	いいえ	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	243	1	1	9	20170908	Shimichi Egawa, Tomomi Suda, Tracey Elizabeth Claire Jones-Konneh, Aya Murakami, Hiroyuki Sasaki	共著	なし
2 英語	Noncommunicable Diseases After the Great East Japan Earthquake: Systematic Review, 2011-2016.	学術雑誌	有	いいえ	Disaster medicine and public health preparedness	16		1	12	2017 Oct 16;1-12. [Epub ahead of print]	Murakami A, Sasaki H, Pascapurnama DN, Egawa S	共著	なし
3 英語	Intensive Education of Health Care Workers Improves the Outcome of Ebola Virus Disease: Lessons Learned from the 2014 Outbreak in Sierra Leone.	学術雑誌	有	いいえ	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	243	2	101	105	20171013	Tracey Elizabeth Claire Jones-Konneh, Aya Murakami, Hiroyuki Sasaki, Shimichi Egawa	共著	なし

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原題)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	第42回日本外科学系連合学会学術集会	丹黒 章	単名	はい	あわぎんホール	徳島市	日本	20170630	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	災害に強い地域医療体制を目指し、病院機能継続力を向上させる「チームのちから」		国内	1000
国内	医療事故・紛争対応研究会 北海道・東北セミナー	藤森 啓成	単名	はい	函館市公民館	函館市	日本	20170930	口頭(Plenary)	BCPについて		国内	200
国内	第23回日本集団災害医学学会総会・学術集会	森村 尚登	筆頭連名	はい	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20180203	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	災害時の事業継続戦略に応じた医療機関受援計画の立案について	佐々木宏之、須田智美、江川新一	国内	2800

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 7件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	日本集団災害医学学会	第68回日本集団災害医学学会セミナー	20171029	20171029	東北大学医学部6号館	仙台市	日本	運営主催者	55 (0)	なし		国内	講演会・セミナー
国内	日本集団災害医学学会	第13回宮城 MCLS 標準コース	20170916	20170916	みやぎ県南中核病院	大河原町	日本	コース担当責任者	70 (0)	なし		なし	講演会・セミナー
国内	日本集団災害医学学会	第12回宮城 MCLS 標準コース	20170512	20170512	石巻赤十字病院	石巻市	日本	運営担当	70 (0)	なし		なし	講演会・セミナー
国内	日本集団災害医学学会	第23回日本集団災害医学学会総会・学術集会 教育講演1「防災における保健セクターの役割」	20180201	20180201	パシフィコ横浜	横浜市	日本	運営担当(座長)	2800 (不明)			なし	講演会・セミナー
国内	日本集団災害医学学会	第23回日本集団災害医学学会総会・学術集会 ワークショップ8「医療機関のBCPを地域全体から多角的に考える」	20180203	20180203	パシフィコ横浜	横浜市	日本	運営担当(座長)	2800 (不明)			なし	研究会・ワークショップ
国内	東北大学災害科学国際研究所	第2回実践的防災学シンポジウム	20180117	20180117	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	150 (不明)	IRIDeS主催・共同主催		国内	シンポジウム
国内	順天堂大学・坪内暁子	副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策:4WIHの把握と対策の見える化の検討 研究会	20180303	20180303	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当、座長	20	IRIDeS協力		国外	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムにおいて医療機関の受援計画に関する講義を行った。東北大学大学院医学系研究科に属する研究室大学院生の研究指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
support-receiving plan	東北大学	全学	human security course			1

D. 社会活動

社会活動の概要

東北大学病院BCP委員会委員・事務局メンバーとして中心的に東北大学病院BCP策定に貢献した。BCP策定にあたっては研究テーマである医療機関受援計画の知見を活かした。また医療機関BCPの策定は他にほとんど先例がないため、日本集団災害医学学会総会・学術集会でのBCPシンポジウムの座長、厚労省BCP研究班研究協力者、他学会でのBCP策定講演を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 7件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	東北大学災害科学国際研究所	IRIDeS金曜フォーラム	20170401	20180331	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	45	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
国内	東北大学災害科学国際研究所	特定プロジェクト研究成果報告会	20170729	20170729	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	150	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
国内	東北大学病院	東北大学病院総合防災訓練	20171020	20171020	東北大学病院	仙台市	日本	運営担当 コントローラー	300	なし	その他	
国内	NHK 仙台放送局	NHK災害対策研修会	20170711	20170711	NHK仙台局	仙台市	日本	運営担当 インストラクター	50	なし	その他	
国内	東北大学災害科学国際研究所	宮城県内市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び～	20180123	20180123	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営 講師	20	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
国内	東北大学	東北大学本部総合防災訓練	20171027	20171027	東北大学片平キャンパス	仙台市	日本	運営 コントローラー	100	IRIDeS協力	その他	
国内	国立大学附属病院長会議	大学病院災害管理技能者(UDME)養成研修会	20171213	20171215	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営 (会場責任者)	200	IRIDeS共催	講演会・セミナー	

講演・執筆等(研究活動以外)

合計 : 4件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
講演会・セミナー	東日本大震災7周年シンポジウム	講演	20180311	20180311	より迅速に、確実に災害時の「健康」と向き合うために～東北大学病院BCP策定へのステップ～	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	150
講演会・セミナー	副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策:4WIHの把握と対策の見える化の検討	講演	20170728	20170728	災害発生直後の避難所で求められる医療支援と問題点	小中高	順天堂大学・坪内暁子	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
公開講座	東北大学 片平まつり	講演	20171007	20171007	2. 災害医療のヒミツ～緊急時の医療が大進化！～	なし	東北大学片平まつり実行委員会	東北大学さくらホール	仙台市	日本	50
公開講座	徳島県立中央病院県民公開講座	講演	20171021	20171021	がん診療と大規模災害 ～東日本震災の経験から、徳島の未来に貢献できることを考える～	行政	徳島県立中央病院	徳島県立中央病院	徳島市	日本	150

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
国・政府	厚生労働省		日本DMAT隊員	20160128

# 児玉 栄一 教授

Eiichi KODAMA

災害医学研究部門 災害感染症学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	1990	3	福島県立医科大学大学院	医学研究科博士課程	1994	3	医学博士	1994	3

### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	1	1994	3	国立療養所福島病院 内科 (現国立病院機構福島病院)	内科医師
2	1994	4	1998	3	福島県立医科大学医学部 微生物学講座	助手(助教)
3	1998	4	1999	8	福島県立医科大学医学部 微生物学講座	講師
4	1999	9	2009	3	京都大学ウイルス研究所 感染免疫学分野	助教
5	2009	4	2012	12	東北大学病院 内科感染症科	助教
6	2013	1	2013	3	東北大学・東北メディカルメガバンク機構	講師
7	2013	4	2013	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
8	2013	8	2013	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
9	2013	12	2014	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
10	2014	8	2014	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
11	2014	12	2015	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
12	2015	8	2015	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
13	2015	12	2016	3	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
14	2016	4	2016	5	東北大学病院 総合地域医療教育支援部	講師
15	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害感染症学分野	教授

### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
日本集団災害医学会	日本バイオセーフティ学会	日本環境感染学会	日本ウイルス学会	日本感染症学会	日本エイズ学会	抗ウイルス療法学会	日本ケミカルバイオロジー学会

#### 学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本環境感染学会	災害時感染制御検討委員	災害時感染制御検討委員	20160900

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
ウイルス	治療薬	感染制御	アウトブレイク	地域医療

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 大学病院	陰圧制御感染症病床ワーキンググループ	委員	20150000
2 メディカルメガバンク	コホート事業部地域支援センター調整室	副室長	20160701
3 メディカルメガバンク	コホート事業部地域医療支援室	副室長	20160701
4 メディカルメガバンク	地域支援センター(白石・仙台)	福センター長	20160701
5 メディカルメガバンク	地域支援センター(白石)	センター長	20170701
6 大学病院	感染対策委員会	委員	20160101
7 大学病院	BCP作成委員会	委員	20170900

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

本邦から撲滅したはずの麻疹は小規模でとどまりつつも平成29年度も継続してアウトブレイクしており、本邦のワクチン接種率の低下と国際化が誘因になっていることから、ワクチンに頼らない治療薬の開発を京都大学薬学部と連携している。AMED 橋渡し加速ネットワークプログラムの継続として革新的ガン研究に採択され、アジア・アフリカ系人種に頻度の高いウイルス慢性感染によるリンパ腫・白血病に対する治療薬を開発、その臨床応用のために細菌類・非げっ歯類を用いた安全試験を行っている。インフルエンザアウトブレイク対策研究としてのウイルス培養法の改良を行っている。大学病院 BCP 作成委員、第1種感染病床の委員、災害時における地域医療機関 BCP 作成や震災における医療機関の構造的問題点を熊本大学と共同で解析を始めた。

### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	4	現在		抗ウイルス薬の開発(抗HBV・抗HIV・抗EB・抗ADV薬等)	国内
2	2013	1	現在		震災後の地域医療の研究	国内

### 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	抗ウイルス薬の開発—今後のアプローチ	学術雑誌	有	はい	化学療法領域	33	26	31	20170000	児玉栄一	単著	国内

学会発表

単名	0	筆頭 連名	0	その他の 連名	2	合計	2
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国際	International Nursing Research Conference 2017	Prof. Dr. Hiroko Minami	その他の 連名	いいえ	The Miracle Grand Convention Hotel	Bangkok	Thailand	20171020	口頭(一般)	Characteristics of Hospital Damage and Challenges of Disaster Mitigation Related to the 2016 Kumamoto Earthquakes in Japan.	<u>Hitomi Maeda</u> , Satoko Iyama, Chiharu Matsumoto, Kimiyo Nanke and <u>Eiichi Kodama</u>	国内	
2	国内	第31回日本エイズ学会	生島 嗣	その他の 連名	いいえ	中野サンブラザ他	東京	日本	20171124	口頭(一般)	ゲンボイヤ配合錠(GEN:EVG/COBI/FTC/TAF)投与時の耐性発現症例の検討	田沼順子, 湯永博之, 岡橋一, 児玉栄一, 中本泰充, 池田薫史, 小倉直樹, Michael E. Abram, Nicolas A. Margot, Stephanie Cox, Christian Callebaut, Moupali Das	国内	1500

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	白馬シンポジウム事務局	白馬シンポジウム in 仙台 2017	20170714	20170715	東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール	仙台市	日本	運営委員	100(20)	IRIDeS共催		国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

医学部学生に対する結核などのアウトブレイクやその対応方法、医学部基礎修練学生2名引き受け、3か月間の研究指導を行った。ヒューマンセキュリティプログラムにおけるアウトブレイク対応、基礎ゼミにおける災害がきっかけになる感染症の講義を行った。また、卒業教育の一環として医療従事者に対する感染症対策の講演会も行った。また医学博士号取得学生4名の副査を担当しうち1名は副査第一を務めた。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	第4次 内科通論	東北大学	医学部	医学科	4	前期	3
2	内科臨床実習	東北大学	医学部	医学科	5	通年	20
3	高次修練	東北大学	医学部	医学科	6	前期	8
4	基礎ゼミ	東北大学	全学			通年	1
5	ヒューマンセキュリティ特論A・B	東北大学	医学系研究科	ヒューマンセキュリティコース	1	通年	2
6	隣接医学	東北大学	歯学部	歯学科	5	前期	1
7	血液学講座	東北大学	医学部	保健学科	2	後期	1
8	第3次 内科通論	東北大学	医学部	医学科	3	後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

企業や病院内講習会において災害時を含めた感染症対応の講演を行い、地域で核となる組織での対策支援を行った。厚労省からの依頼で災害時感染対策委員会の委員として対策案の提言などを行った。宮城県、結核医療地域ネットワーク、また仙台市感染症に係る病院ネットワーク構成員として、感染症クライシスへの対応を協議している。国際的には、JICAにおける国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会員として兼務している。東北メディカルメガバンク機構を通じた地域医療支援、住民健康調査を行った。

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	独立行政法人 国際協力機構(JICA)	国際緊急援助隊 感染症対策チーム	作業部会員	20141201
2	地方自治体	宮城県	結核医療地域ネットワーク会議	世話人	20160601
3	地方自治体	宮城県	感染症審査協議会委員会	副委員長	20170401
4	地方自治体	仙台市	感染症病院ネットワーク	委員	20160901
5	地方自治体	仙台市	感染症審査協議会「感染症審査部会」	委員	20170401
6	地方自治体	仙台市	エイズ・性感染症対策推進協議会委員	福委員長	20170801
7	その他	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会	専門委員	20171201
8	その他	一般社団法人 日本環境感染学会	災害時感染制御検討委員会	委員	20160915

千田 浩一 教授

Koichi CHIDA

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1					東北大学大学院	医学系研究科	2003	3	博士(障害科学)	2003	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2003	3	東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科	助手
2	2003	4	2007	3	東北大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻	助手
3	2007	10	2008	3	東北大学大学院医学系研究科 放射線技術科学専攻	准教授
4	2008	4	2009	9	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	准教授
5	2009	10	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	教授
6	2012	4	2013	3	東北大学災害科学国際研究所 教授兼任	教授
7	2013	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 教授(東北大学大学院医学系研究科兼任)	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本放射線技術学会	日本医学放射線学会	日本医学物理学会	医用画像情報学会	日本アイトープ協会	医学物理士会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線技術学会	評議員会	評議員	20150000
2	日本放射線技術学会	理事会	理事	20130000
3	日本放射線技術学会	東北部会	理事	20130000
4	医学物理学会	試験委員会	委員	20130000
5	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	試験委員会	委員	20130000
6	American Journal of Roentgenology	査読委員	査読委員	20130000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	放射線医学	放射線技術科学	災害放射線医学	医用工学・物理学	内部障害学

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	放射線取扱主任者専門部会	専門部員	20130000
2	医学系研究科	安全衛生委員会	委員	20130000
3	医学系研究科	放射線障害予防委員会	RIおよびX線取扱主任者	20130000
4	医学系研究科	ラジオアイソトープセンタ運営委員会	委員	20130000
5	メディカルメガバンク	運営委員会	委員	20130000
6	保健学科	放射線管理実務部会	責任者	20130000
7	保健学科	放射線技術科学専攻キャリア支援	担当者	20130000
8	全学	研究教育基盤技術センター運営専門委員会	委員	20150000
9	病院	緊急被ばく医療専門委員会	委員	20150000
10	全学	放射線安全管理責任者	責任者	20130000
11	全学	研究倫理相談窓口	担当者	20160000
12	全学	研究公正アドバイザー	担当者	20160000
13	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会	委員	20150000

B. 研究活動

研究活動の概要

"当分野教授の千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、研究教育等を担当している。1. 患者・術者等の被曝評価防護研究、2. 放射線機器の最適化研究、3. 災害放射線医学関連研究、特に「医療被曝関連研究」を多く行っている。医学に利用される放射線は、大部分が低線量被曝であるため、よって医療被曝関連研究は原子力災害時における低線量被曝研究を行う上で重要な基盤となると考える。さらに「災害放射線医学関連研究」として、①福島原発事故に起因した医用X線写真上に生じた黒点に関する研究。②原発事故相談窓口での電話相談内容の分析や対応策の検討。③低線量被曝スクリーニング法の開発など。" 加えて水晶体被ばく関連研究も精力的に行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	4	現在		放射線被曝研究	国内
2	1990	4	現在		医用機器QC・QA	国内
3	2000	4	現在		がんMRS研究	国内
4	2012	4	現在		災害放射線医学研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	14	合計	14	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	6	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	PATIENT EXPOSURE DURING PLAIN RADIOGRAPHY AND MAMMOGRAPHY IN JAPAN IN 1974-2014.	学術雑誌	有	いいえ	Radiat Prot Dosimetry.	176	4	347	353	2017	Matsunaga Y, Kawaguchi A, Kobayashi K, Kobayashi M, Asada Y, Minami K, Suzuki S, Chida K	共著	国内
英語	Radiation doses for pregnant women in the late pregnancy undergoing fetal-computed tomography: a comparison of dosimetry and Monte Carlo simulations.	学術雑誌	有	いいえ	Radiol Phys Technol.	10	2	148	154	2017	Matsunaga Y, Kawaguchi A, Kobayashi M, Suzuki S, Suzuki S, Chida K	共著	国内
英語	Fetal dose conversion factor for fetal computed tomography examinations: A mathematical phantom study.	学術雑誌	有	いいえ	Journal of applied clinical medical physics	18	5	330	335	20180000	松永雄太, 川口愛, 小林正尚, 鈴木昇一, 千田浩一	共著	国内
英語	Effectiveness of additional lead shielding to protect staff from scattering radiation during endoscopic retrograde cholangiopancreatography procedures	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Radiation Research	2018	33	109	104	20180000	森島貴顕, 千田浩一, 目黒敬義	共著	国内
英語	Effectiveness of a New Lead-shielding Device and Additional Filter for Reducing Staff and Patient Radiation Exposure During Videofluoroscopic Swallowing Study Using a Human Phantom	学術雑誌	有	いいえ	Dysphagia	2017	59	225	232	20170000	森島貴顕, 千田浩一, 室谷嘉一, 内海由也	共著	国内
英語	Occupational eye dose in interventional cardiology procedures. Scientific Reports, 7(569): 1-7, 2017.	学術雑誌	有	いいえ	Scientific Reports	2017	7	1	7	20170000	Haga Y, Chida K, Kaga Y, Sato F, Honda T, Sota M, Abe M, Meguro T,	共著	国内
英語	Red-emission phosphor's brightness deterioration by x-ray and brightness recovery phenomenon by heating	学術雑誌	有	いいえ	J Radiol Prot	37	4	19	26	20170000	Nakamura M, Chida K, Inaba Y, Kobayashi R, Zuguchi M.	共著	国内
英語	Direct Dose Measurement On Patient During Percutaneous Coronary Intervention Procedures Using Radiophotoluminescence Glass Dosimeters.	学術雑誌	有	いいえ	Radiat Prot Dosimetry.	175	1	31	37	20170000	Kato M, Chida K, Moritake T, Sato T, Oosaka H, Toyoshima H, Zuguchi M, Abe Y.	共著	国内
日本語	IVR-CT 装置による CT 透視時の空間散乱線分布に関する基礎検討	学術雑誌	有	いいえ	臨床放射線	62	8	1099	1004	2017	本田 崇, 佐藤 文貴, 石井 浩生, 稲葉 洋平, 常陸 真, 立花 茂, 梁川 功, 千田浩一	共著	なし
日本語	脊柱側弯症のX線撮影における小児放射線被ばくと乳がんリスクの低減 ファントムによる検討	学術雑誌	有	いいえ	臨床放射線	2018	4	487	491	20180000	根本まなみ, 千田浩一	共著	なし
日本語	血管造影装置における厚さ可変型付加フィルタの線量特性	学術雑誌	有	いいえ	全国循環器撮影研究会誌	2018	30	40	44	20180000	新田見耕大, 千田浩一, 岡哲也	共著	国内
日本語	二種類の異なる半導体式サーベイスナ基本特性比較	大学紀要	有	いいえ	東北大学医学部保健学科紀要	2018	27	43	50	20180000	石井浩生, 薩米康, 佐藤文貴, 上杉直人, 加藤慎子, 芳賀喜裕, 加賀勇治, 稲葉洋平, 千田浩一	共著	国内
日本語	冠動脈造影における呼吸による被曝線量の比較	学術雑誌	有	いいえ	日本心血管インターベンション治療学会誌	2017	9	62	65	20170000	武田和也, 千田浩一, 樋谷慶仁, 田倉寛志, 栗井一夫, 高見沢格, 関敬, 鈴木誠, 井口信雄, 桃原哲也, 高山守正	共著	国内
日本語	心臓カテーテル検査と冠動脈インターベンションにおけるバイプレーン装置とシングルプレーン装置の患者被ばく線量の比較	学術雑誌	有	いいえ	日本冠疾患学会雑誌	2017	23	97	101	20170000	武田和也, 千田浩一, 原哲也, 高山守正, 高梨秀一郎	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	その他の一般検査(新編 内部障害のリハビリテーション 第2版)	教科書	2017	上月正博, 千田浩一	共著	医歯薬出版	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	水晶体被曝(3mm線量当量)評価用測定器「DOSIRIS」(ドジリス)の基本特性評価	その他	有	はい	FBNews	485		12	16	2017	千田浩一	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	13	合計	15
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	European Congress of Radiology (ECR) 2018		その他の連名	いいえ	Austria Center	Vienna	Austria	20180227	ポスター(一般)	Necessity for the optimization of radiation dose and image quality in cardiac interventional procedures.	Inaba Y, Chida K	国内	
国内	第23回日本集団災害医学学会総会・学術集会	森村尚登	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20180201	口頭(一般)	血液抗酸化能を指標とした放射線被ばく線量の推定	稲葉洋平, 孫略, 佐藤圭則, 平山曉, 盛武敬, 千田浩一	国内	
国内	第46回日本IVR学会総会	金澤石	その他の連名	いいえ	岡山コンベンションセンター	岡山市	日本	20170518	口頭(一般)	IVR装置間における患者照射基準点線量測定から見えてきた実測の重要性	稲葉洋平, 千田浩一, 本田崇文, 佐藤文貴, 芳賀喜裕	国内	
国内	第73回日本放射線技術学会総会学術大会	宮地利明	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20170413	口頭(一般)	Fundamental Study of a Novel Radiation Dosimeter using a Multi-Channel Real-Time Monitor	稲葉洋平, 千田浩一, 本田崇文, 佐藤文貴, 加賀勇治, 芳賀喜裕	国内	

5	国内	第46回日本IVR学会総会	金澤右	その他の 連名	いいえ	岡山コン ベンション センター	岡山市	日本	20170518	口頭(一般)	血管撮影装置における低格子比グリットを用いた透視線量率低減の基礎検討	加藤 守, 千田浩一, 佐々木文昭, 沢木昭光, 大阪肇, 豊嶋英仁, 竹島治雄, 飯田泰子	国内
6	国内	第42回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	平賀仁	その他の 連名	いいえ	ユートリー	八戸市	日本	20170715	口頭(一般)	冠動脈 CT における CT 寝台の高さが乳房の表面線量に与える影響	加藤 守, 千田浩一, 佐々木文昭, 松本和規, 大阪肇, 豊嶋英仁	国内
7	国内	第7回東北放射線医療技術学術大会	須崎勝正	その他の 連名	いいえ	リンクス テーション ホール青 森	青森市	日本	20171029	口頭(一般)	Cardiac-IVRに携わる術者の水晶体被ばく線量の推定方法	加藤 守, 千田浩一, 石田 高人, 松本和規, 佐々木文昭, 大阪肇, 豊嶋英仁, 小森宏信, 小林育夫	国内
8	国内	第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会	大石英則	その他の 連名	いいえ	グランブ リンズホテ ル新高輪	東京都	日本	20171125	口頭(一般)	コーンビーム CT における低格子比グリットを用いた被ばく線量低減	加藤 守, 千田浩一, 沢木昭光, 佐々木文昭, 大村知己, 大阪肇, 豊嶋英仁, 田邊淳, 吉岡正太郎, 師井淳太	国内
9	国内	第31回日本冠疾患学会学術集会	中川義久 浅井徹	その他の 連名	いいえ	大阪国際 会議場	大阪府	日本	20171226	口頭(一般)	冠動脈インターベンションにおけるリアルタイム線量管理の検討	加藤 守, 千田 浩一, 中村 正明, 松本 和規, 佐々木 文明, 大阪 肇, 豊嶋 英仁, 佐藤 匡也	国内
10	国際	European Congress of Radiology (ECR) 2018		その他の 連名	いいえ	Austria Center	Vienna	Austria	20180227	口頭(一般)	Study on the Measurement of the Entrance Surface Dose and Reducing the Mammary Entrance Surface Dose for Coronary Computed Tomography Angiography	Mamoru Kato, Koichi Chida, Takashi Moritake, Fumiki Sasaki, Tomomi Oomura, Noriyuki Takahashi, Hajime Oosaka, Hideto Toyoshima, Toshiyuki Kinoshita.	国内
11	国内	第73回日本放射線技術学会総会学術大会	宮地利明	その他の 連名	いいえ	パシフィコ 横浜	横浜市	日本	20170413	口頭(一般)	CT 検査におけるDose Length Productを用いた胎児線量の推定	松永雄太, 川口愛, 小林正尚, 鈴木昇一, 千田浩一	国内
12	国際	RSNA2017		その他の 連名	いいえ	マコーミッ クプレイス	シカゴ	米国	20171201	ポスター(一般)	Management of radiation exposure in fluoroscopy systems with an over-the-table X-ray tube for upper gastrointestinal (barium meal) examination	Hoshi C, Chida K	国内
13	国際	RSNA2017		筆頭連名	いいえ	マコーミッ クプレイス	シカゴ	米国	20171201	ポスター(一般)	Real-time measurement of patient radiation dose during interventional radiology	Chida K, Inaba Y	国内
14	国際	European Congress of Radiology (ECR) 2018		その他の 連名	いいえ	Austria Center	Vienna	Austria	20180227	ポスター(一般)	Usefulness of real-time temperature measurement during magnetic resonance imaging using a newly developed thermometer system	Nagasaka T, Koichi Chida.	国内
15	国内	第45回日本放射線技術学会秋季学術大会		単名	はい	広島国際 会議場	広島市	広島県	201710116	口頭(Keynote)	個人線量管理(職業被ばく)	千田浩一	国内

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 4 件

種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1 特許	国内	X線診断装置、画像処理装置、及び画像診断支援方法	千田浩一	特願2016-127990	2016	特開2018-000320	2018.1.11	学外共同の成果	国内
2 特許	国内	線量計 (特許取得査定日(平29.11.6))	千田浩一	特願2013-044772		特開2014-173903		学外共同の成果	国内
3 特許	国外	Color Coded Circulationステレオ視に関する撮影法 X-RAY DIAGNOSIS APPARATUS, IMAGE PROCESSING APPARATUS, AND IMAGE DIAGNOSIS AIDING METHOD	千田浩一	2016-127990, PTMA-16362-US	20170630			学外共同の成果	国内
4 特許	国内	放射線被ばくの判定方法	千田浩一	特願 2017-30440	2017			学内共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

23名の大学院生と5名の卒業研究学生を直接指導している。東北大学大学院講義の放射線検査学特論(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。東北大学大学院講義の放射線検査学セミナー(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、多数の大学院講義や学部講義や学生実験などを担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
1 基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
2 カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
3 応用セミナーI	東北大学	医学研究科				2
4 分野セミナー	東北大学	医学研究科				15
5 分野特論	東北大学	医学研究科				15
6 放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
7 放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
8 放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ	3
9 医用工学	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
10 放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
11 放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
12 医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
13 放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
14 放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
15 放射線機器工学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
16 放射線機器工学実験II	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
17 基礎セミナー	東北大学	医学研究科				2
18 応用セミナー	東北大学	医学研究科				2
19 Paper research & Basic seminar	東北大学	医学研究科				2
20 Doctoral Dissertation Research	東北大学	医学研究科				2
21 Clinical Radiological Technique Seminar I	東北大学	医学研究科				15
22 Technique of clinical Imaging	東北大学	医学研究科				2
23 Clinical Radiological Technique Seminar II	東北大学	医学研究科				15
24 Radiation Dosimetry	東北大学	医学研究科				15
25 Radiation Equipment Engineering	東北大学	医学研究科				15
26 Laws and Regulations for Radiologic Technologist	東北大学	医学研究科				15
27 Radiological Examination and Technology	東北大学	医学研究科				15
28 放射線関係法規	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
29 卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
30 放射線工学概論	東北文化学園大学	科学技術学部	臨床工学科	2	4セメ	15

D. 社会活動  
社会活動の概要

仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)として、防災計画作成活動を行っている。JST研究成果最適展開支援専門委員やJSTマッチングプランナー専門委員を担当した。また放射線の正しい知識の普及のための講演活動等を行っている。さらに放射線等に対する正しい知識の普及などのための「高齢者向けパンフレット」の作成と改良を行った。その他の社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	放射線被ばく管理講習会	招待講演	20170921	20170921	放射線従事者の水晶体被ばく:新たな等価線量限度	行政	宮城県放射線技術協会	東北大学病院	仙台市	日本	200
2	講演会・セミナー	放射線防護分科会「入門講座」	招待講演	20171019	20171019	個人線量管理(職業被ばく)	なし	日本放射線技術学会	広島国際会議場	広島市	日本	100
3	講演会・セミナー	東日本大震災発生後の教育行政の取組による日本の被災地及び被災懸念地域への防災教育・防災管理の改善と課題	招待講演	20171223	20171223	放射線教育用パンフレット作成:アンケート調査による効果的な教材作成の試み	小中高	災害研	災害研	仙台市	日本	30

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	委員	20120000
2 国・政府	JST研究成果最適展開支援専門委員	JST研究成果最適展開支援専門委員	委員	20150000
3 国・政府	JSTマッチングプランナー専門委員	JSTマッチングプランナー専門委員	委員	20150001
4 国・政府	放射線審議会	水晶体放射線防護検討部会	有識者	20171111



稲葉 洋平 助教

Yohei Inaba

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	東北大学	医学部保健学科	2008	3	東北大学大学院	医学系研究科保健学専攻	2015	3	保健学博士	2015	3

職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	2012	12	東北大学病院診療技術部放射線部門	診療放射線技師
2	2013	1	2016	4	東北大学 災害科学国際研究所	助手
3	2016	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

1	2	3	4	5	6
日本放射線技術学会	日本放射線安全管理学会	日本磁気共鳴医学会	日本医学物理学会	日本IVR学会	日本災害医学会

研究分野・キーワード

1	2	3	4
放射線技術学	災害放射線医学	磁気共鳴医学	放射線物理学

B. 研究活動

研究活動の概要

原子力事故など、放射線が関与する事故や災害の発生時には、多くの市民の中から直ちに治療措置が必要な被曝者の選定が必要である。しかし、大量のスクリーニングが可能なバイオドシメトリ法(生物学的線量測定法)は存在しないのが現状である。そこで我々は、電子スピン共鳴(ESR)を利用し、血液サンプル中のフリーラジカルやラジカル消去能を総合的に定量することで、簡便に被曝をスクリーニングする今までにない新手法の開発を試みている。また、原子力規制庁採択の水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究が2017年度から開始し、国内法令取入れのための研究が進んでいる。さらに、震災から7年がたったが、放射線被ばくの正しい理解への普及活動を継続して行った。

研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	現在		各種放射線線量計を用いた患者及び術者の線量測定に関する研究	
2	2008	4	現在		多施設心臓IVRにおける患者及び術者の被曝線量調査に関する研究	
3	2012	4	現在		MRIによる前交通動脈穿通枝抽出に関する研究	
4	2013	1	現在		大規模放射線災害時におけるESRを用いた個人被曝線量の推定に関する研究	
5	2014	4	現在		CTガイド下生検における術者被曝線量に関する研究	
6	2015	11	現在		SLE患者に対する非侵襲的MRI脳機能画像診断法に関する研究	
7	2016	7	現在		放射線被ばくの正しい理解への普及活動	
8	2017	4	現在		放射線検査機器のQA/QC手法の開発	
9	2017	10	現在		水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	
うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	1

1	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Red-emission phosphor's brightness deterioration by x-ray and brightness recovery phenomenon by heating	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Radiological Protection	37	2	N19	N26	20170000	Nakamura M, Chida K, Inaba Y, Kobayashi R, Zuguchi M	共著	国内
2	日本語	IVR-CT装置によるCT透視時の空間散乱線分布に関する基礎検討	学術雑誌	有	いいえ	臨床放射線	62	8	1099	1104	20170000	本田崇文、佐藤文貴、石井浩生、稲葉洋平、常陸真、立花茂、栗川功、千田浩一	共著	国内
3	日本語	二種類の異なる半導体式サーベイセンサの基本特性比較	学術雑誌	有	いいえ	東北大学医学部保健学科紀要	27	1	43	50	20180000	石井浩生、薩來康、上杉直人、加藤慎子、三戸麻莉菜、宮田恒平、芳賀喜裕、稲葉洋平、千田浩一	共著	国内
4	日本語	消化管X線撮影装置用QCファントムに関する研究	学術雑誌	無	いいえ	日本放射線技術学会東北部会雑誌	27		印刷中		20180100	稲葉洋平、加藤守、新田見耕太、森島貴顕、星ちはる	筆頭共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	4	その他の連名	7	合計	12
----	---	------	---	--------	---	----	----

1	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	第73回日本放射線技術学会総会学術大会		単名	はい	バンフィッ コ横浜	横浜	日本	20170416	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	英語発表支援セミナー「英語発表のポイントとコツ〜若手会員に向けたメッセージ〜」	<u>稲葉洋平</u>	なし	5000
2	国内	第73回日本放射線技術学会総会学術大会		筆頭連名	いいえ	バンフィッ コ横浜	横浜	日本	20170416	口頭(一般)	Fundamental Study of a Novel Radiation Dosimeter using a Multi-Channel Real-Time Monitor	<u>稲葉洋平</u> 、佐藤文貴、本田崇文、千田浩一	国内	5000
3	国内	第46回日本IVR学会総会		筆頭連名	いいえ	岡山コンベンションセンター	岡山	日本	20170520	口頭(一般)	IVR装置間における患者照射基準点線量測定から見た実測の重要性	<u>稲葉洋平</u> 、本田崇文、佐藤文貴、芳賀喜裕、千田浩一	国内	2000
4	国内	第70回日本酸化ストレス学会学術集会		その他の連名	いいえ		筑波	日本	20170628	口頭(一般)	血中脂質ラジカル消去能を指標とした放射線影響測定	<u>稲葉洋平</u> 、 <u>稲葉洋平</u> 、佐藤圭樹、平山暁、坪井康次、千田浩一、盛武敬	国内	
5	国内	平成29年度若手放射線生物学研究会		その他の連名	いいえ		東京	日本	20170902	口頭(一般)	被ばく影響の測定	<u>稲葉洋平</u> 、 <u>稲葉洋平</u> 、佐藤圭樹、平山暁、坪井康次、千田浩一、盛武敬	国内	
6	国内	日本放射線影響学会第60回大会		その他の連名	いいえ		千葉	日本	20171025	口頭(一般)	電子スピン共鳴法を用いた被ばく後の酸化ストレスレベルの測定	<u>稲葉洋平</u> 、 <u>稲葉洋平</u> 、佐藤圭樹、平山暁、坪井康次、千田浩一、盛武敬	国内	
7	国内	第56回電子スピンサイエンス学会年会		その他の連名	いいえ		東京	日本	20171102	口頭(一般)	ラジカル消去能を指標とした被ばく線量推定	<u>稲葉洋平</u> 、 <u>稲葉洋平</u> 、佐藤圭樹、平山暁、坪井康次、千田浩一、盛武敬	国内	

8	国際	RSNA2017		その他の 連名	いいえ	マコーミック クブレイス	シカゴ	アメリカ	20171126	ポスター(一般)	Real-time Management of Patient Radiation Dose during Interventional Radiology	Chida K, Inaba Y, Kato M, Morishima Y, Nakamura M, Zuguchi M	国内
9	国内	第11回Quantum Medicine 研究会		その他の 連名	いいえ		茨城	日本	20180128	口頭(一般)	電子スピン共鳴法を用いた被ばく後の血液抗酸化レベルの測定	孫略, 稲葉洋平, 佐藤圭樹, 平山暁, 坪井康次, 千田浩一, 盛武敬	国内
10	国内	第23回日本集団災害医学 会総会・学術集会		筆頭連名	いいえ	パンフィッ コ横浜	横浜	日本	20180201	口頭(一般)	血液抗酸化能を指標とした放射線被ばく線量の推定	稲葉洋平, 孫略, 佐藤圭樹, 平山暁, 盛武敬, 千田浩一	国内
11	国際	ISRN2018		その他の 連名	いいえ		茨城	日本	20180209	口頭(一般)	Changes in blood antioxidant capacity after irradiation: A novel biosimetry method	Sun L, Inaba Y, Sato K, Hirayama A, Tsuboi K, Okazaki R, Chida K, Moritake T	国内
12	国際	ECR2018		筆頭連名	いいえ		ウィーン	オースト リア	20180227	ポスター(一般)	Necessity for the optimization of radiation dose and image quality in cardiac interventional procedures.	Inaba Y, Chida K	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の医学系研究科保健学専攻放射線検査学分野を合わせると博士大学院生10名(内災害研所属3名)、修士大学院生12名(内災害研3名)、学部卒研究生5名の計27名が所属していた。大学院生に対しては、研究、教育指導として学会発表(国内・国外)や論文指導を行ってきた。また、東北大学医学部保健学放射線技術科学専攻の学部生に対しては、2,3年時の放射線領域に関する学生実験や4年時の放射線検査学領域における卒業研究に関わった。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/コマ
1 放射線計測学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
2 放射化学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
3 卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	
4 臨床撮影技術学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	8
5 核医学検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
6 核医学物理学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
7 画像工学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	6
8 RI検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	2
9 放射線検査学特論	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	1
10 放射線検査学トレーニング	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	1
11 医用情報学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	1
12 医用情報学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	1
13 生体応用科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	1
14 生体応用科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	1
15 医用情報技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	1
16 医用情報技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	1
17 生体応用技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	1
18 生体応用技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	1
19 保健学論文研究	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、金曜フォーラムWGとして年間9件のIRIDeS金曜フォーラムを企画運営した。IRIDeS主催で一般市民向けおよび研究者でも参加可能なテーマを各回に設定し、総合討論も設けてディスカッションする機会を多く作った。また、招待講演として「学術英語」に関する内容を、特に医療従事者向けに行った。さらに片平祭りにおいて、身の回りの放射線や医療における放射線など一般市民向けに展開した。今後も我々災害放射線医学分野とし、医療従事者のみならず、一般市民に対する放射線教育に対しても重きを置いて、放射線に対する正しい知識の普及に今後も取り組んでいきたい。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 10 件

国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1 国内	東北大学災害科学国際研究所	第45回IRIDeS金曜フォーラム	20170526	20170526	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	40	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
2 国内	東北大学災害科学国際研究所	第46回IRIDeS金曜フォーラム	20170623	20170623	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	40	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
3 国内	東北大学災害科学国際研究所	第47回IRIDeS金曜フォーラム 平成28年度特定プロジェクト研究成果報告会	20170729	20170729	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	100	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
4 国内	東北大学災害科学国際研究所	第48回IRIDeS金曜フォーラム	20170825	20170825	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	35	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
5 国内	東北大学災害科学国際研究所	第49回IRIDeS金曜フォーラム	20170922	20170922	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	35	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
6 国内	東北大学災害科学国際研究所	第50回IRIDeS金曜フォーラム	20171027	20171027	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	60	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
7 国内	東北大学災害科学国際研究所・宮城県	IRIDeS金曜フォーラム<特別開催>「東北 スペシャルセッション〜Buid Back Better より よい復興〜」	20171126	20171126	仙台市・仙台国際センター	仙台	日本	運営担当	150	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
8 国内	東北大学災害科学国際研究所	第51回IRIDeS金曜フォーラム	20180126	20180126	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	35	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
9 国内	東北大学災害科学国際研究所	第52回IRIDeS金曜フォーラム	20180223	20180223	仙台市・災害科学国際研究所	仙台	日本	運営担当	45	IRIDeS主催	講演会・セミナー	
10 国内	東北大学附属研究所	片平祭り2017	20171007	20171008	災害科学国際研究所ほか	仙台	日本	片平祭り委員	500	IRIDeS主催・共同主催	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
			開始年月日	終了年月日							
1 講演会・セミナー	英語発表支援セミナー	招待講演	20170413	20170426	「英語発表のポイントとコツ〜若手会員に向けたメッセージ〜」	なし	第73回日本放射線技術学会総会学術大会	パンフィッコ横浜	横浜	日本	150

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1 産業医科大学、筑波大学	盛武敬、孫略	20170922	共同研究	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻	仙台	運営	20

# 富田 博秋 教授

Hiroaki TOMITA

災害医学研究部門 災害精神医学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岡山大学医学部	医学部	1989	3	岡山大学大学院	医学研究科	1995	3	医学博士	1995	3

### 職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1989	4	岡山大学医学部神経精神医学教室	研修医/大学院生
2	1989	5	1990	3	社会保険広島市民病院	研修医/大学院生
3	1990	4	1993	1	岡山大学 医学部 神経精神医学教室	精神科医/大学院生
4	1993	2	1993	5	医療法人 三十会 倉敷神経科病院	精神科医/大学院生
5	1993	6	1995	3	医療法人 恵風会 高岡病院	精神科医/大学院生
6	1995	4	1996	3	医療法人 恵風会 高岡病院	精神科医
7	1996	4	1997	3	医療法人社団 英仁会 有明保養院/長崎大学 医学部 人類遺伝学教室	精神科医/博士研究員
8	1997	4	2000	1	長崎大学 医学部 人類遺伝学教室	助手
9	2000	1	2001	3	カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 生理学講座	トラスダール研究員
10	2001	4	2002	6	カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 精神医学及びび人間行動学講座	デラ・マーチン研究員
11	2002	7	2006	7	カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 精神医学及びび人間行動学講座	助教授相当研究員
12	2006	8	2007	3	東北大学 大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	助教授
13	2007	4	2012	3	東北大学 大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	准教授
14	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本精神神経学会	日本生物学的精神医学学会	日本精神神経薬理学会	日本統合失調症学会	日本精神行動遺伝医学学会	日本人類遺伝学会	神経科学会(米国)	米国人類遺伝学会	世界精神神経薬理学会	世界精神科遺伝学会

#### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本精神神経学会	災害支援委員会	委員	
2	日本精神神経学会	精神神経学会誌編集委員会	委員	
3	日本精神神経学会	Psychiatry and Clinical Neuroscience 編集委員会	委員	
4	日本生物学的精神医学学会	うつ病研究推進WG委員会	副委員長	
5	日本生物学的精神医学学会	将来計画構想委員会	委員	
6	日本生物学的精神医学学会	ブレインバンク委員会	委員	
7	日本生物学的精神医学学会		理事	20170929
8	日本精神神経薬理学会		評議員	
9	日本統合失調症学会		評議員	
10	日本精神行動遺伝医学学会		評議員	
11	日本人類遺伝学会		評議員	
12	神経科学会(米国)		会員	
13	米国人類遺伝学会		会員	
14	世界精神神経薬理学会		会員	
15	世界精神科遺伝学会		会員	

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
災害精神医学	精神医学	分子遺伝学	疫学	ゲノム研究

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部・医学研究科	学生厚生委員会	委員	20130000
2	医学部・医学研究科	共通機器室管理運営委員会	委員	20130000
3	東北メディカル・メガバンク機構	メンタルヘルスクア推進室	室長	20130000
4	東北メディカル・メガバンク機構	広報委員会	委員	20130000

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

①東日本大震災発災以来、毎年継続している被災者健康調査、仮設住宅での茶話会、個別支援を継続して行い、災害後の中長期の精神面への影響の詳細な実態把握、回復の促進因子、阻害因子の解析を進めた。②被災3県の精神科医療機関で災害が及ぼした影響とそこから復興のプロセスを評価・分析を進めた。③災害ストレス関連精神疾患の動物モデルを用いて病態形成関連候補分子の特定を進めた。④東日本大震災後の研究倫理のあり方に関する調査研究を行った。⑤熊本地震の教訓を踏まえた精神科医療機関の災害対応整備状況についての調査を行った。

研究課題

開始年	期間		研究課題(内容)	所外連携
	月	終了年 月		
1996	4	現在	精神神経症状を伴う先天奇形症候群の病因・病態の解明	国内
1996	4	現在	気分障害、統合失調症、心的外傷後ストレス障害、てんかん、精神遅滞などの神経精神疾患の病因、病態解明に向けた連鎖解析、相関研究などの遺伝学的研究	国内
2001	4	現在	気分障害、統合失調症などの病因、病態解明に向けた精神疾患罹患患者および非罹患対象者の死後脳組織における遺伝子発現解析	国内
2006	8	現在	精神疾患病態への精神神経免疫学的現象の関与メカニズムの解明	国内
2006	8	現在	胎生期ストレス暴露が成長後の精神活動・行動に及ぼす影響の分子遺伝学的メカニズム解明	国内
2006	8	現在	精神疾患病態形成の分子遺伝学的メカニズム解明	国内
2006	8	現在	気分調整薬などの薬理作用解明に向けた培養細胞を用いた分子遺伝学的研究	国内
2009	4	現在	ゲノム多型が中枢神経の形態・機能に及ぼす影響の解明を通じた精神疾患エンドフェノタイプの特定	国内
2011	9	現在	東日本大震災が被災住民の心身に及ぼす影響の実態解明	国内
2012	4	現在	東日本大震災が精神科医療機関に及ぼした影響の実態解明	国内
2012	4	現在	東日本大震災以降のメンタルヘルス支援活動に関する情報の集積と分析	国内
2012	4	現在	コホート研究によるうつ病、心的外傷後ストレス障害等精神疾患の遺伝的・環境要因の特定と個別化医療技術の開発	国内
2014	4	現在	東日本大震災が児童に及ぼした影響の実態解明	国内
2014	4	現在	妊産婦のメンタルヘル스에配慮した災害対応、防災のあり方の研究	国外
2014	4	現在	災害メンタルヘルスのあり方の国際連携のあり方に関する研究	国外
2014	4	現在	救命救急センターにおけるメンタルヘルス対応のあり方の検討	国内
2014	4	現在	地域医療/プライマリケアの現場におけるメンタルヘルスのあり方の検討	国内
2015	4	現在	被災地域の研究倫理のあり方に関する研究	国内
2016	4	現在	栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発	国内
2017	4	現在	熊本地震の教訓を踏まえた精神科医療機関の災害対応整備状況についての調査	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	8	合計	8	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
英語	School-Based Interventions Aimed at the Prevention and Treatment of Adolescents Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake: A Three-Year Longitudinal Study	学術雑誌	有	いいえ	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	242	3	203	213	20170000	JUNKO OKUYAMA, SHUNICHI FUNAKOSHI, HIROAKI TOMITA, TAKUHIRO YAMAGUCHI and HIROO MATSUOKA	共著	国内
英語	Mental health and school-based intervention among adolescent exposed to the 2011 Great East Japan Earthquake and tsunami	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction	24		183	188	20170000	Junko Okuyama, Shunichi Funakoshi, Hiroaki Tomita, Takuhiro Yamaguchi, Hiroo Matsuoka	共著	国内
英語	The VEGF gene polymorphism impacts brain volume and arterial blood volume.	学術雑誌	有	いいえ	Human Brain Mapping	38	7	3516	3526	20170609	Hikaru Takeuchi, Hiroaki Tomita, Yasuyuki Taki, Yoshie Kikuchi, Chiaki Ono, Zhiqian Yu, Atsushi Sekiguchi, Rui Nouchi, Yuka Kotozaki, Seishu Nakagawa, Carlos Makoto Miyachi, Kunio Iizuka, Ryoichi Yokoyama, Takamitsu Shinada, Yuki Yamamoto, Sugiko Hanawa, Tsuyoshi Araki, Keiko Kunitoki, Yuko Sassa, and Ryuta Kawashima	共著	国内
英語	Psychological Distress and the Risk of Withdrawing From Hypertension Treatment After an Earthquake Disaster	学術雑誌	有	いいえ	Disaster Medicine and Public Health Preparedness	11	2	179	182	20170400	Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Akira Narita, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa and Hiroaki Tomita	共著	国内
英語	Psychological distress and the incident risk of functional disability in elderly survivors after the Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Affective Disorders	221		145	150	20171015	Fumiya Tanji, Yumi Sugawara, Yasutake Tomata, Takashi Watanabe, Kemmyo Sugiyama, Yu Kaiho, Hiroaki Tomita, Ichiro Tsuji	共著	国内
英語	Cumulative incidence of suicidal ideation and associated factors among adults living in temporary housing during the three years after the Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Affective Disorders	232		1	8	20180201	Qingyi Xu, Maiko Fukasawa, Norito Kawakami, Toshiaki Baba, Kiyomi Sakata, Ruriko Suzuki, Hiroaki Tomita, Harumi Nemoto, Seiji Yasumura, Hirooki Yabe, Naoko Horikoshi, Maki Umeda, Yuriko Suzuki, Haruki Shimoda, Hisateru Tachimori, Tadashi Takeshimah, Evelyn J. Brometi	共著	国内
英語	Polymorphisms in the microglial marker molecule CX3CR1 affect the blood volume of the human brain	学術雑誌	有	いいえ	Psychiatry and Clinical Neurosciences					20180227	Mai Sakai, Hikaru Takeuchi, Zhiqian Yu, Yoshie Kikuchi, Chiaki Ono, Yuta Takahashi, Fumiaki Ito, Hiroo Matsuoka, Osamu Tanabe, Jun Yasuda, Yasuyuki Taki, Ryuta Kawashima, Hiroaki Tomita	共著	国内
英語	Effect of tsunami drill experience on evacuation behavior after the onset of the Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction					20180000	Naoki Nakaya, Harumi Nemoto, Carine Yi, Ayako Sato, Kotomi Shingu, Tomoka Shoji, Shosuke Sato, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Zhiqian Yu, Nicole Gunawansa, Shinichi Kuriyama, Osamu Muraio, Takeshi Sato, Fumihiko Imamura, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa, Hiroaki Tomita	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	総合リハビリテーション第45巻12号(2017年12月号)「特集 被災地の復興と障害」5.災害精神医学から見る復興と障害—障害にかかわる医療福祉保健従事者に必要な知識とスキル	その他	20171210	佐久間篤、富田博秋	共著	医学書院	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 英語	Primary blast-induced traumatic brain injury: lessons from lithotripsy	学術雑誌	有	いいえ	Shock Waves	27	6	863	878	20171026	A. Nakagawa, K. Ohtani, R. Armonda, H. Tomita, A. Sakuma, S. Mugikura, K. Takayama, S. Kushimoto, T. Tominaga	共著	国内

学会発表

単名	5	筆頭連名	0	その他の連名	4	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	第40回日本神経科学大会	狩野方伸	その他の連名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170722	ポスター(一般)	Immune activation during pregnancy in mice Leads different DNA methylation and gene expression between male and female offspring	Zhiqian Yu, Ryo Funayama, Mai Sakai, Yoshie Kikuchi, Kenji Hashimoto, Masao Nagasaki, Keiko Nakayama, Hiroaki Tomita	国内	
2	国際	the International Society of Neurochemistry—the Asian-Pacific Society for Neurochemistry—the Japanese Society for Neurochemistry (ISN-APSN-JSN) Joint Advanced School of Neurochemistry		単名	はい	東北大学片平キャンパス	仙台	日本	20170903	口頭(一般)	Psychological impact of the Great East Japan Earthquake—How science can contribute to the recovery—	Hiroaki Tomita	なし	
3	国内	第60回日本神経学会大会	福永浩司	単名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20170909	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Posttraumatic stress reactions among communities affected by the Great East Japan Earthquake and investigations into the pathogenesis of PTSD. Symposium "Perspectives in PTSD research—6 years after the Great East Japan Earthquake—"	Hiroaki Tomita	なし	
4	国内	第39回日本生物学的精神医学会・第47回神経精神薬理学会	久住一郎、南雅文	その他の連名	いいえ	札幌コンベンションセンター	札幌	日本	20170929	ポスター(一般)	慢性拘束ストレスによるミクログリア由来サイトカインの発現	倉志前 坂井 舞, 菊地 淑恵, 高橋 雄太, 富田博秋	なし	
5	国際	French-Japanese Week in Tokyo & Sendai		単名	いいえ	日仏会館	東京	日本	20171003	口頭(一般)	Lessons in post-disaster mental health issues - Longitudinal alterations of mental health conditions among communities affected by the Great East Japan Earthquake -	Hiroaki Tomita	なし	
6	国内	第6回日本精神科医学学会学術大会	堀井茂男	単名	はい	広島国際会議場	広島	日本	20171012	口頭(Keynote)	エビデンスに基づく災害精神医学の樹立に向けて～過去の災害の教訓を活かして精神科医は如何に災害に備えるべきか～	富田博秋	なし	
7	国内	第30回日本総合病院精神医学会総会	三邊義雄	その他の連名	いいえ	金沢市文化ホール、金沢ニューグランドホテル	富山	日本	20171118	ポスター(一般)	東北大学病院総合診療外来における簡易心理検査の有用性と関連要因の検討	野崎裕之, 中川高, 阿部倫明, 八木橋真央, 甲賀ひとみ, 吉村直仁, 有田龍太郎, 齊藤奈津美, 田中淳一, 沼田健裕, 菅野武, 鈴木聡子, 大澤稔, 菊地章子, 黒田仁, 高山真, 奈良正之, 富田博秋, 石井正	なし	
8	国際	WORLD BOSAI FORUM IDRC 2017 in SENDAI	今村文彦	単名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171127	口頭(一般)	Establishment of evidence-based disaster psychiatry to disseminate more effective disaster mental health response and preparedness	富田博秋	なし	
9	国内	第2回東北メディカル・メカバンク計画合同研究会		その他の連名	いいえ		盛岡	日本	20171222	ポスター(一般)	うつ病の個別化予防、個別化医療技術開発に向けた数理、機械学習の応用	飯田透太, 高橋雄太, 倉志前, 小柴生造, 龍崎之, 菅原準一, 寶澤篤, 田宮元, 栗山進一, 布施昇男, 木下賢吾, 萩島創一, 富田博秋	なし	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	23 件
----	------

国内	国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(%)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第5回「災害と健康」学際研究推進セミナー「災害を生きる力の8因子」～その心理・脳科学研究からフィールド活用まで～」	20170419	20170419	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー

2	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第2回メンタルヘルスサポートゼミ	20170426	20170426	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
3	国内	災害精神医学分野	第1回心理社会研究会	20170519	20170519	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
4	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第6回「災害と健康」学際研究推進セミナー「「伝える」と「伝わる」の心理学」	20170530	20170530	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
5	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第3回メンタルヘルスサポートゼミ	20170530	20170530	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
6	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第4回メンタルヘルスサポートゼミ	20170613	20170613	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
7	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	せん妄マネジメント研修会	20170617	20170617	登米市立登米市民病院	登米市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
8	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第7回「災害と健康」学際研究推進セミナー「東日本大震災から学ぶ生存モデル～津波遺体のメッセージと行方不明の実態～」	20170628	20170628	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
9	国内	災害精神医学分野	第2回心理社会研究会	20170712	20170712	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
10	国内	災害精神医学分野	第3回心理社会研究会	20170730	20170730	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
11	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第5回メンタルヘルスサポートゼミ	20170809	20170809	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
12	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第8回「災害と健康」学際研究推進セミナー「災害シミュレーションの高度化とその見える化の試み～計算災害科学の確立に向けて～」	20170830	20170830	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
13	国内	災害精神医学分野	第4回心理社会研究会	20170915	20170915	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
14	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第9回「災害と健康」学際研究推進セミナー「シミュレーション・センシング技術を災害医療救済に活かすために」	20170920	20170920	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
15	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第6回メンタルヘルスサポートゼミ	20171016	20171016	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
16	国内	災害精神医学分野	第9回 災害精神医学セミナー「災害後のこころの健康を考える熊本・宮城連携フォーラム」	20171017	20171017	東北大学医学部6号館1階 講堂	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		国内	講演会・セミナー
17	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第10回「災害と健康」学際研究推進セミナー「災害科学研究技法としての言語データ分析:テキストマイニングからワークショップまで」	20171018	20171018	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
18	国内	災害精神医学分野	第5回心理社会研究会	20171122	20171122	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
19	国内	東北大学「コングリター型総合診療医養成プログラム」	第7回メンタルヘルスサポートゼミ	20171211	20171211	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	講演会・セミナー
20	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第11回「災害と健康」学際研究推進セミナー「災害後の医療ニーズシミュレーション」	20180124	20180124	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室1	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
21	国内	災害精神医学分野	第6回心理社会研究会	20180221	20180221	東北メディカル・メガバンク棟3階小会議室1	仙台市	日本	運営		なし		なし	研究会・ワークショップ
22	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	第12回「災害と健康」学際研究推進セミナー「危機事象発生時の産業保健ニーズ」	20180313	20180313	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室2	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催		なし	講演会・セミナー
23	国内	災害と健康プロジェクト・ユニット	東北大学災害科学研究拠点セミナー	20180319	20180319	東北大学医学部6号館1階 カンファレンス室2	仙台市	日本	運営		IRIDeS主催	熊本県精神保健福祉センター、みやぎ心のケアセンター	国内	講演会・セミナー

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院博士課程2名、社会人博士課程大学院生3名、修士課程大学院生1名、社会人修士大学院生2名、高次修練生3名、基礎研修生3名、留学生1名(特別研究学生)の指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	保健医療概論	東北大学	医学系研究科	公衆衛生学専攻		前期	1
2	基礎ゼミ(巨大災害に対する保健医療の備え)	東北大学	全学	全学	1	前期	1
3	臨床薬理学講義	東北大学	医学部	医学科	4	後期	3
4	臨床薬理学講義	東北大学	医学部	保健学科(看護)	2	後期	1
5	研究室取材訪問	東北大学	医学部	医学科	1	前期	2
6	空前最終講義	東北大学	医学部	医学科	6	後期	1
7	災害の科学講義	東北大学	全学	全学	1	後期	1
8	臨床実習前特別講義	東北大学	医学部	医学科	4	後期	1
9	保健学科災害メンタルヘルス	東北大学	医学部	保健学科		通年	8
10	医学部基礎修練	東北大学	医学部	医学科	4	後期	8
11	医学部高次修練	東北大学	医学部	医学科	6	前期	8

D. 社会活動  
社会活動の概要

東日本大震災以来、被災地の自治体における健康調査と支援活動を継続して行うとともに、今後の災害時メンタルヘルス支援体制の整備を行った。また、被災地域の精神医療保健を支援するための活動や、精神疾患の病態解明研究体制整備や若手研究者育成のための取り組みを行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 26 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	第16回evidenced-based-psychiatry研修会	講演	20170420	20170420	産後うつ対策の進展と研究の展望～臨床と制度策定・診療技術の向上と研究～	なし	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター	名取市	日本	
2	その他	2017年第2回メンタルヘルスサポートゼミ	講演	20170426	20170426	プライマリ・ケア医に向けた気分障害・不安障害診療のポイント	なし	東北大学「コンダクター型総合診療医」養成プログラム	東北大学メディカルメガバンク棟3階	仙台市	日本	
3	講演会・セミナー	熊本大学名医に学ぶセミナー	講演	20170531	20170531	東日本大震災とメンタルヘルスの諸問題～医学は如何に被災コミュニティに貢献し得るか～	なし	熊本大学大学院医学教育部	熊本大学	熊本市	日本	
4	その他	第17回 evidenced-based-psychiatry 研修会	講演	20170615	20170615	栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発の最新展開	なし	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター	名取市	日本	
5	講演会・セミナー	2017年度年輪の会講演会	講演	20170618	20170618	最新の脳科学研究で見えてきた精神疾患の治療・診断法-II	なし	年輪の会	スクエア住原3F大会議室	東京	日本	
6	その他	French-Japanese Week on Disaster Risk Reduction	講演	20171003	20171003	Lessons in post-disaster mental health issues - Longitudinal alterations of mental health conditions among communities affected by the Great East Japan	なし	Embassy of France in Japan	日仏会館	東京	日本	
7	その他	EGUIDE プロジェクト統合失調症薬物治療ガイドライン講習会	講演	20171007	20171007	その他の臨床的諸問題	なし	EGUIDE プロジェクト事務局	鳥取大学	米子市	日本	
8	その他	EGUIDE プロジェクトうつ病薬物治療ガイドライン講習会	講演	20171008	20171008	うつ病患者の睡眠障害とその対応	なし	EGUIDE プロジェクト事務局	鳥取大学	米子市	日本	
9	講演会・セミナー	第29回仙台精神科セミナー	講演	20171013	20171013	うつ病研究と今後の精神医療の展望	なし	吉富薬品株式会社	勝山館	仙台市	日本	
10	講演会・セミナー	第9回 災害精神医学セミナー「災害後のこころの健康を考える熊本・宮城連携フォーラム」	講演	20171017	20171017	今後の災害後メンタルヘルスに向けた取り組みの展望と課題 - 災害科学の役割 -	なし	災害科学国際研究所・災害精神医学分野	東北大学医学部6号館1階	仙台市	日本	
11	その他	第18回evidenced-based-psychiatry 研修会	講演	20171019	20171019	指定国立大学としての災害医学・精神医学への取り組み。	なし	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター	名取市	日本	
12	講演会・セミナー	第8回統合産婦人科学研究合同シンポジウム	講演	20171023	20171023	出産と育児に伴う母親の精神的健康状態の規定要因の特定と対策策定	なし	東北大学統合産婦人科学研究センター	東北大学医学部3号館8階	仙台市	日本	
13	講演会・セミナー	医療心理懇話会 第2回集会	講演	20171025	20171025	うつ病病態に関わる遺伝子×環境相互作用の解明	なし	医療心理懇話会	エステック情報ビル21階会議室B	東京	日本	
14	講演会・セミナー	富土市医師会学術講演会	講演	20171101	20171101	大災害とメンタルヘルス～一般診療医が備えるべきこと～	なし	富土市医師会	富土市医師会館	富土市	日本	
15	講演会・セミナー	東北大学産婦人科セミナー	講演	20171220	20171220	産後うつに関する研究の進捗情報	なし	東北大学産婦人科医局	東北大学医学部3号館8階	仙台市	日本	
16	その他	第19回evidenced-based-psychiatry 研修会	講演	20171228	20171228	依存への対応～新たな流れ～	なし	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター	名取市	日本	
17	その他	第2回実践的防災学シンポジウム すこやかな暮らしの復興～復興のその先を見据えて～	講演	20180118	20180118	被災地域における高齢者のメンタルヘルス～高齢社会における復興後を見据えた地域づくりに向けて～	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	
18	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180123	20180123	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町松ヶ浜地区避難所	七ヶ浜町	日本	
19	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180130	20180130	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町菖蒲田浜公営住宅集会所	七ヶ浜町	日本	
20	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180206	20180206	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町花洲浜地区避難所	七ヶ浜町	日本	
21	その他	第20回evidenced-based-psychiatry 研修会	講演	20180215	20180215	災害精神医学研究・未来型精神医療に向けた研究	なし	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター	名取市	日本	
22	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180220	20180220	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町代々崎浜地区避難所	七ヶ浜町	日本	
23	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180227	20180227	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町笹山地区避難所	七ヶ浜町	日本	
24	その他	おはなしサロンだん・だん(談・暖)	講師	20180306	20180306	からだも心も健康に過ごすために～こころの健康はお隣さんとのつながりから	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町中央公民館2階第3研修室	七ヶ浜町	日本	
25	その他	七ヶ浜職員安全衛生委員会	講師	20180320	20180320	平成29年度七ヶ浜町役場職員ストレスチェックの分析と今後の対策	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町役場会議室	七ヶ浜町	日本	
26	その他	七ヶ浜町役場管理者講習会	講師	20180327	20180327	七ヶ浜町役場メンタルヘルス研修	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町水道事業所2階会議室	七ヶ浜町	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	みやぎ心のケアセンター		顧問	20150301
2	その他	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員会	委員	20161201
3	その他	日本ブレインバンクネットワーク外部評価委員	日本ブレインバンクネットワーク外部評価委員会	委員	20160601

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20111001	七ヶ浜役場	国内	七ヶ浜町における震災ストレス調査と保健衛生の向上に向けた取り組みに関する協定書	自治体	七ヶ浜町	20111001	7

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	熊本県精神保健福祉センター	山口喜久雄、富田正徳、宮本靖子	20171017	講演	東北大学医学部6号館1階	仙台	運営	
2	熊本こころのケアセンター	矢田部裕介	20171017	講演	東北大学医学部6号館1階	仙台	運営	
3	みやぎ心のケアセンター	福地成	20171017	講演	東北大学医学部6号館1階	仙台	運営	



# 俞 志前 助教

Zhiqian YU

災害医学研究部門 災害精神医学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	首都医科大学	歯学部	1999	8	東北大学	歯学研究科			歯科博士	2006	3

### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2006	9	東北大学大学院 歯学研究科 口腔診断学分野	博士研究員
2	2006	10	2008	3	東北大学 先進医学研究機構	特任助教
3	2008	4	2012	3	東北大学大学院 医学研究科 精神神経生物学分野	博士研究員
4	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

### 学会活動

#### 所属学会

No.	学会名 1	2	3	4	5	6
1	日本生物的精神医学会	日本統合失調症学会	日本精神神経薬理学会	日本精神神経学会	日本免疫学会	Society for Neuroscience

#### 研究分野・キーワード

No.	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
1	災害精神医学	精神免疫学	生物学

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	災害科学国際研究	安全衛生委員会	委員	20170401
2	医学系研究科	東北大学病院共通機器室	委員	20170401

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

①胎生期母体ウイルス感染のモデルマウスを用い、胎生期免疫ストレスが生後マウスの脳内 DNA メチル化状態および遺伝子発現に及ぼす影響を全ゲノム規模で検討する。②マウスうつモデルを用い、慢性ストレス負荷によるマウス脳内の炎症性サイトカインの変化を検討した。③AMED の融合脳研究課題「栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発」を遂行するために、被災者のうつ、または産後うつ等のハイリスク者、および健常者の血清検体を用いてバイオマーカー探索の解析を行った。

### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	現在		統合失調症における環境要因のエピゲノム解析と分子病態の解明	国内
2	2016	4	現在		栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Polymorphisms in the microglial marker molecule CX3CR1 affect the blood volume of the human brain	学術雑誌	有	いいえ	Psychiatry and clinical neurosciences					20180227	Mai Sakai, Hikaru Takeuchi, Zhiqian Yu, Yoshie Kikuchi, Chiaki Ono, Yuta Takahashi, Fumiaki Ito, Hiroo Matsuoka, Osamu Tanabe, Jun Yasuda, Yasuyuki Taki, Ryuta Kawashima, Hiroaki Tomita	共著	国内
2	英語	The Vegf gene polymorphism impacts brain volume and arterial blood volume	学術雑誌	有	いいえ	Human brain mapping	38	7	3516	3526	20170701	Hikaru Takeuchi, Hiroaki Tomita, Yasuyuki Taki, Yoshie Kikuchi, Chiaki Ono, Zhiqian Yu, Atsushi Sekiguchi, Rui Nouchi, Yuka Kotozaki, Seishu Nakagawa, Carlos Makoto Miyachi, Kunio Iizuka, Ryoichi Yokoyama, Takamitsu Shinada, Yuki Yamamoto, Sugiko Hanawa, Tsuyoshi Araki, Keiko Kunitoki, Yuko Sassa, Ryuta Kawashima	共著	国内

### 学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	3	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国内	第113回日本精神神経学会 学術総会	尾崎紀夫	その他の 連名	いいえ	名古屋国 際会議場	名古屋	日本	20170624	口頭(一般)	グリア線維酸性蛋白質遺伝子多型の脳構造への 影響の検討～精神疾患感受性メカニズムの理解 に向けて～	高橋雄太、伊藤文晃、 竹内光、坂井舞、愈志 前、松岡洋夫、瀧端 之、川島隆太、富田博 秋	なし	1000
2	国内	第40回日本神経科学大会	狩野方伸	筆頭連名	いいえ	幕張メッ セ	千葉	日本	20170722	ポスター(一般)	Immune activation during pregnancy in mice Leads different DNA methylation and gene expression between male and female offspring	Zhiqian Yu, Ryo Funayama, Mai Sakai, Yoshie Kikuchi Kenji Hashimoto, Masao Nagasaki, Keiko Nakayama, Hiroaki Tomita	国内	1000
3	国内	第40回日本神経科学大会	狩野方伸	その他の 連名	いいえ	幕張メッ セ	千葉	日本	20170722	ポスター(一般)	Effects of prolonged restraint stress on microglial gene expression	Mai Sakai, Zhiqian Yu, Yoshie Kikuchi Yuta, Takahashi, Hiroaki Tomita	国内	1000
4	国内	第39回日本生物学的精神 医学会・第47回日本神経精 神薬理学会 合同年会	久住一郎、南雅 文	筆頭連名	いいえ	札幌コン ベンション センター	札幌	日本	20170929	ポスター(一般)	慢性拘束ストレスによるミクログリア由来サイトカインの発現	愈志前、坂井舞、菊 地淑恵、高橋雄太、 富田博秋	なし	1000
5	国内	第2回東北メディカル・メガバ ンク計画合同研究会		その他の 連名	いいえ		盛岡	日本	20171222	ポスター(一般)	うつ病の個別化予防、個別化医療技術開発に向 けた数理、機械学習の応用。	飯田淳太、高橋雄太、 愈志前、小柴生造、瀧 端之、菅原準一、實澤 篤、田宮元、栗山進一、 布施昇男、木下賢吾、 荻島創一、富田博秋	なし	100

C. 教育活動

教育活動の概要

① 当分野所属する東北大学大学院医学系研究科の博士2年生、および博士1年生の研究活動の指導を行った。② 東北大学医学部生3名の基礎修練の指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

所内・所外の研究者および市民向けセミナーの運営担当を務めた。世界防災フォーラムや市民向けの展示会の展示および運営担当を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 12 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第5回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170419	20170419	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	17	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
2	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第6回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170530	20170530	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	29	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
3	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第7回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170628	20170628	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	33	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
4	国内	災害科学国際研究所	第8回震災対策技術展(仙台)	20170803	20170803	アエル	仙台市	日本	運営担当	1000	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
5	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第8回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20170830	20170830	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	20	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
6	国内	災害科学国際研究所	東北大学片平まつり	20171007	20171008	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	運営担当	400	IRIDeS主催・共 同主催	その他	
7	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第9回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20171017	20171017	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	13	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
8	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第10回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20171018	20171018	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	10	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
9	国際	災害科学国際研究所	世界防災フォーラム	20171126	20171126	仙台国際セン ター	仙台市	日本	運営担当	900	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
10	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第11回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20180124	20180124	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	13	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
11	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第12回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20180313	20180313	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	16	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	
12	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	東北大学災害科学研究拠点セミナー	20180319	20180319	東北メディカル メガバンク棟	仙台市	日本	運営担当	18	IRIDeS主催・共 同主催	講演会・セミナー	

# 伊藤 潔 教授

Kiyoshi ITO

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1986	3					医学博士	1996	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1986	5	1986	6	東北大学医学部産科婦人科	医員
2	1986	7	1989	10	福島県郡山市太田総合病院産婦人科	医員(研修医)
3	1989	11	1992	3	東北大学医学部産科婦人科	助手
4	1992	4	1994	3	米国ジョージワシントン大学病理学教室	客員研究員
5	1994	4	1994	7	米国ヴァージニア医科大学病理学教室	客員研究員
6	1994	8	1996	3	東北大学産科婦人科	助手
7	1996	4	1997	3	青森県八戸市立市民病院 産婦人科	医長
8	1997	4	1998	12	青森県十和田市立中央病院 産婦人科	科長
9	1999	1	2002	3	東北大学 産科婦人科	講師
10	2001	2	2012	3	宮城県対がん協会細胞診センター所長(兼務 2012年3月まで)	所長(兼務)
11	2002	4	2009	8	東北大学大学院医学系研究科(婦人科学分野)	助教授
12	2009	9	2012	3	東北大学大学院医学系研究科(産科学分野)	准教授
13	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野	教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	American Society of Clinical Oncology (ASCO)	American Association for Cancer Research (AACR)	International Gynecologic Cancer Society (IGCS)	The Endocrine Society	日本産科婦人科学会	日本婦人科腫瘍学会	日本臨床細胞学会	日本婦人科がん検診学会	日本癌学会	日本内分泌学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本産科婦人科学会		代議員	20030401
2	日本婦人科腫瘍学会		評議員	20030401
3	日本婦人科がん検診学会		理事	20030401
4	日本臨床細胞学会		理事	20130401
5	東北臨床細胞学会		会長	20160701
6	宮城臨床細胞学会		会長	20161001
7	日本がん検診・診断学会		評議員	20110000
8	ホルモンと癌研究会		理事	20130801
9	日本婦人科腫瘍学会	ガイドライン作成委員会	小委員長	20130000
10	日本がん治療学会	産婦人科診療ガイドライン作成委員会	委員	20170401
11	日本生殖内分泌学会		理事	20150401
12	日本臨床細胞学会	倫理委員会	委員長	20160701
13	日本産科婦人科学会	震災・復興対策委員会	委員	20171210

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害産婦人科学	婦人科腫瘍学	婦人科内科学	がん疫学	婦人科病理学

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン	コース責任者	20120401
2	医学部	地域がん医療推進センター運営委員会	委員	20120401
3	医学部	がんプロフェッショナル養成プラン運営専門委員会	委員	20120401
4	医学部	施設整備委員会	委員	20130401
5	医学部	男女共同参画委員会	委員	20140401
6	医学部	予算委員会	委員	20130401
7	東北メディカル・メガバンク機構	人事委員会	委員	20130401
8	東北メディカル・メガバンク機構	運営委員会	委員	20130401
9	全学	安全保障輸出管理委員会	委員	20170401

B. 研究活動

研究活動の概要

1. 東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析:被災地での受診率は特に若年者で低迷し、震災年度よりさらに減少した地域も見られており、最新の検査法、液状化検体法を従来法に代えて行うことで、精度の高い検診を提供できる可能性があることを引き続き明らかにし、その成果を複数の全国学会で発表した。さらに予防ワクチン接種が検診に与える影響を詳しく明らかにし、アジア初のデータとして昨年引き続き2本目として英語論文化した(Tohoku J Exp Med)。また全国規模を含めた複数の学会を主催し、女性の健康状態や婦人科がん検診体制を多面的に検討し、議論する場を設けた。  
 2. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析:婦人科悪性疾患のうち子宮体がんは近年、急激に増加している。環境因子や女性ホルモンが、がんの発症や増悪に関与するが、ストレスホルモンに関連する因子である男性ホルモン(アンドロゲン)も、体がんの患者さんの再発や予後に関与し得る可能性を明らかにし、その成果を元に構想した研究が科研費Cを新規に獲得した。

研究課題

開始年	期間		研究課題(内容)	所外連携	
	月	終了年 月			
1	1999	1	現在	婦人科腫瘍におけるホルモン調節機構の研究	両方
2	2001	2	現在	婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
3	2012	4	現在	災害時およびそれ以降の婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
4	2012	4	現在	災害ストレスが婦人科腫瘍のホルモン調節機構に及ぼす影響に関する研究	国外
5	2012	4	現在	災害時の母子保健に関する研究	国内
6	2012	4	現在	災害後の産婦人科疾患発生動向に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Retinoic Acid Receptor $\beta$ : A Potential Therapeutic Target in Retinoic Acid Treatment of Endometrial Cancer.	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Gynecological Cancer	27	4	643	650	20170500	Tsuji K, Utsunomiya H, Miki Y, Hanihara M, Fue M, Takagi K, Nishimoto M, Suzuki F, Yaegashi N, Suzuki T, Ito K	共著	国内
英語	Roles of Aryl Hydrocarbon Receptor in Aromatase-Dependent Cell Proliferation in Human Osteoblasts.	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Molecular Sciences	18	10		pii: E2159	20171017	Miki Y, Hata S, Ono K, Suzuki T, Ito K, Kumamoto H, Sasano H	共著	国内
英語	Lower Incidence of Cervical Intraepithelial Neoplasia among Young Women with Human Papillomavirus Vaccination in Miyagi, Japan.	学術雑誌	有	いいえ	Tohoku Journal of Experimental Medicine	243	4	329	334	20171200	Ozawa N, Ito K, Tase T, Shibuya D, Metoki H, Yaegashi N.	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	ストレスホルモンが子宮内膜癌、卵巣癌におよぼす影響	その他	無	はい	平成28年度山口内分 秘財団事業報告書			107	116	20171001	三木康宏、鈴木貴、伊藤潔	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	11	合計	13
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	日本産科婦人科学会第69回学術講演会	工藤美樹	その他の連名	いいえ	広島県立総合体育館	広島	日本	20170414	ポスター(一般)	The 17 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase type2 expression induced by the androgen signal in endometrial cancer	Hashimoto C, Tsuji K, Tanaka S, Li B, Niihara H, Ito K, Yaegashi N	国内	6000
国内	日本産科婦人科学会第69回学術講演会	工藤美樹	その他の連名	いいえ	広島県立総合体育館	広島	日本	20170416	ポスター(一般)	Leptomeningeal metastasis from gynecologic cancers diagnosed by brain MRI	Toyoshima M, Tsuji K, Shigeta S, Tokunaga H, Ito K, Niihara H, Yaegashi N	国内	6000
国内	第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)	植田政嗣	その他の連名	いいえ	大阪国際会議場	大阪	日本	20170527	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	宮城県の子宮頸がん検診の受診率向上対策から精度管理まで	田勢亨、伊藤潔、小澤信義、佐藤朋春、八重樫伸生	国内	5589
国内	第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)	植田政嗣	その他の連名	いいえ	大阪国際会議場	大阪	日本	20170528	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	AGCと判定される病態と臨床経過の検討	新倉仁、岡本聡、板橋育子、海法道子、徳永英樹、豊島将文、佐藤朋春、伊藤潔、田勢亨、八重樫伸生	国内	5589
国内	第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)	植田政嗣	その他の連名	いいえ	大阪国際会議場	大阪	日本	20170527	ポスター(一般)	液状化細胞診(LBC)導入後の検診成績とHPVオプシオン検査の報告	藤原しのぶ、板橋育子、鈴木由香、成田賢子、山本ちひろ、小田切千恵、佐藤朋春、伊藤潔、田勢亨	国内	5589
国内	第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	片岡秀隆	その他の連名	いいえ	ホテル日航熊本くまもと県民交流館パレア	熊本	日本	20170728	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	卵巣原発と考えられた平滑筋肉腫の一例	工藤敬、徳永英樹、新倉仁、大山喜子、土岐麻美、渋谷祐介、櫻田尚子、橋本千明、永井智之、海法道子、豊島将文、高野忠夫、伊藤潔、八重樫伸生	国内	1800
国内	第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	片岡秀隆	その他の連名	いいえ	ホテル日航熊本くまもと県民交流館パレア	熊本	日本	20170728	口頭(一般)	当院における悪性軟部腫瘍に対する新規治療薬の使用	大山喜子、工藤敬、土岐麻美、渋谷祐介、櫻田尚子、橋本千明、永井智之、海法道子、徳永英樹、豊島将文、島田宗昭、高野忠夫、新倉仁、伊藤潔、八重樫伸生	国内	1800
国内	第25回日本がん検診・診断学会総会	片岡健	筆頭連名	はい	広島大学 霞キャンパス内広仁会館	広島	日本	20170827	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	シンポ:各種がん検診の医療行政・医療政策について 子宮頸がん検診の最近の動向と展望	伊藤 潔、田勢 亨、小澤 信義	国内	200
国内	第26回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会	伊藤 潔	その他の連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20170902	口頭(一般)	婦人科悪性腫瘍に合併する悪性腫瘍:日本病理学会別検診データベースを用いた解析	三木康宏、菅原由美、柴原裕紀子、辻一郎、笹野公伸、伊藤潔	国内	265

10	国内	第26回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会	伊藤 潔	筆頭連名	はい	仙台国際センター	仙台	日本	20170903	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	LBC(液状化細胞診)の真価の検証ー日本対がん協会・日本産婦人科医会共同研究からー	伊藤 潔、小澤信義、小西宏、鈴木光明、垣添忠生	国内	265
11	国内	第76回日本産科婦人科学会学術総会	中釜 齊	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170930	ポスター(一般)	The effect of dehydroepiandrosterone on the proliferation of endometrial cancer cells	Yoshida R, Miki Y, Fue M, Takagi K, Suzuki T, Ito K	国内	5000
12	国際	The Endocrine Society's 100th Annual Meeting & EXPO		その他の連名	いいえ	McCormick Place	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	Intratamoral Steroid Hormone And Krüppel-Like Factor 5 Expression In Endometrial Cancer	Miki Y, Fue M, Yoshida R, Shimizu M, Takagi K, Suzuki T, Ito K	国内	7000
13	国際	The Endocrine Society's 100th Annual Meeting & EXPO		その他の連名	いいえ	McCormick Place	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	Intratamoral Level Of Dehydroepiandrosterone And Its Role In Endometrial Cancer Cell Proliferation	Yoshida R, Miki Y, Fue M, Takahashi S, Takagi K, Suzuki T, Ito K	国内	7000

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 3 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(%)	IRIDEsの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北臨床細胞学会	第54回東北臨床細胞学会学術集会	20170701	20170701	東北大学医学部良院会館	仙台	日本	会長	263 (0)	なし		国内	講演会・セミナー
2	国内	日本婦人科がん検診学会	第26回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会	20170902	20170903	仙台国際センター	仙台	日本	会長	265 (3)	なし		国内	講演会・セミナー
3	国内	宮城県臨床細胞学会	第32回宮城県臨床細胞学会学術集会	20180204	20180204	東北大学医学部臨床講義棟大講堂	仙台	日本	会長	100 (0)	なし		国内	講演会・セミナー

C. 教育活動

教育活動の概要

医学部学生に対して産婦人科の講義を行うとともに、平成24年4月開始された東北がんプロフェッショナル推進養成プランの、婦人科コース責任者として活動しているが、いずれにおいても災害と産婦人科疾患あるいはがん検診との関連を講義に取り入れて教育活動を行っている。また、修士課程で指導している学生が、サイエンスエンジェルとして、幅広い活動を行う事を支援した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分1コマ)
1	ライフステージの診断技術論「更・老年期の生理、更・老年期の診断・技術」	医療法人社団スズキ病院付属産科学校		助産科	1	後期	2
2	災害の科学(災害の発生と波及) 題目:産婦人科医療・医学と大震災	東北大学	全学		1	後期	1
3	チュートリアル	東北大学	医学部	医学系研究科	5	通年	11
4	腫瘍外科トレーニングコースI 女性特有の腫瘍の診断・治療の概要	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	1
5	腫瘍外科トレーニングコースII 女性特有の腫瘍の診断・治療の概要	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	2
6	腫瘍外科トレーニングコースIV 婦人科腫瘍の診断・治療・予防に関する知識と経験を積む	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	6
7	腫瘍専門医コース(先進的婦人科腫瘍医)	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	6
8	腫瘍専門医コース(地域婦人科腫瘍医)	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	6
9	基本手技I(細胞診・組織診採取法)	東北大学	医学部	医学系研究科	研修医	前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会や役職を務め、積極的に活動している。そこで得た知見を、日本産科婦人科学会主催の市民公開講座でも発表した。日本対がん協会との共同研究に向けた打ち合わせも開始している。また29年4月に開催された「第9回元氣!健康!フェア in とうほく」では実行委員会委員を務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDEsの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学、河北新報社、東北放送	第9回元氣!健康!フェア in とうほく	20170401	20170402	仙台市・国際センター	仙台	日本	実行委員会委員	9000	なし	講演会・セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	「市民とともに日本における子宮頸がん予防(HPV)ワクチンの今後を考える」	招待講演	20180203	20180203	HPVワクチンの有効性に関する報告ー宮城県での研究からー	なし	日本産科婦人科学会	日本科学未来館	東京	日本	250

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	宮城県対がん協会		理事	20020201
2 民間・NPO	宮城県対がん協会	婦人科検診診断委員会	委員長	20120401
3 民間・NPO	宮城県医師会		予備代議員	20080401
4 民間・NPO	宮城県医師会	子宮がん検診精度管理委員会	委員	20080401
5 民間・NPO	宮城県医師会	細胞診検査精度管理委員会	委員	20130401
6 民間・NPO	仙台市医師会	子宮がん検診委員会	委員	20080401
7 民間・NPO	NPO法人婦人科腫瘍関連支援機構		副理事長	20060401
8 民間・NPO	日本産婦人科医会宮城県支部		理事	20040400
9 民間・NPO	日本婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)		理事	20150100
10 民間・NPO	日本婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)	広報委員会	委員長	20161200

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 2 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	日本対がん協会	小西宏、大橋靖雄、鈴木光明	20180129	共同研究	日本対がん協会 本部	東京	企画	4
2	日本対がん協会	小西宏、大橋靖雄、鈴木光明、八重樫伸生、小澤信義、他	20180318	共同研究	東北大学医学部3号館	仙台	企画	8

## 三木 康宏 講師

Yasuhiro MIKI

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	酪農学園大学	獣医学部	1998	4	東北大学大学院	医学系研究科	2007	3	博士(医学)	2007	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	2001	3	ボノリサーチセンター 第3研究部	研究員
2	2006	4	2007	3	日本学術振興会	特別研究員DC2
3	2007	4	2010	3	東北大学大学院医学系研究科	助教
4	2007	5	現在		東北大学病院	兼務
5	2008	4	現在		東北大学薬学部	非常勤講師
6	2010	4	2012	10	東北大学大学院歯学研究科	助教
7	2012	4	現在		仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科	非常勤講師

#### 学会活動

##### 所属学会

No.	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本内分泌学会	日本ステロイドホルモン学会	日本癌学会	日本病理学会	日本組織細胞化学会	日本生殖内分泌学会	科学技術社会論学会	米国内分泌学会	災害動物医療研究会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本ステロイドホルモン学会	評議員会	評議員	20071101
2	日本内分泌学会	評議員会	評議員	20090301

##### 研究分野・キーワード

No.	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	腫瘍学	内分泌学	毒性学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

子宮内膜癌を対象に行った検討において、ストレスホルモンであるコルチゾールは組織中のアロマトラーゼ活性と有意な正相関を示した。また、コルチゾールによって、遺伝子レベルでアロマトラーゼが誘導されることを明らかにした。アロマトラーゼは女性ホルモンであるエストロゲンと体内で合成する重要な酵素として知られており、ストレスによって分泌されるコルチゾールが、体内の女性ホルモンの環境を攪乱するのではと考えられる。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	4	現在		ヒト組織および疾患(乳癌、肺癌)におけるステロイドホルモン合成・代謝に関する研究	国内
2	2012	8	現在		ストレスホルモンの婦人科疾患におよぼす影響に関する研究	国内
3	2012	10	現在		基礎研究者の研究モチベーションに対する震災の影響に関する研究	国内
4	2013	4	現在		災害とワーキング・ドッグに関する研究	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	6	合計	7	うち	国際査読有	7	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
1	英語	ARHGAP15 in Human Breast Carcinoma: A Potent Tumor Suppressor Regulated by Androgens.	学術雑誌	有	はい	Int J Mol Sci.	19	3		E804	20180310	Takagi K, Miki Y, Onodera Y, Ishida T, Watanabe M, Sasano H, Suzuki T.	共著	国内
2	英語	The Significance of MMP-1 in EGFR-TKI-Resistant Lung Adenocarcinoma: Potential for Therapeutic Targeting.	学術雑誌	有	いいえ	Int J Mol Sci.	19	2		E609	20180218	Saito R, Miki Y, Ishida N, Inoue C, Kobayashi M, Hata S, Yamada-Okabe H, Okada Y, Sasano H.	共著	国内
3	英語	Roles of Aryl Hydrocarbon Receptor in Aromatase-Dependent Cell Proliferation in Human Osteoblasts.	学術雑誌	有	いいえ	Int J Mol Sci.	18	10		E2159	20181017	Miki Y, Hata S, Ono K, Suzuki T, Ito K, Kumamoto H, Sasano H.	筆頭共著	国内
4	英語	Effects of cytokines derived from cancer-associated fibroblasts on androgen synthetic enzymes in estrogen receptor-negative breast carcinoma.	学術雑誌	有	いいえ	Breast Cancer Res Treat.	166	3	709	723	20171200	Kikuchi K, McNamara KM, Miki Y, Moon JY, Choi MH, Omata F, Sakurai M, Onodera Y, Rai Y, Ohi Y, Sagara Y, Miyashita M, Ishida T, Ohuchi N, Sasano H.	共著	両方
5	英語	Interaction with adipocyte stromal cells induces breast cancer malignancy via S100A7 upregulation in breast cancer microenvironment.	学術雑誌	有	いいえ	Breast Cancer Res	19	1		70	20170619	Sakurai M, Miki Y, Takagi K, Suzuki T, Ishida T, Ohuchi N, Sasano H.	共著	国内
6	英語	In Situ Evaluation of Estrogen Receptor Dimers in Breast Carcinoma Cells: Visualization of Protein-Protein Interactions. Acta Histochem Cytochem.	学術雑誌	有	いいえ	Acta Histochem Cytochem.	50	2	85	93	20170427	Iwabuchi E, Miki Y, Ono K, Onodera Y, Sasano H.	共著	国内
7	英語	Cytochrome c1 in ductal carcinoma in situ of breast associated with proliferation and comedo necrosis.	学術雑誌	有	いいえ	Cancer Sci.	108	7	1510	1519	20170600	Chishiki M, Takagi K, Sato A, Miki Y, Yamamoto Y, Ebata A, Shibahara Y, Watanabe M, Ishida T, Sasano H, Suzuki T.	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	18	合計	21
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国際	The 99th Annual Meeting of The Endocrine Society	David L. Steward	筆頭連名	いいえ	orange county convention center	Orlando	USA	20170401	ポスター(一般)	Annexin A1 Induced By Intratumoral Cortisol in Endometrial Cancer Microenvironment	<u>Yasuhiro MIKI</u> , <u>Misaki EUE</u> , Kiyoshi TAKAGI, Takashi SUZUKI, <u>Kiyoshi ITO</u>	国内	7,000
2	国際	The 99th Annual Meeting of The Endocrine Society	David L. Steward	その他の連名	いいえ	orange county convention center	Orlando	USA	20170401	ポスター(一般)	A Potential Role of Suppressor of Cytokine Signaling-3 Expression in Human Breast Cancer Associated Fibroblasts	Minako SAKURAI, Kyoko KIKUCHI, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Takanori ISHIDA, Noriaki OHUCHI, Takashi SUZUKI, Hironobu SASANO	国内	7,500
3	国際	The 99th Annual Meeting of The Endocrine Society	David L. Steward	その他の連名	いいえ	orange county convention center	Orlando	USA	20170401	ポスター(一般)	IL-6 and HGF Derived from Cancer-Associated Fibroblasts Induced Androgen Synthetic Enzymes Expression in Estrogen Receptor Negative Breast Cancer	Kyoko KIKUCHI, Keely M McNAMARA, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Man-Ho CHOI, Minako SAKURAI, Yoshiaki ONODERA, Hironobu SASANO	両方	7,500
4	国内	第22回特定非営利活動法人東北内分泌研究会総会	菅原 明	その他の連名	いいえ	東北大学医学部良陵会館	仙台	日本	20170415	口頭(一般)	乳癌における CLEC2D の発現意義	高木清司, 保田伊織, 三木康宏, 石田孝宜, 笹野公伸, 鈴木 貴	国内	100
5	国内	第22回特定非営利活動法人東北内分泌研究会総会	菅原 明	その他の連名	いいえ	東北大学医学部良陵会館	仙台	日本	20170415	口頭(一般)	乳癌組織における OLFM4 (olfactomedin 4) の発現意義	真山晃史, 鈴木博義, 高木清司, 小野寺好明, 三木康宏, 渡邊隆紀, 坂本和宏, 吉田龍一, 石田孝宜, 笹野公伸, 鈴木 貴	国内	100
6	国内	第106回日本病理学会総会	落合淳志	その他の連名	いいえ	京王プラザホテル	東京	日本	20170427	ポスター(一般)	乳癌における carcinoembryonic antigen-related cell adhesion molecule 6 および8の発現意義の検討	岩淵英里奈, 三木康宏, 高木清司, 小野寺好明, 柴原裕紀子, 鈴木 貴, 笹野公伸	国内	3,700
7	国内	第18回ホルモンと癌研究会	鈴木和浩	その他の連名	いいえ	群馬大学刀城会館	前橋	日本	20170624	公募 / シンポジウム・ワークショップ・パネル	子宮内膜癌における Dehydroepiandrosterone (DHEA) 作用	吉田倫奈, 高橋彰彦, 三木康宏, 笹未崎, 高木清司, 鈴木 貴, 伊藤 潔	国内	100
8	国内	第18回ホルモンと癌研究会	鈴木和浩	その他の連名	いいえ	群馬大学刀城会館	前橋	日本	20170624	公募 / シンポジウム・ワークショップ・パネル	乳癌組織における腫瘍随伴マクロファージに対するアンドロゲンの影響の解析	佐藤正康, 高木清司, 三木康宏, 石田孝宜, 笹野公伸, 鈴木 貴	国内	100
9	国内	第25回日本乳癌学会学術総会	岩瀬 弘敬	その他の連名	いいえ	福岡国際会議場	福岡	日本	20170714	ポスター(一般)	trastuzumab 奏功性におけるcarcinoembryonic antigen- related cell adhesion 6 の発現意義	岩淵英里奈, 三木康宏, 櫻井美奈子, 宮下 稜, 金井綾子, 石田孝宜, 笹野公伸	国内	5,000
10	国内	第25回日本乳癌学会学術総会	岩瀬 弘敬	その他の連名	いいえ	福岡国際会議場	福岡	日本	20170715	ポスター(一般)	トリプルネガティブ乳癌における S100P と ezrin の発現意義および相互作用に関する検討	菊地奇子, Keely M McNamara, 三木康宏, 宮下 稜, 石田孝宜, 大内恵明, 笹野公伸	国内	5,000
11	国内	第26回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会	伊藤 潔	筆頭連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20170908	口頭(一般)	婦人科悪性腫瘍に合併する悪性腫瘍: 日本病理学会剖検情報データベースを用いた解析	三木康宏, 菅原由美, 柴原裕紀子, 辻 一郎, 笹野公伸, 伊藤 潔	国内	200
12	国内	第76回日本癌学会学術総会	中金 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	ポスター(一般)	The effect of dehydroepiandrosterone on the proliferation of endometrial cancer cells	<u>Rena YOSHIDA</u> , <u>Yasuhiro MIKI</u> , <u>Misaki EUE</u> , Kiyoshi TAKAGI, Takashi SUZUKI, <u>Kiyoshi ITO</u>	国内	5,000
13	国内	第76回日本癌学会学術総会	中金 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	ポスター(一般)	The interaction of HER2 and carcinoembryonic antigen-related cell adhesion 6 are associated with efficacy of trastuzumab	Erina IABUCHI, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Minako SAKURAI, Minoru MIYASHITA, Ayako KANAI, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO	国内	5,000
14	国内	第76回日本癌学会学術総会	中金 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	口頭(一般)	S100P and ezrin promoted transendothelial migration of carcinoma cells in triple negative breast cancer	Kyoko KIKUCHI, Keely M McNAMARA, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Erina IWABUCHI, Minoru MIYASHITA, Takanori ISHIDA, Noriaki OHUCHI, Hironobu SASANO	国内	5,000
15	国内	第76回日本癌学会学術総会	中金 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	ポスター(一般)	Effects of androgens on tumor-associated macrophages in breast carcinoma	Masayasu SATO, kiyoshi TAKAGI, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO, Takashi SUZUKI	国内	5,000
16	国内	第76回日本癌学会学術総会	中金 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	ポスター(一般)	Study of the role of OLFM4 in breast cancer development	Yoshiaki ONODERA, Kiyoshi TAKAGI, Akifumi MAYAMA, <u>Yasuhiro MIKI</u> , Hironobu SASANO, Takashi SUZUKI	国内	5,000

17	国内	第76回日本癌学会学術総会	中釜 斉	その他の連名	いいえ	パシフィコ横浜	横浜	日本	20170928	ポスター(一般)	Immunolocalization of OLFM4, LY6D and S100A7 related to distant metastasis in breast carcinoma	Akifumi MAYAMA, Hiroyoshi SUZUKI, Kiyoshi TAKAGI, Yoshiaki ONODERA, Takanori WATANABE, Yasuhiro MIKI, Kazuhiro SAKAMOTO, Ryuichi YOSHIDA, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO, Takashi SUZUKI	国内	5,000
18	国際	The 100th Annual Meeting of The Endocrine Society	John Newell-Price	筆頭連名	いいえ	McCormick Place West	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	Intratumoral Steroid Hormone and Krüppel-Like Factor 5 Expression in Endometrial Cancer	Yasuhiro MIKI, Misaki FUE, Rena YOSHIDA, Moeri SHIMIZU, Kiyoshi TAKAGI, Takashi SUZUKI, Kiyoshi ITO	国内	7,500
19	国際	The 100th Annual Meeting of The Endocrine Society	John Newell-Price	その他の連名	いいえ	McCormick Place West	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	Intratumoral Level of Dehydroepiandrosterone and Its Role in Endometrial Cancer Cell Proliferation	Rena YOSHIDA, Yasuhiro MIKI, Misaki FUE, Sairi TAKAHASHI, Kiyoshi TAKAGI, Takashi SUZUKI, Kiyoshi ITO	国内	7,500
20	国際	The 100th Annual Meeting of The Endocrine Society	John Newell-Price	その他の連名	いいえ	McCormick Place West	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	An Interaction of Her2 And Androgen Target Gene Ceacam6 is Associated with Efficacy of Trastuzumab	Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Yoshiaki ONODERA, Ayako KANAI, Minoru MIYASHITA, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO	国内	7,500
21	国際	The 100th Annual Meeting of The Endocrine Society	John Newell-Price	その他の連名	いいえ	McCormick Place West	Chicago	USA	20180317	ポスター(一般)	An Interaction of S100P and Ezrin Promoted Transendothelial Migration of Carcinoma Cells in Triple Negative Breast Cancer	Kyoko KIKUCHI, Keely May McNAMARA, Yasuhiro MIKI, Erina IWABUCHI, Hironobu SASANO	国内	7,500

C. 教育活動

教育活動の概要

医学部保健学科卒業研究および医学部基礎修練の学生に対し、災害ストレスと婦人科疾患に関する研究を指導した。この研究を通して災害医学研究のあり方について、教授することができた。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	病理学	東北大学	薬学部	薬学科	4	6セメ	4
2	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	通年	
3	基礎医学修練	東北大学	医学部	医学科	3	後期	
4	病理学	仙台青葉学院短期大学	リハビリテーション学科	理学療法専攻/理学療法専攻	1	後期	11

D. 社会活動

社会活動の概要

ワーキング・ドッグに関する学会、団体に参加し、災害時における身体障害者補助犬の同伴避難に関する議論を行った。



栗山 進一 教授

Shinichi KURIYAMA

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部物理学科	1987	3					理学士	1987	3
2	大阪市立大学	医学部医学科	1993	3					医学士	1993	3
3	東北大学				東北大学	大学院医学系研究科			博士(医学)	2003	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	5	1993	7	大阪市立大学医学部付属病院第3内科	医師
2	1993	8	2003	3	大同生命保険相互会社	産業医(診査医長)
3	2003	4	2005	5	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助手
4	2005	6	2006	6	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	講師
5	2006	7	2007	3	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助教授
6	2007	4	2010	7	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	准教授
7	2010	8	2012	6	東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター 分子疫学分野	教授
8	2012	7	現在		東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野	教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本疫学会	日本公衆衛生学会	日本小児神経学会	日本人類遺伝学会	日本災害医学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本疫学会	理事会	理事	20180201

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	生活習慣病の疫学	神経疾患の分子疫学研究	大規模災害と健康に関する疫学研究

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北メディカル・メガバンク機構	建物管理委員会	委員長	20150401
2	医学部	環境遺伝医学総合研究センター運営委員会	委員	20110201
3	本部	研究大学強化促進事業実施委員会	委員	20150401
4	医学部	ビッグデータメディシンセンター委員会	委員	20150000

B. 研究活動

研究活動の概要

大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて研究している。東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究において、被災の経験のある幼児では、肥満、アトピー性皮膚炎や気管支喘息の有病率が高いことを見出した。この知見は BMJ Global Health にて公表している。引き続き仮設住宅におけるカビ・ダニの発生状況とアレルギー疾患等との関連を明らかにし、肥満を含めた被災地の小児保健活動を行っている。さらに大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(三代コホート調査)によって、震災後の沿岸部と内陸部の健康状態を比較し、被災を受けた妊婦では、妊娠中の喫煙率が肥満度が効率であること、妊婦のパートナーでも喫煙率が高いことを明らかにし、必要介入研究を進めている。なお、喫煙率等の比較に当たっては、居住地域を補正しているため、地域差のみでは説明できないことも確認している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	現在		生活習慣とがんに関する疫学研究	国内
2	2007	4	現在		自閉症とビタミン B6 反応性に関する分子疫学研究	国内
3	2009	4	現在		緑茶摂取と健康に関する前向きコホート研究(掛川スタディ)	国内
4	2011	4	現在		子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	国内
5	2011	4	現在		妊娠中の大規模災害罹災が児の健康に与える大規模疫学調査	国内
6	2012	4	現在		東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究(厚生労働科学研究費補助金)	国内
7	2012	4	現在		東日本大震災後の小中学生の健康に関する実態調査(東北メディカル・メガバンク計画・地域子ども長期健康調査)	国内
8	2012	4	現在		大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(東北メディカル・メガバンク計画・三代コホート調査)	国内
9	2015	4	現在		シトリン欠損症の簡易スクリーニング法の確立	国内
10	2016	4	現在		表現型クラスター化と超高次元変数選択法による自閉症スペクトラムの原因解明	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	8	合計	8	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外連携
英語	Alterations in physique among young children after the Great East Japan Earthquake: Results from a nationwide survey.	学術雑誌	有	いいえ	Journal Of Epidemiology	27	10	462	468	20171000	Kikuya M, Matsubara H, Ishikuro M, Sato Y, Ohara T, Metoki H, Isojima T, Yokoya S, Kato N, Tanaka T, Chida S, Ono A, Hosoya M, Yokomichi H, Yamagata Z, Tanaka S, Kure S, Kuriyama S.	共著	なし
英語	Prolonged elevated body mass index in preschool children after the Great East Japan Earthquake.	学術雑誌	有	いいえ	Pediatrics International	59	9	1002	1009	20170900	Isojima T, Yokoya S, Ono A, Kato N, Tanaka T, Yokomichi H, Yamagata Z, Tanaka S, Matsubara H, Ishikuro M, Kikuya M, Chida S, Hosoya M, Kuriyama S, Kure S.	共著	なし
英語	Randomized controlled trial of the effects of consumption of 'Yabukita' or 'Benifuuki' encapsulated tea-powder on low-density lipoprotein cholesterol level and body weight.	学術雑誌	有	いいえ	Food & Nutrition Research	61	1		1334484	20170619	Igarashi Y, Ohara T, Ishikuro M, Matsubara H, Shighihara M, Metoki H, Kikuya M, Sameshima Y, Tachibana H, Maeda-Yamamoto M, Kuriyama S.	共著	なし
英語	Security controls in an integrated Biobank to protect privacy in data sharing: rationale and study design.	学術雑誌	有	いいえ	BMC Medical Informatics and Decision Making	17	1		100	20170706	Takai-Igarashi T, Kinoshita K, Nagasaki M, Ogishima S, Nakamura N, Nagase S, Nagaie S, Saito T, Nagami F, Minegishi N, Suzuki Y, Suzuki K, Hashizume H, Kuriyama S, Hozawa A, Yaegashi N, Kure S, Tamiya G, Kawaguchi Y, Tanaka H, Yamamoto M.	共著	なし
英語	Risk factors for delayed oral dietary intake in patients with deep neck infections including descending necrotizing mediastinitis.	学術雑誌	有	いいえ	Eur Arch Otorhinolaryngol	274	11	3951	2958	20171100	Hidaka H, Ozawa D, Kuriyama S, Ohara T, Nakano T, Kakuta R, Nomura K, Watanabe K, Katori Y.	共著	なし
英語	Drug Use before and during Pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study.	学術雑誌	有	いいえ	Pharmacy (Basel)	5	2		pii: E21	20170521	Nishigori H, Ohara T, Nishigori T, Metoki H, Ishikuro M, Mizuno S, Sakurai K, Tatsuta N, Nishijima I, Fujiwara I, Arima T, Nakai K, Mano N, Kuriyama S, Yaegashi N, Japan Environment & Children's Study Group.	共著	なし
英語	Evaluation of reported pathogenic variants and their frequencies in a Japanese population based on a whole-genome reference panel of 2049 individuals.	学術雑誌	有	いいえ	Journal Of Human Genetics	63	2	213	230	20180200	Yamaguchi-Kabata Y, Yasuda J, Tanabe O, Suzuki Y, Kawame H, Fuse N, Nagasaki M, Kawai Y, Kojima K, Katsuoka F, Saito S, Danjoh I, Motoike IN, Yamashita R, Koshiba S, Saigusa D, Tamiya G, Kure S, Yaegashi N, Kawaguchi Y, Nagami F, Kuriyama S, Sugawara J, Minegishi N, Hozawa A, Ogishima S, Kiyomoto H, Takai-Igarashi T, ToMMo Study Group, Kinoshita K, Yamamoto M.	共著	なし
英語	Effect of the Fukushima earthquake on weight in early childhood: a retrospective analysis	学術雑誌	有	いいえ	BMJ Paediatr Open	2	1		e000229	20180207	Ono A, Isojima T, Yokoya S, Kato N, Tanaka T, Yamagata Z, Chida S, Matsubara H, Tanaka S, Ishikuro M, Kikuya M, Kuriyama S, Kure S, Hosoya M.	共著	なし

総説・解説 (大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外連携
日本語	【ヒト疾患のデータベースとバイオバンク 情報をどう使う、どう活かすかのゲノム医療をどう実現するか?】(第2章)疾患データベースとバイオバンクプロジェクトの最前線と利用の実践ガイド 国外のバイオバンク -BioVU, UK Biobank, Generation R, Lifelines(解説/特集)	学術雑誌	無	いいえ	実験医学	35	17	116	121	20171101	栗山進一	単著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	44	合計	44
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名 (原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	第66回日本アレルギー学会学術総会	土橋邦生	その他の連名	いいえ	東京国際フォーラム	東京	日本	20170616	ポスター(一般)	石巻市小学校2年生における小児アレルギー疾患の有症率調査	<u>鈴木達尚</u> 、 <u>押方智也</u> 、 <u>渡辺麻衣子</u> 、 <u>山田敦子</u> 、 <u>松原博子</u> 、 <u>栗山進一</u> 、 <u>呉繁夫</u>	国内	1500
国内	第66回日本アレルギー学会学術総会	土橋邦生	その他の連名	いいえ	東京国際フォーラム	東京	日本	20170618	ポスター(一般)	東日本大震災における応急仮設住宅住民を対象とした気管支喘息有病率調査におけるダニアレルギー感作の推移	<u>押方智也</u> 、 <u>渡辺麻衣子</u> 、 <u>石田雅嗣</u> 、 <u>小林誠一</u> 、 <u>鎌田洋一</u> 、 <u>栗山進一</u> 、 <u>矢内勝</u> 、 <u>鈴木達尚</u>	国内	1500

3	国内	第48回日本職業・環境アレルギー学会学術大会	藤枝重治	その他の連名	いいえ	AOSSA	福井	日本	20170630	口頭(一般)	東日本大震災後の住環境の変化によるアレルギー疾患の有症率・有病率調査とダニアレルギー・真菌の関与	押方智也子, 渡辺麻衣子, 石田雅嗣, 小林誠一, 鎌田洋一, 山崎朗子, 栗山進一, 矢内勝, 釣木澤尚実	国内	800
4	国内	第48回日本職業・環境アレルギー学会学術大会	藤枝重治	その他の連名	いいえ	AOSSA	福井	日本	20170630	口頭(一般)	石巻市小学校2年生のアレルギー疾患の期間有病率と震災後の環境および寝具ダニアレルギー調査	釣木澤尚実, 押方智也子, 山田敦子, 松原博子, 栗山進一, 呉繁夫, 鎌田洋一, 矢内勝, 渡辺麻衣子	国内	800
5	国内	第53回宮城県公衆衛生学会学術総会	栗山進一	その他の連名	いいえ	良陵会館	仙台市	日本	20170714	口頭(一般)	周辺施設へのアクセシビリティと産後うつとの関連: 三代コホート調査	永井雅人, 水野聖土, 石黒真美, 宮下真子, 山中千鶴, 佐藤ゆき, 松原博子, 小原拓, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 栗山進一	国内	200
6	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	国内地方都市における緑地環境指標と幼児の既往症に関する予備的研究	大場 真, 佐藤ゆき, Ng Chris Fook Sheng, 林希一郎, 栗山進一	国内	300
7	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	母親の出産後再喫煙の状況 宮城県におけるエコチル調査結果から	西浜柚季子, 龍田 希, 櫻井香澄, 仲井邦彦, 栗山進一, 目時弘仁, 藤原幾磨, 有馬隆博, 八重樫伸生	国内	300
8	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	東日本大震災後の小児の気管支喘息とアトピー性皮膚炎の再発・悪化	宮下真子, 菊谷昌浩, 山中千鶴, 水野聖土, 永井雅人, 松原博子, 佐藤ゆき, 石黒真美, 小原拓, 目時弘仁, 栗山進一	国内	300
9	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	性・年齢別に見た東日本大震災後の地域住民における腎機能と頸動脈内臓中膜複合体厚の関連	土屋菜歩, 中谷直樹, 中村智洋, 成田 暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 丹野高三, 菅原雅一, 清元秀泰, 栗山進一, 辻一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	300
10	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	性・年齢階級別にみた東日本大震災後の平均歩数 地域住民コホート調査	中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原雅一, 栗山進一, 辻一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	300
11	国内	第66回東北公衆衛生学会	大平哲也	その他の連名	いいえ	福島県立医科大学	福島	日本	20170728	口頭(一般)	石巻市小学校2年生のアレルギー疾患有症率と寝具ダニ・真菌アレルギー調査	押方智也子, 渡辺麻衣子, 山田敦子, 松原博子, 矢内 勝, 鎌田洋一, 栗山進一, 呉 繁夫, 釣木澤尚実	国内	300
12	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	ポスター(一般)	東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査における参加者の筋力について	永井雅人, 土屋菜歩, 菊谷昌浩, 中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菅原雅一, 辻一郎, 呉 繁夫, 栗山進一, 寶澤 篤	国内	1500
13	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	ポスター(一般)	東日本大震災被災地における社会的孤立の状況 TMM CommCohort Study	佐々木亮平, 丹野高三, 高梨信之, 坪田 恵 [宇津木], 坂田清美, 寶澤 篤, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 栗山進一, 辻一郎, 中村元行, 人見次郎	国内	1500
14	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	ポスター(一般)	東日本大震災被災地における運動習慣の状況 TMM CommCohort Study	高梨信之, 丹野高三, 佐々木亮平, 坪田 恵, 坂田清美, 寶澤 篤, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 栗山進一, 辻一郎, 中村元行, 人見次郎	国内	1500
15	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171101	ポスター(一般)	東北メディカル・メガバンク機構が実施したコホート調査の歯科健診	小山史穂子, 相田 潤, 川嶋順子, 松井裕之, 高井貴子, 小坂 健, 栗山進一, 寶澤 篤, 坪井 明人	国内	1500
16	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171101	ポスター(一般)	宮城県内における母親の出産後再喫煙の状況 エコチル調査のデータから	西浜柚季子, 龍田 希, 櫻井香澄, 仲井邦彦, 栗山進一, 目時弘仁, 八重樫伸生	国内	1500
17	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄治	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171101	ポスター(一般)	東日本大震災による家屋の被災状況と骨密度の関連 東北メディカル・メガバンク事業	成田 暁, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原雅一, 栗山進一, 辻一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500

18	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171101	ポスター(一般)	東北メディカル・メガバンクにおける過敏性腸症候群の有病割合 地域住民コホート調査	永家聖, 中谷直樹, 田中由佳里, 金澤 泰, 筑島創一, 高井貴子, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 栗山進一, 田中博, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤, 福土 審	国内	1500
19	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	被災地域では仮設だけでなくみなし仮設居住者も食事摂取不良のリスクとなる	坪田 恵, 高梨 信之, 佐々木 亮平, 丹野 高三, 寶澤 篤, 栗山進一, 辻 一郎, 坂田清美	国内	1500
20	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	地域住民コホート調査における家屋の被害の程度と平均歩数の関連	中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
21	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171102	口頭(一般)	性・年齢階級別にみた家族との同居状況と心理的苦痛の関連 地域住民コホート調査	及川真紀, 佐藤喜根子, 佐藤 眞理, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 丹野高三, 富田博秋, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
22	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171102	口頭(一般)	頸動脈IMTとリスク因子の関連 東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査	木皿楓子, 土屋菜歩, 中谷直樹, 中村智洋, 成田 暁, 小暮真奈, 高井貴子, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 丹野高三, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
23	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171102	口頭(一般)	地域住民コホート調査における年齢別の中心血圧分布	菊谷昌浩, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 目時弘仁, 小原 拓, 丹野高三, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
24	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	東日本大震災後の家屋損壊程度と体脂肪率の関連 地域住民コホート調査	中村智洋, 中谷直樹, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 丹野高三, 佐々木 亮平, 坂田 清美, 菊谷昌浩, 高井貴子, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
25	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	尿中ナトリウムカリウム比と高血圧有病リスクとの関連 地域住民コホート調査	小暮真奈, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 清元秀泰, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 小原 拓, 丹野高三, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
26	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	東日本大震災後の地域住民における腎機能と関連因子	土屋菜歩, 清元秀泰, 中谷直樹, 中村智洋, 成田 暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 丹野高三, 菅原雅一, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	1500
27	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171031	口頭(一般)	東北メディカル・メガバンク計画における地域住民コホート調査の詳細二次調査の概要	寶澤 篤, 丹野高三, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田 暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 石黒真美, 菅原雅一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤, 栗山進一	国内	1500
28	国内	第76回日本公衆衛生学会学術総会	秋葉澄洎	その他の連名	いいえ	宝山ホール かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20171102	口頭(一般)	東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査における参加者のAQIについて	山中千鶴, 中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 石黒真美, 菅原雅一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤, 栗山進一	国内	1500
29	国内	第29回血圧管理研究会	日野原重明	その他の連名	いいえ	メルパルク 京都	京都市	日本	20171202	口頭(一般)	出生体重と成人期の家庭血圧との関連-東北メディカル・メガバンク計画 地域住民コホート調査	石黒真美, 小原 拓, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 中谷直樹, 成田 暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 菅原雅一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤, 栗山進一	国内	200
30	国内	第54回日本小児アレルギー学会学術大会	吉原重美	その他の連名	いいえ	ホテル東 日本宇都宮	宇都宮市	日本	20171118	口頭(一般)	石巻市小学校2年生のアレルギー疾患有病率と寝具タニ・真菌アレルゲン調査	押方智也子, 渡辺麻衣子, 山田敦子, 松原博子, 矢内 勝, 鎌田洋一, 栗山進一, 呉 繁夫, 釣木澤尚矣	国内	1000
31	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	口頭(一般)	自宅周辺の環境とBMI高値との関連-東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査	小暮真奈, 中谷直樹, 土屋菜歩, 中村智洋, 成田 暁, 永井雅人, 栗山進一, 辻 一郎, 呉 繁夫, 寶澤 篤	国内	680

32	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	口頭(一般)	東日本大震災後の夫婦における生活習慣の共有度についての検討	土屋菜歩, 中谷直樹, 中村智洋, 成田暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤	国内	680
33	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	口頭(一般)	周辺環境へのアクセシビリティと産後6ヶ月時点の抑うつ症状との関連: 三世代コホート調査	永井雅人, 水野聖士, 小暮真奈, 石黒真美, 山中千鶴, 松原博子, 小原拓, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤, 栗山進一	国内	680
34	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180202	ポスター(一般)	ASD児におけるビタミンB6への反応性の予測	小原拓, 石黒真美, 田宮元, 植木優夫, 山中千鶴, 水野聖士, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 松原博子, 永井雅人, 小林朋子, 角田和彦, 大内美南, 栗原亜紀, 福地成, 安原昭博, 稲垣真澄, 加我牧子, 呉繁夫, 栗山進一	国内	680
35	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180202	ポスター(一般)	一般地域住民におけるサプリメント摂取状況及び関連要因の検討: 掛川コホート研究	菊池大輔, 小原拓, 石黒真美, 永井雅人, 山中千鶴, 水野聖士, 松原博子, 宮下真子, 立花文文, 山本(前田)万理, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 渡辺善照, 栗山進一	国内	660
36	国内	第28回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	日本茶摂取頻度と頸動脈内腹中膜脂厚の関連	寶澤篤, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 成田暁, 小暮真奈, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻一郎, 呉繁夫,	国内	680
37	国内	第29回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	出生体重と成人期の高血圧有病との関連: 東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査	石黒真美, 小原拓, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 山中千鶴, 水野聖士, 永井雅人, 松原博子, 中谷直樹, 成田暁, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 菅原準一, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤, 栗山進一	国内	680
38	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	産後6ヶ月児の女性の疲労とうつ及び子どもへの愛着との関連: 三世代コホート調査	宮下真子, 永井雅人, 山中千鶴, 水野聖士, 石黒真美, 松原博子, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 寶澤篤, 菅原準一, 辻一郎, 八重樫伸生, 呉繁夫, 栗山進一	国内	680
39	国内	第29回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	学童期アトピー性皮膚炎の有症における生まれ月・季節の変動と出生直後の気象要因との関連	國吉保孝, 菊谷昌浩, 宮下真子, 山中千鶴, 石黒真美, 小原拓, 目時弘仁, 中谷直樹, 寶澤篤, 長神風二, 富田博秋, 辻一郎, 呉繁夫, 八重樫伸生, 山本雅之, 栗山進一	国内	680
40	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	妊娠高血圧症候群(HDP)フェノタイピングのためのアルゴリズムの検討	水野聖士, 永家聖, 飯田溪太, 笠原直子, 田宮元, 栗山進一, 八重樫伸生, 田中博, 菅原準一, 狹島創一	国内	680
41	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	サンプル間の非独立性が関連解析に及ぼす影響の予備的検討	成田暁, 中谷直樹, 中村智洋, 土屋菜歩, 小暮真奈, 田宮元, 丹野高三, 菅原準一, 栗山進一, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤	国内	680
42	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	東日本大震災による家屋損壊の程度とメタボリック症候群の構成要素	中村智洋, 中谷直樹, 土屋菜歩, 成田暁, 小暮真奈, 丹野高三, 佐々木亮平, 高梨信之, 坂田清美, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤	国内	680
43	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	東日本大震災の被災者における高い平均歩数と関連する要因: 地域住民コホート調査	中谷直樹, 成田暁, 土屋菜歩, 中村智洋, 小暮真奈, 丹野高三, 坂田清美, 菊谷昌浩, 菅原準一, 栗山進一, 辻一郎, 呉繁夫, 寶澤篤	国内	680
44	国内	第30回日本疫学会学術総会	安村誠司	その他の連名	いいえ	コラッセふくしま	福島市	日本	20180203	ポスター(一般)	東日本大震災時の仙台市における母子アンケート解析と性差	高橋政照, 澤口聡子, 千田勝一, 細矢光亮, 山縣然太郎, 栗山進一, 奥山真紀子, 八木淳子, 藤原武男, 菅原準一, 加藤則子, 磯島豪, 松原博子, 呉繁夫	国内	680

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2 件

No.	国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	宮城県公衆衛生学会	第53回宮城県公衆衛生学会学術総会	20170714	20170714	良陵開館記念ホール	仙台市	日本	学会長	100	なし		国内	シンポジウム
2	国内	宮城県公衆衛生協会	平成29年度一般財団法人宮城県公衆衛生協会研修会	20171127	20171127	仙台ガーデンプラザ	仙台市	日本	運営担当	169	なし	宮城県公衆衛生協会	国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM 演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニング I」、「社会・環境医学」、「健康栄養 特別講義」などの講義を行い、大学院生3名の学位取得指導を行った。うち1名は学位取得を完了した。

担当授業科目(他大学を含む)

No.	科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科	3	通年	4
3	臨床推論・EBM 演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科	4	通年	4
4	疫学トレーニング I	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)		前期	8
5	巨大災害に対する保健医療の備え(英語のみ) (Public Health Preparedness for Large Scale Disaster)(The class will be all in English)	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻 ヒューマンセキュリティ国際教育コース		前期	1
6	ゲノム疫学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻 修士課程		前期	1
7	社会医学入門 (Public Health)	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		前期	1
8	Public Health (英語のみ) (ISTU)	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		後期	1
9	疫学概論 (Introduction to Epidemiology)	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		前期	1
10	分子疫学	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		後期	8

D. 社会活動

社会活動の概要 (200字以内)

宮城県公衆衛生学会の学会長として、東日本大震災後の県民の健康状態の実態把握と健康向上施策の立案、および政策提言を行っている。厚生労働科学研究並びに東北メディカル・メガバンク計画等で得られた被災と健康に関する知見を、地域の皆様に説明会で伝えし、メディアや講演会等を通じて幅広く情報発信している。また、津波到来時に使用可能なライフジャケットの改良を指導することとなり、広くメディアでも取り上げられた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

No.	国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	宮城県公衆衛生学会	第53回宮城県公衆衛生学会学術総会	20170708	20170708	良陵会館	仙台市	日本	学会長	200	なし	シンポジウム	
2	国内	宮城県公衆衛生協会	平成29年度一般財団法人宮城県公衆衛生協会研修会	20171127	20171127	良陵会館	仙台市	日本	運営担当	200	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	医療ビッグデータ・コンソーシアム 第5回医療情報分科会	招待講演	20170907	20170907	東北メディカル・メガバンク計画の現況とデータシェアリング	企業	株式会社日経メディカル開発	TKP カンファレンスセンター	東京都	日本	100
2	講演会・セミナー	平成29年度一般財団法人宮城県公衆衛生協会研修会	座長	20171127	20171127	メンタルヘルス対策のライフコース・アプローチ	行政	一般財団法人宮城県公衆衛生協会	仙台ガーデンプラザ	仙台市	日本	300

自治体・民間等での委員

No.	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	公益財団法人 宮城県対がん協会	宮城県新生物レジストリー委員会	委員兼実務委員	20060000
2	その他	一般財団法人宮城県公衆衛生協会	研修部門企画運営委員会	委員	20130401
3	その他	独立行政法人国立成育医療研究センター	成育医療研究開発費評価部会委員会	委員	20140401
4	その他	(独)国立環境研究所	子どもの健康と環境に関する全国調査運営委員会参加者コミュニケーション専門委員会委員	委員	20150401

柴山 明寛 准教授  
Akihiro SHIBAYAMA

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東海大学	工学部	1999	3	工学院大学大学院	工学研究科	2006	3	博士(工学)	2006	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2007	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	教育研究支援者
2	2007	4	2008	11	独立行政法人情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター 防災・減災基盤技術グループ	専攻研究員
3	2008	12	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
4	2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	助教
5	2012	6			東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本デジタルアーカイブ学会	日本建築学会	日本地震学会	日本自然災害学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会	編集委員会	委員	20100401
2	日本自然災害学会東北支部		幹事長	20160401

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害情報学	地震工学	地域防災	建築工学	建築防災

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長補	20130000
2	全学	研究推進・支援機構テクニカルサポートセンター運営委員会	委員	20170401
3	全学	情報システム	部局技術担当者	20120401
4	工学研究科建築学専攻	ネットワーク・ホームページ管理	委員	20080000

B. 研究活動

研究活動の概要

研究活動としては、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」を中心的に実施した。また、熊本地震での震災アーカイブ構築支援などを行い、さらに、岩手県高田松原津波震災伝承施設の有識者や岩手県大槌町、宮城県仙台市、山元町、NHK 仙台などの伝承施設関係の監修し、防災観光などの震災アーカイブの活用などを研究を実施した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2006	3	災害時における建物等の被害情報収集の効率化に関する研究	国内
2	2006	4	2007	3	2003年宮城県北部連続地震等の建物被害要因の解明	国内
3	2007	4	2008	11	RFIDを用いた被災情報収集支援システムの研究	国内
4	2008	9	2011	2	ノートPC内蔵加速度センサーとマルチキャスト通信を利用した即時震度情報収集システムの開発	国内
5	2011	3	2011	8	東日本大震災における内陸部における建物の被害と地震動の関係に関する研究	国内
6	2011	9	現在		東日本大震災アーカイブに関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	5	合計	6	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	The roles of monuments for the dead during the aftermath of the Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction					20170917	Sébastien Pennell Boret, Akihiro Shibayama	共著	なし
2	英語	IMPROVEMENTS TO TSUNAMI DIGITAL LIBRARY	学術雑誌	有	いいえ	Lokarkarya Nasional Dokumentasi dan Informasi					20171020	Masayoshi Aritsugi, Sayaka Imai, Yoshinari Kanamori, Atsuyuki Morishima, Akihiro Shibayama, Shigeo Sugimoto	共著	国内
3	英語	The Roles of Digital Archives in Reducing Risk and Disasters in Mega Cities	学術雑誌	有	いいえ	16th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON NEW TECHNOLOGIES FOR URBAN SAFETY OF MEGA CITIES IN ASIA(USMCA2017)					20171100	Sébastien Pennell Boret, Akihiro Shibayama	共著	なし
4	日本語	都市の地震応答シミュレーションのための建物モデル設定に関する一検討	学術雑誌	有	いいえ	日本建築学会構造工学論文集	64	B	47	53	20180300	飯山かいほり, 盛川仁, 市村強, 山崎義弘, 坂田弘安, 大野晋, 柴山明寛	共著	国内

5	日本語	英国のロンドン大発展から学ぶ災害展示施設の課題と提言	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会学術講演梗概 建築歴史・意匠				283	284	201707	北村美和子, 村尾修, 柴山明寛	共著	なし
6	日本語	近年の震災アーカイブの変遷と今後の自然災害アーカイブのあり方について	学術雑誌	無	いいえ	デジタルアーカイブ学会誌 1(Pre)				13	16	2017	柴山明寛, 北村美和子, 正レーセバスチャン, 合村文彦	共著	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	東北大学大学院都市・建築学専攻災害情報学分野/東北大学災害科学国際研究所災害アーカイブ分野: 未来へつなげる災害記録(<連載>研究室探訪)	その他	無	いいえ	建築雑誌	1702	23	23	20170900	柴山明寛	単著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	2	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	デジタルアーカイブ学会第1回研究大会	井上透	筆頭連名	いいえ	岐阜女子大学	岐阜	日本	20170722	口頭(一般)	近年の震災アーカイブの変遷と今後の自然災害アーカイブのあり方について	柴山明寛, 北村美和子, 正レーセバスチャン, 合村文彦	なし	300
2	国内	デジタルアーカイブ学会第2回研究大会		その他の連名	いいえ	東京大学	東京	日本	20180309	口頭(一般)	東日本大震災後のコミュニティアーカイブの活動: 仙台市荒浜地区を一例とした報告	北村美和子, 村尾修, 柴山明寛	なし	300
3	国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会		その他の連名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	青森	日本	20180107	口頭(一般)	東日本大震災の振動被害に基づく木造建物群被害予測モデルの検討	佐藤大樹, 大野晋, 柴山明寛	なし	200
4	国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会		筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	青森	日本	20180107	口頭(一般)	震災アーカイブの利活用を促進するためのメタデータスキーマについて	柴山明寛, 正レーセバスチャン, 北村美和子	なし	200

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち外国人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	災害科学国際研究所, 国立国会図書館	東日本大震災アーカイブシンポジウム	20180111	20180111	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	150	IRIDeS主催・共同主催	国立国会図書館	国内	シンポジウム
2	国内	自然災害研究協議会東北地区部会, 日本自然災害学会東北支部	平成29年度東北地域災害科学研究集会	20180106	20180106	八戸ポータルミュージアムはっち	八戸市	日本	幹事長	200	なし	自然災害研究協議会東北地区部会, 日本自然災害学会東北支部	国内	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、兼任である都市・建築学専攻の授業の実施や1年生を対象とした基礎ゼミを実施した。基礎ゼミでは、震災アーカイブを利用した授業などを行った。また、リーディング大学院の授業では、ハーバード大学でJDArchiveのシステムを利用した震災記録の発表を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	建築学専攻	1	前期	6
2	C-lab 災害アーカイブラボ	東北大学	リーディング大学院			通年	15
3	基礎ゼミ「災害の科学: 災害の波及と対応について」	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	基礎ゼミ「社会と災害科学」	東北大学	全学		1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

小中学校を対象とした公開講座や市民を対象とした講演等も積極的に実施した。そして、毎年実施している「かたりつぎ」イベントを実施し、1100人の来場者があり、大盛況に終わった。さらに、かたりつぎの派生イベントである松島町で行った東日本大震災の記憶「かたりつぎ」朗読と音楽の夕べについても数多くの来場者が集まった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所・多賀城市他	東日本大震災語りベンチシンポジウム「かたりつぎ 朗読と音楽の夕べ」	20180310	20180310	多賀城市文化センター大ホール	多賀城市	日本	実行委員長	1100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
2	国内	松島町文化観光交流会館	東日本大震災の記憶「かたりつぎ」朗読と音楽の夕べ	20180304	20180304	松島町, 松島町文化観光交流会館	松島町	日本	協力	400	IRIDeS協力	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計	22件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	すくっぴー親子DE減災・防災(減災市民会議2018)	招待講演	20180318	20180318	多賀城市における東日本大震災とは	行政	多賀城市	すくっぴーひろば	多賀城市	日本	30



2	講演会・セミナー	東日本大震災語りベシ ンジウム「かたりつぎ 朗 読と音楽の夕べ」	講演	20180310	20180310	かたりつぎとは	行政	災害科学国際 研究所, 多賀城 市他	多賀城市文 化センター大 ホール	多賀城市	日本	1100
3	講演会・セミナー	東日本大震災の記憶「か たりつぎ」朗読と音楽の夕 べ	基調講演	20180304	20180304	東日本大震災をはじめとする近年の自然 災害から学ぶ自助・共助の重要性	行政	松島町文化観 光交流会館	松島町文化 観光交流会 館	松島町	日本	400
4	小中高との連携	平成29年度みやぎ防災 ジュニアリーダー養成事 業 「東日本大震災メモリアル day 2017」	講義	20180303	20180304	宮城県仙台市荒浜地区の被害と復興	小中高	宮城県教育委 員会, 宮城県多 賀城高等学校	宮城県仙台 市荒浜地区 および多賀城 市キャッスル ホテル	多賀城市	日本	300
5	講演会・セミナー	現場対応者向け外国人観 光客受け入れ研修	依頼講演	20180215	20180215	災害時の外国人観光客に対する具体的 な方策	行政	利尻富士町, 北 海道観光推進 機構他	利尻富士町 総合交流促 進施設「りぶ ら」	利尻富士 町	日本	30
6	講演会・セミナー	現場対応者向け外国人観 光客受け入れ研修	依頼講演	20180213	20180213	災害時の外国人観光客に対する具体的 な方策	行政	富良野市, 北 海道観光推進 機構他	富良野市役 所大会議室	富良野市	日本	40
7	講演会・セミナー	平成29年度自主防災組 織活性化研修会	招待講演	20180201	20180201	地域コミュニティと地域防災について	行政	岩手県, 陸前高 田市	陸前高田市コ ミュニティー ホール	陸前高田 市	日本	200
8	講演会・セミナー	現場対応者向け外国人観 光客受け入れ研修	依頼講演	20180123	20180123	災害時の外国人観光客に対する具体的 な方策	行政	小樽市, 小樽市 観光協会, 北 海道観光推進 機構他	小樽市観光 物産プラザ (運河プラザ)	小樽市	日本	50
9	講演会・セミナー	東日本大震災アーカイブ シンポジウム被災者が 実施するアーカイブの意 義一	講演	20180111	20180111	震災アーカイブを発展させるために研究 機関がすべきこと	なし	災害科学国際 研究所, 国立国 会図書館	災害科学国 際研究所多 目的ホール	仙台市	日本	150
10	講演会・セミナー	丸森町館矢間東地区防 災訓練	招待講演	20171111	20171111	自助・共助・公助	行政	丸森町	丸森町館矢 間東地区	丸森町	日本	100
11	講演会・セミナー	第23回東北・北海道プ ロック労働安全衛生コンサル タント会議	招待講演	20171021	20171021	事前防災の限界と発災後の減災活動の 重要性について	企業	一般社団法人 日本労働安全 衛生コンサル タント会 宮城支部	ホテルメロ リタン仙台4階	仙台市	日本	150
12	講演会・セミナー	ミャンマー研修旅行受入	招待講演	20170901	20170901	東日本大震災概要, 自助・共助・公助, 災害対策基本法	企業	東松島みらいと し機構 (HOPE), JICA 東北	災害科学国 際研究所演 習室B	仙台市	日本	40
13	講演会・セミナー	JAL scholarship	講演	20170829	20170829	東日本大震災とは	企業	JAL	災害科学国 際研究所多 目的ホール	仙台市	日本	15
14	講演会・セミナー	四国企業防災戦略トップ セミナー	招待講演	20170829	20170829	東日本大震災の教訓とは～被災現場か ら伝える学び～	行政	経済産業局四 国経済産業局, 国土交通省四 国地方整備局, 経済産業局東 北経済局	サンポート高 松 高松シン ブルクワーか がわ国際会 議場	高松市	日本	200
15	講演会・セミナー	第9回DAN(Digital Archive Network)ワーク ショップ	基調講演	20170825	20170825	東日本大震災アーカイブの利活用の現 状とその問題点	なし	筑波大学・図書 館情報メディア 系	熊本大学附 属図書館 グ ループ学修 室	熊本市	日本	40
16	講演会・セミナー	中山小学校の防災キャン プ	依頼講演	20170819	20170819	地域の防災マップの作り方	小中高	中山小学校お やじの会	中山小学校	仙台市	日本	40
17	講演会・セミナー	長崎県長崎県立西高校の 研修旅行受入	講演	20170801	20170801	近年の災害について -東日本大震災から台風10号, 熊本地震 まで-	企業	JTB九州	災害科学国 際研究所多 目的ホール	仙台市	日本	80
18	講演会・セミナー	インバウンドジャパン	招待講演	20170719	20170719	東北における防災学習と観光について	企業	JAL	東京ビックサ イト	東京	日本	40
19	講演会・セミナー	真言宗智山派 智山伝法 院の研修	招待講演	20170626	20170626	震災記録の保存と利活用 アーカイブ 公開を阻むもの	なし	真言宗智山派 智山伝法院	別院真福寺	東京	日本	30
20	講演会・セミナー	兵庫県甲南高校の研修旅 行受入	講演	20170620	20170620	近年の災害について -東日本大震災から台風10号, 熊本地震 まで-	企業	阪急交通社	災害科学国 際研究所多 目的ホール	仙台市	日本	200
21	講演会・セミナー	札幌市立篠路中学校の研 修旅行受入	講演	20170612	20170612	東日本大震災と熊本地震について	企業	名鉄観光サービ ス	災害科学国 際研究所多 目的ホール	仙台市	日本	200
22	講演会・セミナー	World Tsunami Museum Conference	講演	201105	201105	Preserving: Database for Passing the Records down from Generation to Generation	行政	UNISDR, MOFA, JICA	アートホテル 石垣島	石垣	日本	50

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体 岩手県	高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	副委員長	20150800	
2 地方自治体 岩手県	自主防災組織活性化検討会議	委員	20170401	
3 地方自治体 多賀城市	地域防災計画会議	有識者	20170000	

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
1 20171113	日本赤十字社本社	国内	日本赤十字社及びびハーバード大学との三者間メタデータ連 携に関する覚書	研究機関	日本赤十字社	20171113	1

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 6 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1 熊本大学	山尾 敏孝	20170606	共同研究	熊本大学	熊本	その他	4
2 熊本大学	山尾 敏孝	20170825	講演	熊本大学	熊本	講演・発表	40
3 熊本大学	山尾 敏孝	20171028	講演	国際センター	仙台	講演者招聘	50
4 東京家政大学	松田 正巳	20170821	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	5
5 熊本大学	有次 正義	20180802	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	5
6 熊本大学	竹内 裕希子	20180307	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	5

# 佐藤 翔輔 准教授

Shosuke SATO

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	長岡工業高等専門学校専攻科	環境都市工学専攻	2005	3	京都大学大学院	情報学研究科	2011	3	博士(情報学)	2011	3

職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2011	3	日本学術振興会(京都大学防災研究所巨大災害研究センター付)	特別研究員(DC2)
2	2011	4	2012	3	東北大学 大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
3	2012	4	2017	10	東北大学 災害科学国際研究所	助教

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地域安全学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	日本災害復興学会	土木学会	電子情報通信学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	社会に役立つ防災情報システム研究小委員会	委員	20120000
2	地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	20160000
3	地域安全学会	学術委員会	学術委員	20180300
4	日本災害情報学会	編集委員会	編集委員	20170900
5	電子情報通信学会	安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会	幹事補佐	20130000
6	電子情報通信学会	電子情報通信学会論文誌安全・安心な生活のための情報通信システム特集号	編集委員	20140000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害社会情報学	災害伝承学	社会システム工学・安全システム	自然災害科学・防災学	復旧・復興工学

## B. 研究活動

研究活動の概要

1) 災害情報に関する研究として、災害アーカイブやテキストデータを始めとするビッグデータを応用した災害対応支援システムに関する研究を行っている。2) 災害文化に関する研究として、災害の記憶の場、伝承メディア(津波碑、地名等)が被災に及ぼす効果に関する研究を行っている。3) 災害復興に関する研究として、東日本大震災における復興計画・復興事業に関する体系的な調査、被災者の生活再建に関する研究を行っている。4) 防災・減災の啓発に関する研究として、「みんなの防災手帳」をはじめとした啓発ツールや社会システムの開発に関する研究を行っている。その他、実践的な津波避難訓練手法の開発も行っている。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2005	3	震災時の生活支障と収容避難所需要に関する研究	国内
2	2005	4	現在		災害の言語資料の可視化・活用に関する研究	国内
3	2011	4	現在		災害伝承の実態把握とその効果に関する研究	国内
4	2011	4	現在		災害発生時の情報リテラシーに関する研究	国内
5	2011	4	現在		災害アーカイブ学の構築(みちのく震録伝)の開発	国内
6	2011	4	現在		被災自治体の災害対応過程の解明	国内
7	2011	4	現在		マスメディアが災害対応に及ぼす影響に関する研究	国内
8	2012	4	現在		津波避難訓練手法の開発	国内
9	2012	4	現在		災害時の「生きる力」の解明	国内
10	2012	4	現在		復興計画・復興事業に関する研究、被災者の生活再建に関する研究	国内
11	2012	4	現在		防災・減災啓発ツールの開発、ブランディング戦略	国内

## 論文

単著	2	筆頭共著	19	その他の共著	21	合計	42	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	12	国内査読無	26
----	---	------	----	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	----	-------	----

	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	災害デジタルアーカイブを活用した被災地における防災教材の作成過程に関する実態分析－多賀城市防災教育副読本資料集作成業務の参与観察とインタビュー調査をもとに－	学術雑誌	有	いいい	災害情報	15		41	51	20170600	佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし
2	英語	Evacuation Behavior caused by the 2016 Fukushima Earthquake and Tsunami: Comparative Analysis in Ishinomaki City and Watarai Town, Miyagi Prefecture	国際会議 Proceedings	有	いいい	The 27th International Tsunami Symposium					20170800	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Naoki Togawa, Masahiro Iwasaki, Mitsuhiro Minakawa	筆頭共著	国内
3	日本語	被災地大学における「復興」を題材にした科目の実践と事例分析－受講者の事後変化に着目して－	学術雑誌	有	いいい	日本災害復興学会論文集	11		1	7	20170800	佐藤翔輔, 杉浦元亮, 邑本俊亮, 今村文彦	筆頭共著	なし
4	日本語	震災伝承施設に必要な要件の探索的分析－木籠メモリアルパークへの再訪者に対する質的調査をもとに－	学術雑誌	有	いいい	自然災害科学	36		41	52	20170900	山崎麻里子, 佐藤翔輔, 山口壽道, マリ・エリザベス	共著	国内
5	日本語	効果的かつ無理のない地区防災計画の作成方法－宮城県石巻市と亘理町における実践と評価－	学術雑誌	有	いいい	自然災害科学	36		69	89	20170900	佐藤翔輔, 相澤和宏, 伊妻伸之, 遠藤匡範, 高橋大輔, 平間雄, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 今井健太郎, 阿部利江, 戸川直希, 今村文彦	筆頭共著	国内
6	日本語	津波避難訓練が実際の津波避難行動に及ぼす効果－宮城県石巻市2016年11月22日福島県沖地震津波時の事例－	学術雑誌	有	いいい	土木学会論文集B2(海岸工学)	73		1_1531	1_1536	20171000	戸川直希, 佐藤翔輔, 今村文彦, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 佐藤勝治, 相澤和宏, 横山健太	共著	国内
7	日本語	津波伝承メディアによる人的被害低減効果の統計的分析－東日本大震災で被災した岩手県・宮城県における津波碑と津波由来地名に着目して－	学術雑誌	有	いいい	土木学会論文集B2(海岸工学)	73		1_1525	1_1530	20171000	佐藤翔輔, 平川雄大, 奥村誠, 今村文彦	筆頭共著	国内
8	日本語	東日本大震災発生前にある津波碑に対する岩手県陸前高田市の住民の認知・認識	学術雑誌	有	いいい	土木学会論文集B2(海岸工学)	73		1_1537	1542	20171000	佐藤翔輔, 平川雄大, 白幡勝美, 今村文彦	筆頭共著	国内

9	日本語	宮城県石巻市における2016年11月22日福島県沖の地震津波による避難行動実態	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73		L_1603	L_1608	20171000	佐藤翔輔, 今村文彦, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希	筆頭共著	国内
10	日本語	仮設住宅からの退去方針が決まらない被災者の特徴-課題-東日本大震災における名取市の事例	学術雑誌	有	いいえ	自然災害科学	36	3	281	295	20171100	佐藤翔輔, 松川杏寧, 立木茂雄	筆頭共著	国内
11	日本語	宮城県における震災学習プログラムに関する現状分析-東日本大震災と津波災害から6年間の震災伝承の特徴-	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集	31		77	85	20171100	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	共著	国内
12	日本語	災害伝承は津波避難行動を誘引したのか-陸前高田市における質問紙調査を用いた事例分析-	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集	31		69	76	20171100	佐藤翔輔, 平川雄太, 新家杏奈, 今村文彦	筆頭共著	国内
13	日本語	震災からの「教訓」を伝える2つのデータベースの実装とその評価:「3.11からの学びデータベース」と「震災教訓文献データベース」	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集	16		95	104	20180100	佐藤翔輔, 岡元徹, 今村文彦	筆頭共著	国内
14	英語	Comparative Analysis of Mobile Space Statistics Data and Questionnaire Survey Data to Detect Tsunami Evacuation Behavior:Case of Fukushima Earthquake Tsunami in Ishinomaki City and Watari Town, Miyagi prefecture	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	358	366	20180300	Naoki Togawa, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	共著	なし
15	英語	An Analysis of Web Coverage on the 2016 Kumamoto Earthquake Disaster,	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	321	325	20180300	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Masahiro Iwasaki	筆頭共著	国内
16	英語	Development and Evaluation of a Search Support Portal for Public Videos Related to the Great East Japan Earthquake: "3.11 Video Portal - Great East Japan Earthquake Public Footage Finder"	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	13	2	313	320	20180300	Shosuke Sato, Toru Okamoto, Fumihiko Imamura	筆頭共著	国内
17	日本語	災害情報行動の訓練と実際の比較と課題に関する考察-宮城県石巻市における事例分析-	学術雑誌	無	いいえ	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会講演論文集					20170529	佐藤翔輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 今村文彦	筆頭共著	国内
18	日本語	災害対応におけるソーシャルメディアの有効性と限界-東日本大震災発生から5年間を見ての考察-	学術雑誌	無	はい	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会講演論文集					20170529	佐藤翔輔	単著	なし
19	日本語	災害復興とポケモン GO	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	40		105	106	20170609	井出明, 佐藤翔輔	共著	国内
20	日本語	東日本大震災における「津波による犠牲者ゼロ」の地域を対象にした探索的調査	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	40		181	182	20170609	佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし
21	日本語	漁業地域における防災減災機能の向上に関する研究	その他	無	いいえ	平成29年度日本沿岸域学会研究討論会(第30回)					20170700	土屋詩織, 加藤広之, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	国内
22	日本語	東日本大震災における仮住まい方式が生活復興感に与える影響についての検討-2014年名取市現況調査データを用いた傾向スコア分析から-	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		15	18	20170800	川見文則, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	共著	国内
23	日本語	東日本大震災被災者の生活再建に関する検討:名取市現況調査の3年分のデータをもとに	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		1	4	20170800	松川杏寧, 佐藤翔輔, 川見文則, 立木茂雄	共著	国内
24	日本語	中越モリアル回廊におけるオープン6年目に見えた課題とその対応	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		45	48	20170800	山崎麻里子, 佐藤翔輔, 山口諺造, 松本勝男	共著	国内
25	日本語	VR技術, UAV, 3Dモデル等のICTを活用した震災学習コンテンツ制作手法	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		49	52	20170800	中川政治, 黒澤健一, 佐藤翔輔	共著	国内
26	日本語	宮城県沿岸8市町における震災伝承事業と震災学習プログラムの現状と課題	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		39	44	20170800	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	共著	国内
27	日本語	石巻市における震災伝承に関する3つの計画の策定プロセス	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	6		53	58	20170800	佐藤翔輔	単著	なし
28	日本語	東松島市震災復興伝承館の利用実態と利用者ニーズの把握	学術雑誌	無	いいえ	第36回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			23	24	20170900	新家杏奈, 佐藤翔輔, 押切一哲, 今村文彦	共著	国内
29	日本語	気仙沼市立陸上中学校における地域と連携した防災学習の実践-未来の防災戦士の育成を目指して-	学術雑誌	無	いいえ	第36回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			27	28	20170900	小野寺洋友, 佐藤翔輔	共著	国内
30	日本語	2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態:石巻市と亘理町の住民を対象にした調査から	学術雑誌	無	いいえ	第36回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			13	14	20170900	佐藤翔輔, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 遠藤匡範, 高橋大輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希, 今村文彦	筆頭共著	国内
31	日本語	宮城県・東日本大震災復興検証に向けた事前調査	学術雑誌	無	いいえ	日本災害復興学会2017年度神戸大会予稿集			55	56	20171000	佐藤翔輔, 井内加奈子, 松本行真, 今村文彦	筆頭共著	なし
32	日本語	2017年7月九州北部豪雨における「#救助」フォートの発信状況とその考察	学術雑誌	無	いいえ	日本災害情報学会 第19回研究発表大会予稿集			158	159	20171000	須藤龍也, 佐藤翔輔	共著	国内
33	日本語	東日本大震災に関する公開動画検索システムの構築:「動画でふりかえる3.11-東日本大震災公開動画ファインダー」	学術雑誌	無	いいえ	日本災害情報学会 第19回研究発表大会予稿集			204	205	20171000	佐藤翔輔, 岡元徹, 今村文彦	筆頭共著	国内
34	日本語	2016年熊本地震震害におけるウェブ報道の量的傾向:それ以前の地震災害報道と比較して	学術雑誌	無	いいえ	日本災害情報学会 第19回研究発表大会予稿集			48	49	20171000	佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし
35	日本語	仮設住宅入居期間に影響を与える要因についての基礎的分析-名取市の入退去日データを用いた生存時間分析から-	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	41		147	150	20171100	川見文則, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	共著	国内
36	日本語	2016年11月22日福島県沖地震津波発生時の宮城県亘理町における避難行動の実態-東日本大震災の経験や津波避難訓練との関係-	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	41		177	180	20171100	戸川直希, 佐藤翔輔, 今村文彦, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋	共著	国内
37	日本語	地区津波避難計画の作成手法と特徴に関する調査・分析	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	41		181	184	20171100	馬場亮太, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	なし
38	日本語	「地域安全学 夏の学校2017 -基礎から学ぶ防災・減災-」:地域安全学領域における若手人材育成 その2	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	41		33	36	20171100	寅屋数哲也, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 藤生彬, 杉安和也	共著	国内
39	日本語	災害伝承と津波避難行動の関係-陸前高田市における事例調査-	その他	無	いいえ	平成29年度東北地区災害科学研究会講演予稿集					20180100	佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし
40	日本語	気仙沼市における過去の震災伝承の実態把握-津波による人的被害軽減に向けて-	学術雑誌	無	いいえ	平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20180300	新家杏奈, 佐藤翔輔, 川島秀一, 今村文彦	共著	なし
41	日本語	津波避難における水平移動と避難誘導サインの視認性に関する検討-宮城県名取市関上地区の事例-	学術雑誌	無	いいえ	平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20180300	馬場亮太, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	なし
42	日本語	住民による総合防災訓練の経験と実災害における対応-宮城県亘理町における事例-	学術雑誌	無	いいえ	平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20180300	戸川直希, 佐藤翔輔, 今村文彦, 遠藤匡範	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	2	筆頭共著	0	共著	2	合計	4	うち	国際	1	国内	3
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	平成28年熊本地震に関する報告書(第11章 報道動向に関する分析)	その他	20170400	東北大学災害科学国際研究所(該当箇所:佐藤翔輔)	共著	東北大学災害科学国際研究所	なし	
日本語	三菱財団研究事業報告書2016(非集合的に居住する被災者の「見守り」の実態とその効果)	その他	20170700	三菱財団(該当箇所:佐藤翔輔)	単著	三菱財団	なし	
英語	The Role of Tsunami Engineering in Building Resilient Communities and Issues to Be Improved After the GEJE, The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration	編集本(Author)	20170700	Fumihiko Imamura, Anawat Suppasri, Shosuke Sato, Kei Yamashita	共著	Springer	なし	
日本語	震災学 Vol.11(東日本大震災 震災遺構の今)	編集本(Author)	20171100	佐藤翔輔	単著	東北学院大学/荒蝦夷	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	4	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	「動画でふりかえる3.11」公開	その他	無	はい	日本災害情報学会 News Letter	69			20170400	佐藤翔輔	単著	なし
日本語	揺れ動く東北の震災伝承	その他	無	はい	日本災害復興学会 News Letter	26			20170500	佐藤翔輔	単著	なし
日本語	津波碑は犠牲者を減らすことができたのか?	学術雑誌	無	はい	地震ジャーナル	63	48	52	20170600	佐藤翔輔	単著	
日本語	人的被害を軽減する災害情報の現状と限界	その他	無	はい	消防防災の科学	129	15	21	20170600	佐藤翔輔	単著	
日本語	東日本大震災の復興検証(復興庁委託事業):東松島市ヒアリングレポート	その他	無	はい	21世紀ひょうご特別号,特集:調査研究最前線		43	51	20170900	今村文彦, 井内加奈子, 佐藤翔輔	共著	

学会発表

単名	2	筆頭連名	13	その他の連名	13	合計	28
----	---	------	----	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原題)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会		筆頭連名	いいえ	NEXCO 東日本	仙台	日本	20170530	口頭(一般)	災害情報行動の訓練と実際の比較と課題に関する考察—宮城県石巻市における事例分析—	佐藤翔輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 今村文彦	国内	50
国内	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会		単名	はい	NEXCO 東日本	仙台	日本	20170529	口頭(Plenary)	災害対応におけるソーシャルメディアの有効性と限界—東日本大震災発生から5年間を見ての考察—	佐藤翔輔	なし	50
国内	第40回(2017年度)地域安全学会研究発表会(春季)		筆頭連名	いいえ	石垣市商工会館	石垣	日本	20170609	口頭(一般)	災害復興とポケモン GO	井出明, 佐藤翔輔	国内	100
国内	第40回(2017年度)地域安全学会研究発表会(春季)		その他の連名	いいえ	石垣市商工会館	石垣	日本	20170609	口頭(一般)	東日本大震災における「津波による犠牲者ゼロ」の地域を対象にした探索的調査	佐藤翔輔, 今村文彦	なし	100
国内	平成29年度日本沿岸域学会研究討論会(第30回)		その他の連名	いいえ	熊本大学	熊本	日本	20170722	口頭(一般)	漁業地域における防災減災機能の向上に関する研究	土屋詩織, 加藤広之, 佐藤翔輔, 今村文彦	国内	
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	東日本大震災における仮住まい方式が生活復興感に与える影響についての検討—2014年名取市現況調査データを用いた傾向スコア分析から—	川見文則, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	国内	80
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	東日本大震災被災者の生活再建に関する検討:名取市現況調査の3年分のデータをもとに	松川杏寧, 佐藤翔輔, 川見文則, 立木茂雄	国内	80
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	中越メモリアル回廊におけるオープン6年目に見えた課題とその対応	山崎麻里子, 佐藤翔輔, 山口壽道, 松本勝男	国内	80
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	VR技術, UAV, 3D モデル等のICTを活用した震災学習コンテンツ制作手法	中川政治, 黒澤健一, 佐藤翔輔	国内	80
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		その他の連名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	宮城県沿岸8市町における震災伝承事業と震災学習プログラムの現状と課題	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	国内	80
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石		単名	いいえ	釜石情報交流センター	釜石	日本	20170805	口頭(一般)	石巻市における震災伝承に関する3つの計画の策定プロセス	佐藤翔輔	なし	80
国際	The 27th International Tsunami Symposium		筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali	バリ	インドネシア	20170800	口頭(一般)	Evacuation Behavior caused by the 2016 Fukushima Earthquake and Tsunami: Comparative Analysis in Ishinomaki City and Watari Town, Miyagi Prefecture	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Naoki Togawa, Masahiro Iwasaki, Mitsuhiro Minakawa	国内	300
国内	第36回日本自然災害学会年次学術講演会		その他の連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170900	口頭(一般)	気仙沼市立階上中学校における地域と連携した防災学習の実践—未来の防災戦士の育成を目指して—	小野寺洋友, 佐藤翔輔	国内	200
国内	第36回日本自然災害学会年次学術講演会		筆頭連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170900	口頭(一般)	2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態:石巻市と亙理町の住民を対象にした調査から	佐藤翔輔, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 遠藤匡範, 高橋大輔, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希, 今村文彦	国内	200
国内	第36回日本自然災害学会年次学術講演会		その他の連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170900	その他	震災伝承施設に必要な要件の探索的分析—木籠メモリアルパークへの再訪者に対する質的調査をもとに—	山崎麻里子, 佐藤翔輔, 山口壽道, マリ・エリザベス	国内	200
国内	第36回日本自然災害学会年次学術講演会		筆頭連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170900	その他	効果的かつ無理のない地区防災計画の作成方法—宮城県石巻市と亙理町における実践と評価—	佐藤翔輔, 相澤和宏, 伊妻伸之, 遠藤匡範, 高橋大輔, 平岡雄, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 今井健太郎, 阿部利江, 戸川直希, 今村文彦	国内	200

17	国内	日本災害復興学会2017年度神戸大会		筆頭連名	いいえ	兵庫県立大学 神戸商学キャンパス	神戸	日本	20171000	口頭(一般)	東日本大震災復興検証に向けた事前調査	佐藤翔輔, 井内加奈子, 松本行真, 今村文彦	なし	200
18	国内	日本災害情報学会 第19回研究発表大会	○	その他の連名	いいえ	京都大学宇治キャンパス	宇治	日本	20171000	口頭(一般)	2017年7月九州北部豪雨における「#救助」ツイートの発信状況とその考察	須藤龍也, 佐藤翔輔	国内	300
19	国内	日本災害情報学会 第19回研究発表大会	○	筆頭連名	いいえ	京都大学宇治キャンパス	宇治	日本	20171000	ポスター(一般)	東日本大震災に関する公開動画検索システムの構築:「動画でふりかえる3.11-東日本大震災公開動画フインター」	佐藤翔輔, 岡元徹, 今村文彦	国内	300
20	国内	日本災害情報学会 第19回研究発表大会	○	筆頭連名	いいえ	京都大学宇治キャンパス	宇治	日本	20171000	口頭(一般)	2016年熊本地震災害におけるウェブ報道の量的傾向:それ以前の地震災害報道と比較して	佐藤翔輔, 今村文彦	なし	300
21	国内	第64回海岸工学講演会		筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅コンファレンスセンター	札幌	日本	20171000	その他	津波伝承メディアによる人的被害低減効果の統計的分析-東日本大震災で被災した岩手県・宮城県における津波碑と津波由来地名に着目して-	佐藤翔輔, 平川雄太, 奥村誠, 今村文彦	なし	500
22	国内	第64回海岸工学講演会		筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅コンファレンスセンター	札幌	日本	20171000	その他	東日本大震災発生前における津波碑に対する岩手県陸前高田市の住民の認知・認識	佐藤翔輔, 平川雄太, 白幡勝美, 今村文彦	なし	500
23	国内	第64回海岸工学講演会		筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅コンファレンスセンター	札幌	日本	20171000	その他	宮城県石巻市における2016年11月22日福島県沖の地震津波による避難行動実態	佐藤翔輔, 今村文彦, 相澤和宏, 横山健太, 佐藤勝治, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 戸川直希	なし	500
24	国内	第41回(2017年度)地域安全学会研究発表会(秋季)		その他の連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171100	ポスター(一般)	仮設住宅入居期間に影響を与える要因についての基礎的分析-名取市の入居去日データを用いた生存時間分析から-	川見文彦, 松川吉孝, 佐藤翔輔, 立木茂雄	国内	200
25	国内	第41回(2017年度)地域安全学会研究発表会(秋季)		その他の連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171100	ポスター(一般)	「地域安全学 夏の学校2017 -基礎から学ぶ防災・減災-」:地域安全学領域における若手人材育成 その2	寅屋敷哲也, 松川吉孝, 佐藤翔輔, 藤生慎, 杉安和也	国内	200
26	国内	第41回(2017年度)地域安全学会研究発表会(秋季)		その他の連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171100	その他	宮城県における震災学習プログラムに関する現状分析-東日本大震災と津波災害から6年間の震災伝承の特徴-	逸利道理子, 中川政治, 佐藤翔輔	国内	200
27	国内	第41回(2017年度)地域安全学会研究発表会(秋季)		筆頭連名	いいえ	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20171100	その他	災害伝承は津波避難行動を誘引したのか-陸前高田市における質問紙調査を用いた事例分析-	佐藤翔輔, 平川雄太, 新家吾奈, 今村文彦	国内	200
28	国内	平成29年度東北地区災害科学研究会		筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム	八戸	日本	20180100	口頭(一般)	事前の備え・リスク認識・災害伝承と津波避難行動の関係-陸前高田市における事例調査-	佐藤翔輔, 今村文彦	なし	200

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 6 件

国内	国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRIDEsの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所 第18回防災文化講演会	20170527	20170527	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	幹事	35	IRIDEs主催・共同主催	気仙沼市	国内	講演会・セミナー
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所「社会発信のための災害研究フリーマーケット」	20170729	20170729	東北大学災害科学国際研究所2階演習室	仙台市	日本	幹事	35	IRIDEs主催・共同主催		国内	研究会・ワークショップ
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所 第20回防災文化講演会	20170916	20170916	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	オーガナイザー	35	IRIDEs主催・共同主催	気仙沼市	国内	講演会・セミナー
4	国際	宮城県	世界防災フォーラム/防災ダボ会議 @仙台2017 プレナリーセッション「被災地からの経験・教訓の共有と継承-東日本大震災を中心に-	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	企画協力	300	なし		国外	シンポジウム
5	国内	気仙沼市・東北大学災害科学国際研究所	平成29年度気仙沼市防災フォーラム 第22回防災文化講演会	20180124	20180124	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	幹事	100	IRIDEs主催・共同主催	気仙沼市	国内	シンポジウム
6	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所 第51回金曜フォーラム	20180126	20180126	東北大学災害科学国際研究所・多目的ホール	仙台市	日本	幹事	40	IRIDEs主催・共同主催		国内	講演会・セミナー

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科土木工学専攻(工学部建築・社会環境工学科)の兼務教員として、津波工学研究室の学部4年生1名の卒業論文、修士1年生1名と2年の修士論文の研究指導教員をつとめた。本学情報科学研究科(邑本俊亮教授研究室)の修士2年の修士論文審査委員をつとめた。ほか、本学にて全学教育基礎ゼミとリーディング大学を、他大学の非常勤講師にて災害・防災に関する講義を担当した(東北大学「東日本大震災を科学する」、東北大学リーディング「実践的防災学IV」、石巻専修大学人間学部「復興の社会学」、尚絅学院大学「災害社会学」、東京大学大学院情報学環「災害情報論II」)。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部・研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	5セメ	1
2 土木工学修士研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	30
3 東日本大震災を科学する	東北大学	全学	基礎ゼミ	1	1セメ	1
4 実践的防災学IV(工学:復旧と復興の計画)	東北大学	リーディング大学院				2
5 社会と災害科学	東北大学	全学	基礎ゼミ	1	2セメ	2
6 災害情報論II	東京大学	情報学環				1
7 復興の社会学	石巻専修大学	人間学部	学部共通必須	2	3セメ	15
8 地域防災論	石巻専修大学	人間学部	学部共通選択	3	前期	15
9 災害社会学	尚絅学院大学	総合人間学部	現代社会学科	2	3セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

石巻市, 東松島市, 亶理町, 名取市, 気仙沼市で地域防災や震災伝承に関するアドバイザーや委員等をつとめている。地域安全学会と電子情報通信学会にて、安全・安心領域に関する学際的な情報研究に関する委員会の委員をつとめている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第18回防災文化講演会	20170527	20170527	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	幹事	35	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第20回防災文化講演会	20170916	20170916	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	オーガナイザー	35	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
3	国内	地域安全学会、東北大学災害科学国際研究所	地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ2017 in 釜石	20170805	20170806	釜石情報交流センター	釜石市	日本	実行委員	50	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	
4	国際	宮城県	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017 プレナリーセッション「被災地からの経験・教訓の共有と継承－東日本大震災を中心に－」	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	企画協力	300	なし	シンポジウム	
5	国内	気仙沼市・東北大学災害科学国際研究所	平成29年度気仙沼市防災フォーラム(東北大学災害科学国際研究所・第22回防災文化講演会)	20180124	20180124	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	幹事	100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	

講演・発表等(研究活動以外)

合計 35 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	古川黎明高等学校総合的な学習の時間(SS総合1)プロログ講演会	招待講演	20170425	20170425	災害科学とは何かよりよい課題研究に向けて	小中高	古川黎明高等学校	古川黎明高等学校	大崎市	日本	200
2	講演会・セミナー	宮城県平成29年度津波防災シンポジウム	基調講演	20170526	20170526	震災伝承のあの日まで・あの日から・これから	行政	宮城県、名取市	名取市文化会館	名取市	日本	300
3	講演会・セミナー	東北大学災害科学国際研究所・第18回防災文化講演会	講演	20170527	20170527	宮城県における現在の3.11の伝承	行政	東北大学災害科学国際研究所	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	35
4	その他	「海と暮らす一恵み、時に災害をもたらす海と私たちはどう向き合うのか?」	招待講演	20170528	20170528	震災の現状・復興を科学者は住民・行政にどう伝えればいいのか?」	なし	東北マリンサイエンス拠点形成事業	東北大学青葉山コモンズ	仙台市	日本	30
5	その他	電子情報通信学会 安全・安心な生活とICT研究会 2017年度第1回研究会	記念講演	20170529	20170529	災害対応におけるソーシャルメディアの有効性と限界－東日本大震災発生から5年間を視ての考察－	なし	電子情報通信学会	NEXCO 東日本・仙台東管理事務所	仙台市	日本	40
6	小中高との連携	平成29年度第2回多賀城市立小・中学校防災主任会	講演	20170704	20170704	多賀城市防災主任会が優れていること/他市町が優れていること	小中高	多賀城市立小・中学校防災主任会、多賀城市教育委員会	多賀城市役所	多賀城市	日本	30
7	小中高との連携	気仙沼高等学校 SGH プロログフィールドワーク	アドバイザー	20170714	20170714	課題研究に関するアドバイス	小中高	気仙沼高等学校	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	2
8	小中高との連携	東豊中学校区防災教育推進委員会・地域防災を語る会(笠神地区)	アドバイザー	20170714	20170714	自主防災活動と学校の連携に関するアドバイス	小中高	多賀城市立東豊中学校	笠神自治会館	多賀城市	日本	40
9	その他	平成29年度東松島市インリーダー研修会	ファシリテーター	20170717	20170717	災害を「たいけん」するゲーム	行政	国立花山青少年自然の家(	東松島市	栗原市	日本	69
10	講演会・セミナー	中越地震ネットワークおぢな研修会 公開プログラム「被災地からの発信－創造的復興に向けて－」	招待講演	20170719	20170719	創造的復興に向けての東北の歩み	行政	産業文化会館文化ホール	中越地震ネットワークおぢな、小千谷市、柏崎市	柏崎市	日本	100
11	その他	塩竈市ワークショップ	招待講演	20170720	20170720	震災伝承の現状と事例	行政	塩竈市役所	塩竈市	塩竈市	日本	20
12	講演会・セミナー	ぼうさい学校	ワークショップ	20170831	20170831	ぼうさい家族会議	企業	相互台公民館	防災教育の市民団体「ゆりあけかもめ」	名取市	日本	30
13	その他	第3回上釜ふれあい広場避難訓練・ミニサッカー大会	アドバイザー	20170916	20170916	防災クイズ大会	小中高	上釜ふれあいグラウンド	上釜ふれあいグラウンド	石巻市	日本	50
14	講演会・セミナー	東北大学災害科学国際研究所・第20回防災文化講演会	コーディネーター	20170916	20170916	「災害伝承と博物館展示」	行政	気仙沼中央公民館	東北大学災害科学国際研究所	気仙沼市	日本	35
15	その他	日本災害復興学会 被災の教訓を未来に伝える研究会 東北ブロック 第3回研究会	講演	20170919	20170919	災害伝承に関する検証的研究と実践的研究	なし	東北学院大学サテライト	日本災害復興学会	仙台市	日本	20
16	講演会・セミナー	第49回 IRIDeS 金曜フォーラム「災害研究とメディアの関わり」	講演	20170922	20170922	「社会発信のための災害研究フリーマーケット」の試み	なし	東北大学災害科学国際研究所・多目的ホール	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	40
17	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校・防災学習	講演	20170925	20170925	2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態調査:石巻市と巨理町の住民を対象にして	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	117
18	講演会・セミナー	ぼうさい学校	講演	20170926	20170926	防災・減災のはなし①	企業	相互台公民館	防災教育の市民団体「ゆりあけかもめ」	名取市	日本	30
19	公開講座	日本災害復興学会2017年度神戸大会(分科会1) 災害復興における KJ 法の再考－分析手法と合意形成手法、2つの役割から考える－	招待講演	20170930	20170930	分析手法・合意形成手法としての事例紹介	なし	兵庫県立大学	日本災害復興学会	神戸市	日本	50
20	講演会・セミナー	第10回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー	講演	20171018	20171018	災害科学研究技法としての言語データ分析:テキストマイニングからワークショップまで	なし	東北メディカル・伽ババンク	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
21	講演会・セミナー	イオンモール石巻10周年記念特番ラジオ石巻サテライト「イオンモールラジオで防災・音楽のチャラ～「防災シンポジウム」(ラジオ石巻)」	パネリスト	20171104	20171104	パネルディスカッション	企業	イオンモール石巻	イオンモール石巻	石巻市	日本	20
22	その他	市民まちづくりフォーラム(仙台市)	アドバイザー	20171105	20171105	震災メモリアル施設を活用した記憶と経験の継承	行政	TKP ガーデンシティ仙台	仙台市	仙台市	日本	50

23	講演会・セミナー	国民防災推進会議(ぼうさいこくたい)	コメンテーター	20171126	20171126	リレートーク「どう備える? 備蓄」(TEAM防災ジャパン)	行政	仙台国際センター	内閣府	仙台市	日本	50
24	講演会・セミナー	世界防災フォーラム/防災ダボ会議@仙台2017	パネリスト	20171126	20171126	被災地からの経験・教訓の共有と継承-東日本大震災を中心に-	行政	仙台国際センター	宮城県	仙台市	日本	300
25	講演会・セミナー	日本技術士会東北本部 男女共同参画推進委員会 平成29年度講演会	パネリスト	20171211	20171211	Lifeの中にWorkをおこう! ~考え方なら変えられる~	企業	ユアテック	日本技術士会東北本部男女共同参画推進委員会	仙台市	日本	30
26	その他	東北大学災害科学国際研究所・南海トラフ地震対応勉強会	講演	20171218	20171218	災害対応におけるSNSの有効性と限界-東日本大震災発生から6年半をふりかえって-	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
27	講演会・セミナー	日本学術会議公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」	講演	20171220	20171220	2017年7月九州北部豪雨災害における「#救助」ツイートの実態・課題	行政	日本学術会議講堂	日本学術会議	港区	日本	300
28	講演会・セミナー	平成29年度気仙沼市防災フォーラム(東北大学災害科学国際研究所・第22回防災文化講演会)	コメンテーター	20180124	20180124	事例報告、ワークショップ	小中高	気仙沼中央公民館	気仙沼市教育委員会、東北大学災害科学国際研究所	気仙沼市	日本	100
29	展示会	第1回いせんぬま防災フェスタ	アドバイザー	20180211	20180211	ホヤぼーやと防災クイズ	行政	気仙沼市役所	気仙沼市	気仙沼市	日本	40
30	講演会・セミナー	宮城県SONPO地震セミナー	基調講演	20180222	20180222	宮城県における地震等の自然災害に備えて-被災地の生活再建に見える被害軽減のための提言-	企業	戦災復興記念館	日本損害保険協会東北支部、宮城県損害保険代理業協会	仙台市	日本	100
31	小中高との連携	古川黎明高等学校総合的な学習の時間(SS総合1)エビローグ講演会	ファシリテーター	20180227	20180227	SS総合1 課題研究のふりかえり-次年度へのステップアップ-	小中高	古川黎明高等学校	古川黎明高等学校	大崎市	日本	200
32	講演会・セミナー	NPO 法人事業継続推進機構(BCAO)仙台地域勉強会	講演	20180302	20180302	災害を「伝える」ことに関する実証的・実践的研究:東北における東日本大震災前後のリスクコミュニケーションを事例に	企業	東北大学災害科学国際研究所・演習室	NPO 法人事業継続推進機構(BCAO)	仙台市	日本	20
33	小中高との連携	平成29年度 東日本大震災メモリアル day	コメンテーター	20180304	20180304	ポスター発表講師	小中高	多賀城高等学校	宮城県、多賀城高等学校	多賀城市	日本	100
34	講演会・セミナー	東北大学災害科学国際研究所・東日本大震災7周年シンポジウム・地域社会に開かれた災害研を指して-地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装-	講演	20180311	20180311	震災伝承の実践的防災学:科学的検証と実践支援	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	150
35	講演会・セミナー	平成29年度宮城県気仙沼高等学校「総合学習発表会」	コメンテーター	20180317	20180317	ポスター発表	小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	石巻市	石巻復興まちづくり推進会議	震災復興計画推進事業アドバイザー	20120400
2 地方自治体	石巻市	石巻市総合防災訓練研究業務アドバイザー	アドバイザー	20120400
3 地方自治体	石巻市	石巻市震災伝承検討会議	メンバー兼ファシリテーター	20160400
4 地方自治体	石巻市	石巻市震災遺構検討会議(旧門脇小学校校舎)	メンバー兼ファシリテーター	20160400
5 地方自治体	石巻市	石巻市震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)	メンバー兼ファシリテーター	20160400
6 地方自治体	石巻市	石巻市旧門脇小学校震災遺構調査・基本設計等業務プロポーザル選定委員会	委員	20170400
7 地方自治体	石巻市	石巻市大川小学校旧校舎震災遺構調査・基本設計等業務プロポーザル選定委員会	委員	20170400
8 地方自治体	東松島市	東松島市防災会議	防災会議委員	20120400
9 地方自治体	東松島市		震災伝承館事業アドバイザー	20150400
10 地方自治体	東松島市		震災復興モニュメント検討事業 アドバイザー	20160400
11 地方自治体	亶理町	亶理町防災会議専門委員会	防災会議専門委員	20130400
12 地方自治体	亶理町	亶理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	アドバイザー	20140400
13 地方自治体	名取市	名取市防災会議	防災会議委員	20140400
14 地方自治体	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	アドバイザー	20140400
15 その他	多賀城市立率東豊中学校区	多賀城市立率東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20160400
16 地方自治体	多賀城市		被災者現況調査アドバイザー	20160400
17 地方自治体	気仙沼市	気仙沼市岩井崎プロムナードセンター整備検討会議	委員	20160400
18 地方自治体	仙台市	仙台市沿岸分メモリアルアドバイザーボード	委員	20170400
19 民間・NPO	防災教育団体ゆりあけかめめ		庶務	20140700
20 民間・NPO	石巻ビジネスマン産業界ネットワーク	後方支援部会	部長	20150800
21 民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		外部委員	20171200
22 民間・NPO	Reborn-Art Festival × ap bank fes 2016	Reborn-Art Festival × ap bank fes 2016	津波避難計画アドバイザー	20160400
23 その他	気仙沼高等学校		気高応援隊	20160400
24 その他	東豊中学校	東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20170400
25 民間・NPO	NHK仙台放送局	ゴジだっちゃ!	「防災研究最前線」コーディネーター	20160400
26 民間・NPO	日本財団	日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム2017 分科会(災害大国ニッポン)	ディレクター	20171100

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内/海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
1 20170529	石巻市役所・宮城県石巻市	国内	東北大学災害科学国際研究所と石巻市との包括的協定	自治体	石巻市	20170501	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 石巻市	亀山 絃 市長	20180323	その他	石巻市役所	石巻市	その他	10

ボレー ペンメレン セバスチャン 助教

Sébastien Pennmellen BORET

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Oxford Brookes University	Anthropology	2003	1	Oxford University	Institute of Social and Cultural Anthropology	2005	6	M.Phil. In Social Anthropology	2005	6
2					Oxford Brookes University	Department of Anthropology	2011	3	PhD	2011	6

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	2014	7	Japan Society for the Promotion of Science (Tohoku University)	Post-doctoral Fellowship

学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7
Association of Anthropologists (UK)	Society of Applied Anthropology (US)	Japan Anthropology Workshop	Society for South-east Asian Studies	European Association of Social Anthropologists	東北民俗の会	Japan Society of Cultural Anthropology

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Sciencescope	Managing Committee	Vice-president	201501200

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北アジア研究センター	震災共同研究会	共同研究員	20160401

B. 研究活動

研究活動の概要

My research investigates the way in which individuals and societies remember and archive disasters, the lost community and its victims. The earlier part of my research focuses on the politics surrounding the construction of memorial monuments among the coastal communities annihilated by the unprecedented tsunami that followed the Great East Japan Earthquake (2011) and fieldwork in the region of Aceh devastated by the Indian Ocean Earthquake and Tsunami (2004). In addition, I am working on disaster archives to improve the use of disaster memories for disaster education and disaster prevention. Finally, I am currently researching the role of memories and memorialization among fishing communities that have been devastated by the Great East Japan Earthquake.

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	9	現在		The anthropology of Death: Funerals, burials and afterlives	
2	2011	8	現在		The Memorialisation of Disasters	
3	2014	2	現在		Tsunami Cultures in Japan and Indonesia	
4	2014	8	現在		The Roles of Digital Archives in Disaster Risk Reduction	
5	2016	4	現在		Revitalization of Agriculture and Fishing Industry in Tsunami-hit Areas	

論文

単著	2	筆頭共著	3	その他の共著	0	合計	5	うち	国際査読有	2	国際査読無	2	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1	英語	Agency and the Personalization of the Grave in Japan	単行本(論文掲載)	無	いいえ	Death in the Early Twenty-First Century: Authority, Innovation and Mortuary Rites.			217	253	20170718	Boret Pennmellen Sébastien	単著	国外
2	英語	Introduction.	単行本(論文掲載)	無	はい	Death in the Early Twenty-First Century: Authority, Innovation and Mortuary Rites.			1	27	20170718	Boret Pennmellen Sébastien, Susan Orpelt Long, Sergei Kan	筆頭共著	国外
3	英語	The Roles of Monuments for the Dead during the Aftermath of the Great East Japan Earthquake	単行本(論文掲載)	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction			1	8	20170917	Boret Pennmellen Sébastien, Akihiro Shibayama	筆頭共著	国外
4	英語	The Roles of Digital Archives in Reducing Risk and Disasters in Mega Cities	国際会議 Proceedings	有	いいえ	International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia			1	7	20171128	Boret Pennmellen Sébastien, Akihiro Shibayama	共著	国外
5	日本語	災害後の持続可能なコミュニティの構築に果たす記念碑の役割——東日本大震災と津波を事例に	単行本(論文掲載)	有	いいえ	震災後の地域文化と被災者の民俗誌フィールド災害人文学の構築			165	183	20180131	Boret Pennmellen Sébastien	単著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	1	編著	0	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携	発行部数
1	英語	Death in the Early 21st Century: Authority, Innovation and Mortuary Rites	編集本(Editor)	20170718	Boret Pennmellen Sébastien, Susan Orpelt Long, Sergei Kan	編集	Plagrave	国外	295



学会発表

単名	7	筆頭 連名	0	その他の 連名	0	合計	7
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携	参加 人数
1	国内	International Conference for Information System for Crisis Response and Management	単名	はい	Albi, France	20170523	口頭(一般)	Supporting Recovery through Managing Bodies and Grief in Emergencies	Sébastien Pennellen Boret	国外	300
2	国際	オスロ大学・東北大学合同ワークショップ 「東北における宗教活動と森づくり」	単名	はい	Sendai	20170707	口頭(一般)	日本の樹木葬—エコロジーの思想を取り入れた寺院	Sébastien Pennellen Boret	国内	30
3	国内	IRIDeS Friday Forum, TohokuUniversity	単名	いいえ	Sendai	20170623	口頭(一般)	社会人類学における災害時の死のマネジメント	Sébastien Pennellen Boret	国内	50
4	国際	The France-Japan Week on Disaster Risk Reduction	単名	いいえ	Tokyo	20171005	口頭(一般)	The Roles of Archiving in DRR: The Case of the Great East Japan Earthquake	Sébastien Pennellen Boret	国内	300
5	国際	World Bosai Forum	単名	いいえ	Sendai	20171127	ポスター(一般)	Supporting Recovery through Managing Bodies and Grief in Emergencies	Sébastien Pennellen Boret	国内	30
6	国際	World Bosai Forum	単名	いいえ	Sendai	20171128	口頭(一般)	The Needs for and of Natural Disaster Archives	Sébastien Pennellen Boret	国内	50
7	国際	The Great East Japan Earthquake International Symposium	単名	いいえ	Sendai	20180111	口頭(一般)	世界防災フォーラム&ぼうさいこくたいの報告	Sébastien Pennellen Boret	国内	200

C. 教育活動

教育活動の概要

My main teaching activities consist of a one-semester course on disaster anthropology for the laboratory of Cultural Anthropology (Undergraduate, Masters, and PhD). I also lectured on disaster archives for a course on basic training lead by the International Research Institute of Disaster Science. Finally, I regularly give lectured to visiting students from collaborating overseas university (Alaska).

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学 期	コマ数 90分/コマ
1	災害人類学	東北大学	文学部	人類学研究科	1	1セメ	15
2	基礎ゼミ「国際開発計画と防災」	東北大学	工学	災害科学国際研究所	3	1セメ	3

## 佐藤 健 教授

Takeshi SATO

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	豊橋技術科学大学	建設工学課程	1987	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	修士(工学)	1989	3

### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1994	3	株式会社フジタ 建築設計部	研究
2	1994	4	1996	3	株式会社フジタ 技術研究所	研究
3	1996	4	1997	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助手
4	1997	4	1999	3	宮城工業高等専門学校建築学科	講師
5	1999	4	2001	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助教授
6	2001	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科	講師
7	2007	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科	准教授
8	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
9	2012	4	現在		静岡大学防災総合センター	客員教授
10	2012	7	現在		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
日本建築学会	日本自然災害学会	日本安全教育学会	日本集団災害医学会	日本地震工学会	地域安全学会	日本災害情報学会	歴史地震研究会

### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本安全教育学会		常任理事	20110000
2	日本地震工学会	編集委員会	委員	20120000
3	日本建築学会	2018年度大会(東北)大会委員会	委員	20150000
4	自然災害研究協議会	東北地区部会	東北地区部会長	20160400
5	日本安全教育学会	研究集会石巻ミーティング2017実行委員会	委員長	20170000
6	日本建築学会東北支部	災害調査連絡会	委員長	20170000
7	日本建築学会	2018年度大会(東北)実行委員会	懇親部会長	20170000
8	京都大学防災研究所自然災害研究協議会	突発災害調査委員会	(災害リスク・社会科学)委員	20170000
9	東京大学地震研究所・京都大学防災研究所	拠点間連携共同研究委員会	委員	20170000
10	日本建築学会東北支部	第38回東北建築賞研究奨励賞選考委員会	委員	20170000

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
自然災害科学	構造工学・地震工学・維持管理工学	応用健康科学 安全教育学

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長(総長特別補佐)	20140400
2	工学部・工学研究科	広報戦略会議		20160400
3	工学部	入試検討委員会	委員	20160400
4	工学部 人間・環境系	学部入試委員会	委員長	20140400
5	工学研究科 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員	20160400
6	工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20160400
7	工学研究科 都市・建築学専攻	将来計画タスクフォース	委員	20160400

### B. 研究活動

研究活動の概要

自然科学と社会科学の融合に基づいた防災教育モデルの開発、被災地における復興教育モデルの実践、防災教育支援システムの開発など、都市・建築学を基盤とし周辺学問領域との学際的研究に取り組んでいる。

### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		復興教育モデルの開発と実践	国内
2	2012	4	現在		東日本大震災における避難者の発生と推移に関する空間分析	国内
3	2011	4	現在		東日本大震災における学校の被害と対応に関する調査研究	国内

### 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち 国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
0	2	3	5	1	0	0	4

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Enhancing Community Resilience Through Capacity Development After GEJE: The Case of Sendai-shi-chiiki Bousai Leaders (SBLs) in Miyagi Prefecture	学術雑誌	有	いいえ	The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration: Insights and Assessment after 5 Years			113	126	20170400	桜井愛子・佐藤健	共著	国内
日本語	釜石市内の保育園の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会 東日本大震災特別論文集		6	23	26	20170805	佐藤健、村山良之	筆頭共著	国内
日本語	大崎市立岩出山小学校における地域の教育力を活かした防災教育資料の創造	学術雑誌	無	いいえ	日本安全教育学会第18回岡山大会プログラム・予稿集			59	60	20170900	佐藤健、桜井愛子	筆頭共著	国内
日本語	「復興・防災マップづくり」実践のための手引書の開発	学術雑誌	無	いいえ	日本安全教育学会第18回岡山大会プログラム・予稿集			51	52	20170900	桜井愛子、北浦早苗、村山良之、佐藤健	共著	国内
日本語	大規模災害時におけるベト同行避難の課題ーベトの多様化で高まる人獣共通感染症リスクー	学術雑誌	無	いいえ	日本安全教育学会第18回岡山大会プログラム・予稿集			111	112	20170900	坪内睦子、佐藤健、内藤俊夫、佐々木宏之、土屋陽子、Fan Chia-Kwung、丸井英二、佐伯潤、奈良武司、大槻公一	共著	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行数
日本語	東北大学教養教育院叢書「大学と教育」第2巻 震災からの問い第5章(減災・正しく怖がる)～自然に対する「畏敬の念」を学び直す～	単行本	2180326	花輪公雄、森田康夫、木島明博、野家啓一、前忠彦、佐藤健、小林隆、座小田豊、工藤昭彦	共著	東北大学出版会	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	今こそ「地域の教育力」を発揮するとき・生かすとき	その他	無	はい	ふくしま放射線教育・防災教育指導資料(活用版)			234	234	20170300	清原洋一、藤田達也、林泰成、佐藤健ほか	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	2	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ2017 in 釜石	細川 栄一	筆頭連名	いいえ	岩手県釜石市釜石情報交流センター	岩手県	日本	201708	口頭(一般)	「釜石市内の保育園の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓」	佐藤健、村山良之	国内	50
国内	日本安全教育学会第18回岡山大会	宮本 香代子	その他の連名	いいえ	岡山大学津島キャンパス	岡山県	日本	201709	口頭(一般)	「復興・防災マップづくり」実践のための手引書の開発	桜井愛子、北浦早苗、村山良之、佐藤健	国内	100
国内	日本安全教育学会第18回岡山大会	宮本 香代子	筆頭連名	いいえ	岡山大学津島キャンパス	岡山県	日本	201709	口頭(一般)	大崎市立岩出山小学校における地域の教育力を活かした防災教育資料の創造	佐藤健、桜井愛子	国内	100
国内	日本安全教育学会第18回岡山大会	宮本 香代子	その他の連名	いいえ	岡山大学津島キャンパス	岡山県	日本	201709	口頭(一般)	大規模災害時におけるベト同行避難の課題ーベトの多様化で高まる人獣共通感染症リスクー	坪内睦子、佐藤健、内藤俊夫、佐々木宏之、土屋陽子、Fan Chia-Kwung、丸井英二、佐伯潤、奈良武司、大槻公一	国内	100

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	10件
----	-----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち主催者)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	日本安全教育学会/防災教育国際協働センター	日本安全教育学会研究会石巻ミーティング2017	20170512	20170514	石巻市桃生公民館文化ホール	石巻市	日本	実行委員長	0	IRIDeS共催		国内	研究会・ワークショップ
国内	石巻市教育委員会	平成29年度石巻市学校防災フォーラム	20170809	20170809	石巻市桃生公民館文化ホール	石巻市	日本	企画	0	IRIDeS後援・名義後援		国内	シンポジウム
国内	宮城県教育委員会/防災教育国際協働センター	平成29年度「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」	20171124	20171124	岩沼市民会館	岩沼市	日本	実行委員	10	IRIDeS主催・共同主催		両方	シンポジウム
国際	東北大学災害科学国際研究所	世界防災フォーラムテクニカルセッション「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」	20171126	20171126	仙台国際センター	仙台市	日本	企画・運営主担当	30	IRIDeS主催・共同主催		両方	シンポジウム
国内	宮城県教育委員会/多賀城高等学校	みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	20171225	20171225	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員	0	IRIDeS共催		国内	講演会・セミナー
国内	東北大学災害科学国際研究所	平成29年度「市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾～」	20180123	20180124	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員	0	IRIDeS主催・共同主催		国内	講演会・セミナー
国内	石巻市教育委員会	第1回石巻市復興・防災マップコンクール	20180129	20180129	石巻市役所	石巻市	日本	運営委員	0	IRIDeS共催		国内	その他

8	国際	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター/防災教育国際協働センター	第16回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム	20180302	20180302	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	池田市	日本	運営委員	0	IRIDeS共催	国内	講演会・セミナー
9	国内	宮城県教育委員会/多賀城高等学校	東日本大震災メモリアルday 防災ジュニアリーダー-研修会	20180304	20180304	多賀城高等学校	多賀城市	日本	運営委員	0	IRIDeS共催	国内	講演会・セミナー
10	国内	東北大学災害科学国際研究所	東日本大震災7周年シンポジウム	20180311	20180311	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	企画・運営主担当	10	IRIDeS主催・共同主催	国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災発生時における避難者数の空間分析、都市部における避難抑制効果の評価、福祉避難所に関する防災上の課題等について学生の研究指導を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 創造工学研修	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	2セメ	
2 災害の科学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	2セメ	1
3 地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
4 構造力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	12
5 災害危機管理論	東北大学	工学部	都市・建築学専攻			6
6 実践的防災Ⅲ	東北大学	工学部	グローバル安全学			1
7 建築防災学	静岡大学	リーディング大学院	ふじのくに防災フェロー養成講座			
8 地域防災論Ⅰ	東北福祉大学					

D. 社会活動

社会活動の概要

コミュニティベースの地域防災と学校防災の融合に関する実践と学校教育、生涯学習等の場面における防災啓発に取り組んでいる。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考	
			開始年月日	終了年月日									
1	国内	震災対策技術展東北実行委員会	第8回震災対策技術展東北	20170803	20170804	仙台市中小企業活性化センター	仙台市	日本	実行委員	3845	IRIDeS後援・名義後援	講演会・セミナー	
2	国内	仙台市	第13回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム	20180315	20180315	若林区文化センター	仙台市	日本	実行委員	500	IRIDeS後援・名義後援	講演会・セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 31 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数	
			開始年月日	終了年月日								
1	講演会・セミナー	平成29年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」に関する第1回運営協議会	特別講演	20170425	20170425	関係機関や地域との連携を大切に防災教育～仙台市片平地区の活動事例の紹介～	福島県教育委員会	福島県環境創造センター(コミュニティ福島)	田村郡	日本	60	
2	講演会・セミナー	日本安全教育学会研究会	特別講演	20170527	20170527	熊本地震1年後の震災復興	日本安全教育学会	西南学院東京オフィス	東京都千代田区	日本	20	
3	講演会・セミナー	河北防災トークセッション	ファシリテーター	20170612	20170612	これからのマンションコミュニティを考える	企業	河北新報社	仙台第一生命タワービル三井のすまいモール	仙台市	日本	50
4	講演会・セミナー	宮城教育大学教員キャリア研究機構設立記念事業	特別講演	20170619	20170619	防災教育の充実に向けた連携から融合へ	宮城教育大学	宮城教育大学	仙台市	日本	100	
5	講演会・セミナー	仙台市立通町小学校地域防災訓練講話	特別講演	20170624	20170624	地元学のすすめ～ぼうさいの学び方へ、学校と家庭・地域の連携から協働へ	小中高	仙台市立通町小学校	仙台市立通町小学校体育館	仙台市	日本	100
6	講演会・セミナー	流体科学研究所安全衛生講習会	特別講演	20170801	20170801	東北大学の災害対策の取組(国内外の動向)	流体科学研究所	流体科学研究所大会議室	仙台市	日本	50	
7	講演会・セミナー	全国国立七大学安全衛生管理協議会	招待講演	20170803	20170803	東北大学の復興と災害対策	全国国立七大学安全衛生管理協議会	東北大学片平さくらホール	仙台市	日本	30	
8	講演会・セミナー	平成29年度石巻市学校防災フォーラムパネルディスカッション	パネリスト	20170809	20170809	学校、地域、行政が連携して取り組むこれからの学校防災	石巻市教育委員会	石巻市桃生公民館	石巻市	日本	200	
9	講演会・セミナー	第65回日本PTA全国研究大会仙台大会第5分科会	コーディネータ	20170825	20170825	地域連携	公益社団法人日本PTA全国協議会	仙台国際センター	仙台市	日本	500	
10	講演会・セミナー	仙台市鶴ヶ谷地区婦人防火クラブ研修会	特別講演	20170914	20170914	ぼうさいの学び方としての地元学のすすめ	仙台市鶴ヶ谷地区婦人防火クラブ	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20	
11	講演会・セミナー	青少年赤十字研究協力校実践発表	特別講演	20170920	20170920	地域ぐるみによる地域に根差した防災教育の価値	石巻市立住吉中学校	石巻市立住吉中学校体育館	石巻市	日本	200	
12	講演会・セミナー	防災教育チャレンジプラン防災教育交流会	招待講演	20171014	20171014	東日本大震災と東北の防災教育の現状と課題	防災教育チャレンジプラン実行委員会	東京大学地震研究所	東京都文京区	日本	100	
13	講演会・セミナー	グリーンキャピタル長町II防災講演会	招待講演	20171015	20171015	マンション防災の活動を通じたコミュニティづくり～ライオンズマンション長町南第2の取り組み事例から～	グリーンキャピタル長町II管理組合	グリーンキャピタル長町II	仙台市	日本	20	
14	講演会・セミナー	平成29年度仙台市地域防災リーダー(SBL)養成講習会	講義	20171024	20171024	自分の住んでいる地域の特性の理解	仙台市危機管理室	太白消防署	仙台市	日本	50	
15	講演会・セミナー	平成29年度仙台市地域防災リーダー(SBL)養成講習会	講義	20171029	20171029	自分の住んでいる地域の特性の理解	仙台市危機管理室	泉消防署	仙台市	日本	50	
16	講演会・セミナー	石巻市第4回防災主任研修会	講義	20171108	20171108	地域の地形、土地利用の変遷を理解するための地図の理解と活用促進に向けて	石巻市教育委員会	石巻市立石巻中学校	石巻市	日本	60	
17	講演会・セミナー	福島県放射線・防災教育フォーラム	特別講演	20171115	20171115	石巻・仙台での学校・家庭・地域協働による復興・防災学習の取組と実践	福島県教育委員会	福島県環境創造センター(コミュニティ福島)	田村郡	日本	200	

18	小中高との連携	仙台市サイエンススクール	講義	20171122	20171122	①地しんにより大地が変化した身近な場所を探そう。②家の中の地しん危険予知アンテナを持つ	小中高	仙台市立東仙台小学校	仙台市立東仙台小学校	仙台市	日本	80
19	講演会・セミナー	平成29年度防災教育を中心とした学校安全フォーラム	コーディネータ	20171124	20171124	パネルディスカッション:これからの災害に備えて		宮城県教育委員会	岩沼市民会館	岩沼市	日本	700
20	講演会・セミナー	世界防災フォーラム前日祭「第1部 青少年からのメッセージ」	コメンテータ	20171125	20171125	第1部 青少年からのメッセージ		国立研究開発法人科学技術振興機構	東北大学川内萩ホール	仙台市	日本	700
21	講演会・セミナー	防災推進国民大会2017	パネリスト	20171126	20171126	あの時、地区防災計画があれば・・・		内閣府(防災担当)	仙台国際センター	仙台市	日本	150
22	講演会・セミナー	防災推進国民大会2017防災教育フォーラム	パネリスト	20171126	20171126	『防災教育これまでとこれから』～防災教育と地域の融合、好取組みと課題～		日本損害保険協会	仙台国際センター	仙台市	日本	100
23	講演会・セミナー	世界防災フォーラムテクニカルセッション	コメンテータ	20171126	20171126	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成～片平流防災まちづくり～		東北大学災害科学研究所	仙台国際センター	仙台市	日本	140
24	講演会・セミナー	防災推進国民大会2017	コーディネータ	20171127	20171127	仙台市地域防災リーダー SBL の活動について		仙台市	仙台国際センター	仙台市	日本	60
25	講演会・セミナー	仙台教育事務所防災主任研修	招待講演	20171129	20171129	防災教育こそ地元学～土地に根ざした学びの魅力と波及効果～		宮城県総合教育センター	宮城県総合教育センター	名取市	日本	100
26	講演会・セミナー	みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	講義	20171225	20171225	防災・減災の基礎知識	小中高	宮城県教育委員会	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	70
27	講演会・セミナー	平成29年度「実践的安全教育総合支援事業」研修会	講義	20180112	20180112	緊急地震速報システムを題材とした防災教育の指導案		石巻市教育委員会	石巻市桃生公民館	石巻市	日本	60
28	講演会・セミナー	泉区内仙台市地域防災リーダー研修会	特別講演	20180129	20180129	地域における SBL の活動について～防災活動の継続性と地域の持続可能性の観点から～		仙台市	泉区役所	仙台市	日本	150
29	講演会・セミナー	学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座仙台学	講義	20180203	20180203	仙台の地名と災害		学都仙台コンソーシアム	仙台市市民活動サポートセンター	仙台市	日本	100
30	講演会・セミナー	平成29年度第5回榴岡地区寺子屋	特別講演	20180224	20180224	防災活動を通したコミュニティづくり		榴岡地区エキサイティング事業実行委員会	榴岡市民センター	仙台市	日本	50
31	講演会・セミナー	第16回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム	コメンテーター	20180302	20180302	子どもたちの命を守る安全・防災教育の充実と発展を目指して(総合討論)		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	池田市	日本	150

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	内閣府	防災教育チャレンジプラン実行委員会	委員	20150623
2 地方自治体	石巻市	学校防災推進会議	委員長	20150428
3 地方自治体	宮城県	防災教育を中心とした学校安全フォーラム実行委員会	実行委員	20150428
4 民間・NPO	震災対策技術展	第8回「震災対策技術展」東北 実行委員会	委員	20160614
5 地方自治体	宮城県	平成29年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」推進委員会	推進委員	20170000
6 地方自治体	青森県	防災対策強化検討委員会	委員	20160722
7 地方自治体	仙台市	仙台市社会福祉審議会	委員	20160906
8 その他	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員	20160401
9 民間・NPO	NPO法人防災白熱アカデミー		理事	20140000
10 地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20170401
11 地方自治体	宮城県	宮城県松島自然の家再建事業 松島自然の家再建に係る懇話会	委員	20170823
12 その他	東京大学地震研究所/京都大学防災研究所	拠点間連携協働研究委員会	委員	20170401

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
1 20180311	災害科学国際研究所・宮城県仙台市	国内	東北大学災害科学研究所と宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合センターとの相互連携・協力に関する協定	研究機関	宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター	20180311	4

平野 勝也 准教授

Katsuya HIRANO

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1991	3	東京大学大学院	工学系研究科	1993	3	博士(工学)	2000	2

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	4	1994	3	北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 工事一課 工務二係	係員
2	1994	4	1995	1	北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 工務一課 計画係	係員
3	1995	2	2001	8	東北大学 工学部 土木工学科	助手
4	2000	2	2000	12	英国マンチェスター大学 人文学部 計画・造園学科	客員研究員
5	2001	9	2008	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
6	2008	4	2012	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	准教授
7	2012	4			東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	日本都市計画学会	造園学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	土木学会論文集委員会 復興特集号 D 部門	ゲストエディター	20160000
2	土木学会	土木計画学委員会・海岸工学委員会 減災アセスメント小委員会	委員	20140000
3	土木学会	選奨土木遺産選考委員会	委員	20170000
4	土木学会	東北支部 選奨土木遺産選考委員会	委員	20010000
5	土木学会	研究企画委員会	委員	20170000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	都市景観	土木デザイン	復興まちづくり

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	国際交流・ネットワーク委員会	委員	20130401
2	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会	委員	20160400

B. 研究活動

研究活動の概要

震災前から培ってきた、都市空間認識や土木デザインの蓄積、さらには行政経験を元に、復興まちづくりに対して、そのあるべき姿を論考しつつ、制度的な問題・課題を実体的に把握し、その解決策を現実の復興計画に反映させ、復興計画のクオリティを高めるとともに、実践的な復興まちづくりのあり方を探求している。また、その基礎となる都市空間の認識研究も継続している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	2	2000	12	街並みメッセージ論による街路景観に関する研究	国内
2	2000	4	2011	2	記憶から見た街路空間認識に関する研究	国内
3	2008	4	現在		相対性の観点から見た街路空間イメージに関する研究	国内
4	2011	3	現在		復興まちづくりにおける実践的研究	国内
5	2011	3	現在		防潮堤の計画論に関する研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	防潮堤の外部性の整理とその緩和策 ～東日本大震災津波被災地での経験・見聞から～	学術雑誌	無	いいえ	景観・デザイン研究講演集		13	38	43	20171202	平野勝也	単著	なし
2	日本語	夜の盛り場街路の心理的進入抵抗とその個人差	学術雑誌	無	いいえ	景観・デザイン研究講演集		13	301	308	20171202	八島 穰・平野勝也	共著	なし
3	日本語	転用前後の差から見たコンバージョン建築のイメージ特性 ～メタファーに対する相互作用理論を用いて～	学術雑誌	無	いいえ	景観・デザイン研究講演集		13	419	424	20171202	高野 李江・平野勝也	共著	なし
4	日本語	居住者の生活景に対する記憶および注意特性	学術雑誌	無	いいえ	景観・デザイン研究講演集		13	527	535	20171202	菊池 佳奈・平野勝也、和田 裕一	共著	なし
5	日本語	地方都市中心市街地の店舗および土地利用分布傾向: 経済的および地理的観点から	学術雑誌	無	いいえ	景観・デザイン研究講演集		13	565	571	20171202	石澤 亮介・平野勝也	共著	なし

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	日本土木史 平成3年～平成22年 -1991～2010-	事典・辞書	20170401	(公社)土木学会 日本土木史編集特別委員会編	共著	(公社)土木学会	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	7	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	7
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	これからの公共的建築のつくり方 ⑤ 「景観デザインがもたらす公共的空間の価値は何ですか？」	その他	無	はい	建築雑誌2017年4月号	132	1697	43	20170400	平野勝也 聞き手:有岡三恵, 川添善行, 羽鳥達也, 大村紋子	共著	なし
2 日本語	原動力	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2017年5月号			記事8 記事9	20170501	平野勝也	単著	なし
3 日本語	これからの公共的建築のつくり方 ⑥ 「風景のトータルティをつくるのに必要なことは何ですか？」	その他	無	はい	建築雑誌2017年5月号	132	1698	51	20170500	平野勝也 聞き手:有岡三恵, 川添善行, 羽鳥達也, 大村紋子	共著	なし
4 日本語	これからの公共的建築のつくり方 ⑦ 「公共的空間と公共事業の隙間をどのように埋めればよいですか？」	その他	無	はい	建築雑誌2017年6月号	132	1699	43	20170600	平野勝也 聞き手:有岡三恵, 川添善行, 羽鳥達也, 大村紋子	共著	なし
5 日本語	杓子定規	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2017年9月号			記事8 記事9	20170901	平野勝也	単著	なし
6 日本語	個性	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2017年12月号			記事8 記事9	20171201	平野勝也	単著	なし
7 日本語	座談会 南海トラフ地震への備え 一事前復興のあるべき姿	その他	無	はい	土木施工2018年3月号	59	3	101	20180202	平野勝也, 田中里佳, 羽藤英二, 牧紀男, 山中英生	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1 国内	第64回海岸工学講演会前日シンポジウム「陸からみた津波減災施設 一減災アセスメント小委員会中間報告一」	安田誠宏	単名	はい	北海道大学	札幌	日本	20171024	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	防潮堤整備の外部性		国内	300
2 国内	第13回景観・デザイン研究発表会	脇坂隆一	単名	いいえ	京都大学	京都	日本	20171202	口頭(一般)	防潮堤の外部性の整理とその緩和策 ～東日本大震災津波被災地での経験・見聞から～		国内	300

C. 教育活動

教育活動の概要

景観工学・土木デザインを中心に、統合的思考が可能な人材育成を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	7.5
2 基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	45
3 都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
4 環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	1
5 景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	30
6 都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	30
7 都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
8 都市システム計画研修B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	8セメ	
9 都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
10 地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	
11 実践的防災学IV	東北大学	リーディング大学院			前期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

復興まちづくりの実践を中心に、景観まちづくり及び土木デザインの実践を展開している。また、積極的に土木の魅力若者に伝える活動も行っている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 3 件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDEsの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
1 国内	早稲田まちづくりシンポジウム2017実行委員会	早稲田まちづくりシンポジウム2017「地域の持続のかたちを考える 一千年を生きた知恵を活かし、ふるさとの暮らしを未来につなげるために」	20170716	20170716	早稲田大学国際会議場・井深大記念ホール	新宿区	日本	企画担当幹事	200	なし	シンポジウム	
2 国内	災害科学国際研究所総合防災プロジェクト・エアリア	第二回実践的防災学シンポジウム「すこやかな暮らしの復興 ～復興のその先を見据えて」	20170117	20170117	災害科学国際研究所 多目的ホール	仙台市	日本	企画WG	50	IRIDEs主催・共同主催	シンポジウム	
3 国内	景観開花実行委員会	土木設計競技「景観開花。13」	20171123	20171209	東北大学工学部人間環境系教育研究棟	仙台市	日本	実行委員長	50	なし	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	「SSH総合の時間」(1学年)東北大学訪問研修	模擬講義	20170421	20170421	津波被災地のまちづくり～復興に向けて～	小中高	福島県立磐城高等学校	東北大学工学研究科	仙台市	日本	50
2	講演会・セミナー	日本都市計画学会東北支部「シンポジウム 東日本大震災復興記念公園を語る ～陸前高田、石巻から、福島復興に向けて～」	話題提供+パネリスト	20170422	20170422	高田松原復興記念公園のデザインについて	行政	日本都市計画学会東北支部	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	100
3	講演会・セミナー	みやぎVOICE 2017-計画・制度とそこから零れ落ちるもの-	話題提供+パネリスト	20170701	20170701	雄勝・牡鹿・北上における地域の主体のあり方	なし	日本建築家協会東北支部	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	200
4	講演会・セミナー	陸前高田市風景づくりシンポジウム	話題提供+パネリスト	20171119	20171119	高田の風景	行政	陸前高田市	陸前高田市コミュニティホール	陸前高田市	日本	50
5	講演会・セミナー	まちづくり講演会	基調講演	20171219	20171219	中尊寺通り まちづくりのこれから	なし	NPO 法人みんなであつくる平泉	瀧澤鮮魚店	平泉町	日本	30
6	小中高との連携	関西創価高校見学会	模擬講義	20180322	20180322	津波被災地のまちづくり～復興に向けて～	小中高	関西創価高校	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	30

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省 道路局	道路のデザインに関する検討委員会	委員	20170300
2	国・政府	水産庁	東日本大震災の復興を踏まえた漁業集落の防災・減災対策等検討調査懇談会	委員	20150400
3	国・政府	東北地方整備局	道路計画研究会	座長	20080401
4	国・政府	東北地方整備局	震災遺構等サインに関する検討委員会	委員	20180328
5	国・政府	東北地方整備局	最上川水系流域委員会専門小委員会	委員	20100401
6	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会	委員	20120000
7	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会ワーキンググループ	委員	20120000
8	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会市民検討部会	アドバイザー	20120000
9	国・政府	東北地方整備局 岩手県・陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園 景観検討調整会議	委員	20170400
10	地方自治体	宮城県	環境影響評価技術審査会	副会長	20100000
11	地方自治体	宮城県	再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業に係る有識者評価会	委員	20130000
12	地方自治体	宮城県	行政評価委員会 大規模事業評価部会	委員	20140000
13	地方自治体	仙台市	土地利用審査会	委員	20140000
14	地方自治体	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議	委員	20130000
15	地方自治体	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議半島部WG	座長	20130000
16	地方自治体	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議中心市街地WG	委員	20130000
17	地方自治体	石巻市	半島拠点検討部会	委員	20170400
18	地方自治体	石巻市	石巻市二子地区まちづくり協議会	アドバイザー	20130000
19	地方自治体	石巻市	新蛇田南地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
20	地方自治体	石巻市	新蛇田南第二地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
21	地方自治体	名取市	名取市閉上地区まちなか再生協議会	会長	20170828
22	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議	委員長	20130000
23	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議高台検討部会	委員	20130000
24	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会	委員	20130000
25	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議治水公園検討部会	委員	20140000
26	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議川まちづくり検討部会	委員	20140000
27	地方自治体	南三陸町	南三陸町道の駅整備推進協議会	委員	20160000
28	地方自治体	平泉町	景観形成審議会	委員	20060000
29	地方自治体	平泉町	平泉町空家等対策協議会	副会長	20171018
30	地方自治体	平泉町	重要公共施設デザイン会議	会長	20060000
31	地方自治体	平泉町	おくのほそ道の風景地保存活用計画策定委員会	副委員長	20150400
32	民間・NPO	石巻まちなか創成協議会		委員	20110000
33	民間・NPO	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	支部長	20100000
34	民間・NPO	GSデザイン会議		運営幹事	20140000
35	民間・NPO	公益信託オオバまちづくり基金	運営委員会	委員	20150900

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20170602	石巻市役所・宮城県石巻市	国内	国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と宮城県石巻市との連携と協力に関する協定	自治体	石巻市	20170600	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 5 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20170508	共同研究	東北大学東京分室	東京	企画	15
2	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20170810	共同研究	東北大学東京分室	東京	企画	15
3	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20171025	共同研究	TKP札幌	札幌	企画	15
4	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20171226	共同研究	東北大学東京分室	東京	企画	15
5	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20180329	共同研究	ウイングス京都	京都	企画	15



# 定池 祐季 助教

Yuki SADAIKE

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	2002	3	北海道大学大学院	文学研究科	2004	3	修士(文学)	2004	3
2					北海道大学大学院	文学研究科	2011	3	博士(文学)	2011	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	旭川市役所 市民部 資産税課 家屋第1係	事務吏員
2	2006	9	2009	3	特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構 北海道支部	研究員
3	2007	4	2008	3	北海道大学大学院文学研究科	リサーチアシスタント
4	2010	4	2011	3	公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター	研究員
5	2011	4	2014	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	助教
6	2014	4	2015	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	招へい教員
7	2014	4	2017	3	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター	特任助教
8	2015	4	2015	9	山形大学	非常勤講師
9	2015	4	2015	9	東京理科大学	非常勤講師
10	2015	10	2016	3	兵庫教育大学	非常勤講師
11	2016	10	2017	3	兵庫教育大学	非常勤講師
12	2017	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
13	2017	4	2017	3	茨城大学	非常勤講師
14	2017	10	2018	1	兵庫教育大学	非常勤講師

### 学会活動

#### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本社会学会		地域社会学会	日本災害復興学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本安全教育学会	日本建築学会	日本民具学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
災害社会学	地域社会学	防災教育

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

継続的な研究テーマとして、「津波被災地の復興と生活再建に関する研究」、「地域社会に根ざした防災教育の実践研究」、「災害情報の伝達と住民行動に関する研究」に取り組んでいるほか、「災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究」で科研費(若手B)を取得し、北海道奥尻島、有珠山周辺地域などでの継続的なフィールドワークを実施した。また、福島大学のメンバーと防災教育教材「さすけなふる」の開発と教育実践などを実施し、これまでの研究成果と合わせて地域安全学会、日本安全教育学会、日本自然災害学会、日本災害復興学会、寒地技術シンポジウムでの口頭発表と発達心理学学会シンポジウムでの発表を行った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		津波被災地の復興と生活再建に関する研究	国内
2	2011	4	現在		地域社会に根ざした防災教育の実践研究	国内
3	2014	4	現在		災害情報の伝達と住民行動に関する研究	国内
4	2017	4	現在		災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	平常時の避難行動意図の規定要因について	学術雑誌	有	いいえ	災害情報	15		53	64	2017	宇田川真之・三船恒裕・磯打千雅子・黄欣悦・定池祐季・田中淳	共著	国内

### 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	二四年目の奥尻島にて—北海道南西沖地震を体験した研究者として	その他	無	はい	震災学	11		134	145	20171100	定池祐季	単著	国内

### 学会発表

単名	5	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	第38回(2017年度)地域安全学会研究発表会(春季)		単名	いいえ	石垣市商工会館	石垣市	日本	20170609	口頭(一般)	被災地における「災害遺構」の位置づけ—北海道奥尻島の事例から—		なし	
国内	2017年度日本建築学会大会		筆頭連名	いいえ	広島工業大学	広島市	日本	20170902	口頭(一般)	余震発生等不確実性の高い状況下における避難所の居住環境と運営体制の実態と課題 2016年熊本地震における熊本市内避難所全数調査より	石川未子、山之井麻衣、三浦春菜、小田淳一、大平真弓、葉袋奈美子、定池祐季、石原渡河、坪井聖太郎	国内	

3	国内	第18回日本安全教育学会		単名	いいえ	岡山大学	岡山市	日本	20170923	口頭(一般)	災害常襲地における防災教育の変遷 ー北海道有珠山周辺地域を例にー		なし
4	国内	第36回自然災害学会学術講演会		単名	いいえ	アオーレ長岡	長岡市	日本	20170928	口頭(一般)	文化伝承と災害伝承の関連性に関するー考察ー 宮古島「ナーバイ」を例にー		なし
5	国内	日本災害復興学会神戸大会		単名	いいえ	兵庫県立大学神戸商科キャンパス	神戸市	日本	20171001	口頭(一般)	奥尻島における災害語り継ぎ		なし
6	国内	第33回寒地技術シンポジウム		筆頭連名	いいえ	札幌コンベンションセンター	札幌市	日本	20171130	口頭(一般)	東日本大震災の経験に基づく防災教育教材「さすけなふる」の開発	定池祐季・天野和彦・大槻知史	国内
7	国内	一般社団法人日本発達心理学会 第29回大会 シンポジウム「震災後の学校レジリエンス」		単名	はい	東北大学	仙台市	日本	20180325	指名 / シンポジウム・ワークショップ・パネル	被災経験を学びに		国内

受賞

合計 : 1 件

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	賞の種別	授与機関	個人/グループ	受賞者・受賞グループ名	受賞内容	所外連携
1 寒地技術賞 (地域貢献部門)	20171129	国内	学会・シンポジウム等の賞	一般社団法人 北海道開発技術センター	個人	定池祐季	冬期の地震災害を念頭に置いた防災教育教材の開発 積雪寒冷地の課題である、冬期の災害対応能力の向上について、機関連携で防災教育教材を開発し、教育実践と研究を実施している点が評価された。	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 1 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数 (以外個人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	日本安全教育学会	日本安全教育学会研究集会 石巻ミーティング2017「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」	20170512	20170514	石巻市桃生公民館文化ホール	石巻市	日本	実行委員		なし	石巻市教育委員会、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター、宮城教育大学防災教育未来づくり総合研究センター、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	国内	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

茨城大学理学部3・4年生を対象とした集中講義では、人文・社会科学的災害研究の潮流、防災教育の系譜、サイエンスコミュニケーションとリスクコミュニケーションについて扱ったほか、演習を通じた防災教育の体験を実施した。また、継続して担当している兵庫教育大学大学院の「学校における防災教育と心のケア」では、災害復興、防災教育、地域防災に関する3コマと、学生の課題発表を担当した。

担当授業科目 (他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	地球環境科学特論II	茨城大学	理学部	地球環境科学コース	3, 4	前期	7.5
2	学校における防災教育と心のケア	兵庫教育大学	大学院			後期	7

D. 社会活動

社会活動の概要

「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」(3.11からの学び塾)「福住町防災まちあるき」の企画運営に携わったほか、北海道・宮城県・静岡県において小中高での授業、行政職員研修、地域防災リーダーゲーム一般向け講演を行った。加えて、2016年台風10号で被災した芽室町において、避難所運営マニュアル作成のためのワークショップ運営などに継続的に携わった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等 (研究活動以外)

合計 : 3 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター	平成29年度 防災教育を中心とした学校安全フォーラム	20171124	20171124	岩沼市民会館	岩沼市	日本	企画・運営	700	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
2	国内	東北大学災害科学国際研究所・国土交通省東北地方整備局	3.11からの学び塾	20180123	20180124	災害科学国際研究所	仙台市	日本	企画・運営	60	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	
3	国内	福住町防災まちあるきワークショップ事務局	福住町防災まちあるき	20180211	20180211	菅原動物病院他	仙台市	日本	企画・運営	20	なし	研究会・ワークショップ	

講演・講義等 (研究活動以外)

合計 : 23 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	白糠町平成29年度防災教育事業	講義	20170622	20170622	「災害からいのちを守るために」	小中高	白糠町	白糠町立庶路小学校	白糠町	日本	56
2	講演会・セミナー	中南米地域火山防災研修	講義	20170706	20170706	「自然災害からの復興」(「La Reconstrucción desde Desastres」)	企業	JICA札幌	JICA札幌	札幌市	日本	12
3	小中高との連携	平成29年度特別授業(1年7組災害科学科 学校設定科目「社会と災害」)	講義	20170718	20170718	震災の記憶の伝承と災害への備え	小中高	宮城県立多賀城高校	多賀城高校	多賀城市	日本	75
4	その他	避難所運営マニュアルに関わる意見交換会	講演、ファシリテーター	20170723	20170723	ワークショップ「さすけなふる」、レクチャー「避難所の果たす役割」	行政	芽室町	芽室町役場	芽室町	日本	20

5	講演会・セミナー	利尻富士町職員防災研修	講義・演習	20170725	20170725	「クロスロード」で考える行政の防災対応	行政	利尻富士町	利尻富士町役場	利尻富士町	日本	40
6	その他	避難所運営マニュアルに関わる意見交換会	ファシリテーター	20170824	20170824		行政	芽室町	芽室町役場	芽室町	日本	20
7	講演会・セミナー	第34回宮城県婦人防火クラブ リーダー研修会	講義	20170828	20170828	暮らしの中に『防災』を	行政	宮城県婦人防火クラブ連絡協議会	宮城県庁	仙台市	日本	350
8	その他	避難所開設・運営マニュアル検討委員会	ファシリテーター	20170915	20170915		行政	芽室町	芽室町役場	芽室町	日本	20
9	講演会・セミナー	第5回 北海道地域研究会「北海道の新たな津波想定をどう読み解くか」	ファシリテーター	20171003	20171003	ワークショップ「新たな津波浸水想定結果への対応と課題」	行政	東京大学地震研究所	かでの2・7	札幌市	日本	60
10	講演会・セミナー	災害時の住環境・生活環境 EXPO2017	コーディネーター	20171010	20171010	報道だけでは分からない避難所の実情とこれからの対策のあり方『東日本大震災、熊本地震、新潟県中越地震...過去の災害教訓から考える』	企業	一般社団法人 地域防災支援協会	京王プラザホテル	東京都	日本	30
11	講演会・セミナー	日本女性会議2017とまこまい	講義・演習	20171014	20171014	第二分科会「災害」：災害時に生きる私たちの「生き方」～「防災女子」は避難所を救う！～	行政	日本女性会議2017実行委員会	苫小牧東小学校体育館	苫小牧市	日本	80
12	講演会・セミナー	避難所運営ゲーム北海道版(Doはく)体験会	講義・演習	20171028	20171028		行政	芽室町	めむろ一ど	芽室町	日本	30
13	小中高との連携	防災授業	授業(低学年・高学年計2コマ)	20171206	20171206	災害からいのちを守るために	小中高	厚真町	厚真町立中央小学校	厚真町	日本	160
14	講演会・セミナー	厚真町地域防災マスターミーティング	講義・演習	20171206	20171206	「さすけなぶる」	行政	厚真町	厚真町福祉センター	厚真町	日本	20
15	講演会・セミナー	女性による避難所運営ワークショップ	講義・演習	20171213	20171213	女性による避難所運営ワークショップ	行政	沼津市	千本プラザ	沼津市	日本	40
16	講演会・セミナー	平成29年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	講義	20171225	20171225	「防災・減災の基礎知識1」～高校生に伝えていきたい「防災活動～『助かる人』から『助ける・支える人』へ」	行政	宮城県教育委員会	災害科学国際研究所	仙台市	日本	70
17	その他	全国被災地交流集会「円卓会議」	話題提供・パネリスト	20180107	20180107	奥尻島の復興プロセス	なし	災害復興制度研究所	関西学院大学	西宮市	日本	60
18	講演会・セミナー	避難所運営研修	講義・演習	20180110	20180110		行政	東月寒地区町内会連合会	東月寒中学校	札幌市	日本	100
19	講演会・セミナー	平成29年度職員防災研修	講義・演習	20180125	20180125	「クロスロード」で考える行政の災害対応	行政	江別市	市民会館	江別市	日本	50
20	講演会・セミナー	これからの防災教育を考えるー防災教育の実践からえられる様々な効果に着目して	パネリスト	20180206	20180206		企業	公益社団法人中越防災安全推進機構	新潟県自治会館	新潟市	日本	50
21	講演会・セミナー	「沖繩の持続的な発展を支える防災対応推進会議」特別講演会・推進会議	講演・意見交換	20180215	20180215	離島の災害対策・災害対応～北海道奥尻島を例に	行政	内閣府沖繩総合事務局	内閣府沖繩総合事務局	那覇市	日本	200
22	その他	平成29年度 石狩川流域圏本会議	講演	20180219	20180219	地域を育てる防災・減災活動	行政	石狩川流域圏会議事務局(北海道滝川市)	札幌プリンスホテル	札幌市	日本	100
23	講演会・セミナー	防災井戸端会議 in余市～みんなで考えよう！余市のツナも防災	ファシリテーター	20180318	20180318	防災井戸端会議(ワークショップ) みんなで考えよう！余市の津波防災	行政	余市町、東京大学地震研究所	余市町中央公民館	余市町	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	東京都	震災復興検討会議	委員	20141001
2 国・政府	北海道開発局	石狩川流域委員会	委員	20170500
3 国・政府	国土交通省	水防活動活性化調査会	委員	20180300
4 民間・NPO	公益社団法人中越防災安全推進機構	防災教育の効果을明らかにする研究会	委員	20170701

# 小野 裕一 教授

Yuichi ONO

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	宇都宮大学	教育学部	1989	3	米国ケントステイト大学大学院	地理学研究科	2001	12	地理学博士	2001	12

### 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1997	1	2000	2	米国ケントステイト大学	非常勤講師
2	2002	1	2003	2	世界気象機関(スイス・ジュネーブ)世界気象観測部	アソシエート・エキスパート
3	2003	2	2004	2	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)	プログラム・オフィサー
4	2004	6	2007	6	国連国際防災戦略事務局早期警戒事務所(ドイツ・ボン)	所長補
5	2007	6	2009	9	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)防災科学技術担当	プログラム・オフィサー
6	2009	10	2012	10	国連アジア太平洋経済社会委員会本部(タイ・バンコク)	防災課・課長
7	2012	11			東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	教授
8	2014	3	2016	3	京都大学防災研究所 水資源環境センター	客員教授

### 学会活動

#### 所属学会

1	学会名 1	2	3	4
	日本地理学会	アメリカ地理学会	日本風工学会	地域安全学会

#### 学会・委員会等での役職

1	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本学術会議	国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会	特任連携会員	20140423
2	日本学術会議	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	特任連携会員	20130628
3	日本地理学会	交流専門委員会	委員長	20130401
4	日本学術会議	科学技術を生かした防災・減災に政策の国際的展開に関する検討委員会	会員	20151030

### 研究分野・キーワード

1	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	国際防災政策	竜巻災害	早期警報システム

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

本年度は、国連開発計画(UNDP)及び富士通と連携し、災害統計グローバルセンターを構築する基盤作りから更に運用を目指し活動している。世界各国の災害被害統計のデータベースからデータの収集・アーカイブ・分析を行うことを目的として、仙台防災枠組の実施やモニタリングにも貢献している。さらに2017年11月に開催した世界防災フォーラムの事務局長として、官学産民の連携を取りながらフォーラムの成功に向けて活動した。「防災」に関する様々な現状・課題を共有し解決する国際的な連携構築の場を創出することができた。仙台から世界へ「BOSAI」並びに「仙台防災枠組2015-2030」を発信し、かつ、その推進のための実践的な議論がなされたことは、今後2年ごとに定期開催していく上で初回のキックオフとしてふさわしい成果となった。

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

1	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Why did Rikuzentakata have a high death toll in the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami disaster? Finding the devastating disaster's root causes	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction	27		21	36	201708	Tadashi Nakasua, Yuichi Ono, Wiraporn Pothisiria	単著	国外

### 学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

1	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	2017Global Platform for Disaster Risk Reduction	Mr. Enrique Peña Nieto	単名	いいえ	Moon Palace Arena	Cancun	Mexico	20170522-26	口頭(一般)	Disaster damage statistics as one of the priority actions of the Sendai disaster prevention framework	Yuichi Ono	なし	500

### 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

1	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち外国人)	IRIDESの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	東北大学災害科学国際研究所/仙台市	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017	20171125	20171128	仙台国際センター・東北大学萩ホール	仙台市	日本	事務局長	947(243)	IRIDES共催	仙台市GRF	国外	シンポジウム
2	国際	Japan Association for Wind Engineering	International Work shop on Wind-Related Disasters and Mitigation	20180311	20180314	東北大学 工学部	仙台市	日本	組織委員		なし	東北大学	国外	研究会・ワークショップ

## C. 教育活動

### 教育活動の概要

災害の科学という全学のオムニバス形式の授業を担当し、リスクの定義やケース・スタディーを行い、災害の基礎知識についての理解をはかった。また、リーディング大学院の講義で、実践的防災学7を担当し、プレゼンテーションの指導も含めて行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1	実践的防災学VII	東北大学	リーディング大学院	リーディング大学院		通年	3
2	災害の科学	東北大学	全学		1	後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

アカデミアとメディアの連携についてタイのメディアを訪れ、タイの災害報道をめぐる一般的な状況やタイの防災状況、学術-メディア連携状況を知ることが出来た。また「世界津波の日」イベントでは石垣島にて「世界津波博物館会議」に出席し講演を行い、会議の成功に貢献した。11月に世界防災フォーラムを開催し、事務局長として成功のために尽力した。「防災」に関する様々な現状・課題を共有し解決する国際的な連携構築の場を創出することができた。イランの研究者等に多数参加頂き、国際貢献に努めた。更に災害統計グローバルセンターのセンター長として、UNDP・富士通とパートナーシップを更に進め、また巨大自然災害に備える社会づくりを進めていくためにJICA等と連携し、災害被害統計構築に向けて活動した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 9 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	日本気象協会JEF研究会	招待講演	20170626	20170626	日本版改定藤田スケールに関する発表	企業	日本気象協会	気象庁	東京都	日本	
2	講演会・セミナー	JICA2017年度課題別研修「防災主流化の促進」	招待講演	20170731	20170731	災害統計の取り組み	なし	JICA	JICA東京	東京都	日本	
3	講演会・セミナー	JICA2017年度課題別研修「防災主流化の促進」	招待講演	20170825	20170825	「島嶼国総合防災行政」コースの講義 開発途上国の防災担当行政官を招き各種災害についての防災対策について講義	なし	JICA	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	
4	講演会・セミナー	仙台商工会議所勉強会	招待講演	20171027	20171027	防災と世界防災フォーラムについての講演	企業	仙台商工会議所	仙台商工会議所	仙台市	日本	
5	講演会・セミナー	JICA2017年度課題別研修「防災主流化の促進」	招待講演	20171109	20171109	防災行政に携わる各国からの研修員を対象とした災害統計に関する講義	なし	JICA	エムワイ貸会議室"Room C"	東京都	日本	
6	講演会・セミナー	仙台観光国際協会シンポジウム	招待講演	20171111	20171111	世界防災フォーラムと仙台	企業	仙台観光国際協会	TKPガーデンシティ仙台勾当台	仙台市	日本	
7	講演会・セミナー	震災復興支援・災害科学 研究推進室第6回シンポジウム	招待講演	20171201	20171201	世界防災フォーラムの取り組みについて	なし	神戸大学	神戸大学	神戸市	日本	
8	講演会・セミナー	モンゴル国別研修	招待講演	20171214	20171214	「防災計画策定に係る能力向上」	なし	JICA	JICA東京国際センター	東京都	日本	
9	講演会・セミナー	JICA2017年度課題別研修「防災主流化の促進」	招待講演	20180214	20180214	防災行政に携わる各国からの研修員を対象とした災害統計に関する講義	なし	JICA	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	NPO法人陸前高田市支援連絡協議会 AidTAKATA		理事	20160401
2 国・政府	内閣府	ジェンダーと防災に関する有識者懇談会	委員	20171019

自治体・研究機関との協定締結実績 (正・副担当の場合のみ)

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20170311	ハワイ大学マノア校	国外	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING ON STUDENT EXCHANGE	研究機関	ハワイ大学マノア校	20120311	5
2	20170804	国連開発計画 東京事務所 東京都	国外	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING BETWEEN THE UNITED NATIONS DEVELOPMENT PROGRAMME AND THE INTERNATKONAL RESEARCH INSTITUTE OF DISASTER SCIENCE	その他	UNDP	20150804	2
3	20151004	GLOBAL RISK FORUM GRF DAVOS	国外	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING BETWEEN THE INTERNATKONAL RESEARCH INSTITUTE OF DISASTER SCIENCE AND GLOBAL RISK FORUM GRF DAVOS	その他	GLOBAL RISK FORUM	20151004	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	風工学研究センター 国土技術政策総合研究所	松井 正宏 奥田 泰雄	20180203	共同研究	東京工芸大学 風工学研究拠点	東京	企画	30

# 佐々木 大輔 助教

Daisuke SASAKI

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	東京大学	理学部	2004	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2015	9	博士(国際協力学)	2015	9

### 職歴

1	開始年	期間		勤務先	職名	
		月	月			
1	2008	2	2014	3	株式会社浜銀総合研究所	研究員
2	2014	4	2017	8	横浜市政府	事務職員
3	2016	2	2017	8	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻	客員連携研究員

### 学会活動

#### 所属学会

学会名	1	2	3
水文・水資源学会		公益事業学会	土木学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
国際関係論	地域研究	環境政策・環境社会システム

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

2017年度は、計4篇の査読付き論文(英文誌)を公刊した。そのうち、1篇は国家間(沿岸諸国)の電力貿易を、1篇は東電福島原発事故に係るメディア報道を、2篇はダム建設に伴う住民移転をそれぞれ研究テーマとしている。  
当研究所に設置された災害統計グローバルセンターに所属し(数理統計分野・研究企画編集担当)、主に数理統計学の方法論を用いて、災害統計の整備、及び科学的根拠に基づく防災政策に係る研究に従事している。(2018年度以降も継続)

### 研究課題

1	開始年	期間		研究課題(内容)	所外連携
		月	月		
1	2012	10	現在	国際インフラプロジェクト等におけるリスクマネジメント	
2	2012	10	現在	国家間の電力貿易における経済性評価	
3	2016	2	現在	気候変動が太平洋島嶼国に与える影響評価	
4	2017	9	現在	災害統計の整備、科学的根拠に基づく防災政策に係る研究	

### 論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	The Basic Trend of Media Reports on Residents' Return in Fukushima: In the Realms of Text Mining Analysis	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Asian Development	3	1	65	72	20170000	Daisuke Sasaki	単著	なし
英語	Connecting Jordan to GCC Power Grid: Creation of Geopolitical "Power" Grid	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Asian Development	3	2	10	22	20170000	Mikiyasu Nakayama, Hiroataka Fujitayashi, Daisuke Sasaki	共著	なし
英語	An Unexpectedly Successful Resettlement: The Atatürk Dam Resettlers to Western Turkey	学術雑誌	有	いいえ	Asian Journal of Environment and Disaster Management	9	1	39	48	20170000	Erhan Akca, Daisuke Sasaki, Ryo Fujikura	共著	なし
英語	New Paradigms in the World Commission on Dams' Recommendations: Lack of Provision for Resettlers to Change Occupations	学術雑誌	有	いいえ	Asian Journal of Environment and Disaster Management	9	1	103	111	20170000	Daisuke Sasaki	単著	なし

### 学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	ISA International Conference 2017	Marijke Bruening, John Ishiyama	筆頭連名	いいえ	University of Hong Kong	Hong Kong	China	20170616	口頭(一般)	Obstacles to Transboundary and In-Country Electricity Trade in the Pacific Which may Prevent Pacific Countries From Trading of Electricity From Renewable Energy Sources Both Between Countries and Within a Nation: In the Realms of Environment and Politics	<u>Daisuke Sasaki</u> , Mikiyasu Nakayama	なし	不明

### 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち主催)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国際	World Bosai Forum Committee, Tohoku University, City of Sendai, Global Risk Forum GRF Davos, Japan Science and Technology Agency (JST)	The World Bosai Forum / International Disaster and Risk Conference 2017, Sendai	20171125	20171128	Sendai International Center and Kawachi Hagi Hall, Tohoku University	Sendai	Japan	Operations Assistant	947	IRIDeS主催・共同主催	City of Sendai, Global Risk Forum GRF Davos, Japan Science and Technology Agency (JST)	両方	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

2017年9月に着任したため、2017年度の教育活動には従事していない。  
 なお、2018年度以降は、複数の講義を担当する予定である。

D. 社会活動

社会活動の概要

2017年度は、引き続き、他大学(東京大学・法政大学・桜美林大学)の研究者との共同研究等を積極的に推進した。  
 次年度以降も、当該共同研究等については、継続的に実施する予定である。

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	中山幹康(東京大学)、山敷庸亮(京都大学)、坂本麻衣子(東京大学)、長曾我部まどか(鳥取大学)、Dr. Salewicz	20180112	会議	国際文化会館(東京都港区)	東京	講演・発表	6

# 山下 啓 助教

## Kei YAMASHITA

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	工学部	2009	3	鹿児島大学大学院	理工学研究科	2014	3	博士(工学)	2014	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所 災害リスク研究部門	産学官連携研究員
2	2015	10	2018	1	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助教
3	2018	2	現在		ハワイ大学 Department of Ocean & Resources Engineering	客員研究員

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3
土木学会	自然災害学会	AGU

##### 学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会海洋工学委員会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	委員	20160304

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
海岸工学	津波工学	自然災害科学	非線形波動	数値シミュレーション

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) 津波統合モデル解析の高度化の研究では、2次元版津波統合モデルを用いて、土砂移動による建物被害への影響を定量化したとともに、強い非定常流れにも適用できるように飽和浮遊砂濃度の評価手法を提案した(2) また、市街地における局所性の強い津波挙動を高精度・高効率に解析するために、Porous body modelに基づく津波氾濫解析モデルの高度化に取り組んだ。(3) 更に、自然力(仙台平野における海岸林)を活用した津波減災手法の評価解析や、沿岸生態系(万石浦における藻場・養殖施設)の津波被害と津波外力との関係性を定量化した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		非線形波動モデルの孤立波解に関する研究	国内
2	2014	4	現在		津波による土砂移動に関する研究	国内
3	2015	4	現在		津波氾濫—漂流物移動—土砂移動に関する津波統合モデルの開発・高度化	国内
4	2015	4	現在		自然力(海岸林)を活用した津波減災に関する研究	国内
5	2015	4	現在		非線形分散波理論に基づく津波数値解析モデル(JAGURS)の高度化	国内
6	2015	8	現在		沿岸生態系(藻場・養殖施設)の津波リスク評価手法の構築	国内
7	2015	10	現在		Porous body modelによる市街地を対象とした津波氾濫解析モデルの高度化	なし

#### 論文

単著	0	筆頭共著	4	その他の共著	4	合計	8	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原題)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	Green-Naghdi 方程式に基づく津波伝播計算モデルと種々の理論モデルの比較(第2報)	学術雑誌	無	いいえ	津波工学研究報告		34	25	31	20170700	山下 啓・柿沼太郎・今村文彦	共著	国外
日本語	土砂移動が及ぼす津波ハザード及び建物被害への影響—東日本大震災の宮城県気仙沼市における津波氾濫—土砂移動・船舶漂流の統合計算—	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B3(海岸工学)	73	2	1_355	1_360	20171000	山下 啓・嶋原良典・菅原大助・有川太郎・高橋智幸・今村文彦	筆頭共著	国内
日本語	引き波増大に及ぼす津波土砂移動及び沖合津波波形的影響評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B3(海岸工学)	73	2	1_361	1_366	20171000	山下 啓・今村文彦・岩間俊二・菅原大助・高橋智幸	筆頭共著	国内
日本語	海岸林の空間的設計手法の提案—宮城県岩沼市を対象として—	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B3(海岸工学)	73	2	1_397	1_402	20171000	大平浩之・山下 啓・林 晃大・今村文彦	共著	なし
日本語	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B3(海岸工学)	73	2	1_1597	1_1602	20171000	Anawat SUPPASRI・山下 啓・Panon LATCHAROTE・Volker ROEBER・林 晃大・大平浩之・福井謙太郎・久松明史・今村文彦	共著	なし
英語	Developing Fragility Functions Based on Aquaculture Raft and Eelgrass due to Tsunami Damage: A Case Study of Mangokuura Lake	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B3(海岸工学)	73	2	1_409	1_414	20171000	Anawat SUPPASRI・Kentaro FUKUI・Kei YAMASHITA・Hiroyuki OHIRA・Natt LEELAWAT・Fumihiko IMAMURA	共著	国外
英語	Development of a Tsunami Inundation Analysis Model for Urban Areas Using a Porous Body Model	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	8	1		No.12 (23 pages)	2018/01/04	Kei Yamashita, Anawat Suppassri, Yusuke Oishi, and Fumihiko Imamura	筆頭共著	国内
英語	Developing fragility functions for aquaculture rafts and eelgrass in the case of the 2011 Great East Japan tsunami	学術雑誌	有	いいえ	Nat. Hazards Earth Syst. Sci.	18		145	155	2018/01/10	Anawat Suppassri, Kentaro Fukui, Kei Yamashita, Natt Leelawat, Hiroyuki Ohira, and Fumihiko Imamura	共著	国外



著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	0	筆頭 共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 英語	The Role of Tsunami Engineering in Building Resilient Communities and Issues to Be Improved After the GEJE	編集本 (Editor)	20170713	Fumihiko Imamura, Anawat Sappasari, Shosuke Sato, Kei Yamashita	共著	In: Santiago-Fandiño V., Sato S., Maki N., Iuchi K. (eds) The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration. Advances in Natural and Technological Hazards Research, vol 47. Springer, Cham	なし	

学会発表

単名	0	筆頭 連名	4	その他の 連名	9	合計	13
----	---	----------	---	------------	---	----	----

国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	第3回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ		筆頭連名	いいえ	災害研	仙台	日本	20170703	ポスター(一般)	薬場の津波リスク評価研究	山下 啓・サツパシー アナワット・今村文彦・菅原大助・高橋智幸	国内	100
2	IAG-IASPEI 2017		その他の 連名	いいえ	The KOBE Chamber of Commerce and Industry	神戸	日本	20170803	ポスター(一般)	Decay Properties of Bay Oscillations Induced by the Tsunami of Nankai-Trough Earthquake	Yusuke Oishi, Takashi Furumura, Fumihiko Imamura, Kei Yamashita, Daisuke Sugawara	国内	
3	Committee of the 27th International Tsunami Symposium		その他の 連名	いいえ		Bali	Indonesia	20170823	口頭(一般)	Research on the effects of the damage categories of the buildings by the coastal forest based on surveyed data of building damage by the Great East Japan Earthquake Tsunami in Sendai plain	Akihiro Hayashi, Kei Yamashita and Fumihiko Imamura	なし	200
4	Committee of the 27th International Tsunami Symposium		筆頭連名	いいえ		Bali	Indonesia	20170823	口頭(一般)	Numerical simulation of composite tsunami hazards using integrated tsunami model - Tsunami inundation, sediment transport and drifting ships in Kesemnuma City, Miyagi Prefecture during the Great East Japan Earthquake -	Kei Yamashita, Yoshinori Shighihara, Daisuke Sugawara, Taro Arikawa, Tomoyuki Takahashi and Fumihiko Imamura	国内	200
5	第36回日本自然災害学会学術講演会		その他の 連名	いいえ	アオーレ長岡	新潟	日本	20170927	口頭(一般)	家屋被害実績に基づく海岸線の津波リスク減災効果に関する検討	林 晃大, 山下 啓, 今村 文彦	国内	100
6	土木学会第64回海岸工学講演会		筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	土砂移動が及ぼす津波ハザード及び建物被害への影響 - 東日本大震災の宮城県気仙沼市における津波氾濫・土砂移動・船舶漂流の統合計算 -	山下 啓・嶋原良典・菅原大助・有川太郎・高橋智幸・今村文彦	国内	300
7	土木学会第64回海岸工学講演会		筆頭連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	引き波増大に及ぼす津波土砂移動及び沖合津波波形の影響評価	山下 啓・今村文彦・岩間俊二・菅原大助・高橋智幸	国内	300
8	土木学会第64回海岸工学講演会		その他の 連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	海岸線の空間的設計手法の提案 - 宮城県岩沼市を対象として -	大平浩之・山下 啓・林 晃大・今村文彦	なし	300
9	土木学会第64回海岸工学講演会		その他の 連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	Anawat SUPPASRI・山下 啓・Panon LATCHAROTE・Volker ROEBER・林 晃大・大平浩之・福井謙太郎・久松明史・今村文彦	国外	300
10	土木学会第64回海岸工学講演会		その他の 連名	いいえ	TKP札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171025	口頭(一般)	Developing Fragility Functions Based on Aquaculture Raft and Eelgrass due to Tsunami Damage: A Case Study of Mangokuura Lake	Anawat SUPPASRI・Kentaro FUKUI・Kei YAMASHITA・Hiroyuki OHIRA・Natt LEELAWAT・Fumihiko IMAMURA	国外	300
11	第7回巨大大津波災害に関する合同研究集会		その他の 連名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所多目的ホール	仙台	日本	20171208	口頭(一般)	家屋被害実績に基づく海岸線の津波減災効果に関する定量的検討	林 晃大, 山下 啓, 今村 文彦	国内	100
12	第7回巨大大津波災害に関する合同研究集会		その他の 連名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所多目的ホール	仙台	日本	20171208	口頭(一般)	3次元津波漂砂シミュレータによる直立堤背後の洗掘深計算の妥当性について	鈴木 滉平・有川 太郎・山下 啓・菅原 大助・嶋原 良典・高橋 智幸・今村 文彦	国内	100
13	平成29年度東北地域災害科学研究集会		その他の 連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム はっち	八戸	日本	20180106	口頭(一般)	海岸線による家屋に関する津波被害軽減への定量的評価の試み	林 晃大, 山下 啓, 今村 文彦	国内	100

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (6名未満)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
			開始年月	終了年月									
1 国内	東北大学災害科学国際研究所	第7回巨大大津波災害に関する合同研究集会	20171208	20171209	東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール	仙台	日本	実行委員長:今村文彦, 実行副委員長:越村俊一, 実行委員: サツパシーアナワット, マスエリック, 佐藤翔輔, 林晃大, 山下啓(事務局兼)	80	IRIDeS主催・共同主催		国外	研究会・ワークショップ

C. 教育活動

教育活動の概要

沿岸生態系(藻場や養殖施設)の津波リスク評価に関する卒業研究の研究指導を行なった。津波シミュレーションと土砂移動シミュレーションの技術と活用方法、並びに、データ解析や可視化方法について指導した。や数値シミュレーションの活用方法や技術について教育した。得られた成果は、査読付論文に投稿中である。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	水環境フロンティア講座	東北大学	工学部		2	3セメ	1
2	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	1
3	流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	工学研究科			後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

世界防災フォーラムでは、当研究部門共催のフォーラムを運営し、産官学連携の科学と保険の力による災害リスクマネジメントシステムが提案された。同フォーラムと第二回防災推進国民大会の当研究部門のブース展示に400名を超える方々が訪れ、多くの反響を頂戴した。また、『自然・地域インフラ』の活用に関するシンポジウムで、津波シミュレーション技術の現状と課題を発信し、今後の津波防災のあり方について会場の方々とも議論した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学	東北大学オープンキャンパス	20170725	20170726	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	説明員	200	IRIDeS主催・共同主催	その他	
2	国際	東京海上グループ・東北大学	世界防災フォーラム: 東京海上グループ・東北大学産学連携フォーラム「アジア太平洋地域における災害に負けない社会づくり～科学と保険の力」	20171225	20171228	仙台国際センター	仙台	日本	運営	100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
3	国際	東北マリンサイエンス拠点形成事業	世界防災フォーラム: Marine Ecosystems Disturbances by Earthquake and Tsunamis: toward better restoration of coastal lives and fisheries through continuous marine ecosystem monitoring	20171225	20171228	仙台国際センター	仙台	日本	世話人	60	なし	シンポジウム	
4	国際	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	世界防災フォーラム: Integrated researches and activities on tsunami disaster risk reduction: Industry-academic collaboration under Earthquake Induced Tsunami Risk Evaluation (Tokyo Marine) research field at IRIDeS, Tohoku University	20171225	20171228	仙台国際センター	仙台	日本	展示担当	1000	IRIDeS主催・共同主催	その他	
5	国際	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	第2回防災推進国民大会: 東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門、地震津波リスク評価および総合的な防災・減災に向けて ―産学の連携を通じて―	20171125	20171127	仙台国際センター	仙台	日本	展示担当	400	IRIDeS主催・共同主催	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	津波防災への『自然・地域インフラ』の活用に関するシンポジウム	招待講演	20170907	20170907	津波被害の予測・評価における土砂移動現象の重要性	行政	国土交通省 国土技術政策総合研究所	日本消防会館(ニッショーホール)	東京	日本	100

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 9 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	東北大学マリンサイエンス復興支援室	金子健二准教授	20170511	学術交流協定(研究目的)	東北大学農学部附属複合生態フィールド教育センター(女川町)	女川	その他	10
2	関西大学・中央大学・徳島大学・防衛大学校・ふじのくに地球環境史ミュージアム・気象庁気象研究所・富士通研究所	高橋智幸教授ら	20170526	共同研究	関西大学東京センター	東京	その他	10
3	電力中央研究所	松山昌史ら	20170614	会議	電力中央研究所	東京	その他	20
4	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20170526	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10
5	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20170630	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10
6	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20170719	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10
7	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20171010	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10
8	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20171112	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10
9	徳島大学・海洋研究開発機構	馬場敏孝教授ら	20170110	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	10

# 安倍 祥 助手

Yoshi ABE

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	2003	3	東北大学大学院	工学研究科	2005	3	修士(工学)	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	10	2008	9	株式会社社会安全研究所	研究員
2	2008	10	2011	7	株式会社社会安全研究所 災害情報研究部	研究員
3	2011	8	2012	3	株式会社社会安全研究所 災害復興研究部	研究員
4	2012	4	2018	3	東北大学 災害科学国際研究所	助手

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	土木学会	日本建築学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本災害情報学会	日本地震工学会	日本災害復興学会	地区防災計画学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	委員	20150701

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	津波工学	防災・危機管理	避難行動

## B. 研究活動

研究活動の概要

地域における津波避難対策の具体化のために、地域の津波避難計画を検討する手法や津波避難訓練の実施手法について研究し、地域への適用や実践を進めている。平成28年11月22日福島県沖の地震にともなう津波警報の事例では、津波避難計画の実効性や、避難行動における自動車の利用が改めて課題となり、市町村や社会福祉施設等の津波避難計画の実態調査や、自動車避難も含む津波避難計画および避難訓練のあり方について研究してきた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	2018	3	津波避難対策、避難計画、避難訓練に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	多数シナリオ津波避難シミュレーションによる確率論的避難安全性の評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	73	2	1_1543	1_1548	20171017	牧野嶋文泰, 全村文彦, 安倍祥	共著	国内
2	英語	Possible Factors Promoting Car Evacuation in the 2011 Tohoku Tsunami Revealed by Analysing a Large-Scale Questionnaire Survey in Kesenuma City	学術雑誌	有	いいえ	Geosciences	7	4		112	20171106	Fumiyasu Makinoshima, Yoshi Abe, Fumihiko Imamura, Gaku Machida, Yukimi Takeshita	共著	国内
3	英語	Enhancing a Tsunami Evacuation Simulation for a Multi-scenario Analysis using Parallel Computing	学術雑誌	有	いいえ	Simulation Modelling Practice and Theory	83				20171200	Fumiyasu Makinoshima, Fumihiko Imamura, Yoshi Abe	共著	国内
4	日本語	2016年福島県沖地震津波を契機としたいわき市における津波災害時自動車避難の方策研究	学術雑誌	無	いいえ	東北地域災害科学研究	54				20180000	安倍祥, 杉安和也	筆頭共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	2	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国際	16th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON NEW TECHNOLOGIES FOR URBAN SAFETY OF MEGA CITIES IN ASIA(USMCA 2017)		その他の連名	いいえ	東北大学	仙台	日本	20171126	口頭(一般)	CASE STUDY OF TSUNAMI EVACUATING ACTION AND FUTURE PLANNING AFTER THE 2011 GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE IN IWAKI CITY, FUKUSHIMA JAPAN	<u>K.SUGIYASU</u> , Y.ABE and M.MATSUMOTO	国内	
2	国内	防災推進国民大会2017		その他の連名	いいえ	仙台国際センター	仙台	日本	20171126	ポスター(一般)	2016年福島県沖地震津波を契機としたいわき市における津波災害時自動車避難の方策研究	松本行真, 杉安和也, 安倍祥	国内	
3	国内	東北地域災害科学研究集会		筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	八戸	日本	20180107	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波を契機としたいわき市における津波災害時自動車避難の方策研究	安倍祥, 杉安和也	国内	

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

工学研究科の大学院生とともに歩車混在の津波避難シミュレーションの開発・適用に取り組み、モデルの改良と多シナリオの検討手法の開発に取り組んだ。学部1年生対象の基礎ゼミ「津波災害と減災・防災を考える」を分担担当し、津波避難行動の実態と人的被害最小化のための避難対策の方法論を解説した。東北大学MOOC「東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ-災害科学の役割」でも津波避難の講義を担当した。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ 津波災害と減災・防災を考える	東北大学	全学		1	1セメ	1
2	東北大学サイエンスシリーズ 「東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ-災害科学の役割」	gacco	東北大学 MOOC				

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

地方公共団体における災害対応能力向上のため、災害图上訓練や津波観測情報の活用に関する講習会等の講師を務めた。福島県いわき市の津波災害時自動車避難検討部会に参加し、避難時の自動車利用の方策検討に同市と連携した。災害科学国際研究所が主催する防災文化講演会を気仙沼市において開催し災害科学情報の発信に取り組んだ。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	気仙沼市自主防災組織連絡協議会、気仙沼市	平成29年度気仙沼市自主防災組織連絡協議会「防災研修会」・第19回防災文化講演会	20170809	20170809	気仙沼市役所 ワン・テン庁舎	気仙沼市	日本	講師	25	IRIDeS共催	講演会・セミナー	
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	第21回防災文化講演会	20171118	20171118	気仙沼市魚市場	気仙沼市	日本	運営担当	62	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 16 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	平成29年度「6.12気仙沼市総合防災訓練」災害対策本部図上訓練	評価員	20170608	20170608		行政	気仙沼市	気仙沼市役所	気仙沼市	日本	
2	その他	第3回津波災害時における自動車避難検討部会	話題提供	20170529	20170529	1)車を使った津波避難訓練の事例 2)歩行者・自動車混在の津波避難シミュレーション研究事例	行政	いわき市	いわき市役所	いわき市	日本	
3	その他	平成29年度いわき市総合防災訓練	講話	20170924	20170924	1)本日の避難訓練ふり取り 2)車を使った津波避難訓練の事例	行政	いわき市	いわき市立藤間中学校	いわき市	日本	
4	講演会・セミナー	防災士研修	講義	20171019	20171019	津波のしくみと被害, 地域防災	企業	防災士研修センター	六ヶ所村文化交流プラザ・スタジオ	六ヶ所村	日本	
5	講演会・セミナー	防災士研修	講義	20171103	20171103	津波のしくみと被害, 地域防災	企業	防災士研修センター	ショーケー本館ビル	仙台市	日本	
6	講演会・セミナー	防災士研修	講義	20171105	20171105	津波のしくみと被害, 地域防災	企業	防災士研修センター	岩手県自治会館	盛岡市	日本	
7	その他	第5回津波災害時における自動車避難検討部会	話題提供	20171128	20171128	いわき市総合防災訓練(2017/9/24)津波避難訓練のふり取り	行政	いわき市	いわき市文化センター	いわき市	日本	
8	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171130	20171130	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	東北地方整備局	仙台市	日本	
9	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171201	20171201	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	ユートリー八戸地域場産業振興センター	八戸市	日本	
10	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171207	20171207	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	いわき産業創造館	いわき市	日本	
11	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171208	20171208	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	相馬市総合福祉センター	相馬市	日本	
12	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171214	20171214	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	由利本荘市文化交流館カダレ	由利本荘市	日本	
13	講演会・セミナー	平成29年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講習	20171215	20171215	津波防災支援システムの活用方法の紹介・解説	企業	一般財団法人沿岸技術研究センター	能代市文化会館	能代市	日本	
14	講演会・セミナー	唐桑地域自治会「防災講座」	講演	20171225	20171225	活気ある自主防災組織の在り方	行政	気仙沼市	唐桑保健福祉センター・燦さん館	気仙沼市	日本	
15	講演会・セミナー	市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び～	演習講師	20180124	20180124	災害対策本部設置演習	行政	災害科学国際研究所・国土交通省東北地方整備局	災害科学国際研究所	仙台市	日本	
16	講演会・セミナー	地域防災講演会・宮城県防災指導員等意見交換会	講演・意見交換会	20180319	20180319	最近の災害から考える、地域防災・自主防災活動	行政	宮城県・山元町	山下地域交流センター	山元町	日本	

# 林 晃大 助手

## Akihiro HAYASHI

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	東北大学	工学部	2012	3	東北大学大学院	工学研究科	2014	3	修士(工学)	2014	3

### 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2017	6	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	リスクアナリスト
2	2015	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助手
3	2017	7	現在		東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	シニアリスクアナリスト

### 学会活動

#### 所属学会

学会名	1	2	3
土木学会		日本自然災害学会	日本地球惑星科学連合

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
津波	海岸林	減災効果

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

多重防衛手段やEco-DRRの観点から期待されている海岸林の津波減災効果について、沿岸部での海岸林の分布、地形諸条件、水理諸元を考慮した、個々の建物の建物被災状況を定量的に評価する手法を提案した。本手法により、沿岸平野部にて、対象とする建物構造や、海岸林の林帯幅、標高、沿岸部・内陸部における津波水理諸元を求めることにより、一様な直線海岸・傾斜を有する他地域でも、個々の建物被災程度を定量的に推定することが可能となった。

#### 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
	2015	4	現在		海岸林の津波減災効果に関する研究	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	海岸林の空間的設計手法の提案—宮城県岩沼市を対象として—	学術雑誌	有	いいえ	海岸工学論文集第64巻(土木学会論文集B2(海岸工学))	73	2	1_397	1_402	20171027	大平 浩之、山下 啓、林 晃大、今村 文彦	共著	なし
日本語	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	学術雑誌	有	いいえ	海岸工学論文集第64巻(土木学会論文集B2(海岸工学))	73	2	1_1597	1_1602	20171027	Anawat SUPPASRI 山下 啓、Panon LATCHAROTE, Volker ROEBER、林 晃大、大平 浩之、福井 謙太郎、久松 明史、今村 文彦	共著	両方

#### 学会発表

単名	0	筆頭連名	4	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国際	The 27th International Tsunami Symposium	Subandono Diposaptono	筆頭連名	いいえ	Sheraton Bali Kuta Resort	Kuta, Bali	インドネシア	20170822	口頭(一般)	Research on the effects of the damage categories of the buildings by the coastal forest based on surveyed data of building damage by the great east japan earthquake tsunami in Sendai plain	Akihiro Hayashi, Kei Yamashita and Fumihiko Imamura	なし	120
国内	第36回日本自然災害学会学術講演会		筆頭連名	いいえ	アオーレ長岡	長岡	日本	20170927	口頭(一般)	家屋被害実績に基づく海岸林の津波リスク減災効果に関する検討	林 晃大、山下 啓、今村 文彦	なし	150
国内	第64回海岸工学講演会		その他の連名	いいえ	TKP 札幌駅カンファレンスセンター	札幌	日本	20171026	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査	Anawat SUPPASRI 山下 啓、Panon LATCHAROTE, Volker ROEBER、林 晃大、大平 浩之、福井 謙太郎、久松 明史、今村 文彦	両方	738
国内	巨大津波災害に関する合同研究会	今村 文彦	筆頭連名	いいえ	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20171209	口頭(一般)	家屋被害実績に基づく海岸林の津波減災効果に関する定量的検討	林 晃大、山下 啓、今村 文彦	なし	71
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会		筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	八戸	日本	20180106	口頭(一般)	海岸林による家屋に関する津波被害軽減への定量的評価の試み	林 晃大、山下 啓、今村 文彦	なし	80

#### 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国際	東京海上日動火災保 険株式会社、東北大 学災害科学国際研究 所、アジア太平洋金 融フォーラム、東京海 上日動リスクコンサル ティング株式会社	WORLD BOSAI FORUM 東京海上グループ・東北大学産学連 携フォーラム 「アジア太平洋地域における災害に負 けない社会づくり～科学と保険の力」	20171127	20171127	仙台国際センター	仙台	日本	運営担当	70	IRIDeS共催	アジア太平洋金 融フォーラム	両方	シンポジウ ム
2	国際	世界防災フォーラム 実行委員会	WORLD BOSAI FORUM ポスター発表	20171125	20171128	仙台国際センター	仙台	日本	ポスター展示	11200	IRIDeS主催・共 同主催	東北大学、仙台 市、Global Risk Forum GRF Davos、科学技 術振興機構 (JST)	両方	シンポジウ ム
3	国内	防災推進国民大会 2017実行委員会	第2回防災推進国民大会 ブース展示	20171126	20171127	仙台国際センター	仙台	日本	ブース展示	11200	IRIDeS協力		国内	シンポジウ ム

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育の基礎ゼミ「東日本大震災を科学する一津波災害と減災・防災を考える」では、沿岸地域における津波リスクや東日本大震災における被害、さらに保険業界における動きや実績について紹介した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ「東日本大震災を科学する一津波災害と減災・防災 を考える」	東北大学	全学		1	1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台国際空港株式会社の津波避難訓練・図上訓練において、訓練補助として参加し、訓練の円滑な進行、避難時の参加者の行動把握に寄与した。第41回全国総合高等学校文化祭での巡検研修の中で、女川町まちなか交流館における講師を担当し、東日本大震災の被害の概要や特徴について講演した。エフエム仙台的SUNDAY MORNING WAVEに出演して、海岸線の津波減災効果に関する研究の成果や今後の展望について説明した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	仙台国際空港	仙台国際空港 津波避難訓練・図上訓練	20180313	20180314	仙台国際空港	名取市	日本	訓練補助	107	IRIDeS協力	研究会・ワークショップ	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	第41回全国高等学校総合 文化祭 みやぎ総文2017 地学フィールドワーク	講演	20170803	20170803	東日本大震災で何が起きたか 現在の災害研究の紹介	小中高	第41回全国高 等学校総合文 化祭 宮城県実行委 員会事務局	女川町まちなか 交流館	女川町	日本	134

## 松本 行真 准教授

## Michimasa MATSUMOTO

リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	中央大学	理工学部	1996	3	東北大学大学院	情報科学研究科	2002	3	博士(情報科学)	2002	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2007	3	株式会社 JMR生活総合研究所	
2	2007	4	2010	3	福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	専任講師
3	2010	4	2013	3	福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	准教授
4	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本都市学会	地域社会学会	東北都市学会	東北社会学会	土木学会	日本都市計画学会	地域安全学会	中小企業学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北都市学会	事務局	監事	20161100

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	社会学	マーケティング	都市計画

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	高度教養教育・学生支援機構	学生ボランティア活動支援委員会	委員	20171000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

昨年度から引き続き、震災前から地域住民組織(町内会など)の実態と課題を見いだす調査研究を行っており、具体的なフィールドは福島県浜通り地方(いわき市、双葉郡楢葉町・富岡町)の被災コミュニティなどである。また、地域活性化の一手段としての直売所のマーケティング戦略と組織形態のあり方に関する調査・研究と提案も行っている。更にインドネシア・バリ島において形成されている日本人社会で展開される現地向けメディア(主にフリーペーパー)の変遷に関する調査を進めている。更に2016年11月22日福島県沖地震における(四倉地区・豊間地区)の地域住民組織の対応状況を調査し、沼ノ内区においては詳細な住民調査を用いた「隣組カルテ・避難マップ」を区会との連携で作成し、今後の防災訓練・避難計画策定に携わっている。また、2017年秋のバリ島アグン山噴火による避難状況を、住民組織やメディアとの関連で調査研究に着手した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1998		現在		「場所」の喪失と創出に関する社会経済学的考察	国内
2	2002		現在		まちづくりへのマーケティング手法適用に関する研究	国内
3	2008		現在		地域住民組織の実態、変容、活性化に関する社会学的研究	国内
4	2008		現在		NPOによる営利活動上の諸問題に関する組織論的考察	国内
5	2009		現在		インドネシア・バリ島におけるメディア環境と日本人社会の変容	国外
6	2011		現在		長期避難者で形成されるコミュニティの実態と変容に関する社会学的研究	国内
7	2014		現在		社会実装における論理と倫理に関する総合的研究	国内
8	2017		現在		インドネシア・バリ島アグン山噴火による避難行動に関する社会学的研究	国外

## 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
0	0	2	2		0	0	2	0

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	住民同士の関係が津波避難に与える影響—いわき市平沼ノ内を事例に—	学術雑誌	有	いいえ	日本都市学会年報	51				20180300	班目佳小里、松本行真、杉山武史	共著	国内
2	日本語	いわき市平沼ノ内における各隣組の特徴	学術雑誌	有	いいえ	東北都市学会年報	17				20180300	班目佳小里、松本行真、杉山武史	共著	国内

## 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
1	0	0	1		0	0	0	1

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	書評 浜口伸明「東日本大震災被災地域製造業企業の復興過程」	大学紀要	無	はい	中小企業季報	4		46	47	20180200	松本行真	単著	国内

## 学会発表

単名	1	筆頭 連名	0	その他の 連名	1	合計	2
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表 年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
1	国内	日本都市学会石巻大会		その他の 連名	いいえ	石巻魚市場	石巻	日本	20171028	口頭(一般)	住民同士の関係が津波避難に与える影響 —いわき市平沼ノ内を事例に—	班日佳小里、松本行真、杉山武史	国内	150
2	国内	科学技術社会論学会		単名	いいえ	九州大学	福岡	日本	20171125	口頭(一般)	福島沖地震での津波警報による住民対応 —四倉地区・沼ノ内区の隣組長調査から—	松本行真	国内	200

## 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2件

	国内 国際	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (うち外国人)	IRIDEsの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
				開始年月	終了年月									
1	国内	「分化・複層化する原発事故避難者ネットワーク/コミュニティの類型と変容に関する研究」研究会	東日本大震災と復興の(い)ま	20170627	20170627	東北大学東京分室	東京	日本	企画運営	30 (0)	なし		国内	研究会・ ワーク ショップ
2	国内	日本都市学会・東北都市学会	日本都市学会石巻大会	20171027	20171029	石巻魚市場	石巻	日本	企画運営	150	なし		国内	シンポジ ウム

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

リーディング大学院において、「防災と復興の社会学」と「実践的防災学Ⅲ」を担当し、主に社会的な視点から防災・減災とコミュニティとのかかわりの実態と課題などについての講義を行った。また福島工業高等学校専攻科学生への研究指導も行っている。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学 期	コマ数 90分1コマ
1	防災と復興の社会学	東北大学	リーディング大学院			後期	8
2	実践的防災学Ⅲ	東北大学	リーディング大学院			後期	4
3	社会の構造「東日本大震災からみた現代日本社会」	東北大学	全学		1	1セメ	1

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

いわき市平薄磯区にある薄磯復興協議委員会に参加。リーディング大学院生、福島高専の学生らとともに今後の復興まちづくりに向けた調査・研究、それらに基づく助言・提案を行っている。また、同市四倉町にあるNPOよつくらぶが運営する道の駅よつくら港の運営・販売に関して、福島高専の学生らとともに調査・提案を進めている。また、帰還が進む双葉郡楡葉町、富岡町の一部で地域活動支援を開始した。



## 久利 美和 講師

Miwa KURI

リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	筑波大学	第一学群	1992	3	筑波大学大学院	地球科学研究科	1997	3	博士(理学)	1997	3

## 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1997	4	1998	12	防災科学技術研究所地球科学技術研究部	臨時雇用職員
2	1997	8	1998	12	筑波大学ベンチャービジネスラボラトリー	非常勤研究員
3	1999	1	2001	12	科学技術振興事業団特別研究員(派遣先:通産省工業技術院地質調査所火山地質部/産業技術総合研究所地質調査総合センター火山活動研究グループ)	科学技術特別研究員
4	2002	1	2002	9	産業技術総合研究所地質調査総合センター(旧:通産省工業技術院地質調査所)火山活動研究グループ	テクニカルスタッフ
5	2002	10	2007	1	東北大学大学院理学研究科地球惑星物質科学科(文部科学省科学研究費特定領域「火山爆発のダイナミクス」A02班)	研究支援員
6	2007	2	2008	9	東北大学特定領域研究推進支援センター(女性研究者育成支援推進室「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」)	助手
7	2008	10	2009	3	東北大学大学院理学研究科(女性研究者育成支援推進室「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」)	助手
8	2009	4	2013	3	東北大学大学院理学研究科教育研究支援部	助教
9	2013	4	現在		東北大学災害科学国際研究所講師(リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」)	講師

## 学会活動

## 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6
日本地球惑星科学連合学会		日本火山学会	日本地震学会	科学技術社会論学会	日本災害情報学会	日本地学教育学会

## 学会・委員会等での役割

1	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本地球惑星科学連合学会	広報普及委員会	委員	20080500
2	日本火山学会	学校教育委員会	委員	20140800
3	日本地震学会	ジオパークWG	委員	20141100
4	日本火山学会	火山防災委員会	委員	20160600

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
地球惑星科学	災害情報	火山防災	科学技術社会論	地学教育

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

1	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	科学者の卵養成講座実行委員会	運営委員	20090401
2	全学	サイエンスカフェWG	委員	20090401
3	リーディング大学院	広報委員会	委員	20140401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

住民のみならず訪問者を対象とした火山災害情報・防災教育について口永良部島での継続調査を行うとともに、インドネシアアグン火山においても避難行動とその支援に着目して新規調査を行った。火山災害時の無人機の活用に関する研究を継続中で(NEDO)、最終年度に当たり、機材開発にとどまらず、噴火シナリオに応じた運用検討も行った。リーディング大学院の大学院生との地域向け防災教育活動についても、留学生を対象とした減災アクションカードゲームや、新たに液状化現象に着目した防災教育についても、教育効果調査を行い、学会等で成果報告を行った。これまで社会貢献活動として行ってきた飛翔型科学者の卵養成講座について、最終年度に当たり、その教育効果に関する研究に携わるとともに、学会にて成果報告を行った。

## 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2018	3	土石流予測を目的とした火山災害地域のリアルタイムデータベースを実現するセンシング技術の開発と実用化(NEDO)	国内
2	2017	4	2018	3	火山災害情報およびその伝達方法のあり方(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画:名古屋大学)	国内

## 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

1	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Background of Rapid Evacuation of the 2015 Eruption and Education for Disaster Prevention by Residents on Kuchinoerabujima volcano	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Natural Disaster Science	38	1	49	64	20170700	Miwa Kuri, Mayumi Sakamoto, Norio Maki	筆頭共著	国内
2	日本語	アンケート調査による小・中学生対象の防災教育教材「減災アクションカードゲーム」の効果測定	学術雑誌	有	いいえ	災害情報	15	2	207	220	20170900	富田史章・大柳良介・久松明史・山田修司・石橋信治・渡邊俊介・金子亮介・安西隆・久利美和	共著	なし
3	英語	Design and Development of a Tethered Mobile Robot to Traverse on Steep Slope based on an Analysis of its Slippage and Turnover	国際会議 Proceedings	無	いいえ	2017 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems			2637	2642	20170924	Keiji Nagatani, So Tatano, Keisuke Ikeda, Atsushi Watanabe, Miwa Kuri	共著	国内
4	英語	The complex consequences of volcanic warnings: trust, risk perception and experiences of businesses near Mount Zao following the 2015 unrest period	学術雑誌	有	いいえ	International Journal of Disaster Risk Reduction	27	-	57	67	20180300	Amy Donovan, Anawat Suppasri, Miwa Kuri, Tetsuya Torayashiki	共著	国外
5	日本語	UAV搭載型火山砕屑物採取装置の採取性能評価	学術雑誌	有	いいえ	火山	63	1	1	11	20180300	谷島諒丞・久利美和・永谷圭司	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	2017年インドネシアアグン火山警報での住民避難行動:予察	学術雑誌	有	いいえ	東北地域災害科学研究	54			20180331	久利美和, Ni Nengah Suartini, I Made Budiana, 杉安和也, 松本行真	筆頭共著	国外
日本語	災害時に利用可能な通信技術を用いた防災教育に関する一考察	その他	有	いいえ	東北地域災害科学研究	54			20180331	宮崎慶介, 熊谷裕太, 新谷直己, 佐々木卓相, 長谷川翔, 久利美和	共著	国内
英語	Evaluation of the Disaster Mitigation Action Card Game for International Students in Japan	その他	有	いいえ	東北地域災害科学研究	54			20180331	Ryosuke Kaneko, Muhammad Salman Al Farisi, Shuji Yamada, Miwa Kuri	共著	国内
日本語	防災教育と社会実装—福島県いわき市沿岸部を事例として	その他	有	いいえ	東北地域災害科学研究	54			20180331	佐々木卓相, 山田修司, 綿引周, 久利美和	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	9	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
国内	地球惑星科学連合大会2017	久利美和, 熊谷一郎	単名	いいえ	幕張メッセ	千葉	日本	20170520	口頭(一般)	科学教育と防災教育と論理的思考教育の融合の試みの中での簡易模擬実験	久利美和	なし	7240
国際	The 2017 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2017)	Nagatani, Keiji	その他の連名	いいえ	Vancouver Convention Centre	Vancouver	Canada	20170928	口頭(一般)	Design and Development of a Tethered Mobile Robot to Traverse on Steep Slope based on an Analysis of its Slippage and Turnover	Keiji Nagatani, Soh Tatano, Ketsuke Ikeda, Atsushi Watanabe, and Miwa Kuri	国内	
国内	日本科学教育学会第41回年会	吉田実久, 大黒孝文	その他の連名	いいえ	サンポート高松	高松	日本	20170830	口頭(一般)	東北大学 飛翔型「科学者の卵養成講座」における卓越した理数人材育成	安藤晃, 伊藤幸博, 久利美和, 中村 肇, 下山せいら	国内	400
国内	日本科学教育学会第41回年会		その他の連名	いいえ	サンポート高松	高松	日本	20170830	その他	東北大学 飛翔型「科学者の卵養成講座」における受講生の能力伸長	下山せいら, 渡辺正夫, 伊藤幸博, 久利美和, 安藤晃	国内	400
国内	日本科学教育学会 - 2017 第3回研究会(東北支部)	中村好則	その他の連名	いいえ	宮城学院女子大学	仙台	日本	20171202	口頭(一般)	東北大学 飛翔型「科学者の卵養成講座」における受講生のアイスブレイクとなる実技課題の効果	下山せいら, 渡辺正夫, 伊藤幸博, 久利美和, 中村肇, 大竹正明, 安藤晃	国内	
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会	久利美和	筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアムはっち	八戸	日本	20180106	口頭(一般)	2017年インドネシアアグン火山警報での住民避難行動:予察	久利美和, Ni Nengah Suartini, I Made Budiana, 杉安和也, 松本行真	国外	70

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(名)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	日本地球惑星科学連合	高校生ポスター発表	20170520	20170520	幕張メッセ	千葉	日本	共同コンピーナ	300	なし		なし	その他
国内	日本地球惑星科学連合	キッチン地球科学	20170520	20170520	幕張メッセ	千葉	日本	共同コンピーナ	50	なし		なし	その他

C. 教育活動

教育活動の概要

リーディング大学院生10名のメンターを担当するとともに、Cラボ研修(安全工学フロンティア研修)「火山探査用フィールドロボット技術を活用した火山探査ならびに火山防災」を担当し、理工系だけでなく、地域の実践者を交えた人文科学的な視点での実習を展開した。自主企画「自助のための基礎作りを目指す防災教育活動」の主アドバイザー1件、「安全・安心の社会的実装に向けた学際的調査と提案—福島県いわき市沿岸部に根付く防災・減災」の1件の副アドバイザーを担当した。また、これらの活動成果について、2017地球惑星科学連合大会および平成29年度東北地域災害科学研究集会にて成果報告を行うに至った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	実践的防災学Ⅰ(理学:地震、火山噴火、気象、宙空災害)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		1セメ	1
2	実践的防災学Ⅷ(分野横断:科学コミュニケーション・教育)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		1セメ	3
3	前期Cラボ研修(安全工学フロンティア研修)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		通年	
4	後期Cラボ研修科目(自主企画研修)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		通年	

D. 社会活動

社会活動の概要

地域や学校教育現場での防災教育や地学教育に関する講演などを行なった。東北大学飛翔型科学者の卵などを通じて、高校での課題研究にかかわる依頼について対応した。また、日本火山学会防災委員会や内閣府との連携の下、火山防災に関する意見交換を行うとともに、一般向けの啓発活動も行った。また、減災アクションカードゲームについては、報道からの問い合わせや、5月11日産経新聞(東北版)、8月24日産経新聞(関西版)、9月1日朝日新聞の掲載と継続しており、また、地域で実施している方が報道に取り上げられるなど、間接的にも貢献している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	5件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	G-Safety	サイエンスデイ2017【G-Safetyの部屋】	20170716	20170716	仙台市・東北大学川内キャンパス	仙台市	日本	企画調整・運営	300	なし	その他	
国内	G-Safety	ぼうさいこくたい(防災推進国民大会):地域の防災・減災を考える学生自主企画の活動報告	20171126	20171127	仙台市国際センター	仙台市	日本	企画調整・運営	200	IRIDeS共催	その他	
国内	日本火山学会防災委員会	ぼうさいこくたい(防災推進国民大会):火山とその災害について学ぼう!	20171126	20171127	仙台市国際センター	仙台市	日本	企画実施	200	なし	その他	

4	国内	日本火山学会防災委員会	ぎゅつとぼうさい博！2018:「火山」とその災害について学ぼう！	20180227	20180227	池袋サンシャインシティ文化会館2階展示ホールD	仙台市	日本	企画実施	300	なし	その他
5	国内	東北大学飛翔型科学者の卵養成講座	平成28年度研究発表会	20180310	20180310	東北大学工学研究科中央棟	仙台市	日本	企画調整・運営	400	なし	研究会・ワークショップ

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 8 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	六ヶ所村商工会地域防災講座	講演	20170620	20170620	観光活動と防災教育の融合	行政	六ヶ所村商工会	ろっかぼっか	六ヶ所村	日本	20
2	講演会・セミナー	みやぎ総合文化祭	発表会	20170802	20170804	自然科学部門(審査員)	小中高	第41回全国高等学校総合文化祭宮城県実行委員会事務局(宮城県教育庁 全国高校総合文化祭推進室内)	石巻専修大学	石巻	日本	200
3	講演会・セミナー	第6回アジア学生交流環境フォーラム	講義	20170805	20170805	減災アクションカードゲーム	企業	イオン環境財団	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	120
4	講演会・セミナー	2017年日本地震学会教員免許更新講習会	研修	20170806	20170806	ID11 東北の地震・津波と防災	小中高	日本地震学会	東北大学リーディング大学院	仙台	日本	5
5	その他	文部科学省全国SSH生徒研究発表会	発表会	20170809	20170810	審査員(地学分野)	小中高	文部科学省	神戸国際会議場	神戸	日本	200
6	講演会・セミナー	震災(Disaster)・復興(Reconstruction)・減災(Reduction)・レジリエンス(Resilience)をテーマとした仙台交流プログラム	研修	20170831	20170831	減災アクションカードゲーム	小中高	神戸大学附属中等教育学校・多賀城高等学校	東北大学リーディング大学院	仙台	日本	6
7	講演会・セミナー	JICA 青年研修 ミャンマー/防災コース研修	講義	20170901	20170901	減災アクションカードゲーム		JAICA	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	15
8	講演会・セミナー	防災学習の日	ワークショップ	20170909	20170909	減災アクションカードゲーム	小中高	将監小学校	将監小学校	仙台	日本	389

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	古川黎明高等学校SSH	運営指導委員会	委員	20120400

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	第8回火山防災勉強会	内閣府火山防災関係者および火山学会火山防災委員	20171002	その他	内閣府中央合同庁舎第8号館4階	東京	その他	20
2	グローバルサイエンスキャンパス事業(GSC)連絡協議会	GSC 採択の17機関代表者	20171115	会議	JST 東京本部別館1階ホール	東京	その他	50
3	火山防災協議会等連絡・連携会議	火山防災エキスパート等	20171116	その他	TOC 五反田メッセ	東京	その他	200
4	火山防災協議会に参画する火山専門家等連携会議	火山防災協議会参画者	20171117	その他	内閣府中央合同庁舎第8号館4階	東京	その他	60

## 杉安 和也 助教

Kazuya SUGIYASU

リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー 育成プログラム

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群(現:理工学群)	2007	4	筑波大学大学院	システム情報工学研究科	2012	11	博士(社会学)	2012	11

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	11	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	非常勤研究員

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	地域安全学会	日本都市計画学会	日本地震工学会	モバイル学会

学会・委員会等での役職 (当該年度継続中のもののみ記入)

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会		20140000
2	地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	20140703

研究分野・キーワード (最大5まで)

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	都市計画	地域防災計画	復興まちづくり	津波避難

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	総合研究棟	安全衛生委員会	委員	20160401

## B. 研究活動

研究活動の概要

津波避難訓練の運営に参画し、実際の避難訓練の中で、車を用いた避難行動、避難場所の最適配置、ドローン等のIoT機器を活用した津波避難の誘導手法の研究を行っている。特に2016年11月福島県沖地震時を踏まえた避難行動について、いわき市と連携した研究を行っている。また屋内避難についても避難誘導サインによる地震・火災時の複合用途施設における避難行動研究に取り組んでいる。また、2017年のインドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究に新たに着手した。これらの知見を実践的防災学の事例として東日本大震災被災地、インド洋津波被災地、南海トラフ津波想定地域等での復興・地域防災への取り組みを収集し、研究・担当講義の場で還元を行っている。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	4	現在		国内外における災害復興過程の比較・可視化に関する研究	その他
2	2012	4	現在		津波避難における津波避難ビルの運用に関する研究	その他
3	2013	4	現在		効果的な津波避難訓練の実施とフィードバック手法に関する研究	国内
4	2016	1	現在		電気自動車(EV)を活用した避難所運営手法の研究	国内
5	2016	6	現在		IoT機器を活用した沿岸部地域向け自律分散型避難行動支援システムに関する共同研究	国内
6	2016	9	2018	3	地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発	国内
7	2017	9	現在		2017年インドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究	国外
8	2017	9	現在		東日本大震災以降の震災経験を踏まえたご当地版避難所運営ゲームの開発	国内
9	2017	4	現在		避難誘導サイン整備による屋内避難行動の研究	なし

## 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	マルチエージェントに基づく沿岸部地域向け避難行動支援システム	学術雑誌	無	いいえ	電子情報通信学会技術研究報告	117	67	35	39	201705029	高橋秀幸, 片山健太, 横田信英, 杉安和也, 木下哲男	共著	国内	
2	日本語	2016年11月福島県沖地震時における福島県いわき市での津波避難行動と以降の取り組み	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集	40		61	64	20170609	杉安和也, 松本行真	筆頭共著	国内	
3	英語	Case Study of Tsunami Evacuating Action and Future planning after the 2011 Great East Japan Earthquake in Iwaki City, Fukushima, Japan	国際会議 Proceedings	有	いいえ	16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in ASIA					SU1-09	20171126	Kazuya SUGIYASU, Y. ABE, and M. MATSUMOTO	筆頭共著	国内
4	英語	Visual Observation Survey to Obtain Building Height Information in the Downtown Area of Yangon	国際会議 Proceedings	有	いいえ	16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in ASIA					SU5-04	20171126	Kotone SHIMIZU, O. MURAO, K. SUGIYASU, and T. TANAKA	共著	両方
5	英語	Comparison of Digital Building Model and Actual Building Height in Yangon	国際会議 Proceedings	有	いいえ	16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in ASIA					SU5-09	20171126	Osamu MURAO, T. USUDA, H. GOKON, K. MEGURO, W. TAKEUCHI, and K. SUGIYASU	共著	両方

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	1	単著	0	筆頭 共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
日本語	文部科学省博士課程教育リーディングプログラム 東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 学生自主企画活動報告書 2018. 3	編集本 (Editor)	20180309	升谷五郎, 海野徳仁, 松本行真, 久利美和, 伊藤周史, 黒田剛史, 松崎瑞美, 小澤信, 杉安和也, 地引泰人(監修)	共編	株式会社 仙台共同印刷	国内	

学会発表

単名	0	筆頭 連名	1	その他の 連名	3	合計	4
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催 都市名	開催 国名	発表年月 日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会	佐藤 健	筆頭連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム はっち	八戸	日本	20180108	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波時における福島県いわき市内沿岸自治会の避難状況とその後の津波避難対策の検討	杉安和也, 班目佳小里, 松本行真	国内	60
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会	佐藤 健	その他の連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム はっち	八戸	日本	20180108	口頭(一般)	2016年福島県沖地震津波を契機としたいわき市における津波災害時自動車避難の方策研究	安倍祥, 杉安和也	国内	60
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会	佐藤 健	その他の連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム はっち	八戸	日本	20180108	口頭(一般)	地震・火災発生を想定した大学における高層複合用途ビルでの避難計画策定の取り組みーサイン計画による安全対策ー	渡邊武, 杉安和也	国内	60
国内	平成29年度東北地域災害科学研究集会	佐藤 健	その他の連名	いいえ	八戸ポータルミュージアム はっち	八戸	日本	20180108	口頭(一般)	2017年インドネシアアグン火山警報での住民避難行動:予察	久利美和, Nengah Suartini, Budi Ana, 杉安和也, 松本行真	国外	60

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4件
----	----

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	担当	参加人数 (%非属人)	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	講演会・ セミナー
			開始年月	終了年月									
国内	一般社団法人地域安全学会	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石	20170805	20170806	釜石情報交流センター	釜石	日本	運営担当	40	IRIDeS共催	釜石市	国内	研究会・ワークショップ
国内	安全安心若手研究会	安全・安心若手研究会 第4回交流会	20170807	20170807	同志社大学東京サテライト	東京	日本	世話人	100	なし		国内	研究会・ワークショップ
国際	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & International Center for Urban Safety Engineering (ICUS), Institute of Industrial Science (IIS), The University of Tokyo (UTokyo), Japan	16th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in ASIA	20171126	20171128	Tohoku University, Sendai International Center	Sendai	Japan	Organizing Committee	200 (100)	IRIDeS主催・共同主催	International Center for Urban Safety Engineering (ICUS), Institute of Industrial Science (IIS), The University of Tokyo (UTokyo), Japan	両方	シンポジウム
国内	グローバル安全学教育研究センター	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム平成29年度シンポジウム	20180223	20180223	東北大学青葉山キャンパス中央棟	仙台	日本	運営担当	100 (30)	なし		国内	シンポジウム

C. 教育活動

教育活動の概要

リーディング大学院専任教員として、C-Lab研修提供テーマを1研修担当およびC-Lab研修総括教務補助を担当した。加えて実践的防災学IVの講義を担当し、東日本大震災、インド洋津波や熊本地震等から得られた防災・復興に関する知見を都市計画の側面から解説した。また、リーディング大学院の講義・社会連携活動において運用する各種ICT機材の運用・整備を担当した。さらに国内外の他大学と本学との交流企画を運営した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
安全工学フロンティア研修 EX-1 TFC ELyT School 2016 in Sendai	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		後期	15
実践的防災学IV	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	3
創造工学演習	東北大学	工学部		1	1セメ	3
社会と災害科学	東北大学	全学		1	通年	1

D. 社会活動

社会活動の概要

(1)津波避難訓練支援として福島県いわき市内の各区の津波避難訓練の企画・運営支援を実施した。  
(2)2016年11月福島県沖地震の発生に伴い、福島県いわき市における津波災害時における自動車避難検討部会にオブザーバーとして参加している。  
(3)古川黎明高校SSH企画において校外授業講師を務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
			開始年月日	終了年月日								
国内	いわき市、いわき市薄磯地区復興協議委員会、いわき市薄磯地区、東北大学災害科学国際研究所、グローバル安全学教育研究センター	福島県いわき市薄磯地区独自避難訓練	20170924	20170924	福島県いわき市薄磯地区	いわき市	日本	企画運営担当	120	IRIDeS協力	その他	

2	国内	いわき市、いわき市沼ノ内区会、東北大学災害科学国際研究所、グローバル安全学教育研究センター	平成29年度いわき市総合防災訓練	20170924	20170924	福島県いわき市平沼ノ内区	いわき市	日本	企画運営担当	120	IRIDeS協力	その他	
---	----	---	------------------	----------	----------	--------------	------	----	--------	-----	----------	-----	--

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 1件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	平成29年度いわき市総合防災訓練	招待講演	20170924	20170924	防災講和「沼ノ内区における隣組マップの取り組み」	行政	いわき市役所	藤間中学校	いわき市	日本	200

## 自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	いわき市役所	津波災害時における自動車避難検討部会	オブザーバー	20170201
2 民間・NPO	いわき市薄磯地区復興協議委員会、薄磯区会		外部有識者(復興・地域防災)	20140401
3 民間・NPO	いわき市沼ノ内区会		外部有識者(復興・地域防災)	20150301
4 民間・NPO	いわき市四ツ倉区会		外部有識者(復興・地域防災)	20151201

## 地引 泰人 助教

Yasuhito JIBIKI

リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	慶應義塾大学	法学部	2004	12	東京大学大学院	学際情報学府	2010	6	学際情報学博士	2013	6

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2007	3	帝京大学	非常勤講師
2	2008	4	2010	3	日本学術振興会	特別研究員(DC2)
3	2009	9	2010	3	東洋大学 社会学部	非常勤講師
4	2010	7	2013	9	東京大学 情報学環	特任助教
5	2011	4	2013	3	成城大学	非常勤講師

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

リーディング大学院の活動の一環として「インドネシア国バンテン州チレゴン市における複合災害の総合防災策」を実施してきた。チレゴン市には大規模な重工業地帯がある。一方で、スダグ海溝に近く地震・津波のリスクがあり、またクラカタウ火山にも近く、自然災害のリスクが高い地域である。こうしたチレゴン市の特性を考慮すると、自然災害だけでなく、産業施設における事故災害だけの対策ではなく、両者を総合的に勘案する「複合災害」の視点が必要となる。そこで、インドネシアのエネルギー関連最大手の企業がチレゴン市に保有する産業施設周辺のコミュニティを対象として、既往の災害リスク伝達モデルの適用可能性を検討した。

## 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
0	1	0	1	1	1	0	0	0

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Exploring community preparedness for complex disaster: case study in Cilegon (Province Banten in Indonesia)	国際会議 Proceedings	有	いいえ	International Conference on Occupational Health and Safety					2017000	Jibiki, Y., Pelupessy, D., Susilowati, I.H., Putri, F.A., Lestari, F., Imamura, F.	筆頭共著	国外

## 学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
0	1	0	1

	国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1		国際	International Conference on Occupational Health and Safety 2017	Secretariat, Occupational Health and Safety Department, Faculty of Public Health, Universitas Indonesia	筆頭連名	いいえ	Discovery Kartika Plaza	バリ	インドネシア	20171101	口頭(一般)	Exploring community preparedness for complex disaster: a case study in Cilegon (Province Banten in Indonesia)	Jibiki, Y., Pelupessy, D., Susilowati, I.H., Putri, F.A., Lestari, F., Imamura, F.	国外	300

## 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内	国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	担当	参加人数(うち外国人)	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	講演会・セミナー
					開始年月	終了年月									
1		国際	Inter-Graduate School Doctoral Degree Program on Science for Global Safety of Tohoku University	International Symposium on Global Safety	20180312	20180312	Engineering Laboratory Complex Building, Tohoku University	Sendai	Japan	Organizing Committee, Chair	8	なし		国外	シンポジウム

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム(文部科学省博士課程教育リーディングプログラム)において、国際防災政策に関する講義を担当した。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	実践的防災学VII(国際防災政策)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		1セメ	10

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

第4回インドネシア防災学術会議年次会議(実施日:2017年5月8日)において、リーディング大学院の活動成果を報告した。

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	第4回インドネシア防災学術会議年次会議	招待講演	20170508	20170508	Social Behavior in Disaster Situations: A Case Study in the Mt. Kelud Eruption in 2014	なし	インドネシア防災学術会議	インドネシア大学	デボック	インドネシア	400

# 中鉢 奈津子 特任助教

## Natsuko CHUBACHI

### 広報室

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	文学部	1997	3	カナダ クイーンズ大学大学院	地理学研究科	2009	4	Ph.D.	2009	6

##### 職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	8	2001	12	アリンナ州立大学大学院 地理学部	非常勤講師
2	2004	6	2004	7	国際移住機関ジュネーブ本部 移住問題総合政策局	インターン
3	2005	2	2008	2	在ホルルル日本国総領事館 広報文化班	外務省専門調査員
4	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 広報室	特任助教

##### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2
人文地理学会	アメリカ地理学会

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
広報	研究成果の社会発信	学術-メディア連携	人文地理学

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

広報業務の一環として、「学術とメディアの連携による災害研究の社会発信」に関する研究を行った。また、JST科学技術コミュニケーション推進事業ネットワーク形成型ファンドの支援を得て、「学術-メディア連携による震災教訓の継承」に関する活動を行った(研究と社会をつなぐ広報業務の一環としての活動であるので、本件に関する内容はD「社会活動」に記載)。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1997	3	京都市における高齢者の外出行動	
2	1997	9	1999	10	日系カナダ人2世の高齢者介護に対する受け止め方:地理学的考察	
3	1999	8	2001	12	場所アイデンティティの社会的構築:アメリカ・アリンナ州サンシティを事例に-	
4	2002	1	2009	4	カナダにおける日本からの女性移民のジェンダーおよびライフコースの構築	
5	2005	2	2008	2	ハワイ日系人移民資料の収集・整理・保存	
6	2005	2	2008	2	ハワイ日系人社会の特徴	
7	2014	4	現在		広報学、災害研究の広報・社会発信について	
8	2015	5	現在		学術-メディア連携について	

#### D. 社会活動

##### 社会活動の概要

(1) 広報担当として、当研究所活動の国内外への社会発信に携わった。広報誌IRIDeS NEWS(ウェブ版・印刷版)の記事執筆・編集、メディアから所内研究者への取材依頼調整、プレスリリース、年次活動報告書編集に携わり、また、訪問者対応を行った。(2) 世界防災フォーラム広報活動・市民向けイベント企画・運営を担当した。(3)「メディア懇話会」の開催(計18回)等、JST「学術-メディア連携企画」に関する活動や成果発表を行った。

##### 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 21 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	IRIDeS	メディア懇話会(ゲスト:NHK仙台 技術部制作技術副部長 百崎満晴氏)	20170421	20170421	IRIDeS	仙台市	日本	運営担当、参加	9	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
2	国内	特定非営利活動法人 natural science	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2017	20170716	20170716	東北大学川内キャンパス	仙台市	日本	運営担当	160	IRIDeS協力	講演会・セミナー	子どもと保護者向け
3	国内	IRIDeS	メディア懇話会/南海トラフ地震予測対応研究会(ゲスト:毎日新聞科学環境部 飯田和樹記者)	20170927	20170927	IRIDeS	仙台市	日本	運営担当、参加	6	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
4	国内	IRIDeS	メディア懇話会(エフエム岩手・岩泉支局)	20171021	20171021	平成28年台風10号被災地	岩手県岩泉町	日本	運営担当、参加	6	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
5	国際	UNISDR Office in Japan, 日本国外務省, JICA	World Tsunami Museum Conference	20171105	20171105	アートホテル石垣島	石垣市	日本	パネルディスカッション座長	40	IRIDeS協力	シンポジウム	世界津波博物館関係者等対象
6	国際	世界防災フォーラム実行委員会	世界防災フォーラム前日祭	20171125	20171125	東北大学川内萩ホール	仙台市	日本	運営担当	700	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
7	国内	IRIDeS	メディア懇話会/南海トラフ地震予測対応研究会(科学コミュニケーション専門家との意見交換)	20171206	20171206	早稲田大学	東京都	日本	運営担当、参加	8	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
8	国内	IRIDeS	メディア懇話会/南海トラフ地震予測対応研究会(黒沢大陸・朝日新聞オピニオン編集部次長との意見交換)	20171206	20171206	日本記者クラブ	東京都	日本	運営担当、参加	7	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
9	国際	IRIDeS, NHKアジア総局	メディア懇話会(NHKアジア総局関係者との意見交換)	20171226	20171226	NHKアジア総局	バンコク	タイ	運営担当、参加	5	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
10	国際	IRIDeS, チュラロンコン大学工学研究科	メディア懇話会(タイ・チュラロンコン大学工学研究科関係者との意見交換)	20171226	20171226	チュラロンコン大学	バンコク	タイ	運営担当、参加	7	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
11	国際	IRIDeS, タイ公共放送	メディア懇話会(タイ公共放送 Thai PBS 関係者との意見交換)	20171227	20171227	Thai PBS	バンコク	タイ	運営担当、参加	9	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象



12	国際	IRIDeS、タイ・ラット紙	メディア懇話会(タイ・ラット紙との意見交換)	20171228	20171228	タイ・ラット紙本社	バンコク	タイ	運営担当、参加	6	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
13	国際	IRIDeS、ラムカムヘン大学マスコミ学部	メディア懇話会(ラムカムヘン大学マスコミ学部との意見交換)	20171228	20171228	ラムカムヘン大学	バンコク	タイ	運営担当、参加	11	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
14	国際	IRIDeS、somedia	メディア懇話会(スイスメディア Somedia 関係者との意見交換)	20180219	20180219	somedia本社	Chur	スイス	運営担当、参加	7	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
15	国際	IRIDeS、フィリピン大学デリマン校	メディア懇話会(フィリピン大学デリマン校マスコミュニケーション学部関係者との意見交換)	20180323	20180323	フィリピン大学デリマン校	マニラ	フィリピン	運営担当、参加	7	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
16	国際	IRIDeS、People's Television Network	メディア懇話会(フィリピン People's Television Network 関係者との意見交換)	20180323	20180323	People's Television Network	マニラ	フィリピン	運営担当、参加	5	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
17	国際	IRIDeS、Rappler社	メディア懇話会(フィリピンインターネットニュース大手 Rappler 社関係者との意見交換)	20180323	20180323	Rappler社	マニラ	フィリピン	運営担当、参加	5	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
18	国際	IRIDeS、RRI	メディア懇話会(インドネシア国営ラジオ RRI 関係者との意見交換)	20180326	20180326	RRI	ジャカルタ	インドネシア	運営担当、参加	14	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
19	国際	IRIDeS、Kompas TV	メディア懇話会(インドネシア KompasTV 関係者との意見交換)	20180326	20180326	Kompas TV	ジャカルタ	インドネシア	運営担当、参加	7	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
20	国際	IRIDeS、Serambi Indonesia Daily	メディア懇話会(インドネシアSerambi Indonesia Daily紙関係者との意見交換)	20180328	20180328	Serambi Indonesia Daily	バンドア チェ	インドネシア	運営担当、参加	9	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア関係者および研究者対象
21	国際	IRIDeS、アチェDRR Forum	メディア懇話会(アチェ DRR Forum 関係者との意見交換)	20180328	20180328	DRR Forum	バンドア チェ	インドネシア	運営担当、参加	15	IRIDeS主催・共同主催	研究会・ワークショップ	メディア、行政、研究関係者対象

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	IRIDeS金曜フォーラム	発表	20170922	20170922	メディアとの連携による災害知見の社会発信—IRIDeS広報室の視点から	メディア	IRIDeS	IRIDeS	仙台市	日本	40
2	講演会・セミナー	世界防災フォーラム ミニプレゼンテーション	発表	20171126	20171126	Researchers and student newsmen working together for disaster risk reduction	小中高	世界防災フォーラム実行委員会	仙台国際センター	仙台市	日本	20
3	講演会・セミナー	IRIDeS金曜フォーラム	発表	20170223	20170223	メディアを通じた学術からの災害情報発信—社会とのよりよいコミュニケーションに向けて—	メディア	IRIDeS	IRIDeS	仙台市	日本	60

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	京都大学防災研究所	GADRI Board of Directors	20180314	会議	京都大学防災研究所	宇治市	その他	25

## 5 教育活動

## 教育活動

### 1. 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するための教育活動を推進する責務を有している。このことに関して、小・中・高校との連携を含む学外での教育・啓発活動は 4 章の「専任教員の活動報告」の中に紹介しているほか、次章の「研究成果の社会発信」において総括している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

#### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

- 全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。
- 災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的に開催し、これを大学院の学生に公開する。

#### (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。
- 災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

#### (3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

- 大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。
- 国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、平成 25 年度に、全学教育の新設科目、リーディング大学院プログラムにおける講義、実習科目を実際に開設し、平成 29 年度も順調に推移している。また大学院生への支援も継続して実施している。

### 2. 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「基礎ゼミ」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。平成 29 年度は本研究所において 4 科目を提供した(災害リスク研究部門:大野晋准教授/災害医学研究部門:江川新一教授/災害リスク研究部門:今村文彦教授/人間・社会対応研究部門:井内加奈子准教授が担当)。

他方、全学教育講義科目として、本研究所設立時の振替定員に基づき 8 科目以上の提供が要請されている。このうち 6 科目はカリキュラムの連続性を維持する観点から、心理学、教育学を 2 科目(人間・社会対応研究部門: 邑本俊亮教授)、歴史学を 1 科目(人間・社会対応研究部門: 佐藤大介准教授)、そして BCP を 1 科目(人間・社会対応研究部門: 丸谷浩明教授)提供し、残る 2 科目は本研究所の教育目標に従う講義科目を開講した。

東日本大震災の被災地の中心に存在する東北大学では、自然災害の基本的なメカニズムと対応の考え方について、すべての学生が基本的な知識と自ら考える能力を持つことが望まれる。この目的を達成するため、カレントトピックス科目として「災害の科学」を開講し、「災害の科学－災害の発生と波及－」、「災害の科学－災害対応－」の 2 科目を提供した。

### 3. リーディング大学院における教育活動の概要

リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の目的は、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティ問題等を解決し、人類社会の持続性及び安全安心な社会構築に寄与するグローバル安全学分野のトップリーダー人材を育成することである。科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という3つの視点からリーダーを養成することを目的としている。(詳細は、「第 4 章 研究活動(1) 研究部門・分野概要」p.35 を参照のこと)。

#### 4. 学生の支援と研究指導

平成 29 年度は学生生活支援審議会が主催する全学の FD が下記のテーマで 4 回開催された。本研究所からは教務委員会のメンバーが中心となってこれら FD に出席した。

第 1 回 本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について

第 2 回 修学上の合理的配慮の提供について

第 3 回 留学生支援の現状と課題について

第 4 回 学生支援の今日的諸課題

これら FD では、学生のありようやニーズの多様化が進みつつある大学において学生支援に関してどのような今日的課題があるのか、また幅広い背景や多様なニーズを持つ学生に対してどのような支援が行われているのかについて理解を深めた。

また、本研究所が月に 1 回主催している「IRIDeS 金曜フォーラム」は、研究所の専任・兼務教員が各分野の研究視点やプロジェクト研究の成果を報告し討論する場であるが、これを大学院生にも公開し、災害研究の多様な研究方法や研究成果を学ぶ機会として提供している。平成 29 年度は、国内 196 件、国外 80 件の大学院生に対する学会やワークショップへの参加および発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を減らすと同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、平成 29 年度の本研究所教員の学生への研究指導とその成果は、以下のようである。

博士論文指導(主査・副査): 41 件  
修士論文指導(主査・副査): 79 件  
卒業論文指導: 47 件  
博士学位取得(学内・学外): 9 件  
留学生受け入れ: 18 名(13 か国)

## 6 研究成果の社会発信

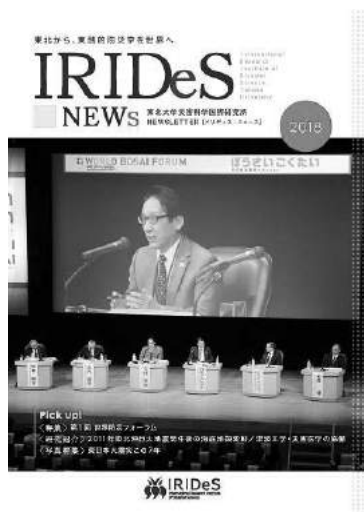
## (1) 刊行物

平成29年度もIRIDeS NEWSを日・英両語で、印刷版・ウェブ版で発出した。基本方針は、平成28年度から引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、国内外へ向けて平易な言葉で発信する」と定め、基本的に記事は広報室で執筆した。

### ○IRIDeS NEWS 2018 印刷版（2018年3月発行）日本語・英語

- ・特集 第1回 世界防災フォーラム
- ・研究紹介 2011年東北沖巨大地震後の海底地殻変動を解明  
津波工学・災害医学が協働で救命に取り組む  
仙台平野で新たに活断層を確認  
津波と藻場被害の関係を科学的に明らかに
- ・活動紹介 不確実な科学情報を社会の災害軽減に役立てるためには  
平成28年台風10号被災地・岩泉で巡検  
石垣島で「世界津波博物館会議」
- ・写真特集 東日本大震災 ー写真で見る被災地この7年ー

### ○IRIDeS NEWS 2018 ウェブ版（2017年4月～2018年3月）



日本語版



英語版

## (2) IRIDeS 金曜フォーラム

### 概要

IRIDeS 金曜フォーラムは、災害科学国際研究所で行われている研究・活動の情報を所内のみならず学内外・一般の方々と広く共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に開催する、定期的な発表・討論の場である。

### 発表テーマ

主に研究所の教員・スタッフから、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表頂くほか、災害発生時の調査報告や、大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

### 参加方法

東北大学災害科学国際研究所棟 1 階多目的ホールを会場として実施。事前の申し込み不要、参加費無料。

### 第45回『熊本地震 1 年後報告』平成 29 年 5 月 26 日(金)16 時 30 分～

1. 「趣旨説明」  
森口 周二 (緊急調査ワーキンググループ)
2. 「被害地域の地震動と地盤振動特性」  
大野 晋 (災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野)
3. 「地震後の医療・保健」  
富田 博秋 (災害医学研究部門 災害精神医学分野)
4. 「被災者行動パターンの被災・回復過程」  
奥村 誠 (人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野)
5. 「NPO のボランティア支援活動」  
保田 真理 (地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門)
6. 「企業の被害と事業継続」  
寅屋敷 哲也 (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)
7. 「応急仮設住宅と住宅復興」  
岩田 司 (地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

### 第46回『若手によるこれからの災害研究』平成 29 年 6 月 23 日(金)16 時 30 分～

1. 「地理情報システム(GIS)を利用した熊本地震における活断層と地震断層出現位置の比較」  
今野 明咲香(災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野)
2. 「「奥尻の子ども」の災害研究者としての歩み」  
定池 祐季(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)
3. 「社会人類学における災害時の「死のマネジメント」」  
ボレー・セバスチャン(情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野)
4. 「うつ病の個別化予防、個別化医療技術開発に向けた数理、機械学習の応用～被災地域の健康問題解決に向けたアプローチ～」  
飯田 溪太(災害医学研究部門 災害精神医学分野)

### 第47回『平成 28 年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会』平成 29 年 7 月 29 日(土)9～17 時 共同研究 口頭発表(午前の部)

1. 【津波工学】津波統合モデル解析の高度化  
研究代表者:高橋 智幸(関西大学 社会安全学部)
2. 【津波工学】複数被験者が同時体験可能なオンライン津波避難シミュレータの開発  
研究代表者:浅井 光輝(九州大学 大学院工学研究院)

3. 【災害医学・医療】東日本大震災後の住環境の変化によるアレルギー疾患の発症・増悪に関する疫学調査と真菌・ダニアレルゲンに対する環境整備介入方法の確立  
研究代表者: 鈴木澤 尚実(国立病院機構埼玉病院 呼吸器内科)
4. 【災害医学・医療】被災時の医療・保険・福祉支援体制の検討: 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり  
研究代表者: 坪内 暁子(順天堂大学 医学研究科)
5. 【災害アーカイブ】水損紙製資料の劣化抑制に関する研究  
研究代表者: 松下 正和(神戸大学 地域連携推進室)
6. 【災害アーカイブ】アナログ方式とデジタル方式が連携した災害エスノグラフィーのアーカイブ構築  
研究代表者: 田中 聡(常葉大学 大学院環境防災研究科)

#### 共同研究 口頭発表(午後の部)

1. 【災害アーカイブ】岩手県沿岸部における災害史料の整理・アーカイブと災害研究  
研究代表者: 奥村弘(神戸大学 大学院人文学研究科)○川内 淳史(神戸大学 大学院人文学研究科)
2. 【災害アーカイブ】熊本地震の震災アーカイブ構築に関する研究  
研究代表者: 山尾 敏孝(熊本大学 大学院先端科学研究部)
3. 【防災人材育成・地域再創生物学】地域再創生物学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発  
研究代表者: 目黒 公郎(東京大学 生産技術研究所)
4. 【防災人材育成・地域再創生物学】東日本大震災発生後の福島県における防災教育の分析と展望―県教育委員会等による教員研修、副読本作成の意義と課題を中心に―  
研究代表者: 藤岡 達也(滋賀大学 教育学部)
5. 【災害科学の発展に寄与するその他の研究】豪雨災害に関する災害情報および発災前後の対応と実被害との関係分析  
研究代表者: 呉 修一(富山県立大学 工学部)
6. 【災害科学の発展に寄与するその他の研究】熊本地震と東日本大震災の比較分析による直下型地震時の病院被害と診療体制に関する研究  
研究代表者: 前田 ひとみ(熊本大学 生命科学研究部)
7. 【災害科学の発展に寄与するその他の研究】常時微動観測による山形盆地の地盤振動特性評価の試み  
研究代表者: 三辻 和弥(山形大学 地域教育文化学部)

#### プロジェクトエリア 口頭発表

1. 【場】災害の発生メカニズム解明・予測 エリア長 木戸 元之
2. 【情報】自然災害アーカイブシステムの構築・運用 エリア長 佐藤 健
3. 【組織】被災地支援・受援を効率化する組織と技術 エリア長 越村 俊一
4. 【もの】構造制御技術と多重防御技術による地域・都市レジリエンスの向上 エリア長 寺田 賢二郎
5. 【健康】広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立 エリア長 富田 博秋
6. 【総合減災】総合的減災システムのデザインと社会実装 エリア長 丸谷 浩明

#### 第48回『東日本大震災からの復興と再生』平成29年8月25日(金)16時30分～

1. 「地域復興に向けた支援の『いま』～みやぎ連携復興センターの取組から」  
石塚 直樹(一般社団法人みやぎ連携復興センター代表理事)



2. 「自治体による震災メモリアル施設整備の現状—仙台市と山元町の事例から」  
本江 正茂(東北大学工学研究科 (兼) 情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)
3. 「東日本大震災からの復興まちづくり法制に関する研究」  
島田 明夫(東北大学公共政策大学院 (兼) 人間・社会対応研究部門 防災法制度研究分野)

**第49回 『災害研究とメディアの関わり』 平成 29 年 9 月 22 日(金)16 時 30 分～**

1. 「メディアとの連携による災害知見の社会発信—IRIDeS 広報室の視点から—」  
中鉢 奈津子(東北大学災害科学国際研究所 広報室 特任助教)
2. 「学術のメディア発信とメディアの学術取材」  
菊間 深哉(河北新報社・編集局報道部 記者)
3. 「放送局の災害報道と研究者の情報発信について」  
齋川 裕(東北放送・報道制作局 報道部長)
4. 「「社会発信のための災害研究フリーマーケット」の試み」  
佐藤 翔輔(東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ分野 助教)

**第50回 『海外の災害への関わり』 平成 29 年 10 月 27 日(金)16 時 30 分～**

1. 「モンゴル国の地震防災対策に関する技術支援」  
源栄 正人(災害理学研究部門 地域地震災害研究分野 教授)
2. 「SATREPS トルコ防災での海底観測紹介」  
木戸 元之(災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野 教授)
3. 「国際社会における長期的災害調査の意義と展望:タクロバン市の今」  
井内 加奈子(人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野 准教授)
4. 「海外の災害医療と研究の意義」  
江川 新一(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野 教授)

**特別開催 『東北スペシャルセッション～Build Back Better よりよい復興～』 平成 29 年 11 月 26 日(日)14 時 15 分～**

1. 「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」  
櫻井雅之(宮城県土木部長)
2. 「『より良い復興』実現のために『地方創生』へ『挑戦』する」  
佐藤典生(東京海上日動火災保険(株)仙台支店)
3. 「『より良い復興』における市民セクターの役割」  
グエン・パン(国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC) 東アジア地域事務所)
4. 「生活協同組合として被災者支援及び地域産業復興支援について果たす役割」  
宮本弘(みやぎ生活協同組合)
5. 「復興を契機としたより良い地域コミュニティの形成」  
石塚直樹(みやぎ連携復興センター)
6. 「『より良い復興』を目指す世界各地の事例」  
ジョー・シャウヤム(国連開発計画(UNDP) 気候変動防災チーム)

**第51回 『災害が起きたときに、現場で求められているものは何か』 平成 30 年 1 月 26 日(金)16 時 30 分～**

1. 「GB-SAR による地滑りモニタリング技術—荒砥沢、南阿蘇での実践から—」  
佐藤 源之(災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野 教授 ※東北アジア研究センター)

2. 「豪雨災害から命を守るために必要な考え方」  
森口 周二(地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野 准教授)
3. 「公衆衛生学と人工知能解析技術を用いた災害対応」  
栗山 進一(災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野 教授)
4. 「より効果的な復興のために ～必要な備えと実行体制～」  
平野 勝也(情報・社会連携部門 災害復興実践学分野 准教授)

**第52回『南海トラフ地震の予測可能性と社会対応』平成30年2月23日(金)16時30分～**

1. 「南海トラフ地震予測対応勉強会の背景と概要」  
福島 洋(災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野 准教授)
2. 「南海トラフ地震発生予測時の企業・組織の行動と可能な事前準備」  
丸谷 浩明(人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野 教授)
3. 「命のリスクコミュニケーション」  
江川 新一(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野 教授)
4. 「メディアを通じた学術からの災害情報発信:社会とのよりよいコミュニケーションに向けて」  
中鉢 奈津子(広報室 特任助教)・久利 美和(リーディング大学院 講師)

### (3) 展示スペース

平成 27 年度に、災害サイクルに沿って展示品を陳列し、各部門の研究事例・活動の紹介を行う展示スペースを設け、平成 28 年度にこのスペースの拡充を行ったが、平成 29 年度も引き続き、来訪者に対する説明や、一般見学会の際に広く活用した。



(4) 各種メディアでの紹介（報道・出演・執筆・資料提供など）

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
1	2017/4/2	新聞（全国紙）	朝日新聞	書評：「海と生きる作法」漁師から学ぶ災害観-恵みと災い 両面受けいれ共生	川島秀一	報道
2	2017/4/6	新聞（地方紙）	三陸新報	「鯨明」が聞こえる（1）④-島わたりの記119中通り島	川島秀一	執筆
3	2017/4/6	新聞（地方紙）	三陸新報	漁師の知恵から復興考える「海と生きる作法」出版	川島秀一	報道
4	2017/4/7	新聞（地方紙）	三陸新報	「鯨明」が聞こえる（1）⑤-島わたりの記119中通り島	川島秀一	執筆
5	2017/4/7	新聞（全国紙）	産経新聞（他1社）	東北大災害研、産官学の連携加速 被害低減狙いドコモなどと	災害科学国際研究所、災害統計グローバルセンター	報道
7	2017/4/8	新聞（地方紙）	高知新聞、岩手日報など	<連載> 「すぐれた文学作品」 「社会を見る目」（「手塚塾」）	川島秀一	執筆
8	2017/4/9	新聞（全国紙）	毎日新聞	<熊本地震>九州で1年間に13万回、前年に比べ22倍	遠田晋次	報道・コメント掲載
9	2017/4/9	ウェブ	niftyニュース	<熊本地震>九州で1年間に13万回、前年に比べ22倍	遠田晋次	報道
10	2017/4/9	ウェブ	docomoニュース	<熊本地震>九州で1年間に13万回、前年に比べ22倍	遠田晋次	報道
11	2017/4/9	新聞（地方紙）	熊本日日新聞	伝えたい私たちの経験 熊本地震1年編下	柴山明寛	報道・コメント掲載
12	2017/4/10	ウェブ	Qlife	デング出血熱の新治療法の可能性を示す発見	浩日勲	報道
13	2017/4/11	新聞（地方紙）	河北新報	<むすび塾>いのちと地域を守るむすび塾第65回ワークショップ@仙台・岩切 「大人の姿で子ども成長」	佐藤健	執筆
14	2017/4/11	ウェブ	47News	<むすび塾>いのちと地域を守るむすび塾第65回ワークショップ@仙台・岩切 「大人の姿で子ども成長」	佐藤健	執筆
15	2017/4/13	テレビ	TBS	熊本地震自治体BCP	丸谷浩明	出演
16	2017/4/13	新聞（全国紙）	毎日新聞（他1社）	<熊本地震>アンケート：BCPなど発生時の対策不十分21社	丸谷浩明	報道
18	2017/4/13	新聞（全国紙）	毎日新聞（他1社）	<熊本地震>科学の森：熊本地震発生からまず1年 次の大地震 懸念なお	遠田晋次	報道
20	2017/4/13	テレビ	TBSテレビ	ニュース23：<熊本地震>役所が被災し大きな混乱・住民を守る「計画」6割未策定	丸谷浩明	報道
21	2017/4/13	ラジオ	NHKラジオ	ゴジだっちゃん！「防災研究最前線」熊本地震から1年へ断層地震の脅威について	岡田真介	出演
22	2017/4/13	テレビ	NHK	宮城のニュース：熊本地震の断層帯調査結果判明 宮城県内の活断層調査も引き続き必要	遠田晋次	報道
23	2017/4/14	テレビ	NHK	おはよう日本：<熊本地震>熊本地震引き起こした活断層 国評価より短い間隔で大地震	遠田晋次	出演
24	2017/4/16	新聞（全国紙）	読売新聞	伊達ひとと：被災経験の伝承研究に熱 東北大災害科学国際研究所助教 佐藤翔輔さん	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
25	2017/4/16	テレビ	NHK	サイエンスZERO「防災から医療まで活用！8Kスーパーハイビジョン」	今村文彦、柴山明寛	報道・コメント掲載
26	2017/4/17	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「科学・学術の防災への貢献について」	泉貴子	出演
27	2017/4/17	新聞（その他）	朝日小学生新聞	リアルに体感「次」に備える	柴山明寛	報道・コメント掲載
28	2017/4/18	新聞（全国紙）	朝日小学生新聞	リアルに体感「次」に備える	今村文彦、天野真志、岡田真介、サッパシー・アナワット	企画協力
29	2017/4/20	新聞（その他）	朝日小学生新聞社	第1回「こども会議」津波で亡くなる人を0（ゼロ）にするには	災害科学国際研究所、今村文彦、寺田賢二郎、柴山明寛、天野真志、岡田真介	報道・コメント掲載
30	2017/4/21	新聞（地方紙）	河北新報	<同友会>技術革新や観光 活発議論	今村文彦	報道・コメント掲載
31	2017/4/21	ウェブ	Yahooニュース	<同友会>技術革新や観光 活発議論	今村文彦	報道
32	2017/4/21	ウェブ	東北大学新聞	【復興の今・研究成果】「動画でふりかえる3・11」～津波映像 防災につなげる～	佐藤翔輔	報道
33	2017/4/22	新聞（地方紙）	河北新報	<みやぎ防災円卓会議>拠点組織設立へ機運向上	今村文彦	報道・コメント掲載
34	2017/4/26	新聞（全国紙）	日本経済新聞	東北大、放射線医療従事者の水晶体被曝の実態と危険性を解明	千田浩一	報道
35	2017/4/27	新聞（地方紙）	河北新報	助け合いの力が日本を救う 災害時の都市間支援	今村文彦	報道・コメント掲載
36	2017/4/27	ウェブ	マイナビニュース	東北大ら、IVR放射線従事者の眼の水晶体被曝の実態と防護の重要性を解明	千田浩一	報道
37	2017/4/27	ウェブ	マビオンニュース	東北大ら、IVR放射線従事者の眼の水晶体被曝の実態と防護の重要性を解明	千田浩一	報道
38	2017/4/28	新聞（地方紙）	河北新報	教訓発信仙台から 世界防災フォーラム11月開催	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
39	2017/4/28	新聞（全国紙）	朝日新聞	大地震 太平洋側確率高め 政府予測 病院・役場 耐震化に課題	源栄正人	報道・コメント掲載
40	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「携帯ストラップ缶 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
41	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「あめ チョコレート 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
42	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「非常持ち出し袋 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
43	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「非常持ち出し袋に入れておくこと意外と便利 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
44	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「備蓄品 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
45	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「ベットについて考える 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
46	2017/4	ラジオ	NHK北海道	防災スポット 「生活防災、日常防災のすすめ 編」（通年随時放送）	定池祐季	出演
47	2017/4	雑誌・機関誌	日経メディカル	東日本大震災を教訓に “もしも”は今日かも?! 災害対策ガイド	江川新一、佐々木宏之、保田真理	執筆
48	2017/5/1	新聞（全国紙）	産経新聞	【東北の風】震災、どう捉えるべきなのか	定池祐季	報道
49	2017/5/1	新聞（その他）	週刊「世界と日本」	海と生きる作法	川島秀一	執筆
50	2017/5/1	新聞（地方紙）	日経新聞	震災の記憶、アーカイブに、東北大、熊本にノウハウ提供、「復興検証で重要」。	柴山明寛	報道・コメント掲載
51	2017/5/2	新聞（その他）	東北大学新聞	【復興の今・研究成果】「動画でふりかえる3・11」～津波映像 防災につなげる～	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
52	2017/5/3	新聞（全国紙）	読売新聞	災害伝承 民俗学による再考-物語に込めた複雑な思い	川島秀一	報道
53	2017/5/7	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「災害医療について」		出演
54	2017/5/10	新聞（全国紙）	日本経済新聞	震災 あの日から未来へ 第7部 災害伝承を追う④ 祭りが伝える悲劇の記憶-地元定着 住民の命を守る	川島秀一	報道
55	2017/5/10	テレビ	NHK	東北大、熊本地震の報告書公開	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
56	2017/5/11	新聞（地方紙）	河北新報	震災の教訓 伝承へシンボ	佐藤翔輔	報道
57	2017/5/11	新聞（地方紙）	河北新報	<いのちと地域を守る>防災啓発 日常の中に ヤフーの災害カレンダー ネット発信の意義	佐藤翔輔	報道
58	2017/5/11	新聞（地方紙）	河北新報	<防災・減災のページ>犠牲回避の体験共有を	今村文彦	報道・コメント掲載
59	2017/5/11	新聞（地方紙）	河北新報	<防災・減災のページ>選択肢の一つ 周知徹底 むすび塾 第66回ワークショップ@仙台・種次 東部道路	畠本俊亮	報道・コメント掲載
60	2017/5/11	新聞（地方紙）	河北新報	むすび塾：高速道の津波避難活用 高さ6メートル緊急時に有効	今村文彦	報道・コメント掲載
61	2017/5/11	新聞（全国紙）	日本経済新聞	震災 あの日から未来へ 第7部 災害伝承を追う⑤ 600年後へ語り継ぐ 遺構維持と防災公園整備	今村文彦	報道・コメント掲載
62	2017/5/11	ラジオ	NHKラジオ第1	「防災研究最前線」 6年後の避難行動は	佐藤翔輔	出演
63	2017/5/12	新聞（地方紙）	河北新報	<共に歩もう>住まいの再建研究	マリ・エリザベス	報道
64	2017/5/12	新聞（地方紙）	河北新報（他1社）	被災校舎 どう残す④ 石巻・説明会を前に 旧門脇小 津波火災の伝承重視	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
66	2017/5/13	新聞（地方紙）	河北新報（他1社）	被災校舎 どう残す⑤ 石巻・説明会を前に 大川小 区域分け全体を保存	佐藤翔輔	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
68	2017/5/15	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ：シリーズ防災・減災 特集「津波避難」必要なこととは	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
69	2017/5/16	新聞（地方紙）	河北新報	昨年11月の福島沖地震 巨理の避難63.8% 車利用90%超もスムーズ	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント掲載
70	2017/5/16	新聞（全国紙）	産経新聞	福島沖地震から半年 東北大災害研など調査 巨理町民6割超が避難	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
71	2017/5/17	新聞（その他）	建設通信新聞	【津波避難】16年福島沖地震で避難行動したのは63.8% 東北大災害研らアンケート	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント掲載
72	2017/5/17	ウェブ	TEAM防災ジャパン	平成29年度津波防災シンポジウムを開催します	佐藤翔輔	資料提供
73	2017/5/17	新聞（地方紙）	石巻かほく	東松島で津波シンポ 防災教育、矢本二中の取り組み紹介	定池祐季	報道
74	2017/5/18	新聞（全国紙）	北海道新聞	河川整備見直し 専門家の意見は「道開発局があす」深川で「石狩川流域委」	定池祐季	報道・コメント掲載
75	2017/5/19	テレビ	東日本放送	KHB NEWS 去年11月の福島沖地震 巨理沿岸の住民 63.8%避難	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
76	2017/5/19	テレビ	東日本放送	スーパーJチャンネルみやぎ：去年11月の福島沖地震 巨理沿岸の住民 63.8%避難	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
77	2017/5/20	新聞（全国紙）	日本経済新聞	昨年の福島沖地震、東北大など調査―避難者の9割車利用、自治体の対応策、必要に（大震災東北の今）	災害科学国際研究所	報道・コメント掲載
78	2017/5/21	その他	大学ジャーナル	東北大学ら 福島沖地震の避難行動に関する調査を実施	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
79	2017/5/21	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES! 「熊本地震被災地での東北大学病院DMATの活動について」	佐々木宏之	出演
80	2017/5/22	新聞（地方紙）	岩手日報	防災訓練 避難に影響？昨年11月津波 東北大調査 参加率で行動に差	佐藤翔輔	報道
81	2017/5/23	新聞（地方紙）	三陸新報	「気仙沼で3.11伝えていく」テーマに防災文化講演会	災害科学国際研究所、川島秀一	報道・資料提供
82	2017/5/25	新聞（その他）	日刊工業新聞	東北大学災害科学国際研究所、26日に講演会	災害科学国際研究所、大野晋	報道
83	2017/5/26	新聞（全国紙）	読売新聞	津波被害 30分以内に推計 南海トラフ 東北大など新システム	越村俊一	報道
84	2017/5/27	新聞（地方紙）	河北新報	震災伝承こそ防災 津波シンポで知恵学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
85	2017/5/27	新聞（全国紙）	読売新聞	30年先にも災害伝えるー名取で津波防災シンポ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
86	2017/5/27	新聞（全国紙）	読売新聞社	「震災の伝承」講演会 きょう、気仙沼	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	資料提供
87	2017/5/28	ラジオ	ラジオ石巻	災害時に役立つラジオ～いつも身近にラジオを～	佐藤翔輔	出演
88	2017/5/28	新聞（全国紙）	日本経済新聞	南海トラフ津波浸水、30分以内に計算 予測システム 東北大など開発、内閣府が採用	災害科学国際研究所	報道
89	2017/5/29	テレビ	東北放送（他1社）	ニュース：津波避難「車も」なぜ？宮城・巨理町の取り組み	佐藤翔輔	出演
91	2017/5/30	テレビ	NHK	おはよう宮城：震災遺構保存などで東北大と協定	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
92	2017/5/30	ウェブ	マイナビニュース（他4社）	東北大、NECなど、地震発生から30分以内で津波浸水被害を推計-内閣府で採用	越村俊一、日野亮太	報道
97	2017/5/31	新聞（地方紙）	三陸新報	震災伝承を考える 気仙沼で防災文化講演会	災害科学国際研究所、川島秀一	報道
98	2017/5	雑誌・機関誌	Panasonic	かたあきの里	若田司	資料提供
99	2017/6/1	新聞（地方紙）	三陸新報	鯨唄が聞こえる (2) ⑤-島わたりの記120 香坂 (2) -	川島秀一	執筆
100	2017/6/2	新聞（地方紙）	三陸新報	鯨唄が聞こえる (2) ⑥-島わたりの記120 香坂 (2) -	川島秀一	執筆
101	2017/6/3	新聞（地方紙）	河北新報	活断層のメカニズム学ぶ 仙台で防災講演会 東北大教授が解説	遠田晋次	報道
102	2017/6/5	テレビ	仙台放送	石巻市と東北大災害研が協定 津波避難対策など検討	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
103	2017/6/5	新聞（全国紙）	朝日新聞	被災した歴史資料を守る ボランティアが支援6年	災害科学国際研究所、天野真志	報道
104	2017/6/7	新聞（全国紙）	日本経済新聞	東北大、農学系など研究棟	災害科学国際研究所	報道
105	2017/6/8	テレビ	仙台放送	気仙沼 関係機関が情報伝達訓練	安倍祥	報道
106	2017/6/8	テレビ	NHK BSプレミアム	コズミックフロントNEXT、初公開！恐竜絶滅 詳細なシナリオ	後藤和久	出演
107	2017/6/9	新聞（地方紙）	三陸新報	「津波死ゼロ」に向け 気仙沼で災害対策本部の図上訓練	安倍祥	報道
108	2017/6/11	新聞（全国紙）	読売新聞	<大震災 再生の歩み>あの「碑」を後世へ	川島秀一	報道
109	2017/6/11	新聞（地方紙）	八重山毎日新聞	「低頻度巨大災害」学ぶ	後藤和久	報道・コメント掲載
110	2017/6/11	新聞（地方紙）	八重山日報	巨大災害への備え学ぶ	後藤和久	報道・コメント掲載
111	2017/6/12	テレビ	仙台放送	みんなのニュース「マンションの防災コミュニティ形成を」	佐藤健	出演
112	2017/6/13	新聞（地方紙）	河北新報	<宮城県沖地震39年>都市活断層 リスク大	遠田晋次、柴山明寛、保田真理	報道・コメント掲載
113	2017/6/13	新聞（地方紙）	河北新報	<宮城県沖地震39年>帰宅困難者解消が鍵	佐藤健	報道
114	2017/6/13	ウェブ	docomoニュース	<宮城県沖地震39年>帰宅困難者解消が鍵	佐藤健	報道
115	2017/6/13	新聞（全国紙）	朝日新聞朝刊 宮城県版	消えゆく国の有形文化財 仙台・門間筆筒店、昭和初期の建物 /宮城県	佐藤大介	報道・コメント掲載
116	2017/6/13	新聞（地方紙）	河北新報	マンション防災「声掛けが大事」仙台で討論会	佐藤健	執筆
117	2017/6/13	新聞（地方紙）	河北新報	宮城県沖地震39年「防災教育進め混乱回避を」	佐藤健	執筆
118	2017/6/14	新聞（地方紙）	岩手日報	論説：津波の「常習地」教訓はくみ尽くしたか	川島秀一	報道
119	2017/6/16	新聞（地方紙）	三陸新報	雄島参り同行記⑤-島わたりの記 冠島	川島秀一	執筆
120	2017/6/16	新聞（全国紙）	朝日新聞	（宮城教育レポート）震災の語り部 防災の研究者に	定池祐季	報道
121	2017/6/16	新聞（その他）	日刊工業新聞	経営ひと言：帰宅困難者「地方対策も」	寅屋敦哲也	報道
122	2017/6/16	テレビ	東北放送 Nスタみやぎ	（インタビュー）国有文化財 門間筆筒店解体	佐藤大介	出演
123	2017/6/17	新聞（地方紙）	三陸新報	雄島参り同行記⑥-島わたりの記 冠島	川島秀一	執筆
124	2017/6/17	新聞（全国紙）	読売新聞	【ふしぎ科学館】津波をとらえる 海底観測 素早く警報 実際に「避難した」41%	佐藤翔輔	報道
125	2017/6/19	新聞（全国紙）	毎日新聞	石巻市、東北大災害研と協定 津波避難対策などで	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
126	2017/6/19	テレビ	NHK	おはよう日本：グリーンランドM4の地震で津波発生か	今村文彦	報道・コメント掲載
127	2017/6/21	テレビ	NHK	おはよう宮城：巨理町 車の避難で渋滞遭遇1割	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
128	2017/6/25	テレビ	NHK	おはよう日本：長野県で震度5強 専門家「過去も地震 土砂災害注意」	遠田晋次	出演
129	2017/6/25	ウェブ	docomoニュース	おはよう日本：長野県で震度5強 専門家「過去も地震 土砂災害注意」	遠田晋次	出演
130	2017/6/25	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES! 「引き波の恐ろしさと今後の対策」	今村文彦・山下啓	出演
131	2017/6/28	新聞（その他）	同上復帰うだより・第44号	津波防災シンポジウム	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
132	2017/6/29	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ：遺族ら語り部務める 関上の震災伝承施設 岐路に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
133	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「熱中症・室内&夜も注意」（随時放送）	定池祐季	出演
134	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「雨の降り方に注意」（随時放送）	定池祐季	出演

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
135	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「土砂災害に注意」(随時放送)	定池祐季	出演
136	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「緊急地震速報を見たら聞いたら 職場 編」(随時放送)	定池祐季	出演
137	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「家の耐震診断をしよう 編」(随時放送)	定池祐季	出演
138	2017/6	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「火山の噴火も身近な災害 編」(随時放送)	定池祐季	出演
139	2017/7/2	新聞(地方紙)	河北新報	東北の本欄:海と生きる作法-漁師の死生観から学ぶ	川島秀一	その他
140	2017/7/9	新聞(地方紙)	三陸新報	カツオで地域活性化 気仙沼 学会がセミナー開催	川島秀一	報道
141	2017/7/10	新聞(地方紙)	河北新報	<仙台防災枠組>地域連携で学び備える	今村文彦、泉貴子	報道・コメント掲載
142	2017/7/10	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災 被災地へ今夏討論 8カ国若者	災害科学国際研究所	報道
143	2017/7/11	新聞(地方紙)	河北新報	ドローンで避難空撮 学びや住民・防災に一元	災害科学国際研究所	報道
144	2017/7/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞	震災あの日から未来へ-第8部 産業防災の知恵⑤「CSRも減災の力に」	今村文彦	報道・コメント掲載
145	2017/7/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞	震災あの日から未来へ-第8部 産業防災の知恵⑥「取引継続事前準備を」	丸谷浩明	報道・コメント掲載
146	2017/7/13	新聞(地方紙)	朝日新聞	北海道「あの忘れぬ」奥尻24年、遺族ら灯籠流し	定池祐季	報道
147	2017/7/13	新聞(地方紙)	新潟日報	地震被災地復興 語り合うシンガ 19日、柏崎	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
148	2017/7/13	新聞(全国紙)	朝日新聞	海に誓う「あの忘れぬ」青苗の遺族、手を合わせる 北海道南西沖地震から24年	定池祐季	報道・コメント掲載
149	2017/7/16	新聞(地方紙)	神奈川新聞社(他1社)	東北沖「最大級」か17世紀の慶長三陸地震 国の評価上回り、改称提案	蝦名裕一	報道・コメント掲載
151	2017/7/16	新聞(地方紙)	河北新報	東北の本欄:活断層地震はどこまで予測できるか-内陸型、最新の研究解説	遠田晋次	その他
152	2017/7/18	テレビ	NHK	ニュース:アリューシャン列島震源地の地震 多少の潮位変化も	今村文彦	報道・コメント掲載
153	2017/7/18	ウェブ	docomoニュース	ニュース:アリューシャン列島震源地の地震 多少の潮位変化も	今村文彦	報道
154	2017/7/18	雑誌・機関誌	東北大学学友会	No.21、動画でふりかえる3.11	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
155	2017/7/20	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、2011年東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動を解明	木戸元之、日野亮太	報道
156	2017/7/20	ウェブ	マイナビニュース	2011年東北沖地震後の海底地殻変動の特徴を明らかに-東北大とJAMSTEC	木戸元之、日野亮太	報道
157	2017/7/20	新聞(その他)	日刊工業新聞	宮城沖で歪み蓄積-東北大と海洋機構、日本海溝の地殻変動観測	木戸元之	報道
158	2017/7/20	新聞(地方紙)	河北新報	震災後の東北沖海底 南北で逆方向の動き	木戸元之	資料提供
159	2017/7/22	新聞(全国紙)	日本経済新聞	この場所安全? 防災アプリ脚光 兵庫県職員が開発 被害想定・避難場所を一目で	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
160	2017/7/22	新聞(地方紙)	河北新報	「これからのマニションコミュニティを考える」	佐藤健	執筆
161	2017/7/24	新聞(全国紙)	産経新聞	大震災後の東北沖、南北で海底が逆方向の動き	木戸元之	報道
162	2017/7/26	テレビ	NHK	東北大 沿岸部の地形変化調査へ	今村文彦	報道・コメント掲載
163	2017/7/26	新聞(地方紙)	朝日新聞	「避難所運営」で町民と意見交換	定池祐季	報道・コメント掲載
164	2017/7/27	新聞(全国紙)	朝日新聞	震災直後125人「防がず死」病院のBCP策定進まず-マンパワー・物資不足に陥る例多く	佐々木宏之	報道・コメント掲載
165	2017/7/28	新聞(地方紙)	河北新報	<むすび塾>いのちと地域を守る:観光客の安全どう確保 体験踏まえ対策議論	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
166	2017/7/29	新聞(地方紙)	河北新報	核ごみ通地 国土の7割 最終処分候補で地図公表	遠田晋次	報道・コメント掲載
167	2017/7/30	新聞(全国紙)	読売新聞	ライフストーリー:活断層を探り現場歩く	遠田晋次	企画協力
168	2017/7/30	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「海岸林の津波減災効果に関する研究について」	今村文彦、林見大	出演
169	2017/7/31	ラジオ	NHKラジオ	ゴジだっちゃ!「防災研究最前線」線状降水帯について	森口周二	出演
170	2017/8/1	テレビ	東日本放送	スーパーチャンネルみやぎ:名取市~山元町 宮城県南部 4市町にまたがる新たな活断層 震度6以上か	岡田真介	報道
171	2017/8/2	新聞(地方紙)	河北新報	最新防災アイテム紹介 仙台で3、4日技術展	今村文彦	報道・コメント掲載
172	2017/8/3	ウェブ	地震NEWS	2017年08月02日夜、長野県南部で3回の地震が相次ぐ、北部では直近での強い地震発生 の恐れも?	遠田晋次	報道
173	2017/8/3	新聞(地方紙)	中日新聞	津波の危険「高さ」以外にももし、県内をもし津波が襲ったら・・・	今村文彦	報道・コメント掲載
174	2017/8/4	新聞(全国紙)	毎日新聞	SNS ツイッターで救助要請果たして有効? 消防庁に聞いてみた	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
175	2017/8/4	新聞(全国紙)	毎日新聞	「#救助」被災地は2% ツイッター分析	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
176	2017/8/5	新聞(地方紙)	三陸新報	市自主防災組織連絡協議会の研修会	安倍祥	報道
177	2017/8/6	新聞(地方紙)	河北新報(他2社)	震災津波の教訓、10ヵ国留学生学ぶ 東北大・サマースクール	災害科学国際研究所、小野 裕一	報道
180	2017/8/6	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「自然を読み解く感性を磨くために」	川島秀一	出演
181	2017/8/8	テレビ	NHK	おはよう宮城:防災テーマ国際会議1月開催へ	今村文彦	報道・コメント掲載
182	2017/8/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	仙台で開催の防災国際会議、アジアでの対談議論へ	世界防災フォーラム	報道
183	2017/8/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	防災の国際会議50国会開催11月仙台で	世界防災フォーラム	報道
184	2017/8/10	新聞(地方紙)	三陸新報	市民参加に工夫を-自主防衛連絡協議会 専門家招き研修会	安倍祥	報道
185	2017/8/10	新聞(全国紙)	朝日新聞	活断層探る、宇宙の「目」複雑な動き、衛星で解析	遠田晋次、福島洋	報道・コメント掲載
186	2017/8/11	新聞(地方紙)	河北新報	<むすび塾>第69回ワークショップ 客の安全へ避難対策を-被災観光地の津波防災・専門家から:リスク確認で安心感	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
187	2017/8/11	新聞(全国紙)	毎日新聞	世界防災フォーラム 20カ国以上から500人 概要決まる	今村文彦	報道・コメント掲載
188	2017/8/16	新聞(海外)	Süddeutsche Zeitung(南ドイツ新聞)	Gegen die Katastrophe (災害に備えて)	源栄正人	報道・コメント掲載
189	2017/8/18	新聞(地方紙)	三陸新報	餌イワシを求めて④-島わたりの記122長島-	川島秀一	執筆
190	2017/8/18	新聞(地方紙)	石巻かほく	5カ国10人の技術者、復興状況確認 石巻や女川を訪問	災害科学国際研究所	報道
191	2017/8/19	新聞(地方紙)	三陸新報	餌イワシを求めて⑤-島わたりの記122長島-	川島秀一	執筆
192	2017/8/20	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「自然災害はどのように伝えられてきたのか」	川島秀一	出演
193	2017/8/22	新聞(地方紙)	河北新報	<東北大> ネット無料講座が好評 国内外から6000人受講	今村文彦	報道・コメント掲載
194	2017/8/24	ウェブ	時事通信社(他1社)	世界初!スタンプラリーで避難経路をまわり、体験を「記憶」する新しい防災訓練の形「防災・減災スタンプラリー導入セット」発売	災害科学国際研究所、今村 文彦、野内類、保田真理	報道・コメント掲載
196	2017/8/24	新聞(全国紙)	産経新聞(他1社)	「タイムアタック!」南海トラフ巨大地震をクイズで学ぶ 津波から避難するには? 制限時間設け意識向上(久利)	久利美和	報道
198	2017/8/24	新聞(全国紙)	毎日新聞	平野部の氾濫 避難の時間あった	森口周二	報道・コメント掲載
199	2017/8/25	新聞(地方紙)	河北新報	<311次世代塾> 震災直後の問題考える 第6回講座開催	遠田晋次	報道
200	2017/8/25	ウェブ	NHKアーカイブス	東日本大震災アーカイブス:防災特集-3つの約束で「もしも」の備え	今村文彦	出演・企画協力
201	2017/8/25	ウェブ	NHKアーカイブス	東日本大震災アーカイブス:防災特集-もしもいしで揃える防災グッズ8選	今村文彦	出演・企画協力
202	2017/8/25	ウェブ	Fujitsu Journal	Attaining the SDGs in 2030: How should companies get involved?	災害科学国際研究所、今村 文彦	その他
203	2017/8/27	新聞(地方紙)	東海新報	「気仙史」発行へ始動、行政など要職経験の4氏が歴史文化研究会を設立/大船渡で初会議	蝦名裕一	報道・コメント掲載
204	2017/8/29	新聞(地方紙)	河北新報	<むすび塾>若岩で開催 企業防災在り方探る(丸谷)	丸谷浩明	報道・コメント掲載
205	2017/8/30	新聞(全国紙)	読売新聞(他1社)	災害時、バスを対策本部に・・・武蔵野市と運行会社協定	丸谷浩明	報道・コメント掲載
207	2017/8/31	新聞(地方紙)	三陸新報	災害伝承と博物館展示テーマに防災文化講演会	災害科学国際研究所、川島 秀一	報道
208	2017/9/1	ラジオ	NHKラジオ	【ゴジだっちゃ!】防災研究最前線:防災教育に生かせ! デジタルアーカイブ ※防災の日スペシャル	佐藤翔輔	出演
209	2017/9/1	ラジオ	NHKラジオ	【マイあさラジオ】社会の見方・私の視点:古文書から始まる防災	蝦名裕一	出演

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
210	2017/9/1	新聞 (その他)	日刊工業新聞	防災教育・観光を融合-JALと東北大、東北周辺企画で誘客	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道・資料提供
211	2017/9/1	雑誌・機関誌	NHK放送文化研究所	【放送と調査】2017年9月号 九州北部豪雨でSNSに救助要請 不用意なハッシュタグで情報"埋没"も	佐藤翔輔	資料提供
212	2017/9/1	ラジオ	ラジオNHK第一放送	「マイあさラジオ、社会の見方・私の視点」	蝦名裕一	出演
213	2017/9/3	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「アジアの災害医療対応標準化をめざして(ARCHプロジェクト)」	江川新一	出演
214	2017/9/5	新聞 (全国紙)	毎日新聞社	【九州北部豪雨】発生2ヵ月 心の不調、述べ195人 PTSDの恐れも	富田博秋	報道・コメント掲載
215	2017/9/5	新聞 (地方紙)	苫小牧民報	Jアラート作動も課題浮き彫り 国の対応参考に対策を模索	丸谷浩明	報道・コメント掲載
216	2017/9/6	新聞 (地方紙)	石巻かほく (他1社)	震災伝承：石巻ビジターズ産業ネット、中間組織について意見交換 震災伝承部会コンファレンス	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
218	2017/9/6	新聞 (地方紙)	千歳民報	危険回避 記者コラム	定池祐季	報道・コメント掲載
219	2017/9/6	新聞 (地方紙)	苫小牧民報	危険回避 記者コラム	定池祐季	報道・コメント掲載
220	2017/9/7	ウェブ	リスク対策.com	スタンパラリーで避難行動を疑似体験	災害科学国際研究所	報道
221	2017/9/7	新聞 (地方紙)	三陸新報	沖ノ島参り同行記④-島わたりの記123沖ノ島 (有明海)	川島秀一	執筆
222	2017/9/7	新聞 (地方紙)	河北新報	<共に歩もう>防災教育を後押し	定池祐季	報道
223	2017/9/8	新聞 (地方紙)	三陸新報	沖ノ島参り同行記⑤-島わたりの記123 沖ノ島 (有明海)	川島秀一	執筆
224	2017/9/8	テレビ	NHK	メキシコ沖の地震 日本の沿岸 多少の潮位変化も被心配なし	今村文彦	報道・コメント掲載
225	2017/9/8	新聞 (地方紙)	河北新報	南海トラフ地震の津波被害/「30分以内予測」11月運用へ	越村俊一	報道
226	2017/9/8	新聞 (地方紙)	静岡新聞	<東日本大震災6年半>宮城沖離島支える情熱-最後に支援が来るところ	川島秀一	報道・コメント掲載
227	2017/9/10	新聞 (地方紙)	河北新報	<むすび塾>津波被災の教訓共有 マニュアル周知命守る 職場で定期的に確認を	丸谷浩明	報道
228	2017/9/10	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1社)	<震災6年半>東北大災害研・丸谷浩明教授に聞く/目的は危機管理改善 被災42市町村初動対応検証57% 記録、証言収集困難に	丸谷浩明	報道・コメント掲載
230	2017/9/10	新聞 (地方紙)	中国新聞	慶長の津波	蝦名裕一	報道・コメント掲載
231	2017/9/11	新聞 (地方紙)	岩手日報	熊本応援、防災手拭いで 滝沢の工房	災害科学国際研究所	報道
232	2017/9/13	新聞 (その他)	日刊工業新聞	東北大と気仙沼、16日に防災講演会	災害科学国際研究所、川島秀一	報道
233	2017/9/13	テレビ	仙台放送	ニュース：減災学ぶ！出前授業 石巻市の小学校で	保田真理	報道
234	2017/9/13	新聞 (地方紙)	信濃毎日新聞	支え合ってきた歴史 学校なくなった影響大 行政のサポートが必要	川島秀一	報道・コメント掲載
235	2017/9/13	新聞 (地方紙)	山形新聞	17世紀の大津波 再検証	蝦名裕一	報道・コメント掲載
236	2017/9/14	新聞 (その他)	週刊 経団連タイムズ	第50回東北地方経済懇談会を仙台で開催	災害科学国際研究所	報道
237	2017/9/15	新聞 (地方紙)	四国新聞社	謎の多い慶長奥州地震	蝦名裕一	報道・コメント掲載
238	2017/9/17	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「健康で長寿な社会は災害に強い社会」	江川新一	出演
239	2017/9/18	新聞 (地方紙)	静岡新聞	謎の東北大津波 再検証	蝦名裕一	報道・コメント掲載
240	2017/9/19	ウェブ	リスク対策.com	東北の復興現場を訪ねて～その2、山元町、岩沼市	災害科学国際研究所	報道
241	2017/9/21	新聞 (地方紙)	岐阜新聞	江戸期の大津波再検証	蝦名裕一	報道・コメント掲載
242	2017/9/22	新聞 (地方紙)	岩手日報	謎多い1611年の慶長奥州	蝦名裕一	報道・コメント掲載
243	2017/9/23	新聞 (地方紙)	河北新報	慶長の津波 過小評価か「三陸」よりも広い被災地 発生時刻まちまち 謎多く	蝦名裕一	報道
244	2017/9/25	新聞 (地方紙)	北海道新聞	謎多き慶長三陸津波	蝦名裕一	報道・コメント掲載
245	2017/9/26	新聞 (全国紙)	毎日新聞社	アジア学生交流環境フォーラム2017自然と生きる 尊さ 被災地めぐり考える	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
246	2017/9/26	その他	Nature News & Comments	Deadly Mexico quakes not linked -Despite close timing, researchers doubt that the first big tremor set off the second	遠田晋次	報道・企画協力
247	2017/9/29	新聞 (地方紙)	河北新報	いのちと地域を守る：<むすび塾>水害への備え 児童学ぶ 豪雨の被災施設訪問	保田真理	報道
248	2017/10/1	雑誌・機関誌	MUNDI (JICA機関誌)	特集 防災 命と暮らしの基盤をつくる	小野 裕一	報道・コメント掲載
249	2017/10/2	ウェブ	TEAM防災ジャパン	【普及啓発】豪雨の被災施設訪問 水害への備えを児童学ぶ	保田真理	報道
250	2017/10/3	新聞 (地方紙)	埼玉新聞	17世紀の大津波 再検証	蝦名裕一	報道・コメント掲載
251	2017/10/5	ラジオ	NHK大阪	関西ラジオワイド：防災コラム「語りつぐことの大切さ」	佐藤翔輔	出演
252	2017/10/6	新聞 (全国紙)	朝日新聞社	SNSの救助要請「受け血づくりを」専門家に聞く	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
253	2017/10/11	新聞 (全国紙)	SNS情報の垂れ流し状態 「受け血づくり」が課題	佐藤翔輔	報道・コメント掲載	
254	2017/10/12	新聞 (地方紙)	大分合同新聞	災害史 学ぼう/当時の被害や貴重な教訓を伝える/自治体なお意識低く/解説などに膨大な時間 民間との協力が鍵	佐藤大介	報道・コメント掲載
255	2017/10/12	ラジオ	NHKラジオ	熊本・東北 心の健康のいま	富田博秋	企画協力
256	2017/10/14	新聞 (地方紙)	河北新報	災害伝承や保管 文化的意義探る-気仙沼で講演会	災害科学国際研究所、川島秀一	報道
257	2017/10/14	新聞 (地方紙)	十勝毎日新聞	もっと詳しく！ 避難所 使い勝手良く/住民主体にシフト/広がる運営見直し	定池祐季	報道・コメント掲載
258	2017/10/15	新聞 (地方紙)	河北新報社	紙面センサー：東北 多角的視点で検証	佐藤翔輔	執筆
259	2017/10/19	新聞 (地方紙)	三陸新報社	山んぼの藁ぞうり④-島わたりの記124 戸島 (2)	川島秀一	執筆
260	2017/10/20	新聞 (地方紙)	三陸新報社	山んぼの藁ぞうり⑤-島わたりの記124 戸島 (2)	川島秀一	執筆
261	2017/10/20	新聞 (地方紙)	三陸新報社	小野寺教諭(陸上中)に優秀賞 日本自然災害学会 防災教育の実績評価	佐藤翔輔	資料提供
262	2017/10/20	新聞 (全国紙)	毎日新聞	<くらしナビ・気象・防災>南海トラフ津波被害を推定	越村俊一	報道
263	2017/10/27	新聞 (地方紙)	北海道新聞	北海道新聞 防災思想の普及に貢献、防災担当大臣表彰受賞 (宮坂建設工業) (対談記事)	定池祐季	報道・コメント掲載
264	2017/10/30	新聞 (地方紙)	河北新報社	<むすび塾>夜間訓練で避難経路確認 世代を超え防災意識育む	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
265	2017/10/30	新聞 (地方紙)	河北新報社	南海トラフ対策 課題探る 高知・安芸で「むすび塾」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
266	2017/10/31	テレビ	仙台放送	世界防災フォーラム「浪板虎舞いのちの石碑」を前日祭で披露	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
267	2017/10/31	新聞 (地方紙)	十勝毎日新聞	ゲームで避難所運営/芽室 町策定マニュアル活用	定池祐季	報道・コメント掲載
268	2017/11/1	新聞 (地方紙)	河北新報社	<世界防災フォーラム>仙台で25日開幕 震災の教訓共有へ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
269	2017/11/1	その他	日本航空株式会社	明日の翼 (Vol.09/2017)：東日本大震災の経験を国内外へ発信 東北の地域創生を後押しする「防災ツーリズム」とは	今村文彦、世界防災フォーラム	その他
270	2017/11/4	新聞 (全国紙)	朝日新聞社	救助要請、ツイットだけじゃダメ 7月の九州豪雨、224件の行方たどる	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
271	2017/11/4	ラジオ	ラジオ石巻	イオンモール石巻10周年記念特番ラジオ石巻サテライトスタジオ～ラジオで防災 音楽のチカラ～「防災シンポジウム」	佐藤翔輔	出演
272	2017/11/5	新聞 (地方紙)	河北新報社	正しい情報把握を 石巻・防災シンポ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
273	2017/11/5	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「世界津波の日について」	今村文彦、サッパシー・アウト	出演
274	2017/11/5	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「被災地域のこころの健康と人との繋がり」	富田博秋	出演
275	2017/11/6	新聞 (地方紙)	河北新報 (他2社)	<津波防災の日>「次世代塾」受講の大学生、東京で震災教訓伝える	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
278	2017/11/6	新聞 (地方紙)	八重山毎日新聞	世界津波の日～津波の教訓、防災教育に	災害科学国際研究所	報道
279	2017/11/6	テレビ	ウェザーニューズ減災ナビ	減災と世界防災フォーラムについてのコメント	小野 裕一	出演
280	2017/11/7	新聞 (地方紙)	高知新聞社	むすび塾×いのぐ塾 in 安芸 自分の命は自分で守る	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
281	2017/11/7	新聞 (地方紙)	高知新聞社	むすび塾×いのぐ塾 in 安芸 出席者ひとこと	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
282	2017/11/9	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム>「BOSAI」被災地から 仙台で25～28日	今村文彦	報道・コメント掲載
283	2017/11/11	新聞 (地方紙)	河北新報	<防災・減災のページ>むすび塾：南海トラフに備え夜間訓練 2ヵ月に1度 避難訓練・状況に応じた避難体得	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
284	2017/11/15	新聞 (地方紙)	石巻かほく	震災伝承活動の広域ネットワーク結成へ 17日に検討会 団体、官学が広域連携 防災学習 人材育成も	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
285	2017/11/15	新聞 (地方紙)	河北新報	<紙面センサー>むすび塾活動学び多く	佐藤翔輔	執筆
286	2017/11/16	新聞 (地方紙)	三陸新報	防災文化講演会 18日気仙沼	災害科学国際研究所、蝦名 裕一	報道
287	2017/11/16	新聞 (地方紙)	福島民友	放射線・防災教育フォーラム「小中学生が放射線の成果発表モデル7校、正しい知識発信へ」	佐藤健	執筆
288	2017/11/17	新聞 (全国紙)	時事通信	震災記録で連携の覚書 ハーバード大と宮城県多賀城市	柴山明寛	資料提供
289	2017/11/17	新聞 (地方紙)	河北新報	日米連携で震災記憶伝承 多賀城市とライシャワー日本研究所	柴山明寛	資料提供
290	2017/11/17	その他	震災学Vol. 11	仙台市職員からみた震災記録チームの試み 自治体職員の震災体験を活かす「Team Sendai」(中林加南子 著)	佐藤翔輔	企画協力
291	2017/11/18	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	世界防災フォーラム25日開幕 先進地・仙台PR	世界防災フォーラム	報道
292	2017/11/19	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「熊本地震から1年半、熊本と宮城のこころのケアでの連携」	富田博秋	出演
293	2017/11/20	新聞 (地方紙)	河北新報	「がんばろう!石巻」看板そばのノートに訪問者の思い7000件超	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
294	2017/11/20	新聞 (地方紙)	神戸新聞	災害とSNS 迅速な発信 支援に活用 有益情報の見極めが課題	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
295	2017/11/20	ウェブ	Times Higher Education	Research into disasters 'heavily skewed towards richest countries'	泉貴子	報道
296	2017/11/20	その他	Science Daily	Scientific research on disaster reprints 0.22 percent of global scholarly output	泉貴子	報道・コメント掲載
297	2017/11/21	新聞 (地方紙)	三陸新報	海岸林の利用考えて 気仙沼・防災文化講演会で提言	災害科学国際研究所、川島 秀一、蝦名裕一	報道
298	2017/11/21	新聞 (全国紙)	時事通信社	世界防災フォーラム、仙台で25日開幕=「より良い復興」、震災の知見発信へ	今村文彦	報道・コメント掲載
299	2017/11/21	新聞 (地方紙)	毎日新聞	「見聞地」米大と連携	柴山明寛	資料提供
300	2017/11/22	新聞 (その他)	朝日小学生新聞社	高校生らが防災活動を発表 復興祈念コンサートも	世界防災フォーラム	報道
301	2017/11/23	新聞 (地方紙)	河北新報	震災復興を外国語で 仙台市と被災4県、訪日旅行者向けパンフ作製	世界防災フォーラム	報道
302	2017/11/24	新聞 (全国紙)	朝日新聞	富士通など、川崎市においてICT活用による津波被害軽減に向けた共同プロジェクトを開始	災害科学国際研究所	報道
303	2017/11/24	新聞 (全国紙)	産経新聞社(他1社)	25日から仙台で世界防災フォーラム 震災教訓など知識共有	今村文彦	報道・コメント掲載
305	2017/11/24	新聞 (地方紙)	河北新報(他3社)	<世界防災フォーラム>「BOSAI」の知見、仙台から発信 asmus開幕	世界防災フォーラム	報道
309	2017/11/24	新聞 (全国紙)	産経新聞	災害時、女性もリーダーシップを	世界防災フォーラム	報道
310	2017/11/24	新聞 (地方紙)	河北新報	世界防災フォーラム/「BOSAI」連携の起点に	世界防災フォーラム	報道
311	2017/11/24	新聞 (全国紙)	読売新聞	世界防災フォーラム開幕を前に④津波脅威 高校生の言葉で	世界防災フォーラム	報道
312	2017/11/24	テレビ	NHK	てれまさむね:	越村俊一、佐々木宏之	出演
313	2017/11/25	新聞 (地方紙)	三陸新報	気仙沼市の復興祈念公園 年明けに具体案公募 施設検討委が初会合	川島秀一	報道
314	2017/11/25	新聞 (地方紙)	河北新報(他11社)	(共同通信配信)被災地仙台で世界防災フォーラム 初めて開催	世界防災フォーラム	報道
326	2017/11/25	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	被災地仙台から防災発信 初の世界フォーラム開幕	世界防災フォーラム	報道
327	2017/11/25	新聞 (全国紙)	毎日新聞(他1社)	世界防災フォーラム:仙台で初開催 これからの防災、きょうから議論	世界防災フォーラム	報道
329	2017/11/25	テレビ	NHK	「世界防災フォーラム」前日祭	今村文彦	報道
330	2017/11/25	新聞 (地方紙)	河北新報	避難所の太陽光発電 余剰電力活用のための次世代システム構築へ	世界防災フォーラム	報道
331	2017/11/25	テレビ	仙台放送	世界防災フォーラム開幕 28日まで	世界防災フォーラム	報道
332	2017/11/25	新聞 (全国紙)	読売新聞	世界防災フォーラム開幕を前に⑤若い人材 地元育成から	世界防災フォーラム	報道
333	2017/11/25	テレビ	NHK	おはよう日本	越村俊一、佐々木宏之	出演
334	2017/11/26	新聞 (その他)	公明新聞	世界防災フォーラム開幕 被災地の経験と教訓を発信	世界防災フォーラム	報道
335	2017/11/26	新聞 (全国紙)	時事通信社	被害軽減策を議論=世界防災フォーラム開幕	世界防災フォーラム	報道
336	2017/11/26	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム>伝統芸能や仙台フィル…被災地の文化が開幕彩る	川島秀一	報道
337	2017/11/26	新聞 (地方紙)	河北新報(他1社)	世界防災フォーラム開幕「BOSAI」の知見多彩に発信	今村文彦	報道・コメント掲載
339	2017/11/26	テレビ	NHK	きょうから世界防災フォーラム 防災の最新研究を紹介	世界防災フォーラム	報道
340	2017/11/26	テレビ	NHK	「世界防災フォーラム」きょうから仙台で	世界防災フォーラム	報道
341	2017/11/26	テレビ	NHK	世界防災フォーラム 26日開会	世界防災フォーラム	報道
342	2017/11/26	テレビ	NHK(他1社)	「世界防災フォーラム」始まる	世界防災フォーラム	報道
344	2017/11/26	テレビ	仙台放送	「世界防災フォーラム」始まる 本格的な議論スタート	今村文彦	報道
345	2017/11/26	新聞 (全国紙)	毎日新聞	世界防災フォーラム:前日祭 被災地の若者が報告「BOSAI」支える人の絆	世界防災フォーラム	報道
346	2017/11/26	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	防災、国際的に連携を 仙台で世界フォーラム	世界防災フォーラム	報道
347	2017/11/26	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	防災の技術・知恵 被災地・仙台から 国際フォーラム開幕	世界防災フォーラム	報道
348	2017/11/26	新聞 (地方紙)	岩手日報	仙台で初の世界防災フォーラムきょうから、900人超参加	世界防災フォーラム	報道
349	2017/11/26	新聞 (地方紙)	岩手日報	「BOSAI」共通語に	今村文彦	報道
350	2017/11/26	ウェブ	アリティーブィー	FB:今日から世界防災フォーラムが行われています	世界防災フォーラム	その他
351	2017/11/26	新聞 (全国紙)	読売新聞	「震災に学べ」若者語る 仙台で世界防災フォーラム前日祭	世界防災フォーラム	報道
352	2017/11/26	新聞 (全国紙)	毎日新聞(他2社)	世界防災フォーラム:東日本大震災教訓を基に、仙台で開催	世界防災フォーラム	報道
355	2017/11/27	ウェブ	日経BP	富士通、川崎市臨海部の津波被害軽減へ東大震災研などと共同プロジェクトを開始	災害科学国際研究所	その他
356	2017/11/27	新聞 (その他)	電波新聞	川崎市臨海部で津波対策 東大、東北大の研究所などと覚書	災害科学国際研究所	報道
357	2017/11/27	新聞 (その他)	化学工業日報(他3社)	ICTで津波被害軽減 川崎市などと技術開発	災害科学国際研究所	報道
361	2017/11/27	新聞 (地方紙)	河北新報(他2社)	<世界防災フォーラム>セッション開幕 災害リスク議論本格化	今村文彦	報道
364	2017/11/27	新聞 (地方紙)	岩手日報	命を守る議論 深く被災経験伝え続けて	今村文彦、佐藤翔輔	報道
365	2017/11/27	新聞 (地方紙)	岩手日報	国超え教訓つなぐ 仙台で防災フォーラム開会	世界防災フォーラム	報道
366	2017/11/27	新聞 (全国紙)	産経新聞(他1社)	震災教訓話し合う 仙台で世界防災フォーラムが本格開幕	今村文彦	報道・コメント掲載
368	2017/11/27	新聞 (地方紙)	千葉日報(他22社)	(共同通信社配信)防災に役立つ最新技術紹介、仙台 企業や研究者	世界防災フォーラム	報道
391	2017/11/27	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム>女性や障害者 参加重要	世界防災フォーラム	報道
392	2017/11/27	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム>身近な備え、見て触れて 関連2イベント開催	世界防災フォーラム	報道
393	2017/11/27	ウェブ	Science Portal(他1社)	「サイエンスアゴラ2017」が開幕	世界防災フォーラム	報道
395	2017/11/27	新聞 (その他)	公明新聞	「3・11」知見と教訓 共有へ 世界防災フォーラム 復興、減災で議論40カ国の代表ら 市民参加のイベントも	世界防災フォーラム、今村文彦	報道
396	2017/11/27	新聞 (その他)	日刊工業新聞	防災産業展、最新の防災製品一堂に きょうまで開催	世界防災フォーラム	報道



	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
397	2017/11/27	新聞 (全国紙)	朝日新聞	世界防災フォーラム開幕「BOSAI」リスク減へ議論	世界防災フォーラム	報道
398	2017/11/27	ウェブ	JCOM仙台	デイリーニュース：世界防災フォーラム前日祭・防災国体&防災産業展	世界防災フォーラム	報道
399	2017/11/27	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	防災へ国際連携を 仙台で世界フォーラム	世界防災フォーラム	報道
400	2017/11/28	ウェブ	Science Portal (他2社)	日本の災害科学研究は、数は多いが影響力が小さい	泉貴子	報道
403	2017/11/28	新聞 (全国紙)	時事通信社 (他3社)	世界防災フォーラム開幕-実行委「震災の経験共有」	今村文彦	報道
407	2017/11/28	テレビ	仙台放送	世界防災フォーラムが開幕 災害研究の専門家など6000人以上が参加	今村文彦	報道
408	2017/11/28	テレビ	NHK	「世界防災フォーラム」閉会	今村文彦	報道
409	2017/11/28	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム> 自社に合ったBCPを被災企業などパネル討論	世界防災フォーラム	報道
410	2017/11/28	新聞 (地方紙)	河北新報 (他2社)	<世界防災フォーラム> 海外参加者が被災地スタディーツアー 震災の教訓世界へ	世界防災フォーラム	報道
413	2017/11/28	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1社)	<世界防災フォーラム> 事前投資の必要性、命守る知見共有	越村俊一	報道
415	2017/11/28	新聞 (地方紙)	河北新報	平時から啓発報道をメディアの役割議論	災害科学国際研究所	報道
416	2017/11/28	新聞 (全国紙)	読売新聞	防災に先端技術活用 世界防災フォーラム 自動ドローン実演	世界防災フォーラム	報道
417	2017/11/28	新聞 (全国紙)	産経新聞	世界防災フォーラム 通学マップ・津波標識作成 宮城・多賀城高生ら取り組みを紹介	世界防災フォーラム	報道
418	2017/11/28	テレビ	日本テレビ	日テレNEWS 24：「世界防災フォーラム」開催中	世界防災フォーラム	報道
419	2017/11/28	ウェブ	Seiyo Online	聖教ニュース：仙台で世界防災フォーラム	世界防災フォーラム	報道
420	2017/11/28	新聞 (その他)	公明新聞	<世界防災フォーラム> 若い力で教訓伝える 宮城・多賀城高の生徒が発表	世界防災フォーラム	報道
421	2017/11/28	新聞 (全国紙)	朝日新聞	多賀城高の取り組みに注目 世界防災フォーラム	世界防災フォーラム	報道
422	2017/11/28	その他	サイエンスポータル (JST)	「日本の災害科学研究は、数は多いが影響力が小さい」	泉貴子	報道・コメント掲載
423	2017/11/29	新聞 (全国紙)	読売新聞	防災 世界の連携強化 フォーラム閉幕	今村文彦	報道
424	2017/11/29	新聞 (地方紙)	岩手日報 (他1社)	災害「忘れない」宣言 仙台、世界防災フォーラム閉幕	今村文彦	報道
426	2017/11/29	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム> 防災・減災推進の起点に立った意義大きく	世界防災フォーラム	報道
427	2017/11/29	新聞 (地方紙)	河北新報	被災地から学ぶ 仙台・世界防災フォーラム閉幕	世界防災フォーラム	報道
428	2017/11/29	新聞 (地方紙)	河北新報	災害に強い復興 撮影 比の記者が東松島取材	世界防災フォーラム	報道
429	2017/11/29	新聞 (地方紙)	河北新報 (他2社)	<世界防災フォーラム> 連携強化し震災教訓を共有 災害から命守る誓い新たに	今村文彦	報道
432	2017/11/29	新聞 (全国紙)	毎日新聞	世界防災フォーラム：「BOSAI」知見深めよう 6000人参加 仙台で閉幕	今村文彦	報道
433	2017/11/29	ウェブ	リスク対策.com	フェイクニュースを災害時に生かせ！「災害支援ハブ」、3年間で20億人の安否確認	世界防災フォーラム	報道
434	2017/11/29	ウェブ	聖教新聞ウェブ	聖教ニュース：仙台での世界防災フォーラム 宗教者の貢献巡りシンポジウム	世界防災フォーラム	報道
435	2017/11/29	新聞 (その他)	建設通信新聞	世界防災フォーラム・東北整備局がセッション「より良い復興」へ議論	世界防災フォーラム	報道
436	2017/11/29	新聞 (その他)	公明新聞	世界防災フォーラム閉幕 より良い復興へ飛躍「仙台枠組」の推進を確認	今村文彦	報道
437	2017/11/29	新聞 (全国紙)	朝日新聞	世界防災フォーラム閉幕	今村文彦	報道
438	2017/11/29	新聞 (その他)	建設新聞	震災からの教訓を発信・共有 世界防災フォーラム	丸谷浩明	報道
439	2017/11/29	ウェブ	TEAM防災ジャパン (内閣府)	「日本の災害科学研究は、数は多いが影響力が小さい」	今村文彦、泉貴子	報道・コメント掲載
441	2017/11/30	新聞 (その他)	朝日小学生新聞社	人々の笑顔が復興のゴール	世界防災フォーラム	報道
442	2017/12/1	新聞 (その他)	科学新聞	災害科学 成果は実践を	泉貴子	報道・コメント掲載
443	2017/12/3	新聞 (その他)	朝日小学生新聞社	被災地から広める「BOSAI」	世界防災フォーラム	報道
444	2017/12/3	テレビ	NHK	こども手話ウィークリー：“世界防災フォーラム”被害を減らすには？	世界防災フォーラム	報道
445	2017/12/4	新聞 (地方紙)	河北新報	Road is Future 復興、そして未来へ。～高速道路整備と宮城県の発展～ 【特別シンポジウム】NEXCO東日本東北支社仙台工事事務所創立50周年	奥村誠	報道・コメント掲載
446	2017/12/6	ウェブ	Science Portal	<JST共催> 東日本大震災の悲しい記憶と経験を世界と未来に - 「災害に学び、未来へつなぐ」をテーマに「世界防災フォーラム前日祭」を開催 (今村)	今村文彦	報道
447	2017/12/6	新聞 (地方紙)	三陸新報	危険感も避難せず 昨年11月の津波警報時 階上中学生が行動調査	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
448	2017/12/6	新聞 (全国紙)	日経新聞	震災、アーカイブがつなぐ (ばーそん)	柴山明寛	報道・コメント掲載
449	2017/12/7	新聞 (地方紙)	河北新報	<復興の設計図> 女川・公民連携の軌跡 第3部・共創 (下) 質とスピード両立を実現	平野勝也	報道
450	2017/12/8	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1社)	<東日本大震災> 被災者の暮らしの記憶後世へ 宮城・亶理で活動NPO 仮設住宅展示へ 災害への対応過程学べる貴重な施設	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
452	2017/12/10	雑誌・機関誌	日本復興学会・News letter Vol. 29	2017神戸大会・分科会報告 分科会1・災害復興におけるKJ法の再考～分析手法と合意形成手法、2つの役割から考える～	佐藤翔輔	資料提供
453	2017/12/11	ウェブ	富士通総研	防災における世界の潮流-仙台防災枠組と世界防災フォーラム2017-	世界防災フォーラム	その他
454	2017/12/12	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ：未来へ伝えるために 語り部ら連携し新組織	佐藤翔輔	出演
455	2017/12/12	新聞 (その他)	公明新聞	世界防災フォーラムから 災害リスク減への視点<上> 「仙台枠組」の推進へ総動員	世界防災フォーラム	報道
456	2017/12/13	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム> 防災 被災地から世界へ 減災 連携が大きな力に / 教訓の伝承：生の言葉が心動かす	佐藤翔輔	報道
457	2017/12/13	新聞 (地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム> 防災 被災地から世界へ 減災 連携が大きな力に / 組織越えた取り組み大切	今村文彦	報道
458	2017/12/13	新聞 (地方紙)	河北新報	世界防災フォーラム詳細：教訓 産学官民で共有	今村文彦	報道
459	2017/12/13	ラジオ	NHKラジオ	ゴジだっちゃ！「防災研究最前線」江戸時代の古文書に防災のヒント	蝦名裕一	出演
460	2017/12/13	新聞 (その他)	日刊工業新聞	「BOSAI」を世界に発信-市民が主役の防災へ	今村文彦	報道
461	2017/12/13	新聞 (その他)	公明新聞	世界防災フォーラムから 災害リスク減への視点<中> 3.11教訓に日本発のモデルを構築	小野裕一	報道
462	2017/12/14	新聞 (その他)	公明新聞	世界防災フォーラムから 災害リスク減への視点<下> 経験・知見のグローバル化へ	今村文彦、小野裕一	報道
463	2017/12/14	新聞 (地方紙)	静岡新聞	女性意見を避難所運営に	定池祐季	報道
464	2017/12/15	新聞 (地方紙)	河北新報	紙面センサー：復興モデルの記録重要	佐藤翔輔	執筆
465	2017/12/15	テレビ	NHK	クローズアップ東北：直下型地震にどう備えるか～仙台平野に潜む活断層～	源栄正人、遠田晋次、岡田真介	出演
466	2017/12/15	その他	地域防災	防災推進国民大会・世界防災フォーラム/世界ダガス会議・防災産業展 一体開催「大規模災害に備える～みんなの連携が力になる防災～」	世界防災フォーラム	その他
467	2017/12/18	新聞 (地方紙)	北海道新聞	17年歳末、まだ「奥尻から東北へ」	定池祐季	報道・コメント掲載
468	2017/12/19	ラジオ	NHK-WORLD	The World Bosai Forum, Part 1_Build Back Better	世界防災フォーラム	報道
469	2017/12/19	ウェブ	TEAM防災ジャパン	リレー寄稿：今村文彦【ぼうさいこくたい編】	今村文彦	報道
470	2017/12/19	テレビ	NHK (他1社)	ニュース：千島海溝 巨大地震 切迫の可能性高い地震調査委	今村文彦	報道
472	2017/12/19	新聞 (全国紙)	読売新聞	生地鼻灯台を津波避難場所に	今村文彦	報道
473	2017/12/20	ラジオ	NHK-WORLD	The World Bosai Forum, Part 2: Challenges and Efforts in Other Countries	世界防災フォーラム	報道
474	2017/12/20	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他2社)	被災者の救助要請ツイート、他投稿に埋没 シンポで報告	佐藤翔輔	報道
477	2017/12/21	新聞 (地方紙)	河北新報	東北大と地方整備局 災害発生時の連携策を協議	災害科学国際研究所、今村文彦、児玉栄一	報道

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
478	2017/12/22	新聞(地方紙)	三陸新報	唐桑で防災講座開催	安倍祥	報道
479	2017/12/22	テレビ	仙台放送	東北大と地方整備局が連携強化	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
480	2017/12/22	新聞(その他)	保険毎日新聞	世界防災フォーラム開催:防災・減災に向けた取り組み紹介「大規模自然災害テーマに」	世界防災フォーラム、今村文彦	報道
481	2017/12/22	新聞(その他)	保険毎日新聞	ぼうさいこくたい:防災教育テーマにシンポジウム 専門家ら引きパネルディスカッション	佐藤健、ぼうさいこくたい	報道
482	2017/12/23	その他	The Japan Times	A year of discoveries gives scientists something to aim for in 2018	有働恵子	その他
483	2017/12/25	新聞(地方紙)	河北新報	社説:防災・減災国際会議の手応え/被災地起点の発信継続を	災害科学国際研究所	報道
484	2017/12/26	新聞(地方紙)	三陸新報	次世代育てる仕組みを-防災講話で運営学ぶ-	安倍祥	報道
485	2017/12/26	ウェブ	Weathernews(他1社)	スマトラ島沖地震から13年!震源近くの島民を救ったものとは?	今村文彦	報道
487	2017/12/27	新聞(その他)	電気新聞	震災の経験 安全対策に 防災会議で菅原氏が講演	世界防災フォーラム	報道
488	2017/12/29	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:スペシャル2017 その先に...震災いかに後世に語り部たちは今	佐藤翔輔	出演
489	2017/12/29	新聞(全国紙)	毎日新聞	くらしナビ・気象・防災:地球規模で災害情報管理	災害科学国際研究所、小野裕一	報道
490	2018/1/1	新聞(地方紙)	河北新報	第67回河北文化賞 2個人3団体に 東日本大震災の復興支援と実践的防災学の創生	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
491	2018/1/1	その他	近代消防	防災推進国民大会・世界防災フォーラム/世界ダボス会議・防災産業展一体開催「大規模災害に備える～みんなの連携が力になる防災～」	世界防災フォーラム	その他
492	2018/1/3	ウェブ	タイPBS	日本の災害科学専門家とNHK WORLDがタイPBSを訪問 災害情報発信と災害対策について意見交換	小野裕一	報道
493	2018/1/4	新聞(全国紙)	朝日新聞社	「真の救助要請、埋没」災害時ツイート分析の准教授「発信しないマナーを」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
494	2018/1/5	新聞(地方紙)	神奈川新聞	市など4者が共同研究 波と人読み 逃げ道確保	災害科学国際研究所	報道
495	2018/1/5	その他	チューラーロンコン大学	Professors and researchers from Tohoku University and NHK, Japan, joined the meeting on the linkage between media and academia for disasters	小野裕一、智片通博、中鉢奈津子	報告
496	2018/1/7	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES! 防災ワンポイント情報!	蝦名裕一	出演
497	2018/1/9	新聞(全国紙)	朝日新聞	震災アーカイブ、各地の現状報告 11日に東北大でシンポ	災害科学国際研究所	報道
498	2018/1/9	新聞(地方紙)	朝日新聞	震災アーカイブ 各地の現状報告	柴山明寛	資料提供
499	2018/1/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大とユニオンツールと東洋紡、「産後うつ」研究向け妊婦用スマートテキストを開発	富田博秋	報道
500	2018/1/10	ウェブ	マイナビニュース(他1社)	産後うつ研究向け妊婦用スマートウェアを開発-装着感と測定精度を両立	富田博秋	報道
502	2018/1/10	新聞(その他)	繊研新聞	妊婦用スマートテキストを開発 東洋紡など共同で	富田博秋	報道・コメント掲載
503	2018/1/10	ウェブ	bp-affairs	「産後うつ」研究に向けた妊婦用スマートテキスト	富田博秋	報道
504	2018/1/10	ウェブ	月刊事業構想	妊婦用のウェアラブルデバイスで産後うつ研究	富田博秋	報道
505	2018/1/10	ウェブ	Apparel Business Magazine	「産後うつ」研究向け妊婦用スマートテキスト開発	富田博秋	報道
506	2018/1/10	ウェブ	加工技術研究会	【スマートテキスト】ToMMo、ユニオンツール、東洋紡、3共同で「産後うつ」研究向け妊婦用品を開発	富田博秋	報道・コメント掲載
507	2018/1/10	新聞(その他)	日刊工業新聞	妊婦用スマート衣料開発 東洋紡 産後うつ兆候研究に活用	富田博秋	報道・コメント掲載
508	2018/1/10	新聞(その他)	繊維ニュース	東洋紡、東北大、ユニオンツール 繊維で「産後うつ」対策「COCOMI」活用し共同研究	富田博秋	報道・コメント掲載
509	2018/1/10	新聞(地方紙)	河北新報	<災害時BCP>東北の市町村策定率44.1%とまり 復興優先、職員の手回らず	丸谷浩明	報道・コメント掲載
510	2018/1/11	新聞(その他)	化学工業新聞	妊婦用スマート布地 心拍測り産後うつ予測	富田博秋	報道
511	2018/1/11	ウェブ	医療ニュース	産後うつ研究向けの妊婦用スマートテキストを開発-東北大ら	富田博秋	報道
512	2018/1/11	新聞(地方紙)	西日本新聞(他1社)	不要不急の投稿が9割超 九州豪雨時の救助要請ツイッター 被災者の「SOS」埋没	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
514	2018/1/11	ラジオ	NHKラジオ	【ゴジだっちゃ!】「防災研究最前線」大量殺傷型テロ対応セミナー始まる	佐々木宏之	出演
515	2018/1/11	新聞(地方紙)	河北新報	<防災・減災のページ>若き経験者 伝承の力に「語ることを語る 大事」	定池祐季	報道
516	2018/1/11	テレビ	東日本放送	東日本大震災から6年10カ月『次世代へ伝えていくために』震災伝承の有識者会議	今村文彦	報道・コメント掲載
517	2018/1/11	テレビ	東日本放送(他1社)	東日本大震災から6年10カ月『次世代へ伝えていくために』東日本大震災アーカイブシンポジウム 資料の名称「ガイドラインを」	柴山明寛	報道
519	2018/1/11	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1社)	「真の救助要請、埋没」災害時のツイート分析の准教授「発信しないマナーを」	佐藤翔輔	報道
521	2018/1/12	新聞(その他)	保険毎日新聞	世界防災フォーラム:産官学連携セッション開催 巨大自然災害への財務的な備えなど議論	世界防災フォーラム、今村文彦、寄附研究部門	報道
522	2018/1/13	新聞(全国紙)	読売新聞	災害教訓どう伝える 専門家らが課題報告	災害科学国際研究所	報道
523	2018/1/13	新聞(全国紙)	読売新聞	災害教訓どう伝える 専門家らが課題報告 仙台	柴山明寛	資料提供
524	2018/1/14	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES! 防災ワンポイント情報!	蝦名裕一	出演
525	2018/1/15	新聞(地方紙)	河北新報	<紙面センサー>初売りへの気概感じた	佐藤翔輔	執筆
526	2018/1/15	新聞(全国紙)	週刊「世界と日本」	日本一の通学路(新春テーマ随想-母校・ふるさと)	川島秀一	執筆
527	2018/1/17	テレビ	TBSテレビ	JNNニュース:復興への日々#137津波からの生還「語り部」高校生「あの時」	佐藤翔輔	出演
528	2018/1/17	新聞(全国紙)	朝日新聞	(てんでんこ)奥尻から:17 研究の道へ	定池祐季	報道・コメント掲載
529	2018/1/17	新聞(地方紙)	河北新報	<河北文化賞>2個人3団体が受賞 きょう贈呈式	災害科学国際研究所	報道
530	2018/1/17	新聞(全国紙)	産経新聞	特集阪神大震災23年:過去の教訓今こそ学べ	遠田晋次	企画協力
531	2018/1/18	新聞(地方紙)	河北新報	<河北文化賞>東北発展輝く功績 2個人3団体に贈呈	災害科学国際研究所	報道
532	2018/1/18	新聞(地方紙)	河北新報	大学の季刊誌 風化防止へ震災特集 年1回、今年のテーマは「芸術・文化」	川島秀一	報道
533	2018/1/18	新聞(地方紙)	三陸新報社	最後のカツオブ一本釣り④-島わたりの記125沖繩本島	川島秀一	執筆
534	2018/1/19	新聞(地方紙)	神戸新聞社	教訓を疑え(5)情報整理・分析、提供法を模索	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
535	2018/1/19	新聞(地方紙)	三陸新報社	最後のカツオブ一本釣り⑤-島わたりの記125沖繩本島	川島秀一	執筆
536	2018/1/24	新聞(地方紙)	河北新報	犠牲繰り返さぬ報道を「災害とメディア」研究会発足	今村文彦	報道・コメント掲載
537	2018/1/25	新聞(地方紙)	石巻かほく	メモリアルネット、第2回大会 事業概要やキャッチコピー選考	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
538	2018/1/25	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	「3・11からの学び塾」東日本大震災の教訓学ぶ 市町村職員向け研修会	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
539	2018/1/25	新聞(全国紙)	産経新聞	産経新聞 震災教訓に危機管理向上へ 東北大で防災研修会	災害科学国際研究所、丸谷浩明	報道
540	2018/1/25	新聞(地方紙)	三陸新報	変動観測で地震予測を 防災フォーラムに120人	日野亮太、岡田真介	報道
541	2018/1/26	新聞(地方紙)	神戸新聞(他2社)	災害から歴史資料守る全国ネット構築 神大、東北大など	災害科学国際研究所	報道
544	2018/1/26	新聞(地方紙)	北海道新聞	ゲーム形式で教育 かるた、カードで防災学ぶ	定池祐季	報道・コメント掲載
545	2018/1/27	新聞(全国紙)	産経新聞	南海トラフ地震を前に増加する内陸地震に警戒せよ 近畿、首都圏は要注意 地震学研究者が警告	遠田晋次	報道・コメント掲載
546	2018/1/29	ウェブ	地震NEWS	2018年01月29日専門家が「首都直下地震」と「西日本内陸地震」への注意を喚起	遠田晋次	その他
547	2018/1/30	新聞(地方紙)	河北新報	地域防災 在り方学ぶ SBL自主研究会	佐藤健	執筆

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
548	2018/1/30	雑誌・機関誌	EOS (American Geophys. Union news article)	Were Mexico's September Quakes Chance or a Chain Reaction?	遠田晋次	企画協力
549	2018/1	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「身近なものであったまろう 編」(随時放送)	定池祐季	出演
550	2018/1	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「女性の冬の備え 編」(随時放送)	定池祐季	出演
551	2018/1	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「使わなくなった衣類を活用 編」(随時放送)	定池祐季	出演
552	2018/1	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス「南海トラフの情報編 (ラジオ用)」(随時放送)	定池祐季	出演
553	2018/2/2	新聞(地方紙)	河北新報	<世界防災フォーラム>来秋の第2回へ準備委設置方針 実行委最終会合	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
554	2018/2/2	新聞(地方紙)	岩手日報	自主防災の事例共有 関係者が研修会	柴山明寛	報道・コメント掲載
555	2018/2/6	テレビ	NHK	ニュース:津波に耐えるライフジャケットを 実用化向け研究へ	災害科学国際研究所、栗山進一	報道・コメント掲載
556	2018/2/10	新聞(地方紙)	河北新報	<リアスの風>震災忘れず備えを 気仙沼で防災フォーラム 中高生の研究発表も	日野亮太、岡田真介	報道
557	2018/2/10	その他	防災情報新聞	MOOC公開講座、オンラインでだれでも受講可・無料、防災第一線の講師も	今村文彦、後藤和久、佐藤翔輔、安倍祥	資料提供
558	2018/2/11	新聞(地方紙)	読売新聞	震災資料 増える寄贈 進まぬ整理	柴山明寛	資料提供
559	2018/2/13	新聞(地方紙)	三陸新報	備えの大切さ実感 げせんぬま防災フェスタ	災害科学国際研究所	報道
560	2018/2/13	新聞(地方紙)	河北新報	デスク日誌:ドーム「外の視点」新鮮でストレート	佐藤翔輔	報道
561	2018/2/13	新聞(その他)	公明新聞	3・11から7年 続・教訓の行方	柴山明寛	報道・コメント掲載
562	2018/2/15	新聞(地方紙)	河北新報社	紙面センサー:災害報道モデル確立を	佐藤翔輔	執筆
563	2018/2/15	ウェブ	withnews (他1社)	大雪、降るとわかってなぜ出動?品川駅午後2時40分の「異変」	佐藤翔輔	報道
565	2018/2/15	その他	with news	大雪、降るとわかってなぜ出動? 品川駅午後2時40分の「異変」	佐藤翔輔	企画協力
566	2018/2/16	新聞(地方紙)	朝日新聞	<東日本大震災7年>歴史学が照らす地震防災 古文書を読み解き過去の事態説明	災害科学国際研究所、今村文彦、後藤和久、蝦名裕一	報道・コメント掲載
567	2018/2/19	ラジオ	NHKラジオ	【ゴジだっちゃ】防災研究最前線:公衆衛生学と防災	栗山進一	出演
568	2018/2/20	雑誌・機関誌	東海新報社	震災による“発見”も 歴史考古学研究報告「気仙の魅力を語る」	蝦名裕一	報道・コメント掲載
569	2018/2/21	新聞(全国紙)	朝日新聞社	減災、今できることから シンポ「産官民連携による減災戦略~迫り来る南海トラフ地震に備えて」	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
570	2018/2/21	新聞(地方紙)	河北新報	被災の貞山運河 復興に生かそう 仙台でフォーラム	川島秀一	報道
571	2018/2/23	新聞(全国紙)	朝日新聞	大雪警報・・・でも出動は普段通りヤフー、位置情報を分析	佐藤翔輔	報道・企画協力
572	2018/2/25	新聞(地方紙)	河北新報	震災つらい記憶も後世に 亙理の中学生らフォーラム 津波の恐怖語る	今村文彦	報道
573	2018/2/25	新聞(地方紙)	福島民友(他1社)	震災「記録」「教訓」活用を話し合う 福島大が仙台でシンポ	佐藤大介	報道
575	2018/2/27	新聞(地方紙)	河北新報社	地域と世代を超え震災伝承考える/来月9日 石巻でシンポ	佐藤翔輔	報道・資料提供
576	2018/2/27	ウェブ	在シアトル日本国総領事館	防災に関するシンポジウムの開催	今村文彦	その他
577	2018/2/27	その他	イノベーションズアイ(フジサンケイ ビジネスアイ)	ひとつひとつの企業、一人一人の専門家との信頼関係を時間をかけて築いていくべき	村尾修	報道・コメント掲載
578	2018/2/28	ウェブ	NHK	コラム「そなえる防災」:第1回 活断層と内陸大地震	遠田晋次	執筆
579	2018/2/28	新聞(地方紙)	沖繩建設新聞	東日本大震災の教訓活かせ/非常時備え権限代行者選定を/沖総局/防災対応推進会議特別講演会	定池祐季	報道・コメント掲載
580	2018/3/1	雑誌・機関誌	第三文明社	歴史資料を将来の防災に活用する	蝦名裕一	報道・コメント掲載
581	2018/3/1	新聞(全国紙)	日本経済新聞(他1社)	ヤフー、「全国統一防災模試」を「Yahoo!JAPAN」アプリで開始	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
583	2018/3/1	ウェブ	Biglobeニュース	もうすぐ東日本大震災から7年 Yahoo!が「全国統一防災模試」を実施	佐藤翔輔	報道
584	2018/3/1	ウェブ	Yahooニュース	「防災力」を高め、防災タイプを診断する「全国統一防災模試」、「Yahoo!JAPAN」アプリで開始	佐藤翔輔	報道
585	2018/3/1	雑誌・機関誌	コミュニティアイ	2018年3月号、コムレポ:ゆりあげかめ防災学校 in 愛島公民館	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
586	2018/3/1	雑誌・機関誌	ガバナンス	3月号、取材リポート・被災経験の継承へ 自主研究の活動で、職員の震災体験を残し、伝え、活かす-Team Sendai (仙台市)	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
587	2018/3/2	新聞(全国紙)	産経新聞社	「防災力」を高め、防災タイプを診断する「全国統一防災模試」、「Yahoo! JAPAN」アプリで3月1日(木)より開始	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
588	2018/3/2	テレビ	NHKBS1	【BOSA学びの旅】~巨大津波・原発災害から日本が学んだこと~	今村文彦	出演
589	2018/3/4	テレビ	NHK	おはよう日本:“河川津波”知られざる脅威	今村文彦、山下啓	報道・資料提供
590	2018/3/4	テレビ	NHK	NHKスペシャル:河川津波・震災7年:知られざる脅威	今村文彦、山下啓	出演・資料提供
591	2018/3/4	ラジオ	エフエム仙台	東北大学防災UPDATES!「宇宙から大地をみる」	福島洋	出演
592	2018/3/5	新聞(全国紙)	朝日新聞	ヤフーがスマホで「防災模試」、東北大学教授監修	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
593	2018/3/5	ラジオ	NHKラジオ	【ゴジだっちゃ】防災研究最前線:震災を風化させないために	佐藤翔輔	出演
594	2018/3/5	その他	TEAM防災ジャパン	【普及啓発】ヤフー、アプリで「防災模試」	佐藤翔輔	資料提供
595	2018/3/6	雑誌・機関誌	県民共済みやぎ	スマイルプロジェクト:政宗公が遺した宝、仙台-400年前の震災復興からのメッセージ	蝦名裕一	報道・コメント掲載
596	2018/3/6	テレビ	NHK	NEWS WATCH9:知られざる“津波の死”語り始めた法医学者たち	今村文彦	報道・コメント掲載
597	2018/3/6	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災7年:復興策採り 地域も輝く「貞山運河の活用法次々」仙台で住民らフォーラム	川島秀一	報道
598	2018/3/7	テレビ	NHK	ニュース:「心理的苦痛感じる」増加傾向	富田博秋	報道
599	2018/3/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	【グローバル時代をひらく】東北大学災害科学国際研究所 震災の教訓、世界と共有	災害科学国際研究所、小野裕一、遠田晋次、マリ・エリザベス	報道・コメント掲載・企画協力
600	2018/3/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	<ビジョン>被災地と連携しニーズに応える	今村文彦	報道
601	2018/3/7	テレビ	NHK	てれまさむね:「心理的苦痛感じる」増加傾向	富田博秋	出演
602	2018/3/7	新聞(地方紙)	北海道新聞	いのちと地域をまもる~3.11 メディアネット 奥尻島民は体験語って	定池祐季	報道・コメント掲載
603	2018/3/8	新聞(全国紙)	産経新聞(他2社)	【教訓は生かされたのか】(3) 震度5弱地震で「避難」4割だけ被災地でも「心」が風化している	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
606	2018/3/8	テレビ	東日本放送(他1社)	ニュース:宮城・あの日どう避難?東北大学が避難行動を再現	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント掲載
608	2018/3/8	新聞(全国紙)	日本経済新聞	再生 その先 東日本大震災7年(上) 薄れる公共事業効果(今村)	今村文彦	報道
609	2018/3/8	テレビ	NHK	ニュース:被災した妊婦や夫 高い喫煙率	栗山進一	報道・コメント掲載
610	2018/3/9	テレビ	NHK	おはよう日本:津波 事前に避難場所決めていた人は逃げるの早い データで裏付け	佐藤翔輔	出演
611	2018/3/9	テレビ	NHK WORLD	NEWS: People with tsunami evacuation plans fled early	佐藤翔輔	報道
612	2018/3/9	ウェブ	CB news(他1社)	被災地の医療提供体制、地域内での自己完結が鍵 研究グループが調査・検証	災害科学国際研究所	報道
614	2018/3/9	テレビ	ミヤギテレビ	OH!バンデス:もう一度考えよう!防災の大切さ!	今村文彦	出演
615	2018/3/9	ラジオ	ニッポン放送・ひでたけのやじうま好奇心	防災に役立つスマホアプリ	佐藤翔輔	資料提供

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
616	2018/3/9	テレビ	NHK	ニュース：津波からの避難 事前の備え重要	佐藤翔輔	出演
617	2018/3/10	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災7年 肌で感じる被災地の今 払は語る、明日のために	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
618	2018/3/10	ラジオ	TOKYO FM	防災FRONT LINE：全国統一防災模試	佐藤翔輔	出演
619	2018/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	東北大30の挑戦 社会にインパクトある研究 地域ごとに診断 提案	今村文彦	報道
620	2018/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	<東日本大震災7年>被災者の教訓 共に伝える/石巻で連携組織がシンポ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
621	2018/3/10	新聞(地方紙)	大坂日日新聞	全国模試に「防災」科目加わる?	佐藤翔輔	報道・資料提供
622	2018/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	<東日本大震災7年>メンタルヘルス 回復への道 現状と課題を聞く(5完)「長期的視野で官民連携を」	富田博秋	報道・コメント掲載
623	2018/3/10	新聞(その他)	公明新聞	重み増すボランティアの役割 支援を受け入れる力が必要 自治体は「受援力」磨け	丸谷浩明	報道・コメント掲載
624	2018/3/10	新聞(全国紙)	朝日新聞	(東日本大震災7年) 重み増す、災害アーカイブス 写真や文書データ、記録・公開	柴山明寛	報道・コメント掲載
625	2018/3/10	テレビ	NHK	命を守る防災情報	今村文彦、サッパシー・ア ナワット	出演
626	2018/3/10	新聞(地方紙)	読売新聞	竹下景子さんが被災体験を朗読 きょう、ネット中継も	柴山明寛	資料提供
627	2018/3/11	新聞(地方紙)	石巻かほく	震災伝承考える 石巻でシンポジウム 中間支援組織に役割を	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
628	2018/3/11	新聞(全国紙)	毎日新聞	ストーリー：東日本大震災7年(その2止) 刻まれた命の教訓	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
629	2018/3/11	テレビ	東日本放送	岩手・宮城・福島 東日本大震災7年報道特別番組 伝えたい3.11～未来へ～	佐藤翔輔	出演
630	2018/3/11	新聞(地方紙)	北日本新聞	風化に危機感、思い共有	今村文彦	報道
631	2018/3/11	新聞(地方紙)	中日新聞	仮設心のケア続けて プレハブに1万2000人 孤独深く	富田博秋	報道・コメント掲載
632	2018/3/11	新聞(地方紙)	河北新報	竹下景子さん 震災伝える詩 感情込め朗読	災害科学国際研究所、柴山 明寛	報道・資料提供
633	2018/3/11	新聞(全国紙)	毎日新聞	多賀城で「かたりつぎ」女優・竹下景子さん朗読 市民ら1200人聴き入る	災害科学国際研究所、柴山 明寛	報道・コメント掲載
634	2018/3/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	竹下景子さん朗読、ソニー仙台の震災超えた物語	柴山明寛	報道・コメント掲載
635	2018/3/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	3.11に想う 震災7年	柴山明寛	資料提供
636	2018/3/11	テレビ	東北放送	Nスタみやぎスペシャル：復興の現在地"正念場" 震災の記憶と教訓 次の世代に	佐藤翔輔	資料提供
637	2018/3/11	新聞(全国紙)	毎日新聞社	語り部、心揺れた7年 東日本大震災、長男失った宮城・開上の女性 伝えるため、母は 戻る	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
638	2018/3/12	テレビ	朝日放送	おはようコールABC：それでもあなたは帰りますか	佐藤翔輔	出演
639	2018/3/12	新聞(地方紙)	河北新報	<東日本大震災7年>東北大災害研、宮教大と連携/防災教育で連携	災害科学国際研究所、今村 文彦	報道
640	2018/3/12	ウェブ	政府広報オンライン	海外広報誌(2018) Vol.118号：The Deepening of Disaster Science(災害科学の深化)	今村文彦	その他
641	2018/3/12	新聞(地方紙)	河北新報	災害研の地域貢献策 議論 東北大でシンポ	災害科学国際研究所	報道
642	2018/3/13	新聞(全国紙)	朝日新聞	<残す・伝える 7年目の東日本大震災：上>被災者の記録のあり方は	柴山明寛	報道
643	2018/3/14	新聞(地方紙)	河北新報	いのちと地域を守る：<3.11メディアネット>情報発信 連携継続を	今村文彦	報道
644	2018/3/14	新聞(全国紙)	朝日新聞	<残す・伝える 7年目の東日本大震災：中>「遺産」として残る爪痕	柴山明寛	報道
645	2018/3/14	新聞(全国紙)	読売新聞	2大学研究機関 防災教育で協定	災害科学国際研究所、今村 文彦	報道
646	2018/3/15	新聞(地方紙)	三陸新報	台湾研修の報告も 総合学習発表会	川島秀一	報道
647	2018/3/15	新聞(地方紙)	河北新報	紙面センサー：大震災の事象知り学ぶ	佐藤翔輔	執筆
648	2018/3/15	新聞(全国紙)	日本経済新聞	研究成果を防災現場に(震災の日から未来へ) 最終部・未来への提言(3) 研究者	今村文彦、増田聡	報道
649	2018/3/15	テレビ	仙台放送	シリーズ「いのちを守る」津波から生き延びるため、より早く、より高く	今村文彦	報道
650	2018/3/15	雑誌・機関誌	コンパテック	センサ搭載の妊婦用下着、「産後うつ」研究に活用	富田博秋	報道・コメント掲載
651	2018/3/16	ウェブ	放射線教育支援サイトら でい	実践紹介「教員向け研修会」防災教育とともに考える放射線教育(福島県教育委員会主 催フォーラム)下	佐藤健	その他
652	2018/3/16	ウェブ	日本橋経済新聞	丸の内「統一防災模試」体験会 落語家・川柳つくしさんによる防災落語も	佐藤翔輔	報道
653	2018/3/16	新聞(地方紙)	神戸新聞 朝刊	人を結び、新たなまちへ/ひょうご選書 地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現 代社会	佐藤大介	執筆
654	2018/3/17	新聞(地方紙)	新潟日報	「聞く」佐藤翔輔さん 記憶を語り継ぎ減災へ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
655	2018/3/17	ウェブ	@DIME	やってみよう！全国統一防災模試で試される「5つの防災力」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
656	2018/3/18	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「地震の予知・予測と南海トラフの大地震」	福島洋	出演
657	2018/3/19	新聞(地方紙)	河北新報(他1社)	被災体験者手につなぐ 仙台市職員有志が共有イベント	災害科学国際研究所	報道
658	2018/3/19	新聞(地方紙)	河北新報	<気仙沼・むすび塾>外国人の防災議論 避難案内易しく	保田真理	報道
659	2018/3/19	新聞(地方紙)	河北新報	災害に強いまち 考える 仙台・フォーラム 救護コンテンツも	遠田晋次	報道
661	2018/3/19	新聞(全国紙)	朝日新聞	震災体験、市職員が語り継ぐ 仙台で朗読イベント	災害科学国際研究所	報道
662	2018/3/20	新聞(地方紙)	三陸新報	防災無縁に外国版も 気仙沼高で学習発表会	川島秀一	報道
663	2018/3/20	その他	美術Academy&School	住居を超えた機能をもつ巨大団地「白鬚東アパート」のスゴさを知る ～建築散歩番外 編レポート	村尾修	その他
664	2018/3/21	ラジオ	エフエム仙台	みやぎスマイルプロジェクト「宮城の歴史さんぽ道」特別編	蝦名裕一	出演
665	2018/3/21	新聞(地方紙)	神奈川新聞(他5社)	臨海部の津波被害軽減を 市や東北大、富士通など共同研究を紹介	災害科学国際研究所、今村 文彦	報道
671	2018/3/24	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災7年：語り部団体 存続模索「将来の命を守る」思い共有	今村文彦	報道
672	2018/3/25	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「7年を迎えた東日本大震災での最新の取り組み」	佐藤翔輔	資料提供
673	2018/3/26	テレビ	東日本放送	スーパーチャンネルみやぎ：チリ地震津波写真カラー化プロジェクト⑦「津波はまた来 る」	佐藤翔輔	出演
674	2018/3/26	新聞(地方紙)	河北新報	<共に歩もう>研究成果 広く発信	鈴木通江	報道
675	2018/3/28	テレビ	ミヤギテレビ	ニュースアプリ：開上 岐路に立つ語り部活動 資金調達 新たな動きも	佐藤翔輔	報道
676	2018/3/28	新聞(地方紙)	山陰中央新報社	妻伊川放水路が命を守る 東京・こども新聞サミット開催	保田真理	報道
677	2018/3/28	新聞(地方紙)	河北新報	こども新聞サミット開幕 震災遺構見学や語り部インタビュー 被災地視察 防災の糧に	保田真理	報道
678	2018/3/29	新聞(海外)	Serambi Komunitas	Tim Tohoku University Jepang Audiensi ke Serambi (東北大がSerambiを訪問 災害時のメディアの役割について議論)	小野裕一、中鉢奈津子、智 片通博	報道
679	2018/3/30	新聞(地方紙)	河北新報	教育旅行モデルコース提案 石巻圏DMOパンフ改訂	災害科学国際研究所	報道
680	2018/3	ラジオ	エフエム仙台	東北大防災UPDATES! 「大学の防災意識について」	泉貴子	出演

新聞	
全国紙	115件
報道・コメント掲載	107件
執筆	1件
資料提供・企画協力	9件
地方紙	243件
報道・コメント掲載	206件
執筆	28件
資料提供	11件
その他	2件
海外	2件
報道・コメント掲載	2件
その他	40件
報道	38件
執筆	1件
資料提供・企画協力	1件
テレビ/ラジオ	123件
報道	45件
出演	72件
資料提供・企画協力	6件
雑誌・機関誌	13件
報道	8件
執筆	1件
資料提供・企画協力	4件
ウェブ	128件
報道	112件
執筆	2件
出演	1件
資料提供・企画協力	3件
その他	10件
その他	16件
報道	5件
執筆	0件
出演	0件
資料提供・企画協力	5件
その他	6件
報道	517件
資料提供・企画協力	39件
執筆	33件
出演	73件
その他	18件

## 7 国際交流

## E. 国際交流

## 国外の研究者と実施している共同研究実績

課題名	本学研究者代表者名 (所内実施者名)	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
SATREPS「マルマラ海域の地震・津波災害軽減とトルコの防災教育」	木戸元之	Haluk Ozener	KOERI, ボアズチ大学・トルコ
Causal realization of rate-independent linear damping using first-order digital filter	五十子幸樹	Brian Phillips	メーランド大学・米国
HOBITSS	木戸元之	Stuart Henry	GNS Science・ニュージーランド
SATREPS「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」	木戸元之	Victor M. Cruz-Atienza,	メキシコ国立自治大学・メキシコ
Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar	村尾修	Khin Than Yu	ヤンゴン工科大学・ミャンマー
Global Tsunami Model	今村文彦 (今村文彦・サッパシー ア ナワット)	Dr. Finn Lovholt	Norwegian Geotechnical Institute (NGI)
タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究(サブ課題ST2-C)	有働恵子	Sompratana Ritphing	カセサート大学・タイ
災害統計グローバルセンターにおける健康面の解析プロジェクト	今村文彦 (江川新一)	Helen Clark	United Nations Development Programme
Resilient design and performance-based rehabilitation methodology of structures with damaged energy dissipation devices	五十子幸樹	Songtao Xue	同済大学・中国
モンゴルにおける環境・地震工学教育研究高度化	源栄正人	Tsoggerel Tsamba	モンゴル科学芸術大学
Evaluation of Tsunami Hazards along the Kuwaiti Coastline Due to Possible Earthquake and Landslides	今村文彦 (今村文彦・サッパシー ア ナワット)	Dr. Bassam Shuhaibar	Kuwait Institute for Scientific Research
Building damage assessment method considering lateral resistance of building	サッパシー・アナワット	Dr. Ingrid Charvet	ロンドン大学
Developing fragility functions for coastal buildings and facilities	サッパシー・アナワット	Assoc. Prof. Adam Switzer	南洋理工大學
The Project for Technical Development to Upgrade Structural Integrity of Buildings in Densely Populated Urban Areas and its Strategic Implementation towards Resilient Cities	前田匡樹 (村尾修)	ムハンマド アブ サデク	住宅建築研究所・バングラデシュ
地形乱流場における飛砂メカニズムの解明	有働恵子	Roshanka Ranashinghe	UNESCO-IHE Delft・オランダ
A tuned viscous mass damper incorporated into coupled wall system	五十子幸樹	Xiodong Ji	清華大学・中国
Community Resilience to Disasterous Changes: Examining the geographies of adaptation of the relocation of Kucapungane and Makazayazaya to Rinari	マリ・エリザベス	Dr. Shu-Mei Huang 助教	National Taiwan University (Taiwan)
Developing earthquake and tsunami fragility functions for Thailand	サッパシー・アナワット	Dr. Teraphan Ornthamarat	マヒドン大学
Applications of tsunami researches and non-structural measures in Thailand	サッパシー・アナワット	Dr. Natt Leelawat	チュラロンコン大学
Tsunami warning and evacuation in Thailand	サッパシー・アナワット	Prof. Pennung Wanitchai	アジア工科大学院
Global Partnership on Space Technology Applications for Disaster Risk Reduction (GP-STAR)	越村俊一	Julio César Castillo Urdapilleta	国連宇宙局
高齢者の芸術活動の心身健康効果に関する研究	杉浦元亮	Stuart Kandell, Ph.D	University of California Berkeley USA
東日本大震災からの復興研究	井内加奈子	Robert Olshansky	イリノイ大学・米国
よりよい生活再建にむけた移転再定住計画プロセスの解明:台風ハイアン被災地を対象に	井内加奈子	Renato Solidum Jr.	フィリピン地震火山研究所・フィリピン
Risk Factors for Interregional Renewable Electricity Transmission	佐々木大輔	Brendon Cannon and Ash Rossiter	Khalifa University, United Arab Emirates
The Cilegon Project: Complex Disaster Risk Reduction & Management in Cilegon (Indonesia)	今村文彦 (地引泰人)	Fatma Lestari	インドネシア大学・インドネシア
「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」	川島秀一	呉 昌枝	国立民俗博物館・韓国
Housing Recovery after the GEJE and Fukushima; 6 Years after the 2011 Great East Japan Earthquake	井内加奈子 (マリ・エリザベス)	伊藤宏之教授	Portland State University
「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」	川島秀一	呉 昌枝	国立民俗博物館・韓国
2010年メラピ火山の噴火後の地域復興について	マリ・エリザベス	Dr. Ardhya Nareswari 講師	Gadjah Mada University (Indonesia)
韓日共同学会会議	川島秀一	蘇 晁玉	中央大学校・韓国
インドネシア・バリ島アグン山噴火による住民避難行動に関する社会学的研究	松本行真	イ・マデ・プティアナ	ウダヤナ大学・インドネシア
インドネシア・バリ島アグン山噴火による住民避難行動に関する社会学的研究	松本行真	ニ・ヌンガー・スルアティニ	ガネーシャ教育大学・インドネシア
Oversea Technology Information Workshop between Tohoku University and Seoul National University Performance-based composite material design through multi-physics & multi-scale analysis / experiment	寺田賢二郎	Gunjin Yun	ソウル大学・韓国
「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」	川島秀一	呉 昌枝	国立民俗博物館・韓国
Tsunami risk assessment in Japan and Asia	今村文彦 (今村文彦・サッパシー ア ナワット)	Makoto Goto	Willis Research Network
Enhancement of Earth Observation and Modeling for Disaster Response and Management	越村俊一	Joachim Post	ドイツ航空宇宙センター
2017年インドネシアアグン山警報での住民避難行動調査	松本行真 (杉安和也)	Nengah Suartini, Budi Ana	ガネーシャ教育大学, ウダヤナ大学・インドネシア
AOS-Fall 2017 - University of Washington - Tohoku University Academic Open Space	岡部朋永 (寺田賢二郎)	Fumio Ohuchi	ワシントン大学・アメリカ合衆国
レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組構築に向けた研究	井内加奈子	John Mutter	コロンビア大学・米国
スリランカにおける古津波調査	後藤和久	Nalin Rathnayake	モロツワ大学・スリランカ
2010年メラピ火山の噴火後の地域復興について	マリ・エリザベス	Prof. Faustito A. Aure, Director, Extension Services Office	Eastern Visayas State University (Philippines)
「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」	川島秀一	呉 昌枝	国立民俗博物館・韓国
Globalization of Research on Resilience of Built Environment against Mega-Earthquake	マリ・エリザベス	Shannon Van Zandt 教授, 近藤民代准教授	Texas A and M University, Kobe University

E. 国際交流  
国際交流実績  
共同研究

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	実施都市名	実施国名	実施者氏名
20170415	20170731	受入	摩擦と潤滑に関する材料表面のマルチスケール解析とロボロジー最適化	Ilker Temizer	Bilkent University	仙台	日本	寺田
20170417	20170420	受入	日韓による気象災害についての研究打ち合わせ	Prof. Jaiho Oh	Pukyong National University	仙台	日本	今村・サツバシ
20170422	20170422	受入	米国ポートランド・ベストプラクティスツアー	ポーランド大学総長	ポートランド州立大学	仙台	日本	丸谷
20170428	20170512	訪問	トルコ・ボアチチ大学での研究打ち合わせおよびマルマラ海での調査航海	Prof. Haluk Ozener	ボアチチ大学・トルコ	イスタンブール・マルマラ海	トルコ	木戸
20170510	20170806	受入	Fulbright Visiting Scholarとしての研究者受入	Assoc. Prf. Terri Norton	Univ. of Nebraska-Lincoln	仙台市	日本	村尾
20170511	20170511	訪問	JICA草の根プロジェクト申請に向けての事前協議	Ms Yuka Sonoyama	JICA Malaysia	クアラルンプール	マレーシア	泉
20170512	20170512	訪問	JICA草の根プロジェクト申請に向けての事前協議	Dr. Shohei Matsuura	マレーシア工科大学(MJIT)	クアラルンプール	マレーシア	泉
20170622	20170707	訪問	ニュージーランド GNS Science での研究打ち合わせおよび太平洋沖での調査航海	Prof. Stuart Henry	GNS Science・ニュージーランド	ウェリントン・太平洋沖	ニュージーランド	木戸
20170711	20170714	訪問	アラビア湾における津波ハザード評価の共同研究の打ち合わせ・一般公開セミナー	Dr. Bassam Shuhaibar	Kuwait Institute for Scientific Research	クウェート	クウェート	今村・サツバシ
20170711	20170717	訪問	ヤンゴンにおける脆弱性評価調査	Prof. Khin Than Yu	Yangon Technological Institute	ヤンゴン	ミャンマー	村尾
20170716	20170720	受入	東日本大震災の復興について現地調査	Dr. Robert Olshansky	University of Illinois - Urbana Champaign	仙台市、名取市、気仙沼市、陸前高田市	日本	マリ
20170801	20170801	受入	共同研究打ち合わせ	Mr. Mohammad Abu SADEQUE	BUET	東京都	日本	村尾
20170810	20170816	訪問	2008年台風モラコットの地域復興と国際比較研究	Dr. Shu-Mei Huang	National Taiwan University (Taiwan)	Kaohsiung	Taiwan	マリ
20170814	20170814	受入	最新の津波研究についての情報交流会	Prof. Ahmet Yalciner	Middle East Technical University	仙台	日本	今村・サツバシ
20170821	20170825	訪問	性能可変オイルダンパーと磁気粘性流体ダンパーを用いた免震構造物の変位制御設計法に関する共同実験	Brian Phillips助教	マリーランド大学	カレッジパーク	アメリカ	五十子
20170821	20170823	受入	防災対策における地域の相互扶助の機能に関する提案～日本と東南アジアとの保健学的な地域間比較研究～	カナタ教授	コンケン大学	バンコク	タイ	柴山
20170901	20171015	受入	災害科学国際研究所特別訪問学生	Prof. Xiaodong Ji	清華大学	仙台市	日本	五十子
20170911	20170914	訪問	ダッカにおける脆弱性評価調査	Prof. Jamilur Reza Choudhury	BUET	ダッカ	バングラデシュ	村尾
20170913	20170918	訪問	事前復興について海外調査	市古太郎教授	東京市	San Francisco, Santa Cruz	USA	マリ
20170920	20170923	訪問	ハーバード大学とのAPI連携に関する研究「The use of disaster archives by university students」	アンドリュー・ゴードン教授	ハーバード大学	ボストン	米国	柴山・ボレー
20170923	20170925	訪問	四川地震の復興について現地調査	耿虹	華中科技大学	四川	中国	マリ
20171006	20171006	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および火山防災教育について	Prof. Ni Nengah Suartini	インドネシアガネシア教育大学	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20171027	20171208	受入	客員研究員としての受入	Daniel F. Lorenz	ベルリン自由大学	仙台市	日本	柴山・ボレー
20171028	20171028	受入	東日本大震災の復興について現地調査	Dr. Ardhya Nareswari 講師	Gadjah Mada University (Indonesia)	仙台、石巻	日本	マリ
20171109	20171114	受入	オランダ・デルフト工科大学学生の東日本大震災被災地視察及びフィールドワーク	Assoc. Prof. Jeremy D. Bricker	デルフト工科大学	仙台市	日本	奥村
20171125	20171129	受入	将来的な共同研究のための打ち合わせ	Orsolya Katalin KEGYES-BRASSAI	Szechenyi Istvan University	仙台市	日本	村尾
20171127	20171128	訪問	長期海波変形モデルに関する意見交換	Prof. Magnus Larson	ルンド大学	ルンド	スウェーデン	有働
20171208	20171208	訪問	オランダにおける飛砂現地調査に関する情報収集	Prof. Gerben Ruissink	ユトレヒト大学	ユトレヒト	オランダ	有働
20171208	20171210	訪問	The 8th International Conference on Science and Engineering 2017	Prof. Khin Than Yu	Yangon Technological Institute	ヤンゴン	ミャンマー	村尾
20180120	20180124	訪問	回転慣性質量ダンパーの開発に関する技術情報の交換	Prof. Zenqin Chen	湖南大学	湖南省	中国	五十子
20180201	20180203	受入	Multiscale analysis and topology optimization for thermoelasticity	Michael Kaliske・ Technische Universität Dresden	Technische Universität Dresden	仙台	日本	寺田
20180219	20180224	訪問	ヤンゴンにおける脆弱性評価調査	Prof. Khin Than Yu	Yangon Technological Institute	ヤンゴン	ミャンマー	村尾
20180301	20180305	訪問	2013年台風ヨランダ後の地域復興について共同研究	Prof. Faustito A. Aure	Eastern Visayas State University (Philippines)	Tacloban City	Philippines	マリ
20180305	20180307	訪問	Digital Disaster Archives	Prof. Andrew Gordon	Harvard University	Cambridge	USA	ボレー
20180308	20180308	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および防災人材育成について	Prof. I Made Budiana	インドネシアウダヤナ大学	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180309	20180313	受入	ハーバード大学とのAPI連携に関する研究	Ryo Morimoto	ハーバード大学	仙台市	日本	柴山
20180315	20180325	訪問	Eddy currentと回転慣性質量要素を組み合わせた同調がた制御デバイスの開発	Prof. Songtao Xue	同済大学	上海市	中国	五十子
20180315	20190314	受入	客員研究員受入	金英淑	中国河南理工工科大学	仙台	日本	丸谷
20180324	20180325	受入	Texas A and M University, 神戸大学	Shannon Van Zandt 教授	Texas A and M University	仙台市、名取市	日本	マリ
20180326	20180328	受入	防災対策における地域の相互扶助の機能に関する提案～日本と東南アジアとの保健学的な地域間比較研究～	カナタ教授	コンケン大学	バンコク	タイ	柴山



学会・シンポジウム

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170425	20170426	訪問	Writershop - multi-hazard early warning checklist	デイヴィッド・グライムズ総裁 / ミシェル・ジャロー事務局長	World Meteorological Organization (世界気象機関)	ジュネーブ	スイス	小野
20170514	20170516	訪問	気象災害と防災セミナー	Prof. Jaeho Oh	Pukyong National University	釜山	韓国	サッパシー
20170516	20170517	訪問	2国間共同セミナー本セミナー: 国立安全災難研究院にて防災、減災に対するワークショップ	Kim Hyunju 室長	国立安全災難研究院災難原因調査室(韓国)	釜山	韓国	小野
20170622	20170624	訪問	UCL-IRDR Seminar 2017 (Disaster in Japan 2011, The Latest Research)	Prof. Kenji Koshiyama	UCL	ロンドン	イギリス	村尾
20170807	20170813	訪問	防災ポリシー策定に係るワークショップに参加	理事長 北岡伸一	JICA	フィジー	フィジー	小野
20171010	20101012	訪問	I Expoferia de Innovacion Tecnologica de la UNI 2017 "Innovando el futuro"	Dr. Walter Estrada	Universidad Nacional de Ingenieria	リマ	ペルー	マス
20171026	20171031	受入	世界防災フォーラム「Disaster Digital Archives」	Muzailin Afan	ジャクアラ大学	仙台市	日本	柴山
20171026	20171031	受入	世界防災フォーラム「Disaster Digital Archives」	Ryo Morimoto	ハーバード大学	仙台市	日本	柴山
20171103	20171106	訪問	世界津波博物館会議		外務省・JICA	石垣島	日本	今村・サッパシー
20171103	20171105	訪問	BIT's 6th Annual World Congress of Ocean-2017 (WCO-2017)	Dr. Xiaodan Mei	China Fisheries Association	深圳	中国	村尾
20171125	20171201	受入	The Necessity of Natural Disaster Archive, World Bosai Forum	Dr Muzailin Affan	Syiah Kuala University	Sendai	Japan	ボレー
20180118	20180120	訪問	防災に関する一般公開セミナー	Dr. Parichart Wetchayon	東北大学校友会	バンコク	タイ	サッパシー
20180219	20180219	訪問	Joint Seminar	Brendon Cannon and Ash Rossier	Khalifa University	Abu Dhabi	United Arab Emirates	佐々木大
20180221	20180225	訪問	Symposium on Natural Disaster Management ~ Lessons from the Great East Japan Earthquake and Prospects for the Future ~	Prof. Fumio Ohuchi	University of Washington	シアトル	アメリカ	今村・栗山
20180226	20180227	訪問	New Zealand - Japan Joint workshop on slow slip	Prof. Martha Savage	ビクトリア大学・ニュージーランド	ウェリントン	ニュージーランド	木戸
20180227	20180227	受入	APRU Multi-Hazards Strategic meeting on strengthening DRR policy influence		APRU	仙台	日本	今村
20180228	20180302	訪問	the 50th Annual Session of ESCAP/WMO Typhoon Committee	Shamshad Akhtar	ESCAP	ハノイ	ベトナム	小野
20180301	20180313	受入	語り部シンポジウム「かたりつぎ」特別講演	Julia Gerster, Daniel F. Lorenz	ベルリン自由大学	多賀城市	日本	柴山
20180314	20180316	訪問	Fujitsu Asia Conference 2017 in NayPyi Taw	Tatsuya Tanaka	Fujitsu Limited	ネビドー	ミャンマー	小野

国際会議(研究発表以外)

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170516	20170518	訪問	アジア・環太平洋における津波避難活動企画の会議	Dr. Sanny Jegillos	国連開発計画(UNDP)	バンコク	タイ	サッパシー
20170519	20170520	訪問	水害被害対策に関する分科会	Shamshad Akhtar	国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)(タイ)	バンコク	タイ	小野
20170522	20170526	訪問	2017 Global Platform for Disaster Risk Reduction	UNISDR	UNISDR	カンクーン	メキシコ	村尾・泉
20170525	20170526	訪問	The 3rd Disaster Experts Conference on applications of Geospatial Information Science in DRR & Status Review for SFDRR Indicators in Asian Countries	Prof. Sohn Lee	Yonsei University	Seoul	Korea	マス
20170531	20170602	訪問	ESCAP/WMOの第12回WGDRR会合	Shamshad Akhtar	国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)	蔚山	韓国	小野
20170624	20170627	訪問	APRU総長会議(UNSW)、マルチハザードプログラムの活動やWBFについて		APRU	シドニー	オーストラリア	泉
20170629	20170630	受入	災害統計グローバルセンターの富士通・UNDP・東北大学関係者会合	Mr.Sanny Jegillos	UNDP(タイ)・富士通㈱	仙台	日本	小野
20170828	20170828	訪問	第13回APRUマルチハザード・年次シンポジウム2017	Gene Block	APRU	北京	中国	小野
20170915	20170917	訪問	University of Oregon主催APRU Sustainable Cities and Landscapeワークショップ	Dr. Yekong Koh	オレゴン大学	ポートランド	アメリカ	泉
20171009	20171011	訪問	国連アジア太平洋経済社会委員会の第5回政府間防災会合	Shamshad Akhtar	ESCAP	バンコク	タイ	小野
20171101	20171102	訪問	第12回台風委員会総会	Shamshad Akhtar	ESCAP(台風委員会)	済州島	韓国	小野
20171116	20171117	訪問	University of Washington and Tohoku University Academic Open Space Workshop	Prof. Fumio Ohuchi	ワシントン大学	シアトル	米国	越村・マス
20171206	20171208	訪問	Workshop to launch the Sendai Framework Monitoring Process	MR. Robert Glasser	UNISDR	ボン	ドイツ	小野
20180317	20180319	訪問	災害統計グローバルセンターの富士通・UNDP・東北大学三者会合	Mr.Sanny Jegillos	UNDP(タイ)・富士通㈱	バンコク	タイ	小野
20180326	20180328	訪問	Pre-conference seminar of MJEED Joint Research Group. Lecture by Japanese Professors	Dr. Tsamba Tsoggerel	モンゴル科学技術大学	ウランバートル市	モンゴル	大野

表敬訪問・視察・意見交換

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170516	20170517	訪問	今後の研究・教育の連携について	Gretchen Kalonji	四川大学・香港理工大学 災害復興管理学院	成都	中華人民共和国	今村・泉
20170726	20170727	受入		Prof. Chong Song Min	Northwestern University	仙台市	日本	源榮
20170804	20170804	受入	韓国災害情報学会によるIRIDeS視察	金泰煥	Korea disaster information Institute	仙台市	日本	村尾
20170904	20170904	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	長岡寛介公使	在ジュネーブ日本政府代表部	ジュネーブ	スイス	小野
20170905	20170905	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	MR.Robert Glasser	国連ISDR	ジュネーブ	スイス	小野
20170907	20170907	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	Walter J. Ammann	Global Risk Forum GRF Davos	ダボス	スイス	小野
20170920	20170920	受入	IRIDeS視察	白珉浩	江原大学	仙台市	日本	村尾
20170929	20170929	受入	正式訪問	Prof. Micheal Arthur	UCL学長	仙台	日本	今村・サッパシー
20170929	20170929	受入	UCL代表団および土木工学専攻の公式訪問対応	Professor Nick Tyler	ロンドン大学	仙台市	日本	平野
20171001	20171001	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	小林弘裕大使	在イラン日本大使館	テヘラン	イラン	小野
20171002	20171002	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	ラロシュ所長	在テヘラン・ユネスコ地域事務所	テヘラン	イラン	小野
20171003	20171003	訪問	世界防災フォーラムの開催について(周知と参加要請)	Shamshad Akhtar	ESCAPテヘラン事務所	テヘラン	イラン	小野
20171004	20171004	訪問		Mohsen Ghafory-Ashtiany	IIEES	テヘラン	イラン	小野
20171005	20171005	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応について	水谷 薫子	インドネシアバリ島日本人会	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20171120	20171120	受入	Nonlinear homogenization with FFT	Pierre M. Suquet	Aix Marseille Univ, CNRS	仙台	日本	寺田
20171125	20171129	受入	IRIDeS視察	Md. F. SHAH	University of Jeddah	仙台市	日本	村尾
20171202	20171202	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応について		赤十字インドネシアブリン県支部	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180125	20180125	受入	国際協力における防災事業のあり方について	D. K. Yoon	延世大学	仙台	日本	井内
20180125	20180125	受入	福島復興状況についての意見交換と今後の共同研究の可能性について	Micheal Short	MIT	仙台	日本	井内
20180219	20180220	訪問	防災ダボス会議および学術メディア連携企画について	Global Risk Forum	Global Risk Forum GRF Davos	ダボス	スイス	中鉢
20180219	20180219	訪問	世界防災フォーラム、防災ダボス会議および学術メディア連携企画について	Tarzius Caviezelダボス市長	ダボス市	ダボス	スイス	中鉢
20180305	20180305	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および火山防災教育について		インドネシア地方防災局バリ州支部	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180305	20180305	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応について		赤十字インドネシアバリ州支部	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180306	20180306	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および火山防災教育について		インドネシア地方防災局カラガセム県	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180306	20180306	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および火山防災教育について		インドネシア地方防災局クランクン県	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180307	20180307	訪問	インドネシアバリ島アグン火山の警報および噴火に伴う対応および火山防災教育について		インドネシア地方防災局バリ県	インドネシアバリ島	インドネシア	久利
20180308	20180308	訪問	台湾花蓮地震被害調査	陳宏宇主任	国家災害防救科技中心	台北市	台湾	大野
20180322	20180322	訪問	学術メディア連携等について	マラノ・フィリピン気象庁長官	フィリピン気象庁	マニラ	フィリピン	中鉢
20180323	20180323	訪問	アカデミア(フィリピン大学)とメディア(People's Television Network)の連携について	Danilo Concepcion	UP Diliman People's Television Network	マニラ	フィリピン	小野
20180326	20180326	訪問		Ridwan Yunus	インドネシア大学	ジャカルタ	インドネシア	小野
20180326	20180326	訪問	学術メディア連携等について	Ridwan Yunus氏	国連開発計画UNDP	ジャカルタ	インドネシア	中鉢
20180327	20180327	訪問	学術メディア連携等について	ハフニ博物館長	アチュ津波博物館	バンドアチエ	インドネシア	小野・中鉢
20180327	20180329	訪問	学術メディア連携等について	Susilo Bambang Yudhoyono	ジャクアラ大学	バンドアチエ	インドネシア	中鉢

研修(研究活動に関連しない)・フィールドワーク・教育・学生交流プログラム等

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
2017411	20170411	受入	Visit of the City Leadership Lab., UCL	Dr Rocio Carrero	ロンドン大学	仙台	日本	丸谷
20170401	20171031	受入	学術メディア連携等について	Julia Gerster	ベルリン自由大学	仙台市	日本	柴山
20170600	201707	受入	東日本大震災の復興計画について研究	Prof. Anuradna	East Carolina University	仙台市	日本	マリ
20170601	20170615	受入	大学院研究生の短期受け入れ	Ashley Graham	コネチカット大学	仙台市	日本	江川
20170630		受入	TSSP_UW 2017 講義と史料保全ワークショップ	Prof. Fumio Ohuchi	ワシントン大学	仙台市	日本	蝦名
20170701	20170701	受入	東日本大震災復興状況視察	Assoc. Prof. Terri Norton	Univ. of Nebraska-Lincoln	仙台市	日本	村尾
20170703	20170704	受入	東日本大震災復興状況視察	Prof. Jonathan Martin	Pratt Institute	仙台市	日本	村尾
20170719	20170719	受入	実践的防災学の講義と東北巡見	Prof. Hiro Ito	ポートランド州立大学	仙台	日本	井内
20170721	20170721	受入	JICA Knowledge Co-Creation Program for Philippines	四倉 慎一郎	JICA、(特非)いしのまきNPOセンター	仙台	日本	丸谷
20170804	20170804	受入	アジア学生交流環境フォーラム 講義と史料保全ワークショップ		イオン環境財団	仙台市	日本	蝦名
20170818	20170818	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について		JICA・海上保安庁	仙台	日本	今村・サッパシー
20170819	20170820	受入	3.11メモリアル施設および歴史資料保全の現状について	Scott Knowlton准教授	ドレクセル大学	宮城県石巻市、福島県富岡町	日本	佐藤大介

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170902	20170914	訪問	ELyT School in Lyon 2017	Prof. Alain Fave	INSA-LYON	リヨン	フランス	杉安
20170904	20170910	訪問	防災出前授業	Dr. Natt Leelawat等	タイ国内小学校(4校)	バンコク・ブーケット	タイ	サッパシー
20170906	20170908	訪問	2010年マラビ山の噴火後の地域復興について	Dr. Ardhya Nareswari 講師	Gadjah Mada University (Indonesia)	Yogyakarta	Indonesia	マリ
20170913	20170913	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について	Dr. Agnieszka Strusinska-Correia	Leichtweiß-Institute for Hydraulic Engineering and Water Resources	仙台	日本	今村・サッパシー
20171001	20171028	受入	海底測地観測データの解析手法に関する研究	Mr. Omer Kopzu	ボアチチ大学(トルコ)	仙台	日本	木戸
20171107	20171107	訪問	修士学生の研究打ち合わせ	Prof. Pieter Roos	トゥエンテ大学	トゥエンテ	オランダ	有働
20171108	20171108	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について	Prof. Jeremy Bricker	デルフト工科大学	仙台	日本	今村・サッパシー
20171109	20171114	受入	ワークショップ 名取市の復興について	Prof. Jeremy Bricker	デルフト工科大学	仙台市	日本	マリ
20171109	20171109	受入	Lessons that Holland can learn from the reconstruction of Tohoku	Prof. Jeremy Bricker	デルフト工科大学	仙台	日本	井内
20171117	20171120	受入	JICAモンゴルプロジェクト本邦研修「地震防災・耐震工学」	Mr. Battulga Zayaabaatar	モンゴル危機管理局ほか	仙台市	日本	源栄・大野
20171126	20171201	受入	インドネシア国バンテン州チレゴン市で実施中の研究について	Fatma Lestari	インドネシア大学	仙台	日本	地引
20171207	20171207	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について	JICA東北	JICA東北	仙台	日本	サッパシー
20171208	20171209	受入	Site inspection for WCCM 2022	Cristina Vizcaya	IACM	横浜	日本	寺田
20171208	20171222	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について	虫明美喜	東北多文化アカデミー	仙台	日本	今村・サッパシー
20171218	20171223	受入	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)「東日本大震災や津波被害に関する理解を深める」		国立南投高級中学、台北市立大同高級中学	仙台	日本	今村
20180111	20180114	訪問	Seminar on computational homogenization and topology optimization	Xu Guo	Dalian University of Technology	Dalian	China	寺田
20180220	20180226	訪問	2014年に発生したタイ北部での地震に関する調査	Dr. Teraphan Ornthamarat	マヒドン大学	仙台	日本	サッパシー
20180221	20180228	受入	平成29年度「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」(Aコース:科学技術体験コース)		国立研究開発法人 科学技術振興機構	仙台市	日本	五十子
20180226	20180630	受入	インターンシップ受け入れ	Marie Barthel	ホルダー大学	仙台	日本	杉浦
20180227	20180227	受入	ヒューマンセキュリティ特別講義	Sabarinah Prasetyo	インドネシア大学	仙台市	日本	江川
20180302	20180302	受入	東日本大震災からの教訓、日本の津波防災について	Dr. Kritsada Sripraw	ランシット大学	仙台	日本	サッパシー
20180308	20180309	訪問	台湾花蓮地震被害調査	顔君毅副教授	東華大学	花蓮市	台湾	大野

協定締結(締結・更新・事前協議等)

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170425	20170425	受入	米国ポーランド・ベストプラクティスツアーの受け入れ、ポーランド州立大学との大学間協定について	michael reardon	ポーランド州立大学	仙台	日本	今村
20170511	20170511	訪問	APRUとのMOU締結に向けて	Mr. Pierre Kremer	IFRC	クアラルンプール	マレーシア	泉
20171113	20171117	受入	ハーバード大学とのAPI連携に関する研究及び他機関との協定締結について	アンドリュージョーゴードン教授	ハーバード大学	東京都、多摩市	日本	柴山
20180307	20180314	訪問	ペルー国立工科大学日本・ペルー地震防災センターとの部局間学術交流協定締結報告書について	Dr. Miguel Estrada	Universidad Nacional de Ingenieria	リマ	ペルー	越村・マス

その他

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	相手方代表者	代表相手方の機関名称	開催都市	開催国	実施者氏名
20170512	20170512	訪問	MERCY Malaysiaとの交流	Ms. Zenid Mian	MERCU Malaysia	クアラルンプール	マレーシア	泉
20170716	20170807	受入	客員研究員受け入れ	Prof. Anuradha Mukherji	イーストカロライナ大学	仙台	日本	井内
20170830	20170901	訪問	災害統計グローバルセンター 富士通・UNDP・東北大学関係者会合及びパイロット6か国ミーティング	Mr.Sanny Jegillos	UNDP(タイ)・富士通	バンコク	タイ	小野
20170914	20170914	訪問	APRUマルチハザードプログラム紹介 ワシントン大学の参加について	Prof. Cameron Frisch	University of Washington	シアトル	アメリカ	泉
20170918	20170918	訪問	US-Japan multiple hazard scenarios discussion	Ann Wein	US Geological Survey	Menlo Park	US	井内
20170919	20170919	受入	日本の教育機関における災害安全(防災)の取組み	自浪浩教授	江原大学校	仙台市	日本	佐藤健
20171129	20171130	受入	災害統計グローバルセンター 富士通・UNDP・東北大学関係者会合及びパイロット6か国ミーティング	Mr.Sanny Jegillos	UNDP(タイ)・富士通	仙台	日本	小野
20171226	20171226	訪問	マスメディアとアカデミアの連携について	藤下超局長	NHKアジア総局	バンコク	タイ	小野
20171227	20171227	訪問	マスメディアとアカデミアの連携について	Dr. Arthit	ランシット大学	バンコク	タイ	小野
20171228	20171228	訪問	マスメディアとアカデミアの連携について	ガムボン・ワッチャラポー	Thai Rath Newspaper	バンコク	タイ	小野
20180131	20180202	受入	水災害・防災について	Dr. Sutat Weesakul	アジア工科大学院	仙台	日本	今村・サッパシー
20180219	20180220	訪問	第1回世界防災フォーラム報告と第7回IDRCダボス2018への参加について	Walter J. Ammann	Global Risk Forum GRF Davos	ダボス	スイス	小野



## 8 関係・協力団体

## 関係・協力団体一覧

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである。教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については教員の自己評価報告書の項を参照のこと。

### 地方自治体（協定締結日順）

多賀城市、亘理町、岩沼市、気仙沼市、東松島市、山元町、仙台市、  
岩手県陸前高田市、名取市、石巻市

### 学校

福島工業高等専門学校、国立保健医療科学院、宮城県多賀城高校

### 独立行政法人科学技術振興機構（JST）

国立国会図書館

独立行政法人港湾空港技術研究所

国立研究開発法人防災科学技術研究所

2017 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report 2017

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

平成 30 年 (2018 年) 8 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦

編集 東北大学災害科学国際研究所 寺田賢二郎・木戸元之・中鉢奈津子・鈴木通江

印刷 有限会社明倫社







災害科学国際研究所

**IRIDeS**

International Research Institute of Disaster Science